

IMS

バージョン 13

メッセージおよびコード 第 3

巻:

IMS 異常終了コード

IBM

IMS
バージョン 13

メッセージおよびコード 第 3
巻:
IMS 異常終了コード

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、785 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS バージョン 13 (プログラム番号 5635-A04)、IMS Database Value Unit Edition V13.1 (プログラム番号 5655-DSM)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V13.1 (プログラム番号 5655-TM2)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC19-4242-03
IMS
Version 13
Messages and Codes, Volume 3:
IMS Abend Codes
(November 2, 2017 edition)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1974, 2017.

目次

本書について	v	第 12 章 IMS 異常終了コード 0351 -	
前提知識	v	0400	207
本書で使用されるIMS 機能名	vi	第 13 章 IMS 異常終了コード 0401 -	
新規および変更された情報の識別方法	vi	0500	235
IMS バージョン 13 のアクセシビリティ機能	vi	第 14 章 IMS 異常終了コード 0501 -	
第 1 章 IMS バージョン 13 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード	1	0600	265
V13 の新しいメッセージとコード	1	第 15 章 IMS 異常終了コード 0601 -	
V13 で変更されたメッセージおよびコード	8	0700	323
バージョン 13 で削除されたメッセージおよびコード	12	第 16 章 IMS 異常終了コード 0701 -	
第 2 章 IMS 問題判別	13	0750	351
第 3 章 IMS 異常終了コード	17	第 17 章 IMS 異常終了コード 0751 -	
IMS 異常終了	17	0800	389
標準異常終了	18	第 18 章 IMS 異常終了コード 0801 -	
疑似異常終了	18	0850	457
マルチモジュール異常終了	19	第 19 章 IMS 異常終了コード 0851 -	
IMS 異常終了に関する情報の入手	19	0900	501
障害分析表	20	第 20 章 IMS 異常終了コード 0901 -	
定様式ダンプ	21	0950	533
IMS 異常終了の検索および通知	21	第 21 章 IMS 異常終了コード 0951 -	
第 4 章 システム異常終了コード	23	1000	569
第 5 章 IMS 異常終了コード 0000 -		第 22 章 IMS 異常終了コード 1001 -	
0050	25	1050	593
第 6 章 IMS 異常終了コード 0051 -		第 23 章 IMS 異常終了コード 1051 -	
0100	57	2000	665
第 7 章 IMS 異常終了コード 0101 -		第 24 章 IMS 異常終了コード 2001 -	
0150	97	3000	671
第 8 章 IMS 異常終了コード 0151 -		第 25 章 IMS 異常終了コード 3001 -	
0200	123	3100	685
第 9 章 IMS 異常終了コード 0201 -		第 26 章 IMS 異常終了コード 3101 -	
0250	165	3300	735
第 10 章 IMS 異常終了コード 0251 -		第 27 章 IMS 異常終了コード 3301 -	
0300	179	4100	759
第 11 章 IMS 異常終了コード 0301 -			
0350	193		

特記事項. **785**
商標 787
製品資料に関するご使用条件 787

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント 788

参考文献. **789**

本書について

本書には、IMS™ によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

第 1 巻は、DFS 接頭部が付いた IMS メッセージの参照情報を、それに関連する戻りコードと一緒に提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断情報も提供します。

第 2 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、および IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などに関連する、DFS 以外の接頭部が付いた IMS メッセージについて、参照情報を提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報を提供します。

第 3 巻は、すべての IMS 異常終了 (アベンド) コードに関する参照情報を、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令も含めて提供します。

第 4 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、IBM リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、センス・コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報も提供します。

本書は、IBM Knowledge Centerの一部として www.ibm.com/support/knowledgecenter で入手できます。

前提知識

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、IBM Knowledge Center の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、IBM Skills Gateway にアクセスして、IMS を検索してください。

本書で使用されるIMS 機能名

本書では、「HALDB オンライン再編成」という用語は、特に断りがない限り、IMS バージョン 13 の一部として組み込まれた HALDB オンライン再編成機能を指しています。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカー) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカーは含まれていません。

改訂マーカーは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。
- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マーカーが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マーカーが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見えることがあります)。

改訂マーカーは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マーカーでマークを付けることはできないためです。

IMS バージョン 13 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS バージョン 13 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS バージョン 13 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS バージョン 13 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS バージョン 13 のオンライン資料は、IBM Knowledge Center で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS バージョン 13 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS バージョン 13 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

V13 の新しいメッセージとコード

IMS バージョン 13 には、新しい BPE、CQS、CSL、DFS、DSP、G、HWS、および XDFLD メッセージのほか、新しい異常終了コード、DL/I コード、AIB コード、および SQL コードが含まれています。

新しい **BPE** メッセージ

以下は新規メッセージです。

BPE0048E
BPE0049I
BPE0050I
BPE0051E
BPE0052E
BPE0053E
BPE0054I

新しい **CQS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0012I
CQS0034A
CQS0247W
CQS0248I
CQS0301I
CSL2504I
CSL3070I
CSL4115E

新しい **CSL** メッセージ

以下は新規メッセージです。

CSL4113E
CSL4114E

新しい **DFS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS0006E
DFS0095I
DFS0123E

| DFS0904I
DFS1849E
DFS1853I
DFS1937I
| DFS3187I
DFS3197I
DFS3198I
DFS3287E
DFS3298E
DFS3417E
DFS3428W
DFS3429E
DFS3436E
| DFS3437E
| DFS3523W
| DFS3527E
| DFS3529
| DFS3531E
DFS3549E
DFS3553E
DFS3555E
DFS3785E
DFS3786E
DFS3787E
DFS3788I
DFS3789I
DFS3948E
DFS3950A
DFS4408I
DFS4409A
DFS4410I
DFS4411E
DFS4412I
DFS4413E
DFS4414I
DFS4432E
DFS4433E
| DFS4434I
| DFS4435I
| DFS4436I
| DFS4437I
| DFS4438E
| DFS4439E
| DFS4440I
| DFS4441I
| DFS4442I
| DFS4443I
| DFS4500E

| DFS4518I
DFS4575E
DFS4576W
DFS4585W
DFS4586E
| DFS4600E
DFS4600I
| DFS4601E
DFS4601I
DFS4602E
DFS4603I
DSF4604I
DFS4605I
DFS4606I
DFS4607I
DFS4608E
DFS4610E
DFS4611E
DFS4612E
DFS4613E
DFS4614E
DFS4616E
DFS4617E
DFS4618E
DFS4619E
DFS4620E
DFS4621E
DFS4622E
DFS4623W
DFS4624I
DFS4625E
DFS4626I
DFS4627E
DFS4628I
DFS4629E
DFS4630E
DFS4634I
DFS4635I
DFS4636I
| DFS4637E
DFS4639E
DFS4640E
DFS4641E
DFS4642E
DFS4643E
DFS4644E
DFS4645W
DFS4646I

| DFS4648E
| DFS4649A
| DFS4650I
| DFS4651I
| DFS4652E
| DFS4660E
| DFS4661E
| DFS4662E
| DFS4663E
| DFS4664I
| DFS4665I
| DFS4666E
| DFS4667I
| DFS4668I
| DFS4669E
| DFS4671I
| DFS4677E
| DFS4678E
| DFS4679E
| DFS4687E
| DFS4704E
| DFS4705E
| DFS4706E
| DFS4707E
| DFS4708E
| DFS4709E
| DFS4710E
| DFS4711E
| DFS4720I
| DFS4721I
| DFS4831E
| DFSIX089

新しい **DSP** メッセージ

以下は新規メッセージです。

DSP0397E
DSP0398E
DSP0399E
DSP1074E
DSP1075E
DSP1097E
| DSP1206E
| DSP1249E
| DSP1250E
| DSP1251E
| DSP1256E
| DSP1262I
| DSP1267E

DSP1268E

新しい **G** メッセージ

以下は新規メッセージです。

G115

新しい **HWS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSG4000I

HWSG4005I

HWSG4010I

HWSG4015E

HWSG4020W

HWSG4025W

HWSG4030W

HWSG4040W

HWSG4045W

HWSG4060I

HWSG4065E

HWSG4080W

HWSG4100E

HWSG4105W

HWSG4230W

HWSG4235W

HWSG4255W

HWSI1610W

HWSS0776W

HWSU3900E

HWSV4400I

HWSV4405I

HWSV4410E

HWSV4415E

HWSV4425I

HWSV4435W

HWSV4440E

HWSV4480W

HWSV4485W

HWSV4500E

HWSV4600E

HWSV4630W

HWSV4800E

HWSV4820E

HWSV4830W

HWSV4840W

HWSV5000E

HWSV5030W

HWSI1610W

HWSU3900E
HWSV4400I
HWSV4405I
HWSV4410E
HWSV4415E
HWSV4420E
HWSV4425I
HWSV4435W
HWSV4440E
HWSV4480W
HWSV4485W
HWSV4500E
HWSV4600E
HWSV4630W
HWSV4800E
HWSV4820E
HWSV4830W
HWSV4840W
HWSV5000E
HWSV5030W

新しい **XDFLD** メッセージ

以下は新規メッセージです。

| XDFLD600
| XDFLD601
| XDFLD602
| XDFLD603
| XDFLD604

新しい異常終了コード、**DL/I** コード、**AIB** コード、およびユーティリティー・コード

以下は新規コードです。

| 0055
| 0841
| 1002
| 1143
| BPE 3404
| BPE 3405
| AN
| BH
| SF
| 0100/0110
| OTMA 0036
| 高速機能ユーティリティーの状況コード

新しい SQL コード

以下は新規コードです。

000
+098
+100
-010
-101
-104
-117
-122
-158
-198
-199
-203
-204
-205
-206
-208
-301
-302
-303
-305
-313
-350
-404
-407
-408
-413
-420
-490
-514
-516
-517
-518
-519
-530
-531
-840
-904
-5001
-8001
-8002
-8003
-8004
-8005
-8006
-8007

| -8008
| -8009
| -8010
| -8011
| -8013
| -8014
| -8015

V13 で変更されたメッセージおよびコード

IMS バージョン 13 には、変更された BPE、CQS、CSL、DBD、DFS、DSP、FLD、G、HWS、および SEG メッセージのほか、変更された異常終了コードとコンポーネント・コードも含まれています。

以下のメッセージとコードが変更されました。アスタリスク (*) は、メッセージ・テキストが変更されたことを示しています。

変更された **BPE** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

BPE0001E
BPE0006I
BPE0010I
BPE0014E
BPE0017I
BPE0028I
BPE0029I
BPE0037E

変更された **CQS** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| CQS0034A
| CQS0300I
| CQS0222E
| CQS0350W
| CQS0354E

変更された **CSL** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| CSL0001E
| CSL0012I
| CSL2501I

変更された **DBD** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| DBD760

変更された DFS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| DFS047A
| DFS0123E
| DFS0430I
| DFS0488I
| DFS0843I
| DFS0535I
| DFS550I
| DFS554A
| DFS686W
| DFS0730I
| DFS0793I
| DFS0832I
| DFS0842I
| DFS1190I
| DFS1269E
| DFS1913I
| DFS1919I
| DFS1994I
| DFS2166
| DFS2205I
| DFS2291I
| DFS2372I
| DFS2452I
| DFS2473I
| DFS2499W
| DFS2513I
| DFS2662A
| DFS2679A
| DFS2854A
| DFS2857E
| DFS2858E
| DFS0962I
| DFS2859I
| DFS2868W
| DFS2930I
| DFS2991E
| DFS3298E
| DFS3314W
| DFS3178E
| DFS3347A
| DFS3374W*
| DFS3422X
| DFS3549E
| DFS3613I
| DFS3678E

| DFS3688I
| DFS3702I
| DFS3709A
| DFS4342E
| DFS4388W
| DFS4401E*
| DFS4419I*
| DFS4420E
| DFS4421E
| DFS4424E
| DFS4426I
| DFS4429E
| DFS4440I
| DFS4441I
| DFS4477E
| DFS4478E
| DFS4486E
| DFS4494E
| DFS4600I
| DFS4601I
| DFS4637E*
| DFS4637I
| DFS4662E
| DFS4663E
| DFS4810I

変更された **DSP** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I
| DSP0141I
| DSP0222I
| DSP0224I
| DSP1076I
| DSP1095A

変更された **FLD** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| FLD180

変更された **G** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| G430
| G449
| G561

変更された **HWS** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| HWSC0001I
| HWSC0114W
| HWSN1940W
| HWSS0714E
| HWSV4425I
| HWSX0905E
| HWSX0907E

変更された **SEGM** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

| SEGM760

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

| 0029
| 0071
| 0073
| 0088
| 0107
| 0113
| 0119
| 0370
| 0587
| 0602
| 0630
| 0717
| 0757
| 0780
| 0800
| 0840
| 0979
| 1002
| 1009
| 1011
| 1021
| 1026
| 3055
| 3303
| 3305
| 3422

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

BPEATTCH コード

BPELOAD コード
BPERDPDS コード
AIB 0108/0308
BPE 3400
BPE 3401
BPE 4095
ODBM 0010
高速機能ユーティリティー: UR
AC
BA
FM

バージョン 13 で削除されたメッセージおよびコード

IMS バージョン 13 では、多数のメッセージとコードが除去されました。

削除されたメッセージ

以下のメッセージが IMS バージョン 13 から削除されました。

CSL0010E
DFS3187W
DFS3253I
DFS4147E
DFS4149W

削除されたコード

以下のコードが IMS バージョン 13 から削除されました。

0062

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1 つ以上の番号 (例えば、「4、6」) が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. MSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティーの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

- c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
 19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
 20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。
 21. 将来の利用のために予約済み。
 22. 将来の利用のために予約済み。
 23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
 24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
 25. IMS ログのコピーを実行します。
 26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。

ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。

- a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
- b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
- c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
- d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
- e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
- f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
- g. コマンド /EX1、/HOLD、/REL、または /START LINE (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
- h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか?詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。

27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM[®] 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティーを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V13 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V13 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V13 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V13 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 13 Diagnosis

すべての入力 that 正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。

それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。
38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第 3 章 IMS 異常終了コード

IMS モジュールが異常終了すると、IMS 異常終了コードが発行されます。IMS 異常終了は、ユーザー異常終了 です。

IMS 異常終了が発生した場合、コードを使用して以下のことを行います。

- 問題を解決するために必要な文書を定義する
- エラーの原因を特定するのに役立つ可能性がある条件 (レジスターの内容、ビットの設定) を識別する
- IMS 問題定義ステートメントの標準化を可能にする

IMS 異常終了コードの記述は、障害が発生したときにアクティブであった機能から障害のあるサブルーチンを特定するのに役立ちます。

問題のある症状を提供するこの情報は、IBM 早期警告システム (EWS) および RETAIN に利用することができます。障害の診断時には、異常終了コードの情報を使用して、障害が起きたコード単位を素早く確認することができます。例えば、テーブルの情報を使用して、エラー条件を検出して異常終了を発行したモジュールとそのモジュール内のコード単位のラベルを識別することにより、その異常終了 (アベンド) を固有に定義することができます。

トラブルシューティングによって問題を解決できない場合、あるいは IMS 内部エラーが発生した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IMS 異常終了

異常終了する IMS モジュールは、IMS 異常終了コードを発行します。

IMS モジュールは、エラーを検出すると、次の 2 つの方法のいずれかで終了します。

- 標準異常終了 (アベンド)
- 疑似異常終了

各異常終了は、4 桁のコード (例えば、0123) で識別されます。これらの異常終了は、ユーザー異常終了 と呼ばれます。通常は、サービス情報内に ABENDUxxxx 形式で示されますが、ときには短縮形式で Uxxxx のように表示されることもあります (例えば、ABENDU0123 と U0123 のように)。

これらのトピックを使用して、DB/DC 環境および DBCTL 環境で発生した IMS 問題を診断してください。また、表を活用して、DL/I データベースのバッチ処理で発生した問題を効率的に定義することもできます。IMS 問題を定義するために必要な文書は、次のとおりです。

- システム (SYSABEND) またはユーザー (SYSUDUMP) ダンプ、または DFSERA30 定様式ログ印刷。
- エラー条件を検出したアセンブル済みモジュールのリスト、およびエラーを検出したモジュールに関連したモジュールのリスト。

- エラーを検出したモジュールによって使用されたデータ域のリスト。このデータ域を入手するには、最初に、エラーを検出したソースから PRINT NOGEN ステートメントを削除し、次に、エラーを検出したモジュールを指定して IDLI マクロをアセンブルします。

標準異常終了

標準異常終了コードは、エラーが検出された時点でマクロによって発行されるか、またはコードを発行するサブルーチンに分岐することにより発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) に (これは、ダンプ内に示されます)、異常終了マクロを発行したモジュール内の命令のアドレスが入っています。

疑似異常終了

IMS モジュールは問題を検出すると、疑似異常終了を発行できます。疑似異常終了により、従属領域内のアプリケーションは終了しますが、領域は終了しません。疑似異常終了が発生した場合、エラー条件を検出したモジュールは、異常終了マクロを発行しません。

代わりに、呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 に制御ブロックを渡し、これが従属領域の異常終了を示します。呼び出しアナライザー・モジュールは DFSERA20 を呼び出して、重要な制御ブロックの内容をシステム・ログに書き込むか、メモリー・ダンプを作成するかを判別します。

異常終了時に、プログラム状況ワード (PSW) には、エラーを検出したモジュールではなく、要求処理プログラム・モジュールのアドレスが入ります。バッチ領域の場合、要求処理プログラム・モジュールは DFSPR000 です。オンライン領域の場合、モジュールは DFSPROX0 (DFSISI00 のサブルーチン) です。オンライン領域が終了するのか、バッチ領域が終了するのかに応じて、2 つのタイプのいずれかのダンプが生成されます。

DB/DC または DBCTL 環境で、制御領域を終了する必要がある場合は、従属領域のみがダンプされます。疑似異常終了でダンプが発行されないときは、ログから制御ブロックを印刷してください。ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSER10) に、該当する OPTION ステートメントを渡して、以下を行います。

- 該当するシステム・ログ・データ・セット (SLDS) から X'67FF' レコードを選択する。
- レコード・フォーマットおよび印刷モジュール (DFSER30) 出口ルーチンを呼び出して、制御ブロックをフォーマットして印刷する。

ただし、バッチ環境では、バッチ領域が終了し、SYSABEND ダンプが印刷されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、プログラム要求ハンドラー・モジュール DFSPR000 を示しています。これらのトピックの情報を使用して、障害時のプログラム・レジスターの内容を検索する手順を理解してください。プログラム・レジスターの内容の検索は、障害の原因をさらに詳しく調べるために必要です。

重要: DL/I 内のエラーの結果出される異常終了コードを適切に診断するには、DL/I 呼び出しトレースがアクティブであることが必要です。

入力メッセージのスケジュールを変更する可能性がある疑似異常終了

以下の異常終了により、通常の異常終了処理の一環としてスケジューリングのために入力メッセージが再キューイングされる場合があります。

- 0128
- 0129
- 0777
- 0778
- 0804
- 0830
- 2478
- 2479
- 3303
- 3048
- 3049
- 3051
- 3053
- 3057

通常の異常終了処理を無効にするためには、廃棄不能メッセージ出口ルーチン (DFSNDMX0) を使用します。

関連概念:

 DL/I トレース (診断)

関連資料:

 廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (NDMX) (出口ルーチン)

マルチモジュール異常終了

マルチモジュール異常終了 は、複数のモジュールによって発行される IMS 異常終了です。

マルチノード異常終了は、1 つのモジュールによって発行される異常終了とは異なるフォーマットを使用します。各異常終了の『分析』セクションで、発行元のモジュールを指定し、障害のあるモジュール内のラベルを特定しています。

IMS 異常終了に関する情報の入手

この資料では、異常終了の原因、原因を判別する方法、および問題を修正するために取る処置について説明します。

多くの異常終了コードの情報には、詳細を示した障害分析表が含まれており、特定の問題を診断するのに役立ちます。

以下に、IMS 異常終了コードに関する情報の例を示します。

9999 (sample abend code)

9999 (sample abend code)

説明: このセクションでは、異常終了の原因となったイベントについて説明します。

分析: 『分析』セクションには、問題の原因を診断するための情報が入っています。情報には通常、障害が起きたモジュールの汎用レジスターの使用法、障害が起きる前の一般的な制御フロー、および関係のある制御ブロックの名前が含まれます。このセクションの情報を発行元モジュールによって分けると、具体的な問題を特定するのに役立ちます。

この情報には、戻りコードまたは理由コードのリストおよび障害分析表が含まれている場合があります。以下に、障害分析表の例を示します。

表 1. 障害分析表の例

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'	ABNDXXX	具体的な問題を特定するのに役立つ情報

考えられる原因: このタイプの障害の原因になる可能性がある状態。

APAR 処理の場合: この特定の異常終了に関する APAR を完成させるために必要な追加資料。

システムの処置: 『システム処置』セクションでは、異常終了の結果としてのシステムの状況を説明しています。

オペレーターの応答: 『オペレーター応答』セクションには、異常終了に対応してシステム・オペレーターが取る必要がある処置が示されています。

プログラマーの応答: 『プログラマー応答』セクションには、異常終了に対応してプログラマーまたはシステム・プログラマーが取る必要がある処置が示されています。

問題判別: 『問題判別』セクションでは、問題を特定し、文書化するために取るステップについての情報を提供します。このセクションの番号は、13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』に指定された問題判別処置のリストを参照しています。

モジュール: このセクションは、異常終了を発行するモジュールをリストしています。

障害分析表

IMS 異常終了コードに関する情報には、障害の原因を診断するために役立つ表が含まれています。これは、障害分析表と呼ばれます。

それぞれの表は「キー」、「ラベル」、「説明」の 3 つの列から成り、以下の情報が含まれています。

キー エラーを単一の原因に切り分けるために使用できるキー条件。

この列は、異常終了への入り口における重要なレジスターの内容を記述しています。場合によっては、具体的な情報が得られないことがあります (例えば、レジスターの内容が保管されなかったり、オーバーレイされた場合)。そのような場合は、表の「キー」部分はブランクです。

ラベル

エラーを検出したルーチンのラベル。このルーチンは、必ずしも異常終了を発行したルーチンとは限りません。

説明 このルーチンの機能の概要と、障害の原因についての指示。

定様式ダンプ

IMS ダンプの全体、あるいは問題を分析するために必要な制御ブロックおよびデータ域のみを、フォーマット設定および印刷するには、IMS ダンプ・フォーマッターまたは IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターを使用してください。

対話式フォーマッターおよびオフライン・フォーマッターが推奨される方式ですが、オンラインでダンプをフォーマットすることも可能です。IMS ダンプ・フォーマッターおよび IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターについての詳細は、以下の資料を参照してください。

- *IMS V13 システム定義*
- *IMS Version 13 Diagnosis*

IMS 異常終了の検索および通知

IMS 異常終了検索および通知機能を使用すると、E メール・アドレスにメッセージを送信して、異常終了の発生を通知し、異常終了に関する追加情報を提供することができます。

異常終了についての詳しい情報は、IMS 製品資料、IBM 技術サポート・データベースの技術情報、および予防サービス計画 (PSP) データベースの情報からも入手できます。IMS 異常終了検索および通知機能のセットアップおよび使用については、IMS 診断情報を参照してください。

第 4 章 システム異常終了コード

このトピックでは、以下のシステム異常終了コードについて説明します。

AC6

説明: IMS は、1 つの z/OS タスクを別の z/OS タスクから強制的に終了させるときに、この z/OS 異常終了コードを使用します。これが発生するのは、次の 3 つの状態の場合です。

- システム内の異常終了のために、ESTAE ルーチンが制御を得ました。この終了タスクは、ログ・バッファをページしようとする前に、物理ログ・タスク (バッファの所有者) にその意図を通知します。終了タスクが 1 秒以内に応答を受け取らない場合、物理ログ・タスクはこの異常終了で終了します。いずれの場合も、ログ・バッファはページされます。
- 分離ログ・セクター (ILS) のこのインスタンスに必要な DBRC インスタンスが終了しました。異常終了した DBRC に従属する残りのすべての ILS インスタンスは、この異常終了コードおよび理由コード X'01' で終了するまでその DBRC を待機します。
- 以下のいずれかの状態が発生した場合、SLDS 読み取りは、この異常終了コードと理由コード X'02' を出して、OPEN/CLOSE サブタスクを強制的に終了することがあります。
 - /STOP SLDSREAD コマンドが入力されました
 - SYSZTIOT リソースに対する競合が検出されました
 - 補助記憶域不足が検出されました

ソース: IMS システム異常終了

モジュール: DFSFDLF0、DFSFDLG0、DFSIL220

| Fnn

| 説明: z/OS が、IMS™ タイプ 2 SVC または DBRC タイプ 4 SVC のインストールが正しくないことを検出しまし
| た。この異常終了コードの末尾 2 桁 nn は、16 進数での IMS SVC 番号です。例えば、異常終了コード SFE1 は、
| システムが SVC X'E1' (つまり SVC 225) を処理しているときにエラーが発生したことを意味します。

| プログラマーの応答: インストール・エラーを訂正してください。IMS™ タイプ 2 SVC または DBRC タイプ 4 SVC
| のインストールについて詳しくは、IMS のための z/OS インターフェースに関する考慮事項 (システム管理)を参照し
| てください。

| ソース: 監視プログラム制御

第 5 章 IMS 異常終了コード 0000 - 0050

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。ほとんどのコードは、4 桁の 10 進数です。

0002

説明: IMS 制御領域が異常終了すると、アクティブな従属領域がこの異常終了を強制されます。この異常終了は、制御領域の通常シャットダウン後に新たに従属領域を開始しようとした場合にも発生します。

分析: これは、従属領域を異常終了させるためにモジュール DFSV4100 によってスケジュールされる疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: IMS 再始動手順に従います。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSV4100

0005

説明: IMS 再始動で、入力オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) をクローズ (終了) することができませんでした。詳しい説明については、メッセージ DFS0738I および DFS0738X を参照してください。

分析: 異常終了 0005 は、DFSFDLW0 によって検出され、DFSFDLY0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSFDLW0 は、最後の IMS 障害時にオンライン・データ・セット (OLDS) に書き込まれなかったログ・データのブロックを再作成します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) レジスターのレジスター 9 に、DFSFDLW0 で使用された作業域のアドレスが入っています。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	説明
Reg15=X'01' RLWABC=X'01' PDCB, SDCB	先行書き込みデータ・セット (WADS) の OPEN が失敗しました。PDCB は 1 次 WADS DCB です。重複 WADS が使用されている場合、SDCB は 2 次 WADS DCB です。
Reg15=X'02' RLWABC=X'02'	WADS は、OLDS が使用されたときには使用されないものでした。
Reg15=X'03' RLWABC=X'03'	WADS の読み取り中に、入出力エラーが検出されました。
Reg15=X'04' RLWABC=X'04'	WADS レコードの連結時にログ・シーケンス・エラーが検出されました。
Reg15=X'06' RLWABC=X'06'	WADS レコードの欠落問題が検出されました。前のレコードはさらにレコードが存在することを示していますが、ファイルの終わりが検出されました。
Reg15=X'07' RLWABC=X'07'	WADS の 1 つのトラック・グループを構成するトラックの数が不十分であるか、TRKCALC 障害がありました。

キー	説明
Reg15=X'08' RLWABC=X'08'	長さエラーが検出されました。 <ul style="list-style-type: none"> レコード長が予測されていたのに、ゼロが検出されました。 最後のブロック内にタイプ 48 レコード用の十分な余裕がありませんでした。
Reg15=X'09' RLWABC=X'09' RLWP.PABLKCNT	ログ・シーケンス番号が再作成ブロックの間で欠落しています。WADS データは OLDS データ (RLWP.PABLKCNT) より大きいブロック・シーケンス番号を持っていましたが、シーケンス番号が連続していないか、クロック値がシーケンス番号と異なる順序になっていました。
Reg15=X'B' RLWABC=X'B'	トラック・グループに、複数の非残余ブロックからのセグメントが含まれていました。
Reg15=X'C' RLWABC=X'C' RLWPBA	RLWPBA が指し示す再作成ブロックに含まれるブロック記述子のブロック・サイズが、OLDS ブロック・サイズに一致していません。
Reg15=X'D' RLWABC=X'D' RLWPBA	RLWPBA で指し示された再作成ブロックで、無効なレコード長が検出されました。
Reg15=X'E' RLWABC=X'E' RLWPBA	負のレコード長が検出されました。負のレコード長は、RLWPBA で指し示された不完全なブロックのデータの終わりを示します。負のレコード長が見つかった不完全なブロックが、最後のブロックではありません。
Reg15=X'F' RLWABC=X'F' RLWPBA	RLWPBA で指し示された再作成ブロックで、ログ・レコード・シーケンス・エラーが検出されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して、ログをクローズ (終了) します。

問題判別: 1、5、8、11、35、40

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLY0

関連情報:

 DFS0738I (メッセージおよびコード)

 DFS0738X (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

006

説明: ライセンス・マネージャーが DB 機能または TM 機能のいずれの証明も検出しませんでした。メッセージ DFS2930I を参照して、どちらの (または両方の) 機能に証明がないかを判別してください。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: 必要な証明を LM に追加するか、または、証明が存在しなくても要求が認可されるように LM モードを変更します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXSTM0

0008

説明: 領域用に指定されたストレージの量が、PROCLIB メンバー・データを入れるためのテーブルを作成するのに不十分です。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0610W に、TABLE 名および追加情報が示されています。

分析: この標準異常終了は、DFSXRPS0 によって発行されます。モジュールは、IMODULE GETMAIN マクロを発行して、ストレージを取得しようとした。IMODULE GETMAIN によって、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

ヘッダー・テーブルを作成する IMODULE GETMAIN ルーチンが IMS システム・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取ったため、メッセージ **DFS0610W - GETMAIN FAILED FOR TABLE = DFSXRPS0** が発行されています。

DD 名テーブルを作成する IMODULE GETMAIN ルーチンが IMS システム・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取ったため、メッセージ **DFS0610W - GETMAIN FAILED FOR TABLE = PROCLIB** が発行されています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 領域サイズを増やして、IMS を再試行します。

プログラマーの応答: 領域サイズを増やします。

問題判別: 1、3、6、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRPS0、DFSPMBR0、DFSRED20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0009

説明: データ・セットの OPEN が失敗しました。この障害により、IMS は初期設定に必要な情報を獲得できません。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0597W に、データ・セット名が DDNAME =xxxxxxx で識別され、追加情報が提供されています。

分析: この異常終了は、DFSXRPS0、DFSILD0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールはデータ・セットをオープンしようとしたが、z/OS OPEN コマンドが失敗しました。最もよくある問題は、DD ステートメントの欠落です。DFSXRPS0、DFSILD0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレス DCBOFLGS が入っています。

Module	キー	ラベル	説明
DFSXRPS0、 DFSILD0、 DFSRED20	Reg6=DCB	OPENCHK	データ・セットをオープンするルーチンは、DCB がオープンされたことを示す標識を何も受け取りませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DFS0597W を参照してください。DDNAME xxxxxxx データ・セットを調べます。

問題判別: 1、3、6、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRPS0、DFSILD0、DFSRED20

関連情報:

 DFS0597W (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0010

説明: データ・セットのレコード・フォーマットが無効のため、データ・セットを処理できません。この状態のため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。次のいずれかの理由で、異常終了が発生しました。

- データ・セットのレコード・フォーマットが無効である。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0604W に、DDNAME xxxxxxxx および追加情報が示されています。
- データ・セットのフォーマットが無効であることを示すために、システムがメッセージ DFS0604W を戻した。レコード・フォーマットは固定または固定ブロックである必要があります。このメッセージを初期設定中に受け取った場合、システムは必要な情報を受け取っていない可能性があります。このメッセージを MFS DCT ユーティリティから受け取った場合、記述子メンバーが使用不可であり、ユーティリティは戻りコード 4 で終了しました。

この異常終了は、非 Java 従属領域 (MPP、BMP、IFP 領域) でも発生する可能性があります。

分析: この異常終了は、DFSXRPS0、DFSIILO0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールは、データ・セットの RECFM=F または RECFM=FB パラメータを検査します。DCBRECFM フィールドを調べて、レコード・フォーマットを確認してください。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。DFSXRPS0、DFSIILO0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレス DCBRECFM が入っています。

モジュール	キー	ラベル	説明
DFSXRPS0	Reg6=DCB	XRCFMERR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。
DFSIILO0	Reg6=DCB	XRCFMERR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。
DFSRED20	Reg6=DCB	RECFMERR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。

DFSRRRC10、DFSRRRC40 の場合:

この異常終了は、DFSRRRC10、DFSRRRC40 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6'		BPX1SDD が失敗しました。
Reg3=BPX1SDD 戻りコード		
Reg4=BPX1SDD 理由コード		

DFSPCC20 の場合:

この異常終了は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1'		言語環境エンクレーブを作成できません (CEEPIPI エラー)
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'2'		JVM を作成できません。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'3'		JVM はアプリケーションを開始できません (CEEPIPI エラー)。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		

キー	ラベル	説明
Reg15=X'5'		項目を追加できません (CEEPIPI エラー)。
Reg3=考えられる 戻りコード	CEEPIPI	

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0604W を参照してください。 DDNAME xxxxxxxx によって識別されたデータ・セットが RECFM=F または RECFM=FB を持つようにします。

問題判別: 1、3、6、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSRED20、DFSRRRC10、
DFSRRRC40

関連情報:

 DFS0604W (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0011

説明: WRITE 割り込みを処理するために、システム・コンソールの装置依存モジュール・エントリー・ポイントに入る試みが行われました。WRITE 割り込みを処理するために、モジュール DFSICIO0 によって、システム・コンソールの装置モジュール DFSDNSC0 が呼び出されました。このエントリー・ポイントは存在しません。

分析: これは、システム・コンソールの通信装置モジュール DFSDNSC0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。異常終了時のレジスター 14 に、通信アナライザー (DFSICIO0) からの無効なエントリー・ベクトル値が入っています。このコードは、条件を処理するためのブランチ・テーブルへの指標として使用されます。

通信アナライザー DFSICIO0 は、ラベル OUTINT で装置依存のモジュール・エントリー 2 (WRITE INTERRUPT) を呼び出します。このルーチンは、レジスター 14 にエントリー・ベクトル値を入れます。DFSDNSC0 が受け入れるレジスター 14 の有効な内容は、以下のものに限られます。

コード

コード (16 進数)

X'00'

WRITE SETUP の場合

X'08'

READ SETUP の場合

X'0C'

READ INTERRUPT の場合

X'04' または X'10' は、異常終了への分岐の原因となります。

0012

キー	ラベル	説明
Reg6=WTOR dsect のアドレス Reg14=X'04' または X'10' Reg1=異常終了 完了コード、 X'8000000B'	DENTRY	このルーチンは、レジスター 14 で無効なエントリー・ベクトル値 (X'04' または X'10' のいずれか) を検出し、終了するためにラベル ABEND に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: CSECT DFSICIO0 がユーザーにより変更されていないこと、および CSECT DFSDNSC0 に分岐する他の変更が行われていないことを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、5、11、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDNSC0

0012

説明: ブロック・サイズが無効のため、データ・セットを処理できません。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。システムは、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- データ・セットのブロック・サイズが無効である。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0605W に、DDNAME xxxxxxxx および追加情報が示されています。
- DDNAME データ・セットのブロック・サイズが無効であることを示すメッセージ DFS0605W が戻された。このメッセージが初期設定中に戻された場合、システムは必要な情報を受け取っていない可能性があります。このメッセージを MFS DCT ユーティリティから受け取った場合、ユーティリティは戻りコード 4 で終了しました。

分析: これは、DFSXRPS0、DFSILDO0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールは、DCBBLKSI フィールドが 80 の倍数であることを検査します。DCBBLKSI フィールドを調べて、ブロック・サイズを確認してください。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。

DFSXRPS0、DFSILDO0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレスが入っています。DFSXRPS0 の場合、レジスター 9 に DCBBLKSI 値が入り、レジスター 8 に剰余が入っています。DFSILDO0 および DFSRED20 の場合、レジスター 5 に DCBBLKSI 値が入り、レジスター 4 に剰余が入っています。

Module	キー	ラベル	説明
DFSXRPS0	Reg6=DCB アドレス Reg9= DCBBLKSI Reg8= 剰余	XBLKERR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。
DFSILDO0	Reg6=DCB アドレス Reg5= DCBBLKSI Reg4= 剰余	BLKSZERR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。
DFSRED20	Reg6=DCB アドレス Reg5= DCBBLKSI Reg4= 剰余	XBLKERR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DFS0605W を参照してください。DDNAME xxxxxxxx のブロック・サイズを 80 の倍数にします。

問題判別: 1、3、6、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRPS0、DFSIILO0、DFSRED20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0013

説明: IMS が、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- IMS が IMS バッチ用のシステム・ログをオープンできなかった。Reg 15 = 1。
- 出力システム・ログ・データ・セット (SLDS) IEFORDER/2 が、拡張フォーマット・データ・セットに割り振られている。Reg 15 = 2。
- マクロ ISITMGD から、ゼロ以外の戻りコードが戻された。Reg 15 = 3。

分析: 0013 は、DFSFDLS0 によって発行できる標準異常終了です。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、モジュールのこのエントリー (DFSFDLS1) の基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、1 次ログ・データ・セットをオープンできないことが検出されたアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A (DCB) DCBOFLGS = X'10'	OPNB0100	1 次 DCB に対して OPEN (SVC 19) が発行されています。その DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを判別します。成功していなかった場合、この異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この問題に対する応答は、次のように、レジスター 15 の値に依存します。

- Reg 15 = 1 の場合は、IEFRDER に DD ステートメントを含め、それを正しく指定したことを確認します。次に、ジョブを再実行依頼してください。
- Reg 15 = 2 の場合は、出力 SLDS (IEFRDER/2) を SMS 以外のストライプ・データ・セットに再割り振りします。
- Reg 15 = 3 の場合は、レジスター 15 の ISITMGD 戻りコードを確認します。ISITMGD 戻りコードについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLS0

関連資料:

 z/OS: ISITMGD の完了コード

0014

説明: IMS システム・ロガーが無効なログ呼び出しを渡しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

分析: DFSFLLG0 の場合:

これは、論理ログ書き込み機能 DFSFLLG0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル LOGABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11、レジスター 10、およびレジスター 9 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレス、ログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレス、および DECB のアドレスが入っています。レジスター 15 に、この異常終了の理由コードが入っています。

コード (16 進数)

説明

X'04'

レコード長が無効

X'08'

無効なパラメーター。

X'0C'

要求が無効

X'10'

ラッチが既に保持されているときにラッチが要求された

X'14'

ラッチを所有していないときにラッチ解放が要求された

X'20'

通知コードの誤り

X'24'

これ以上使用可能な保管域はありません

これに加えて、保管域トレースに、IMS ロガーを呼び出したモジュールが表示されます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg5=長さ または Reg6=A(DFSPRMLL)	LLRET4	ログ・レコードをバッファーに転送するルーチンで、レコード長が 5 バイトより小さいか、ログの BLKSIZE より大きくなっています。ログ・パラメーター・リストが渡されるときに (DFSPRMLL)、レコード長が正の値ではなく、呼び出し元が出口ルーチンを指定しませんでした。
Reg15=X'08' Reg9=A(DECB) Reg6=(DFSPRMLL)	LLRET8	DECB に渡されたパラメーターが無効です。次の条件のいずれかが存在します。機能コードが無効である、レコード・ポインターがない、DFSPRMLL 内に AWE ポインターがない、DFSPRMLL 内の要求フラグの無効な組み合わせ、出口ルーチンからの無効な戻りコード、または先頭のセグメント長が 4 より小さかった。
Reg15=X'0C' Reg9=A(DECB) Reg10=A(LCD)	LLRET12	このモジュールのエントリー・ポイントで、未定義の機能が要求されたか、あるいはログがオープンされていませんでした。再始動時に、この呼び出しの前に必要なセットアップが行われていませんでした。ログ・ラッチ解放ルーチンで、呼び出し元がラッチの所有者ではありませんでした。
Reg15=X'20'	LLRET32C	論理ロガーが物理ロガーからの通知を待っていました。イベント制御ブロック (ECB) が、無効な通知コード値で通知されています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'24'	LETERM	続行するには、別の保管域が必要です。順方向保管域ポインターは 0 です。これは、これ以上使用可能な保管域がないことを示します。

DFSCMS00 の場合:

複数システム結合機能 (MSC) アナライザーが、X'64F2' ログ・レコードを記録するために、ロガーへの呼び出しを発生しました。ログ・レコード・サイズが入力バッファより大きくなっています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'		ログ・レコード長が無効です。
Reg9=A(DECB)		

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: ログ・データ・セットを保管します。IMS システム・プログラマーに連絡を取って再始動します。

プログラマーの応答: IMS を緊急時再始動することができます。保管域トレースに、無効な要求でロガーを呼び出したプログラムが示されています。

APAR 処理の場合: 保管域トレースと共に、ログおよびシステム・ダンプのコピーを含めます。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFLG0、DFSCMS00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0015

説明: データ・セット内に、必要なメンバーがありません。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。メッセージ DFS0579W、DFS0596W、DFS3652X、または DFS3659X により、見つからなかったメンバーの名前が識別され、さらに追加情報が示されます。

終了の理由は、以下のとおりです。

DFS3652X

システム初期設定が、PROCLIB という DD 名のライブラリーから必要な動的端末記述子または動的ユーザー記述子を見つけることができません。システム初期設定では、DYNT=YES が要求された場合、少なくとも 1 つの有効なログオン記述子と、1 つの有効なユーザー記述子が必要です。DFSDSCTy (y は DSCT=EXEC パラメーターで指定) も、DFSDSCMy (y は SUF=EXEC パラメーターで指定される中核接尾部) も IMS.PROCLIB 内で見つからなかったか、あるいは少なくとも 1 つの有効なログオン記述子および 1 つの有効なユーザー記述子を含んでいませんでした。

DFS3659X

システム初期設定が、IMSVS.PROCLIB メンバーから記述子名について記述子レコードを読み取り中に入出力エラーを受け取りました。

分析: これは、DFSXRPS0、DFSILD0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールは、IMS によって必要とされるメンバーを検査します。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。DFSXRPS0、DFSILD0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'08' Reg6=DCB アドレス Reg2= メンバー・ アドレス	XOPVSMNM	メンバーを妥当性検査するルーチンが、必要なメンバーを検出できませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0579W、DFS0596W、DFS0671W、DFS3652X、および DFS3659X を参照してください。

問題判別: 1、3、6、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRPS0、DFSIIILD0、DFSRED20

関連情報:

 DFS0579W (メッセージおよびコード)

 DFS0596W (メッセージおよびコード)

 DFS0671W (メッセージおよびコード)

 DFS3652X (メッセージおよびコード)

 DFS3659X (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0016

説明: IMS システムは、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- VTAM 制御ブロックのハッシュ・テーブルに必要なストレージ (IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0) の要求が失敗した。メッセージ DFS1996 の送信後に DFSIINV0 によって発行されます。R3 = ストレージ要求の長さ。R5 = IMODULE 戻りコード。
- VTAM 制御ブロック (DFSCLVyx) を初期設定できなかった (y は 0 から 9 または A から F の値、x は IMS 中核接尾部)。異常終了は、メッセージ DFS1998 の送信後に DFSIINV0 によって発行されます。
- 次のいずれかが発生しました。
 - VTAM 制御ブロック・モジュールをロードできなかった。異常終了は、メッセージ DFS1999 の送信後に DFSIINV0 によって発行されます。R5 = IMODULE 戻りコード。
 - すべての VTAM 制御ブロック・モジュールを IMS 制御領域の拡張専用域にロードできなかった。メッセージ DFS1999 の送信後に DFSIINV0 によって発行されます。R5=8。
- CNT/LNB/RCNT、SPQB、または CCB の各制御ブロックのハッシュ・テーブル用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。メッセージ DFS1992 の送信後に DFSIINU0 によって発行されます。R3 = ストレージ要求の長さ。R5 = IMODULE 戻りコード。
- CCB 制御ブロックのビットマップに必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1992 の送信後に DFSIINU0 によって発行され、R3 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- LQB/RCNT 制御ブロック・モジュール (DFSCLCms、DFSCLSms、DFSCLRms、DFSCCLIDs、ここで m は 0 から 9 または A から F の値、s は IMS 中核接尾部) を初期設定できなかった。異常終了は、メッセージ DFS1990 の送信後に DFSIINV0 によって発行されます。

- LQB/RCNT 制御ブロック・モジュール (DFSCLCms、DFSCLSmS、DFSCLRms、DFSCCLIDs)。ここで、m は 0 から 9 または A から F の値で、s は IMS 中核接尾部) をロードできなかった。異常終了は、メッセージ DFS1991 の送信後に DFSIINV0 によって発行され、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- 一時的構造を作成するための、作業域用またはシステム・ログオン記述子とユーザー記述子用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1993 の送信後に DFSIILD0 によって発行され、R3 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- ログオン記述子およびユーザー記述子用のハッシュ・テーブル用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1993 の送信後に DFSIILD0 によって発行され、R4 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- VTAM 制御ブロックに必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 214 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1996 の送信後に DFSIINV0 によって発行され、R4 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。

分析: この異常終了の前に、7 つのエラー・メッセージ DFS1990I、DFS1991I、DFS1992I、DFS1993I、DFS1996I、DFS1998I、または DFS1999I のいずれかが出されます。該当するメッセージを参照して、必要な処置を決定します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1990I、DFS1991I、DFS1992I、DFS1993X、DFS1996I、DFS1998I、または DFS1999I を参照して、適切な処置を決定します。

問題判別: 4、6、8、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINV0、DFSINU0、DFSIILD0

関連情報:

-  DFS1990I (メッセージおよびコード)
-  DFS1991I (メッセージおよびコード)
-  DFS1992I (メッセージおよびコード)
-  DFS1993X (メッセージおよびコード)
-  DFS1996I (メッセージおよびコード)
-  DFS1998I (メッセージおよびコード)
-  DFS1999I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0017

説明: IMS システム・ログ書き込み機能は、読み取り操作および書き込み操作のログ・バッファの不規則なシーケンスを検出しました。

分析: これは、バッファ後処理ルーチン DFSFDLB0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) を発行するラベル ABEND017 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は、このモジュールの基底レジスタです。レジスタ 11 とレジスタ 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスタ 14 に、この異常終了条件が最初に検出されたアドレスが入っています。レジスタ 15 に、この異常終了の理由コードが入っており、内部エラーを示しています。

0019

キー	ラベル	説明
Reg15=X'08' Reg9=A(LBUFFER)	WRTE0700	検査されたバッファが、バッファをシステム・ログに書き込む順序を保守するために使用されている、作業処理キュー・チェーン (LCD 内の LPWKTDQ) 内にありませんでした。
Reg15=X'0C' Reg9=A(LBUFFER) Reg8=A(LDSET)	WRTE1700	検査されたブロックが、ログ・データ・セットに最後に書き込まれた、次のブロックではありませんでした。 LBUFFER 内の LBLKCNT (レジスター 9) が、LDSET 内の LDSBSEQL+1 (レジスター 8) に等しくありませんでした。
Reg15=X'10' Reg9=A(LBUFFER)	READ0200 READ1300	読み取りバッファが LDSET からの正しいチェーン内にありませんでした。使用された OLDS は、DSET テーブル (LCD 内の LDSETPTR) に存在し、かつ LDSET 内の LDSRBUFF からのチェーン内に存在する必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0019

説明: 通信名テーブル (CNT) 内のコンポーネント番号が最大許容値より大きいことが、通信端末ブロック (CTB) に適切なコンポーネント作動不能ビットを設定するルーチンによって判別されました。レジスター 10 が、エラーのあった CNT のアドレスを示しています。

分析: これは、CNT 内のコンポーネント番号に基づいて CTB に COMPINOP ビットを設定するための SESSIONC 完了ルーター DFSCVRB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元モジュール DFSCVRB0 (ラベル ABEND19 内) の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 10 に、エラーのあった CNT のアドレスが入っています。無効なコンポーネント番号は、CNT 内のフィールド CNTCMPNT で見つけることができます。4 つのコンポーネントのみが許可されます。このフィールドの有効な値は、X'00'、X'01'、X'02'、および X'03' のみです。

キー	ラベル	説明
Reg10=CNT のアドレス Reg7=CTB のアドレス Reg1=異常終了完了 コード、X'80000013'	VRB05	CNT 内の出力コンポーネント番号 (CNTCMPNT) の比較が行われます。値が X'03' より高い場合、異常終了するためにラベル ABEND19 に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCVRB0

0020

説明: IMS システムまたは指定された外部サブシステム・タスクが、MODIFY コマンドの使用によって終了しました。

分析: 0020 は、DFSFCCT0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: ユーザーが、IMS の全タスクあるいは外部サブシステム接続を表す特定のタスク (DB2® など) を異常終了するために、z/OS MODIFY コマンドを入力しました。

システムの処置: IMS の全タスクまたは指定された外部サブシステム・タスクが終了します。外部サブシステム・タスクが指定された場合、そのタスクのみが終了し、IMS の残りの部分は処理を継続します。

オペレーターの応答: 外部サブシステム・タスクが終了した場合、IMS を再始動します。/START SUBSYS コマンドを発行することにより、そのタスクを再始動できます。

プログラマーの応答: IMS に対して MODIFY コマンドを使用した理由を調べて、訂正処置を取ります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFCCT0

0021

説明: IMS システム・ログ書き込み機能が、無効な要求を渡したか、正しくない条件を検出しました。無効な要求エレメントが、物理ログ・マスター ITASK またはセットアップ ITASK に通知されたか、無効なログ・レコード・アドレスがバッチで RSR ログ・データ送信ルーチンに渡されました。

分析: DFSFDLG0 の場合:

これは、物理ログ書き込み機能マスター・ルーチン DFSFDLG0 から発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、これらのモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、異常終了条件が発生したアドレスが入っています。理由コードは内部エラーを示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg2=A(AWE)	MAIN0600	AWE 要求内のルーチンの処理中に、AWLFUNC フィールドに無効なコードが含まれていました。
Reg15=X'08'	MSTRCLSE MSTRFEOV	FEOV/CLOSE ログ・データ・セット・ルーチンで、1 つ以上のバッファーがまだ作業処理キュー (LCD 内の LPWKTDQ) に残っています。FEOV/CLOSE の前に、このフィールドが 0 になっていなければなりません。
Reg15=X'0C' Reg9=A(OLDS バッファー接頭部)	WRTE0960 WRTE1060	OLDS 書き込み処理中に、レジスター 9 が指すブロックのブロック・シーケンス番号が、前のブロックのシーケンス番号 (LDWRTCNT) より 1 だけ大きい値ではありません。

DFSFDLS0 の場合:

これは、物理ログ書き込み機能セットアップ・ルーチン DFSFDLS0 から発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレス

0022

が入っています。レジスター 14 に、この異常終了条件が発生したアドレスが入っています。レジスター 15 に、この異常終了の理由コード (内部エラーを示す) が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg2=A(AWE)	SUBT0600	AWE 要求を処理するルーチン DFSFDLS0 で、AWLFUNC フィールドに無効なコードが含まれていました。
Reg15=X'08'	SOPN0200	次の OLDS を最初にオープンしたルーチン DFSFDLS で、LCD 内に使用可能な DCB がありませんでした。LCD には 2 セットの DCB (LDCBP1/LDCBS1 と LDCBP2/LDCBS2) が含まれていましたが、両方のセットともオープン状況 (DCBOFLGS-X'10') でした。
Reg15=X'0C'	DFSFDLS5	タイマー出口ルーチン DFSFDLS5 で、現行の TCB からターゲット SCD を見つけることができませんでした。最初のレジスター保管域のレジスター 1 フィールドは、IMS ディスパッチャー作業域を指していなければなりません。

DFSLLRD0 の場合:

これは、RSR ログ・データ送信ルーチン DFSLLRD0 から発行される可能性がある標準異常終了です。レジスター 15 に、この異常終了の理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'	ありません。	バッチ IMS 領域では、RSR トラッカーに送信されるログ・データのアドレスが IMS ログ・バッファの境界の外にありました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、4、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLG0、DFSFDLS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0022

説明: SESSIONC 完了時、要求パラメーター・リスト (RPL) のセッション制御コードが無効です (STSN、SDT、または CLEAR でない)。

分析: これは、3770/3767 SESSIONC 完了ルーター・モジュール DFSCVRG0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 6 に、エラーのある RPL を含む VTAM バッファのアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'00'

CLEAR 完了。

X'04'

開始データ・トラフィック (SDT) 完了。

X'08'

シーケンス番号の設定およびテスト (STSN) 端末の完了。

キー	ラベル	説明
Reg6=エラーのある RPL を含む VTAM バッファのアドレス Reg1=異常終了完了コード、 X'80000016'	CVRG010	機能コードを操作タイプと比較します。操作が CLEAR、SDT、または STSN でない場合、異常終了するた めに分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 11、35

異常終了時のレジスター 6 に、エラーのあった RPL を含むバッファのアドレスが入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCVRG0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0023

説明: DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。この異常終了は、IMS プロシージャでの ACBLIB データ・セットの指定が、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャの指定と一致しなかったことを示しています。この異常終了の前に出力されたメッセージ DFS0404W に詳しい情報が示されています。

分析: ACBLIB DDNAMES IMSACBA および IMSACBB の指定を訂正する必要があります。DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャで指定された ACBLIB データ・セットは (アクティブ、非アクティブの両方とも)、IMS プロシージャで指定されたものと同じであり、しかも連結順序が同一でなければなりません。

キー	ラベル	説明
以下の説明を参照。	DLI60	以下の説明を参照。

z/OS スケジューラー作業域ブロックがメモリー・ダンプに含まれている必要があります。これらのブロックを含めるには、z/OS CHNGDUMP コマンドで SDATA=SWA を指定します。

この異常終了の前にメッセージ DFS0404W が出され、理由コードを提供します。適用できるデータ域は、以下のとおりです。

•

制御メモリーの場合:

- モジュール DFSSDL0 内の ACBCK は、DFSACBCK のアドレスを指しています。
- DFSACBCK+8 は、IMSACBA の DSNAM/VOLSER リストのアドレスです。
- DFSACBCK+X'10' は、IMSACBB のリストのアドレスです。

•

DL/I メモリーの場合:

- モジュール DFSSDL0 内の AATIOT は、IMSACBA の最初の TIOT エントリーのアドレスです。
- BBTIOT は IMSACBB のアドレスです。

メッセージ DFS0404W が理由コード 02 を示す場合:

0024 • 0025

- AAERTIOT は、IMS プロシーチャーの指定に一致しなかった IMSACBA に関連する TIOT エントリーのアドレスです。
- AAERJFCB は、AAERTIOT に関連するジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) のアドレスです。
- AAERCTL は、比較に使われた制御メモリーのデータのアドレスです。
- BBERTIOT、BBERJFCB、および BBERCTL は、IMSACBB に使用されます。

システムの処置: DL/I 従属アドレス・スペースが 0023 で異常終了し、これにより制御領域が 0150 異常終了で終了します。

プログラマーの応答: DL/I 従属アドレス・スペース開始プロシーチャーで指定された ACBLIB データ・セットは、制御領域の JCL で指定されたものと同じで、しかも連結順序が同じでなければなりません。このことは、アクティブと非アクティブの両方の ACBLIB に適用されます。ACBLIB DDNAMES IMSACBA および IMSACBB の指定を訂正します。ストレージ・ダンプを分析する必要がある場合、MVS™ スケジューラー作業域 (SWA) ブロックを含める必要があります。これらのブロックを含めるには、z/OS CHNGDUMP コマンドで SDATA=SWA を指定します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSDLC0

関連情報:

 DFS0404W (メッセージおよびコード)

IMS 異常終了 0150

0024

説明: DL/I 従属アドレス・スペース領域または DBRC 領域のいずれかが IMS 制御領域に接続しようとしていました。接続要求で渡されたジョブ名が、DLINM= (DL/I 従属アドレス・スペース領域の場合) または DBRCNM= (DBRC 領域の場合) の指定と一致しません。これらの値は、IMSCTRL システム定義マクロまたは制御領域 JCL から得られます。これらのキーワードのデフォルトは、それぞれ DLISAS および DBRC です。

この異常終了は、ラベル TESTSAS から発行されます。

システムの処置: 接続を試みた領域は、0024 で異常終了します。

プログラマーの応答: 正しい名前前でプロシーチャーを開始するか、またはしかるべき名前前でオーバーライドして制御領域を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

0025

説明: DL/I 従属アドレス・スペース領域または DBRC 領域のいずれかが IMS 制御領域に接続しようとしていました。制御領域のその領域タイプに対する接続は、すでにアクティブです。このエラーは、例えば、DL/I 従属アドレス・スペース領域を 2 度開始させることにより発生します。

この異常終了は、ラベル TESTSAS から発行されます。

システムの処置: 接続を試みた領域は、異常終了 0025 で終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

0026

説明: IMS が (E)STAE マクロを正常に実行することができません。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析: 0026 は、3 つの異なるモジュール DFSPCC20、DFSPCC30、または DFSPR000 から発行される可能性がある標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元である、障害が起きたモジュール内のラベル/ルーチンを指しています。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 には常に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からの戻りコードが入ります。

コード
説明

X'00'

(E)STAE 要求の正常終了。

X'04'

(E)STAE OV が有効な出口アドレスで指定されましたが、現行の出口ルーチンが、存在しないか、ユーザーの要求ブロック (RB) によって所有されていないか、あるいは (E)STAE 出口ルーチンではありません。

X'0C'

取り消し (出口アドレスがゼロに等しい) が指定されましたが、このタスク制御ブロック (TCB) 用の出口ルーチンがないか、最新の出口ルーチンが呼び出し元によって所有されていないか、あるいは最新の出口ルーチンが (E)STAE 出口です。

X'10'

この要求の処理中に、予期しないエラーが発生しました。

X'14'

(E)STAE は、セッション制御ブロック (SCB) 用のストレージを取得できませんでした。

DFSPCC20 の場合:

0026 は、MPP/BMP プログラム・コントローラー DFSPCC20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が最終的に発行されるラベル PSABEND 内の命令を指しており、エラーを検出したルーチンによってここへ分岐されます。

異常終了時には、異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE からのゼロ以外の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg3=(E)STAE 出口ルーチンのアドレス	PC00 PC01	領域間通信機能の初期設定中に、失敗した (E)STAE (SVC 60) が発行されました。レジスター 15 をテストして戻りコードが調べられます。ゼロ以外の場合は、異常終了を処理するためにラベル PCAB026 に分岐します。
Reg1=完了コード、 X'8000001A'		

DFSPCC30 の場合:

0026 は、バッチ・アプリケーション・プログラム・コントローラー DFSPCC30 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PSABEND 内の命令を指しています。ここへの分岐は、エラーを検出したこのモジュール内のルーチンによって行われます。

異常終了時には、異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からのゼロ以外の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=(E)STAE からのゼロ以外の戻りコード Reg1=完了コード、 X'8000001A'	PC1A	バッチ初期設定中に、(E)STAE が発行され、これが失敗しました。レジスター 15 に戻りコードがロードされ、これがゼロ以外であるため、異常終了を処理するためにラベル PSTAEND に分岐します。

DFSPR000 の場合:

このモジュールからの異常終了は、非 z/OS システムでのみ 発生します。

この異常終了は、バッチ・アプリケーション・プログラム要求ハンドラー DFSPR000 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この場合は、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指し、ここへの分岐はエラーを検出したルーチンによって行われます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=最初の (E)STAE 制御ブロックへのポインター Reg1=完了コード、 X'8000001A'	STATEST	初期条件のセットアップおよび検査中に、STAE が発行される原因となる状態 (つまり、最初の DL/I 呼び出しではない、アクティブな STAE がない、現行の STAE がこのモジュールに属していない) が発生しました。STAE は失敗し (レジスター 15 内のゼロ以外の戻りコードによって示される)、異常終了を処理するためにラベル PRAB3 に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この問題は IMS 内部エラーです。

問題判別: 4、35

レジスター 15 に、(E)STAE からの戻りコードが入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20、DFSPCC30、DFSPR000

関連資料:

 z/OS: ESTAE の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0027

説明: DFSDUMP 要求の処理中に、IMS ダンプ・サービス・ルーチンがシステムまたは IMS 異常終了要求を受け取りました。この異常終了は、ダンプ処理が完了した後、正常な IMS リカバリーおよび終了を強制するために発行されます。メッセージ DFS629I の最初の行にある理由コード・フィールドに、元の異常終了コードが含まれています。

システムの処置: エラーは通常の IMS リカバリー・ルーチンに渡され、現行 DFSDUMP 要求は TERM=YES を強制され、元の終了要求についてのソフトウェア LOGREC 項目が要求されます。

プログラマーの応答: 異常終了 0027 によって参照される元の異常終了を分析するには、元の異常終了についての LOGREC 項目、および元の異常終了が据え置かれたときに進行中であったダンプの両方を使用します。

ソース: IMS 異常終了

0028

説明: /CHECKPOINT コマンドに DUMP キーワードが含まれていたため、IMS 制御領域が終了しました。

この異常終了は、/CHE FREEZE、PURGE、または DUMPQ ABDUMP コマンドの結果として発生します。

分析: 0028 は、IMS 制御領域の正常終了時にモジュール DFSTERM0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、IMS またはプログラミングのエラーの結果ではなく、単に診断または通知の目的でメモリー・ダンプを要求した IMS オペレーターによる要求の結果に過ぎません。IMS は、ダンプを生成して、正常に 終了するために、異常終了を発行します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 に、SCD アドレスが入っています。レジスター 13 に保管域アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg11=SCD のアドレス	SKIPCLSE	SCD の SCDSTOP1 + 1 フィールドが X'10' に設定されているかテストして、制御領域の終了時にダンプが要求されたかどうかを判別します。設定されている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS は、異常終了を発行し、メモリー・ダンプを生成して、正常に終了します。

プログラマーの応答: オペレーターが /CHECKPOINT コマンドに DUMP オプションを指定した理由を調べます。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSTERM0

0029

説明: 異常終了 0029 は、DL/I 従属アドレス・スペースの初期設定によって発行される標準の異常終了です。これは、要求されたサービス (IMS または z/OS のいずれか) がゼロ以外の戻りコードを戻す場合に発行されます。異常終了時には、レジスター 3 に理由コードが入っています。レジスター 15 に、要求されたサービスからの戻りコードが入っています。レジスター 14 は、エラーが検出された位置を指しています。

分析: DFSXDL00 の場合:

表 2. モジュール DFSXDL00 からの 0029 のコード

キー	ラベル	説明
Reg3=X'01'	ABCOD1	一時保管セット用の IMODULE GETMAIN が失敗しました。
Reg3=X'02'	ABCOD2	初期設定パラメーター・ブロック用の IMODULE GETMAIN が失敗しました。
Reg3=X'03'	ABCOD3	モジュール DFSFDLI0 をロードできません。
Reg3=X'04'	ABCOD4	ジョブ・ステップ TCB ESTAE が確立されませんでした。
Reg3=X'05'	ABCOD5	DL/I 従属アドレス・スペースの SSCT を作成するために、DFSV4200 が開始されました。
Reg3=X'06'	ABCOD6	OS によるモジュール DFSDRCL0 のロードが失敗しました。
Reg3=X'07'	ABCOD7	モジュール DFSXDL00 は、DL/I 従属アドレス・スペースのプリロード・リスト (DFSXDLLL) を処理中であり、必要なモジュールをロードできませんでした。レジスター 4 は DLST 項目を指しています。この項目の最初の 8 バイトはモジュール名です。
Reg3=X'08'	ABCOD8	DFSFXC10 をロードできません。
Reg3=X'09'	ABCOD9	DFSSDL80 をロードできません。

表 2. モジュール DFSXDL00 からの 0029 のコード (続き)

キー	ラベル	説明
Reg3=X'0A'	ABCOD10	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'0B'	ABCOD11	DL/I 従属アドレス・スペースのジョブ・ステップ TCB のディスパッチャー作業域を作成するために、DFSKDP00 が呼び出されました。
Reg3=X'0C'	ABCOD12	DFSBCB60 をロードできません。
Reg3=X'0D'	ABCOD13	CMWU ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'0E'	ABCOD14	ストレージ圧縮用の ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X'0F'	ABCOD15	DFSXDL10 をロードできません。
Reg3=X'10'	ABCOD16	バックグラウンド書き込み ITASK 構造を作成するために、DFSCWU00 が呼び出されました。
Reg3=X'11'	ABCOD17	DFSSDL40 をロードできません。
Reg3=X'12'	ABCOD18	DFSSDL40 ITASK 構造を作成するために、DFSCWU00 が呼び出されました。
Reg3=X'13'	ABCOD19	共通サービス作業域 (DFSCSSWK) を取得できません。
Reg3=X'14'	ABCOD20	DFSCSS00 をロードできません。
Reg3=X'15'	ABCOD21	共通サービス ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X'16'	ABCOD22	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'17'	ABCOD23	一時保管セットを解放できません。
Reg3=X'18'	ABCOD24	DFSXRPS0 をロードできません。
Reg3=X'19'		許可索引予約 (AXRES) 要求が失敗しました。
Reg3=X'1A'		許可索引設定 (AXSET) 要求が失敗しました。
Reg3=X'1B'		リンケージ索引予約 (LXRES) 要求が失敗しました。
Reg3=X'1C'		エントリー・テーブル作成 (ETCRE) 要求が失敗しました。
Reg3=X'1D'		エントリー・テーブル接続 (ETCON) 要求が失敗しました。
Reg3=X'1E'		許可テーブル・セット (ATSET) 要求が失敗しました。
Reg3=X'20'		モジュール DFSNOTB0 のロードが失敗しました。
Reg3=X'21'		モジュール DFSCPY00 のロードが失敗しました。
Reg3=X'22'	ABCOD34	DFRSMD0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg3=X'23'	ABCOD35	DFRSMD0 呼び出しが失敗しました。
Reg3=X'24'	ABCOD36	DFS5DL60 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg3=X'25'	ABCOD37	DFSCWU 呼び出しが DFS5DL60 の ITASK の作成に失敗しました。

DFSXDL10 の場合:

表 3. モジュール DFSXDL10 からの 0029 のコード

キー	ラベル	説明
Reg3=X'01'	ABCOD1	ストレージ管理の初期設定を実行するために、モジュール DFSIINS0 が呼び出されました。
Reg3=X'02'	ABCOD2	DFSSDL20 ITASK 用の作業域を GETMAIN できません。
Reg3=X'03'	ABCOD3	DFSSDL20 をロードできません。
Reg3=X'04'	ABCOD4	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。

表 3. モジュール DFSXDL10 からの 0029 のコード (続き)

キー	ラベル	説明
Reg3=X'05'	ABCOD5	DFSSDL20 ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X'06'	ABCOD6	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'07'	ABCOD7	データベースの初期設定を実行するために、DFSIND0 が呼び出されました。
Reg3=X'07'	ABCOD7B	プログラム仕様ブロック (PSB) およびデータ管理ブロック (DMB) ディレクトリーの初期設定を実行するために、DFSRDB30 が呼び出されました。
Reg3=X'08'	ABCOD8	OSAM および VSAM バッファの初期設定を実行するために、DFSDVBI0 が呼び出されました。
Reg3=X'09'	ABCOD9	ページの固定化オプションを処理するために、DFSIFIX0 が呼び出されました。
Reg3=X'0A'	ABCOD10	DFSNOTB0 をロードできません。
Reg3=X'0B'	ABCOD11	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'0C'	ABCOD12	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'0D'	ABCOD13	DFSSDL30 をロードできません。
Reg3=X'0E'	ABCOD14	初期設定するために、DFSSDL30 が呼び出されました。
Reg3=X'0F'	ABCOD15	非同期作業エレメント (AWE) を解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X'10'	ABCOD16	DFSXRAC0 が RACF® ユーザー ID を設定できませんでした (特定の問題についての説明は、メッセージ DFS0841I に関する情報を参照してください)。

DFSXDT10 の場合:

以下の戻りコードは、DFSXDT10 によって 10 進形式で発行されます。

コード
説明

- 81** DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。初期設定中に SAVEAREA を取得できなかったことを示します。
- 82** DFSCDSP からエラー戻りコードが戻されました。ディスパッチャー作業域を作成できなかったことを示します。
- 83** 初期設定中に、IMODULE LOAD からエラー戻りコードが戻されました。トラッキング・モジュールをロードできないことを示します。
- 84** 初期設定中に、DFSCWU からエラー戻りコードが戻されました。トラッキング ITASK を作成できなかったことを示します。
- 85** 初期設定中に、IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。サブプール 0 内で DFSXDT10 作業域用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 86** 初期設定中に、IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。サブプール 0 内で終了 ITASKS 用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 87** 初期設定中に、DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。終了 ITASKS に必要な保管域用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 88** 初期設定中に、DFSCIR からエラー戻りコードが戻されました。終了 ITASKS を作成できなかったことを示します。

DFSSDLC0 の場合:

表 4. DFSSDLC0 からの 0029 のコード

キー	ラベル	説明
Reg3=X'01'	ABCOD1	ACBLIB 検査域用の共通ストレージ域 (CSA) スペースを取得できません。

システムの処置: DL/I 従属アドレス・スペース領域は異常終了 0029 で終了し、その結果、制御領域が異常終了 0150 で終了します。

プログラマーの応答: 上記の表を使用して原因を判別し、問題を修正してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXDL00、DFSXDL10、DFSXDT10、DFSSDLC0

関連情報:

 DFS0841I (メッセージおよびコード)

IMS 異常終了 0150

0031

説明: あるログ・データ・セットでエラーのあるブロックの検出中に、CSECT DFSFLTP0 がレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

分析: 0031 は、複合モジュールであるログ・リカバリー・ユーティリティーによって発行される標準異常終了です。DFSULTR0 はロード・モジュール名、DFSULG10 はそのエントリー CSECT です。DFSULG20 は、現行の入力ログで読み取りエラーを検出し、モジュール DFSFLTP0 に BALR します。モジュール DFSFLTP0 はエラー戻りコードをレジスター 15 に入れて、DFSULG20 に戻ります。

障害時には、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である、CSECT DFSULG20 のラベル SWAPABND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 15 に、モジュール DFSFLTP0 からの戻りコードが入っています。戻りコードは、モジュール DFSULG20 のラベル SWAP1040 にあるブランチ・テーブルを調べることにより判別できます。

システムの処置: モジュール DFSULG20 は、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 の中の戻りコードを確認して、問題を修正してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG20

0032

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティーによってログ・シーケンス・エラーが検出されました。

分析: 0032 は、ログ・リカバリー・ユーティリティーによって発行される標準異常終了です。DFSULG40 は、誤りのあるログを検出した場合、DFS3288I メッセージと異常終了を発行します。検出されたエラーは、シーケンス番号の誤りまたはログ・レコードが短すぎることです。エラーは、発行された DFS3288I メッセージから判別できます。

障害時には、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) を発行した命令を指しています。レジスター 2 にログ・レコードのアドレス、レジスター 3 に入力ログ DCB アドレス、およびレジスター 4 にレコード長が入っています。シーケンス番号が誤っている場合、レジスター 5 に予期されたログ・シーケンス番号 (LSN) が入り、レジスター 6 に受け取った LSN が入っています。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーは異常終了 0032 を発行します。

プログラマーの応答: JCL 内でのログ・データ・セットの順序が正しいかどうかを確認します。順序が正しい場合、ログ・リカバリー・ユーティリティーの DUP モードおよび REP モードを使用して、ログ・データ・セットを訂正します。その後でジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG40

関連情報:

 DFS3288I (メッセージおよびコード)

0034

説明: VTCB、VLQB、または CBTS ラッチを取得または解放するために、モジュール DFSSCBT0 または DFSBCB30 が呼び出されました。ラッチ取得要求の場合、共通ラッチ・マネージャー・モジュール DFSCLM00 がゼロ以外の戻りコードを戻しました。ラッチ解放要求の場合、共通ラッチ・マネージャー・モジュール DFSCLM10 がゼロ以外の戻りコードを戻しました。

分析: 0034 は、GET ラッチ要求からモジュール DFSCLM00 に、または RELEASE ラッチ要求からモジュール DFSCLM10 に正常でない戻りコードが戻された後で、モジュール DFSSCBT0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に、ラッチ要求からの戻りコードが入っています。

異常終了時に作業単位 (UOW) が所有していたラッチを判別するには、SAPACLE を使用して SAP に付加されている共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) ブロックを確認します。フォーマット設定された CLLE 域の説明については、マッピング・マクロ DFSCLE を参照してください。

以下の戻りコードは、DFSCLM00 によって10 進形式で発行されます。

コード

説明

RC = 12

要求されたラッチは現行の最高の保持ラッチであり、リソース・ヘッダーが同一です (ラッチは既に所有されている)。

RC = 16

要求されたラッチは、現行の最高の保持ラッチより小さい値です (階層違反)。

RC = 20

排他的ラッチに対する要求は認可できず、要求側は待機を望んでいません (WAIT=NO を指定)。

RC = 24

共用ラッチに対する要求は認可できず、要求側は待機を望んでいません (WAIT=NO を指定)。

RC = 28

要求されたラッチは現行の最高の保持ラッチに等しく、リソース・ヘッダーが同一ではありません (内部システム・エラー)。

以下の戻りコードは、DFSCLM10 によって 10 進形式で発行されます。

コード

説明

RC = 12

要求されたリソースは割り振られていません (システム内にこのリソースの所有者がいません)。

RC = 16

要求されたリソースは割り振られていますが、この要求側に対してではありません。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0034 が示されます。

プログラマーの応答: 異常終了 0034 は、共通ラッチ・マネージャー (DFSCLM00 および DFSCLM10) によって発行される異常終了 0780 と同一です。レジスター 15 で見つかった異常終了サブコードについての説明は、上記の説明と異常終了 0780 の説明を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

0035 • 0036

モジュール: DFSSCBT0

関連情報:

IMS 異常終了 0780

0035

説明: この異常終了は、データベース制御 (DBCTL) フェーズ 1 同期点プロセッサ (DFSDSC00) が障害を検出した場合に発行されます。DFSDSC00 は、フェーズ 1 同期点処理を実行するために、高速機能呼び出し内の障害または DL/I による障害に対して、異常終了をセットアップします。

分析: 障害が高速機能内にあった場合、PAPL のフィールド PAPLSTCD に、障害の理由を説明する高速機能状況コードが入っています。

障害が DL/I 内にあった場合、フィールド PAPLSTCD にはブランクが入り、フィールド PAPLPLRC に IMS 異常終了コード (障害の理由として DL/I によってセットアップされた) が入っています。

これらのフィールドは両方とも、DRA SDUMP/SNAP のフェーズ 1 PAPL に現れます。CCTL は、DRA SDUMP/SNAP で戻された情報に基づいて、診断を生成することができます。

システムの処置: DBCTL はリカバリー単位を終了させ、データベース変更をすべてバックアウトします。

プログラマーの応答: データベース・リソース・アダプター (DRA) によって作成されたスナップ・ダンプを調べます。このダンプには、DRA 設計済みパラメーター・リスト (PAPL) およびその他の診断情報が含まれています。

問題判別: 38

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSC00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0036

説明: VTAM または IMS 論理エラーのいずれか、またはその両方が発生した結果としての、VTAM 要求パラメーター・リスト (RPL) の予期しない通知。

分析: 0036 は、VTAM RPL 検査ルーチンの通信装置モジュール DFSCVCK0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 に、CLB (DECB) のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000024' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg9=DECB アドレス	DFSCVCK0	イベント制御ブロック (ECB) の DECSDECB フィールドがテストされます。フィールドに X'00' または X'40' 以外のものが入っている場合、ECB は正常でなく、異常終了するために分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IBM ソフトウェア・サポート用の関連情報を保管して、IMS を再始動します。

問題判別: 4、5、6、11、14、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCVCK0

関連情報:

0037

説明: テークオーバー時に、モジュール DFSHTKRO がテークオーバー要求処理のために内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) を呼び出し、IRLM が 4 より大きい戻りコードを返しました。レジスター 15 に戻りコードが入っており、IRLM パラメーター・リストのフィールド RLPFCODE に理由コードが入っています。

分析: 0037 は、モジュール DFSHTKRO によって発行される標準異常終了です。戻りコードがレジスター 15 に入っており、理由コードは IRLM パラメーター・リストのフィールド RLPFCODE にあります。IRLM パラメーター・リストのアドレスは、区画仕様テーブル (PST) フィールド PSTIRMLA から取得できます。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードと理由コードの情報を参照してください。

考えられる原因: IRLM 内の障害がこの異常終了の原因と考えられます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを修正して、IMS 代替システムを再始動してください。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHTKRO

関連資料:



IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0038

説明: 緊急時再始動の完了時またはデータベース・バックアウトの実行時に、以前の実行からサブシステムによって保持されているロックの解放を試みた結果、IRLM から正常でない戻りコードを受け取りました。これらのロックは、前の実行のときからサブシステムによって保持されていたロックです。この異常終了の前に、メッセージ DFS038I が出されます。レジスター 15 に、IRLM からの戻りコードが入っています。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- 障害の原因を判別するための、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報にある PURGE 要求の説明。
- メッセージ DFS038I に関する情報。

考えられる原因: IRLM 内の障害がこの異常終了の原因と考えられます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

DFSPCCC0、DFSRST00

関連資料:



IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード

関連情報:



DFS038I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0039

説明: IDENTIFY 要求が IRLM に対して発行され、要求は失敗しました。戻りコードがレジスター 15 に入り、理由コードが IRLM パラメーター・リストのフィールド RLIFCODE (オフセット X'8F') にあります。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報にある IDENTIFY 要求の説明を参照してください。

分析: 0039 は、DFSRST00 または DFSRDSH0 (オンライン) または DFSPCCC0 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。正常再始動 (この場合は、X'04' の戻りコードでも異常終了を起こします) を除き、X'04' より大きいどの戻りコードでもこの異常終了が発生します。IRLM パラメーター・リストのアドレスは、区画仕様テーブル (PST) のフィールド PSTIRLMA から取得できます。戻りコードがレジスター 15 に入り、フィードバック状況情報が IRLM パラメーター・リストにあります。

IRLM がアクティブではない場合、戻りコード X'08' とサブコード X'40' が IMS に返されます。OS オペレーターがメッセージ DFS039A に対して CANCEL または DUMP を応答した後で、ABENDU0039 が発行されます。

SCOPE=LOCAL が指定され、DBRC=YES である場合、IRLM はロックを解放します。バックアウトを実行し、識別要求処理を再試行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: サブシステム名 (IMSID または JOBNAME) が別のアクティブな IMS サブシステムで現在使用中でないこと、および IRLM が始動されており、このシステムに対してアクティブであることを確認します。バックアウトが必要な場合があります。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCCC0、DFSRDSH0、DFSRST00

関連資料:

 IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0040

説明: グローバル・コマンド・ロックを獲得しようとして無効な戻りコードが戻されました。このロックは、すべての共用サブシステム間の通信に使用されるものであり、必須です。

分析: これは、モジュール DFSPCCC0、DFSRDSH0、および DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。IRLM 理由コードはレジスター 15 に入っており、IMS 戻りコードは PST DL/I データ共用セクション内の PSTLRXRC の下のオフセット +X'347' にあります。要求を発行するために使用されたパラメーター・リストは、再始動 PST によって指し示されます。IRLM パラメーター・リストのアドレスは、PST フィールド PSTIRLMA から取得できます。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードと理由コードの情報を参照してください。

考えられる原因: IRLM 内の障害がこの異常終了の原因と考えられます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IRLM がまだアクティブであることを確認してください。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCCC0、DFSRDSH0、DFSRST00、DBFLHCK0

関連資料:

 IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

0041

説明: DBRC へのサインオン要求が失敗しました。DBRC 戻りコードがエラー内容を説明しています。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- DBRC 要求戻りコードに関する情報を参照して、障害の原因を判別します。
- メッセージ DFS041I の情報

分析: 0041 は、DFSRST00 (オンライン)、DFSPCCC0、または DFSPCC30 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の発行時に、レジスター 15 に戻りコードが設定されます。オンライン IMS サブシステムの場合、サブシステム名は SCD 内にあります。バッチ・サブシステムの場合、サブシステム名は PXPARMS 内にあります。パラメーター・リスト・アドレスは、DFSBRLSC マクロ (PRMAREA=parameter) から取り出すことができます。パラメーター・リストには、サインオン要求で DBRC に渡された情報が入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: オンライン・サブシステム名 IMSID またはバッチ・ジョブ名が開始プロシージャーで正しく指定されているかどうかを確認します。また、適切な RECON データ・セットがこの IMS サブシステムに割り振られているかどうかを確認します。IMS 代替サブシステムを再始動中の場合は、DBRC コマンド CHANGE.SUBSYS SSID(name) NOBACKUP を発行します。このコマンドにより、代替サブシステムがサインオンしていることを示すフラグがリセットされます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCCC0、DFSPCC30、DFSRST00

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS041I (メッセージおよびコード)

0042

説明: この始動でバックアウトが要求されたが、DBRC サインオン要求はこのサブシステムに関する項目が存在しないことを示しています。緊急時再始動中に、同じ環境を確立する必要があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS042I が出されます。

分析: 0042 は、DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。DBRC のサブシステム名と状況は、SCD の SCDIMSNM と SCDSHFL2 にあります。JCL プロシージャーを調べて、同じ RECON データ・セットが指定されたことを確認してください。

考えられる原因: 始動プロシージャーで、無効なサブシステム名、DBRC= の指定、または RECON データ・セットが指定されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: サブシステム名 IMSID または DBRC= が始動プロシージャーで正しく指定されているかどうか、および適切な RECON データ・セットがこの IMS サブシステムに割り振られているかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

 DFS042I (メッセージおよびコード)

0043

説明: 「リカバリー終了」のサインオン要求が DBRC に対して発行されましたが、要求は失敗しました。この要求は、緊急時再始動の終わりの最初のチェックポイントの後で発行され、DBRC に緊急時再始動の完了を通知します。これにより、DBRC は、以前の IMS 実行から保持されていた保留情報をすべて除去できます。DBRC 戻りコードがエラー内容を示しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS043I が出されます。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- DBRC 要求戻りコードに関する情報を参照して、障害の原因を判別します。
- メッセージ DFS043I に関する情報。

分析: 0043 は、DFSRST00 (オンライン) または DFSPCCC0 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の発行時に、レジスター 15 に戻りコードが設定されます。オンライン IMS サブシステムの場合、サブシステム名は SCD 内にあります。バッチ・サブシステムの場合、サブシステム名は PXPARMs 内にあります。パラメーター・リスト・アドレスは、サインオン要求を発行するために必要なすべての情報と共に、チェックポイント PST リスト内にあります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別し、問題を訂正してください。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCCC0、DFSRST00

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS043I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0044

説明: 正常再始動または緊急時再始動が指定されました。DBRC が、前の実行中はアクティブでしたが、現在はアクティブではありません。DBRC 名またはサブシステム名が、X'4001' チェックポイント・レコードで検出された名前と同じではありませんでした。

インストール・デフォルト・モジュール DFSIDEF0 で DBRC=FORCE が指定されましたが、IMS の実行は実行パラメーター DBRC=N で要求されました。

HALDB 区画化を使用している場合、この異常終了は、必要なときに DBRC がアクティブでなかったことを示しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0415W、理由コード X'74' が出されます。

分析: 0044 は、DFSRLP00 および DFSXBAT0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: この異常終了の考えられる原因は、DBRC=N が指定されたことです。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 今回の実行のときに DBRC が存在したかどうか、および DBRC=N が指定されなかったかどうかを確認します。緊急時再始動およびデータベース・バックアウトの場合、以前の実行時と同じ環境、すなわち同じ DBRC の使用状況でこの環境を使用する必要があります。今回の実行で使用される入力テープ、または再始動コマンドで指定されるチェックポイント値の正確さを確認します。

問題判別: 1、4、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00、DFSXBAT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0045

説明: 以前の IMS 実行では IRLM を使用したが、今回の実行では IRLM が存在していません。緊急時再始動では、以前の実行中に IRLM が存在していた場合は、今回の実行でも同じ IRLM が存在することが要求されます。この異常終了の前に、メッセージ DFS045I が出されます。

分析: 0045 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。X'4001' レコードに IRLM システム名が存在するという事は、前の実行時に IRLM がアクティブであったことを暗黙に示しています。SCD 内に存在する IRLM システム名は、この実行で IRLM がアクティブであるかどうかを示します。

考えられる原因: IRLM= または IRLMNM= で誤った指定が行われました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IRLM=N が指定されていないかどうか、あるいは以前の IMS 実行で使用されていたのと同じ環境が今回の実行で存在するかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0046

説明: PSB (EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定される) に含まれる DBPCB のいずれかに IMS システム定義の DATABASE マクロ・ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のない PROCESSING INTENT があります。PROCESSING INTENT は、PSBGEN の PROCOPT オペランドの指定から導き出されます。

分析: これは、モジュール DFSSBMP0 によって設定され、モジュール DFSPCC20 から発行される、疑似異常終了です。障害の理由については、メッセージ DFS046A の情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
	BMPAB046	モジュール DFSDBLM0 によって PSTSCHDF フィールド内のスケジュール障害コードが X'09' に設定されました。このコードは、PSB で互換性のない処理意図が検出されたことを示します。

システムの処置: エラー・メッセージ DFS046A が発行されます。バッチ領域は異常終了します。従属領域は、データベースへのアクセスが限定された状態で処理を継続します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの対応が可能です。

- マスター端末オペレーターに連絡を取って、データベースの ACCESS パラメーターを PROCESSING INTENT と互換性のあるレベルに変更してもらいます。
- PROCOPT オペランドの指定を変更して、IMS システム定義の DATABASE ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のあるレベルにします。

ACBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 6、10、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20、DFSSBMP0

0047

関連情報:

 DFS046A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0047

説明: 指定された PSB (EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで示される) 内の DBPCB のいずれかが、データベースを参照して DBRC からデータベース許可を取得するのに失敗したか、あるいは PSB スケジューリング中にデータベース許可要求リストを作成するためのより大きい作業用ストレージ域を取得するのに失敗しました。

分析: **DFSDBAU0** の場合:

0047 は、DL/I のモジュール DFSDBAU0 または DBB バッチ領域によって発行される標準異常終了です。IMS がオンライン制御領域である場合、PSB 名がメッセージ・テキストに現れます。メッセージ DFS047A に関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
DFSDBAU0 内	ABND47	DL/I または DBB バッチ領域がデータベース許可の取得に失敗しました。

DFSPCC20 と **DFSSBMP0** の場合:

0047 は、モジュール DFSSBMP0 によって設定され、モジュール DFSPCC20 から発行される、疑似異常終了です。障害の理由については、メッセージ DFS047A を参照してください。

キー	ラベル	説明
	BMPAB047	モジュール DFSDBLM0 によって PSTSCHDF フィールド内のスケジュール障害コードが X'0A' に設定されました。このコードは、PSB のデータベース許可要求が失敗したことを示します。

システムの処置: エラー・メッセージ DFS047A または DFS049I が発行され、当該データベースは停止されます。バッチ領域は異常終了します。従属領域は処理を継続するが、このデータベースへのアクセスは禁止されます。

プログラマーの応答: 障害の理由および障害への対応については、エラー・メッセージ DFS047A または DFS049I を参照してください。メッセージ DFS047A の場合、以下のいずれかの対応を行う必要があります。

- マスター端末オペレーターに連絡して、/DBR コマンドを入力することにより、データベース許可を保持していた他の IMS サブシステム内のデータベースをクローズする。
- データベース許可を保持していた別の IMS サブシステムが終了するまで待ってから、ジョブを再実行する。

問題判別: 11、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBAU0、DFSPCC20、DFSSBMP0

関連情報:

 DFS047A

 DFS049I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0048

説明: データベース・リカバリー管理 (DBRC) の初期設定中にエラーが発生しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

分析: **DFSXDRC0** の場合:

0048 は、すべての異常条件に対して発行されます。レジスター 15 に、以下の理由コードが入ります。

コード
説明

X'10'

DBRC 初期設定 (INIT1) がゼロ以外の戻りコードを発行しました。レジスター 5 = DBRC 戻りコード。

X'14'

DFSBCB 高速保管域の取得が失敗しました。レジスター 5=DFSBCB 戻りコード。

X'18'

DFSCIR ITASK 作成が失敗しました。レジスター 5 = DFSCIR 戻りコード。

DFSXRIC0 の場合:

0048 は、すべての異常条件に対して発行されます。レジスター 15 に、以下の理由コードが入っています。以下のいずれかの理由で、データベース・リカバリー管理のレジスター 15 で初期設定中にエラーが発生しました。

コード	理由	処置
X'04'	IMS-DBRC 制御ブロック (DFSRCWK) の IMODULE GETMAIN が失敗しました。	IMS 制御領域サイズを大きくしてください。
X'08'	DFSRCQM0、DFSRCQR0、または DSPCRTR0 の IMODULE LOAD が失敗しました。	JOB/STEPLIB DD ステートメントを訂正するか、DBRC モジュールを正しいライブラリーにバインドしてください。
X'0C'	初期設定の最初の呼び出し (INIT-0) がゼロ以外の戻りコードを持っていました。	該当の DBRC データベース・リカバリー管理の資料を参照して、DBRC 初期設定が失敗した理由を判別してください。
X'10'	初期設定の 2 番目の呼び出し (INIT-1) がゼロ以外の戻りコードを持っていました。	ゼロ以外の戻りコードを持っていた、DBRC 初期設定の 2 番目の呼び出し (INIT-1) による DBRC 初期設定障害の理由を判別します。

エラー・コードに応じて、適切な処置を取ってください。

システムの処置: IMS が異常終了しました。

プログラマーの応答: 上記のエラー・コードの説明に従って、適切な処置を取ってください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXDRC0、DFSXRIC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0049

説明: この異常終了は、OS RDJFCB エラーまたはストレージ不足状態が発生したときに発行されます。ストレージ不足状態に関しては、この異常終了は IRLM の使用時に IRLM 障害または IRLM 通信障害が発生した場合にのみ発生します。

分析: 0049 は、モジュール DFSDBAU0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、次の場所のいずれかを指します。すなわち、ラベル ST307 の後、モジュール DFSDBAU0 内のラベル AB049、または DBFDBAU0 内のラベル DBFSTATS のいずれかです。

キー	ラベル	説明
Reg8=必要なストレージのサイズ	ST307	IRLM または通信障害を処理するには、この量のストレージが必要です。
ラベル AB049 にある PSW	AB049	レジスター 15 には、RDJFCB 監視プログラム呼び出し (SVC) からの X'00' または X'04' 以外の戻りコードが入ります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBAU0、DBFDBAU0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0050

説明: 外部トレース初期設定に必要な IMS サービス要求 (QSAV、DFSCDSP、または DFSCWU 用の DFSBCB) が、予期しないゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析: 外部トレース TCB は異常終了し、OLDS 外部トレースのみが許可されました。レジスター 2 に、失敗した外部トレース要求が入っています。レジスター 14 に、エラーがあったルーチンを指す BAL REG が入っています。レジスター 15 に、失敗した下位サービスを識別するための理由コードが入っています。

- レジスター 2 に、失敗した IMS サービス要求が示されています。

コード (16 進数)

意味

- 01 QSAV の DFSBCB 要求が失敗しました。
- 02 DFSCDSP 要求が失敗しました。
- 03 DFSCWU 要求が失敗しました。
- 04 IMODULE 要求が失敗しました。

- レジスター 14 は、エラーが検出されたアドレスを示します。
- レジスター 15 に、失敗したサービスからの戻りコードが入っています。

システムの処置: 外部トレース TCB は終了します。IMS が再始動されるまでは、OLDS 外部トレースのみが可能です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXTRA0

第 6 章 IMS 異常終了コード 0051 - 0100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0055

説明: アプリケーション・プログラムは、共用仮想記憶オプション (SVSO) バッファ・プールからのバッファを要求しましたが、SVSO プールがすでにその拡張上限に達しているために、この要求は実行されませんでした。この異常終了は、通常のバッファ割り振り (NBA) およびオーバーフロー・バッファ割り振り (OBA) の使用とは無関係です。

分析: これは、SVSO バッファ・プールの限度に達したときに、DBFIRC10 (高速機能領域間通信制御モジュール) により発行される標準異常終了です。

システムの処置: 従属領域は、疑似コード 0055 で異常終了します。

プログラマーの応答: SVSO バッファ・プール・サイズを、従属領域の同時アクセスに対応できるように増やしてください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10、DBFSGAB0

0056

説明: 高速機能がコーディネーター・コントローラー (CCTL) 要求のためにバッファにアクセスしようとしているとき、データベース制御 (DBCTL) サブシステムでエラーが発生しました。このエラーは、CCTL の識別、終了、スレッド・スケジュール、またはスレッド同期点の各要求のときに発生する可能性があります。

分析: CCTL スレッド・スケジュール (DBFINTE0) 要求時またはスレッド同期点 (DBFINTT0) 要求時に障害が発生した場合、IMS 制御領域が異常終了します。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 に、どのモジュールが異常終了を発行したかが示されます。いずれの場合も、この異常終了は 1 つの場所で発行されます。両方の要求とも、要求を行っている CCTL 用の CBUF 制御ブロックを高速機能が検出できなかったためにエラーが発生します。高速機能は、バッファの取得 (スケジュール) およびバッファの解放 (同期点) のために、このブロックを必要とします。

CCTL 終了要求時に障害が発生した場合、DBFDBF10 は 2 つの条件に対して異常終了を発行します。どの条件が異常終了の原因になったかを調べるには、異常終了 SVRB 内のレジスター 15 を調べます。

Reg15=4

高速機能が CCTL 名の CBUF を検出できませんでした。IMS 制御領域は異常終了します。

Reg15=8

高速機能が AWE を取得できませんでした。この状態は、IMS 制御領域またはデータベース・リソース・アダプター (DRA) TCB のいずれかで発生する可能性があります。IMS 制御領域または DRA TCB のいずれかが異常終了します。

CCTL 識別要求時に障害が発生した場合、DFSDASI0 は疑似異常終了 0056 をセットアップして、要求は理由コード 0056 で失敗したことを DRA が CCTL に通知できるようにします。その後、DRA はスナップ・ダンプを取ります。ヘッダー・タイトルに、識別要求が 0056 障害の原因であることが示されます。この要求の場合、高速機能は CCTL 用のバッファを取得できなかったため、異常終了も発行されます。SSOB 内のフィールド SSPICODE に、障害の正確な理由を示す文字ストリングが入ります。これらのストリングおよび理由は、以下のとおりです。

SSPCODE

説明

0069

AWE

使用可能な CSA ストレージがないため、AWE ブロックを作成できません。

CBUF

使用可能な ECSA ストレージがないため、CBUF ブロックを作成できません。

NBA

CCTLNBA 要求を満たすために使用可能な十分なバッファがありません。

システムの処置: スケジュールまたは同期点要求時に障害が発生した場合、IMS 制御領域は 0056 で異常終了します。同期点エラーは、フェーズ 2 の打ち切りまたはコミットの後で発生します。

識別要求時に障害が発生した場合、識別要求は疑似異常終了 0056 で失敗しますが、IMS および CCTL は影響を受けません。スナップ・ダンプが作成されます。

終了要求時に障害が発生した場合、終了要求は疑似異常終了 0056 で失敗しますが、IMS および CCTL は影響を受けません。スナップ・ダンプが作成されます。CCTL は IMS には識別されなくなるが、その FP バッファは解放されません。

プログラマーの応答: 失敗した要求のタイプを判別します。

スケジュールまたは同期点の要求が失敗した場合は、内部エラーが発生しました。

識別要求が失敗した場合、要求されたバッファ数に対応できるだけの十分な FP バッファが IMS がない可能性があります。DRA 始動テーブルの CCTLNBA を調べて、要求されたバッファ数を確認します。

終了要求が失敗した場合、内部システム・エラーまたはストレージ不足問題が発生した可能性があります。

問題判別: 1、4、38

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBFI0、DFSDASI0、DBFINTE0、DBFINTT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0069

説明: プログラム DBFIRC10 または DFSDCPY0 によって再帰的 IRC 項目が検出されたか、または高速機能 (FP) が使用できないときに、高速機能への呼び出しが DBFIRC10 によって検出されました。

分析: 0069 は、DBFIRC10、DFSCPYP00、および DFSDCPY0 から発行される標準異常終了です。PST 内の PSTREP ビットを検査して、再帰的項目を判別します。PSTREP がオンの場合、異常終了が発行されます。エラー・サブコードがレジスター 15 に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'		領域間通信 (IRC) に対する再帰的項目が発生しました。レジスター 8 に、エラーを検出した命令のアドレスが入っています。(モジュール DFSDCPY0 は、レジスター 8 を設定しません。) レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。
Reg15=X'08'		高速機能が使用不能であるのに、高速機能呼び出しが検出されました。レジスター 8 に、エラーを検出した命令のアドレスが入っています。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・インターフェース・エラー: アプリケーション・プログラムが (E)STAE ルーチンから DL/I 呼び出しを発行しました。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。その他の従属領域および IMS 制御領域は実行を継続します。

プログラマーの応答: 理由コード 4 はユーザー・エラーです。ユーザー STAE が IMS 呼び出しまたは MVS STAE

再試行を実行していないことを確認してから、呼び出しを実行します。その他の理由コードは IMS システム・エラーとして扱う必要があります。

理由コード 8 は、メッセージ DFS2768W が先行し、エラーは IMS 始動時に発生しました。元のエラーについては、コンソール・ログを検査して、IMS 始動時にメッセージ DFS2713I または DFS2718I などが発生していないかどうかを調べます。IMS が再始動されるまでは、高速機能への呼び出しを行うアプリケーションはすべてこの異常終了で終了します。

APAR 処理の場合: 従属領域の異常終了ダンプを提供します。

問題判別: 1、5、6、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10、DFSCPY00、DFSDCPY0

関連情報:

 DFS2768W (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0070

説明: システムの初期設定時または後続の実行時に、IMODULE 障害が発生しました。

分析: 0070 は、12 個のモジュール (DFSSTKMG、DBFICH10、DBFIFIX0、DFSINF0、DFSIRST0、DFSTMOD0、DFSXBAT0、DFSXCIC0、DFSXLGI0、または DFSXSTM0) のいずれかから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 SVC を発行したモジュールを示しています。

各モジュールで、Execute 命令を使用して IMS/VS SVC (SCD から) が発行されたところです。GETMAIN をサービスする IMS/VS SVC は、DFSMODU0 です。実行ライブラリー・ロード・モジュール名は IGC14xxx です。ここで xxx は、ユーザー指定の IMS/VS SVC 番号です。IMS/VS SVC (DFSMODU0) は、レジスター 15 (バイト 0 および 1) にエラー・コードを戻します。

レジスター 15 に、IMODULE 機能からの戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

レジスター 15 (バイト 0 および 1) に、DFSBCB GET 機能からの 2 番目の戻りコードが含まれることがあります。DFSBCB 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

これは、高速機能の緊急時再始動モジュール DBFNRS0T0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口での PSW (プログラム状況ワード) は、異常終了が発行された時点の命令を指しています。

HALDB 区画化を使用している場合、この異常終了は次のいずれかを示しています。

- 制御ブロック DFSPCA のストレージの割り振りに失敗した。
- 区分サポート・モジュールのロードに失敗した。このモジュールが DFSDT150 の場合、理由コード X'45' を伴うメッセージ DFS0415W がこの異常終了に先行します。DFSDT150 以外のモジュールの場合、この異常終了に先行するメッセージはありません。

DFSSTKMG の場合:

IMS スタック・マネージャーが IMODULE GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

異常終了 0070 は、スタック・マネージャー DFSSTKMG によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口点でのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) 命令の後続の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、スタック・マネージャー・ルーチンの基底レジスターです。

レジスター 15 に、IMODULE からのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=IMODULE からの戻りコード		IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

DBFICI10 の場合:

これは、IMS/VS 高速機能 ITASK 初期設定モジュール DBFICI10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 4 には GETMAIN 要求のサイズ、レジスター 2 には AWE アドレス、およびレジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg1=完了コード Reg2=AWE アドレス Reg4==要求の サイズ Reg15=DFSQCSS FUNC=STORAGE 戻り コード (AWSIRCD)	ABEND1	このルーチンは、IMS/VS/高速機能 COMMUNICATION ROUTER ITASK を初期化します。この ITASK 用の作業域 (DBFWORK2) が、DFSQCSS マクロで FUNC=STORAGE を指定して要求されています。DFSQCSS マクロから AWSIRCD にゼロ以外の戻りコードが入れられると、異常終了が発生します。

DBFIFIX0 の場合:

0070 は、IMS/VS 高速機能の固定機構モジュール DBFIFIX0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND1 を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 4 には GETMAIN 要求のサイズ、レジスター 2 には AWE アドレス、およびレジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg1=完了コード Reg2=AWE アドレス Reg4=要求の サイズ Reg15=DFSQCSS FUNC=STORAGE 戻りコード (AWSIRCD)	ABEND1	このルーチンは、デフォルトまたはユーザー提供のページ固定パラメーターに従って、高速機能制御ブロックを固定します。DFSQCSS マクロの FUNC=STORAGE で要求されたストレージが、ページ固定リスト用に使用されます。DFSQCSS マクロから AWSIRCD にゼロ以外の戻りコードが入れられると、異常終了が発生します。

DFSIN0 の場合:

0070 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール初期設定モジュール DFSIN0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールでエラーが検出された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND9D 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg15=ゼロ以外の戻りコード Reg12=GETMAIN の サブプール番号 Reg9=GETMAIN 要求のバイト数 Reg1=完了コード、 X'80000046'	IMOD	IMODULE GETMAIN (IMS/VIS SVC) が発行され、レジスタ 15 に戻りコードがロードされています。戻りコードがゼロ以外の場合、ラベル PFERR に分岐します。ラベル PFERR では、GETMAIN エラー標識 (IMODERR) をレジスタ 3 にロードし、異常終了を処理するためにラベル ABEND9D に分岐します。

DFSIRST0 の場合:

IMS IMODULE LOAD が失敗しました。

0070 は、再始動サービス ITASK モジュール DFSIRST0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。レジスタ 15 には、表にリストされているエラー戻りコードのいずれかが入ります。(このコードは、IMODULE LOAD からのものではありません。)

キー	ラベル	説明
戻りコード=1	RSTR010	XRF モジュール DFSHRCL0 の IMODULE LOAD が失敗しました。
戻りコード=2	RSTR010	XRF MSSF TCB ATTACH が失敗しました。
戻りコード=3	RSTR030	IMS 再始動モジュール DFSRST00 の IMODULE LOAD が失敗しました。
戻りコード=4	RSTR020	RSR システム・トラッカー・モジュール DFSST500 の IMODULE LOAD が失敗しました。
戻りコード=5	RSTREST	保護会話の処理に必要なモジュール DFSRRSI0 の IMODULE LOAD が失敗しました。
戻りコード=7	RST0170	ページ固定障害が発生しました。

DFSTMOD0 の場合:

0070 は、変更/終了タスク初期設定モジュール DFSTMOD0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル GMFAIL 内の命令を指しています。

レジスタ 12 は基底レジスタであり、レジスタ 11 は SCD へのポインターです。レジスタ 15 に、障害サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
サブコード 4 Reg1=X'80000046' Reg4=要求のサイズ	ITRFAIL	このルーチンは、変更/終了作業域用にサブプール 0 ストレージの取得を試みます。
サブコード 8	ITRFAIL	DFSFMOD0 の IMODULE LOAD が失敗しました。
サブコード 12	ITRFAIL	DFSFMOD0 の ITASK 作成が失敗しました。

DFSXBAT0 の場合:

ストレージ割り振り要求が失敗しました。

0070

0070 は、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBAT0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了時のレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 4 はシステム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=戻りコード Reg4=A(SCD)	ABEND	ストレージ割り振り要求の後、ゼロ以外の戻りコードが DFSXBAT0 に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコードが検出された後の後続の BAL 命令を指しています。

DFSXCIC0 の場合:

0070 は、制御タスク初期設定コントローラー DFSXCIC0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND1 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 はキーとして使用され、レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 2 には、該当する場合、GETMAIN 要求のサイズが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	ABEND1	この異常終了は、制御タスク初期設定時に以下の理由で発生します。 <ul style="list-style-type: none">• DFSSDLO0 の IMODULE LOAD が失敗した。• AWE 要求 (DL/I SAS INIT) が失敗した。• QUICKSAVE 要求が失敗した。• DPST 要求が失敗した。

DFSXSTM0 の場合:

0070 は、ストレージ管理コントローラー DFSXSTM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND1 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離する必要があります。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	XSTM0030	DFSTSAV のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0050	DFSIPB のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0210	DFSSFVT のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM040	DFSSLX のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0500	DFSTAB のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0744	RSWB のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	RESUINI1	XSL0ECBS のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0720	QS24 のための DFSBCB FUNC=GET が失敗しました
Reg14=BAL	XSTM0810	CREATE_TASKS ルーチン中の IMODULE GETMAIN または DFSBCB FUNC=GET 障害

DFSXLGI0 の場合:

0070 は、論理/物理ロガー初期設定モジュール DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND070 内の命令を指しています。

異常終了の前に、メッセージ DFS2205I が IMS/VS マスター・コンソールに送信されます。

異常終了 SVRB 内のレジスター 0 を使用して、特定のラベルを分離する必要があります。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 にはエラー戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=IMODULE からの戻りコード。 Reg14=IMODULE が発行されるアドレス。	ABEND070	このルーチンは、IMODULE による GETMAIN です。

DFSRESP0 の場合:

モジュール DFSRDB30 はロードされませんでした。前に DFSRST00 によって DFSRDB30 がロード済みでないことが検出された場合、異常終了 0070 が発行されます。IBM サポートに連絡してください。

考えられる原因: DFSRST00 にエラーがあり、DFSRDB30 のロードがバイパスされました。

システムの処置: IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: 上記で説明されているエラー・コードに応じて、適切な処置を取ります。

問題判別: 1、4、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSTKMG、DBFICI0、DBFIFIX0、DFSIIINF0、DFSIRST0、DFSTMOD0、DFSXBAT0、DFSXCIC0、DFSXLGI0、DFSXSTM0、DFSRESP0、DFSFDLC0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0071

説明: システム初期設定中または後続の実行中に、下位モジュールでエラーが発生しました。これにより、この異常終了の前にさまざまなメッセージのいずれかが発行される場合があります。この異常終了の前に DBRC 領域または制御領域から発行されたメッセージを参照してください。

アクティブ ACBLIB の DFSMDA メンバーがない場合、IMS 制御領域の初期設定はこの異常終了で終了し、メッセージ DFS0887A が出されます。

分析: 0071 は、標準異常終了です。

考えられる原因: この異常終了の一般的な原因は、/ERE COLDSYS コマンドを発行して IMS を再始動する前に OLDS ログをクローズしなかったことです。あるいは、下位モジュールが内部 IMS エラーを検出したことです。

DBFXFP00 の場合:

0071 は、DBFXFP00 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP00 は、特定の初期設定を実行するために、下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DBFXFP00 に渡された結果です。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg14=BAL Reg15=DFSBCB FUNC=STORAGE 戻りコード=DFSCDSP FUNC=CREATE 戻りコード=DFSICIR0	ABEND1	DBFXFP00 は、IMS/高速機能の初期設定制御タスクです。このモジュールは、下位モジュール用の高速保管域を取得するために DFSBCB FUNC=GET を発行します。DFSCDSP FUNC=CREATE は、この高速機能タスク用のディスパッチャー作業域を作成し、ITASK を初期設定するために DFSICIR0 を呼び出します。これらの 3 つの機能からゼロ以外の戻りコードが渡された結果として、異常終了が発生します。

DBFXFP10 の場合:

0071 は、DBFXFP10 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP10 は、特定の初期設定を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DBFXFP10 に渡された結果です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg14=BAL Reg15=DFSBCB FUNC=GET 戻りコード=DFSCBTS FUNC=FINN 戻りコード=DFSCBTS FUNC=ALTER 戻りコード=DFSCWU FUNC=CWU 戻りコード=DBFIC10 戻りコード=DBFINI20 戻りコード=DBFIFIX0	ABEND1	DBFXFP10 は、IMS/高速機能の初期設定モジュールです。このモジュールは、下位モジュール用の高速保管域を取得するために DFSBCB FUNC=GET を発行します。DFSCBTS は、FUNC=FINN (FSRB の長さを CBTE 項目に設定するために FSRB 項目を検索する)、DFSCBTS FUNC=ALTER (FSRB の長さを CBTE 項目に設定する)、DFSCWU FUNC=CWU (高速機能 EPST 用の WORK UNIT を作成する)、および DFSCWu=RWU (高速機能 EPST の WORK UNIT を解放する) を発行します。また、DBFIC10 (高速機能 ITASK を初期設定する)、DBFINI20 (高速機能制御ブロックを初期設定する)、および DBFIFIX0 (高速機能制御ブロックを固定化する) も呼び出します。DBFXFP10 で呼び出されたモジュールからゼロ以外の戻りコードが渡された結果として、異常終了が発生します。

DBFXFP20 の場合:

0071 は、DBFXFP20 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP20 は、特定の初期設定を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DBFXFP20 に渡された結果です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0001'	LOWRAB01	LOCESCD マクロは、高速機能 ESCD 制御ブロックを検出できませんでした。
Reg15=X'0002'	LOWRAB02	QSAV ブロックに対する DFSBCB GET が失敗しました。異常終了の R8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0003'	LOWRAB03	FP2 TCB のディスパッチャー・ブロックを作成するための DFSCDSP 呼び出しが失敗しました。異常終了の R8 に、DFSCDSP からの戻りコードが入っています。

DFSCSL10 の場合:

0071 は、Common Service Layer 処理モジュール DFSCSL10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0002'		DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。R2 は IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0003'		パラメーターの妥当性検査が失敗しました。異常終了の前に、エラーを説明する 1 つ以上の DFS3305E メッセージが出されます。

DFSDFDB0 の場合:

異常終了 0071 は、モジュール DFSDFDB0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1008'		IMODULE はロードに失敗しました。
Reg15=X'2008'		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの DATABASE セクションの構文解析中にエラーが検出されました。
Reg15=X200C'		システムが、DFSDFxxx データ・セットを構文解析するために、BPEPARSE 文法のコピー用のストレージ取得できませんでした。
Reg15=X'2010'		システムが BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X'2014'		システムは、UNREGCATLG リストまたは DFSDDWA 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X'3000'		BPESTART が失敗しました。
Reg15=X'3002'		BPERDPDS が失敗しました。

DFSDFN20 の場合:

0071 は、DFSDFxxx および代替 PROCLIB メンバー構文解析モジュール DFSDFN20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3004'		BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。レジスター 2 に、MVS STORAGE マクロからの戻りコードが入っています。
Reg15=X'3008'		BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。レジスター 2 に、MVS STORAGE マクロからの戻りコードが入っています。
Reg15=X'300C'		代替 PROCLIB メンバーの読み取りエラー。レジスター 2 に BPERDPDS からの戻りコードが入っています。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報を含むメッセージ BPE0002E が出されることがあります。
Reg15=X'3010'		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラー。レジスター 2 に BPEPARSE からの戻りコードが入っています。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報を含むメッセージ BPE0003E が出されることがあります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3014'		代替 PROCLIB メンバーの構文解析エラー。レジスター 2 に BPEPARSE からの戻りコードが入っています。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報を含むメッセージ BPE0003E が出されることがあります。

DFSFDLB0 の場合:

IMS 物理ロガーが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、物理ロガー DFSFDLB0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、DFSBCB または DFSBRLSC マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB Reg15=戻りコード	GETA0100	DFSBCB マクロが、非同期作業エレメント (AWE) 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSBRLSC Reg15=戻りコード	WRTE0540	DFSBRLSC マクロが、DBRC 障害の後、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。レジスター 15 のバイト 2 に X'04' 戻りコードが入り、レジスター 15 のバイト 3 に DBRC 戻りコードが設定されます。

DFSFDLD0 の場合:

IMS ログ・タイマー・タスクが、DFSBCB マクロからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSBCB マクロによって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル DLDA0100 下の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に、DFSBCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード	DLDA0100	非同期作業エレメント (AWE) が要求されたときに、DFSBCB マクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSFDLG0 の場合:

IMS 物理ロガーが、STCK または LRA 命令、あるいは IMODULE または DFSBCB 要求から、ゼロ以外の条件コードを受け取りました。

0071 は、物理ロガー DFSFDLG0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE Reg15=戻りコード (IMODULE から)	MSTROPEN MSTRREST	再始動ログ読み取りルーチンの IMODULE ロードが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg15=X'80'	CKCP0600	STCK 命令が、プログラム状況ワード (PSW) にゼロ以外の条件コードを設定しました。時刻値が正しく設定されていなかったか、時刻タイマーが作動不能でした。
Reg15=X'84'	CKCP0700	LRA 命令が、プログラム状況ワード (PSW) にゼロ以外の条件コードを設定しました。z/OS ページング機構が損傷しました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB Reg15=戻りコード	GETA0100	DFSBCB マクロが、非同期作業エレメント (AWE) 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSFDLS0 の場合:

0071 は、DBRC 出口 (例えば、OPEN、CLOSE、SWITCH、および STATUS) からエラー戻りコードを受け取ったときに、DFSFDLS0 によって発行される標準異常終了です。

障害のある DBRC 出口および戻りコードを示すために発行されたメッセージを参照してください。

DFSFLG0 の場合:

IMS 論理ロガーが、DFSBCB マクロからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSBCB マクロによって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル LOGAB071 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11、レジスター 10、およびレジスター 9 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレス、ログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレス、および DECB のアドレスが入っています。レジスター 15 に、DFSBCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード	LAWEO100	非同期作業エレメント (AWE) が要求されたときに、DFSBCB マクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=X'80'	LGET0500	STCK 命令が、プログラム状況ワード (PSW) にゼロ以外の条件コードを設定しました。時刻値が正しく設定されていなかったか、時刻タイマーが作動不能でした。

DFSHSRV0 の場合:

IMS/VS ホット・スタンバイ DASD/リンク監視モジュールが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、ホット・スタンバイ監視モジュール DFSHSRV0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSHSRV0 は、メモリー取得、メモリー解放、および ITASK 作成を実行するために下位モジュールを呼び出します。いずれかのモジュールによる障害 (ゼロ以外の戻りコードで示される) の結果、この異常終了が発生します。レジスター 14 を使用して、異常終了の原因となった指定の下位レベル・モジュールを分離します。

レジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB FUNC=GET または REL Reg15=戻りコード	SRVADSD1 SRVALNK1	DFSBCB マクロが AWE 領域の取得または解放に失敗しました。マクロは、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSCIR FUNC=ITASK Reg15=戻りコード	SRVADSD1 SRVALNK1	DFSCIR マクロが ITASK を正常に作成することができず、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSPCC30 の場合:

0071 は、DFSPCC30 によって発行される標準異常終了です。DFSPCC30 は、特定の初期設定を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSPCC30 に渡された結果です。これには、DFSDLBLO または DFSIIND0 (CICS® の場合) が含まれます。これに伴うメッセージを調べて、ゼロ以外の戻りコードの理由を確認してください。

キー	ラベル	説明
Reg3=A(PXPARMS) Reg1=CCCCUUUU CCCC=完了コード UUUU=ユーザー異常終了タイプ Reg15=戻りコード		PDIR または DDIR の初期設定の失敗、DL/I 制御ロックの作成の失敗、あるいはその両方。

DFSRCFS0 の場合:

RACF (RCF TCB) AWE プロセッサ・モジュールが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSRCFS0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された位置の後続の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。

キー	ラベル	説明
IMODULE Reg15=戻りコード		IMODULE GETMAIN が失敗し、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSRDB30 の場合:

0071 は、DMB および PSB のロード中に ACBLIB 問題が検出された場合に、DFSRDB30 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=4		PSB および DMB ディレクトリーを初期設定するために、DFSRDB30 が呼び出されます。システムは、障害の原因を説明するメッセージ DFS822I、DFS824I、DFS825I、または DFS831I を発行します。

DFSRESP0 の場合:

0071 は、DFSRESP0 によって発行される標準異常終了です。DFSRESP0 は、特定の機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSRESP0 に渡された結果です。異常終了への入口の PSW は、異常終了を発行する、ラベル ABND071 を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。

レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=DFSBCB 戻り コード	M015I1	DFSBCB マクロが、残余リカバリー・エレメント (RRE) 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=BAL Reg15=DFSBCB 戻り コード	M10151	DFSBCB マクロが RRE 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=BAL Reg15=DFSBCB 戻り コード	SIDXBLD	DFSBCB マクロが、サブシステム索引入力 (SIDX) 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。

DFSBCB FUNC=GET からの戻りコード (10 進数) が、レジスター 15 にあります。DFSBCB 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=DFSCBTS 戻り コード	M015I91	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX の RRE のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=DFSCBTS 戻り コード	M101515	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX の RRE のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=BAL Reg15=DFSCBTS 戻り コード	SIDXBLD0	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX の SIDX のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSCBT マクロの戻りコード (10 進数) がレジスター 15 にあり、これについて以下のリストに示します。

コード

説明

- 4 チェーンの終わり (SCAN)
- 8 ブロックが見つからなかった。
- 12 機能コードが無効
- 16 エレメント・タイプが設定されていなかった。
- 20 エレメント・アドレスが設定されていなかった。
- 24 デキューするエレメントがチェーン上になかった。
- 28 制御ブロック・テーブル (CBT) 項目が見つからなかった。
- 32 無効ページ番号/バッファ・オフセット

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	SCAN5	IMODULE GETMAIN マクロがストレージの取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

DFSRST00 の場合:

0071 は、DFSRST00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSRST00 は、拡張リカバリー機能 (XRF) アクティブ・システム内の共用キュー・サブシステムへの登録および接続を試みましたが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了への入りの PSW は、異常終了 SVC を指しています。

キー	ラベル	説明
R3=戻りコード R12=DFSRST00 基底 Reg14=呼び出し戻り アドレス	RESTA019	共用キュー・システムへの登録および接続のための呼び出しが失敗しました。

DFSRLP00 の場合:

0071 は、DFSRLP00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSRLP00 は、XRF アクティブ・システム内の共用キュー・サブシステムへの登録および接続を試みましたが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了への入りの PSW は、異常終了 SVC を指しています。

キー	ラベル	説明
R3=戻りコード R12=DFSRLP00 基底 Reg14=呼び出し戻り アドレス	RESTA019	共用キュー・システムへの登録および接続のための呼び出しが失敗しました。

DFSSQ012 の場合:

0071 は、共用キュー・パラメーター処理モジュール DFSSQ012 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0001'		DFSSQM ブロック用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0002'		モジュール DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0003'		パラメーターの妥当性検査が失敗しました。この異常終了の前に、エラーについて説明している 1 つ以上の DFS0779E メッセージが出されます。
Reg15=X'0004'		IB ブロックの IMODULE GETSTOR が失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。

DFSXBAT0 の場合:

下位初期設定要求が失敗しました。

0071 は、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBAT0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了時のレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 4 はシステム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(SCD) Reg14=BAL Reg15=戻りコード	ABEND	初期設定要求の後、ゼロ以外の戻りコードが DFSXBAT0 に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコードが検出された後の後続の BAL 命令を指しています。
Reg14=BAL Reg15=0000000C	ABEND	R14 は、ラベル USESSM の後の BAL を指しています。R15 は、PROCLIB 内のサブシステム・メンバー (SSM) が 2 つ以上の外部サブシステムを指定していることを示しています。DL/I または DBB バッチ・ジョブでは、1 つだけの外部サブシステムが許可されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=xxxxyyyy	XLIC0135	DFSFTIN0 が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示された理由コードを示し、その後には下位サービスからの戻りコードが続きます。 コード 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗した。yyyy は IMODULE 戻りコード。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy は DFSLOADL 戻りコード。

DFS3DF10 の代わりとなる DFSXBAT0 の場合:

0071 は、モジュール DFSXBAT0 がモジュール DFS3DF10 に代わって発行できる標準異常終了です。DFS3DF10 の異常終了は IMS カタログの初期設定に関連するものです。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1003'		パラメーターの妥当性検査が失敗しました。この理由コードを伴う異常終了は通常、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に ALIAS パラメーターが欠落していることが原因で発生します。
Reg15=X'1004'		GETMAIN が失敗しました。
Reg15=X'1008'		IMODULE はロードに失敗しました。
Reg15=X'3000'		BPESTART が失敗しました。
Reg15=X'3002'		BPERDPDS が失敗しました。
Reg15=X'3004'		DFSDFxxx メンバーを構文解析する BPEPARSE 文法のコピーの保管用ストレージを取得できません。
Reg15=X'3008'		BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。
Reg15=X'3010'		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラー。

DFSXCIC0 の場合:

0071 は、制御タスク初期設定コントローラー DFSXCIC0 によって発行される標準異常終了です。DFSXCIC0 は、制御タスク初期設定機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。これらのモジュールのいずれかによる障害 (レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードで示される) の結果、異常終了 0071 が発生します。以下の表に示すように、異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=X'04' または X'0C'	CALLIIND	PSB および DMB ディレクトリーを初期設定するために、DFSIIIND0 が呼び出されます。レジスター 15 の中の戻りコードが X'04' の場合、システムは障害の原因を示すメッセージ DFS822I、DFS823I、DFS824I、DFS825I、または DFS831I のいずれかを出します。戻りコードが X'0C' の場合、DFSIIIND0 は、常駐 DMB のロードを準備中に内部論理エラーを検出しました。
Reg15=戻りコード	NODLIS1	VSAM および OSAM バッファ・プールの初期設定し、メッセージ・キュー・バッファ・プールのページの固定化を行うために、DFSXIOB0 が呼び出されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	NODLIS1	通信機能を初期化するために、DFSINB0 が呼び出されます。
Reg14=BAL	NOCANCVT	ユーザーの指示どおりにストレージを固定化するために、DFSIFIX0 が呼び出されます。
Reg15=戻りコード	XCIC5100	API コンポーネントを PC ルーター・サービスに接続するために、DFSPCR00 が呼び出されました。
Reg14=BAL Reg15= 戻りコード (IMODULE から)	NODLIS4	モジュール DFSCST00 の IMODULE LOAD の失敗。
Reg14=BAL Reg15=理由コード	SKCSL340	共用キューの登録および接続を実行するために、DFSSQ020 が呼び出されました。障害の原因を示すために、この異常終了コードと共に、メッセージ DFS1936E、またはメッセージ DFS4455E と DFS3308E が出されます。理由コードは、次のとおりです。 X'0101' CQSREG 要求が失敗しました。 X'0102' CQSCONN 要求が失敗しました。 X'0103' CQSCONN 要求がメッセージ・キュー (MSGQ) 構造エラーにより失敗しました。 X'0104' CQSCONN 要求が、急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) 構造エラーにより失敗しました。 X'0105' CQSCONN 要求が、MSGQ および EMHQ 構造エラーにより失敗しました。 X'0106' MSGQ 構造属性 WAITRBLD が誤っています。 X'0107' EMHQ 構造属性 WAITRBLD が誤っています。 X'0108' IMODULE GETSTOR 要求が失敗しました。 X'0109' MSGQ または EMHQ 構造の CQSUNLCK FORCE が失敗しました。

DFSXCTL0 の場合:

0071 は、DFSXCTL0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード	ABEND2	下位サービスがゼロ以外の戻りコードを戻しました。レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXCTL0 内の位置を指しています。

DFSCTX0 の場合:

0071 は、モジュール DFSCTX0 によって発行される標準異常終了です。

DFSCTX0 は、特定の初期設定を実行するために下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSCTX0 に渡された結果として起こります。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された場所の命令を指しています。レジスター 15 (SVRB 内) に、異常終了サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02'		DFSCDSP が、制御補助 TCB 用の IMS ディスパッチャー作業域の作成に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCDSP 戻りコードが入っています。

DFSXDCC0 の場合:

0071 は、DFSXDCC0 によって発行される標準異常終了です。DFSXDCC0 は、特定の初期設定タスクを実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSXDCC0 に渡された結果です。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルまで切り分けます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=xxxxyyyy	XDC8725	DFSFTIN0 が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示された理由コードを示し、その後下位サービスからの戻りコードが続きます。 コード 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗した。yyyy は IMODULE 戻りコード。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy は DFSLOADL 戻りコード。

| DFSXDGS0 の場合:

| /DIAGNOSE コマンド DGS TCB 初期化ルーチン DFSXDGS0 が、初期化中に呼び出されたいずれかの下位モジュールから、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

| 0071 は、DFSXDGS0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了が発行されると、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了命令 (SVC 13) を指します。異常終了レジスターでは、レジスター 12 はモジュールのデータ域を指し、レジスター 13 は作業域を指し、レジスター 15 に異常終了理由コードが入り、レジスター 8 に下位モジュールからの戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0001'		ABENDU0071: サブコード 01 QSAV についての DFSBCB GET が失敗しました。 レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0002'		ABENDU0071: サブコード 02 DGS DWA の DFSCDSP が失敗しました。 レジスター 8 に、DFSCDSP からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0003'		ABENDU0071: サブコード 03 IMODULE DGS80 ロードが失敗しました。 レジスター 8 に、IMODULE からの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0004'		ABENDU0071: サブコード 04 DFSCWU ITASK 作成が失敗しました。 レジスター 8 に、DFSCWU からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0005'		ABENDU0071: サブコード 05 DGS の IPOST POST が失敗しました。 レジスター 8 に、IPOST からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0006'		ABENDU0071: サブコード 06 AWE に関する DFSBCB GET が失敗しました。 レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0007'		ABENDU0071: サブコード 07 DGSAQ INIT エンキューが失敗しました。 レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。

DFSXDLG0 の場合:

IMS システム・ログ初期設定モジュールが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、ログ初期設定モジュール DFSXDLG0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された位置の後の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB FUNC=GET Reg15=戻りコード	DFSXDLG0	DFSBCB マクロが QSAV 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE Reg15=戻りコード	DFSXDLG0	モジュール DFSXDLG0 の IMODULE LOAD が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSCDSP FUNC=CREATE Reg15=戻りコード	DISP0100	DFSCDSP がディスパッチャー作業域の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。

0071

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DFSCIR FUNC=ITASK	ENQ90236 DLOG0300	DFSCIR が ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg15=戻りコード	DLOG0400 MLOG0200	

DFSXDYA0 の場合:

IMS 動的割り振り初期設定ルーチンが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSXDYA0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、失敗したサービスからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻りコード	XDYA010	DFSBCB GET 機能が失敗しました。R15 に DFSBCB 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻りコード	XDYA030 XDYA040	IMODULE GETMAIN 機能が失敗しました。R15 に IMODULE 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻りコード	XDYA120 XDYA125 XDYA140 XDYA145	DFSCDSP CREATE 機能が失敗しました。R15 に DFSCDSP 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻りコード	XDYA130 XDYA135 XDYA150	DFSCWU の作業単位作成が失敗しました。R15 に DFSCWU 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻りコード	NTGETMN	NAME TOKEN SERVICES CREATE 要求 (IEANTCR) が失敗しました。R15 に IEANTCR 戻りコードが入っています。

DFSXLGI0 の場合:

IMS システム・ログ初期設定モジュールが下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取ったか、または LRA 命令が失敗しました。

0071 は、ログ初期設定モジュール DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH または DFSQCSS マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) IMSAUTH Reg15=戻りコード Reg10=A(LCD)	ILCD1300	LCD の IMSAUTH FUNC=PGFIX が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSQCSS Reg15=戻りコード	LOGB0320 XLG0260	バッチ・ロガーの IMODULE LOAD が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元)	XLG0080	IMS PROCLIB の DFSVSMxx メンバー内に、OLDSDEF または WADSDEF 制御ステートメントが欠落しています。異常終了の前に、メッセージ DFS2205I が出されました。

DFSXLIC0 の場合:

0071 は、DFSXLIC0 によって発行される標準異常終了です。DFSXLIC0 は、特定の初期設定タスクを実行するために下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSXLIC0 に渡された結果です。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルまで切り分けます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入っています。タスク異常出口指定 (STAE) 作業域を確立できない場合、考えられる STAE 戻りコードは、次のとおりです。

コード

説明

X'00'

作業域が作成された

X'04'

要求が取り消された

X'08'

作業域がオーバーレイされた

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL		永続プールの作成およびフォーマットのために、DFSIIINS0 を呼び出します。
Reg14=BAL Reg15=xxxxyyyy	XLIC0135	DFSFTIN0 が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示された理由コードを示し、その後下位サービスからの戻りコードが続きます。 コード 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗した。yyyy は IMODULE 戻りコード。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy は DFSLOADL 戻りコード。
Reg14=BAL	LIC3	ITASK 初期設定の終了/変更を実行するために、DFSTMOD0 が呼び出されます。
Reg15=ゼロ		高速機能 DBFIFLI0 は、DFSXLIC0 のバインディングに含まれていませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=IDM1 Reg15=IDM2 Reg15=IDM3 Reg15=IDM4 Reg15=IDM5 Reg15=IDM6		DFSIIIDM0 は、以下の原因のいずれかを戻します。 <ul style="list-style-type: none"> • DFSPOOL AOIP の割り振りが失敗した。 • 制御ブロック用の AOIP ストレージ要求が失敗した。 • DFSAOE00 の標準ユーザー出口定義が失敗した。 • DFSAOE00 作業域用の AOIP ストレージ要求が失敗した。 • DFSAOE00 インターフェース・ブロックの AOIP ストレージ要求 が失敗した。 • DFSAOSC0 (ICMD セキュリティー・モジュール) のロードが失 敗した。
Reg14=BAL		ブロックのオンライン変更を処理するために、DFSIIOC0 が呼び出さ れます。

DFSXRCF0 の場合:

IMS システム初期設定モジュールが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、システム初期設定モジュール DFSXRCF0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、ABEND (SVC13) が発行された位置の後続の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。これらのサブコードについては、メッセージ DFS2930I を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB から のゼロ以外の戻りコードが入っています。
Reg15=X'02'		DFSCDSP が、RACF (RCF) TCB 用の IMS ディスパッチャー作業域の作成 に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCDSP からのゼロ以外の戻りコード が入っています。
Reg15=X'06'		DFSRCFS0 作業ブロック用の IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジ スター 8 に、ゼロ以外の IMODULE 戻りコードが入っています。
Reg15=X'07'		DFSCIR が ITASK の作成に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR から のゼロ以外の戻りコードが入っています。

DFSXSL10 の場合:

DFSXSL10 が、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSXSL10 によって発行される標準異常終了です。DFSXSL10 は、タスク初期設定機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。これらのモジュールのいずれかによる障害 (レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードで示される) の結果、0071 が出されます。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルまで切り分けます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された場所の命令を指しています。障害が検出された場所のアドレスが、レジスター 14 に入っています。レジスター 15 (SVRB 内) に、異常終了サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14= A(呼び出し元) DFSBCB Reg15=1		DFSBCB マクロが QSAV 領域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14= A(呼び出し元) DFSCDSP Reg15=2		DFSCDSP がディスパッチャー作業域の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14= A(呼び出し元) DFSCIR Reg15=3		DFSCIR が DFSOCM0 の ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14= A(呼び出し元) DFSCIR Reg15=5		DFSCIR が DFSSINP0 の ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。

DFSXSTM0 の場合:

0071 は、特定の初期設定機能を実行するために下位モジュールを呼び出す DFSXSTM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

DFSXSTM0 が共用キュー初期設定の失敗を検出した場合、この異常終了の前にシステム・コンソールにメッセージ DFS2930I と DFS1936E が出されます。メッセージが障害の理由を示しています。メッセージ DFS2930I 内の理由コードとエラー・コードは、ダンプでも提供されます。レジスター 15 に、共用キュー初期設定障害を示す理由コード X'16' が入り、レジスター 3 に、失敗した機能を示すエラー・コードが入っています。これらのコードについては、メッセージ DFS2930I を参照してください。

DFSCSL00 が Common Service Layer (CSL) の初期設定中にエラーを検出した場合、モジュール DFSXSTM0 は、メッセージ DFS2930I、理由コード X'18' を出し、0071 が発生します。

以下の理由コードは、DFSCSL00 によって検出されたエラーの結果として出されます。

コード
説明

1004

GETMAIN からの RC

1008

IMODULE ロードからの RC

100C

DFSLOADL からの RC

1010

DFSBCB からの RC

1014

ATTACH からの RC

0071

1018

DFSBCB からの RC

101C

DFSSQPP からの RC

以下の理由コードは、DFSCSL10 によって検出されたエラーの結果として出されます。

コード

説明

2004

DFSCGxxx PROCLIB メンバーの問題が検出されました。詳しくは、メッセージ DFS3305E を参照してください。

200C

OLC=GLOBAL が指定されましたが、OLCST が指定されていませんでした。

DFSXWTR0 の場合:

異常終了 0071 は、モジュール DFSXWTR0 によって発行される標準異常終了です。

DFSXWTR0 は、特定の初期設定を実行するために、下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、いずれかの下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが DFSXWTR0 に渡された結果として起こります。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された場所の命令を指しています。異常終了時のレジスター 15 には、異常終了サブコードが入っています。異常終了時のレジスター 8 には、失敗したサービスからの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
R15=X'01'	LOWRAB01	QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
R15=X'02'	LOWRAB02	DFSCDSP が、WTR TCB 用の IMS ディスパッチャー作業域の作成に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCDSP 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、4、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFXFP00、DBFXFP10、DFSCSL10、DFSDFN20、DFSFDLB0、DFSFDLD0、DFSFDLG0、DFSFDLS0、DFSFLG0、DFSHSRV0、DFSPCC30、DFSRDFS0、DFSRDB30、DFSRESP0、DFSSQ012、DFSXBAT0、DFSXCIC0、DFSXCTL0、DFSXCTX0、DFSXDLG0、DFSXLGI0、DFSXLIC0、DFSXRFC0、DFSXSL10、DFSXSTM0、DFSXWTR0、DFSDFDB0、DFSXDGS0、DBFXFP20

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS0887A (メッセージおよびコード)

 DFS2930I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0072

説明: ログ・データ・セットに対して発行された DEVTYPE または TRKCALC マクロによって、ゼロ以外の戻りコードが発行されました。データ・セット (DD 名) は、IMS バッチの場合は IEFRDER または IEFRDER2、IMS オンラインの場合は DFSOLP n 、DFSOLS n 、または DFSWADS n であった可能性があります。

分析: 0072 は、DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、DEVTYPE または TRKCALC マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DEVTYPE Reg15=戻りコード	ABEND072	DEVTYPE マクロが、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) TRKCALC Reg15=戻りコード	WADS0200	TRKCALC マクロが、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットを定義する有効な DD ステートメントがあるかどうかを確認します。オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および先行書き込みデータ・セット (WADS) に対して DASD 装置が指定されているかどうかを確認します。同じ DASD 装置タイプがすべての WADS に対して指定されているかどうかを確認します。

問題判別: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLGI0

0073

説明: オンライン初期設定時または再始動時に、十分な数の有効なログ・データ・セットが存在しませんでした。IMS オンラインでは、少なくとも 3 個のオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および 1 個の先行書き出しログ・データ・セット (WADS) が必要です。OLDS ブロック・サイズが、ログ・レコード X'3A' を処理するために十分な大きさではありません。

DBRC がアクティブでない場合、必須の IEFRDER DD ステートメントが欠落しています。

DBRC がアクティブな場合、IEFRDER DD ステートメントが欠落しているか、あるいは DD DUMMY または DSN=NULLFILE (ヌル・データ・セット) が指定されました。レジスター 15 に理由コードが入っています。

あるいは、DFSVM xx PROCLIB メンバー内の OLDSDEF ステートメントの BLKSZ= パラメーターで指定された OLDS ブロック・サイズが無効です。

分析: DFSFDLS0 の場合:

IMS に与えられたログ・データ・セットの数が不十分です。

0073 は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動中に、物理ロガー DFSFDLS0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。IMS リカバリー・リソースを保護するために、この異常終了はメモリー・ダンプを生成しません。

- I OLDS ブロック・サイズの大きさが不十分です。最小ブロック・サイズは、以下の項目のサイズの合計です。

表 5. OLDS の最小ブロック・サイズの計算

項目	項目の値の取得場所	現行値
ブロック記述子ワード	定数	4 バイト
X'4800' レコード	DFSPALOG 部分の PARECLEN	58 バイト
X'3A' レコード	QLFXFREE 部分の L3ABASE、DFSLOGRC 部分のレコ ード接尾部の長さ、およびラージ・メ ッセージ・キュー・レコード・サイズ を加算した値	32 バイトに、ラージ・メッセージ・ キュー・レコード・サイズを加算した 値

この再始動の前に、オンライン・データ・セット (OLDS) でいくつかの入出力エラーが発生した可能性があり、必要な新規またはエラー・フリーの OLDS の数が不足していました (2 個より少ない)。

DFSXLGI0 の場合:

IMS に与えられたログ・データ・セットの数が不十分でした。

0073 は、ログ初期設定モジュール DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS2205I がシステム・コンソールに送信されません。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に理由コードが入っています。

DD ステートメントと、事前割り振りオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) の VTOC を確認してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'	ABEND073	DFSWADSx という名前の WADS DD ステートメントがありませんでした。
Reg15=X'08'	ABEND073	オンライン・システムの場合、3 個未満の OLDS DD ステートメントが指定されました。バッチ・システムの場合、必要な IEFORDER DD ステートメントが欠落していました。
Reg15=X'0C'	ABEND073	OLDS ブロック・サイズが小さ過ぎるか、2048 の倍数ではありませんでした。
Reg15=X'10'	ABEND073	DFSVMxx PROCLIB メンバーの OLDSDEF ステートメントの BLKSZ= パラメーターが無効です。2048 の倍数で、かつ 6144 から 30,720 までの値を指定する必要があります。

DFSXLIC0 の場合:

DD DUMMY パラメーターまたは DSN=NULLFILE が指定されましたが、DB/DC 環境、IRLM を使用するバッチ環境、および処理意図が更新の場合は DBRC を使用するバッチ環境のいずれでもシステム・ログに対してサポートされません。

0073 は、ラベル ABEND4 でモジュール DFSXLGI0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスター 10 の BAL を使用して、該当するラベルを判別する必要があります。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL	GETJFCB	このルーチンは、IEFRDER が DD DUMMY として指定されていないことを確認します。DEVTYPE マクロは、DDNAME と出力域 (DEVAREA) をパラメーターとして提供します。この出力域は 5 ワードの長さで、装置特性を IMS に提供するためにオペレーティング・システムによって使用されます。SVC 24 の完了後にこの出力域に移動されたデータがあるかどうかを判別するための検査が行われます。この検査は「And Characters」命令 (NC) によって行われます。この命令は、それ自身にゼロを追加します。結果がゼロの場合 (データが提供されなかったことを示します)、異常終了が発生します。
Reg6=JFCB Reg10=BAL	(ラベルの直前の) GETJF1	このルーチンは、DSNAME が NULLFILE ではないことを確認します。定数 NULLFILE と JFCBDSNM フィールドの間で比較が行われます。比較の結果が等しい場合、異常終了が発生します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なログ・データ・セットに対して、十分な数の有効な DD ステートメントを使用してジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLS0、DFSXLGI0、DFSXLIC0

0074

説明: RDJFCB マクロでゼロ以外の戻りコードがシステム・ログまたはモニター・ログに対して発行されました。

分析: 0074 は、DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(DCB) 戻りコード	Reg15=戻り ABEND074	この DCB の RDJFCB マクロが失敗しました。DDNAME は DCBDDNAM フィールドにあります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLGI0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0075

説明: IMS ログの初期設定で、無効なログ装置特性が検出されました。磁気テープ装置の場合、IMS バッチ・システム・ログは標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルがなければなりません。IMS OLDS は直接アクセス装置上になければなりません。複式ペアの 1 次 OLDS と 2 次 OLDS は、共に同じ装置タイプ上になければなりません。先行書き出しログ・データ・セットはすべて、同じ直接アクセス装置タイプ上になければなりません。

分析: 0075 は、システム・ログ初期設定モジュール DFSXLGI0 によって発行される可能性がある標準異常終了で

0076

す。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=A(DD 名)	TIOT0200	DFSWAD5x という DD 名を持つ WADS データ・セットが DASD 装置上にないか、あるいは複数の WADS が存在する場合は、装置タイプが異なっています。
Reg3=A(DD 名)	TIOT0300 TIOT1100	DFSOLPnn/DFSOLSnn という DD 名を持つ OLDS データ・セットが、DASD 装置タイプ上にありません。
Reg4=A(JFCB) Reg5=A(DCB)	MAKELOGB	バッチ 1 次ログ (IEFRDER) が磁気テープ上にありますが、これには標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルが付いていません。
Reg4=A(JFCB) Reg5=A(DCB)	LOGB0340	バッチ 2 次ログ (IEFRDER2) が磁気テープ上にありますが、これには標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルが付いていません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ログ・データ・セット用の DD ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLGIO

0076

説明: この異常終了は、カップリング・ファシリティ・サービスに対して、以下のいずれかの初期設定処理によって発行されます。

- 制御アドレス・スペース初期設定
- DL/I 従属アドレス・スペース初期設定

レジスター 3 に異常終了理由コードが入っています。レジスター 15 に、エラーを検出したシステム・サービス (例えば、IMODULE) からの戻りコードが入っています。

分析: DFSTRA00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg3=X'01'	ABEND76	キー 7 CFB 用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。

DFSXCFB0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg3=X'02' Reg3=X'03'	ABEND76	DFSDCFR0 の IMODULE LOAD が失敗しました。DFSDXES0 の IMODULE LOAD が失敗しました。DFSDEFN0 の IMODULE LOAD が失敗しました。DFSDMAW0 の IMODULE LOAD が失敗しました。CFR AWE のための IMODULE GETMAIN が失敗しました。ENFREQ LISTEN 要求が失敗しました。
Reg3=X'04' Reg3=X'05'	ABEND76	
Reg3=X'06' Reg3=X'07'	ABEND76	
	ABEND76	
	ABEND76	

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別してください。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSTRA00、DFSXCFB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0077

説明: 初期設定中に DELETE 障害が発生しました。

分析: 0077 は、ストレージ管理タスク初期設定コントローラー (DFSXSTM0) およびバッチ TCB ITASK 作成モジュール (DFSXBAT0) によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSBCB マクロの呼び出しの結果が、ゼロ以外の戻りコードでした。

DFSXBAT0 の場合:

これは、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBAT0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了時のレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 4 はシステム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(SCD) Reg14=BAL Reg15=戻りコード	ABEND	IMODULE DELETE 要求の後、ゼロ以外の戻りコードが DFSXBAT0 に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコードが検出された後の後続の BAL 命令を指しています。

DFSXSTM0 の場合:

0077 は、ストレージ管理タスク初期設定コントローラー DFSXSTM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離し、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND にあるルーチン内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABEND8 にあるルーチンによって無条件分岐され、ラベル ABEND8 のルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 1 に、異常終了完了コード X'8000004D' が入っています。レジスター 15 に、DPSBCB リリース・マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=DPSBCB からの戻りコード	ABEND	非同期作業エレメント (AWE) を解放するためのルーチン内で、レジスター 15 の戻りコードがテストされ、これがゼロ以外の場合、異常終了を処理するためにラベル ABEND8 に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXBAT0、DFSXSTM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0078

説明:

この異常終了は、制御領域の初期設定中に制御ブロック・モジュール (ロード・モジュール DFSBLK00、PI 制御ブロック・モジュール DFSFXC00、または OTMA 制御ブロック・モジュールの DFSYINI0 と DFSYIMI0) をロードできなかった場合に発生します。モジュール名の最後の文字は IMS システムの接尾部であり、始動プロシージャの SUF パラメーターによって決定されます。

この異常終了の前にメッセージ DFS1921I が 1 つ以上表示される場合、DFSPBxxx メンバーの構文を検査してください。

分析: 0078 は、制御ブロック・モジュール・ローダー DFSXDBI0 によって発行される標準異常終了です。モジュール DFSYINI0、DFSBLK0x、または DFSFXC00 に対して IMODULE LOAD が発行されています。ここで x は、IMS 始動プロシージャの SUF パラメーターによって決められる中核接尾部です。OTMA TSCD、MTE、および MCB 制御ブロックを確立するために、DFSYIMI0 および DFSYINI0 用に IMODULE GETMAIN が発行されます。Open Transaction Manager Access (OTMA) 制御ブロック用のストレージを取得できない場合、異常終了が発生する可能性があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の場所を分離することができます。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、障害の原因を示す IMODULE LOAD 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

この異常終了の前に 1 つ以上の MSGDFS1921I が出現する場合は、IMS システム定義情報内の PROCLIB メンバーの指定に関する説明に従って、DFSPBXXX メンバーの構文を確認してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=0	ABEND078	IMODULE LOAD SVC が発行されており、レジスター 15 に IMODULE LOAD 戻りコードがロードされます。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが入ると、ルーチンは異常終了します。
Reg9=IMODULE LOAD サブコード		サブコード=4 DFSBLKx サブコード=8 DFSFXCx サブコード=12 DFSYINI0 または DFSYIMI0 サブコード=X'C' DFSBLKx または DFSFXCx 以外のモジュールのロード障害。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXDBI0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0079

説明: この異常終了は、制御領域の初期設定中に IMS 中核のロード・モジュール DFSVNUCs または DFSCNUCs (s はIMS システムの接尾部) をロードすることができなかった場合に発生します。レジスター 15 に、IMODULE

LOAD からの戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析: 0079 は、中核のロードおよびアドレス解決用のモジュール DFSXNCL0 によって発行される標準異常終了です。モジュール名 DFSVNUCs または DFSCNUCs に対して発行された IMODULE LOAD が失敗しました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の発行元であるラベル ABEND079 に分離することができます。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。この問題の解決に関連のある他の SVRB レジスタを以下に示します。レジスター 15 に、障害の原因を示す IMODULE 戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg3=RGPARMS アドレス Reg4=IPB アドレス Reg8=モジュール名のアドレス (DFSVNUCs または DFSCNUCs の IMODULE LOAD が失敗した場合)。 Reg11=SCD アドレス Reg15=0	ABEND079	IMODULE LOAD SVC が発行されており、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが入っている場合、ルーチンは異常終了します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXNCL0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0080

説明: オーバーフロー順次アクセス方式 (OSAM) OPEN/CLOSE/EOV 処理の実行中にエラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSAOSF0 および DFSAOS10 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるルーチン内の命令を指しています。このルーチンへの分岐は、エラー状態が検出された時点で DFSAOSF0 内のさまざまな場所から行われます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 2 の第 4 バイトに障害コードが入り、レジスター 2 の第 2 バイトに、失敗した処理に対応する値が入っています。

レジスター 2、第 2 バイト

失敗した処理

X'10'

入力処理。

X'50'

終了処理

レジスター 8 に、専用域アドレスが入っています。

レジスター 6 は、専用域を指しています。この領域のオフセット X'68' に、TIOT 項目のアドレスがあります。この項目には DD 名が入っています。

0081

以下にリストされた処理タイプでは、異常終了 SVRB レジスターのレジスター 2 に、障害コードが入っています。レジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された場所のアドレスが入っています。

入力処理 (ラベル ENTABxx)

コード

説明

X'01'

非互換のオペレーティング・システム

X'02'

無効なパラメーター・リストが渡されました。

X'03'

無効な機能コードが検出されました。

X'04'

ベクトル内のゼロの SCD アドレス。

終了処理 (ラベル OTRMABxx)

コード

説明

X'01'

CSA DEB のための IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'02'

CSA DEB のページの固定化が失敗しました。

X'03'

最終 DEB のページの固定化が失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターへの応答: IMS を再始動し、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。

問題判別: 2、3、4

モジュールと作業域の両方を表示するメモリー・ダンプを取得します。必要ならば、メモリー・ダンプ・パラメーターを変更するか、または SYSABEND ステートメントを使用して、上記の情報を取得します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAOSF0、DFSAOS10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0081

説明: IMS IMSAUTH SVC BLDSSCT 機能が、サブシステム制御テーブル (SSCT) を作成できなかったか、終了制御ブロックに SCD アドレスを作成または設定できませんでした。レジスター 14 に、異常終了を呼び出したプログラムのアドレスが入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードが入っています。IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

分析: 0081 は、ストレージ管理初期設定コントローラー-DFSXSTM0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND のルーチン内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABEND9 にあるルーチンによって無条件分岐され、ラベル ABEND9 のルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000051' が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH マクロからの戻りコードが入っています

す。IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード Reg14= SCD のアドレス		グローバル制御ブロックを取得するためのルーチンで、ラベル IMSSCT で作成された SSCT に SCD アドレスを設定するために IMSAUTH マクロが発行されています。レジスター 15 に戻りコードがロードされた後、戻りコードがテストされます。戻りコードがゼロ以外の場合、異常終了を処理するためにラベル ABEND9 に分岐します。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了します。

プログラマーの応答: 呼び出し元が許可されていない場合、JOB または STEP ライブラリーに許可を与え、DFSPCC30 を再入可能 (RENT) 属性でバインドしてください。

問題判別: 1、4、8、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXSTM0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0083

説明: この異常終了は、メッセージ DFS1920I に ABEND が追加される場合に発生します。実行パラメーターが誤った値に設定されました。この種のエラーは、次の IMS 制御領域実行パラメーターの場合にはリカバリー不能です。

- TRN
- SGN
- RCF
- ISIS

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: パラメーターおよびエラーを訂正してから、IMS を再実行します。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS1920I (メッセージおよびコード)

0084

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラムが未定義のデータ・セットにアクセスしようとしてしました。

ソース: IMS 異常終了

0085

説明: オンラインで読み取られたメッセージ・フォーマット・データ・セット (DD 名は FORMATA または FORMATB) のディレクトリー・ブロックが、IMS の初期設定時に読み取られたディレクトリー・ブロックと矛盾しています。

分析: 0085 は、事前取り出しましたまたは即時取り出しによりブロックをストレージに入れるモジュール DFSFDSC0 によ

って発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。ここには、異常終了時のモジュール DFSFDSC0 のエン트리・ポイント・アドレスが入っています。DFSFDSC0 内のラベル SRCHDICT にあるサブルーチンが、要求されたブロックのディスク・アドレス (TTR) を戻します。常駐ディレクトリーがないため (レジスター 8 がゼロ)、区分データ・セット (PDS) 索引を使用してメンバー名を見つけます。レジスター 5 に、PDS 索引内のメンバーへのポインターが入り、レジスター 10 に、フェッチ要求エレメント (FRE) dssect へのポインターが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=PDS 索引内のメンバーへのポインター Reg9=ディレクトリー入出力域終了のアドレス	DPDSCOMP	レジスター 5 とレジスター 9 が比較されます。レジスター 5 のアドレスがレジスター 9 のアドレスより先を指している場合、おそらく PDS が損傷しています。2 つのレジスター内のアドレスが等しい場合は、メンバー名を検出せずにブロックの終わりに達したことを意味しており、おそらく、メンバー名はストレージ内にある索引が作成された以降に削除されたものと考えられます。いずれの場合も、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IMS がアクティブの間にメッセージ・フォーマット・データ・セットが更新され、ストレージ内にある索引に対してそれに対応する更新が行われていません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

プログラマーの応答: メッセージ形式データ・セットが、IMS がアクティブな間に更新されていないことを確認します。また、形式ライブラリーを処理装置間で共用するかどうかを決定します。アクティブ・フォーマット・ライブラリーが PDS ファイルであることを確認します。PDS-E は、IMS のメッセージ・フォーマット・データ・セットについてはサポートされていません。

問題判別: 8、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDSC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0088

説明: ローカル・ストレージ・オプション (LSO) の初期設定が失敗しました。

分析: 0088 は、すべての異常条件に対して、モジュール DFSKLSO0 および DFSXLSM0 によって発行されます。

レジスター 15 に、以下の理由コードが入っています。

重要: LSO の異常終了を伝搬するために、DFSKETXR で異常終了 4095 が発行されます。

DFSXLSM0 の場合:

コード
説明

X'01'

DFSBCB 高速保管域取得マクロが失敗しました。

X'02'

LSO 作業域用の DFSBCB GET コマンドが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'03'

LSO 制御モジュール DFSKLSO0 の DFSQSS ロードが失敗しました。(レジスター 3 = DFSQSS 戻りコード)

X'04'

ITASK CREATE 用の DFSCIR マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCIR 戻りコード)

X'15'

モジュール DFS5DL60 に関する IMODULE ロードが失敗しました。(レジスター 3 = IMODULE ロード戻りコード)

X'16'

DFS5DL60 ITASK CREATE 用の DFSCWU マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCWU 戻りコード)

DFSKLSO0 の場合:

コード

説明

X'05'

LSO にエンキューされた非同期作業エレメント (AWE) が無効な機能を持っています。レジスター 3 は無効な機能を示し、レジスター 9 は AWE のアドレスを示しています。

X'06'

サインオン時に、DFSBCB 高速保管域の取得に失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'07'

サインオン時に、LSO ブロック用の DFSBCB GET コマンドが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'08'

サインオフ時に、PST の LSO が指定されませんでした。(レジスター 3 = PST を指定する)

X'09'

従属がサインオフしていないため、システムが終了しました。(レジスター 2 = 制御ワードの内容、レジスター 3 = 最初のアクティブ LSO ブロック・アドレス)

X'0A'

無効な LSO 制御作業更新が発生したため、システムが終了しました。(レジスター 2 = 制御ワードの内容)

DFSXLSD0 の場合:

コード

説明

X'11'

DFSBCB 高速保管域取得マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'12'

ITASK CREATE 用の DFSCIR マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCIR 戻りコード)

X'13'

DFSFLSD0 の ESTAE 作成が失敗しました。(レジスター 3 = ESTAE サービス戻りコード)

DFSKLSD0 の場合:

コード

説明

X'14'

DFSBCB 高速保管域取得マクロが失敗しました (レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: おそらく、IMS 内部エラーです。システム・プログラマーに連絡してください。

0090

問題判別: 1、2、3、4、8、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLSD0、DFSKLSO0、DFSXLSD0、DFSKLSD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0090

説明: IMS 内部通知が失敗しました。フォーマット・ブロック待ちであった通信回線ブロック (CLB) に通知できませんでした (IPOST からゼロ以外の戻りコード)。

レジスター 8 に CLB アドレスが入っています。レジスター 10 に、FRE (FRE+0 にフォーマット・ブロック名がある) のアドレスが入っています。

分析: 異常終了 SVRB レジスターのレジスター 8 に、CLB アドレスが入っています。レジスター 10 に、FRE+0 にフォーマット・ブロック名がある取り出し要求エレメント (FRE) のアドレスが入っています。

DFSFFET0 の場合:

0090 は、フォーマット・ブロック即時取り出しモジュール DFSFFET0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IPOSTM1 内の命令を指しています。ロードを待っている要求に対する IPOST が失敗したため、異常終了が発行されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 8 に、通知される予定のイベント制御ブロック (ECB) のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'8000005A' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=ECB のアドレス (CLB)	IPOSTM1 (\$IPC0006)	レジスター 8 に指定された ECB を該当のイベント・テーブルに通知するために、IPOST マクロが発行されています。レジスター 15 に IPOST からの戻りコードがロードされ、テストされます。レジスター 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。
Reg15=IPOST からのゼロ以外の戻りコード		

DFSFPRF0 の場合:

0090 は、事前取り出しによりブロックをストレージに入れるモジュール DFSFPRF0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IPOSTM1 内の命令を指しています。IPOST マクロからの戻りコードがゼロでない場合、異常終了が発行されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 8 に、通知される ECB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'8000005A' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=ECB のアドレス (CLB)	IPOSTM1 (\$IPC0017)	レジスター 8 に指定された ECB を該当のイベント・テーブルに通知するために、IPOST マクロが発行されています。レジスター 15 に IPOST からの戻りコードがロードされ、テストされます。レジスター 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。
Reg15=IPOST からのゼロ以外の戻りコード		

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFFET0、DFSFFPRF0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0092

説明: IMS 制御領域の専用域または拡張専用域にあるストレージへの IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

分析: 専用ストレージ域または拡張専用ストレージ域は、ノードのリストを入力シーケンス番号と共に保守しており、これは緊急時再始動時に更新する必要があります。緊急時再始動時に、シーケンス番号の設定およびテスト (STSN) ノードが、タイプ 28 ログ・レコードから取得されます。

レジスター 1 に IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 8 に、IMS 制御領域のサブプール 0 に要求されたストレージの量が入っています。レジスター 15 に、IMODULE GETMAIN 要求からの戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMODULE GETMAIN 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。ストレージ割り振りエラーの場合は、専用エリアまたは拡張専用エリアに割り振るサイズを増やしてから、IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCRQP0、DFSRLP00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

0095

説明: ログオン、ユーザー、および MSC の各記述子の初期設定中にエラーが発生しました。このエラーはリカバリー不能です。

分析: 障害の理由については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS3658X を参照してください。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS3658X の「応答」を参照してください。

問題判別: メッセージ DFS3658 の「問題判別」を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIILD0

関連情報:

 DFS3658X (メッセージおよびコード)

0097

説明: VSAM ローカル・リソース・プールを削除するために DFSPCC30 によって発行された VSAM DLVRP マクロ要求が失敗しました。

分析: VSAM 戻りコードはレジスター 15 に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=エラーを検出した DFSPCC30 内の 場所のアドレス Reg15=戻りコード	ABEND97	VSAM が DLVRP 要求を満たしませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: VSAM 戻りコードはレジスター 15 に入っています。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC30

関連資料:

 z/OS: DLVRP 戻りコード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0098

説明: IMS は、ユーザー編集ルーチン・アドレス・テーブル内でユーザー編集ルーチン名を見つけられなかった場合に、この異常終了を発行します。

分析: チェックポイント・レコードの作成中に、システムは、「ユーザー編集ルーチン名およびアドレス」テーブル内でユーザー編集ルーチン名を見つけられませんでした。記述子は無視され、メッセージ DFS368OW が戻されました。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 端末記述子が、再始動前に有効であったユーザー編集ルーチンと同じルーチンを記述しているかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCP30

関連情報:

 DFS368OW (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0100

説明: タイプ X'47'ログ・レコードを作成しようとしたときに、IMS 制御領域が異常終了しました。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード 意味

X'01' BMP の変更されたデータベース・リストが、作成するログ・レコードの容量を超えるため、タイプ X'47'ログ・レコードは作成できません。

X'02' タイプ X'47'ログ・レコードを作成するストレージを獲得するための IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

分析:

R15=X'01'

BMP または IMS バッチ領域に、IMS ログ・レコードに収まらない破損したデータベース・リストがある場合、この異常終了によりオーバーレイを防止します。

R15=X'02'

タイプ X'47'ログ・レコードを作成するためのストレージを獲得しようとしたときに、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 10 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了コード 0100 で異常終了します。

オペレーターの応答: 問題を修正した後で、/ERESTART コマンドを使用して IMS を再始動します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCP10

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

第 7 章 IMS 異常終了コード 0101 - 0150

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0101

説明: Java™ 従属領域の処理中にエラーが発生しました。

この異常終了は、Java 以外の従属領域、例えば MPP、BMP、IFP 領域でも発生することがあります。

分析: 従属領域のジョブ出力で、この異常終了のすべてのインスタンスについて文字ストリング DFSJVM00: で検索を行い、障害の原因を調べてください。

DFSRCJB0 の場合:

このコードは、DFSRCJB0 によって発行される標準異常終了を示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3'		必要な ENVIRON=member が指定されていません。
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6' Reg3=BPX1SDD 戻りコード Reg4=BPX1SDD 理由コード		BPX1SDD が失敗しました。

DFSPCJB0 の場合:

0101 は、DFSPCJB0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。
Reg15=X'2' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		Java 仮想マシン (JVM) を作成できません。
Reg15=X'3' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		JVM はアプリケーションを開始することができません (CEEPIPI エラー)。
Reg15=X'4'		JVM はアプリケーションを開始することができません。
Reg15=X'B' Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

DFSPCJM0 の場合:

0101

0101 は、DFSPCJM0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。
Reg15=X'2' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		JVM を作成できません。
Reg15=X'3' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		JVM はアプリケーションを開始することができません (CEEPIPI エラー)。
Reg15=X'4'		JVM はアプリケーションを開始することができません。
Reg15=X'B' Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

DFSRCJM0 の場合:

0101 は、DFSRCJM0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3'		必要な ENVIRON=member が指定されていません。
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6' Reg3=BPX1SDD 戻りコード Reg4=BPX1SDD 理由コード		BPX1SDD が失敗しました。

DFSRRRC10、DFSRRRC40 の場合:

0101 は、DFSRRRC10 または DFSRRRC40 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6' Reg3=BPX1SDD 戻りコード Reg4=BPX1SDD 理由コード		BPX1SDD が失敗しました。

DFSPCC20 の場合:

0101 は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時に、レジスター 7 とレジスター 8 全体にフィールド RCPGM (プログラム名) の値が含まれます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'2' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		JVM を作成できません。
Reg15=X'3' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		CEEPIPI がアプリケーションを開始できませんでした。
Reg15=X'5' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		項目を追加できません (CEEPIPI エラー)。 Reg3=X'0C' の場合、この異常終了の前にメッセージ DFS650E が発行されます。
Reg15=X'7' Reg3=IMODULE GETMAIN 戻りコード		LE @LOAD テーブル用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X'8' Reg3=IMODULE GETMAIN 戻りコード		LE PIPI テーブル用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X'9' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE @LOAD テーブル修正ルーチン (PC20LETS) を呼び出すことができません。
Reg15=X'A'		アプリケーションが IMS に戻った後に、未処理 Java 例外が存在しました。IMS はその例外をキャプチャーし、ジョブ出力に表示します。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。
Reg15=X'B' Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。
Reg15=X'C' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		CEEPIPI が APPTERMEXIT の add_entry 機能を実行できませんでした。考えられる原因は、APPTERMEXIT= オプションで指定されたユーザー出口が存在しないか、ユーザー出口名のつづりが誤っていたことです。
Reg15=X'D' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		CEEPIPI が APPTERMEXIT= オプションで指定されたユーザー出口を呼び出すことができませんでした。

DBFFPPR0、DFSTMPR0 の場合:

0101 は、DBFFPPR0 または DFSTMPR0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'A'		アプリケーションが IMS に戻った後に、未処理 Java 例外が存在しました。IMS はその例外をキャプチャーし、ジョブ出力に表示します。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

CEEPIPI エラーについては、「z/OS Language Environment® プログラミング・ガイド」を参照してください。

システムの処置: 異常終了が DFSPCJM0 で理由コード 3 または 4 で発生した場合を除き、従属領域は異常終了しません。

プログラマーの応答: この異常終了の場合はすべて、従属領域のジョブ出力を文字ストリング DFSJVM00: で検索して、障害の原因を調べます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCJB0、DFSRCJM0、DFSPCJB0、DFSPCJM0、DFSRCJM0、DBFFPPR0、DFSTMPR0

関連資料:

 z/OS: アプリケーションの呼び出し (CEEPIPI)

0102

説明: 拡張再始動のための位置付けを実行中にエラーが検出されました。

0102 は標準異常終了です。プログラム再始動ハンドラーは、OLDS または IMSLOGR データ・セットからシンボリック・チェックポイント・レコードを見つけようとしているときに、この異常終了を発行する場合があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS1000I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスカバラーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー・ディスカバラーによって設定されたエラー理由コードが入っています。このエラー理由コードは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

追加情報については、メッセージ DFS1000I を参照してください。

分析: オンライン・バッチ処理時に、IMS は、内部 IMS テーブル内の残余リカバリー・エレメント (RRE) にある BMP または JBP アプリケーションの最後の完全なチェックポイントから OLDS の位置を判別します。RRE 項目は、BMP または JBP アプリケーションを、ジョブ名、PSB 名、およびプログラム名によって識別します。BMP または JBP アプリケーションの再始動時に IMS がこのテーブル・エントリーを見つけるためには、BMP または JBP アプリケーションがプログラム異常終了時に持っていたのと同じジョブ名、PSB 名、およびプログラム名を持っている必要があります。

テーブル・エントリーを検出した後、BMP または JBP 領域の JCL で IMSLOGR という DD 名を持つデータ・セットが割り振られている場合、アプリケーション再始動処理は、IMSLOGR DD 名を持つデータ・セットからのみチェックポイント・レコードへのアクセスを試みます。そうではなく、最後のチェックポイントが記録されて以降に OLDS が上書きされていない場合、IMS は OLDS から最後のチェックポイント・レコードを見つけようとします。

バッチ環境では、チェックポイント・レコードは IMSLOGR という DD 名を持つデータ・セットからアクセスされません。

DFSZSR00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D90002	E2D90002	内部拡張再始動 (XRST) 呼び出しからモジュール DFSDLA00 に、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。DFSCPY00 に PSEUDO ABEND が設定されます。この問題は IMS 内部エラーです。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D90003	E2D90003	内部 XRST 呼び出しからモジュール DFSDLA00 に、非ブランクの状況コードが戻されました。PSB 内の実際のセグメント (またはセグメントのパス) が、XRST パラメーター I/O area gen で指し示された領域にコーディングされている長さ (バイナリー) より長くなっていました。
Reg2=E2D90004	E2D90004	XRST 呼び出し処理の開始パラメーターとして LAST が指定されましたが、処理を完了できません。モジュール DFSDLA00 によって、レジスター 3 にエラー理由コードが戻されました。
Reg3=C4D3A001		初めてのエラー
Reg3=C4D3A002		この BMP の RRE が見つかりませんでした。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コールド・スタートは実行されました。 2. 同じジョブ名、プログラム名、および PSB 名を持つ BMP が実行され、正常に完了しました。 3. 障害が起きた BMP のチェックポイントが取られませんでした。 4. 拡張再始動時に指定された PSB 名、プログラム名、およびジョブ名が、元の異常終了が発生した BMP の PSB 名、プログラム名、およびジョブ名と一致しませんでした。
Reg3=C4D3A003		OLDS の ILOG [®] 読み取りから、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg3=C4D3A004		ログ読み取り出口ルーチン LOGREXIT からエラーが戻されました。
Reg2=E2D90005 Reg9=//IMSLOGR DCB アドレス	E2D90005	IMSLOGR データ・セットに対する OPEN マクロの発行後に、DCBOFLGS がデータ・セットがオープンされていないことを示しました。誤ったデータ・セットがマウントされたか、//IMSLOGR DD ステートメントが欠落しています。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E2D90006	E2D90006	バッチ環境で、再始動の開始パラメーターとして無効な LAST が指定されました。 正しいパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。
Reg2=E2D90007 Reg9=//IMSLOGR	E2D90007	リカバリー不能エラーが検出されたため、IMSLOGR データ・セットに対して SYNAD 出口ルーチン (ラベル IOERROR) が取られました。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E2D90008	E2D90008	IMSLOGR データ・セットの READ によって戻されたレコードが、可変ブロック化の BSAM 規則に従ってフォーマット設定されていませんでした。//IMSLOGR DD ステートメントで参照されているデータ・セットは、おそらく有効な IMS ログではありません。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D90009 Reg5=a (チェックポイント ID) Reg9=//IMSLOGR DCB アドレス	E2D90009	<p>XRST 呼び出しで渡されたチェックポイント ID のタイプ X'18' ログ・レコードが見つからずに、//IMSLOGR データ・セットのデータの終わり (EOD) に達しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不適切なチェックポイント ID が指定されました。 誤ったまたは不十分な数のボリューム通し番号が指定されました。 Execute ステートメントのプログラム名が、タイプ X'18' ログ・レコード内のプログラム名と一致していません。 不適切なジョブ名が使用されました。再始動されたジョブ名は、元のジョブ名と一致しなければなりません。 <p>正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。</p>
Reg2=E2D9000A	E2D9000A	<p>SVC インターフェースに対して無効な呼び出しが行われました。この問題は IMS 内部エラーです。</p>
Reg2=E2D9000B	E2D9000B	<p>最後に取られたものではないチェックポイント ID から再始動を試みています。PSB 内に全機能データベース PCB があります。再始動は、最後に取られたチェックポイントから開始する必要があります。</p> <p>正しいパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。</p>
Reg2=E2D9000C	E2D9000C	<p>OLDS で検出されたものではないチェックポイント ID から再始動を試みています。</p> <p>必要なチェックポイント・レコードが入っているデータ・セットを参照する IMSLOGR DD ステートメントを指定して、ジョブを再実行してください。</p>

DFSZSR10 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D91001 Reg7=a(DBPCB) Reg8=a(X'18' ログ・レコード内のバケット)	E2D91001	<p>プログラムを再始動中の PSB の PCB が、プログラムのチェックポイントを取られた時点の PSB の PCB と同じ順序でないか、同じ DBD または論理端末を指定していません。PCB 内の DBD 名が、X'18' ログ・レコード内のデータ・セット DBD 名と比較されます。これらが等しくなければなりません。</p> <p>ユーザー・ブロック GEN が行われました。前の GEN を使用して再実行してください。</p>
Reg2=E2D91002	E2D91002	<p>汎用順次アクセス方式 (GSAM) 非 DASD データ・セットの位置変更中に、データの終わり (EOD) に達しました。DD 名を指定したメッセージ DFS0780I が出されます。</p> <p>GSAM データ・セットが、チェックポイントを取られた時点のものと同じではありません。</p>
Reg2=E2D91003 Reg6=X'18' ログ・レコードからの チェックポイントを取られた領域の長さ Reg9=XRST 呼び出しで渡された長さのアドレス	E2D91003	<p>XRST 呼び出しで、領域リストが誤って指定されました。リストの長さが全領域のアドレスと長さを含めるには不十分であるか、あるいは、ユーザー提供の領域がチェックポイントを取られたデータと同じ長さではありません。</p>

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D91004 Reg15=DFSCPY00 からの 疑似異常終了コード	E2D91004	DFSCPY00 がレジスタ 15 に疑似異常終了コードを戻しました。
Reg2=E2D91005	E2D91005	内部 XRST 呼び出しからモジュール DFSDLA00 への非ブランクの状況コード。
Reg2=E2D91006 Reg3=C4D3A003 Reg3=C4D3A004	E2D91006	OLDS からのチェックポイント・レコードの読み取りエラー。モジュール DFSDLA00 によって、レジスタ 3 にエラー理由コードが戻されました。 OLDS の ILOG 読み取りから、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。 ログ読み取り出口ルーチン LOGREXIT からエラーが戻されました。
Reg2=E2D91007 Reg9=//IMSLOGR DCB アドレス	E2D91007	リカバリー不能エラーが検出されたため、IMSLOGR データ・セットに対して SYNAD 出口ルーチン (ラベル IOERROR) が取られました。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E2D91008	E2D91008	IMSLOGR データ・セットの READ によって戻されたレコードが、可変ブロック化の BSAM 規則に従ってフォーマット設定されていませんでした。//IMSLOGR DD ステートメントで参照されているデータ・セットは、おそらく有効な IMS ログではありません。
Reg2=E2D91009 Reg5=a (チェックポイント ID) Reg9=//IMSLOGR DCB アドレス	E2D91009	XRST 呼び出しで渡されたチェックポイント ID のタイプ X'18' ログ・レコードが見つからずに、//IMSLOGR データ・セットのデータの終わり (EOD) に達しました。 <ul style="list-style-type: none"> 不適切なチェックポイント ID が指定されました。 誤ったまたは不十分な数のボリューム通し番号が指定されました。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E2D9100A Reg15=戻りコード	E2D9100A	領域間通信 (IRC) への内部 PC 呼び出しでのゼロ以外の戻りコード。
Reg2=E2D100B	E2D9100B	GSAM データベースを配置するための無効な呼び出し。
Reg2=E2D9100C	E2D9100C	再始動時のいずれかのデータベース PCB 内の PCB 名フィールドが、チェックポイント・レコード内の PCB 名と一致していません。名前は有効であるが一致しない場合は、チェックポイントと再始動の間に PSBGEN が PSB 内の PCB を追加または削除した可能性があります。いずれかの名前が無効のときは、多くの場合、アプリケーションが原因での PCB のオーバーレイの結果であるか、PSB メンバーがストレージ内の前の PCB に変更されています。名前フィールドを調べて、考えられる手掛かりを見つけてください。

DFSZDC00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg2=C4C30001	C4C30001	<p>XRST 処理時に、GSAM が、位置変更しようとしている出力データ・セットが空であることを判別しました。XRST ジョブを正常に再実行依頼するには、以下を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異常終了するジョブによって停止された PSB に対して、/STA コマンドを発行します。 2. GSAM 出力データ・セットの DD ステートメントを訂正して、XRST を要求して異常終了が発生した時点に使用中であったのと同じデータ・セットを指すようにします。 3. XRST ジョブを再実行依頼してください。 <p>注: この問題の最も一般的な原因は、おそらく世代別データ・グループ (GDG) データ・セットの使用に関連しています。最初のジョブが失敗した後、XRST ジョブが実行依頼されます。しかし、ユーザーが GSAM 出力データ・セットの世代番号を (+1) から (0) に変更しませんでした。その結果、XRST の位置変更は、データ・セットの現行 (異常終了時に 0) のコピーではなく、新しい (+1) データ・セット上で実行されます。</p> <p>重要: 誤った再始動データ・セットを指定して XRST ジョブが実行された場合、XRST は正常に完了しますが、有効なデータが上書きされます。</p>

システムの処置: プログラムは異常終了します。

オペレーターの応答: エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZSR00、DFSZSR10、DFSZDC00

関連情報:

 DFS1000I (メッセージおよびコード)

0103

説明: CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指し示されるユーザー域のいずれかの長さフィールドが、ゼロまたは負です。

これは、拡張チェックポイント・モジュールが、OLDS または IMSLOGR データ・セットにシンボリック・チェックポイント・レコードの書き込みを試みているときに発行する可能性がある標準異常終了です。この異常終了の前に、メッセージ DFS1000I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスカバラーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー・ディスカバラーによって設定されたエラー理由コードが入っています。このエラー理由コードは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

分析: 拡張チェックポイント・モジュールは、データベース位置付けデータ (RRA または SSA) を含むシンボリック・チェックポイント・レコードを書き込みます。レコードには、CHKP 呼び出しのユーザー位置決めパラメーターで指定された領域も含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2C30001	E2C30001	CHKP 呼び出しを発行しようとしたが、アプリケーションは其中で主記憶データベース (MSDB) 領域を定義しています。これはサポートされません。
Reg2=E2C30002	E2C30002	許可される最大レコード・サイズを超えるチェックポイント LOG レコードを書き込もうとしました。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2C30003	E2C30003	BMP 領域からの内部 ILOG 呼び出しが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。
Reg2=E2C30004	E2C30004	内部 ILOG 呼び出しから、非ブランクの状況コードが戻されました。レジスター 3 に状況コードが入っています。
Reg2=E2C30005 Reg9=パラメーター・ リスト内の長さのアドレス	E2C30005	CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指し示されるユーザー領域のいずれかの長さフィールドが、ゼロまたは負です。レジスター 5 に値が入っています。
Reg2=E2C30006	E2C30006	USERLOG ルーチン内の MOVE LONG (MVCL) 命令が、破壊的なオーバーレイを検出しました。CHKP 呼び出しで指定されたユーザー領域の長さが長すぎます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指定したユーザー領域の長さフィールドを検査します。無効なフィールドが見つかった場合、それを変更してジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZSC00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0106

説明: 従属領域の初期設定時に、IMODULE LOAD 要求に対応してゼロ以外の戻りコードが発行されました。環境コントローラー (DFSECP10 または DFSECP20) に対する IMODULE LOAD がゼロ以外の戻りコードで失敗しました。これは、モジュール DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に戻りコードが入っています。IMODULE LOAD 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析: これは、ロードに失敗した結果としてモジュール DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に IMODULE LOAD Prolog 内の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000006A'	PCAB106	IMODULE エラー。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、IMS を再始動してください。

問題判別: 4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0107

説明: リソース・アクセス・セキュリティー初期設定で問題が検出されました。次のいずれかの問題が発生しました。

- セキュリティー・モジュールの 1 つが、完全にロードに失敗しました。
- RACF が使用されている場合 (z/OS のみ)、RACF が誤ったレベルであるか、システムにインストールされていません。

レジスター 15 にある 16 進数エラー・サブコードが、初期設定に失敗した理由を示しています。

分析: これは、モジュール DFSXLIC0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかのコードが入ります。

コード

説明

X'01'

モジュール DFSSCHR0 の IMODULE LOAD が失敗しました。

X'02'

予約済み。

X'03'

モジュール DFSRAS00 の IMODULE LOAD が失敗しました。

X'04'

| リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) を IMS に定義する試みが失敗しました。

X'05'

| リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) の初期設定呼び出し用のストレージを取得する試みが失敗しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、IMS を再始動してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLIC0

0108

説明: LU 6.2 シャットダウン中に、タイマー要求障害が発生しました。LU 6.2 シャットダウンは完了せず、続行することができません。DFSTIMER が正常でない戻りコードを戻しました。

分析: 0108 は、通常 IMS シャットダウン時に LU 6.2 メッセージが失われるのを防ぐために DFSASLT1 によって発行されるユーザー異常終了です。

システムの処置: シャットダウンは異常終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、5、6、8、10、27、34、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASLT1

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0109

説明: モジュール **DBFSLM62** および **DFSTMS00** の場合 :

IMS は、APPC 同期トランザクションまたは OTMA 送信後コミット (CM1) トランザクションに対する応答の送信に失敗しました。

あるいは、LU 6.2 装置または OTMA クライアントが、XCF 通信を使用して CONFIRM (SL1) の同期レベルを指定した送信後コミット (CM1) トランザクションの出力メッセージに対して否定応答 (NACK) を戻しました。

異常終了理由コードが発行されている場合、DFS554A または DFS555I メッセージにはその理由コードが含まれます。

以下の表に理由コードを示します。

表 6. DBFSLM62、DFSTMS00 に考えられる理由コード

コード	意味
X'01'	XCF 通信が使用されている場合は、同期レベルが NONE または CONFIRM (SL0 または SL1) の送信後コミット (CM1) トランザクションの出力メッセージの送信に対して、NACK を受け取ります。

モジュール **DBFGHU10** および **DFSDLA30** の場合:

XCF 通信が使用されていて、次のいずれかの条件が検出された場合は、GU 処理では、同期レベルが NONE または CONFIRM (SL0 または SL1) の APPC または OTMA 送信後コミット (CM1) トランザクションは廃棄されます。

- フロントエンド IMS システムが終了した。
- トランザクション・メッセージのタイム・スタンプが FE IMS システム・リスタートのタイム・スタンプより前のものである。

異常終了理由コードが発行されている場合、DFS554A または DFS555I メッセージにはその理由コードが含まれます。

以下の表に理由コードを示します。

表 7. DBFGHU10、DFSDLA30 に考えられる理由コード

コード	意味
X'02'	XCF 通信が使用されている場合、同期レベルが NONE または CONFIRM (SL0 または SL1) の送信後コミット (CM1) トランザクションは廃棄されます。

分析: 0109 異常終了は、トランザクションのこのインスタンスを終了させました。

システムの処置: この異常終了が従属領域の処理中に発生した場合、従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 否定応答の原因を判別してください。

問題判別: 1、5、6、8、10、27、34、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFGHU10、DBFSLM62、DFSDLA30、DFSTMS00

関連情報:

-  DFS554A (メッセージおよびコード)
-  DFS555I (メッセージおよびコード)
-  IMS 問題判別 (メッセージおよびコード)

0110

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに接続するために INIT 呼び出しを発行しました。接続ルーチンは、DBCTL モジュールをロードするために IMS 制御領域に要求を送ったが、ロード要求は失敗しました。

システムの処置: IMS は、接続処理を終了させ、メッセージ DFS697I を発行します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS697I を参照してください。

問題判別: 6、8、10、38

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS697I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0111

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに接続するために INIT 呼び出しを発行しました。DBCTL は、この CCTL 用にサブシステム状況索引項目 (SIDX) を作成してから、これを SIDX チェーンにエンキューしようとしたが、エンキュー要求が失敗しました。

分析: 0111 は、モジュール DFSDASIO に設定される疑似異常終了です。

SNAP または SDUMP データ・セットからのサブシステム・オプション・ブロック (SSOB) のフィールド SSPSCODE 内の戻りコードを確認してください。戻りコードには、以下の意味があります。

コード

説明

X'14'

エンキュー用の SIDX エレメントがありません。

その他

内部エラー

システムの処置: IMS は、接続処理を終了させます。

システム・プログラマーの応答: IMS 制御領域をメモリー・ダンプ付きで停止してから、緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、6、11、15、35、38

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDASIO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0112

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドの終了 (ページ) を要求しました。

システムの処置: IMS は、このスレッドおよびスレッド TCB をページします。

ソース: IMS 異常終了

0113

説明: DL/I または DC が従属領域で呼び出しを処理中に、IMS 異常終了が検出されました。この異常終了を起こした領域の診断域には、プログラム状況ワード (PSW)、汎用レジスター、および入り口に異常終了への目印が付いている IMS 関連ブロックのコピーが含まれています。

注: オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が選択されている場合、従属領域の異常終了処理中にメモリー・ダンプが作成され、従属領域の異常終了コードが示されます。続いて、制御領域は異常終了 0113 で終了しますが、SDUMP が失敗しないかぎり、追加のメモリー・ダンプは作成されません。従属領域 SDUMP を分析する方法は、他の IMS SDUMP を分析する方法と同じです。

1 MVS IEFUTL タイムアウト出口ルーチンを実装して、CPU または待ち時間の制限を超過することによって生じる異常終了をキャプチャーし、オーバーライドすることができます。DFSUTL は、IMS で提供されるサンプル出口ソースです。BMP を取り消す必要がある場合、影響が最小限になる時間まで待つことができます。

分析: DFSASK00 と DFSFUNL0 の場合:

DL/I または DC がメッセージ領域で呼び出しを処理中に、メッセージ領域またはバッチ・メッセージ領域で異常終了が発生しました。

これは、主にモジュール DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。IRC/ISI サービス呼び出し (高速機能、外部サブシステム、および通常の DL/I または DC データベース) からの他のモジュールも、この異常終了を発行します。

また、IMS ラッチ管理 (DFSFUNL0) も、この異常終了を発行します。モジュール DFSFUNL0 は、3 つの CSECTS、つまり DFSFUNL0 (ラッチ取得)、DFSFLAT0、および DFSFLRC0 (ラッチ・リカバリー) から構成されます。ラッチ・リカバリーが実際にこの異常終了を発行します。CSECT DFSFLRC0 は異常終了 0113 を発行します。

この異常終了を起こした領域の区画仕様テーブル (PST) 診断域には、プログラム状況ワード (PSW)、汎用レジスター、および異常終了への入り口の PST のコピーが含まれています。

DFSASK00 内のサービス要求ブロック (SRB) ルーチン ASKSRBE は、制御を取得した後、ただし、異常終了 0113 を発行する IRB を確立する前に、DFSABSAV のアドレスをフィールド SRBEP に保管します。

診断作業域は、以下の方法で見つけます。

1. 制御領域のマザー・タスク・ロード・リストまたは CDE を見つけて、モジュール DFSBLKXX を検出します。
DFSBLKXX = SCD アドレス
2. SCD (SCDU113) でシステム診断作業域を見つけてます。
 - SCDU113 フィールドは、U113 SRB を指しています。診断域のアドレスは、SRB + X'14' にあります。
 - ジョブ・ステップ TCB の下で、CDE チェーンを見つけてます。モジュール DFSABSAV を検出します。これが、システム診断作業域です。
 - フィールド SRBEP にも DFSABSAV のアドレスが入っています。
3. 異常終了 0113 のフォーマット済みセクションまたは非 IMS 定様式メモリー・ダンプで、IMS の処理中に異常終了したメッセージ領域のシステム診断作業域を見つけてます。以下の 3 つの領域は、システム診断作業域のフォーマットの概要を示しています。
 - SDWA
 - PST
 - SAP
4. 関連のメッセージ領域ダンプ (ABENDU0002) を見つけて、標準診断手順に従います。

重要: オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が選択されている場合、従属領域の異常終了処理中にメモリー・ダンプが取られ、従属領域の異常終了コードが示されます。その後、制御領域は 0113 で終了しますが、オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が成功しない限り、追加のメモリー・ダンプは取られません。従属領域 SDUMP を分析する方法は、他の IMS SDUMP を分析する方法と同じです。

DFSSDA20 の場合:

0114

IMS タスク終了 (EOT) 出口ルーチンが、DL/I または DC 呼び出しでアクティブな従属領域を発見しました。DFSABSAV には、異常終了 0113 診断情報は入っていません。代わりに、異常終了時のレジスター 4 に、元の異常終了の PST のアドレスが入ります。

異常終了時のレジスター 4 で指し示された PST を見つけます。制御領域メモリー・ダンプ内の PST の PSTNJOB フィールドから、ジョブ名を入手します。ジョブ名を使用して、元の異常終了が発生した従属領域を見つめます。ダンプには、PSW レジスター、元の異常終了の完了コード、および 0002 の RTM2WA が含まれています。

元の異常終了の完了コードで示された適切な処置を取ってください。

LPS フラグとディスパッチャー仮想記憶間フラグの両方がオンの場合、IMS ディスパッチャー仮想記憶間フラグ (SAPS3CXM) の追加テストも、この異常終了を発行します。

DBFATRM0 の場合:

高速機能が、終了中の従属領域の「in Fast Path」条件を検出しました。DFSABSAV には、異常終了 0113 診断情報は入っていません。代わりに、異常終了時に、レジスター 4 に元の異常終了の PST のアドレスが入ります。

異常終了時のレジスター 4 で指し示された PST を見つけます。制御領域メモリー・ダンプ内の PST の PSTNJOB フィールドから、ジョブ名を入手します。ジョブ名を使用して、元の異常終了が発生した従属領域を見つめます。ダンプには、PSW レジスター、元の異常終了の完了コード、および 0002 の RTM2WA が含まれています。

元の異常終了の完了コードで示された適切な処置を取ってください。

LPS フラグとディスパッチャー仮想記憶間フラグの両方がオンの場合、IMS ディスパッチャー仮想記憶間フラグ (SAPS3CXM) の追加テストも、この異常終了を発行します。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して制御領域を稼働させます。

問題判別: 1、4、6、14、35

異常終了が MVS CANCEL、SMF JOB STEP TIMING、/STOP REGION CANCEL、またはその他のユーザー始動による異常終了の結果である場合は、APAR を提出しないでください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00、DFSSDA20、DBFATRM0、DFSFUNL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0114

説明: IMODULE GETMAIN 要求が DFSSCHR 作業域の取得に失敗しました。

分析: 0114 は、モジュール DFSSCHR0 によって発行される標準異常終了です。DFSSCHR 作業域を取得しようとしているときに、IMODULE GETMAIN 障害が発生しました。レジスター 15 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: 従属領域は終了します。

プログラマーの応答: 領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSCHR0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

0119

説明: LU 6.2 同期会話で LU 6.2 セッション障害が発生したか、または OTMA SEND-THEN-COMMIT トランザクションで SEND 障害が発生しました。この異常終了は、以下の場合に発生します。

- LU 6.2 同期会話で LU 6.2 セッション障害が発生した。非同期で出力メッセージを送信するのではなくトランザクションを終了するために、ユーザー宛先出口ルーチンが選択されたか、またはユーザー宛先出口ルーチンが提供されませんでした。
- OTMA SEND-THEN-COMMIT トランザクションで SEND 障害が発生した。こうなる可能性があるのは、次のときです。
 - 応答が送信されるべき TPIPE が停止している。
 - OTMA が停止している。
 - OTMA クライアントがシステム間カップリング・ファシリティー (XCF) グループから抜けた。

0119 コードは、トランザクションのこのインスタンスを終了するために使用されました。プログラムおよびトランザクションは停止されません。

システムの処置: LU 6.2 セッション障害でこの異常終了が発生した場合、シャットダウンは正常に継続します。OTMA エラーの場合、IMS への着信 SEND-THEN-COMMIT メッセージ、およびクライアントへの REPLY メッセージは共に失われます。

プログラマーの応答: セッション障害または SEND 障害の原因を判別します。

問題判別: 1、5、6、8、10、27、34、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSTMS00

関連情報:

 DFS555I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0120

説明: IMS 中核をロード中にモジュール DFSXNCL0 によりエラーが検出されました。エラーは次のいずれかです。

- DFSXNCL0 は IMS 中核をロードする際に、その中核内に格納されている IMS 製品番号について妥当性検査を実行します。この中核製品番号は、DFSXNCL0 に格納されている製品番号と一致する必要があります。この検査は、IMS 中核が、実行中の IMS と同じ IMS リリース・マクロを使用して作成されたことを確認するためのものです。中核製品番号が一致しない場合、DFSXNCL0 は異常終了 0120 を発行します。異常終了時のレジスター 15 は、この場合はゼロになります。実行する IMS リリースの IMS マクロ・ライブラリーで IMS システム定義が確実に行われるようにする必要があります。
- IMS 高速機能がインストールされている場合、DFSXNCL0 は SCD 拡張に対してアドレス解決を実行します。SCD 拡張が見つからない場合 (LOCESCD サービスが失敗した場合)、DFSXNCL0 は異常終了 0120 を発行します。異常終了のレジスター 15 はゼロ以外になり、モジュール DFSXNCL0 内のラベル XNCLABND のアドレスを指し示します。

分析: 0120 は、制御領域の初期設定時に、モジュール DFSXNCL0 (中核のロードおよびアドレス解決用のモジュール) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル XNCLABND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 11 には SCD のアドレスが入っています。

0121

キー	ラベル	説明
Reg6=IMODULE LOAD から戻されたロード・モジュール DFSVNUCs (ここで「s」は中核接尾部) のエントリー・ポイントのアドレス Reg15=0	NCL0100	制御領域の中核がロードされると、IMS 中核ロード・モジュール内の著作権文を検査することにより、その妥当性が検証されます。これらの著作権文に互換性がない場合、この異常終了が発行されます。中核のエントリー・ポイント DFSIOPL0 は、中核内の変位 0 にあります。実行している IMS バージョン用の IMS マクロ・ライブラリーを使用して IMS システム定義が確実に行われるようにする必要があります。IMS マクロ・ライブラリーと、使用されている IMS バージョンの間の不一致が、この問題の一般的な理由です。
Reg6=オプション・リスト内の ESCD ID のアドレス Reg15=ラベル XNCLABND のアドレス	XNCLLOCE	IMS 高速機能がインストールされている場合、SCD 拡張に関するアドレス解決も実行されます。LOCESCD マクロが失敗すると、異常終了が発行されます。レジスター 6 は、見つからなかった (つまり、SCDESCDQ を使用して SCD にチェーニングされていない) ESCD の ESCD ID を指しています。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXNCL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0121

説明: IMS 制御ブロック・モジュール (DFSBLK00) がロードされたが、SCD (CSECT DFSISCD) は、要求どおりのエントリー・ポイントではありません。

分析: 0121 は、制御領域の初期設定時に、DFSXDBI0 (制御ブロック・モジュール・ローダー) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の発行元であるラベル DBI2000 に分離することができます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。その他の関連 SVRB レジスターについて、以下の表で詳しく説明します。

キー	ラベル	説明
Reg8=モジュール名のアドレス Reg9=BAL Reg10=ロード・モジュール・エントリー・ポイント	DBI2000 (ラベルの前)	モジュール DFSBLK00 がロードされると、最初の数バイトを検査して、その SCD がエントリー・ポイントであるかどうかを判別します。つまり、最初のバイトがユーザー IMS SVC (0A) の最初の半分と比較され、第 3 バイトと第 4 バイトが分岐 (07FE) と比較されます。これらのバイトの一方または両方が対比していない場合、モジュール DFSBLK00 は無効なフォーマットであり、異常終了するためにラベル DBI2000 に分岐します。

考えられる原因: バインダー制御ステートメントの変更が行われました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DFSBLK0x を正しいエントリー・ポイントで再バインドします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXDBIO

0123

説明: 変更された DL/I アプリケーション・プログラムの IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行できないデッドロック条件が検出されました。デッドロック条件が検出されたとき、変更された標準 DL/I プログラムは、少なくとも 1 つの LU 6.2 会話を割り振っていました。この異常終了は、異常終了 0777 と似ているが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

デッドロックが検出されたとき、アプリケーション・プログラムは少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 0777 と似ていますが、再試行不能であり、入力メッセージは廃棄されます。CPI Communications ドリブン・アプリケーション・プログラムは、常に再試行不能です。

分析: 0123 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置: 変更されたアプリケーション DL/I プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: トランザクションを再入力します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

0124

説明: 変更されたアプリケーション DL/I プログラムの IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行できない U2478 条件が検出されました。PI ウェイターの数 が 63 を超えたとき、アプリケーション・プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 2478 と似ていますが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析: 0124 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置: 変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: トランザクションを再入力します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

0125

説明: 変更されたアプリケーション DL/I プログラムに対する IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行不可能な LOCK REJECT 条件が検出されました。ロック・リジェクトが発生したとき、アプリケーション・プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 3303 と似ているが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

システムの処置: 変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: トランザクションを再入力します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

0126

説明: 変更されたアプリケーション DL/I プログラムで、再試行できない異常終了 2479 条件が検出されました。バッファ・キュー・エレメント (BQEL) 用のストレージが不十分であることを IMS が検出したとき、変更された標準 DL/I プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-CI 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 2479 と似ていますが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析: 0126 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置: 変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: トランザクションを再入力します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

0127

説明: SAA Communications ドリブン・プログラムが、IMS リソースを非コミット状態にして終了しました。終了前に、CPI 通信ドリブン・プログラムが CPI-RR COMMIT(SRRRCMIT) または BACKOUT(SRRBACK) 呼び出しの実行に失敗したときに、この状態は発生します。IMS は暗黙的なコミットを実行しようとしたが、コミットは失敗しました。IMS 管理対象リソースは、非コミット状態でした。コミットされていない変更はすべてバックアウトされました。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析: 0127 は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: リソースがリカバリーされているかどうかを確認します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20

0128

説明: APPC/MVS ASSOCIATE 呼び出しが失敗しました。ASSOCIATE 呼び出しは、LU 6.2 会話が処理される場合に APPC/MVS に通知します。

分析: 0128 は、モジュール DFSASK00 またはモジュール DFSCPY00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。X'67D0' ログ・レコードが書き込まれ、試行された呼び出しからの戻りコードが示されます。入力メッセージは、メッセージ・キューに書き戻されます。

システムの処置: プログラムは異常終了します。入力メッセージはスケジューリングのために再びキューに入れられ、会話は非同期に変更されます。

プログラマーの応答: トランザクションを再入力します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

0129

説明: アクセサ環境エレメント (ACEE) のコピーを作成するための RACF 呼び出しまたはそれと同等の呼び出しが失敗しました。この呼び出しは、従属領域のセキュリティ環境を確立します。

分析: 0129 は、モジュール DFSASK00 またはモジュール DFSCPY00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。X'67D0' ログ・レコードが書き込まれ、試行された呼び出しからの戻りコードが示されます。RACF または同等の機能によって実際のセキュリティ違反が指摘された場合、入

力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない場合)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

RACF または同等の機能によって実際のセキュリティ違反が指摘された場合、入力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない場合)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

システムの処置: プログラムは異常終了します。RACF または同等の機能によって実際のセキュリティ違反が指摘された場合、入力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

プログラマーの応答: RACF または同等の機能が使用可能かどうか確認してから、トランザクションを開始します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

関連情報:

 DFS554A

0130

説明: メッセージ処理プログラム (MPP) 領域が DBCTL 領域に接続しようとしていました。DBCTL は MPP 領域からの接続を許可していないため、この試みは無効です。

分析: 0130 は、MPP 領域による SIGNON の試行中にモジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: MPP は疑似異常終了 0130 を受け取ります。

プログラマーの応答: アクティブな DBCTL 領域に関連した IMSID に接続しようとする MPP を開始しないでください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

0131

説明: DFSASK00 の識別機能で、DFSSRB 用の SP230 ストレージに対する IMODULE GETMAIN 要求からゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 および DFSDASIO によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00、DFSDASIO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0132

説明: IDENTIFY 時に、ストア・クロック (STCK) 命令の後で、ゼロ以外の条件コードを受け取りました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: ハードウェアまたはシステム制御プログラム (SCP) の問題が、この異常終了の原因である可能性があります。

システムの処置: 従属領域は終了します。

プログラマーの応答: ストア・クロック (STCK) 障害戻りコードについては、「*System 370 Principles of Operation*」(GA22-7000) を参照してください。

問題判別:

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0134

説明: 制御領域のシャットダウンの進行中に、従属領域が IDENTIFY 要求を出しました。これは、処理中のシャットダウンでは正常です。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0135

説明: 無効な要求コードが DFSASK00 に渡されました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0136

説明: 同一の従属領域から 2 番目の IDENTIFY 要求が出されました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置: 従属領域は終了します。データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム接続処理が終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0137

説明: 前の接続についてのクリーンアップがまだ進行中のときに、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが 2 番目の IDENTIFY を出しました。同じアドレス・スペース制御ブロック (ASCB) アドレスまたは同じ CCTL ID がこのエラーを検出しました。どちらがこのエラーを検出したかを判別するには、SSOB の SSPSCODE フィールドを調べます。このフィールドには、NAME または ASCB のどちらかが入ります。

システムの処置: 接続処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 前の接続についてのクリーンアップの完了を待ってから、他の接続を試みます。
/DIS CCTL コマンドを使用して CCTL 状況を調べることができます。

問題判別: 1、5、8、38

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0138

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが INIT 要求を発行しました。データベース・リソース・アダプター (DRA) が、DBCTL の異常終了、DBCTL の正常終了 (/CHE FREEZE)、または DRA スレッドに対する /STOP REGION コマンドなどの DBCTL イベントについて DRA に通知するために呼び出されるモジュールをロードします。DBCTL は DRA 通知モジュールを見つけることができませんでした。

システムの処置: CCTL INIT 要求はリジェクトされます。

プログラマーの応答: DRA 始動テーブルに定義されたライブラリーが DRA モジュールのすべてを含んでいるかどうかを検査します。

ソース: IMS 異常終了

0139

説明: SYSEVENT SVC からエラー戻りコードを受け取りました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく SCP またはハードウェア障害です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0140

説明: DL/I 呼び出しを行っているアプリケーションが識別されていませんでした。IDENTIFY トークンが無効です。

この異常終了は、DL/I 呼び出し実行中に従属領域が PST ID テーブル内に見つからない場合にも発生します。

分析: この異常終了は、DFSCPY00 によって発行される疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00、DFSECP10、DFSECP20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0141

説明: サインオン・トークンが無効です。要求側がトークンを追跡できませんでした。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0142

説明: 従属領域に割り当てられる作業単位ブロック (LCRE、OSWA、DPST、GMQW、XPST、D1WA、EPST、または D2WA) を作成できませんでした。従属 PST 用のストレージが利用不能でした。この異常終了は、最大区画仕様テーブル (MAXPST) 限度に達した場合にも発生します。

分析: 0142 は、DFSPCJM0 によって発行される標準異常終了です。リソース不足または内部エラーのため、サインオンが失敗しました。

考えられる原因:

1. 作業単位ブロックの 1 つに、ECSA ストレージを使用できませんでした。
2. MAXPST に達しました。
3. BCB IPAGE 制御ブロックの獲得または解放に関する内部 IMS エラー。モジュール SIGNSAVE+X'58' には、制御ブロック名 (最初の 3 バイト) と、下位バイトに BCB 戻りコードが入っている可能性があります。
4. 以下のいずれかのブロック内の BCB ブロック数が不十分でした。

LCRE	OSWA
DPST	GMQW
XPST	D1WA
EPST	D2WA

システム・プログラマーの応答: それでも IMS が許容範囲のスループットを処理できる場合は、処置は必要ありません。

IMS コマンドの DISPLAY ACTIVE または DISPLAY CCTL によって上記のように MAXPST に達した場合は、シ

ステム・リソースを調整して増加させることが可能であれば、MAXPST 値を大きくすることを検討してください。SCDPSTCT により内部的に示される MAXPST は SCDPSTMX と等しくなります。この変更には、推奨の FORMAT RS オプションを指定して再始動時に IMS 再起動 (recycle) が必要です。

IMS スループットが許容範囲ではなく、しかも CSA が満杯の場合は、CSA 使用率を把握して解決しなければなりません。この際には、システム・モニター表示情報分析やダンプ分析が必要になることがあります。

IMS スループットが許容範囲でない場合は、再始動時に FORMAT RS オプションを指定して IMS を再起動 (recycle) することによってスレッドをリセットできます。これによって、制御ブロックのオーバーレイに関連するほとんどの内部エラーは解消されます。IMS の再起動 (recycling) 前に IMS 制御領域のメモリー・ダンプを作成し、問題を IBM ソフトウェア・サポートへ報告してください。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0143

説明: 従属領域の初期設定に使用可能な仮想記憶域が不十分です。

分析: これは、SIGNON または CREATE-THREAD の処理中に、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

プログラマーの応答: 領域 (区画) サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

0144

説明: 従属領域の IDENTIFY 要求が失敗しました。おそらく、IDENTIFY テーブルに必要なストレージ要求が失敗したためです。この異常終了は、DFSBCB FUNC=GET が以下のものを取得しようとして失敗した場合に発行されます。

- 従属領域 IDENTIFY 要求で、IDENTIFY テーブル用の非同期作業エレメント (AWE) またはストレージ。IDENTIFY テーブルは使用できません。
- 従属領域からの SIGNOFF 時の AWE。
- DBCTL 再同期呼び出しのための AWE。

分析: これは、モジュール DFSASK00、DFSDASI0、DFSDASS0、および DFSDASR0 によって発行される疑似異常終了です。

この異常終了が IDENTIFY 中に発行される場合は、一部の領域が終了した後で要求を再発行してください。DBCTL の場合、通常 SSOB 内の SSPSCODE フィールドには、どのブロックを取得中であったかを示す 3 バイトの障害目印と、BCB GET からの 1 バイトの戻りコードが入ります。

システムの処置: 従属領域は終了します。

オペレーターの応答: リソースが使用可能な場合、IMS 定義で指定されたより多くの従属領域 (最大 255 まで) の始動を試みてください。領域が IDENTIFY 要求を試行したときに、IMS 制御領域に定義された最大数の従属領域がアクティブでした。

プログラマーの応答: 領域 (区画) サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

0145 • 0147

モジュール: DFSASK00、DFSDASIO、DFSDASS0、DFSDASR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0145

説明: DFSASK00 の呼び出し元が妥当ではありません。呼び出しの処理中、呼び出しで渡された識別トークンが IDT のものと一致しなかったか、または呼び出し元が ID と同じアドレス・スペースでなかったかのいずれかです。

分析: このコードは、DFSASK00 によって検出され、モジュール DFSRRA00、DFSPCC20、DFSRRC10、または DFSRRC40 によって発行される、疑似異常終了を示します。0145 は、以下のいずれかの理由で発行される可能性があります。

- SIGNON 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、SIGNON 呼び出し (SSCNTOKI) で渡された識別トークンが、従属領域の IDENTIFY 処理中に IDT (IDTIDTKN) に入れられた識別トークンと一致していないことを判別した。
- CREATE THREAD 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が以下のいずれかを判別した。
 - アドレス・スペース制御ブロック (ASCB) アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられた ASCB アドレスと一致していないため、呼び出し元は ID と同じアドレス・スペース内にない。
 - CREATE THREAD トークンに関連付けられた PST が、従属領域の SIGNON 時に PST 索引テーブル (KIT) に入れられた PST と一致していない。
- TERMINATE THREAD 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、呼び出し元が ID と同じアドレス・スペース内にないことを判別した。ASCB アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられた ASCB アドレスと一致していなかった。
- SIGNOFF 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、呼び出し元が ID と同じアドレス・スペース内にないことを判別した。ASCB アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられたアドレスと一致していなかった。
- TERMINATE 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、TERMINATE 呼び出し (SSTMTOKI) で渡された識別トークンが、従属領域の IDENTIFY 処理中に IDT (IDTIDTKN) に入れられた識別トークンと一致していないことを判別した。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0147

説明: 1 つ以上のスレッドがまだアクティブな間に、SIGN-OFF 要求を受け取りました。SIGN-OFF は TERMINATE THREAD を発行しました。これは、前の TERMINATE-THREAD が異常終了し、従属 IMS 階層から進行中の次の要求が SIGNOFF である場合に起きる可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0148

説明: 従属領域の終了 (SIGN-OFF 処理) の間に、IMODULE GETMAIN または QSAV 要求に応答してゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: これは、従属領域の終了 (SIGN-OFF) の間にモジュール DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS 従属領域は異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0149

説明: 制御領域への ISWITCH が失敗しました。DFSASK00 が、ISWITCH TO=CTL 要求の後、DFSIDSP0 からレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析: これは、DFSASK00 によって設定される疑似異常終了です。

考えられる原因: IMS ディスパッチャーは、その領域に対して /STO REG ABDUMP が進行中の場合、ISWITCH TO=CTL を許可しません。/STO REG ABDUMP コマンドが入力されていなかった場合は、システム内部の問題です。問題を分析するには、ログからの IMS ディスパッチャー・トレースと疑似異常終了ダンプが必要です。SAPSCNTL フラグ SAPSISWT を調べて、ISWITCH が既に進行中であったかどうかを確認します。

システムの処置: 従属領域は終了します。

オペレーターの応答: 異常終了した領域に対して /STOP REGION ABDUMP コマンドを入力していなかった場合、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題を判別して、修正してください。詳細については、上記の『分析』セクションを参照してください。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0150

説明: DBRC 領域、DL/I 従属アドレス・スペース領域、または IMS 制御領域のいずれかが異常終了すると、他の領域が異常終了 U150 で終了します。

分析: DBRC 終了の場合:

- 制御領域が異常終了すると、DBRC 領域は、制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSFSM0 によって発行される SIGNOFF ABNORMAL 要求によって通知されます。DFSRCQM0 はこの要求を処理し、DBRC 領域を 0150 で異常終了します。
- DBRC が異常終了すると、DBRC ESTAE、DFSXRID0 は、CALLRTM を使用して制御領域を終了します。CTL TCB ESTAE、DFSFCST0 または制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSFSM0 は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。CTL TCB がまだ初期化されていない場合、ジョブ・ステップに対して CALLRTM が発行されます。

DL/I 従属アドレス・スペース終了の場合:

- 制御領域が異常終了すると、DL/I 従属アドレス・スペースを終了するために、制御領域は CALLRTM を発行します。これにより、DL/I 従属アドレス・スペースのジョブ・ステップ TCB、DFSFDLI0 の ESTAE は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。この CALLRTM は、DFSFSM0 (制御領域ジョブ・ステップ ESTAE)、DFSFMOD0 (制御領域 TCB ETXR ルーチン)、または DFSABND0 (定様式ダンプ) から発行される可能性があります。
- DL/I 従属アドレス・スペース領域が終了すると、制御領域に対して CALLRTM が発行されます。これにより、CTL TCB ESTAE、DFSFCST0 または制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSFSM0 は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。CTL TCB がまだ初期化されていない場合、ジョブ・ステップに対して CALLRTM が発行されます。この CALLRTM は、DFSSDL20 (DL/I 従属アドレス・スペース TCB ETXR ルーチン)、DFSFDLI0 (DL/I 従属アドレス・スペース・ジョブ・ステップ ESTAE)、または DFSABND0 から発行される可能性があります。
- DL/I 従属アドレス・スペースが初期化されているときに制御領域が異常終了の処理中である場合、DL/I 従属アドレス・スペース初期設定モジュール DFSXDL00 によって、異常終了 0150 が発行されます。

システムの処置: IMS、DBRC、および DL/I 従属アドレス・スペースは異常終了します。

プログラマーの応答: DBRC、DL/I 従属アドレス・スペース、および IMS 制御領域のメモリー・ダンプを取得します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFSM0、DFSRCQM0、DFSXDL00、DFSFDLI0、DFSFSCT0

第 8 章 IMS 異常終了コード 0151 - 0200

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0151

説明: //DFSCTL データ・セットのデータ・セット属性が無効です。この異常終了と共に、メッセージ DFS1071I が発行されます。

分析: これは、DFSSBI00 によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 は、//DFSCTL データ・セットを記述するデータ制御ブロック (DCB) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=DCB のアドレス	BADDCB	//DFSCTL データ・セットの DCB をオープンした後、DFSSBI00 はレコード・フォーマットが固定長であり、レコード長が 80 であるかどうかを検査します。そのようになっていない場合、DFSSBI00 は異常終了を発行します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1071I の情報に基づいて、データ・セット属性を訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBI00

関連情報:

 DFS1071I

0152

説明: 順次バッファリング (SB) の COMPARE オプションが SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻す予定のバッファの内容と DASD 上に保管されているブロックの内容とが一致していないことを検出しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS1070I が出されます。

分析: 0152 は、モジュール DFSSBCR0 の COMPARE サブルーチンによって検出される疑似異常終了です。不一致を検出した後、DFSSBCR0 はモジュール DFSSBSN0 を呼び出して、診断情報を含んでいるスナップ・メモリー・ダンブを作成してから、異常終了を要求します。

IMS システムの場合、SNAP レコードは、IMS ログに X'67EF' ログ・レコードとして書き込まれます。CICS システムの場合、SNAP レコードは、テープまたはディスク上にある CICS システム・ログ Journal 01 に書き込まれます。バッチ領域の場合、SNAP 出力は、(//DFSCTL データ・セットの SNAPDEST 制御ステートメントのユーザー提供の指定に応じて) IMS ログまたはユーザーによって選択されたデータ・セットのいずれかに書き込まれます。IMS および CICS の両方のログ・レコードの印刷方法については、ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) (システム・ユーティリティ)を参照してください。CICS では、SNAP ログ・レコードを印刷するためのユーティリティ (DFHJUP) も提供しています。

SNAP 出力は、以下の項目で構成されます。

- 要約 (PSB 名、DBD 名、および DD 名など)
- OSAM バッファ・ハンドラーの IBFPRF バッファ制御ブロック
- 最初の不一致バイトのバッファ内の変位

0153 • 0154

- DASD に保管されているブロック
- SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻そうとしたバッファ
- DL/I 制御ブロックおよびバッファ・プール

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1070I を参照して適切な応答を得ます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBCR0

関連情報:

 DFS1070I (メッセージおよびコード)

0153

説明: IMS がエリアに必要なストレージを獲得できなかったか、または IMS システム・モジュールをロードできませんでした。この異常終了の前にIMS はメッセージ DFS1075A、DFS1076A、または DFS2347A を発行して、問題の原因を示します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1075A、DFS1076A、または DFS2347A にある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS1075A (メッセージおよびコード)

 DFS1076A (メッセージおよびコード)

 DFS2347A (メッセージおよびコード)

0154

説明: OSAM アクセス方式と順次バッファリング (SB) バッファ・ハンドラーとの間で予期しないインターフェース・エラーが発生しました。OSAM アクセス方式と DFSSBIO0 の間のインターフェース・エラーにより、OSAM アクセス方式は入出力を開始できません。スナップ・ダンプが IMS ログまたはユーザー指定のデータ・セットに書き込まれます。

分析: 0154 は、DFSSBIO0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了を発行する前に、DFSSBIO0 は DFSSBSN0 を呼び出して、診断情報を含んでいるスナップ・ダンプを作成します。SNAP 出力は、(//DFSCTL データ・セットの SNAPDEST 制御ステートメントのユーザー提供の指定に応じて) IMS ログに X'67EF' ログ・レコードとして書き込まれるか、またはユーザーによって選択されたデータ・セットに書き込まれます。

SNAP 出力は、以下の項目で構成されます。

- 「要約 (Summary)」には、テキスト INTERFACE ERROR BETWEEN DFSSBIO0-MODULE AND OSAM が入っています。
- DL/I 制御ブロックおよびバッファ・プール

キー	ラベル	説明
Reg5=OSAM への RWOS マクロ 呼び出しの DFSSBIO0 によって 使用される DECB のアドレス Reg10=PST の アドレス	CHECKS80	DFSSBIO0 の CHECKS サブルーチンは、前に発行された RWOS TYPE=READMULT OSAM 読み取り入出力操作の完了 を確認するために、ICHECKOS マクロを発行します。レジスタ ー 15 内のゼロ以外の戻りコードは、問題があることを示して おり、CHECKS サブルーチンは DECBNOIO ビットをテスト します。DECBNOIO ビットがオンの場合、インターフェー ス・エラーが発生しました。CHECKS サブルーチンはレジスタ ーを PSTSAVL に保管し、DFSSBSN0 を呼び出してスナップ・ ダンプを作成し、異常終了を発行します (バッチ領域のみ)。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 詳しい診断情報については、上記の『分析』を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBIO0

0155

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、実行中にエラーを検出しました。

異常終了の前に、SB テスト・プログラムは、問題を示すメッセージを発行し、レジスター 15 の下位バイトに理由コードを設定します。

分析: 0155 は、DFSSBHD0 によって発行される標準異常終了です。SB テスト・プログラムが問題を検出すると、IMS はレジスター 15 の下位バイトに理由コードを入れ、エラー・メッセージを発行します。各理由コード (下記の表で説明) は、エラーのタイプを識別するエラー・メッセージに関連付けられています。下の表で、理由コードに対応するメッセージを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'00' メッセージ DFS1080A	TCBFSA	DFSSBHD0 は、PXPparms 内のフィールドをテストして、それがバッチ領域で実行されていることを検査します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'01' メッセージ DFS1081A	BATCH	DFSSBHD0 は、PST 内のフィールドをテストして、SB が正しく初期化されていることを検査します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'02' メッセージ DFS1082A		DFSSBHD0 は、SYSPRINT データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'03' メッセージ DFS1083A		DFSSBHD0 は、SYSIN データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'04' メッセージ DFS1084A		DFSSBHD0 は、SYSUT1 データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'05' メッセージ DFS1085A		DFSSBHD0 は、SYSUT1 データ・セットのレコード・フォーマットが可変であるかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(PSB) Reg15=X'06' メッセージ DFS1086A	GETUTS30	DFSSBHD0 は、PSB が少なくとも 1 つのデータベース PCB を持っているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'07' メッセージ DFS1087A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な PCB 番号が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'08' メッセージ DFS1088A	FINDPCB5	DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な DBD 名が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'09' メッセージ DFS1089A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な相対データ・セット・グループ制御ブロック (DSG) 番号が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg2=A(DSG) Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'0A' メッセージ DFS1090A		DFSSBHD0 は、データベース・データ・セットのデータ・セット編成が VSAM に変更されているかどうかを判別します。そうである場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg5=A(DMB) Reg15=X'0C' メッセージ DFS1092A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されている DD 名を検査します。これが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'0D' メッセージ DFS1093A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されているサブレコード・タイプを検査します。これが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'0F' メッセージ DFS1095A	EODLOG	DFSSBHD0 は、アプリケーションの実行開始を記述しているイメージ・キャプチャー・ログ・レコード (//SYSUT1 データ・セット内) を検出できません。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ ログ・レコード) Reg15=X'13' メッセージ DFS1099A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されている DD 名を検査します。これが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'14' メッセージ DFS2343A	EODSYSIN	DFSSBHD0 は、//SYSIN データ・セットで提供されたテスト・プログラム制御ステートメントを検査します。1 つ以上の制御ステートメントが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 理由コードに対応するメッセージを参照して、適切な対応を取ります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBHD0

0156

説明: アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しを行いました。呼び出し元は監視プログラム状態にありました。

分析: これは、DFSCPY00 によってセットアップされる疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムでエラーが発生しました。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0157

説明: アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しを行いました。呼び出し元のキーが、タスク制御ブロック (TCB) 内のキーと異なっていました。

分析: これは、DFSCPY00 によってセットアップされる疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: ストレージ保護キーの設定が原因で、アプリケーション・プログラムにエラーが発生した可能性があります。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0158

説明: GSAM 初期設定モジュール DFSZDI20 が GSAM データ・セットの DD ステートメント情報を取得するためにタイプ 13 RDJFCB マクロを実行したとき、問題が発生しました。

分析: 下の表は、レジスター情報および説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=X'01'	AB15801	レジスター 15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。これは、そのステップに DD ステートメントがないことを示している可能性があります。ただし、前の DEVTYPE マクロは、DD ステートメントが存在することを示していました。

キー	ラベル	説明
Reg14=X'02'	AB15802	RDJFCB マクロから戻ったときに、RDJFCB によって取得された ARLAREA (ARA 領域のアドレス) が 0 です。この場合、ARLCODE はおそらく 8 です。ARLCODE=8 の説明は、Reg14=X'03' を参照してください。
Reg14=X'03'	AB15803	RDJFCB マクロから戻ったときに、R5 + X'1C' にある ARLCODE がゼロ以外です。ARLCODE=4 の場合、RDJFCB マクロを発行する前に ARL が正しく初期化されていませんでした。ARLCODE=8 の場合、ARA 領域を戻すための十分な仮想記憶域がありませんでした。その領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、再度このステップを実行してください。ARA 領域は、DD ステートメントに含まれているデータ・セットの数に 200 バイトを乗算した値にほぼ等しくなります。

システムの処置: IMS バッチまたは BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: RDJFCB マクロを実行するには、追加の仮想記憶域が必要です。領域のサイズが十分かどうかを確認します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZDI20

関連資料:

 z/OS: RDJFCB マクロの仕様

0160

説明: IMS 従属領域で実行していないアプリケーションが DL/I 呼び出し、SRRCMIT 呼び出し、または SRRBACK 呼び出しを発行しました。次のいずれかが発生しました。

- アプリケーションが DL/I プログラム呼び出しを発行し、これがモジュール DBFIRC10、DFSCPY00、または DFSCPY50 によって処理された。
- アプリケーションが SRRCMIT または SRRBACK 呼び出しを発行し、これが DFSCPY70 によって処理された。

DFSCPY00、DFSCPY50、または DFSCPY70 で、以下のいずれかが妥当性検査に失敗しました。

PST
DIRCA
サインオン・トークン
アドレス・スペース制御ブロック (ASCB)
スレッド・トークン

分析: モジュール DFSCPY00、DFSCPY50、および DBFIRC10 によって発行された場合、このコードは疑似異常終了を示します。モジュール DFSCPY70 によって発行された場合、これは標準異常終了です。

DBFIRC10 は、現行の TCB が IMS 従属領域 TCB でない場合、この疑似異常終了を発行します。

この異常終了が DFSCPY70 によって発行された場合、異常終了時のレジスター 15 には、EBCDIC に以下の文字ストリングのいずれかが入っています。

PST (X'D7E2E340')
DIRC (X'C4C9D9C3')
VTDE (X'E5E3C4C5')
ASCB (X'C1E2C3C2')
THRD (X'E3C8D9C4')

システムの処置: アプリケーションは終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00、DFSCPY50、DFSCPY70、DBFIRC10

0166

説明: IMS セキュリティー・オプションで、サインオン検査およびコマンドまたはトランザクションの許可、または RAS 許可に RACF を使用するように指定しましたが、IMS RACF セキュリティー初期設定が、失敗したかまたはシステム内に存在しません。

分析: 0166 は、モジュール DFSIRAC0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のレジスター 15 に入っている戻りコードが、RACF 初期設定障害の原因を示しています。レジスター 6 に、レジスター 0 の RACF によって戻された値が入っています。RACF RACLIST 呼び出し時にエラーが発生した場合、レジスター 5 に、障害が起きたクラスを示す値が入っています。

コード

説明

4 CIMS

5 TIMS

6 IIMS

7 LIMS

Reg 15

説明

X'04'

要求された機能を実行できません

X'08'

指定されたクラスが RACF に定義されていません

X'0C'

RACLIST 処理エラー

X'10'

RACF がアクティブでないか、クラスがアクティブではありません

X'14'

RACLIST インストール・システム出口ルーチン・エラー

X'18'

パラメーター・リスト・エラー

X'1C'

RACF がインストールされていないか、RACF のレベルが不十分です

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: この RACF システムの IMS セキュリティーをアクティブにします。

プログラマーの応答: ABEND 時のレジスター 15 に入っているコードが、RACF 初期設定での障害の原因を示しています。RACF RACLIST 呼び出しでエラーが起こった場合は、レジスター 5 に、失敗したクラスを示す値が入りません (4 - CIMS、5 - TIMS、6 - IIMS、7 - LIMS)。

セキュリティ・マクロ内の RAS 定義によって、あるいは DFSPBxx メンバー内の ISIS= A、C、または R によって、RAS セキュリティーが活動化されており、クラス IIMS、LIMS、または TIMS がアクティブではない場合、IMS は異常終了 0166 で異常終了し、レジスター 15 に RC=4、レジスター 5 に RC=5、6、または 7 が入ります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIRAC0

0168

説明: 再始動時に問題が検出されました。次のいずれかのエラーが発生しました。

- チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。指定されたチェックポイントが取られた後で、IMS 制御ブロックの構造が変更されていると、この状態が発生します。
- チェックポイントを取られた通信名テーブル (CNT) が再始動時に見つかりません。IMS コード障害の結果、この状態が発生します。

分析: **DBFERST0** と **DBFNRST0** の場合:

チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。指定されたチェックポイントが取られた後で、IMS ブロックの構造が変更されていると、この状態が発生します。

0168 は、高速機能緊急時再始動モジュール **DBFNRST0** および高速機能緊急時再始動モジュール **DBFERST0** によって呼び出されるモジュールから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

異常終了 **SVRB** レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。異常終了 **SVRB** レジスターのレジスター 2 に、発生したエラーのタイプを示す EBCDIC コードが入っています。レジスター 9 に **SCD** アドレスが入っています。**SCD** 内のフィールド **SCDCWRK** には、異常終了が発生したときに処理中であったログ・レコードへのポインターが入っています。有効な高速機能ログ・レコード (タイプ X'59') については、「*IMS Version 13 Diagnosis*」内のログ・レコードのリストを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'ADSC'	NRST4087	チェックポイントを取られたエリアが、再始動システムに定義されていません。
Reg2=C'ADSC'	EROC5921	高速処理データベース (DEDB) エリア・データ・セット (ADS) オープン・ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定された DEDB ADSC は、システム内 (フィールド ADSCDDN) に存在しました。
Reg2=C'ADSC'	EROC5922	DEDB ADS クローズ・ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定されたエリア・データ・セット制御ブロック (ADSC) が、再始動システムに存在しません。
Reg2=C'ADSC'	EROC5923	DEDB ADS 状況ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定された ADSC が、再始動システムに存在しません。
Reg2=C'ADSC'	EROC5924	チェックポイントを取られたエラー・キュー・エレメント (EQE) の ADSC が存在しません。
Reg2=C'AVAQ'	NRST4086	正常再始動が、未確定制御インターバル (CI) を再作成するためのバッファーを取得できませんでした。
Reg2=C'NRSR'	NRST4080	RSR トラッカーが、アクティブ IMS システムによって書き込まれた、チェックポイントを取られたログ・レコードを受け取りました。
Reg2=C'NACT'	NRST4080	アクティブ IMS システムが、 RSR トラッカーによって書き込まれた、チェックポイントを取られたログ・レコードを受け取りました。
Reg2=C'BMMM'	PROC4080	バッファー・マネージャーの不一致が発生しました。トラッキング・システムのバッファー・マネージャーが、 FPBP64=YIN および DBBF 、 DBFX 、 BSIZ で定義されたアクティブ・システムのバッファー・マネージャーと異なっています。トラッキング・システムのバッファー・マネージャーは、アクティブ・システムのバッファー・マネージャーと同じでなければなりません。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'DBFR'	NRST4086	未確定 CI を含んでいるバッファまたは現行の順次従属セグメント (SDEP) バッファが、チェックポイントでログに記録されました。バッファは単一のログ・レコードに入れるには大き過ぎます。さらに、複数のログ・レコードが誤って作成されており、これらを再始動によって処理することはできません。
Reg2=C'DMAC'	NRST4084	チェックポイントを取られた DEDB 名またはチェックポイントを取られたエリア名を、再始動システムで見つけることができません。
Reg2=C'DMAC'	NRST4088	チェックポイントを取られた IEEQE に、再始動システム上で定義されていないエリアの未確定データが含まれています。
Reg2=C'DMCB'	various	ログ・レコード内の DEDB 名を、システム DEDB マスター制御ブロック (DMCB) リストで見つけることができません。
Reg2=C'DMHR'	NRST4080	再始動システム上の高速機能バッファ定義 (バッファの数、バッファ・サイズ) が、チェックポイントを取られた情報と一致しません。31 ビットの高速機能システム (FPBP64=N) の場合、DBBF 値は、FDBR とアクティブ IMS の両方で同じでなければなりません。
Reg2=C'IEQE'	NRST4086	ウォーム・スタート時に、未確定 CI のチェックポイント・レコードが見つかりましたが、対応する IEEQE のチェックポイント・レコードが見つかりませんでした。
Reg2=C'IEQE'	NRST4088	チェックポイントを取られた IEEQE の継続を含むログ・レコードが見つかりましたが、初期ログ・レコードが見つかりませんでした。
Reg2=C'MSDB'	NRST4089	イメージ・コピー・データ・セット MSDBCP1/2 から主記憶データベース (MSDB) をロードしようとしているときに、DBFDBDL0 でエラーが発生しました。
Reg2=C'MSDB'	EROCS5920	イメージ・コピー・データ・セット MSDBCP1/2 から MSDB をロードしようとしているときに、DBFDBDL0 でエラーが発生しました。
Reg2=C'RCTE'	NRST4083	チェックポイントを取られた RCTE の数が、拡張システム目録ディレクトリ (ESCD) (フィールド ESCDNRCE) 内の宛先コード・テーブル・エントリ (RCTE) の数に等しくありません。あるいは、対応する RCTE が同じ宛先コードを持ちません (フィールド RCTE CODE)。

DBFNDC00 の場合:

チェックポイント・レコードに含まれている通信名テーブル (CNT) 名に対して行われた FIND 要求が失敗しました。

0168 は、高速機能再始動 FIND DC 制御ブロック・モジュール DBFNDC00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

レジスター 12 (異常終了 SVRB レジスター内) は、基底レジスターです。レジスター 2 (異常終了 SVRB レジスター内) に、発生したエラーのタイプを示す EBCDIC コードが入っています。レジスター 9 に SCD アドレスが入っています。SCD 内のフィールド SCDCWRK には、異常終了が発生したときに処理中であったログ・レコードへのポインターが入っています。有効な高速機能ログ・レコードのリストが、IMS 診断情報内に示されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'CNTE'	NRST4082	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C'CNTE'	NRST4085	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C'CNTE'	ASOC4089	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C'CNTE'	ERMG5903	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C'CNTE'	ERMG5911	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C'CNTE'	ERMG5936	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。

DBFTORS0 の場合:

FINDDMAC 呼び出しは、ログ・レコード内の DEDB エリアに対して対応する DMAC アドレスを見つけてできませんでした。この状態が発生するのは、再始動後のシステムにログ・レコードからの DEDB エリアに対応する DMAC アドレスがない場合です。

0168 は、入出力許容再始動モジュール DFSTORS0 によって呼び出される入出力許容高速機能再始動モジュール DBFTORS0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

DFSFD10 の場合:

高速機能ログ・レコードが、高速機能を含まない FDBR 領域によって検出されました。

0168 は、FDBR のモジュール DFSFD10 から発行される標準異常終了です。この FDBR 領域は高速機能を含みませんが、処理中のログ・テープに、高速機能チェックポイント・ログ・レコードを含むチェックポイントが含まれていました。この領域が誤ったログ・ストリームを処理していたのか、あるいはこの FDBR 領域に FP=Y を指定して高速機能を組み込む必要があるかのいずれかです。

DFSRLP00 の場合:

チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。この状態が発生するのは、指定されたチェックポイントが取られた後に、ユーザーが IMS ブロック構造を変更した場合です。

0168 は、モジュール DFSRLP00 (再始動ログ・プロセッサ) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。

チェックポイントを取られたブロックとロードされたブロックの間に矛盾が検出されると、異常終了が発行されます。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 15 に、矛盾しているブロックを示すコードが入っています。

エラー・コード 1 および 2 はモジュール DFSRDBP0 で検出されます。エラー・コード 3 は DFSRLP00 で検出されます。エラー・コード X'6' から X'11' は DFSCRSP0 および DFSCRPB0 で検出されます。

コード
説明

X'01'

チェックポイントを取られた DDIR のカウントが、ロードされたカウントに等しくありません。

X'02'

チェックポイントを取られた PDIR のカウントが、ロードされたカウントに等しくありません。

X'03'

高速機能チェックポイント・レコードが検出されましたが、高速機能はシステムに組み込まれていません。

X'04'

X'22' ログ・レコードの処理中にエラーが発生しました。ログ・レコードを処理するためのストレージを取得できなかったか、あるいは X'22' ログ・レコードの後続のセグメントを最初のセグメントより前に受け取りました。

X'06'

チェックポイントを取られた CNT のカウントが、ロードされたカウントに等しくないか、あるいはチェックポイントを取られた CNT の長さが、ロードされた CNT に等しくありません。

X'07'

チェックポイントを取られたレコード内の CNT 名が、ロードされた CNT 名と一致しません。

X'08'

チェックポイントを取られた SMB のカウントが、ロードされたカウントに等しくないか、チェックポイントを取られた SMB の長さが、ロードされた SMB に等しくないか、SMB の順序が正しくないか、あるいはモジュールが新規 SMB の取得に失敗しました。

X'09'

チェックポイントを取られたレコード内の SMB 名が、ロードされた SMB 名と一致しません。

X'0A'

チェックポイントを取られた通信端末装置ブロック (CTB) のカウントが、ロードされたカウントに等しくありません。あるいは、チェックポイントを取られた CTB の長さが、ロードされた CTB と等しくありません。

X'0B'

X'0B' エラー・コードは、以下の問題を示している可能性があります。

- チェックポイントを取られた CLB のカウントが、ロードされたカウントに等しくない
- チェックポイントを取られた CLB の長さが、ロードされた CLB に等しくない

X'0C'

チェックポイントを取られた会話制御ブロック (CCB) の長さが、ロードされた CCB の長さに等しくありません。

X'0D'

チェックポイントを取られた CCB のカウントが、ロードされたカウントに等しくありません。

X'0E'

X'0E' エラー・コードは、以下の問題を示している可能性があります。

- チェックポイントを取られたリンク制御ブロック (LCB) のカウントが、ロードされたカウントに等しくない
- チェックポイントを取られた LCB の長さが、ロードされた LCB に等しくない

X'0F'

チェックポイントを取られた CRB のカウントが、ロードされたカウントに等しくないか、あるいはチェックポイントを取られた CRB の長さが、ロードされた通信再始動ブロック (CRB) に等しくありません。

X'10'

チェックポイントを取られたサブプール・キュー・ブロック (SPQB) のカウントが、ロードされたカウントに等しくありません。あるいは、チェックポイントを取られた SPQB の長さが、ロードされた SPQB と等しくありません。

X'11'

チェックポイントを取られたレコード内の SPQB 名が、ロードされた SPQB 名と一致しません。

X'12'

チェックポイントを取られた VTAM 端末制御ブロック (VTCB) のカウントが、ロードされたカウントに等しく

ありません。あるいは、チェックポイントを取られた VTCB の長さが、ロードされた VTCB に等しくないか、チェックポイントを取られたレコード内の VTCB 名が、ロードされた VTCB 名と一致しないか、または VTCB 内でチェックポイントを取られた SPQB 名が、ロードされた SPQB 名の中に見つかりません。

X'13'

DFSBCB が、X'4040' ログ・レコード処理用の UOWE を取得できませんでした。

X'14'

X'4024' (TIB) ログ・レコード処理で、IMS 会話ビットマップも CCB ブロックも取得できませんでした。

X'15'

X'4034' (YTIB) ログ・レコード処理で、IMS 会話ビットマップも CCB ブロックも取得できませんでした。

X'16'

X'4003' ログ・レコード処理の後の SID テーブル再作成時に、HIOP ストレージが利用不可でした。

X'18'

このコードは、X'4021' ログ・レコードから VTCB をリカバリーしようとしているときに発行されます。

X'19'

IMS と IMS の再始動元のチェックポイントの間に不一致が検出されました。IMS が FP=Y で再始動され、再始動に使用されたチェックポイント・レコードに高速機能リソースが含まれていなかったか、あるいは再始動時に FP=N が指定され、再始動に使用されたチェックポイント・レコードに高速機能リソースが含まれていたかのいずれかです。FP=Y が指定されている場合、高速機能を含んでいるチェックポイントから IMS を再始動する必要があります。FP=N が指定されている場合、高速機能がないチェックポイントから IMS を再始動する必要があります。

X'1A'

再始動を介して MODBLKS=OLC|DYN パラメーターを変更しようとした。このパラメーターは、コールド・スタートを介してのみ変更できます。

X'1B'

再始動を介して FPBP64=Y|N パラメーターを変更しようとした。このパラメーターは、コールド・スタートを介してのみ変更できます。

X'1C'

以下のいずれかの状態が発生しました。

- ウォーム・スタート全体に渡って IMSRSC リポジトリーを使用不可にする試みがなされました。ウォーム・スタートで IMSRSC リポジトリーを使用可能に変更することはできますが、それを使用不可にしようとすると失敗します。IMSRSC リポジトリーを使用不可にするには、IMS のコールド・スタートを実行する必要があります。
- 緊急時再始動の後に、IMSRSC リポジトリーを使用可能または使用不可にする試みがなされました。緊急時再始動の後に IMSRSC リポジトリーを使用可能または使用不可にすることはできません。
以前使用可能でなかったリポジトリーを使用可能にするには、IMSRSC リポジトリーが使用不可の状態では緊急時再始動 (/ERE) を実行し、再始動の完了後に UPDATE IMS コマンドを使用してください。
以前使用可能だった IMSRSC リポジトリーを使用不可にするには、IMS のコールド・スタートを実行する必要があります。
- XRF 環境では、IMSRSC リポジトリーは IMS アクティブ・システムおよび IMS 代替システムで使用可能であるか、またはその両方で使用不可でなければなりません。RC=X'1C' は、IMSRSC リポジトリーが IMS システムのいずれか一方で使用可能であり、もう一方では使用不可の場合に戻されます。この状態を訂正するには、IMS アクティブ・システムまたは IMS 代替システムで DFSDFxxx メンバーを変更して、IMSRSC リポジトリーが両方のシステムで一貫して使用可能または使用不可になるようにしてください。
この決定は、アクティブ IMS システムの再始動方法および IMSRSC リポジトリーが再始動前に使用可能であったかどうかに基づいて行います。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しないことがエラーの原因である場合、IMSを再 IPL してから、現行のブロック構造を反映するチェックポイントを入力するか、またはシステムをコールド・スタートします。

チェックポイントを取られた CNT が再始動時に見つからなかったことがエラーの原因である場合、または理由コード X'04'を検出した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 4、5、10、35、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCP00、DBFERST0、DBFNDC00、DBFNRS0、DFSFDR10、DFSRLP00、DBFTORS0

関連資料:

 ログ・レコード (診断)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0172

説明: 再始動時のワークスペース所要量を満たすだけの十分なスペースが作業域プール (WKAP) にありません。

分析: 0172 は、DFSRST00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内の Reg14 BAL を使用して、該当するラベルに分離する必要があります。レジスター 11 は、基底レジスターです。

ICREATE ルーチンは、DFSRST00 内のさまざまな時点から呼び出されます。レジスター 10 は BAL レジスターであり、これを使用して呼び出し元を判別する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=POOL ID Reg3=プールのサイズ 要求 Reg9=SCD Reg14=BAL (ICREATE へ)	ICREATE	変数プールの要求が、ゼロ以外の戻りコードをレジスター 15 に戻しました。異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS 作業域プール (WKAP) のサイズを増やしてから、もう一度再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRST00

0175

説明: 再始動時の入力ログ処理中に、リカバリー不能エラーが発生しました。この異常終了の前に受け取る可能性があるメッセージ DFS0739A および DFS0739X を参照してください。

この異常終了は、異常終了 0176 に関連しています。

分析: DFSFDLY0 の場合:

この異常終了は、以下のモジュールによって検出されたエラーに対応して、モジュール DFSFDLY0 によって発行されます。

DFSFDLN0

OLDS または SLDS の割り振り

DFSFDL00

DFSFDLQ0 で使用されるサブルーチン

0175

DFSFDLP0

SLDS 読み取り

DFSFDLQ0

DFSFDLX0 で使用される STATE ルーチン

DFSFDLR0

再始動読み取りドライバー

DFSFDLT0

WADS のフォーマット

DFSFDLU0

WADS からの OLDS の終了

DFSFDLV0

DFSFDLX0 で使用される OLDS 読み取り STATE 遷移テーブルに実行可能コードが含まれていませんが、これは OLDS 読み取り論理の中心です。

DFSFDLX0

OLDS 読み取りドライバー

DFSFDLY0

すべての再始動読み取りで使用されるサブルーチン

DFSFDLZ0

緊急時再始動時に、OLDS 読み取りと SLDS 読み取りの間で切り替えるために使用されます

再始動中に、入力ログ・データ・セットがリカバリー不能エラーを検出したか、ログ・データ・セット処理が発生してはならない 論理エラーを検出したかのいずれかです。メッセージ DFS0739I または DFS0739X が発行されます。

0175 は、この異常終了についてリストされているモジュールから発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

2 つのモジュールのどちらが実際にエラーを検出するかに関係なく、0175 異常終了はすべて、モジュール DFSFDLY0 の CSECT DFSFDLY2 内の共通 ABEND サブルーチンを呼び出すことにより発行されます。レジスター 14 に、呼び出し元のリターン・アドレスが入ります。これは実際の障害点にきわめて近いはずですが、レジスター 15 の下位ハーフワードに、異常終了の理由を示す戻りコードが入ります。

DBRC エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DBRC 戻りコードが入ります。

DFSMDA エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DFSMDA 戻りコードが入ります。(異常終了戻りコードを定義している equate ステートメントは、マクロ DFSFRLWA 内にあります。) 残りの異常終了レジスターは、再始動読み取り作業域 RLWORK 内の RLWAREGS に保管されています。RLWORK は、レジスター 9 を使用して (または、LCD 内の LRESTWK を使用して) 位置指定され、マクロ DFSFRLWA によってマップされます。

定様式ダンプから作業している場合、DFSFDLY2 への入り口でのレジスターは、RLWAREGS で保管されたレジスターに近似していますが、必ずしも同一ではありません。

以下の異常終了レジスターは、発生するすべての 0175 で同じ意味を持ちます。

- Reg8** モジュールの第 2 基底レジスター (必要な場合)
- Reg9** RLWORK - 再始動読み取り作業域
- Reg10** LCD
- Reg11** SCD
- Reg12** モジュールの第 1 基底レジスター
- Reg13** IMS の事前チェーニングされた保管域
- Reg14** BALR リターン・アドレス - エラーが実際に発生した場所
- Reg15** 戻りコード

RLWORK は、すべてのロガー再始動読み取りモジュール用のキー・データ域であり、DSECT マクロ DFSFRLWA によってマップされます。RLWORK 内の以下のフィールドは特に役立ちます。

RLWQDECB	再始動読み取りに渡されたパラメーター・リストのコピー
RLWOLTFE	OLDS DECB およびバッファー・アドレスのテーブルの最初のエントリーへのポインター。これらのエントリーは、DFSRLWA 内の DSECT OLAT によってマップされます。
RLWGLOBL	再始動読み取りグローバル状況フラグ
RLWAREQ	DBRC に渡された最後のログ割り振り要求 (タイプ)
RLWALLOC	割り振られたログのタイプ
RLWDBRET	DBRC 作業域アドレス
RLWDSETE	現在読み取り中の OLDS の DSET エントリー
RLWEN	現在読み取り中のログの割り振り情報
RLWESTAT	ログ状況フラグ
RLWEEXCP	ログ例外フラグ
RLWEAVL	ログ可用性フラグ
RLWEOPN	ログ・オープン・フラグ
RLWEMODE	ログ・モード・フラグ
RLWEOFOK	ログのファイル終了 (EOF) 書き込みフラグ
RLWECNT	現行ログで読み取られた正常なブロックの数
RLWOSUFF	最後に読み取られた正常なブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。
RLWPCNT	POINT の相対ブロック・カウント
RLWOPDCB	OLDS 1 次 DCB
RLWOSDCB	OLDS 2 次 DCB
RLWSDCB	SLDS DCB
RLWWDCB	WADS DCB
RLWAREGS	異常終了時の呼び出し元のレジスターのコピー
RLWTSUFF	現行 OLDS 上の最初のブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。
RLWDSUFF	最後に読み取られた重複ブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

0175

RLWTFLG1

OLDS エラー許容フラグ

RLWXSTAT

OLDS XRF 状況フラグ

RLWXSTT2

OLDS XRF 状況フラグ (バイト 2)

RLWHSRRT

OLDS 再始動読み取り遷移テーブル・アドレス。OLDS 再始動読み取り遷移テーブルについての詳細は、モジュール DFSFDLV0 の Prolog を参照してください。OLDS 再始動読み取り遷移テーブルは、DFSRLWA 内の DSECT HSRRTT、XSTATBL、および XSTATENT によってマップされます。

RLWXDOMA

OLDS ドメイン・マッピング (前の状態/イベント、および現行の状態/イベント)

RLWPPART

OLDS の前のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWCPART

OLDS の現行のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWNPART

OLDS の次のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWXTRCN

OLDS の次の遷移トレース・エントリー・アドレス

RLWXTRCE

OLDS の遷移トレース・テーブル終了のアドレス

RLWXTRC

OLDS 遷移トレース・テーブル (25 エントリー - 各 5 ワード)。トレース・テーブル・エントリーは、DFSRLWA 内の DSECT XTRCENT によってマップされます。(このトレース・テーブルのエントリーの分析が必要になった場合は、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。)

XSEX OLDS 遷移 STATE equate ステートメント

XEXX OLDS 遷移 EVENT equate ステートメント

XPTINIT

OLDS 遷移 PARTITION equate ステートメント

RLWWPARAM

モジュール DFSFDLV0 に渡された WADS 読み取りパラメーター・リスト

RLWABC

ABEND コード保管域。RLWABC の後に、さまざまな再始動読み取り異常終了コードおよび戻りコードの equate ステートメントが続きます。

DFSFDLN0 の場合:

モジュール DFSFDLN0 は、再始動読み取り処理に必要なログ・データ・セットを割り振ります。特定のタイプのログ・データ・セットを見つけるために、DBRC に要求が出されます。データ・セットが見つかり、それが割り振られます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLLF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA1430	DBRC が最新の OLDS を検出できませんでした。
Reg15=RLWAF RLWAREGF=RDJFCB 戻りコード	LTA1578	出力用に新しい OLDS を割り振ろうとしているときに、RDJFCB に障害が起きました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLNF	LTA1585	ログ・クローズ処理を完了するには、出力用の新しい OLDS が必要です。再使用可能な OLDS が見つかりませんでした。使用可能な OLDS について DBRC を検査できなかったか、メッセージ DFS0739I に対してオペレーターが「ABEND」を応答したかのいずれかです。
Reg15=RLWDBRCF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA1590	DBRC 状況出口ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA1620	システム・ログ・データ・セット (SLDS) の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA21200	SLDS の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA22200	SLDS の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA2220	DBRC が 2 次ログ・データ・セットを見つけることができません。
Reg15=RLWLGCCE	ALOPENOL	発生してはならない論理エラー。
Reg15=RLWLGCCE	ALOPENSL	発生してはならない論理エラー。
Reg15=RLWAF	LTD320	ALOPENOL サブルーチン内の最終検査で、OLDS 割り振りが失敗したと判別されました。

DFSFDL00 の場合:

モジュール DFSFDL00 には、モジュール DFSFDLQ0 内の OLDS 読み取り遷移 STATE ルーチンによって使用される複数のサブルーチンが含まれています。

XREAD

現在の OLAT エントリーに対して READ を発行し、次の OLAT エントリーに対して未解決 READ の CHECK を発行します。

XREREAD

BSAM DCB 状況をリセットし (未チェック READ の CHECK)、最後の正常なブロック読み取りに対して POINT を発行し、最後の正常なブロックに対して READ および CHECK を発行し、次のブロック (前回に XREAD が呼び出されたときにエラーがあったブロック) に対して READ および CHECK を発行します。

XBLKCHK

最後の CHECK の結果を調べます。EOF、READ エラー、およびシーケンス・エラーをテストします。最後の READ/CHECK の相対的成功を示すために、CURRENT EVENT を設定します。再始動読み取り遷移テーブル (DFSFDLV0) で、使用する NEXT PARTITION を選択します。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE RLWEOPN=オープン OLDS フラグ	XRER0020	DFSFDLY0 内の CLROLD サブルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しています。現行の OLDS の再読み取りは不可能であり、代替の OLDS は利用不可です。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態 RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XBLK0016	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS18 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態 RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XBLK0026	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS12 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLWLGCE	XBLKEOF	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。EOF が検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の EOF が発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWLGCE	XBLKREAD	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。読み取りエラーが検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の読み取りエラーが発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK3500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最初のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK4500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。中央のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK5500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最後のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLSE RLWLOGSQ=最後の正常な ログ・レコード・ シーケンス番号 DFSFDLY2 への入り口の Reg6 が、順不同のログ・ レコードを保持している ログ・バッファを 指しています	XBLK6140	XBLKCHK は OLDS 内の最初のブロックを正常に読み取りましたが、そのブロックの最初のレコードのシーケンス番号が、前の OLDS/SLDS ログ・レコード・シーケンス番号 + 1 に等しくないことを検出しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK7500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。古いデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE LWAREG2= 現在のブロック 接尾部アドレス RLWTSUFF=最後の正常な OLDS 接尾部の最初の ブロック RLWTFLG1=エラー 許容フラグ RLWTSKIP=新たなデータ・ シーケンス・エラーが 検出されたときに 分析中であった ブロックの BSN。	XBLK8075	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。 スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・ エラーが検出されました。しかし、キー・フィールドが予期しな い条件を示しています。
Reg15=RLWLGCE RLWAREG2=現在の ブロック・アドレス接尾部 RLWTSUFF= 最後の正常な OLDS 接尾部の 最初の ブロック RLWTFLG1=エラー 許容フラグ RLWTSKIP= 新たなデータ・ シーケンス・ エラーが 検出されたときに 分析中であった ブロックの BSN。	XBLK8085	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。 スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・ エラーが検出されました。スキップされた OLDS が見つかりま した。スキップされた OLDS の順方向読み取りの実行中に、ス キップされた OLDS 処理の開始点 RLWTSKIP に戻る前に、2 番目の新たなデータ・シーケンス・エラーが検出されました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の 状態	XBLK8500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。 新たなデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が 正常ではありません。

DFSFDLP0 の場合:

モジュール DFSFDLP0 は、ウォーム・スタート時または緊急時再始動時に、システム・ログ・データ・セット (SLDS) を読み取ります。以下の表は、コードおよびレジスタの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLRE	DFSFDLP0	SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。
Reg15=RLWLGCE RLWEMODE	LSA200	2 次 SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しまし た。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用し て SLDS をリカバリーし、再始動を再試行してくださ い。
Reg15=RLWAF RLWALLOC	LSA210	DBRC が 2 次 SLDS を見つけることができませんで した。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLSE SAVELSN=1 次 SLDS との 突き合わせを試みている ときに 2 次 SLDS から 読み取られた最後の LSN。 (SAVELSN は DFSFDLP0 内に あります) RLWLOGSQ=1 次 SLDS から 読み取られた最後の LSN。	LSA235	1 次 SLDS から読み取られた最後のレコードに一致する レコードを検出できずに、2 次 SLDS で EOF に達しま した。
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLRE	LSA240	1 次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2 次 SLDS 上で入出力エラーが発生しました。
Reg2=ブロック内の最初の LSN Reg3=RLWLOGSQ+1 Reg15=RLWLSE	LSA250	1 次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。レジスタ ー 2 の中のログ・シーケンス番号 (LSN) が、1 次 SLDS から読み取られた最後の LSN よりも 2 以上大き くなっています。
Reg15=RLWLSE	LSA21R	1 次 SLDS と一致するようにブロックを切り捨てようと しているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが 発生しました。

DFSFDLQ0 の場合:

モジュール DFSFDLQ0 には、OLDS の読み取りに使用されるすべての STATE ルーチンが含まれています。各 STATE ルーチンの先頭に 8 バイトの目印があります。

モジュール DFSFDLX0 は、STATE テーブル DFSFDLV0 を読み取って、次に実行する STATE を判別します。DFSFDLX0 は、レジスター 0 に STATE ルーチンのアドレスが入っている DFSFDLQ0 を呼び出します。STATE ルーチンが実行され、制御が戻りコードと共に DFSFDLX0 に戻されます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLRE または RLWDRE RLWEOPN=オープン・ データ・セット・ フラグ RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XS020035	読み取りエラーを分析するために、ルーチン XSTATS02 が呼び 出されました。CLROLD サブルーチンが、CLOSE と OPEN を 使用して BSAM 状況をリセットするのに失敗しました。すべて の必要な OLDS データ・セットが利用不可であるため、再始動 読み取りは異常終了します。
Reg15=異常終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPCPART=最後の 区画 (partition)	XSTATS03	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0176 異常終了が必要である と判別しました。
Reg15=RLWLGCE	XS040100	発生してはならない論理エラー。正常なブロック内の最後の LSN がゼロでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS050300	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE LAST 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS050700	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE NEXT 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS070025	発生してはならない論理エラー。XSTATS07 が ALLOCATE NEXT 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	XS160200	発生してはならない論理エラー。XSTATS16 が DFSFDLU0 から予期しない戻りコードを受け取りました。
Reg15=異常終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPCPART=最後の 区画 (partition)	XS21EXIT	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0175 異常終了が必要であると判別しました。
Reg15=RLWLGCE	XS290025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29 が ALLOCATE PRIOR 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	XS320025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29 が ALLOCATE LAST 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=異常終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPCPART=最後の 区画 RLWXTRC=遷移トレース・ テーブル	XSTATS99	発生してはならない論理エラー。STATE テーブル DFSFDLV0 の検索で、一致するものが検出されませんでした。U0175 または U0176 異常終了が強制されます。

DFSFDLR0 の場合:

モジュール DFSFDLR0 は、ログ再始動読み取り機能のドライバー・モジュールです。DFSFLG0 は、以下のいずれかの機能を実行するために、再始動 TCB の下の DFSFDLR0 に分岐します。

FIND 最新のタイプ X'42' ログ・レコード (チェックポイント ID テーブル) を見つけて、再始動に渡します。

この要求時には、OLDS が WADS から終了されない場合もあります。

OPEN 再始動チェックポイントを含んでいるログを OPEN し、チェックポイントの開始点を見つけてます。

READ

再始動チェックポイントから始めて、ログを順方向に READ します。一度に 1 ブロックのデータを再始動に渡します。必要な場合は、WADS から OLDS を終了します。

CLOSE

最後のログの EOF の後、データ・セット・エントリー・テーブル DSET (ログ初期設定からの最初の DSET、最新の X'4301' ログ・レコードからの DSET、順方向ログ読み取り時に作成された DSET) をマージして、すべての OLDS を割り振ります。

FORMAT

/STA WADS、/NRE、または /ERE コマンドの要求に応じて、WADS をフォーマットします。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLRE	LOA200	OPEN 機能が、再始動チェックポイントを含んでいる OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RLWLNT RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LCA10E	CLOSE 機能が要求されましたが、RLWGLOBL は、OLDS が WADS から終了されたことを示していません。
Reg2=ログ・レコード・ アドレス Reg3=ログ・ レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LCA21210	CLOSE 機能が要求されました。ブロック内で DSET (X'4301' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RLWLGCE	LCA2300	発生してはならない論理エラー。
Reg2=ログ・レコード・ アドレス Reg4=ログ・レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LOB110	OPEN 機能が要求されました。ブロック内で開始チェックポイント・レコード (X'4001' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RLWLRE	LFB010	FIND (または CLOSE) 機能が、最新の OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RLWLLLF RLWALLOC=割り振り フラグ	LFB190	FIND (または CLOSE) 機能が、最新のログを割り振るための要求で、DFSFDLN0 から予期しない結果を受け取りました。
Reg2=ログ・レコード・ アドレス Reg4=ログ・レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LFC10R	FIND (または CLOSE) 機能が要求されました。X'42' (または X'4301') ログ・レコードのブロックの検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。

DFSFDLR0 の場合:

モジュール DFSFDLU0 は、WADS から最新の OLDS を終了します。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LBA100	DFSFDLU0 は、再始動読み取りが最新の OLDS 上に正しく配置されていることを検査しようとしています。DBRC への最新 OLDS 検索 (locate-latest-OLDS) 要求が失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA106	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA110	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWLGCE RLWXSTAT=最初の XRF 状況フラグ・バイト RLWXSTT2=2 番目の XRF 状況フラグ・バイト	LBA208	XRF テークオーバーの一部として、OLDS が終了中です。OLDS および WADS の RESERVE が必要ですが、確立されていません。
Reg15=RLWLNT RLWEOPN=オープン OLDS フラグ	OLDSCLR	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLNT RLWEOPN=オープン OLDS フラグ	LDX0100	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLNT RLWEOPN=オープン OLDS フラグ	LDX0200	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。

DFSFDLX0 の場合:

モジュール DFSFDLX0 は、OLDS 読み取り処理用のドライバーです。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=ループ・カウンター Reg3=DFSFDLV0 内の 次のエントリーの アドレス Reg15=RLWLGCE	XTRANEXT	発生してはならない論理エラー。DFSFDLX0 が、STATE 遷移テーブル DFSFDLV0 の区画で遷移エントリーを検索しています。区画内のすべてのエントリーを検索しましたが、一致が見つかりませんでした。すべての区画は、任意の条件に一致するエントリーを最後のエントリーとして持っている必要があります。このエントリーは、処理を STATE XS99 (異常終了する) に送る必要があります。さらに、すべての区画は、区画内のエントリーの数のカウントを持っています。このカウントは、レジスター 2 を初期化するために使用されます。
Reg15=RLWLGCE	XTRA3700	発生してはならない論理エラー。DFSFDLQ0 によって、予期しない戻りコードが戻されました。

DFSFDLY0 の場合:

モジュール DFSFDLY0 には、再始動読み取りモジュールで通常使用されるすべてのサブルーチンが含まれています。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWTCF RLWAREGF=TRKCALC からの戻りコード	ANALEOF	ANALEOF サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWEOPN=OLDS の オープン・フラグ	LBN120	発生してはならない論理エラー。 OLSETM サブルーチンで、オープン OLDS が 見つかりませんでした。
Reg2=ログ・ レコード・ アドレス Reg3=バッファ終了 アドレス Reg4=ログ・レコード長 Reg15=RLWLSE	LLC10R	RCDSCH サブルーチンが、無効な長さを持つログ・レコードを検 出しました。
Reg15=RLWTCF	LDG200	OLDSCALC サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコ ードを受け取りました。
Reg15=RLWTCF	OLPNT	OLPNT サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコード を受け取りました。
Reg15=RLWDBRCF RLWDBRC=DBRC 戻りコード RLWAREQ=DBRC に 渡される要求	LTH150	DBRCEXEC サブルーチンが、DBRC から予期しない戻りコード を受け取りました。
Reg5=DCB Reg15=RLWLCF RLWEEXCP=例外フラグ	LSC105	SLCLS サブルーチンが、SLDS を CLOSE しようとしているとき にエラーを受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	LBP130	発生してはならない論理エラー。
Reg2=一時 DSET エントリー Reg15=RLWLGCE RLWDSETE=DSET エントリー	LBP130	発生してはならない論理エラー。RLWDSETE または一時 DSET のいずれかが正常ではありません。

DFSFDLZ0 の場合:

モジュール DFSFDLZ0 は、ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に、OLDS 読み取りまたは SLDS 読み取りの
いずれかを行います。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLFF RLWALLOC=割り振り フラグ	LLA330	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の ログ・データ・セットを割り振るための DFSFDLN0 への要求は 失敗しました。
Reg15=RLWLSE	LLA440	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の レコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが 発生しました。
Reg15=RLWLSE	LLA500	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の レコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが 発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLSE	LLA600	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のレコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、5、8、11、35

OLDS および WADS のコピーを保管してください。

DBRC RECON データ・セットをリストしてください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLY0、DFSFDLN0、DFSFDLO0、DFSFDLP0、DFSFDLQ0、DFSFDLX0、DFSFDLZ0

IMS 異常終了 0176

 DFS0739I

 DFS0739X

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0176

説明: 拡張リカバリー機能 (XRF) 複合システムで再始動時の入力ログ処理中に、IMS 代替システムでリカバリー不能なエラーが発生しました。高速データベース・リカバリーでエラーが検出された場合にも、この異常終了が発生します。この異常終了の前に受け取る可能性があるメッセージ DFS0739I および DFS0739X を参照してください。

この異常終了は、異常終了 0175 に関連しています。

分析: **DFSFDLY0** の場合:

この異常終了は、以下のモジュールによって検出されたエラーに対応して、モジュール DFSFDLY0 によって発行されます。

DFSFDLN0

OLDS または SLDS の割り振り

DFSFDLO0

DFSFDLQ0 で使用されるサブルーチン

DFSFDLP0

SLDS 読み取り

DFSFDLQ0

DFSFDLX0 で使用される STATE ルーチン

DFSFDLR0

再始動読み取りドライバー

DFSFDLT0

WADS のフォーマット

DFSFDLU0

WADS からの OLDS の終了

DFSFDLV0

DFSFDLX0 で使用される OLDS 読み取り STATE 遷移テーブルに実行可能コードが含まれていませんが、これは OLDS 読み取り論理の中心です。

DFSFDLX0

OLDS 読み取りドライバー

DFSFDLY0

すべての再始動読み取りで使用されるサブルーチン

DFSFDLZ0

緊急時再始動時に、OLDS 読み取りと SLDS 読み取りの間で切り替えるために使用されます

XRF トラッキングまたはテークオーバー中に、入力ログ・データ・セットがリカバリー不能エラーを検出したか、ログ・データ・セット処理が発生してはならない 論理エラーを検出したかのいずれかです。メッセージ DFS0739I または DFS0739X が発行されます。

0176 は、この異常終了に関してリストされたモジュールから発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

2 つのモジュールのどちらが実際にエラーを検出するかに関係なく、0175 および 0176 異常終了はすべて、モジュール DFSFDLY0 の CSECT DFSFDLY2 内の共通 ABEND サブルーチンを呼び出すことにより発行されます。レジスター 14 に、呼び出し元のリターン・アドレスが入ります。これは実際の障害点にきわめて近いはずですが。レジスター 15 の下位ハーフワードに、異常終了の理由を示す戻りコードが入ります。

DBRC エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DBRC 戻りコードが入ります。

DFSMDA エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DFSMDA 戻りコードが入ります。(異常終了戻りコードを定義している equate ステートメントは、マクロ DFSFRLWA 内にあります。) 残りの異常終了レジスターは、再始動読み取り作業域 RLWORK 内の RLWAREGS に保管されています。RLWORK は、レジスター 9 を使用して (または、LCD 内の LRESTWK を使用して) 位置指定され、マクロ DFSFRLWA によってマップされます。

定様式ダンプから作業している場合、DFSFDLY2 への入り口でのレジスターは、RLWAREGS で保管されたレジスターに近似していますが、必ずしも同一ではありません。

以下の異常終了レジスターは、発生するすべての 0176 で同じ意味を持ちます。

- Reg8** モジュールの第 2 基底レジスター (必要な場合)
- Reg9** RLWORK - 再始動読み取り作業域
- Reg10** LCD
- Reg11** SCD
- Reg12** モジュールの第 1 基底レジスター
- Reg13** IMS の事前チェーニングされた保管域
- Reg14** BALR リターン・アドレス - エラーが実際に発生した場所
- Reg15** 戻りコード

RLWORK は、すべてのロガー再始動読み取りモジュール用のキー・データ域であり、DSECT マクロ DFSFRLWA によってマップされます。RLWORK 内の以下のフィールドは特に役立ちます。

RLWQDECB

再始動読み取りに渡されたパラメーター・リストのコピー

RLWOLTFE

OLDS DECB およびバッファー・アドレスのテーブルの最初のエントリーへのポインター。これらのエントリーは、DFSFRLWA 内の DSECT OLAT によってマップされます。

RLWGLOBL

再始動読み取りグローバル状況フラグ

RLWAREQ

DBRC に渡された最後のログ割り振り要求 (タイプ)

RLWALLOC

割り振られたログのタイプ

RLWDBRET

DBRC 作業域アドレス

RLWDSETE

現在読み取り中の OLDS の DSET エントリー

RLWEN

現在読み取り中のログの割り振り情報

RLWESTAT

ログ状況フラグ

RLWEEXCP

ログ例外フラグ

RLWEAVL

ログ可用性フラグ

RLWEOPN

ログ・オープン・フラグ

RLWEMODE

ログ・モード・フラグ

RLWEFOK

ログのファイル終了 (EOF) 書き込みフラグ

RLWECNT

現行ログで読み取られた正常なブロックの数

RLWOSUFF

最後に読み取られた正常なブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWPCNT

POINT の相対ブロック・カウント

RLWOPDCB

OLDS 1 次 DCB

RLWOSDCB

OLDS 2 次 DCB

RLWSDCB

SLDS DCB

RLWWDGB

WADS DCB

RLWAREGS

異常終了時の呼び出し元のレジスターのコピー

RLWTSUFF

現行 OLDS 上の最初のブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWDSUFF

最後に読み取られた重複ブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWTFLG1

OLDS エラー許容フラグ

RLWXSTAT

OLDS XRF 状況フラグ

RLWXSTT2

OLDS XRF 状況フラグ (バイト 2)

RLWHSRRT

OLDS 再始動読み取り遷移テーブル・アドレス。OLDS 再始動読み取り遷移テーブルについての詳細は、モジュール DFSFDLV0 の Prolog を参照してください。OLDS 再始動読み取り遷移テーブルは、DFSRLWA 内の DSECT HSRRTT、XSTATBL、および XSTATENT によってマップされます。

RLWXDOMA

OLDS ドメイン・マッピング (前の状態/イベント、および現行の状態/イベント)

RLWPPART

OLDS の前のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWCPART

OLDS の現行のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWNPART

OLDS の次のドメイン区画 (DFSFDLV0 内)

RLWXTRCN

OLDS の次の遷移トレース・エントリー・アドレス

RLWXTRCE

OLDS の遷移トレース・テーブル終了のアドレス

RLWXTRC

OLDS 遷移トレース・テーブル (25 エントリー - 各 5 ワード)。トレース・テーブル・エントリーは、DFSFDLV0 内の DSECT XTRCENT によってマップされます。(このトレース・テーブルのエントリーの分析が必要になった場合は、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。)

XSEX OLDS 遷移 STATE equate ステートメント

XEXX OLDS 遷移 EVENT equate ステートメント

XPTINIT

OLDS 遷移 PARTITION equate ステートメント

RLWWPARM

モジュール DFSFDLV0 に渡された WADS 読み取りパラメーター・リスト

RLWABC

ABEND コード保管域。RLWABC の後に、さまざまな再始動読み取り異常終了コードおよび戻りコードの equate ステートメントが続きます。

DFSFDLN0 の場合:

モジュール DFSFDLN0 は、再始動読み取り処理に必要なログ・データ・セットを割り振ります。特定のタイプのログ・データ・セットを見つけるために、DBRC に要求が出されます。データ・セットが見つかる、それが割り振られます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLLF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA1430	DBRC が最新の OLDS を検出できませんでした。
Reg15=RLWAF RLWAREGF=RDJFCB 戻りコード	LTA1578	出力用に新しい OLDS を割り振ろうとしているときに、RDJFCB に障害が起きました。
Reg15=RLWLLNF	LTA1585	ログ・クローズ処理を完了するには、出力用の新しい OLDS が必要です。再使用可能な OLDS が見つかりませんでした。使用可能な OLDS について DBRC を検査できなかったか、メッセージ DFS0739I に対してオペレーターが「ABEND」を応答したかのいずれかです。
Reg15=RLWDBRCF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA1590	DBRC 状況出口ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA1620	システム・ログ・データ・セット (SLDS) の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA21200	SLDS の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DFSMDA 戻りコード	LTA22200	SLDS の割り振りが失敗しました。 DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC がゼロ以外です。そうでない場合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオープンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LTA2220	DBRC が 2 次ログ・データ・セットを見つけることができません。
Reg15=RLWLGCE	ALOPENOL	発生してはならない論理エラー。
Reg15=RLWLGCE	ALOPENSL	発生してはならない論理エラー。
Reg15=RLWAF	LTD320	ALOPENOL サブルーチン内の最終検査で、OLDS 割り振りが失敗したと判別されました。

DFSFDL00 の場合:

モジュール DFSFDL00 には、モジュール DFSFDLQ0 内の OLDS 読み取り遷移 STATE ルーチンによって使用される複数のサブルーチンが含まれています。

XREAD

現在の OLAT エントリーに対して READ を発行し、次の OLAT エントリーに対して未解決 READ の CHECK を発行します。

XREREAD

BSAM DCB 状況をリセットし (未チェック READ の CHECK)、最後の正常なブロック読み取りに対して POINT を発行し、最後の正常なブロックに対して READ および CHECK を発行し、次のブロック (前回に XREAD が呼び出されたときにエラーがあったブロック) に対して READ および CHECK を発行します。

XBLKCHK

最後の CHECK の結果を調べます。EOF、READ エラー、およびシーケンス・エラーをテストします。最後の READ/CHECK の相対的成功を示すために、CURRENT EVENT を設定します。再始動読み取り遷移テーブル (DFSFDLV0) で、使用する NEXT PARTITION を選択します。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	XRER0020	DFSFDLY0 内の CLROLD サブルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しています。現行の OLDS の再読み取りは不可能であり、代替の OLDS は利用不可です。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT= 現在の状態 RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XBLK0016	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS18 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT= 現在の状態 RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XBLK0026	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS12 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE	XBLKEOF	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。EOF が検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の EOF が発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWLGCE	XBLKREAD	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。読み取りエラーが検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の読み取りエラーが発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK3500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最初のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK4500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。中央のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK5500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最後のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLWLSE RLWLOGSQ= 最後の正常な ログ・レコード・ シーケンス番号 DFSFDLY2 への 入り口の Reg6 が、 順不同のログ・ レコードを 保持している ログ・バッファー を指しています	XBLK6140	XBLKCHK は OLDS 内の最初のブロックを正常に読み取りましたが、そのブロックの最初のレコードのシーケンス番号が、前の OLDS/SLDS ログ・レコード・シーケンス番号 + 1 に等しくないことを検出しました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の状態	XBLK7500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。古いデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLGCE LWAREG2=現在の ブロック接尾部 アドレス RLWTSUFF=最後の 正常な OLDS 接尾部の最初の ブロック RLWTFLG1=エラー 許容フラグ RLWTSKIP=新たな データ・ シーケンス・ エラーが 検出されたときに 分析中であった ブロックの BSN。	XBLK8075	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試んでいます。 スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・ エラーが検出されました。しかし、キー・フィールドが予期しな い条件を示しています。
Reg15=RLWLGCE RLWAREG2=現在の ブロック・アドレス接尾部 RLWTSUFF=最後の 正常な OLDS 接尾部の最初の ブロック RLWTFLG1=エラー 許容フラグ RLWTSKIP=新たな データ・ シーケンス・ エラーが 検出されたときに 分析中であった ブロックの BSN。	XBLK8085	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試んでいます。 スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・ エラーが検出されました。スキップされた OLDS が見つかりま した。スキップされた OLDS の順方向読み取りの実行中に、ス キップされた OLDS 処理の開始点 RLWTSKIP に戻る前に、2 番目の新たなデータ・シーケンス・エラーが検出されました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現在の 状態	XBLK8500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試んでいます。 新たなデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が 正常ではありません。

DFSFDLP0 の場合:

モジュール DFSFDLP0 は、ウォーム・スタート時または緊急時再始動時に、システム・ログ・データ・セット (SLDS) を読み取ります。以下の表は、コードおよびレジスタの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLRE	DFSFDLP0	SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。
Reg15=RLWLGCE RLWEMODE	LSA200	2 次 SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しまし た。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して SLDS をリカバリーし、再始動を再試行してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWAF RLWALLOC	LSA210	DBRC が 2 次 SLDS を見つけることができませんでした。
Reg15=RLWLSE SAVELSN=1 次 SLDS との 突き合わせを 試みている ときに 2 次 SLDS から読み 取られた 最後の LSN。 (SAVELSN は DFSFDLP0 内に あります) RLWLOGSQ=1 次 SLDS から 読み取られた 最後の LSN。	LSA235	1 次 SLDS から読み取られた最後のレコードに一致するレコードを検出できずに、2 次 SLDS で EOF に達しました。
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLRE	LSA240	1 次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2 次 SLDS 上で入出力エラーが発生しました。
Reg2=ブロック内の最初の LSN Reg3=RLWLOGSQ+1 Reg15=RLWLSE	LSA250	1 次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。レジスター 2 の中のログ・シーケンス番号 (LSN) が、1 次 SLDS から読み取られた最後の LSN よりも 2 以上大きくなっています。
Reg15=RLWLSE	LSA21R	1 次 SLDS と一致するようにブロックを切り捨てようとしているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。

DFSFDLQ0 の場合:

モジュール DFSFDLQ0 には、OLDS の読み取りに使用されるすべての STATE ルーチンが含まれています。各 STATE ルーチンの先頭に 8 バイトの目印があります。

モジュール DFSFDLX0 は、STATE テーブル DFSFDLV0 を読み取って、次に実行する STATE を判別します。DFSFDLX0 は、レジスター 0 に STATE ルーチンのアドレスが入っている DFSFDLQ0 を呼び出します。STATE ルーチンが実行され、制御が戻りコードと共に DFSFDLX0 に戻されます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLRE または RLWDRE RLWEOPN= オープン・ データ・ セット・ フラグ RLWTFLG1=エラー 許容フラグ	XS020035	読み取りエラーを分析するために、ルーチン XSTATS02 が呼び出されました。CLROLD サブルーチンが、CLOSE と OPEN を使用して BSAM 状況をリセットするのに失敗しました。すべての必要な OLDS データ・セットが利用不可であるため、再始動読み取りは異常終了します。
Reg15= 異常終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPART=最後の 区画 (partition)	XSTATS03	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0176 異常終了が必要であると判別しました。
Reg15=RLWLGCE	XS040100	発生してはならない論理エラー。正常なブロック内の最後の LSN がゼロでした。
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS050300	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE LAST 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS050700	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE NEXT 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWDBRC=DBRC 戻りコード	XS070025	発生してはならない論理エラー。XSTATS07 が ALLOCATE NEXT 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	XS160200	発生してはならない論理エラー。XSTATS16 が DFSFDLU0 から予期しない戻りコードを受け取りました。
Reg15=異常 終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPART=最後の 区画 (partition)	XS21EXIT	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0175 異常終了が必要であると判別しました。
Reg15=RLWLGCE	XS290025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29 が ALLOCATE PRIOR 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	XS320025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29 が ALLOCATE LAST 要求で DFSFDLN0 から予期しない応答を受け取りました。

キー	ラベル	説明
Reg15=異常終了コード (変数) RLWXDOMA=最後の STATE フラグ RLWCPCART=最後の 区画 RLWXTRC=遷移 トレース・ テーブル	XSTAT99	発生してはならない論理エラー。STATE テーブル DFSFDLV0 の検索で、一致するものが検出されませんでした。0175 または 0176 異常終了が強制されます。

DFSFDLR0 の場合:

モジュール DFSFDLR0 は、ログ再始動読み取り機能のドライバー・モジュールです。DFSFLG0 は、以下のいずれかの機能を実行するために、再始動 TCB の下の DFSFDLR0 に分岐します。

FIND 最新のタイプ X'42' ログ・レコード (チェックポイント ID テーブル) を見つけて、再始動に渡します。

この要求時には、OLDS が WADS から終了される場合もあります。

OPEN 再始動チェックポイントを含んでいるログを OPEN し、チェックポイントの開始点を見つめます。

READ

再始動チェックポイントから始めて、ログを順方向に READ します。一度に 1 ブロックのデータを再始動に渡します。必要な場合は、WADS から OLDS を終了します。

CLOSE

最後のログの EOF の後、データ・セット・エントリ・テーブル DSET (ログ初期設定からの最初の DSET、最新の X'4301' ログ・レコードからの DSET、順方向ログ読み取り時に作成された DSET) をマージして、すべての OLDS を割り振ります。

FORMAT

/STA WADS、/NRE、または /ERE コマンドの要求に応じて、WADS をフォーマットします。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLRE	LOA200	OPEN 機能が、再始動チェックポイントを含んでいる OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RLWLNT RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LCA10E	CLOSE 機能が要求されましたが、RLWGLOBL は、OLDS が WADS から終了されたことを示していません。
Reg2=ログ・ レコード・ アドレス Reg3=ログ・ レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LCA21210	CLOSE 機能が要求されました。ブロック内で DSET (X'4301' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RLWLGCE	LCA2300	発生してはならない論理エラー。

キー	ラベル	説明
Reg2=ログ・ レコード・ アドレス Reg4=ログ・ レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LOB110	OPEN 機能が要求されました。ブロック内で開始チェックポイント・レコード (X'4001' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RLWLRE	LFB010	FIND (または CLOSE) 機能が、最新の OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RLWLLLF RLWALLOC= 割り振り フラグ	LFB190	FIND (または CLOSE) 機能が、最新のログを割り振るための要求で、DFSFDLN0 から予期しない結果を受け取りました。
Reg2=ログ・ レコード・ アドレス Reg4=ログ・ レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL= グローバル・ フラグ	LFC10R	FIND (または CLOSE) 機能が要求されました。X'42' (または X'4301') ログ・レコードのブロックの検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。

DFSFDLR0 の場合:

モジュール DFSFDLU0 は、WADS から最新の OLDS を終了します。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLF RLWDBRC=DBRC 戻りコード	LBA100	DFSFDLU0 は、再始動読み取りが最新の OLDS 上に正しく配置されていることを検査しようとしています。DBRC への最新 OLDS 検索 (locate-latest-OLDS) 要求が失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA106	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA110	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWLGCE RLWXSTAT=最初の XRF 状況フラグ・ バイト RLWXSTT2=2 番 目の XRF 状況 フラグ・ バイト	LBA208	XRF テークオーバーの一部として、OLDS が終了中です。OLDS および WADS の RESERVE が必要ですが、確立されていません。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	OLDSCLR	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	LDX0100	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	LDX0200	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。

DFSFDLX0 の場合:

モジュール DFSFDLX0 は、OLDS 読み取り処理用のドライバーです。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=ループ・ カウンター Reg3=DFSFDLV0 内の 次のエントリーの アドレス Reg15=RLWLGCE	XTRANEXT	発生してはならない論理エラー。DFSFDLX0 が、STATE 遷移テーブル DFSFDLV0 の区画で遷移エントリーを検索しています。区画内のすべてのエントリーを検索しましたが、一致が見つかりませんでした。すべての区画は、任意の条件に一致するエントリーを最後のエントリーとして持っている必要があります。このエントリーは、処理を STATE XS99 (異常終了する) に送る必要があります。さらに、すべての区画は、区画内のエントリーの数のカウントを持っています。このカウントは、レジスター 2 を初期化するために使用されます。
Reg15=RLWLGCE	XTRA3700	発生してはならない論理エラー。DFSFDLQ0 によって、予期しない戻りコードが戻されました。

DFSFDLY0 の場合:

モジュール DFSFDLY0 には、再始動読み取りモジュールで通常使用されるすべてのサブルーチンが含まれています。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWTCF RLWAREGF= TRKCALC からの 戻りコード	ANALEOF	ANALEOF サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWLGCE RLWEOPN=OLDS のオープン・ フラグ	LBN120	発生してはならない論理エラー。 OLSETM サブルーチンで、オープン OLDS が 見つかりませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg2= ログ・レコード・ アドレス Reg3= バッファ終了 アドレス Reg4=ログ・ レコード長 Reg15=RLWLSE	LLC10R	RCDSCH サブルーチンが、無効な長さを持つログ・レコードを検出しました。
Reg15=RLWTCF	LDG200	OLDSCALC サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWTCF	OLPNT	OLPNT サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWDBRCF RLWDBRC=DBRC 戻りコード RLWAREQ=DBRC に 渡される要求	LTH150	DBRCEXEC サブルーチンが、DBRC から予期しない戻りコードを受け取りました。
Reg5=DCB Reg15=RLWLCF RLWEEXCP= 例外フラグ	LSC105	SLCLS サブルーチンが、SLDS を CLOSE しようとしているときにエラーを受け取りました。
Reg15=RLWLGCE	LBP130	発生してはならない論理エラー。
Reg2=一時 DSET エントリー Reg15=RLWLGCE RLWDETE=DSET エントリー	LBP130	発生してはならない論理エラー。RLWDETE または一時 DSET のいずれかが正常ではありません。

DFSFDLZ0 の場合:

モジュール DFSFDLZ0 は、ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に、OLDS 読み取りまたは SLDS 読み取りのいずれかを行います。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLFF RLWALLOC= 割り振り フラグ	LLA330	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のログ・データ・セットを割り振るための DFSFDLN0 への要求は失敗しました。
Reg15=RLWLSE	LLA440	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のレコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。
Reg15=RLWLSE	LLA500	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のレコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLSE	LLA600	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のレコードを見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、5、8、11、35

OLDS および WADS のコピーを保管し、DBRC RECON データ・セットをリストしてください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLY0、DFSFDLN0、DFSFDL00、DFSFDLP0、DFSFDLQ0、DFSFDLX0、DFSFDLZ0

IMS 異常終了 0175



DFS0739I



DFS0739X

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0181

説明: 重複したデータ・スペース・トークンが検出されました。既存のデータ・スペースと同じデータ・スペース・トークンをもつ新規のデータ・スペースが獲得されました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この問題は発生してはならないエラーであり、発生した場合は z/OS エラーを表明します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFVIDS0

0182

説明: 高速機能入出力モジュールのいずれかで、発生してはならない状態が検出されました。

分析: レジスター 15 に診断コードが入っています (バイト 0 から 2 はモジュール ID、バイト 3 はサブコード)。

モジュール ID **FOR (DBFFORIO)** の場合のサブコード:

- 01 SYNCPOINT で実行中の処理が、書き込み完了必須の状態が設定されていない出力スレッドにバッファを追加しました。この状態は発生してはなりません。
- 02 入出力後にデータ・スペースの unpin バッファが障害を起こしました。
- 03 処理中のデータ・スペース入出力の数が、書き込み中の仮想記憶オプション (VSO) バッファの数と一致しません。

モジュール ID **MAI (DBFUMAI0)** の場合のサブコード:

- 01 事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI 相対バイト・アドレス (RBA) または HWM CI RBA と同じです。

モジュール ID **MIO (DBFMIOS0)** の場合のサブコード:

- 02 SYNCPOINT で実行中の処理が、書き込み完了必須の状態が設定されていない出力スレッドにバッファを追加しました。この状態は発生してはなりません。

モジュール ID **SRB (DBFMSRB0)** の場合のサブコード:

- 01 DMAC は VSO をサポートしません。
- 02 データ・スペース制御ブロック構造が無効です。
- 03 データ・スペース制御ブロック構造に含まれているエリアが無効です。

- 04 要求された RBA が大きすぎます (エリアの GE SDEP 部分)

モジュール ID **VOC (DBFVOC10)** の場合のサブコード:

- 01 データ・スペース・マップ・リスト (DSML) が呼び出し元により渡されません。
 02 書き込みステージング・エリアのダミー DMHR が DSML に存在しません。
 03 I/O がなく、データ・スペースの unpin に失敗しました。
 04 I/O を完了した DSML はありません。
 05 I/O の完了後、データ・スペースの unpin に失敗しました。
 06 現行カーソルの制御インターバル (CI) アドレス値がビットマップの範囲外です。
 07 DSML DSME L56X 内の L56X ブロックのアドレスはゼロです。
 08 データ・スペース CI の相対バイト・アドレス (RBA) がビットマップ CI の RBA と一致しません。
 09 データ・スペース CI の相対バイト・アドレス (RBA) が制限を超えています。

モジュール ID **VSO (DBFVSOW0)** の場合のサブコード:

- 01 DMHR で指し示されている DMAC が VSO を指定しませんでした。
 02 DMAC ポインターと DSME ポインターが相互検査を実施しました。
 03 DMHR 内の RBA が DSME の有効範囲を超えました。
 04 DBFVSOW0 に渡されたブロックが DMHR ではありません。
 05 BCB からの戻りコードがゼロ以外でした。

モジュール ID **MAI (DBFUMAI0)** の場合のサブコード:

- 01 事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI RBA または HWM CI RBA と同じです。

モジュール ID **NCB (DBFNCBS0)** の場合のサブコード:

- 01 事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI RBA または HWM CI RBA と同じです。

モジュール ID **MFL (DBFMFL10)** の場合のサブコード:

- 01 16 進データ・フィールドに対するユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が、IMS 入出力作業域によって許可される長さを超えています。
 02 10 進データ・フィールドのユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が IMS I/O 作業域を超えました。
 03 データ・タイプに関するユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が 16 進数または 10 進数でなく、IMS I/O 作業域を超えました。

モジュール ID **LG2 (DBFSLG20)** の場合のサブコード:

- 01 SYNCPOINT フェーズ 2 の処理中に無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトが検索されました。EPSTAWEQ 上のブロックが EMHB または DMHR ではありません。

モジュール ID **SLG (DBFSLOG0)** の場合のサブコード:

- 01 リソースの排他制御ブロック (XCRB) チェーンを使用して取得されたデータベース・バッファー・ヘッダー (DMHR) ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。
 02 UOW 排他的リソース制御ブロック (UXRB) チェーンを使用して取得された DMHR ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。
 03 EPSTEMHB を使用して取得された急送メッセージ・ハンドラー・バッファー (EMHB) ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。
 04 同期に失敗した後、XCRB チェーンを使用して取得された DMHR ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。

モジュール ID **VSR (DBFVSOR0)** の場合のサブコード:

- 01 データベース・バッファー・ヘッダー (DMHR) で指し示す DEDB エリア制御リスト (DMAC) で、VSO を指定しませんでした。
 02 DMAC およびデータ・スペース・マッピング項目 (DSME) のポインターがクロスチェックを行っていませんでした。
 03 DSME と DMAC には、別々のデータ・スペース・マップ・リスト (DSML) ポインターがあります。
 04 DMHR 内の相対バイト・アドレス (RBA) が DSME の有効範囲を超えました。

0184 • 0199

05 DBFVSOR0 に渡されたブロックが DMHR ではありません。

システムの処置:

IMS 制御領域または従属領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMSRB0、DBFVOCI0、DBFVSOW0、DBFMIOS0、DBFFORI0、DBFUMAI0、DBFNCBS0、DBFMFL10、BFSLG20、DBFVSOR0、DBFSLOG0

0184

説明: IMS は、始動時に、カップリング・ファシリティでのロング・ビジー許容のための構造を割り振ることができませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1552A を参照してください。問題を訂正し、IMS を再始動してください。MADS 入出力タイミング機能が必要でない場合、DFSVMxx PROCLIB メンバーから MADSIOT 指定を削除して、IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

0195

説明: 高速機能モジュールの 1 つで、発生してはならない状態が検出されました。

分析: レジスター 15 に、この異常終了のサブコードが入っています。エラーを検出するモジュールが異常終了を発行する前にレジスターを保管する場合、レジスター 13 に、異常終了時のレジスターを含む保管域のアドレスが入りません。

キー	説明
Reg15=X'01'	DBFARD30 は、DBRC から戻された許可エリアのパラメーター・リスト内のエリア数が 200 を超えていることを検出します。
Reg15=X'02'	DBFHSRT0 は、出力メッセージ ISRT の EMHB がないこと、および INIT STATUS GROUP A がないことを検出しています。

システムの処置: 異常終了サブコードに応じて、IMS 従属領域または IMS 制御領域が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFARD30、DBFHSRT0

0199

説明: BMP または IMS バッチ領域で、1 回のコミット・サイクル内で変更できるデータベースの数を超えました。

システムの処置:

BMP または IMS バッチ領域は、異常終了コード U0199 で異常終了します。

オペレーターの応答: 問題を修正した後で、BMP または IMS バッチ領域を再始動します。

システム・プログラマーの応答: BMP または IMS バッチ領域では、SYNCPOINT 要求を発行せずに、IMS ログ・データ・セット (つまり、IMS ログ・ブロック・サイズ) に割り振られた最大ログ・レコードに収まる数を超えるデータベースに対して変更を行わないようにしてください。あるいは、変更データベースの数を収容できるように IMS ログ・データ・セットのサイズを増やしてください。

最大ログ・レコードに収まる変更データベースの最大数の見積もりは、次の 10 進公式を使用して算定できます。

変更データベースの制限 = $(64 * N - 15)$ データベース

ここで、 N は、IMS ログ・データ・セット (つまり、IMS ログ・ブロック・サイズ) に割り振られた 1024 バイト・ブロックの数 (10 進数) です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP20

0200

説明: 入出力域にデータが戻されるのを要求する AIB インターフェースを使用して、GET タイプ機能が発行されました。しかし、入出力域の長さが小さすぎてデータを受け取れませんでした。Java 従属領域 (つまり、JBP または JMP) で異常終了が発生した場合、これはストレージ関連の問題である可能性があります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 入出力域のサイズを増やして、データをアプリケーションに戻せるようにします。Java 従属領域 (つまり、JBP または JMP) で異常終了が発生した場合、JBP または JMP 従属領域の領域サイズを増やします。

ソース: IMS 異常終了

第 9 章 IMS 異常終了コード 0201 - 0250

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0201

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

1. 読み取られて検証された HALDB 入力ステートメントのうちの少なくとも 1 つに構文エラーがありました。RC=04 または 08 を伴ってメッセージ DFS3777A が発行されました。RC=04 は、構文エラーはないが 20 を超えるステートメントが指定されたことを示している可能性もあります。
2. IFP、JMP、または MPP 領域では、単一の区画を処理することができません。メッセージ DFS3776A が発行されます。
3. DFSHALDB がオープンに失敗したか、またはその属性が無効です。LRECL が 80 ではないか、または RECFM が固定ブロック・フォーマットではありません。対応するメッセージは DFS3775A です。
4. 処理を継続するにはストレージが不足しています。メッセージ DFS3774A が発行され、そのメッセージ上に表示される制御ブロックのための GETMAIN に失敗したことを示します。

システムの処置: ジョブは、次のいずれかの理由コードを伴い、モジュール DFSHSPI0 で異常終了します。

コード

メッセージ番号

- 04 DFS3777A RC=4
- 08 DFS3777A RC=08
- 12 DFS776A IFP/JMP/MPP
- 16 DFS3775A RECFM
- 20 DFS3775A LRECL
- 24 DFS3667A DFSHALDB のオープンが失敗
- 28 DFS3774A ストレージ不足

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- 構文エラーの場合、SYSHALDB の報告書を検討します。HALDB 入力ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行します。構文エラーがない場合、入力ステートメントを 10 個までに制限して、ジョブを再サブミットします。
- IFP、JMP、または MPP 領域で DFSHALDB に指定されている HALDB 入力ステートメントの場合、DFSHALDB を削除するか、または入力ステートメントを除去してから、ジョブを再サブミットします。
- DFSHALDB に関連したデータ・セットの属性を調べます。
- REGION パラメーターのサイズ値を増やします。

問題判別: 1、17h

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHSPI0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0202

説明: 正常に構文が検証されたステートメントのいずれかについて、PCB 番号が PSB 内のどの DBPCB とも対応しないか、または区画名が無効です。区画名のつづりを誤ったか、または、有効な名前ではあるが指定された DBPCB 番号によって参照されるデータベース内に見つけられなかった可能性があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS3379E および DFS3779A が出力されます。

システムの処置: 疑似異常終了 0202 がモジュール DFSHSPP0 から発行されます。

プログラマーの応答: 無効な PCB 番号または区画名を訂正してから、ジョブを再サブミットします。

問題判別: 1, 17b, 17h

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHDPP0

関連情報:

➡ DFS3379E (メッセージおよびコード)

➡ DFS3779A (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0203

説明: ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) の実行中に、OPTION ステートメントから作成されたパラメーター・リストが変更されていることが判明しました。ユーザー出口ルーチン (OPTION 制御ステートメントのオペランド EXITR= で指定) でエラーが発生した可能性があります。このエラーによって、このルーチンはプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレッシングして変更しました。

分析: 0203 は、フォーマット設定印刷ユーティリティ DFSERA10 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターは有効です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) と併せて使用すると、問題を特定するのに役立ちます。

レジスター 6 に、最初のリスト・エレメントへのポインターが入っている場合があります。入っていない場合、エラーはオプション処理の初期設定中に発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg6=最初のリスト・ポインター Reg11=ルーチンのアドレス	SELGET	レジスター 6 がロードされた後、最初のリスト・エレメントへのポインターがあるかどうかテストされます。ポインターが欠落している場合、ラベル SEL03 にあるルーチンに分岐し、このルーチンが異常終了 0203 を発行します。

考えられる原因: ユーザー出口ルーチン (OPTION 制御ステートメントのオペランド EXITR=) にエラーがあり、それが原因で、ルーチンがプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレス指定したか変更した、あるいはその両方を行った可能性があります。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 示されたエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 3, 4, 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSERA10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0204

説明: TRCPUNCH DD ステートメントで指定されたデータ・セットをオープンする試みが失敗しました。データ・セットは、DFSERA10 からの DL/I 呼び出しトレース出口ルーチンの出力用のものです。

分析: これは、モジュール DFSERA50 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: TRCPUNCH DD ステートメントにエラーがある可能性があります。

システムの処置: ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答: TRCPUNCH DD ステートメントが存在するかどうか、および DFSERA10 入力ストリーム内で正しいかどうかを確認します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSERA50

0206

説明: IMS.PSBLIB または IMS.DBDLIB ライブラリーをオープンすることができません。

分析: これは、モジュール DFSPCC30 によって発行される標準異常終了です。レジスター 1 に、完了コード X'800000CE' が入っています (下の表を参照)。レジスター 2 に、PXPARMS のアドレスが入っています。PXPARMS 内のラベル PCDCBADR に、DCB アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800000CE'	BADOPEN	PSBLIB または DBDLIB の OPEN 障害。

システムの処置: IMS バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: バッチ処理領域の JCL を検査して IMS DD 名が正しいかどうかを調べます。DFSERA10 入力ストリームの JCL を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC30

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0209

説明: 領域タイプ ULU または UDR が指定されたが、指定された DBD 名が論理 DBD か、またはアクセス方式が無効です。

分析: 0209 は、モジュール DFSDPSB0 がエラーを検出した場合に、モジュール DFSDLBL0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SETPSEU 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

DFSDLBL0 は、特別な領域タイプ (UDR または ULU) が指定されていることを検出すると、ラベル NOLOAD にある DFSDPSB0 にリンクします。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指し示す保管域には、DFSDPSB0 への入り口で保管されたレジスターが入っています。レジスター 1 には、パラメーター・リストのアドレスが、以下のフォーマットで入っています。

- 領域パラメーター・リストのアドレス
- DBD のアドレス
- 構成された PSB のアドレス

0210 • 0214

- プログラム制御パラメーターのアドレス

レジスター 2 に、DBD をロードするために使用された名前前のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg9=PREFIX ACCESS X'0F' のアドレス Reg10=ロードされた DBD のアドレス	GETDBD	このルーチンは、アクセス方式の妥当性検査を行います。上位 X'80' ビットがオンでない PREACCESS (レジスター 9 + X'0C') が X'0F' より大きい場合 (これは GSAM または MSDB を示します)、無効なアクセス方式により異常終了が発行されます。
Reg9=PREFIX PRENODSG=0 のアドレス Reg10=ロードされた DBD のアドレス	CONT2	アクセス方式が妥当性検査されています。PRENODSG (レジスター 9 + X'0D') (データ・セットの数) がゼロであることが判別されています。データ・セットの指定がないことは、これが論理 DBD であることを意味しているため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0、DFSDPSB0

0210

説明: CCTL サブシステムが、DBCTL サブシステムに対して、UNSCCHEDULE 呼び出しまたは TERMINATE THREAD 呼び出しを発行しました。DBCTL が未解決の更新を含むリカバリー単位を検出したか、あるいは ODBA スレッドが、前にコミットまたはロールバックを行わずに DPSB 呼び出しを発行したか、PREP (準備) 副次機能と後続のコミットまたはロールバックを行わずに DPSB 呼び出しを発行しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT40H 00001 CINTDDLT STLDDLT(5) 000,0210 2008 +  
/241 15:45:15 RTKN= ODBA00230000000500000000
```

システムの処置: IMS は、スレッドを異常終了します。DBCTL スレッドが未完了の場合、更新はバックアウトされます。DBCTL スレッドが未確定の場合、更新は保留されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別: 1、3、5、33、36

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS554A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0214

説明: パラメーター・フィールドに、領域タイプ ULU、UDR、DBB、または DLI が指定されました。指定されたプログラム名は、この領域タイプの使用を許可されていません。

分析: 0214 は、モジュール DFSDPSB0 がエラーを検出した場合に、モジュール DFSDLBL0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SETPSEU 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

モジュール DFSDLBL0 は、ラベル NOLOAD にあるモジュール DFSDPSB0 にリンクします。このモジュールは、

特別な領域タイプ (UDR または ULU) が指定されたかどうかを検出します。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 で指し示された保管域を使用します。これらは、DFSDPSB0 への入り口で保管されたレジスターです。レジスター 1 には、パラメーター・リストのアドレスが、以下のフォーマットで入っています。

- 領域パラメーター・リストのアドレス
- DBD のアドレス
- 構成された PSB のアドレス
- プログラム制御パラメーターのアドレス

キー	ラベル	説明
Reg3=PCPARMS アドレス	AUTHLOOP	アプリケーション・プログラム名 (RCPARMS 内の RCPGM フィールド) が、許可プログラム・リスト内のエントリーと突き合わせて比較されます。一致するものが検出されずにリストの終わりに達した場合 (APLPGM=X'FF')、提供されたプログラム名は、領域タイプ ULU または UDR の使用が許可されていないため、異常終了が発行されます。
Reg8=許可された プログラム ・リスト・アドレス		
RCPGM = APLPGM		
APLPGM=X'FF'		

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0、DFSDPSB0

0215

説明: IMS ディスク論理ロガーが内部エラーを検出しました。

分析: レジスター 15 に、以下の戻りコードが入ります。

コード
説明

X'04'
無効なバッファ・アドレス

X'08'
通知コードの誤り

0215 は、モジュール DFSFDLL0 によって発行される標準異常終了です。

以下に、レジスターの内容を示します。

レジスター
内容

2	ECB の内容 (RC=08 の場合)
6	無効なバッファ・アドレス (RC=04 の場合)
9	ECB のアドレス
14	検出しているルーチンのアドレス
15	戻りコード

考えられる原因: バッファが使用可能になるのを待っている間に、DFSFDLL0 が誤って送られました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、3、4、5、6、および 25

0216 • 0219

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0216

説明: DBRC=YES が要求されたが、ログ・リカバリー・ユーティリティ (DFSULTR0) が DBRC から正常でない戻りコードを検出しました。

分析: 0216 は、モジュール DFSULG10 によって発行される標準異常終了です。

以下に、レジスターの内容を示します。

レジスター

内容

14 検出しているルーチンのアドレス

15 DBRC からの戻りコード

考えられる原因: SECLOG レコードの正常でない DBRC PROLOG が発生しました。この異常終了の前に出された DBRC メッセージを参照してください。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: DBRC の問題を訂正するか、または EXEC ステートメントで DBRC=N をコーディングして DBRC を無視します。

問題判別: 1、2、3、4、8、および 25

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0219

説明: コマンド・プロセッサ DFSICLD0 が、リカバリー不能エラーを検出したか、またはコマンド・アクション・モジュールとの無効なインターフェースを検出しました。

分析: この異常終了は、/DISPLAY コントローラー DFSICLD0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ACTION 内の命令を指しています。

異常終了 0219 は、特定の DISPLAY アクション・モジュールへの呼び出しから戻った時点で、DFSICLD0 がアクション・モジュールに渡したキュー・バッファの長さフィールドが、そのアクション・モジュールによって変更されており、獲得したバッファの元のサイズ (132 バイト) より大きくなっていることが検出された場合に、DFSICLD0 によって発行されます。これは、アクション・モジュールがキュー・バッファを上書きしており、他のキュー・バッファおよびメッセージ・キューを破棄している可能性があることを暗黙に示しているため、異常終了が発行されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 9 に SPAD (スクラッチパッド作業域) のアドレスが入り、レジスター 5 にキュー・バッファへのポインターが入っています。SPAD 内の情報 (特に、SPADCALL および SPADCOND) を使用すれば、問題の原因になっているアクション・モジュールと元のコマンドを十分に特定できます。レジスター 5 は、アクション・モジュールが作成しようとした表示出力行を指しています。

SPAD 内のフィールド SPADCALL には、/DISPLAY アクション・モジュール (DFSICLD0 のラベル ACTIONAD) のアドレス・テーブル内の索引値が入っています。コンソール・オペレーターによって入力された圧縮形のコマンド

が、SPAD 内のフィールド SPADCOND で指し示されています。フィールド SPADNTRY は、多くの場合、表示の特定の明細行を作成するアクション・モジュール・エントリを判別するために、/DISPLAY アクション・モジュールによって使用されます。その場合には、SPADNTRY を使用して、無効な長さフィールドを設定したコードを分離することができます。以下の表は、SPADCALL で検出される可能性がある索引値と、それに対応するコマンドおよびアクション・モジュールを示しています。

索引値	コマンド	アクション・モジュール
X'00'	/RDISPLAY	DFSIRD10
X'04'	/DISPLAY STATUS	DFSIDP10
X'08'	/DISPLAY ACTIVE	DFSIDP20
X'0C'	/DISPLAY QUEUE	DFSIDP30
X'10'	/DISPLAY TRAN LTERM	DFSIDP40
X'14'	/DISPLAY DB	DFSIDP50
X'18'	/DISPLAY LINE	DFSIDP60
X'1C'	/DISPLAY ASMT	DFSIDP70
X'20'	/DISPLAY CONV	DFSIDP80
X'24'	/DISPLAY SHUTDOWN	DFSIDP90
X'28'	/DISPLAY POOL	DFSIDPA0
X'2C'	/DISPLAY NODE	DFSIDPB0
X'30'	/DISPLAY ASMT LINK MSNAME SYSID MSPLINK	DFSIDPC0
X'34'	/DISPLAY LINK	DFSIDPD0
X'38'	/DISPLAY RTCODE	DBFCDCR0
X'3C'	/DISPLAY DBD	DBFCDDB0
X'40'	/DISPLAY PSB	DBFCDPS0
X'44'	/DISPLAY SUBPOOL	DFSIDPE0
X'48'	/DISPLAY SUBSYS OASN CCTL	DFSIDPF0
X'4C'	/DIS MODIFY	DFSIDPG0
X'50'	/DIS OLDS	DFSIDPH0
X'54'	/DIS AREA	DBFCDAR0
X'58'	/DIS HSB	DFSIDPI0
X'5C'	/DIS DB BKERR	DFSIDPJ0
X'60'	/DIS TRACE	DFSIDPK0
X'64'	/DIS HSSP	DBFPDHS0
X'68'	/DIS TIMEOVER	DFSIDPL0
X'6C'	/DISPLAY APPC DESC	DFSIDPM0
X'70'	/DISPLAY LUNAME TPNAME	DFSIDPN0
X'74'	/DISPLAY FPV	DBFCDVS0
X'78'	/DISPLAY PROGRAM	DFSIDPP0
X'7C'	/DISPLAY TRACKING STATUS	DFSIDPO0
X'80'	/DISPLAY AOITOKEN	DFSIDPQ0
X'84'	/DISPLAY OTMA	DFSIDPD0
X'88'	/DISPLAY FDR	DFSIDPZ0

0223 • 0225

以下の表は、レジスターについて説明しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=ICREATE の プール ID	ACTION1 および DOCREATE	これらのルーチンは両方ともラベル ACTION に無条件分岐し、ここで、フィールド SPADCALL 内の値に基づいて特定のアクション・モジュールに BALR します。アクション・モジュールから戻った時点で、アクション・モジュール内で作成されたメッセージの長さが出力バッファ・サイズより大きい場合、異常終了が発行されます。
Reg5=キュー・ バッファのアドレス Reg9=SPAD のアドレス		

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: このメッセージの原因となった端末のアクティビティを記録してから、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICLD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0223

説明: 正常に完了したコミットの直後に、DBT スレッドが DLI 呼び出しを発行しました。コミットは正常に完了しましたが、/DBD (DBDUMP) コマンドまたは /DBR (DBRECOVERY) コマンドが、スケジュール済みプログラム (PSB) に関連付けられた 1 つ以上のデータベースに対してアクティブであることが判明しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT5J 00001 G PLAPJK04(7) 000,0223 2014 +  
/280 11:13:06 RTKN= ODBA002500000005000000001
```

システムの処置: DLI 呼び出しは処理されませんでした。また、未処理のコマンド (複数の場合あり) を完了できるようにするために、DBT スレッドは異常終了しました。

プログラマーの応答: 問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別: 1、3、5、33、36

モジュール: DBFIRC10、DFSCPY00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0225

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DFSMSdss から無効な情報を受け取ったと判別すると、この異常終了を発行します。このユーティリティはメッセージ DFS3144A も発行し、問題がどのデータベース・データ・セットで起きたかを示します。

分析: 0225 は、モジュール DFSUDUI1 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に、終了の理由コードが入っています。理由コードには、以下の意味があります。

コード

説明

4 終了オプション 26 呼び出しで、DFSMSdss からの出力ボリューム通し番号が、ゼロであるか、無効です。

172 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

DFSMSdss が異常終了からリカバリーできた場合、ユーティリティーは他のデータベース・データ・セットの処理を続行します。ユーティリティーの実行による戻りコードは、8 以上になります。

システムの処置: DFSMSdss が異常終了から回復することができれば、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティー (DFSUDMT0) は、他のデータベース・データ・セットの処理を継続します。ユーティリティーの戻りコードは、8 またはそれより大です。

プログラマーの応答: 診断の補助として、DFSMS により発行される ADR nnn メッセージを検査します。ADR メッセージについては、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」を参照してください。解決方法を判断できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際、異常終了に関する資料を用意してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUDUI1

関連資料:

 z/OS: ADR メッセージ

関連情報:

 DFS3144A

0229

説明: 異常終了 0229 は、モジュール DFSRLP00 によって、次の理由で発行されます。

正常再始動コマンドまたは緊急時再始動 (非コールド・スタート・タイプ) コマンドが発行されたが、再始動のために使用されるログが、必要なリソース・ブロックを再構成するために必要なログ・レコードを検出することなく、ファイルの終わり (EOF) 処理に達した。

分析: 0229 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。EOF 条件により異常終了が発行された場合、レジスター 15 にアドレスが入っています。

考えられる原因: 必要なリソース・ブロックが入っている、必要なシステム・チェックポイント・ログ・レコードのセットが読み取られませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ログ・レコード・データ・セット (WADS/OLDS) が完全なものであり、IMS を再始動するための正しい順序になっていることを確認します。これが不可能な場合は、コールド・スタート・タイプの再始動を検討してください。

注: 制御領域の異常終了後に IMS のコールド・スタートの実行する場合は、データベースおよびトランザクション・マネージャーの保全性問題が存在する可能性があります。

問題判別: 1、25、30、35、40、LOGREC エントリー

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

0230

説明: この異常終了は、次の理由でモジュール DFSRLP00 によって発行されます。

- /ERE BLDQ コマンドが発行されたが、再始動に使用されたログが、チェックポイント・レコード (4099) の終わりが読み取られる前に、EOF に達しました。
- 再始動中に、MAIN (WKAP) ストレージ・プールから作業域用にストレージを獲得する試みが失敗しました。

分析: 0230 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。EOF 条件により異常終了が発行された場

0231

合、レジスター 15 にアドレスが入っています。作業域の獲得に失敗したために異常終了が発行された場合、レジスター 15 に、ストレージ要求の戻りコードが入っています。

考えられる原因: EOF 障害の場合、必要なチェックポイントが複数のボリュームにわたっており、2 番目のボリュームが読み取られなかった可能性があります。ストレージ要求障害の場合、MAIN (WKAP) プールのサイズが小さすぎて要求を満たせない可能性があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 以前のチェックポイントを指定して IMS を再始動するか、またはエラーの原因を判別してから再実行します。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0231

説明: IMS が CQS サブシステムと再同期をとることができませんでした。

分析: 0231 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

IMS の実行間での矛盾した EMHQ の使用についての詳細は、IMS 診断情報を参照してください。

レジスター 15 の異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

サブコード

説明

- 01 オペレーターが、メッセージ DFS3909A に対して ABORT を応答しました。
- 02 IMS が CQS から 0、4 以外の戻りコードを受け取りました。この戻りコードは、ダンプ内のレジスター 14 に示されています。
- 03 CQS と共に IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられたが、以前の IMS 実行で CQS はアクティブではありませんでした。CQS の使用法の変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 04 CQS なしに IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられたが、以前の IMS 実行で CQS はアクティブでした。CQS の使用法の変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 05 以前の IMS 実行でアクティブだったものとは異なる CQS と共に IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 06 以前の IMS 実行で使用されたものとは異なる CQS MSGQNAME を使用して、IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 07 以前の IMS 実行で使用されたものとは異なる CQS EMHQNAME を使用して、IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 08 前の IMS 実行で EMHQ 構造が使用されましたが、現在の実行では EMHQ 構造が使用されていません。または、IMS 実行で EMHQ 構造が使用されず、現在の実行で EMHQ 構造が使用されています。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。異常終了 0231 の原因が、IMS の実行間の矛盾した EMHQ の使用にある場合は、以下を行うことができます。
 - 現行の IMS 実行について、DFSSQxxx PROCLIB メンバー内の EMHQ ステートメントを追加または除去することで、PROCLIB メンバーが前の IMS 実行の EMHQ の設定に一致するようにする。

- 緊急時再始動用の /ERESTART COLDCOMM、あるいは EMHQ の使用を変更したい場合は、完全なコールド・スタート用の /NRESTART CHECKPOINT 0 のいずれかを使用して、コールド・スタートで IMS を再始動する。
- これにより、前の実行からの EMHQ に関するメッセージが廃棄されます。廃棄されるメッセージごとに、X'67D0' サブタイプ 11 トレース・ログ・レコードが書き込まれます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

 DFS3909A (メッセージおよびコード)

0233

説明: IMS は、現行リソース構造の使用を再開できませんでした。

分析: 異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

サブコード

説明

- 01 リソース構造付きで IMS のウォーム・スタートまたは緊急時再始動が試みられましたが、前の IMS の実行では、IMS の TM コンポーネントがリソース構造を使用していませんでした。この変更は、IMS の TM コンポーネントのコールド・スタート時にのみ行うことができます。
- 02 リソース構造なしで IMS のウォーム・スタートまたは緊急時始動が試みられましたが、前の IMS の実行では、IMS TM コンポーネントがリソース構造を使用していました。この変更は、IMS の TM コンポーネントのコールド・スタート時にのみ行うことができます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS でリソース構造を使用すべきかどうかを決定し、次に、リソース構造がリソース・マネージャーに正しく定義されているかどうかを判断します。IMS のリソース構造の使用法を変更する必要がある場合は、IMS のトランザクション・マネージャー・コンポーネントをコールド・スタートします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

0240

説明: メッセージ処理アプリケーション・プログラムが許容実行時間を超えました。この時間は、ダンプ処理で使用される処理時間があればその時間を含みます。この処理時間は、IMS システム定義で設定します。BMP の場合、この異常終了は CPUTIME= で指定された値を超えたことを示します。

分析: 0240 は、DFSPCC20 および DFSECP10 によって発行されます。DFSPCC20 によって発行された場合、レジスターはアプリケーションを指します。DFSECP10 によって発行された場合、レジスターはアプリケーションを指しません。この場合、レジスター 13 の逆チェーンは、目印「F1SA」で終了します。BAKR 命令によって作成されたリンケージ・スタックを使用して、異常終了時のアプリケーション・レジスターおよび PSW を取得します。

システムの処置: ストレージ・ダンプが作成され、従属領域のプログラム・コントローラーが再接続されます。BMP ステップの場合、そのステップは終了します。

プログラマーの応答: 「TRANSACT マクロ (システム定義)」の TRANSACT マクロを参照してください。

問題判別: 5、14

使用中のログ・データ・セット、およびユーザー変更の IMS モジュールがあればそのアセンブリー・リストを保管してください。

ソース: IMS 異常終了

0242 • 0249

モジュール: DFSPCC20、DFSECP10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0242

説明: システムは、以下の理由でこの異常終了を発行します。

- DIRCA パラメーター (BMP の場合) または PCB パラメーター (MPP の場合) に指定されているサイズが、スケジュールされる PSB を収容するには小さすぎます。
- デフォルト DIRCA サイズが、スケジュールされる PSB を収容するのに十分な大きさではありません。
- メッセージ領域の PCB パラメーターが十分な大きさではありません。
- コーディネーター制御 (CCTL) スレッド用の DIRCA の作成中に、データベース制御 (DBCTL) 内部エラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 によってエラーが検出された場合の標準異常終了です。

システムの処置: IMS 従属領域は異常終了し、進行中のプログラムは停止します。

オペレーターの応答: プログラムに対して /START コマンドを発行し、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。

プログラマーの応答: デフォルトの DIRCA サイズおよびその計算方法については、IMS システム定義情報を参照してください。DIRCA サイズの指定を増やします。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、8、9、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0243

説明: システムは、次のいずれかの理由で、この異常終了を発行します。

- IMS が APPC トランザクションをタイムアウトにしました。タイムアウト値は、APPCIOT=(XX) パラメーターで指定します。
- IMS は、満了した入力トランザクションを検出し、そのトランザクションを取り消しました。TRANSACT マクロ、IMS 宛先作成出口 DFSINSX0、または DRD タイプ 2 コマンド (CREATE/UPDATE TRAN コマンドなど) を使用して、OTMA メッセージ接頭語の中に、取り消されたトランザクションの満了時刻を指定できます。
- IMS は、アプリケーションの GU 時に、OTMA クライアント記述子内の MAXTP= パラメーターで定義されている T パイプの最大数に達していることを検出しました。そのため、IMS は、新しい T パイプを要求した OTMA 入力トランザクションをキャンセルしました。OTMA クライアント記述子に TODUMP=YES または TODUMP=U243 が指定されているため、システムは、この異常終了を発行しました。

システムの処置: ストレージ・ダンプが作成され、従属領域のコントローラーが再接続されます。

ソース: IMS 異常終了

0249

説明: バッチ環境での内部のジョブ終了状況呼び出し中に、無効な状況コード (STATUSGA またはブランクでない) が DL/I テスト・プログラム DFSDDLTO に戻されました。DFSVSAMP DD カードで VSAM バッファの指定がないと、状況呼び出しで STATUSGE となり、ABU249 オプションが指定されている場合は、DFSDDLTO から異常終了 0249 が発行されます。

分析: この異常終了は、バッチ環境で DFSDDLTO (DL/I テスト・プログラム) によって発行されます。すべての

DFSDDLTO 制御ステートメントが処理された後、DFSDDLTO は内部でジョブ終了状況呼び出しを発行します。DFSCLA00 (DL/I 呼び出しアナライザー) は、OSAM および VSAM バッファースtatisticsのために DFSDVH0 (バッファ・ハンドラー) を呼び出します。DFSVDH0 からの戻りコード (レジスター 15) がゼロ以外です。

DFSCLA00 は DBPCBSTC を「GE」(STATUSGE) に設定し、それを DFSDDLTO に戻します。DFSDDLTO は DBPCBSTC がブランクまたは「GA」であるかどうかを検査します。DBPCBSTC がブランクでないとき、ユーザーが ABU249 オプションを指定した場合は、0249 が発行されます。ABU249 オプションを指定しなかった場合は、状況呼び出しの出力の印刷はバイパスされます。

オンライン環境では、ジョブは 0479 で終了します。DFSCLA00 は異常終了を発行し、状況呼び出しを終了するために DFSDDLTO に戻りません。

考えられる原因: ユーザーが DFSDDLTO オプション・ステートメントに ABU249 をコーディングしており、DFSDDLTO が内部のジョブ収集状況呼び出し中に無効な状況コードを受け取りました。

重要: DFSVSAMP DD ステートメントで VSAM バッファアの指定がないと、状況呼び出し時に STATUSGE となり、ABU249 オプションがコーディングされている場合には、DFSDDLTO から 0249 が発行されることになります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: ダンプ内で PSTRTCODE を見つけて、エラーの原因を判別します。

問題判別: 17a、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLTO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0250

説明: DL/I テスト・プログラム DFSDDLTO がセグメント入出力域として使用されるエリアのために条件付き GETMAIN マクロを発行しました。オンラインで実行する場合、必要なサイズは 32732 バイトです。バッチで実行する場合、サイズは、ブロックが PSB 用に構築されるときに決定される最大入出力長です。要求されたストレージが利用不能でした。

分析: これは、モジュール DFSDDLTO によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: このステップに対してより大きな領域サイズを指定して、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLTO

第 10 章 IMS 異常終了コード 0251 - 0300

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0251

説明: IMS は、バッチ用の DL/I テスト・プログラムで使用されるデータ・セットのいずれかをオープンできません。障害が SYSPRINT データ・セットのオープン時に発生したのでない限り、SYSPRINT データ・セット上のメッセージが、オープンできなかったデータ・セットの DD 名を示しています。

分析: 0251 は、DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDL0) から発行される標準異常終了です。SYSIN、SYSPUNCH、または SYSPRINT 用の DCB をオープンできないために、異常終了が発行されます。

障害が SYSIN または SYSPUNCH のオープンにある場合、異常終了の前にメッセージが SYSPRINT データ・セットに書き込まれます。

SYSPRINT データ・セットからの出力 (使用可能な場合) と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。以下の表は、レジスター情報を提供しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FB' Reg3=SYS2NDCB の アドレス Reg9=SYSINDCB の アドレス	ISBATCH	SYSIN DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、ラベル NOOPEN にあるルーチンに分岐して、完了コードを移動し、印刷データ・セットにメッセージ「ABEND 251 ISSUED DUE TO UNSUCCESSFUL OPEN OF DDxxxxxxx」を書き込みます。次に、異常終了するために、ラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。
Reg1=完了コード、 X'800000FB'	ISBATCH	PRINT DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、レジスター 1 に異常終了コードがロードされ、異常終了が発行されます。印刷データ・セットは利用不可であるため、メッセージは出されません。
Reg1=完了コード、 X'800000FB' Reg9=PUNCH DCB のアドレス	CDONE	PUNCH DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、ラベル NOOPEN にあるルーチンに分岐して、完了コードを移動し、印刷データ・セットにメッセージ「ABEND 251 ISSUED DUE TO UNSUCCESSFUL OPEN OF DDxxxxxxx」を出します。次に、異常終了するために、ラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。

システムの処置: IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: そのデータ・セット用の DD ステートメントを用意してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、4、20

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL0、DFSDDL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0252

説明: DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) が以下の理由でこの異常終了を発行することがあります。

- 入力制御カードの桁 1 から 5 に ABEND を指定することによって、異常終了が要求された。
- 終了前に統計情報を収集するために STAT 呼び出しが発行された後で、不明な戻りコードを受け取った。
- IMS メッセージ・キューへのメッセージ ISRT 呼び出しの後で、不明な戻りコードを受け取った。このジョブの JCL に PRINTDD ステートメントがありませんでした。

分析: バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDLTO) を実行中に、異常終了を要求している制御ステートメントが検出されています。

0252 は DL/I テスト・プログラムからの標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの出力 (使用可能な場合) と共に、異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

この異常終了は、ユーザーによってコーディングされて要求されており、主に診断の目的で使用されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FC' Reg3= メッセージ書き込み機能への BAL	NOTWTSR	フィールド CARDID をテストして、ユーザーが特殊な制御ステートメントを使用して異常終了を要求したかどうかを調べます。そうである場合は、メッセージ「ABEND 252 ISSUED DUE TO ABEND CONTROL CARD 'PRINTDD'」を発行するためのルーチンに分岐し、次に、異常終了するためにラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。

システムの処置: IMS バッチ領域または従属領域は、異常終了 0252 で異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了を要求した場合、異常終了は期待通りの結果です。STAT 呼び出しで異常終了が発生した場合、最初のデータベース PCB に戻りコードが含まれています。メッセージ・キューへの ISRT 呼び出しで異常終了が発生した場合、入出力 PCB に戻りコードが含まれています。戻りコードの原因を判別し、エラーを訂正してからジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL0、DFSDDLTO

0253

説明: DL/I テスト・プログラムによって読み取られる最後の状況ステートメントの桁 16 から指定されたデータベース PCB の名前が、PSB 内のどのデータベース PCB と一致しません。

分析: 0253 は、バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の DFSDDLTO) から発行される標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの出力と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FD' Reg3= メッセージ書き込み機能への BAL Reg5=PCB アドレス	NOTPCB	レジスター 5 をテストして、アドレスが最後の PCB (負のレジスター) のものであるかどうかを調べます。これが最後のものであり、要求された PCB が検出されなかった場合は、メッセージ「DBDxxxxxxxx DOES NOT EXIST-ABEND 253 'PRINTDD」を発行するために、NOFOUND にあるルーチンに分岐します。異常終了するために、ラベル EPILOGUE に RETURN する分岐を行います。

考えられる原因: 状況制御ステートメント内の PCB 名を検査して、それが JCL の //EXEC ステートメントで指定された PSB 内の PCB 名と同じであるかどうかを確認します。

オンライン/BMP トランザクションが、生成された PSB (GPSB) を処理しようとした可能性があります。指定された PSB が GPSB であるかどうか確認してください。

システムの処置: IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 状況制御ステートメント内の PCB 名が、EXEC ステートメントで指定された PSB 内のデータベース PCB 名と比較して正しいかどうかを確認します。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、4、18、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL0、DFSDDL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0254

説明: DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 が、DL/I によって使用されるデータ・セットのいずれかがオープンできなかったことを示す AI 状況コードを受け取りました。出力データ・セット上のメッセージが、オープンできなかったデータ・セットの DD 名を示しています。

分析: 0254 は、バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDL0) からの標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの印刷出力と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FE' Reg3= メッセージ書き込み機能への BAL Reg9=PCB アドレス	ONLINE18	呼び出しからの戻りコードで、AI 状況コード (データ管理 OPEN 障害 (任意のデータベース OPEN 障害) を示している) について比較が行われます。AI が戻された場合、印刷データ・セットにメッセージ DATA MANAGEMENT OPEN ERROR-ABEND 254 が出力され、異常終了するために、ラベル EPILOGUE に RETURN する分岐を行います。

システムの処置: IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: AI 状況コードの考えられる原因については、DL/I 状況コード情報を参照してください。

問題判別: 2、3、4、18、19、20

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL0、DFSDDL0

関連資料:

 DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0255

説明: DL/I テスト・プログラム (DFSDDL0) で、指定された比較不一致の限界に達しました。バッファ・ハンドラーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析: 0255 は、モジュール DFSDDL0 によって発行される標準異常終了です。以下は、DSECT PST 内のバッファ・ハンドラー戻りコードのリストです。

PSTRTCDE	DC	1XL1'00'	呼び出しの状況
PSTCLOK	EQU	X'00'	EVERYTHING SATISFACTORY
PSTGTDS	EQU	X'04'	RBN BEYOND DATA SET
PSTRDERR	EQU	X'08'	PERMANENT READ ERROR
PSTNOSPC	EQU	X'0C'	NO MORE SPACE IN DATA SET
PSTBDCAL	EQU	X'10'	ILLEGAL CALL
PSTENDDA	EQU	X'14'	END OF DATA SET ENCOUNTERED *NO RECORD RETURNED
PSTNOTFD	EQU	X'18'	REQUESTED RECORD CANNOT BE FOUND
PSTNWBLK	EQU	X'1C'	NEW BLOCK CREATED IN BUFFER POOL
PSTNPLSP	EQU	X'20'	INSUFFICIENT SPACE IN POOL
PSTTRMNT	EQU	X'24'	USER MUST TERMINATE. NO SPACE IN POOL
PSTDUPLR	EQU	X'28'	LOGICAL RECORD ALREADY IN KSDS
PSTWRERR	EQU	X'2C'	PERMANENT WRITE ERROR
PSTBUFIN	EQU	X'30'	BUFFER INVALIDATED
PSTBIDIN	EQU	X'34'	UNABLE TO ACQUIRE BID/B
PSTPDERR	EQU	X'38'	UNABLE TO LOCATE DDIR/PDIR ENTRY
PSTNOSTO	EQU	X'3C'	STORAGE NOT AVAILABLE

この異常終了と共に、メッセージ DFS255 が戻されました。

考えられる原因: RCF、SGN、TRN、または ISIS に対して無効値が指定されました。

システムの処置: IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL0

関連情報:

 DFS255

0256

説明: 緊急時再始動時に、会話の通信再始動プロセッサが X'11' ログ・レコードの処理中にエラーを検出しました。この問題は、IMS システムへの変更が原因である可能性があります。

分析: この異常終了は、緊急時再始動時の会話開始 (タイプ X'11') ログ・レコードの再処理中に、IMS/VS 通信再始

動プロセッサ (DFSCRVP0) から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題を切り分けるのに役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg2=タイプ X'11' ログ・レコードのアドレス Reg9=RESTART ECB のアドレス Reg11=SCD のアドレス Reg15=DFSCONS0 からの戻りコード	CRPV11	レジスター 15 をテストして、DFSCONS0 からの戻りコード (会話ブロック用の DFSBCB FUNC=GET からの戻りコード) を調べます。ゼロ以外の戻りコードの場合、異常終了になります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 元の問題が発生したときにスケジュールされていた PSB ごとに、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行します。その後で、IMS をコールド・スタートします。

プログラマーの応答: この問題を起こした変更内容を判別します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCRVP0

0257

説明: 緊急時再始動で X'11' または X'12' ログ・レコードを処理しているときに、VTAM 端末制御ブロックのスキャン中にエラーが発生しました。この問題は、IMS システムへの変更が原因である可能性があります。

分析: 0257 は、モジュール DFSCRVP0 によって発行される標準異常終了です。

レジスター 2 に、ログ・レコードのアドレスが入っています。ログ・レコードには、ノード名と、ノードが LU6 である場合は、VTAM 端末制御ブロックのスキャンに使用されたサブプール名が入っています。

DSECT LCONVERS (ILOGREC マクロの一部) で、以下のフィールドを定義しています。

LCONNODE

ノード名

LCONHSQN

サブプール名

考えられる原因: この問題はおそらく IMS システムへの変更が原因です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 元の問題が発生したときにスケジュールされていた PSB ごとに、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行します。その後で、IMS をコールド・スタートします。

プログラマーの応答: この問題を起こした変更内容を判別します。

問題判別: 4、5、12、14

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCRVP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0258

説明: この異常終了は、緊急時再始動中に /HOLD または /RELEASE コマンド・プロセッサ (DFSICLH0) でエラーが検出されたか、あるいはチェックポイント・ロガー (DFSRCP30) でエラーが検出されたことが原因です。

分析: これは、緊急時再始動中に /HOLD または /RELEASE コマンド・プロセッサによって発行される、あるいは

0260

は SPA データ・セット内のディスク SPA の読み取りまたは書き込み時の OSAM エラーによりチェックポイント・ロガーによって発行される、標準異常終了です。

以下の表に示すように、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題を切り分けるのに役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg6=CCB のアドレス Reg9=CCB/DECB のアドレス Reg15=OSAM 戻りコード: 04=入出力が異常終了した 08=入出力が開始されなかった	SPAERR	レジスター 15 をテストして、OSAM からの戻りコードを調べます。ゼロ以外の戻りコードの場合、異常終了になります。DECBSTAT に追加情報が入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICLH0、DFSRCP30

0260

説明: IMS へのアプリケーション・プログラム呼び出しのパラメーター (USING リストで指定されたデータ項目) の数が、許容限度である 18 を超えています。この異常終了は、チェックポイント呼び出しが使用され、指定されたパラメーターの数が少なすぎる場合、ユーザー指定域の数が XRST 呼び出しで指定された数を超えている場合、あるいはユーザー域パラメーターが対 (ダンプされるエリアごとに、長さおよびアドレス) になっていない場合にも発生する可能性があります。

この異常終了は、次のいずれかの理由で出されます。

- IMS に対するアプリケーション・プログラムからの呼び出しのパラメーターの数が、許容限度の 18 を超えたか、または 0 である。
- チェックポイント呼び出しが使用されたが、次の説明のいずれかが当てはまる。
 - 指定されたパラメーターが少なすぎる。
 - ユーザー指定域の数が、XRST 呼び出しで指定された数を超えている。
 - ユーザー域パラメーターが対 (ダンプするエリアごとに、長さおよびアドレス) になっていない。
- アプリケーション・プログラムが DL/I 機能コードをオーバーレイしたため、最初の文字が英数字でなくなった。この問題により、このフィールドはカウント・フィールドとして扱われます。

分析: 0260 は、MPP アプリケーション環境コントローラー DFSECP10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。ここで発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル EC1ABEND 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000104'	EC1ABEND	DFSLIE00 または DFSLIE20 が、呼び出しパラメーター・リストが長すぎることを検出しています。疑似異常終了コードが設定され、DFSECP10 が異常終了を発行します。

DFSECP20 の場合:

この異常終了が BMP 環境コントローラー DFSECP20 によって発行される場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル EC2ABEND 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000104'	EC2ABEND	DFSLIE00 または DFSLIE20 が、呼び出しパラメーター・リストが長すぎることを検出しています。疑似異常終了コードが設定され、DFSECP20 が異常終了を発行します。

DFSPR000 の場合:

この異常終了は、バッチ・アプリケーション・プログラム要求ハンドラー DFSPR000 によって発行される可能性があります。ここで発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指しています。

このモジュールからの 0260 異常終了はすべて、エラー条件を検出したルーチンによるラベル PRAB1 への条件付きブランチの結果です。

レベルを決めるために、モジュール DFSPR000 には以下のラベルがあります。

PRLAN
PRIMP
PRCHKPP
PRCPX
LENXLOOP

システムの処置: オンライン従属領域または独立型バッチ領域は異常終了します。その他の IMS 領域は影響を受けません。

プログラマーの応答: 問題がパラメーターの数の誤りである場合、フォーマットおよび内容に準拠するように、アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しを訂正します。

シンボリック・チェックポイント呼び出しを使用している場合、ユーザー指定域の数が、XRST 呼び出しで指定された数を超えないようにします。

アプリケーション・プログラムが DL/I 機能コードをオーバーレイした場合、アプリケーション・プログラムを訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

0261

説明: アプリケーション・プログラム呼び出しの USING リストで IMS に渡された値のいずれかが無効です。対象のマシン・サイズを超えているか、アライメント要件を満たしていないか、またはストレージ保護境界に違反しています。

アプリケーション・プログラムから IMS への DL/I 呼び出しで、アプリケーション・プログラムの USING リストで渡されたパラメーターのいずれかが無効です。対象のマシン・サイズを超えているか、アライメント要件を満たしていないか、またはストレージ保護境界に違反しています。

障害の原因として、次のものが考えられます。

- 呼び出しは AIB を必要とするが、AIB が用意されていない。
- DL/I 呼び出しのパラメーター・カウントが無効である。
- 無効な PCB が IMS により検出された。以下に例を示します。
 - PL/I プログラムが PSB と対応しない。
 - CMPAT パラメーターが誤って指定されている。アプリケーション・プログラムが IOPCB を使用するように設計されている場合、このプログラムを DL/I バッチ領域で実行するには、PSBGEN ステートメントで CMPAT=YES を指定する必要があります。
 - GSAM 入力データ・セットの DD ステートメントの DCB 情報が不適切である。

分析: 0261 は、モジュール DFSCDLI0、DFSPR000、DFSECP10、または DFSECP20 から発行される可能性がある標

0261

準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。

0261 異常終了になる可能性がある条件は、次のとおりです。

- パラメーター・リスト・アドレスがワード境界にない。
- パラメーター・リスト・アドレスが主記憶域の外側である。
- パラメーター・リスト・アドレスが中核 (保護) 境界に違反している。
- AERTDLI への呼び出しで AIB が提供されなかった。
- DL/I 呼び出しリストに AIB のアドレスが含まれていない。

DFSCDLI0 の場合:

これは、ODBA 言語インターフェース・モジュール DFSCDLI0 AERTDLI によって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールから発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である DFSCDLI0 AERTDLI 内の命令を指しています。

異常終了が発行される可能性がある理由は、次のとおりです。

- AERTDLI への呼び出しで AIB が提供されなかった。
- DL/I 呼び出しリストに AIB のアドレスが含まれていない。

以下は、DL/I 呼び出しリストのフォーマットです。

- オプションの parmcount
- DL/I 呼び出し機能
- AIB
- 追加の呼び出しパラメーター

DFSECP10 と DFSECP20 の場合:

パラメーター・リストがフルワード境界にありません。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000105'	EC1ABEND EC2ABEND	DFSLIE00 または DFSLIE20 は、ユーザー・パラメーター・リストがフルワード境界にないことを検出し、疑似異常終了コードを設定します。DFSECP10 および DFSECP20 が異常終了を発行します。

DFSPR000 の場合:

このモジュールから発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指しています。

このモジュールからの 0261 異常終了はすべて、エラー条件を検出したルーチンによるラベル PRAB2 への条件付きブランチの結果です。

キー	ラベル	説明
Reg2=PXPARMS (DFSPRPX0) dsect のアドレス	PRSTAERN	ユーザー・パラメーター・リストがワード境界にあるかどうかを調べるためのテストが行われます。ワード境界にない場合、異常終了を処理するために、PRAB2 に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg4=最高のマシン・アドレス Reg6=パラメーター・リスト内の アドレスを指す Reg7=最低の非中核アドレス (動的区域)	VCHK3	レジスター 4 とレジスター 6、およびレジスター 6 と レジスター 7 の間で比較が行われます。パラメーター・ リスト内のアドレスが最高マシン・アドレスより高い場 合、またはパラメーター・リスト内のアドレスが中核境 界より低い場合、異常終了を処理するために PRAB2 に 分岐します。

システムの処置: オンライン従属領域または独立型バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 正しいフォーマットおよび内容に準拠するように、DL/I 呼び出しリストを訂正します。

1. アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しステートメントを訂正します。
2. ENTRY 制御ステートメントを付けて、アプリケーション・プログラムを再バインドします。

問題判別: 4、17d

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCDLI0、DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0262

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラムが、XD 状況コードを受け取った後で DL/I 呼び出しを発行しました。XD 状況コードが設定された理由は、IMS システムがチェックポイント・フリーズ・シャットダウン処理中に、プログラムが DL/I チェックポイント呼び出しまたは SYNC 呼び出しを発行したためです。

分析: DL/I チェックポイント呼び出しまたは同期呼び出しで状況コード XD が戻され、アプリケーション・プログラムが別の DL/I 呼び出しを発行しないように警告しています。アプリケーション・プログラムで、DL/I 呼び出しシーケンスを確認してください。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 最初に、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。IMS システム再始動のとき、DL/I チェックポイントからバッチ・メッセージ処理プログラムを再始動することができます。

プログラマーの応答: これは、アプリケーション・プログラムのエラーです。アプリケーション・プログラムが他の DL/I 呼び出しを発行しないように警告するため、DL/I チェックポイント呼び出しで状況コード XD が戻されました。アプリケーション・プログラムを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP20

0263

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム・スレッドで、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに対して無効な呼び出しが行われました。この異常終了が、入出力プログラム連絡ブロック (IOPCB) に対して呼び出しを発行しているときに発生した場合、呼び出しはエラーになっていました。その他の場合、この異常終了は IMS 内部エラーです。

分析: 0263 は、疑似異常終了です。

スレッド SDUMP の SSOB ブロック内の SSPDCODE フィールドに、原因が示されています。

SSPDCODE	Module	理由
ICAL	DFSDPRH0	IOPCB を使用している場合、DL/I 呼び出しリスト内の機能が無効です。
RINV	DFSDPRH0	これは、内部データベース・リソース・アダプター (DRA) エラーです。DRA が生成および要求した同期点機能番号が無効です。
	DFSDCPY0	どちらのコードもフィールド SSPDCODE がない場合は、要求された同期点番号が無効です。これは、内部 IMS エラーです。

システムの処置: CCTL スレッドが終了します。

プログラマーの応答: CCTL スレッドの SNAP または SDUMP を行います。

問題判別: 38

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDPRH0、DFSDCPY0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0265

説明: DFSIAF20 によって内部エラーが検出されています。同期点処理のために DFSIAF20 に入ったときに、PSTSYNFC に含まれていた値が DFSIAF20 に対して無効でした。この異常終了は、次のいずれかの状態が起きたときに発生します。

- SPOOL/API 処理ルーチンでインターフェース・エラーが発生した。
- SPOOL/API 処理ルーチンで同期点 PCB アドレッシング・エラーが発生した。

分析: 0265 は、DFSIAF20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害が起きたモジュールを分離します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND265 内の命令を指しています。以下のレジスターは、無効な機能および呼び出し元を分離するために使用できます。

キー	ラベル	説明
Reg10=機能 コード	ABEND265	DFSIAF20 に無効な機能コードが渡されました。DFSIAF20 の保管域のレジスター 14 が、呼び出し側モジュールを指しています。

考えられる原因: コーディングの変更またはユーザー変更を確認してください。

システムの処置: IMS アプリケーション領域は異常終了します。

問題判別: 1、3、4、5、8、11、27

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIAF20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0271

説明: チェックポイント操作中、バッファをページしているときに入出力エラーが検出されました。正常でないデータ・レコードがデータ・セット内に残っている可能性があるため、GSAM は異常終了します。

分析: データ・セットについての詳細は、メッセージ DFS0530I を参照してください。

システムの処置: GSAM は異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZDC00

関連情報:

 DFS0530I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0272

説明: フォーマット設定が無効な BSAM 可変長レコードであることを示す AF 状況コードを受け取った後で、アプリケーション・プログラムが、GSAM を再初期設定せずに GSAM データ・セットへの呼び出しを発行しました。

分析: AF 状況コードが戻された時点で、無効なレコードを含んでいるデータ・セットの DD 名を示したメッセージ DFS0768I が出されました。GSAM 制御ブロックおよび無効なレコードを含んでいるバッファが、IMSERR または SYSPRINT データ・セットに書き込まれました。

システムの処置: GSAM は異常終了します。

プログラマーの応答: 詳しくは、メッセージ DFS0768I を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZDC00

関連情報:

 DFS0768I

0273

説明: XRST 呼び出し中に、GSAM データ・セットを位置変更しているときにエラーが検出されたか、または元の実行と未遂の再始動の実行との間で GSAM DCB に矛盾 (BLKSIZE/LRECL) があります。影響を受けたデータ・セット内の位置が予測不能であるため、GSAM は異常終了します。

分析: GSAM 制御ブロック DSECT を印刷した後で、IMSERR または SYSPRINT 出力に対する GSAM 制御ブロック・ダンプを使用して、非ブランクの状況コードをもつ GSAM PCB を判別します。

システムの処置: 影響を受けたデータ・セット内の位置が予測不能のため、GSAM は異常終了します。

プログラマーの応答: GSAM 制御ブロックの分析に使用するため、GSAM 制御ブロック DSECT (SDFSMAC 内のメンバー名 IGLI) を印刷します。エラーの理由を判別して訂正してから、障害のあったジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZDC00

0274

説明: モジュール DFSSBIO0 とその呼び出し元との間で、予期しないインターフェース・エラーが発生しました。

分析: 0274 は、DFSSBIO0 によって発行される標準異常終了です。IMS 機能の要求に応じて、DFSSBIO0 が複数の連続ブロックの読み取り入出力操作を開始し、入出力操作の完了を待ちます。DFSSBIO0 の呼び出し元は、入出力操作の連続ブロックの範囲を示す SRAN 制御ブロックのアドレスを提供する必要があります。DFSSBIO0 の呼び出し元は、入出力操作に関与する SRAN 制御ブロックを所有する PST の下で実行されているモジュールでなければなりません。

キー	ラベル	説明
Reg7=SRAN のアドレス Reg6=SRAN を所有する SDSG のアドレス SDSGPSTA=SDSG/SRAN を 所有する PST のアドレス Reg10=DFSSBIO0 の 呼び出し元の PST のアドレス Reg14 (呼び出しモジュールの 保管域内)= 呼び出し元の リターン・アドレス	AB0274	DFSSBIO0 は、呼び出しに 関与する SRAN および SDSG を所有する PST が、 DFSSBIO0 を呼び出して いるモジュールの PST に 等しいかどうかを調べ ます。(SDSGPSTA がレジ スター 10 と比較され ます。)

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 詳しい診断情報については、上記の『分析』を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBIO0

0275

説明: IMS が、順次バッファリング (SB) 制御ブロックおよびエリアのスナップ・メモリー・ダンプを作成するのに必要なエリアを獲得できませんでした。この異常終了と共に、メッセージ DFS2350I が発行されます。

分析: 0274 は、モジュール DFSSBSN0 によって発行される疑似異常終了です。DFSSBSN0 は、呼び出し元 IMS モジュールからの SNAP 要求を処理するために、作業域が必要です。作業域がまだ獲得されていない場合、DFSSBSN0 は、作業域を獲得するために DFSSBGM0 を呼び出します。DFSSBGM0 が IMODULE/DFSQCSS マクロによる作業域の獲得に失敗すると、DFSSBSN0 は DFSSBGM0 から制御を再取得した後で、異常終了を要求します。

キー	ラベル	説明
Reg7=SBPST のアドレス Reg15=0	DFSSBSN0	SBPST には、DFSSBGM0 を 呼び出す DFSSBSN0 の呼 び出しパラメーターが入 っています。DFSSBGM0 が、 レジスター 15 に作業域 アドレスではなくゼロを 戻す場合、DFSSBSN0 は 異常終了を要求します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2350I にある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBSN0

関連情報:

 DFS2350I

0288

説明: HISAM 再編成アンロードまたは再ロード・ユーティリティ (DFSURUL0 または DFSURRL0) への入力として、高速機能副次索引データベース (FPSI DB) が使用されました。これらのユーティリティは高速機能副次索引データベースをサポートしていません。詳しくは、メッセージ DFS0288E を参照してください。

分析: REG15 の理由コード X'00000008' を伴う異常終了 0288 は、モジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この終了に伴って、メッセージ DFS0288E が出されます。

システムの処置: バッチ・ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答: 適切なユーティリティを使用して、高速機能副次索引データベースの再編成またはリカバリーを行います。FPSI DB を再編成するには、IDCAMS REPRO で十分です。FPSI DB をリカバリーするには、IMS リカバリー・ユーティリティ、DFSURDB0 を使用するか、または任意の IMS ベンダー製品の索引ビルダー・ツールを使用します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0288E (メッセージおよびコード)

0300

説明: ユーティリティ制御機能 (UCF) の制御下で実行中に、ユーザーが異常終了を発生させるように要求したメッセージが生成されました。

この異常終了は、診断の補助としてユーザーによって要求された場合にのみ、UCF 内でモジュール DFSUCP40 によって発行されます。DFSUCF00 のプロシージャに SYSABEND または SYSUDUMP DD ステートメントが組み込まれていた場合、ダンプが生成されます。

分析: DFSUCP40 は、UCF 下で実行中かつ診断メッセージを書き込んだ後でのみ、0300 を発行します。エラー・ポイント異常終了は、2 つの方法のいずれかで呼び出されます。

- REQUEST=MSGALL が、FUNCTION=OP 制御ステートメントでコーディングされたか、UCF 未解決 WTOR への応答として入力された (これは、任意の A または W タイプ・メッセージの時点での異常終了を要求します)。
- MSGNUM=(CCC,...) が FUNCTION=OP 制御ステートメントでコーディングされた (これは、1 つ以上の特定のメッセージの時点での異常終了を要求します)。

ダンプ出力を分析すると、DFSUCP40 を呼び出したモジュールにさかのぼることが可能なはずですが、そこに達すると、示されたメッセージの原因および妥当性を判別することができます。0300 でトラップできるメッセージの大多数は各種の IMS ユーティリティから開始されますが、一部のものは UCF の内部で発行されることに注意する必要があります。また、DFSUCP80 に含まれているメッセージのみトラップできることにも注意してください。ユーティリティは、UCF のサブタスクとして実行されます。「ブートストラップ」モジュール DFSUCPB0 が接続され、このモジュールが要求されたユーティリティ・モジュールをロードします。

異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、レジスター 13 を見つけます。このレジスターには、呼び出し元の保管域データ・セットへのポインターが入っています。レジスター 14 から 12 は、レジスター 13 プラス C に保管されます。以下のレジスターは、呼び出し元の保管域データ・セットに関連しています。

レジスター 15 は、DFSUCP40 の入り口へのポインターです。この同じリテラルのこのアドレス + 5 を検査します。これにより、正しい保管域データ・セットであるかどうかを確認できます。レジスター 14 は BAL であり、呼び出し元のリターン・アドレスを指します。この呼び出し元モジュールが、診断メッセージを発行しました。レジスター 12 は、呼び出し元の基底レジスターです。レジスター 1 は、DFSUCP40 に渡されるパラメーター・リストへのポインターです。パラメーター・リストは、ダブルワードの長さです。最初のワードには、メッセージ番号を定義する 1 バイトのフラグと、パラメーター・マージ・リストの 3 バイトのアドレスが入っています。2 番目のワードは UCFMVEC CSECT へのポインターです。この CSECT はモジュール DFSUCP70 で定義されており、UCF モジュールによって共通作業域または共通ベクトル域として使用される、事実上 1 つの大きな制御ブロックです。

考えられる原因: 0300 でトラップされる可能性があるメッセージは 100 を超えるため、ここですべてを詳しく取り上げることは不可能です。一般に、障害には 2 つの原因があります。

- ユーザー・エラー。おそらく、UCF 制御ステートメントの欠落または無効、DD ステートメントの欠落、またはその他のエラーです。

- UCF またはユーティリティ・ソフトウェア・エラー。特定のメッセージの理由を分析しているときに、ソフトウェア・エラーと判断されることがあります。必要な文書はすべて、異常終了 0300 メモリー・ダンプに含まれているということもあり得ます。しかし、UCF は、DFSCNTRL DD ステートメントで記述されたデータ・セット内のさまざまなユーティリティで必要とされる SYSIN を作成します。これは、2 つの機能インターフェース・モジュール DFSUCP60 または DFSUCPA0 によって行われます。これらの 2 つのモジュールは、ユーティリティを開始させる ATTACH マクロも発行します。さらに詳しい診断を行うためには、アタッチ・ポイントでのプログラム・チェック・トラップ、あるいは正常でない SYSIN データ・セットが疑われる場合は、APAR 文書が必要になることがあります。DFSCNTRL データ・セットの印刷出力も含めてください。

システムの処置: ユーティリティ制御機能は終了し、SYSUDUMP または SYSABEND データ・セット上にストレージ・ダンプが生成されます。

プログラマーの応答: ダンプの目的が達成されたかどうかを検証します。このダンプは診断に使用されます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUCF00、DFSUCP40

第 11 章 IMS 異常終了コード 0301 - 0350

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0302

説明: データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティ DF SURDB0 の実行中に、リカバリー不能エラーが発生しました。

分析: 0302 は、データベース/データ・セット・リカバリー・ユーティリティ DF SURDB0 の DL/I ユーティリティから発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題分離に役立ちます。

0302 異常終了のほぼすべてにおいて、異常終了の前に IMS メッセージが出されます。そのメッセージはプログラム出力で見つけることができ、ユーザーが指定した場合は、システム・コンソールにも出力されます。

この異常終了が発生する可能性があるのは、ユーザーの SYSIN ストリームに異常終了オプションが含まれており、かつリカバリー・モジュールの内部サブルーチンによって ABORT エラー・スイッチが設定されている場合に限られます。この異常終了は主に診断用であり、ABNDTST のラベルが付いたルーチンへの分岐リンク (BAL) の結果として発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABNDTST 内のエリアを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSCANC #@LB92	このサブルーチンは、制御ステートメントを読み取り、そのフォーマットを検査します。列 1 の最初の文字が制御ステートメントを示す「S」であるかどうかを調べるための比較も行われます。「S」でない場合、メッセージ DFS302A が書き込まれ、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンのときは、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、それが原因でこの異常終了が発行されます。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSCANC #@LB93	データベース記述 (DBD) 名について、制御ステートメントの列 4 から 11 と比較されます。これがブランクの場合、メッセージ DFS304A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンであるため、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、異常終了が発行されます。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSCANC #@LB95	この比較は、データベースの DD 名について、制御ステートメントの列 13 から 20 に対して行われます。これがブランクの場合、メッセージ DFS307A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンであるため、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg2=DBD 接頭部のアドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBDL #@120	このサブルーチンは、リカバリーするデータベースを見つけるために、DBDLIB をオープンします。DBD 接頭部のアクセス方式フィールドと比較して、値が X'0F' より小さいかどうかを調べます。値がこれより大きい場合、このデータベースは不明の編成を持っていることを示しており、メッセージ DFS316A が出されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了するために TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg2=DBD 接頭部のアドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBDL #@LB114	アクセス方式が VSAM でない場合、このサブルーチンに分岐します。値が X'07' より大きくないかどうかを調べるために、比較が行われます。値はこれより大きい VSAM ではない場合は、エラーがあり、メッセージ DFS316A が出されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、これにより、異常終了するためにラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBDL #@LB134 CASE3	制御ステートメントの DBD「dbdname」フィールドで DD 名を見つけることができませんでした。メッセージ DFS306A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。これにより、異常終了を発行するために、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBDL #@LB112	制御ステートメントの列 4 から 11 で指定された DBD 名が、DBDLIB 内で見つかりませんでした。メッセージ DFS305A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=DCB アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBDL #@LB110	フィールド DCBOFLGS をテストして、DBDLIB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、メッセージ DFS301A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定され、これにより、異常終了するために TCBFSA 内のルーチンがラベル ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUOPN #@LB188	IDUCSTRT にあるルーチン内の DEVTYPE マクロ展開から、戻りコード X'04' を受け取りました。これは、装置タイプ障害 (DD 名がない) を示しています。メッセージ DFS315A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。ルーチン IDCUSTRT は、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=CUM DCB アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBCUPN	CUM DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、NOSYSIN に分岐し、メッセージ DFS301A を出力して、ABORT エラー・スイッチを設定します。異常終了を発行するために、COPNSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUHDR (BADDMPID)	EODUMP にあるルーチンがダンプ・ヘッダーについてテストしましたが、ダンプ・ヘッダーが見つかりませんでした。メッセージ DFS312A が発行され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。IDUCSTRT にあるルーチンは、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUHDR #@LB208	比較の結果、入力データ・セットは、適切な DBD 用のものですが、適切なデータ・セット用のもではないことが示されました。メッセージ DFS317W が出されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg7=CUMHDR DSECT の アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBNDXSP (DXSPSTRT)	CUMHDR フラグがテストされ、データ・セット記述が DBD 記述に一致しないことが検出されました。メッセージ DFS329A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=DCB アドレス (リカバリーされる データ・セットの) Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBRVOPN (VOPNSTRT)	リカバリーされるデータ・セットの DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、NOSYSIN に分岐し、メッセージ DFS301A を出力して、ABORT エラー・スイッチを設定します。異常終了を発行するために、IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg7=CUMHDR DSECT の アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL Message	RDBDUCIN (CRDSET) #@LB360	CUM DBDname と DBD 名の間で比較が行われます。等しくない、欠落している、または無効なヘッダー条件が示された場合、メッセージ DFS356A が出されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために MERGEI にある MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg2=レコードの 開始からの 相対キー位置 Reg7=CUM レコードのアドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUCQK (UCQKSTRT) #@LB377	キー順データ・セット (KSDS) の基本キーが、CUM レコードの開始からのキーの相対位置と比較されます。これが等しくない場合、メッセージ DFS330A が理由コード (「1」) と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg2=レコードの 開始からの相対 RBN Reg7=CUM レコードの アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUCQK #@LB390	OSAM または ESDS RBN が CUM RBN と比較され、等しくないことが検出されました。メッセージ DFS330A が理由コード (「2」) と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg9=RBA への ポインタ Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDUCOT (RBAERROR) #@LB468	比較により、ACCUM 入力データ・セットからの OSAM レコードの RBN が、データ・セットの終わりを越えていることが検出されました。メッセージ DFS332A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=DCB アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBNDXLG #@LB509	DCBOFLGS フィールドをテストして、ログ入力 DCB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功していない場合、NOSYSIN にあるルーチンに分岐し、メッセージ DFS301A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBNDXLG #@LB515	DEVTYPE マクロの後の比較で、ログ入力データ・セットがダミー・ファイルであることが示されました。このルーチンはログのみのリカバリー用であるため、DD DUMMY は許可されず、メッセージ DFS324W が出力されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg6=DSG アドレス Reg7=DCB アドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBLDCBO (CKBADCB)	すべてのデータ・セット・グループ (DSG) を検査した後、DBD の DD 名を見つけることができませんでした。メッセージ DFS306A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このサブルーチンが RDBNDXLG に戻ると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg6=ログ・レコード・ アドレス Reg7=DBLOG へのポインタ Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBLGRDL #@LB621 および #@LB631	イメージ・ログの日付と現在日付の比較が行われ、これらが等しくありません。メッセージ DFS330A が理由コード (「3」) と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。RDBLGMRG にあるルーチンは、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=現行 OSAM RRN Reg6=検出された 最高の OSAM RBN Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDBRDC #@LB679	ログ入力データ・セットの OSAM レコードの現行 RBN と、最高可能 RBN との比較が行われます。比較の結果が等しくない場合、メッセージ DFS332A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定され、RDBLGMRG にあるルーチンは、制御を再取得すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL Reg15=IEHATLAS ユーティリ ティーからの 戻りコード	RDBTRCV0 (IHB423A)	リカバリー・ルーチン (トラック・リカバリーを試みるために IEHATLAS ユーティリティーにリンクされた) が、代替トラックを割り当てることができなかったことを示す戻りコードを受け取りました。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 3、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURDB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0303

説明: OPTION ステートメントから構成されたパラメーター・リストが変更されています (IMS バッファー・プールの指定方法については、IMS システム定義情報を参照してください)。ユーザー出口ルーチンでエラーが発生し、それによって、このルーチンがプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレッシングして変更した可能性があります。

分析: 0303 は、フォーマット設定印刷ユーティリティーによって発行される標準異常終了です。異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) レジスターが、問題分離に役立ちます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SEL04 を指しています。

SYSPRINT データ・セットに、メッセージ DFS706I も出されます。

レジスター 6 に、最初のリスト・エレメントへのポインターが入っています。

レジスター 1 に、2 ワード・パラメーター・リストへのポインターが入っています。最初のワードは候補レコードを指し、2 番目のワード (上位ビットがオン) は SYSPRINT データ・セット DCB を指しています。

レジスター 15 に、以下が入ります。

- 出口ルーチンのエン트리・アドレス (ユーザーが OPTION ステートメントで EXITR=パラメーターを指定した場合)、または
- ゼロ (ユーザー出口ルーチンが指定されていない場合。この場合、IEFBR14 はレジスターをクリアします)、または
- 戻りコード。

キー	ラベル	説明
Reg6= 最初のリスト・エレメントの アドレス	SEL08	END オプションについて、テストが行われます。条件を満たしていない場合、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。
Reg6= 最初のリスト・エレメントの アドレス	SEL10	OPTION 制御ステートメントの OFFSET パラメーターと VALUE パラメーターに関して、テストが行われます。いずれの条件も満たしていない場合、無効なリスト・エレメントが検出されており、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。

0305

キー	ラベル	説明
Reg3=リストの長さ Reg6= 最初のリスト・エレメントの アドレス	SEL20	OPTION 制御ステートメントで VALUE と LENGTH が指定されたかどうかを調べるために、テストが行われます。次に、リストの長さについて、レジスター 3 がテストされます。これらのテストの一部または全部が失敗した場合、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 示されたエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 3、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSERA10

関連情報:

 DFS706I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0305

説明: VBS 順次データ・セットを読み取り中に、不完全なスパン・レコードが検出されました。開始セグメントが先行していない継続セグメントが検出されたか、あるいは、終了セグメントなしに開始セグメントの後でファイルの終り条件または新規のセグメントが検出されました。

分析: 0305 は、読み取り要求に関してのみ発生します。この異常終了は、無効なスパン・レコードが検出されたときに、DFSURIO0 によって発行されます。DFSURIO0 は、以下のいずれかのモジュールによって呼び出されます。

- 変更累積データ・セット、または変更累積データ・セットへのログ・レコードを読み取るための、DFSURDB0 (リカバリ)。
- 変更累積データ・セットのタイプ X'24' ログ・レコードの読み取りおよび書き込みのための、DFSUC150 (変更累積)。
- 変更累積データ・セットのレコードの読み取りおよび書き込みのための、DFSUC350 (変更累積)。

異常終了が発生した場合、異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が、DFSURIO0 の保管域を指しています。DFSURIO0 保管域のオフセット 4 が、呼び出し元の保管域を指しています。レジスター 0 とレジスター 1 に、呼び出し元によって渡されたパラメーターが入っており、レジスター 14 に、呼び出し元のリターン・アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=入力レコードのアドレス Reg9=DCB のアドレス	GETLOG	入力レコード内のオフセット X'02' が、X'02' (スパン・レコードの中央) または X'03' (スパン・レコードの最後) に等しく、最初のセグメントが読み取られていない場合は、BADSPAN に分岐します。
Reg9=DCB のアドレス	UC249	
	UC237	スパン・レコードの最後のセグメントを読み取る前にデータの終わりが検出された場合、BADSPAN に分岐します。

考えられる原因: この異常終了は、以下の原因で起きる可能性があります。

1. ログまたは変更累積が順不同であるか、データ・セットが欠落している。
2. システム破損が発生し、その間にシステムがログを正常に終了できなかった。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURIO0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0306

説明: 出力変更累積レコードを作成しようとしているときに、変更累積ユーティリティによってエラーが検出されました。新規の変更累積出力レコードの長さが出力バッファ・サイズを超えています。

分析: この異常終了は、オフセット/長さテーブル内のエントリーで表されたデータの長さが、現行の最大データベース・ブロック・サイズである 32760 を超えていることを検出した場合、モジュール DFSUC350 によって発行されます。異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) に、DFSUC350 からのレジスターが入っています。異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了を発行したルーチンへの分岐は、エラーを検出したルーチンによって行われます。

キー	ラベル	説明
Reg3=データ長、これは > 32K	MERGPOT2	オフセット/長さテーブルのエントリー内の予備レコードのデータ長が 32K を超えています。
Reg5=データ長、これは > 32K (Reg3=1)	MORECUM	オフセット/長さテーブルのエントリー内の明細レコードのデータ長が 32K を超えています。
Reg7=テーブル・エントリーのアドレス		
Reg8=出力レコードのアドレス		

考えられる原因: 無効なデータ・セットが変更累積ユーティリティへの入力として使用されたか、変更累積ユーティリティ内でエラーが発生しました。

システムの処置: 変更累積はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: 変更累積への入力のエラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 3、35、および入力ログと変更累積データ・セットのコピー。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUC350

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0307

説明: バッチ・バックアウトが、ログ・レコードの作成時に使用された GSG 名で実行されませんでした。

システムの処置: バッチ・バックアウトは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 正しい GSG 名を使用してバッチ・バックアウトを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBCKIO

0310

説明: データベース部分再編成ステップが、前に発行されたエラー・メッセージに示された条件のために、異常終了しました。

分析: 0310 は、モジュール DFSPRERR (PDBR エラー・メッセージ生成プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFS3000 から DFS3099W の範囲のエラー・メッセージが、常にこの異常終了に伴います。レジスター 5 に、PDBR 共通域 (COMAREA) のアドレスが入っており、これに他の PDBR ブロックのアドレスが含まれていません。

システムの処置: このステップは異常終了します。

プログラマーの応答: この問題を説明するエラー・メッセージについては、PDBR ステップの出力を参照してください。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPRERR

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0311

説明: 調査プログラムがエラーを検出しました。

分析: これは、モジュール DFSPRSER (調査プログラム・エラー・メッセージ生成プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFS3000 から DFS3099W の範囲のエラー・メッセージが、常にこの異常終了に伴います。レジスター 5 に、調査プログラム共通域 (CMAREA) のアドレスが入っており、これに他の調査プログラム・ブロックのアドレスが含まれています。

システムの処置: このステップは異常終了します。

プログラマーの応答: この問題を説明するエラー・メッセージについては、調査プログラムの出力を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPRSER

0315

説明: IMS が、IMSAUTH SVC 機能からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析: レジスター 15 に IMSAUTH 戻りコードが入っています。これらの戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 のコードに応じて、適切な処置を取ります。

問題判別: 4、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIRST0、DFSRLP00、DFSXSTM0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0316

説明: カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または後続の実行中に、予期しないエラーまたはリカバリ不能エラーが検出されました。レジスター 15 に異常終了理由コードが入っています。

分析: **DFSDDMAW0** の場合:

異常終了時に、レジスター 15 にエラーの理由コードが入れられました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'		呼び出し元が SCD または PST を提供しませんでした。
Reg15=X'11'		IOSB 保全性エラー。
Reg15=X'20'		モジュール出口ルーチンで、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。
Reg15=X'30'		内部論理エラー (無効な PC) が発生しました。
Reg15=X'40'		呼び出し元が無効なバッチ SCD を提供しました。
Reg15=X'50'		内部論理エラー (無効な PT) が発生しました。
Reg15=X'60'		呼び出しが処理される前に、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。
Reg15=X'70'		キー 7 PST 用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。
Reg15=X'80'		「ダミー」キー 7 PST を取得した後で、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。
Reg15=X'90'		OSAM 構造への接続時に、予期しない z/OS 戻りコードが戻されました。
Reg15=X'A0'		VSAM 構造への接続時に、予期しない z/OS 戻りコードが戻されました。

DFSDDCF0 の場合:

異常終了時に、レジスター 15 にエラーの理由コードが入れられました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'11'		IOSB 保全性エラー。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 上記の『分析』を参照して、問題の原因を判別してください。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDMAW0、DFSDDCF0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0317

説明: XRF 代替サブシステムで、カップリング・ファシリティ障害が検出されました。障害は次のいずれかの可能性があります。

- 接続の障害
- 構造再作成の障害

分析: 0317 は、DFSDDCF0 内の GOSTPDS ルーチンによって発行されます。この異常終了の前に発行されるエラー・メッセージが、障害の理由を示しています。

0318 • 0320

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 接続の障害の場合、カップリング・ファシリティへの接続が再確立してから、代替サブシステムを再始動します。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDCFR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0318

説明: モジュール DFSDVBI0 が、カップリング・ファシリティ・サービス機能を初期設定できないと判断しました。この機能を使用するには、MVS リリース・レベル 510 以上が必要です。VSAM 構造を使用する場合、DFSMS リリース・レベル 120 以上が必要です。

分析: レジスター 15 に異常終了理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	ABEND318	CFNAMES 制御ステートメントで、OSAM または VSAM のいずれか、あるいは両方の構造名が指定されましたが、必要な z/OS リリース・レベル (510 以上) が使用されていませんでした。
Reg15=X'02'	ABEND318	CFNAMES 制御ステートメントで VSAM 構造名が指定されましたが、必要な DFSMS リリース・レベル (120 以上) が使用されていませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: z/OS リリース・レベル、DFSMS リリース・レベル、あるいは両方を確認してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVBI0

0319

説明: モジュール DFSDVBI0 が、バッチ環境でカップリング・ファシリティの初期設定が失敗したことを検出しました。メッセージ DFS3381E が発行され、メッセージの DATA 部分には障害の理由が示されています。

システムの処置: IMS が異常終了します。障害の理由を示すメッセージが 1 つ以上発行されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS3381E を参照してください。

問題判別: 1、4

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS3381E

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0320

説明: カップリング・ファシリティの使用を要求するために CFNAMES 制御ステートメントが指定されましたが、カップリング・ファシリティのサポートを含まないリリース・レベルの IRLM が使用されました。カップリング・ファシリティ・サービスを使用するには、IRLM バージョン 2 以降を使用する必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 使用された IRLM のリリース・レベルを確認してください。

ソース: IMS 異常終了

0322

説明: カップリング・ファシリティ・サービスの実行中に、OSAM 順次バッファリングで予期しないエラーまたはリカバリー不能エラーが発生しました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: 順次バッファ制御ブロックは、プログラムが終了したときに解放される必要があります。トランザクションによって保持されている予約ローカル・キャッシュ・エントリー (LCE) ビットの妥当性検査中に、エラーが検出されました。これらのビットが解放される前に、エラーが発生しました。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令 (ラベル LCERET にあるルーチン DFSSBTD1 内) を指しています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBTD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0347

説明: HD 再編成アンロード中に重大エラー条件が検出されました。このとき、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていました。エラーの原因は、次のいずれかです。

- 内部システム・エラー
- 欠落 DD ステートメント
- 欠落データ・セット

すべての HD 再編成アンロードおよび再ロードの操作には、PHDAM および PHIDAM データベースも含まれるようになります。

分析: 0347 は、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティ DFSURGU0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) 内のレジスターが、問題分離に役立ちます。

モジュール DFSURGU0 からの異常終了はすべて、ラベル BADRUN または STOPRUN のいずれか、あるいは両方への条件付き分岐による結果です。何らかのハウスキーピングおよびテストが行われた後、最終的にラベル ABND にあるルーチンに分岐し、これが異常終了 0347 を発行します。ほとんどの場合、異常終了の前に IMS マスター・コンソールに IMS エラー・メッセージが出されており、これを使用して問題を特定のラベルに切り分ける必要があります。以下の表は、メッセージとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS315A	TSTRET2	ラベル NXTSDB でルーチンから DEVTYPE マクロが発行されています。戻りコード X'08' はマクロが失敗したことを示しており、システム障害を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS344W	NODD1	1 次出力用の DD ステートメントが提供されていなかったため、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS343W	CHKDUMMY	DEVTYPE マクロが発行された後 (ラベル NXTSDB にあるルーチンで)、戻りコードを検査して、DD DUMMY が指定されたかどうかを調べます。答えが「はい」であれば、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS318A	GETBLKSI	LRECL が BLKSIZE より大きいかどうかを調べるために、比較が行われます。大きい場合、異常終了を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	OPEN1OPT	DCBOFLGS フィールドをテストして、出力 DCB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS318A	GETBLKSZ	2 番目の DD ステートメントについてテストされることを除いて、上記のラベル GETBLKSI にあるルーチンの場合と同じです。
メッセージ DFS348A	RECREATE	PCB の DBPCBSTC フィールドをテストして、有効な戻りコードであるかどうか (この場合は、GA、GB、GK、またはブランクが有効) を調べます。有効な戻りコードでない場合、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
	STPTEST2	フィールド UCFCMSTP をテストして、STOP が要求されているかどうかを調べます。答えが「はい」であれば、チェックポイント・レコードが書き出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	SETUP1	CHECKPOINT (入力) DCB に対して、OPEN が成功したかどうかのテストが行われることを除いて、上記のラベル OPEN1OPT にあるルーチンの場合と同じです。
メッセージ DFS377A	RESTFAIL	Reg15 をテストして、再始動が正常に完了したかどうかを調べます。戻りコード「4」または「8」は障害を示しており、異常終了を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	OPINERR	編集および出力統計テーブル用の DCB に対して OPEN が成功したかどうかについてのテストが行われることを除いて、OPEN1OPT の場合と同じです。
メッセージ DFS319A	IOERRIN	データ・セットにレコードまたは統計テーブル・エントリを出力中に永続的な入出力エラーが検出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS377A	EOSYSIN	CHECKPOINT データ・セットの入力が無効であることが検出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS388A	NOTTAB	UNLOAD から統計テーブル・レコードが検出されず、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS346A	ERRNOALT	1 次出力データ・セットでボリューム・エラーが発生し、使用可能な代替出力データ・セットがありませんでした。異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	NONUCF	OPEN マクロの実行中に、使用可能な SYSOUT データ・セットがないことが検出されました。この事実を IMS マスター・コンソール・オペレーターに伝えるために、レジスター 1 に WTO エリアのアドレスがロードされ、異常終了を処理するために STOPRUN に分岐します。

考えられる原因: 内部システム・エラーが原因でこの異常終了が起きたか、あるいは DD ステートメントまたはデータ・セットの欠落が検出されました。IMS マスター・コンソール・ログ・シートで、異常終了の前に出されたすべてのメッセージを確認し、このユーティリティー用に使用されている JCL を確認してください。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: ダンプの原因の手掛かりとして、先行するメッセージをすべて検査します。見つかったエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、17d、20、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURGU0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 12 章 IMS 異常終了コード 0351 - 0400

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0355

説明: HD 再編成再ロード中に重大エラー条件が検出されました。このとき、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていました。この問題は、おそらく内部システム・エラーです。

すべての HD 再編成アンロードおよび再ロードの操作には、PHDAM および PHIDAM データベースも含まれるようになります。

分析: 0355 は、HDAM 再編成再ロード・ユーティリティー DFSURGL0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターおよび異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、問題分離に役立ちます。

さらに、IMS マスター・コンソールからのコンソール・ログ・シートで、異常終了の前にユーザーに送信されたすべての IMS アクションまたは情報メッセージについて調べる必要があります。IMS メッセージ番号は、エラー条件を検出したルーチンを分離するのに役立ちます。

DFSURGL0 への入力、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって作成されたデータ・セットです。0355 異常終了が発生した場合、アンロードからの条件コードとメッセージを綿密に検査する必要があります。以下の表は、メッセージとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS301A	ENQOK	OPEN マクロの実行後に、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって作成された入力 DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功していない場合、異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS348A	STATUX	状況/戻りコード・フィールド (DBPCBSTC) が、データベース「ASRT」呼び出しから無効な戻りコードを受け取りました。障害状況コードがエラー・メッセージに伝搬され、このユーティリティーの異常終了 SW フィールドがエラー条件 (X'FF') を示すように更新され、異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS301A	STATAI	データ管理 OPEN エラーが発生しました。これは、PCB の DBPCBSTC フィールドに戻された AI 状況コードによって示されています。PCB の DBPCBSFD フィールドのセグメント名が、エラー条件を示している可能性があります。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS386A	EOD1	HDAM 再編成再ロード・ユーティリティーが、最後の状況レコードを読み取る前に EOF 条件を検出しました。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS331A	TABOK	HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって渡された入力データ・セットが空であったか、読み取り時に即時 EOF 条件が検出されました。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN にあるルーチンに分岐します。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS388A	NOTTAB	入力 DCB の処理中に、HDAM 再編成再ロード・ユーティリティーは統計レコードの検出を予想しましたが、検出されませんでした。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN にあるルーチンに分岐します。
アンロード統計のセグメント・カウントが、再ロード・セグメント・カウントに等しくありません。戻りコードは 8 です。	LESS	アンロード統計レコードのセグメント・カウントが、再ロードのセグメント・カウントと一致していません。
メッセージ DFS358A	MYLOOP1	アンロード・セグメント・レコード内で検出されたセグメント名が、データベース・セグメント・テーブルで見つかりませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ダンプの原因の手掛かりとして、先行するメッセージをすべて検査します。見つかったエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、17d、20、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURGL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0359

説明: HISAM 再編成アンロードまたは再ロード・ユーティリティーで異常終了オプションが選択されているときに、重大エラーが発生しました。

分析: 0359 は、HISAM 再編成アンロード・ユーティリティー DFSURUL0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、ラベル TRMOPBAD を指しており、これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

この異常終了は、ユーザーがこのユーティリティーの JCL または HISAM 再編成再ロード・ユーティリティーで OPTIONS=ABEND ステートメントをコーディングした結果です。実行中に重大エラーがあると、0359 異常終了が発生します。通常は、この異常終了に対応する IMS メッセージが出されています。このメッセージは、プログラム出力で見つけることができます。

エラー・メッセージとその説明により、おそらく問題を特定するための十分な情報が得られるものと思われます。さらに、プログラム・リスト内の相互参照テーブルを使用して、エラー・メッセージを発行する DFSURUL0 内のサブルーチンを見つけることができます。サブルーチンの作業レジスターは、LINKSAVE というラベルが付けられた保管域に保管されています。処理中のルーチンのレジスター 14、15、および 0 から 7 は、LINKPTR によって指し示された場所に保管されています。

レジスター 12 は、すべてのサブルーチン用の基底レジスターです。メインライン処理ルーチン用の基底レジスターは、レジスター 10、11、および 12 です。

システムの処置: ユーティリティーは異常終了します。

プログラマーの応答: ダンプの原因の手掛かりとして、先行するメッセージをすべて検査します。見つかったエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、17d、20、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURUL0、DFSURRL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0360

説明: トランSPORT・マネージャー・サブシステム (TMS) が監視プログラム状態で実行されていないか、あるいは送信フィルター・ルーチンが失敗しました。

理由コード

説明

- 01 TMS が保護キー 7 (監視プログラム状態) で実行していませんでした。トランSPORT・マネージャー EXEC ステートメントのパラメーター・フィールドで KEY(7) が指定されていることを確認してください。
- 02 送信フィルター出口ルーチン障害が検出されました。リカバリーが試みられます。リカバリーに成功すると、会話のためにフィルター操作が延期されます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXINIT0、ELXUISE0

0361

説明: トランSPORT・マネージャー・サブシステム (TMS) で論理エラーが発生しました。

理由コード

説明

- 01 内部論理エラー: ユーザー・アドレス・スペース内のコードが、TMS のアドレス・スペース内のコードに一致していません。
モジュール: ELXUTM00
- 02 内部論理エラー: トランSPORT・マネージャーの出口スケジューラーのベクトル値が無効です。
モジュール: ELXUSX10
- 03 内部論理エラー: TMS のサービス・ルーチンで、無効なベクトル値が検出されました。
モジュール: ELXUS000
- 04 内部論理エラー: TMS の VTAM 割り振り 1 ルーチンで、無効なベクトル値が検出されました。
モジュール: ELXUVA10
- 05 内部論理エラー: トランSPORT・マネージャーの送信サポートで、送信キューでは発生してはならない (Should Not Occur) 条件が発生しました。
モジュール: ELXUVS10
- 06 内部論理エラー: サポートされない受信状況またはデータ長が検出されました。SDUMP の後でリカバリーが試みられ、会話は割り振り解除されます。異常終了の入り口で、レジスター 3 は RPL を指します。
モジュール: ELXUVXR0
- 07 内部論理エラー: 完了した RPL で、サポートされない RPL6REQ/RPL6QUAL 値が検出されました。SDUMP の後でリカバリーが試みられます。異常終了の入り口で、レジスター 3 は RPL を指します。RPL に関連した会話は作動不能になる可能性があります。
モジュール: ELXUVXR0
- 08 RESMGR DELETE によってエラー戻りコードが生成されました (レジスター 2 に保管される)。SDUMP が作成され、リカバリーは処理を継続します。
モジュール: ELXUIFO0
- 09 内部論理エラー: 無効な AFR 機能が受け取られました。
モジュール: ELXUSX20

0362 • 0363

10 内部論理エラー: 無効な状況出口ルーチン理由コードが検出されました。

モジュール: ELXTITX0

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXUTM00、ELXUSX10、ELXUS000、ELXUVA10、ELXUVS10、ELXUVXR0、ELXUIFO0、ELXUVXR0、ELXUSX20、ELXTITX0

0362

説明: オペレーターがトランスポート・マネージャー・サブシステム (TMS) の終了を要求しました。

理由コード

説明

01 システム・ダンプを作成するために ABDUMP コマンドが呼び出されました。トランスポート・マネージャーは異常終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXCABN0

0363

説明: データベース・トラッキング論理によってリカバリー不能エラーが検出されました。以下の理由コードは、リカバリー不能エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

01 初期設定中に、データ・スペースを作成しようとしたとき、MVS DSPSERV/ALESERV マクロによってエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードはレジスター 2 に保管され、レジスター 0 からの理由コードはレジスター 4 に保管されました。

モジュール: DFSDT100、DFSDT320

03 初期設定中に、DLT 領域の LOC=(any,any) 専用ストレージのための、またはトラッキング・ハッシュ・テーブルのための IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSDT150

04 初期設定中に、DFSDSM からエラー戻りコードが戻され、トラッキング・データ・スペースに基本システム域用のストレージがないことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSDT100、DFSDT320

07 初期設定中に、IMODULE LOAD からエラー戻りコードが戻され、必要なモジュールをロードできなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSSDT20

09 初期設定中に、DFSCWU からエラー戻りコードが戻され、マイルストーン PST ITASK を作成できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSSDT20

10 DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。初期設定、マイルストーン/静止処理、データベース状況変更処理、または突然終了のトラッキング処理の間に AWE を作成できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSDT100、DFSDT160、DFSDT180、DFSDT330

11 初期設定中に、MVS TCBTOKEN 要求からエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DFSDT100

- 12 初期設定中に、MVS SETLOCK 要求からエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSDT100
- 13 初期設定または SAS AWE キュー処理中に、DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。戻りコードは、制御ブロックまたは作業域用にストレージを取得できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSDT150、DFSDT300
- 14 トラッキング再実行処理中に、DLT 領域の LOC=(any,any) 専用ストレージのための IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。戻りコードは、必要な制御ブロック用にストレージを取得できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSDT400
- 15 IMODULE GETSTOR からエラー戻りコードが戻され、トラッキング CTL AWE プロセッサが AWE 用のストレージを取得できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSDT240
- 16 初期設定中に、IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻され、サブプール 231 内で DL/I データベース・トラッキング・トレース・テーブル用のストレージを取得できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSDT100
- 19 初期設定中に、LOC=(any,any) 専用ストレージに対する IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。戻りコードは、必要な制御ブロック用にストレージを取得できなかったことを示しています。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DFSSDT20

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: レジスター 2 の戻りコードに応じて、適切な処置を取ります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDT100、DFSDT240、DFSDT300、DFSDT150、DFSDT100、DFSDT320、
DFSST20、DFSDT100、DFSDT160、DFSDT180、DFSDT330、DFSDT400

0364

説明: データベース・トラッキング中に論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、論理エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

- 01 無効な AWE 要求が、データベース・トラッキング CTL AWE プロセッサまたは SAS AWE キュー・サーバーによって検出されました。
モジュール: DFSDT240、DFSDT300
- 02 マイルストーン/静止処理またはデータベース状況変更処理によって、無効な機能コードが検出されました。
モジュール: DFSDT160、DFSDT180、DFSDT250
- 03 無効なタイプのデータベース再実行レコードが、トラッキング再実行キュー処理中に検出されました。
モジュール: DFSDT240

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM に連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDT160、DFSDT180、DFSDT250、DFSDT240、DFSDT300

0365

説明: 分離ログ送信 (ILS) 処理中に論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、論理エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

- 01** ILS により、不適切な機能コードが検出されました。
モジュール: DFSIL010、 DFSIL210、 DFSIL240、 DFSIL330、 DFSIL340、 DFSIL500、 DFSIL510
- 02** ILS 内部論理エラーが検出されました。
モジュール: DFSIL300、 DFSIL320
- 03** ILS が DBRC マクロ呼び出しを発行したが、無効な戻りコードを受け取りました。エラーについての詳細は、DFS4072A または DFS4095A を参照してください。
モジュール: DFSIL300、 DFSIL310
- 05** 無効な状況出口理由コードが検出されました。
モジュール: DFSIL320、 DFSIL400

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIL010、 DFSIL210、 DFSIL240、 DFSIL300、 DFSIL310、 DFSIL320、 DFSIL330、 DFSIL340、 DFSIL400、 DFSIL500、 DFSIL510

関連情報:

 DFS4072A (メッセージおよびコード)

 DFS4095A (メッセージおよびコード)

0367

説明: GU (メッセージ)、ISRT (メッセージ)、または SETO 呼び出しについての DL/I 呼び出し処理中に、IMS システム・エラーが発生しました。IMS は、エラーの原因を示す '67D0' ログ・レコードを書き込みます。この異常終了は DFSDLA30 によって設定され、DFSECP10/DFSECP20 によって発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: '67D0' ログ・レコードを調べてエラーの原因を判別してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、3、5、6、36

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0368

説明: GU (メッセージ) または ISRT (メッセージ) についての DL/I 呼び出し処理中に、CQS 要求が失敗しました。IMS は、エラーの原因を示す X'67D0' ログ・レコードを書き込みます。この異常終了は DFSDLA30 によって設定され、DFSECP10/DFSECP20 によって発行されます。

システムの処置:

アプリケーション・プログラムは異常終了します。ISRT 呼び出しで異常終了 0368 が発生した場合、入力メッセージ

は廃棄されますが、GU 呼び出しでこの異常終了が発生した場合は、入力メッセージは廃棄されません。トランザクションは停止されず、PSB も停止されません。

プログラマーの応答: X'67D0' ログ・レコードを調べてエラーの原因を判別します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、3、5、6、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0369

説明: 以下のいずれかの状態が発生しました。

- ケース 1: バッファ・ハンドラー・モジュール DFSDVBH0 が内部エラーを検出しました。呼び出し元が提供したバッファ・ハンドラーの RBA では、下位ビットに「0」または「1」が入っています。ビット「0」は HALDB のデータ・セット A から J を参照し、ビット「1」は HALDB のデータ・セット M から V を参照します。この値は DMBORFL2 と矛盾します。
- ケース 2: RSR トラッカー環境での IMS のトラッキングで内部エラーが検出されました。

ケース 1 の分析: 異常終了時に、レジスター 4 とレジスター 5 の両方に、どのような内部エラーの可能性があるかが示されます。両方のレジスターに、0 または 1 のいずれかが入ります。

レジスターの値

説明

- 0 入出力は、A-J データ・セットのいずれかに対するものです。
- 1 入出力は、M-V データ・セットのいずれかに対するものです。

処理を続行するには、両方のレジスターに同じ値が入っている必要があります。しかし、レジスターに異なる値が入っている場合には、処理は PSTSUBCD=X'08' および PSTRICDE=X'10' で即時に呼び出し元に戻ります。

バッファ・ハンドラーへの入力、RBA を含む PSTBYTNM です。バッファ・ハンドラー DFSDVBH0 を呼び出すと、A から J のデータ・セットの場合、RBA は常に偶数値です。したがって、対応するデータ管理ブロック (DMB) (A-J DMB) のフラグ・バイト DMBORFL2 の値は 0 です。M から V のデータ・セットの場合、RBA は常に奇数値であり、対応する DMB (M-V DMB) のフラグ・バイト DMBORFL2 は 1 です。

X'67FF' ログ・レコードからの疑似異常終了以外のメモリー・ダンプを提供できる場合、同じ領域チェーンは、バッファ・ハンドラーを呼び出したモジュールおよび PSTFNCTN の値を判別するのに役立ちます。

ケース 2 の分析: エラーの発生時に、異常終了の原因になった状態を示す戻りコードが R15 に入ります。

戻りコード (R15)

説明

- 1 IMODULE GETSTOR 要求が失敗しました。R10 に IMODULE GETSTOR 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。
- 2 DFSBCB 要求が失敗しました。R10 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置: ケース 1: タスクは疑似異常終了 0369 で終了します。

ケース 2: IMS トラッカーは異常終了コード U0369 で終了します。

システム・プログラマーの応答: ケース 1 および 2: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ケース 1: DFSDVBH0

0370 • 0378

ケース 2: DFSST500

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

0370

- | 説明: コミットされていないメッセージのトランザクションによる CQS 要求が失敗しました。この要求の例として、
- | 出力メッセージに対する CQSPUT 呼び出しや、APPC/OTMA メッセージに対する UPDATE PREFIX 呼び出しが挙
- | げられます。失敗は、構造への接続が構造満杯状態であるか、または接続が失われたためである可能性があります。

この異常終了は、DFSFXC40 によって設定され、DFSECP10、DFSECP20、DFSPCC20、および DFSCPY00 によって発行されます。

- | システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。トランザクションおよび PSB は停止されます。
- | 入力メッセージは廃棄されません。
- | プログラマーの応答: 障害状態を修正すると、入力メッセージは再処理が可能な状態になります。トランザクションを
- | 処理するプログラムが 1 つのみの場合、そのトランザクション (/STA TRAN) とプログラム (/STA PGM) を開始す
- | る必要が生じることがあります。その際は、これらを開始すると入力メッセージは再処理されます。

問題判別: 1、3、5、6、36

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0371

説明: フェーズ 1 の同期点処理中に、プログラム間通信メッセージのキュー名に IMSID を付加するための、DFSQMGR Insert Prefix 呼び出しが発行されました。DFSQMGR 呼び出しは RC=08 を受け取りました。これは QMGR 内部エラーを表します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。トランザクションおよび PSB は停止されます。入力メッセージは廃棄されます。

問題判別: 1、3、5、6、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFXC40

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0378

説明: 次のいずれかの理由により、IMS が DFSRSRxx メンバーを構文解析できませんでした。異常終了時のレジスター 15 にサブコードが入っています。

理由コード

説明

- 01** メンバーを処理しているときに 1 つ以上のパラメーター・エラーが検出されました。
- 02** 処理中に必要な作業用ストレージを取得できませんでした。IMODULE GETMAIN が失敗し、この異常終了に先行する DFS2929A メッセージに戻りコードが表示されます。詳しくは、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。
- 03** 構文解析に使用される TSO/E IKJPARS サービスが、エラーを示すゼロ以外の戻りコードを戻しました。この異常終了に先行する DFS2929A メッセージに戻りコードが表示されます。TSO は、IMS ジョブの SYSTSPRT DD

214 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

ステートメントで指定されたデータ・セットにエラー・メッセージを書き込みます。これらのメッセージについては、「*TSO Extensions Version 2 Programming Services*」マニュアルを参照してください。

分析: DFSRSRxx メンバーには、RSR システム用のパラメーターが含まれています。このメンバーは、IMS プロシージャの RSRMBR= 実行パラメーター上で 2 文字の接尾部を指定することによって選択され、デフォルトは 00 です。このメンバーの処理時に、IMS はエラーを検出しました。この異常終了の前に 1 つ以上の DFS2929A メッセージが出力され、異常終了の理由が示されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 次の処置は、「説明」にリストした理由コードに対応しています。

1. DFSRSRxx メンバーのエラーを訂正してから、IMS を再始動します。この戻りコードは、メンバーは正しく構文解析されたが、その値が許容範囲内ではなかったことを示しています。
2. IMS 領域サイズを増やして、IMS を再始動します。この問題が再発する場合、IBM に問題を報告します。
3. TSO エラー・メッセージを分析し、DFSRSRxx メンバーの構文を訂正してから、IMS システムを再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRPP00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS2929A

0379

説明:

トランSPORT・マネージャー・インスタンス (TMI) の名前が、グローバル・サービス・グループ (GSG) 名およびロギングが指定された IMS バッチまたはユーティリティー・ジョブのために指定されませんでした。DLT または RLT 機能用のライセンス認証がいずれもありませんでした。

分析: ログを作成するバッチ・ジョブまたはユーティリティー・ジョブの GSG 名を指定すると、ジョブは RSR 対応になります。ただし、RSR 処理には TMI 名の指定も必要です。異常終了は、TMI 名が指定されなかったために発生します。異常終了の前に、メッセージ DFS2924I が出力されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS システム定義を訂正して TMI 名を指定するか、または TMI= 実行パラメーターを使用して名前を指定します。

zSeries プロセッサを稼働する z/OS オペレーティング・システム上で実行している場合は、RLT または DLT (あるいは両方) に関する必要なライセンス証明書を追加してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXBAT0、DFSXDCC0

関連情報:

 DFS2924I (メッセージおよびコード)

0380

説明: ログ・ルーター処理中に、論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、論理エラーのタイプを示します。

理由コード
説明

- 01** ログ・ルーター ITASK によって、無効な AWE 機能コードが検出されました。

モジュール: DFSLRART、 DFSLRRDS、 DFSLRIDS、 DFSLRSAR、 DFSLRDCR、 DFSLRRDZ、 DFSLRILT、 DFSLRMRG、 DFSLRETI、 DFSLRASC、 DFSLRMIL、 DFSLRARC、 DFSLRLTR、 DFSLRTRM、 DFSLRCAS、 DFSLRMST、 DFSLRARP、 DFSLROPR、 DFSLRDDE、 DFSLROIC、 DFSLRRDC、 DFSLRDSS、 DFSLRRR0

- 02** アクティブ・サブシステムまたは分離ログ・セnderを使用して会話を割り振り中に、トランスポート・マネージャー・サブシステム (TMS) によって、無効なパラメーターが検出されました。異常終了コードと共に、メッセージ DFS4018I が出力されます。レジスター 14 に、TMS 会話割り振り要求からの理由コードが入っています。

モジュール: DFSLRCS0、 DFSLRICN

- 03** 会話割り振り要求の結果として、トランスポート・マネージャー・サブシステム (TMS) によって無効なパラメーター・エラー・コードが戻されました。異常終了コードと共に、メッセージ DFS4018I が出力されます。レジスター 14 に、TMS 割り振り要求からの理由コードが入っています。

モジュール: DFSLRCS0、 DFSLRICN

- 04** トラッキング・サブシステム再始動中に、トラッキング・サブシステムが無効なトラッキング・サブシステム・ログ・レコード (49xx) を処理しました。レジスター 14 に、ログ・レコードのアドレスが入っています。

モジュール: DFSLRARR

- 05** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サイトで分離ログ・セnderから、欠落したアクティブ・サブシステム・ログ・データを取得しようとしたときに、欠落したギャップ記述子ブロックを検出しました。

モジュール: DFSLRICM、 DFSLRIDS

- 06** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サイトでアクティブ・サブシステムまたは分離ログ・セnder (ILS) と通信しようとしたときに、エラーを検出しました。レジスター 14 に、送信要求からの理由コードが入っています。

モジュール: DFSLRASC、 DFSLRIDS、 DFSLRSCM

- 07** アクティブ・サブシステムまたは分離ログ・セnderを使用して会話を割り振り解除中に、トランスポート・マネージャー・サブシステム (TMS) によって、無効なパラメーターが検出されました。レジスター 14 に、TMS 会話割り振り解除要求からの理由コードが入っています。

モジュール: DFSLRASC、 DFSLRCAS、 DFSLRCS0、 DFSLRICN、 DFSLRSTX

- 08** DBRC を使用してトラッキング・ログをクローズしようとしたときに、トラッキング・サブシステムが無効なログ・シーケンス番号を検出しました。トラッキング・ログの最初のログ・シーケンス番号が、最後のログ・シーケンス番号よりも大きいです。レジスター 14 に、無効なログ・シーケンス番号が入っているパラメーター域のアドレスが入っています。

モジュール: DFSLRDDE、 DFSLRRDD、 DFSLRRDY、 DFSLRSFT

- 09** トラッキング・サブシステムが、データのないログ・バッファーを書き込もうとしました。レジスター 14 に、空のバッファーのアドレスが入っています。

モジュール: DFSLRWRT

- 0A** トラッキング・サブシステムが、誤った順序のアクティブ・サブシステムのログ・データを受け取りました。

モジュール: DFSLRREX

- 0B** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サブシステムから無効なパッケージ記述子レコードを受け取りました。

モジュール: DFSLRREX

- 0C** トラッキング・サブシステムのトランスポート・マネージャー・サブシステム (TMS) の状況出口ルーチンが無効な機能要求を受け取りました。レジスター 14 に、無効な機能コードが入っています。

モジュール: DFSLRSTX

- 0D** トラッキング・サブシステムは、アクティブ・サブシステムがデータの無いログ・バッファを準備したことを検出しました。
モジュール: DFSLRIRX、DFSLRREX
- 0E** トラッキング・サブシステムが、トラッキングされたデータベースまたは AREA のリカバリーに必要なログ位置が含まれているマイルストーン位置ブロックを検出できません。
モジュール: DFSLREDT
- 0F** トラッキング・サブシステムの初期設定より前に処理できないトラッキング・サブシステム ITASK によって AWE が受け取られました。
モジュール: DFSLRDSS
- 10** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サイトで分離ログ・センダー (ILS) からの無効な要求コードを検出しました。レジスター 14 に、無効な要求コードが入っています。
モジュール: DFSLRIRX
- 11** トラッキング・サブシステムが、バッファに含まれる最後のログ・シーケンス番号を含まない無効なバッファ・ヘッダーを検出しました。レジスター 14 に、バッファ・ヘッダーのアドレスが入っています。
モジュール: DFSLRRR0
- 12** 読み取り可能なバッファ・サイズより大きなブロック・サイズのトラッキング・ログに対して、OPEN マクロが発行されました。この異常終了の前に、戻りコード X'FFFF' を伴ったメッセージ DFS4012I が出力されます。このメッセージは、無効なブロック・サイズをもったトラッキング・ログ・データ・セットを示します。バッファ・サイズは、IMS.PROCLIB メンバー DFSRSRxx の SLDSDEF、ARCHDEF、および RLDSDEF の各パラメータにある BLOCK キーワード値の中の最大値です。詳しくは、メッセージ DFS4012I を参照してください。
モジュール: DFSLRDOP
- 13** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サブシステムのログ・レコードを使用する共用サブシステムを検出しましたが、その共用サブシステムに関するレコードがありません。
モジュール: DFSLRMRG
- 14** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サブシステムのログ・レコードをマージしようとしているが、そのマージに関係したアクティブ・サブシステムを表す制御ブロックを検出できません。
モジュール: DFSLRMRG
- 15** トラッキング・サブシステムに、マージに関するアクティブ・サブシステムを表す別の共用ログ・レコードが提供されました。
モジュール: DFSLRMRG
- 16** トラッキング・サブシステムが、複数のアクティブ・サブシステムからログ・レコードをマージしているとき、トラッキング・サブシステム・トラッカーにデータを経路指定した後で無効なフィードバックを検出しました。
モジュール: DFSLRMRG
- 18** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・ログを読み取ろうとしたときに、無効な条件を検出しました。レジスター 14 に、無効な AWE のアドレスが入っています。
モジュール: DFSLROPR、DFSLRRR0
- 1A** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サブシステムからの無効なログ・レコードを検出しました。
モジュール: DFSLRIRX、DFSLRREX
- 1B** トラッキング・サブシステムが、アクティブ・サブシステムからのログ・レコード内に無効な STCK 値を検出しました。
モジュール: DFSLRBIR、DFSLRRBF、DFSLRSDS、DFSLRWRT

- 1C トラッキング・サブシステムが、再始動を完了させるのに必要なログ・レコードのセットを読み取ることができません。

モジュール: DFSLRRRS

- 1D トラッキング・サブシステムが、ログをルーティングするために設定される位置が無効であることを検出しました。このエラーは、内部論理エラー、またはトラッキング・サブシステムの不適切なコールド・スタートが原因である可能性があります。

モジュール: DFSLRRR0、DFSLRRRS

- 1E (理由コード 1E は、現在使用されません)

- 21 トラッキング・サブシステムが、分離ログ・セNDERから「データ・セットの開始」通知なしにデータを受け取りました。

モジュール: DFSLRIDS

- 22 トラッキング・サブシステムが、分離ログ・セNDERからのデータ受信を停止するように通知されたが、必要な制御ブロックを検出できませんでした。

モジュール: DFSLRIDS

- 23 トラッキング・サブシステムが、使用可能なバッファ・プール内で使用可能とマークされていないバッファを検出しました。

モジュール: DFSLRASC、DFSLRBIT、DFSLRGLB、DFSLRIDS、DFSLRIRX、DFSLRLTR、DFSLRMRG、DFSLROPR、DFSLRORM、DFSLRORN、DFSLRRDC、DFSLRRDF、DFSLRRDS、DFSLRRDW、DFSLRREX、DFSLRRRD、DFSLRRRS、DFSLRRR0、DFSLRRTO、DFSLRSAR、DFSLRSBR、DFSLRSIN、DFSLRTRS、DFSLRWRT

- 24 トラッキング・サブシステムが、使用可能なバッファ・プール内で自動アーカイブ・バッファ・プールに属するバッファを検出しました。

モジュール: DFSLRASC、DFSLRBIT、DFSLRGLB、DFSLRIDS、DFSLRIRX、DFSLRLTR、DFSLRMRG、DFSLROPR、DFSLRORM、DFSLRORN、DFSLRRDC、DFSLRRDF、DFSLRRDS、DFSLRRDW、DFSLRREX、DFSLRRRD、DFSLRRRS、DFSLRRR0、DFSLRRTO、DFSLRSAR、DFSLRSBR、DFSLRSIN、DFSLRTRS、DFSLRWRT

- 25 トラッキング・サブシステムが、DBRC から脱落ログ・データに関する情報を取得できなかったか、または DBRC からの脱落ログ・データに関する無効な情報を取得しました。

モジュール: DFSLRRRS

- 26 トラッキング・サブシステムが、バッファを処理してトラッキング・ログに書き込むときに、無効なバッファを検出しました。

モジュール: DFSLRARP DFSLRWRT

- 27 トラッキング・サブシステムが、マウント可能な装置タイプにあるデータ・セットをクローズする必要があるが、そのデータ・セットをオープンした TCB を検出できません。

モジュール: DFSLRDSS

- 28 トラッキング・サブシステムが、トラッキング・サブシステムのラッチを取得しようとしたときに、内部エラーを検出しました。レジスター 14 に、ラッチ取得要求からの戻りコードが入っています。

モジュール: DFSLRARA、DFSLRARL、DFSLRARR、DFSLRDRC、DFSLRDDE、DFSLRDSS、DFSLRLTS、DFSLRMST、DFSLRRDD、DFSLRRDS、DFSLRRDY、DFSLRRST、DFSLRSAR、DFSLRSDS、DFSLRSFT、DFSLRSIN、DFSLRSWB、DFSLRWRT

- 29 トラッキング・サブシステムが、トラッキング・サブシステムのラッチを解放しようとしたときに、内部エラーを検出しました。レジスター 14 に、ラッチ解放要求からの戻りコードが入っています。

モジュール: DFSLRARA、DFSLRARL、DFSLRARR、DFSLRDCR、DFSLRDDE、DFSLRDSS、DFSLRLTS、DFSLRMST、DFSLRRDD、DFSLRRDS、DFSLRRDY、DFSLRRST、DFSLRSAR、DFSLRSDS、DFSLRSFT、DFSLRSIN、DFSLRSWB、DFSLRWRT

- 2A** トラッキング・サブシステムが、/START コマンドの結果として、データベースまたは AREA を開始するログを検出せずに、そのデータベースまたは AREA がリカバリーを必要としていることを DBRC から通知されました。

モジュール: DFSLRORH、DFSLRORM、DFSLRORN

- 2B** トラッキング・サブシステムが、/START DATABASE、UPDATE DB START(Access)、/START AREA、または UPDATE AREA START(Access) コマンドの処理中に、データベースまたは AREA の開始点が無効であることを検出しました。

モジュール: DFSLRORM、DFSLRORN

- 2C** トラッキング・サブシステムが、/START DATABASE、UPDATE DB START(Access)、/START AREA、または UPDATE AREA START(Access) コマンドの処理の結果として、アクティブ・サブシステムの初期ログ・レコードが並行イメージ・コピー (CIC) 内がないことを検出しました。

モジュール: DFSLROPR

- 2D** トラッキング・サブシステムが、オンライン順方向リカバリー (OFR) 処理に必要な開始点情報を DBRC が供給していないことを検出しました。

モジュール: DFSLROIC、DFSLRORH、DFSLRORM

- 2E** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・ログ・データ・セットにアクセスしているときに入出力エラーを検出しました。このエラーは、BSAM READ マクロまたは BSAM WRITE マクロ (BSAM CHECK マクロではなく) のいずれかの最中に発生します。この異常終了は、BSAM READ 中に起きたエラーであれば、DFSLRRDU で発生し、BSAM WRITE 中に起きたエラーであれば、DFSLRSWB で発生します。付随する、アクセス方式サービス・プログラムのメッセージを参照して、取るべき適切な処置を判別します。

モジュール: DFSLRRDU、DFSLRSWB

- 2F** OFR 中に、ログ・ルーターは、現在の OFR 位置より前に発生したデータが含まれているログ・データ・セットを表す DBRC によって戻されたリスト内でログ・データ・セット記述子を検出しました。

モジュール: DFSLRORM

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLRARA、DFSLRARC、DFSLRARL、DFSLRARP、DFSLRARR、DFSLRART、DFSLRASC、DFSLRBIR、DFSLRBIT、DFSLRCAS、DFSLRCS0、DFSLRDCR、DFSLRDDE、DFSLRDOP、DFSLRDSS、DFSLREDT、DFSLRETI、DFSLRGLB、DFSLRICM、DFSLRICN、DFSLRIDS、DFSLRILT、DFSLRIRX、DFSLRLTR、DFSLRLTS、DFSLRMIL、DFSLRMRG、DFSLRMST、DFSLROIC、DFSLROPR、DFSLRORH、DFSLRORM、DFSLRORN、DFSLRRBF、DFSLRRDC、DFSLRRDD、DFSLRRDF、DFSLRRDS、DFSLRRDU、DFSLRRDW、DFSLRRDY、DFSLRRDZ、DFSLRREX、DFSLRRR0、DFSLRRRD、DFSLRRRD、DFSLRRRS、DFSLRRST、DFSLRRTO、DFSLRSAR、DFSLRSBR、DFSLRSCM、DFSLRSDS、DFSLRSFT、DFSLRSIN、DFSLRSTX、DFSLRSWB、DFSLRTRM、DFSLRTRS、DFSLRWRT

0381

説明: ログ・ルーター処理ロジックによって、リカバリー不能なリソース不足が検出されました。以下の理由コードは、リカバリー不能エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

- 01** トラッキング・サブシステムが、AWE を取得できませんでした。レジスター 14 に、DFSBCB からの理由コードが入っています。

モジュール: DFSLRARA、DFSLRARC、DFSLRARI、DFSLRARP、DFSLRARR、DFSLRART、

DFSLRAR1, DFSLRASC, DFSLRAST, DFSLRAS1, DFSLRBIR, DFSLRBIT,
 DFSLRCAS, DFSLRCS0, DFSLRDAL, DFSLRDBT, DFSLRDCR, DFSLRDDE,
 DFSLRDSS, DFSLRDTM, DFSLREDT, DFSLRICM, DFSLRICN, DFSLRIDS,
 DFSLRILT, DFSLRIN1, DFSLRIRX, DFSLRLTC, DFSLRLTR, DFSLRMIL,
 DFSLRMRG, DFSLRMST, DFSLROCR, DFSLROIC, DFSLROPR, DFSLRORM,
 DFSLRORN, DFSLRRBF, DFSLRRDA, DFSLRRDB, DFSLRRDC, DFSLRRDD,
 DFSLRRDF, DFSLRRDH, DFSLRRDK, DFSLRRDN, DFSLRRDR, DFSLRRDS,
 DFSLRRDT, DFSLRRDU, DFSLRRDW, DFSLRRDX, DFSLRRDY, DFSLRRDZ,
 DFSLRREX, DFSLRRRS, DFSLRRR0, DFSLRSAR, DFSLRSBR, DFSLRSDS,
 DFSLRSFG, DFSLRSFT, DFSLRSIN, DFSLRSTX, DFSLRTK0, DFSLRWRT

- 02** トラッキング・サブシステムが、DBRC との通信に必要な、CSA 内の BRLSB ストレージを取得できませんでした。レジスター 14 に、保管要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRAST, DFSLRDAL, DFSLRDBT, DFSLRDCR, DFSLRDSS, DFSLRIN0,
 DFSLRORS, DFSLRRDB, DFSLRRDC, DFSLRRDN, DFSLRRDZ, DFSLRRRS
- 03** トラッキング・サブシステムが、ログ・バッファ用ストレージを取得できませんでした。レジスター 14 に、保管要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRDCR, DFSLRDSS, DFSLRRCR
- 04** トラッキング・サブシステムが ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRASC, DFSLRDAL, DFSLRDCR, DFSLRDSS, DFSLROIC
- 05** トラッキング・サブシステムが、拡張 CSA ストレージを取得できませんでした。レジスター 14 に、保管要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRARS, DFSLRDBT, DFSLRDSS, DFSLRDTC, DFSLRMIL, DFSLRMST,
 DFSLRRCR, DFSLRRDB, DFSLRRDC, DFSLRRDH, DFSLRRDN, DFSLRRDS,
 DFSLRRDX, DFSLRRDZ, DFSLRRR0, DFSLRRST, DFSLRSIN
- 06** トラッキング・サブシステムが、脱落ログ・データを示すために BCB からストレージを取得することができませんでした。レジスター 14 に、保管要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRASC, DFSLRAS1, DFSLRDDE, DFSLRICM, DFSLRIDS, DFSLRIGP,
 DFSLRRDH, DFSLRRDX, DFSLRSAR, DFSLRSDS
- 07** トラッキング・サブシステムが、IMODULE を使用してストレージを取得できませんでした。レジスター 14 に理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRARA, DFSLRARC, DFSLRARI, DFSLRARL, DFSLRARR, DFSLRAR1,
 DFSLRASC, DFSLRAS1, DFSLRCAS, DFSLRCS0, DFSLRDAL, DFSLRDCR,
 DFSLRDDE, DFSLRDIS, DFSLRDSS, DFSLRDTM, DFSLREDT, DFSLRGSL,
 DFSLRICM, DFSLRICN, DFSLRIDS, DFSLRILT, DFSLRIN0, DFSLRINS,
 DFSLRIRX, DFSLRLTS, DFSLRMIL, DFSLRMRG, DFSLRMST, DFSLROIC,
 DFSLRORH, DFSLRORM, DFSLRORN, DFSLRORS, DFSLRRDA, DFSLRRDB,
 DFSLRRDC, DFSLRRDD, DFSLRRDH, DFSLRRDN, DFSLRRDR, DFSLRRDS,
 DFSLRRDY, DFSLRRRS, DFSLRRR0, DFSLRRST, DFSLRSAR, DFSLRSDS,
 DFSLRSFT, DFSLRSIN, DFSLRSTX, DFSLRTRM, DFSLRSWB, DFSLRTRM
- 08** トラッキング・サブシステムが、会話マネージャーの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRIN0
- 09** トラッキング・サブシステムが、IMODULE を使用してロード・モジュールをロードできませんでした。レジスター 14 に、IMODULE func=load 要求からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRIN0
- 0A** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・サブシステムのトランスポート・マネージャー出口で使用される保管域のセットを取得できませんでした。レジスター 14 に、BCB からの理由コードが入っています。
 モジュール: DFSLRIN0

- 0B** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・ログ・データ・セット・マネージャーの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 0C** トラッキング・サブシステムが、マイルストーン・マネージャーの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 0D** トラッキング・サブシステムが、分離ログ・トランスポート・マネージャー・サブシステムの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 0E** トラッキング・サブシステムが、自動アーカイブの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 0F** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・ログ読み取りコントローラーの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 10** トラッキング・サブシステムが、従属 TCB のタスクを生成できませんでした。レジスター 14 に、dfsattach 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRDAL、 DFSLRDCR、 DFSLRDSS、 DFSLRIN0
- 11** トラッキング・サブシステムが、初期設定中に、DBRC からサービス・グループ・リストを取得できませんでした。レジスター 14 に、DBRC からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRIN1
- 12** リモート・サイト・リカバリーのトラッキング・サブシステムが、アクティブ・サイトでの分離ログ・セnderとの会話の会話割り振り解除要求から、予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、会話割り振り解除要求からの戻りコードが入っています。
モジュール: DFSLRILT
- 13** リモート・サイト・リカバリーのトラッキング・サブシステムでトラッキング・ログ・データを読み取ろうとしたときに、INITECB 障害が発生しました。レジスター 14 に、INITECB 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRBIR、 DFSLRRDT
- 14** トラッキング・サブシステムが、データベース/AREA を割り振ろうとしたときに、DBRC からの予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、DBRC 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRDBT
- 15** トラッキング・サブシステムが、データベース/AREA を割り振り解除しようとしたときに、DBRC からの予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、DBRC 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRDBT
- 16** リモート・サイト・リカバリーのトラッキング・サブシステムがプラン外テークオーバー処理のログ切り捨てフェーズ中に、エラーを検出しました。切り捨て要求が行われたときに、DBRC から予期しない戻りコードが戻されました。レジスター 14 に、DBRC 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRLTS
- 17** トラッキング・サブシステムが、プラン外のテークオーバー中に、ログ切り捨てのための切り捨て試行としてトラッキング・ログを置換するときに、DBRC からの予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、DBRC 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRLTR
- 18** トラッキング・サブシステムが、BCB ストレージを取得できませんでした。レジスター 14 に、BCB 要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRDCR、 DFSLRICM、 DFSLRICN、 DFSLRILT、 DFSLRINS、 DFSLRIN0、 DFSLRMIL、 DFSLROIC、 DFSLRORS、 DFSLRRST

- 19 トラッキング・サブシステムが、オンライン順方向リカバリーの ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRINO
- 1B RSR トラッキング IMS シャットダウン中に、RSR トラッキング IMS が位置データ・セットを作成しようとしたときに、エラーが検出されました。レジスター 14 には、以下のいずれかが入ります。
- 1 RSR トラッキング IMS が位置データ・セットを作成しようとしたときに、エラーが検出されました。付随するメッセージを参照し、そこに示された問題を解決してから、トラッキング IMS を再始動します。
 - 2 位置データ・セットと同じ名前の別のデータ・セットが検出されました。付随するメッセージに示された位置データ・セットを削除してから、トラッキング IMS をシャットダウンします。
 - 3 RSR トラッキング IMS が位置データ・セットをオープンしようとしたときに、エラーが検出されました。付随するメッセージを参照し、そこに示された問題を解決してから、トラッキング IMS を再始動します。
 - 4 RSR トラッキング IMS が位置データ・セットに書き込もうとしたときに、エラーが検出されました。付随するメッセージを参照し、そこに示された問題を解決してから、トラッキング IMS を再始動します。
 - 5 RSR トラッキング IMS が位置データ・セットをクローズし、割り振り解除しようとしたときに、エラーが検出されました。付随するメッセージを参照し、そこに示された問題を解決してから、トラッキング IMS を再始動します。
 - 6 RSR トラッキング IMS のコールド・スタート中に、2 次位置データ・セットを処理しているときに、読み取りエラーが検出されました。1 次位置データ・セットを処理していたときにエラーが検出された後で、この読み取りエラーが発生しました。RSR トラッキング IMS はルーティング位置を設定できず、また、コールド・スタート処理を継続することができません。エラーの原因を解決してから、RSR トラッキング IMS を始動します。

モジュール: DFSLRDCCR、DFSLRDOP、DFSLRDSS、DFSLRTRM:

- 1C トラッキング・サブシステムが、トラッキング・サブシステムのログ・レコードをログに記録できませんでした。レジスター 14 に、ILOG の試行からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRARL、DFSLRARR、DFSLRASC、DFSLRAST、DFSLRAS1、DFSLRCAS、DFSLRDCCR、DFSLRDDE、DFSLRDSS、DFSLRDTM、DFSLRLTR、DFSLRLTS、DFSLRMIL、DFSLRMST、DFSLROIC、DFSLRRCR、DFSLRRDD、DFSLRRDH、DFSLRRDY、DFSLRSAR、DFSLRSDS、DFSLRSFT、DFSLRSWB、DFSLRTK0、DFSLRTRM、DFSLRWRT
- 1D トラッキング・サブシステムが、プラン外テークオーバー処理中に、ログ切り捨てのために必要な出力トラッキング・ログの作成に失敗しました。
モジュール: DFSLRLTS
- 1E トラッキング・サブシステムが、プラン外テークオーバー処理中に、ログ切り捨てに使用される少なくとも 1 つのログ・バッファを取得できませんでした。
モジュール: DFSLRLTS
- 1F トラッキング・サブシステムが、プラン外テークオーバー処理中に、ログ切り捨てに使用されるログ・リーダーを作成できませんでした。レジスター 14 に、読み取り作成要求からの戻りコードが入っています。
モジュール: DFSLRLTS
- 20 トラッキング・サブシステムが、トラッキング終了の ITASK を作成できませんでした。レジスター 14 に、作業単位作成要求からの理由コードが入っています。
モジュール: DFSLRINO
- 21 トラッキング・サブシステムが、位置データ・セットの処理中にエラーを検出しました。レジスター 14 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。
- トラッキング・サブシステムが、位置データ・セットを作成できませんでした。
 - トラッキング・サブシステムが位置データ・セットを作成しようとしたときに、それと同じ名前をもったデータ・セットが検出されました。

- 位置データ・セットをオープンしようとしたときに、エラーが検出されました。
- 位置データ・セットに書き込もうとしたときに、エラーが検出されました。
- 位置データ・セットをクローズしようとしたときに、エラーが検出されました。

モジュール: DFSLRDCR、DFSLRTRM

- 22** トラッキング・サブシステムが、トラッキング・ログ照会要求のときに DBRC からの予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、DBRC からの戻りコードが入っています。
モジュール: DFSLRIGP、DFSLRINI、DFSLRRRS
- 23** トラッキング・サブシステムが、DBRC に対する呼び出しのときに予期しない戻りコードを検出しました。レジスター 14 に、DBRC からの戻りコードが入っています。
モジュール: DFSLRAST、DFSLRDDE、DFSLRDSS、DFSLRILT、DFSLRINI、DFSLRRDB、DFSLRRDD、DFSLRRDH、DFSLRRDN、DFSLRRDX、DFSLRRDY、DFSLRRRS、DFSLRSAR、DFSLRSDS、DFSLRRTK0、DFSLRTRM
- 24** トラッキング・サブシステムが、無効な制御ブロックを検出しました。レジスター 14 に、制御ブロックのアドレスが入っています。
モジュール: DFSLRART
- 25** トラッキング・サブシステムでは、プラン外テークオーバー処理の継続を可能にする前に、アーカイブ SLDS を定義する必要があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS4030A が出力されます。詳しくは、メッセージの説明を参照してください。
モジュール: DFSLRLTS、DFSLRTRM
- 27** ログ・ルーターが、位置データ・セットの ITASK を作成できません。レジスター 14 に、作業単位作成の戻りコードが入っています。
モジュール: DFSLRIN0
- 28** トラッキング・サイトでの HALDB オンライン再編成のための DBRC への所有者設定呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSLRDBT
- 29** トラッキング・サイトでの HALDB オンライン再編成のための DBRC への所有者設定呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSLRDBT
- 2A** トラッキング・サイトでの HALDB オンライン再編成のための DBRC へのカーソル・リセット呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSLRDBT

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLSROIC、DFSLSRRDX、DFSLSRAR1、DFSLSRARA、DFSLSRARC、DFSLSRARI、DFSLSRARL、DFSLSRARP、DFSLSRARR、DFSLSRARS、DFSLSRART、DFSLSRAS1、DFSLSRASC、DFSLSRAST、DFSLSRBIR、DFSLSRBIT、DFSLSRCAS、DFSLSRCS0、DFSLSRDAL、DFSLSRDBT、DFSLSRDCR、DFSLSRDDE、DFSLSRDIS、DFSLSRDOP、DFSLSRDSS、DFSLSRDTC、DFSLSRDTM、DFSLSRREDT、DFSLSRGSL、DFSLSRICM、DFSLSRICN、DFSLSRIDS、DFSLSRIGP、DFSLSRILT、DFSLSRIN0、DFSLSRIN1、DFSLSRINI、DFSLSRINS、DFSLSRIRX、DFSLSR LTC、DFSLSR LTR、DFSLSR LTS、DFSLSR MIL、DFSLSR MRG、DFSLSR MST、DFSLSR OCR、DFSLSR OIC、DFSLSR OPR、DFSLSR ORH、DFSLSR ORM、DFSLSR ORN、DFSLSR ORS、DFSLSR RBF、DFSLSR RCR、DFSLSR RDA、DFSLSR RDB、DFSLSR RDC、DFSLSR RDD、DFSLSR RDF、DFSLSR RDH、DFSLSR RDK、DFSLSR RDN、DFSLSR RDR、DFSLSR RDS、DFSLSR RDT、DFSLSR RDU、DFSLSR RDW、DFSLSR RDX、DFSLSR RDY、DFSLSR RDZ、DFSLSR REX、DFSLSR RR0、DFSLSR RRD、DFSLSR RRS、DFSLSR RST、DFSLSR SAR、DFSLSR SBR、DFSLSR SDS、DFSLSR SFG、DFSLSR SFT、DFSLSR SIN、DFSLSR STX、DFSLSR SWB、DFSLSR TK0、DFSLSR TRM、DFSLSR WRT、DFSLRDC

0384

説明: リカバリー・データ・マネージャーによって呼び出されたサービスが、予期しない結果を戻しました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

002

可変長ストレージ取得エラー

リカバリー・データ・マネージャーは、リカバリーに必要なストレージを取得できません。レジスター 14 に、ストレージ取得サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FRDRPPI00、 FDRPPR00、 FDRPPS00、 FDRRVAM0、 FDRRVGF0、 FDRRVIA0、 FDRRVLM0、 FDRRVPR0、 FDRRVQD0、 FDRRVS00

003

ロード・エラー

リカバリー・データ・マネージャーは、リカバリーに必要なモジュールをロードできません。レジスター 14 に、ロード・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPI00、 FDRPPR00、 FDRPPS00、 FDRRVMI0、 FDRRVS10

004

固定長ストレージの取得

リカバリー・データ・マネージャーが固定長ストレージを取得できません。レジスター 14 に、ロード・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAC0、 FDRRVAM0、 FDRRVIA0、 FDRRVIC0、 FDRRVIR0、 FDRRVMI0、 FDRRVPR0、 FDRRVQD0、 FDRRVRB0、 FDRRVRC0、 FDRRVRD0、 FDRRVWI0、 FDRRVWR0、 FDRRVWT0

005

スレッド作成エラー

モジュールが FDRRVIC0 の場合、リカバリー・データ・マネージャーがイメージ・コピー復元のディスパッチ可能スレッドを作成できません。モジュールが FDRRVIR0 の場合、リカバリー・データ・マネージャーがイメージ・コピー復元のディスパッチ可能スレッド・ブロックのアクセスを獲得できません。レジスター 14 に、スレッド・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVIC0、 FDRRVIR0

007

リカバリー・データ・マネージャーが非同期作業エレメントをディスパッチ可能スレッドにエンキューできません。レジスター 14 に、エンキュー・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAC0、 FDRRVAM0、 FDRRVIA0、 FDRRVIC0、 FDRRVIR0、 FDRRVMI0、 FDRRVPR0、 FDRRVQD0、 FDRRVRB0、 FDRRVRC0、 FDRRVRD0、 FDRRVWI0、 FDRRVWR0、 FDRRVWT0

008

TCB 生成エラー

リカバリー・データ・マネージャーのイメージ・コピー復元コントローラーが、イメージ・コピー復元インスタンスの TCB を生成できません。レジスター 14 に、TCB 生成サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVIC0

009

メッセージ・エラー

リカバリー・データ・マネージャーがメッセージを出力できません。レジスター 14 に、メッセージ・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAM0、 FDRRVDA0、 FDRRVDD0、 FDRRVID0、 FDRRVII0、 FDRRVIR0、 FDRRVIS0、
FDRRVRB0、 FDRRVRC0、 FDRRVRD0、 FDRRVWC0、 FDRRVWR0

00A

リカバリー・データ・マネージャーがデータ・バッファを取得できません。レジスター 14 に、バッファ取得サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVMI0、 FDRRVPR0

00B

ストレージ長の設定

リカバリー・データ・マネージャーが固定長ストレージ取得用の値を設定できません。レジスター 14 に、ストレージ設定サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVMI0

00C

通知エラー

リカバリー・データ・マネージャーがディスパッチ可能スレッドに通知できません。レジスター 14 に、通知サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAM0

00F

IMS パイプ書き込みエラー

リカバリー・データ・マネージャーが、IMS パイプ・サービスを使用してデータをデータベース・リカバリー・マネージャーに送っているときにエラーを検出しました。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVWR0

011

ストレージ解放エラー

リカバリー・データ・マネージャーがストレージを解放できません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVPR0

012

スレッド終了出口ルーチン

リカバリー・データ・マネージャーがスレッドを終了させることができません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVIR0

013

IMS パイプ作成エラー

リカバリー・データ・マネージャーが、アドレス・スペース間通信のための IMS パイプを作成できません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVPR0

014

アドレス・スペース・パラメーター・エラー

リカバリー・データ・マネージャーのアドレス・スペース作成の一環として、データベース・リカバリー・マネージャーによって渡されたパラメーターにアクセスし、解釈するために ASEXTE マクロを使用しているときに、リカバリー・データ・マネージャーでエラーが発生しました。レジスター 14 に、アドレス・スペース作成サービスからの戻りコードが入っています。

0385

モジュール: FDRRVMI0

015

DSPSERV での IMS パイプ作成エラー

IMS パイプ作成サービスが、DSPSERV マクロからのエラーを検出しました。レジスター 14 に、DSPSERV マクロからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPIB0

016

ALESERV での IMS パイプ作成エラー

IMS パイプ作成サービスが、ALESERV マクロからのエラーを検出しました。レジスター 14 に、ALESERV マクロからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPIB0

017

ESTAEX での ESTAE エラーの設定

IMS パイプ・サービスが、ESTAEX マクロ使用中にエラーを検出しました。

モジュール: FDRPPIB0、FDRPPRB0、FDRPPSB0

ソース: IMS 異常終了

モジュール: FDRPPI00、FDRPPIB0、FDRPPR00、FDRPPRB0、FDRPPS00、FDRPPSB0、
FDRRVAC0、FDRRVAM0、FDRRVDA0、FDRRVDD0、FDRRVGF0、FDRRVIA0、FDRRVIC0、FDRRVID0、
FDRRVII0、FDRRVIR0、FDRRVIS0、FDRRVLM0、FDRRVLM0、FDRRVMI0、FDRRVPR0、FDRRVQD0、
FDRRVRB0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSD0、FDRRVSD0、FDRRVWC0、FDRRVWI0、
FDRRVWR0、FDRRVWT0、FRDRPPI00

0385

説明: リカバリー・データ・マネージャーが論理エラーを検出しました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

001

無効な AWE 機能コード

リカバリー・データ・マネージャー・スレッドが、不明な AWE 機能要求を処理しようとした。レジスター 14 に、AWE 機能コードが入っています。

モジュール: FDRRVAM0、FDRRVIR0、FDRRVLM0、FDRRVMI0、FDRRVQD0、
FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSP1

002

データ・セット割り振りパラメーター・エラー

リカバリー・データ・マネージャーがデータ・セット割り振りパラメーター・エラーを検出しました。レジスター 14 に、FDRRVRA 制御ブロックのアドレスが入っています。

モジュール: FDRRVDA0

003

リカバリー・データ・マネージャー・パイプ制御ルーチンが、データベース・リカバリー・マネージャーからの不明な機能要求を検出しました。

モジュール: FDRRVPR0

005

無効なりカバリー・バッファ

リカバリー・データ・マネージャーが、未使用リカバリー・バッファ・チェーンで無効なりカバリー・バッファを検出しました。

モジュール: FDRRVGF0、 FDRRVIC0、 FDRRVLM0、 FDRRVQD0、 FDRRVRB0

006

リカバリー・データ・マネージャーが、ストレージ取得要求では使用できないストレージ・サイズを検出しました。

モジュール: FDRPPIB0、 FDRRVDA0

009

SSID エラー

リカバリー・データ・マネージャーが、SSID リスト内で無効な数のサブシステム ID を検出しました。レジスター 14 に、無効な数の SSID を含んだ AWE のアドレスが入っています。

モジュール: FDRRVQD0

00A

無効なレコードの検出

リカバリー・データ・マネージャーが無効なレコードを検出しました。

モジュール: FDRRVPR0、 FDRRVRB0

00B

無効データ・バッファの検出

リカバリー・データ・マネージャーが無効データのあるバッファを検出しました。

モジュール: FDRRVIA0、 FDRRVQD0

00D

イメージ・コピー復元機能エラー

リカバリー・データ・マネージャーのイメージ・コピー復元処理が無効な機能要求を検出しました。

モジュール: FDRRVID0

015

無効な ECB アドレス

リカバリー・データ・マネージャーがタスク ECB アドレスを取得できません。

モジュール: FDRRVLM0

016

ログ・データ・マージのセットアップまたはパラメーターのエラー

リカバリー・データ・マネージャーが、マージするためにバッファを渡したときに、次のいずれかのエラーを検出しました。

- 新規マージ要求が受け取られなかった (位置ブロックが存在しない)。
- 無効なバッファ・ポインター (0) が検出された。
- 無効なマージ・トークン (0) が渡された。

モジュール: FDRRVLM0

017

無効な「データ終わり」が検出されました。

リカバリー・データ・マネージャーが、少なくとも 1 つの SSID がまだアクティブ状態にあるデータ終わり通知を検出しました。

0388

モジュール: FDRRVLM0

018

無効なマージ ID

リカバリー・データ・マネージャーが、処理用にバッファを渡されたときに、無効なマージ ID を渡されました。

モジュール: FDRRVLM

019

無効なマージ・バッファ

リカバリー・データ・マネージャーが、次のいずれかのエラーのあるバッファを検出しました。

- サブシステム索引が、サブシステムの総数よりも大きい。
- マージ処理の一部でなければならないという通知が受け取られる前に、処理の要求が (SSID の代わりに) 処理された。
- 処理対象のバッファのログ・シーケンス番号が、同じ PRILOG 時刻をもった前のバッファのものより小さい。
- すでにログ・データが終了した SSID 向けのデータが受け取られた。

モジュール: FDRRVLM0

020

無効なマージ終了

リカバリー・データ・マネージャーが、SSID 呼び出しについてのマージ終了で無効なマージ ID を渡されました。

モジュール: FDRRVLM0

ソース: IMS 異常終了

モジュール: FDRPPIB0、FDRRVAM0、FDRRVDA0、FDRRVGF0、FDRRVIA0、FDRRVIC0、FDRRVID0、FDRRVIR0、FDRRVLM、FDRRVLM0、FDRRVMO0、FDRRVPR0、FDRRVQD0、FDRRVRB0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSP1

0388

説明: この異常終了は、RSR 初期設定障害を示しています。DFSINB0 が、RSR 対応システムの IMS Transaction Manager の初期設定中に IMS 内部エラーを検出しました。これ以上、初期設定を継続することはできません。

分析: レジスター 15 に、以下の異常終了サブコードが入っています。

サブコード

説明

X'04'

USERVAR が、IMS.PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内、または実行パラメーターのオーバーライドで指定されませんでした。

X'08'

IMS.PROCLIB の DFSRSRxx メンバーの MTOID パラメーターで指定された値が認識されませんでした。有効な値は 1、2、または 3 です。

X'0C'

COMM マクロの APPLID パラメーターで username3 が指定されず、しかも APPLID3 パラメーターがブランクでした。RSR トラッカー用に、username3 または APPLID3 のいずれかを指定する必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 対応するシステム・パラメーターを訂正します。

ソース: IMS 異常終了

0390

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXLUM0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、IMODULE LOAD、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0390 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXLUM0 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 6、8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかが入ります。

コード
説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 2 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 2 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'C'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 2 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSPPOOL GET が失敗しました。レジスター 2 に DFSPPOOL 戻りコードが入っています。

X'14'

IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 に IMODULE 戻りコードが入っています。レジスター 6 に、ロード中のモジュール名のアドレスが入っています。

X'18'

IPOST が失敗しました。レジスター 2 に IPOST 戻りコードが入っています。

X'1C'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 2 に DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'20'

データ・セット SYS1.CSSLIB の動的割り振り (SVC 99) が失敗しました (データ・セットがカタログされていない可能性があります)。SVC 99 戻りコードについては、レジスター 2 を参照してください。

X'24'

データ・セット SYS.CSSLIB のオープン要求が失敗しました。詳細については、これに伴う内容監視メッセージ (CSVxxxI) を参照してください。

コード
説明

X'28'

データ・セット SYS1.CSSLIB が APF 許可されていません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXLUM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0391

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXRM00 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0391 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXRM00 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下が入ります。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'14'

IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXRM00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0392

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXTMC0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、IMODULE LOAD、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0392 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXTMC0 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'14'

IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

X'18'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXTMC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0393

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXALM0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0393 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXALM0 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXALM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0394

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXALC0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: これは、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXALC0 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

0396 • 0400

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXALC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0396

説明: この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXXCF0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0396 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXXCF0 によって発行されます。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'0C'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'10'

IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

X'14'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、33

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXXCF0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0400

説明: IMS 初期設定で、リポジトリ・セクションを処理中にエラーを検出しました。IMS 異常終了の前に発行された DFS4400E または DFS4401E メッセージを参照して、エラーの原因を判別してください。

システムの処置: IMS は異常終了コード 0400 で異常終了します。IMS が異常終了する前に、DFS4400E または DFS4401E メッセージが発行されます。

システム・プログラマーの応答: 異常終了の理由については、DFS4400E または DFS4401E メッセージを確認してください。エラーを修正して、IMS を再始動します。

232 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS4400E (メッセージおよびコード)

 DFS4401E (メッセージおよびコード)

第 13 章 IMS 異常終了コード 0401 - 0500

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0402

説明: この異常終了は、サブシステム間インターフェース・モジュールが問題を検出した場合に発行されます。無許可プログラムが IMS SVC インターフェースを使用しようとしたか、IMS によって無効な呼び出しが SVC インターフェースに渡されたか、または IMS 制御領域が終了しました。

制御領域が終了した場合、メッセージ領域またはバッチ・メッセージ領域の異常終了の後で、異常終了 0402 が発生することがあります。

このユーザー異常終了は、DL/I 呼び出しで無効な PCB アドレスが渡された場合でも発生します。この PCB は、システム内に高速機能がないにもかかわらず、高速機能 PCB と解釈される可能性があります。

分析: **DBFIRC10** の場合:

レジスター 15 内の以下のサブコードは、高速機能領域間通信モジュール (DBFIRC10) が高速機能 DL/I 呼び出しの処理中にエラーを検出したことを示します。

下の表では、異常終了への入り口のレジスター 8 は、DBFIRC10 内のエラーを検出したサブルーチンを指していません。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000192' Reg15=X'140'		DBFIRC10 は、PST IDENTIFY テーブル (SCDIDTAB) へのポインターが 0 であることを検出しました。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'144'		DBFIRC10 は、呼び出しの発行元 PST の IDENTIFY テーブル・エントリを見つけることができませんでした。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'148'		DBFIRC10 は、監視プログラム状態の制御を受け取ったことを検出しました。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'152'		DBFIRC10 は、キーが 8 (ユーザー・キー) ではない TCB の下で実行されていることを検出しました。

DFSDLPR0 の場合:

0402 は、モジュール DFSDLPR0 内のラベル AB402 で設定される標準異常終了です。以下の表は、サブコードとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'C0000192'	AB402	
Reg14=BAL	(DFSDLPR0)	制御領域サブシステムのベクトル・テーブルが見つかりません。
Reg14=BAL	(DFSDLPR0)	DFSCPYP00 PC 番号が設定されていません。
Reg14=BAL Reg15=PC 戻りコード	(DFSDLPR0)	DFSCPYP00 PC 戻りコードがゼロ以外です。

DFSRR00 の場合:

0403

0402 は、DFSISI00 から戻ったときに、モジュール DFSRRA00 内のラベル RAAB0402 で設定される標準異常終了です。以下の表は、サブコードとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'C0000192'	RAAB0402	
SSOB+X'4C'='SVC#'	(DFSISI00 内の ISIIDF)	示されている領域の TYPE 2 SVC 番号が、IMS 制御領域と一致しません。
SSOB+X'4C'='VER#' Reg4=A(SSOB)	(DFSISI00 内の ISIIDF)	示されている領域のリリース番号が、IMS 制御領域のリリース番号と同じではありません。
Reg14=BAL Reg15=PC 戻りコード	(DFSDLPR)	DFSCPY00 PC 戻りコードがゼロ以外です。

システムの処置: IMS が SVC を使用しようとした場合、IMS は異常終了します。ユーザー・プログラムが SVC を使用しようとした場合、そのユーザー・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: ユーザーが SVC を使用しようとした場合は、IMS システム・プログラマーに支援を依頼してください。

問題判別: 1、4、11、または 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10、DFSDLPR0、DFSRRA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0403

説明: この異常終了は、バッチ処理中に発行されます。入出力ドライバーへの OSAM バッチ・インターフェースが、入出力呼び出しに関連した無効なパラメーターまたは制御ブロックを検出しました。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 14 に、エラーが検出された位置のアドレスが入っています。

分析: これは、モジュール DFSAOS70 (フロントエンド OSAM BATCH 領域入出力ドライバー) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SVCERRAB のルーチン内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された場所のアドレスが入っています。このレジスター内のコメントは、パラメーター・リストまたは制御ブロックの妥当性検査中に、以下のどのエラー条件が検出されたかを示します。

- DEB 検査が失敗した。DCB は無効な DEB を指しています。
- DEB にグローバル IOSB/IOMA プール・アドレスが入っていない。
- ローカル IOSB でゼロまたは無効な IOSB シーケンス番号が検出された。
- グローバル IOSB がローカル IOSB を指し戻していない。
- グローバル IOSB が前の入出力要求から使用中である。
- 要求機能がゼロであるか、無効である。
- 要求機能が FORMAT LOGICAL CYLINDER または FORMAT PHYSICAL EXTENT を指定している。バッチ環境では、これらの機能は許可されません。
- OSAM セクションへの DEB ポインターが無効である。
- エクステンション番号が無効である。
- シーク・フィールド内のシリンダー値またはヘッド値が無効である。
- CCW 命令コードが無効である。
- 仮想 CCW アドレスが無効である。
- グローバル IOMA がそれぞれのローカル IOMA を指していない。
- グローバル IOMA が前の入出力要求から使用中である。
- ローカル IOMA でゼロまたは無効な IOMA シーケンス番号が検出された。

システムの処置: IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

問題判別: 1、4、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAOS70

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0404

説明: この異常終了は、作業用ストレージのための呼び出し可能サービスへの要求が失敗したときに、DFSQSPC0 によって発行されます。モジュール DFSQSPC0 は、キュー・スペース通知出口のIBM IMS Queue Control Facility for z/OS 版です。レジスター 14 に、呼び出し可能サービスのエラー・コード (CSPLRTRN) が入り、レジスター 15 に、呼び出し可能サービスの戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: システム・プログラマーに連絡して、戻りコードを分析してもらいます。

問題判別: 1、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQSPC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0405

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。IMS Queue Control Facility でのユーザー定義の応答は、アプリケーションがさらに IMS キューを使用するのを止めるためにアプリケーションを異常終了させることでした。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: アプリケーションを分析して、キュー・スペースを過度に使用する原因を判別し、必要な修正を行います。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQSPC0

0406

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。この待ち状態の間に、従属領域が IMS Queue Control Facility 以外のソース、あるいは /PSTOP コマンドまたは /STOP コマンドによって、無効な通知が行われました。レジスター 4 に通知コードが入っています。

システムの処置: 従属領域は終了します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了は内部エラーによって発生しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース: IMS 異常終了

0407 • 0411

モジュール: DFSQSPC0

0407

説明: DFSILTA0 内のメッセージ・ツリーまたは領域ツリー内の項目が 2 回削除されました。

システムの処置: DFSILTA0 は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了は内部エラーによって発生しました。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSILTA0

0408

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。従属領域が待ち状態にある間、この領域に対して /STOP または /PSTOP コマンドが入力されました。追加情報については、メッセージ DFS0528I を参照してください。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: アプリケーションを分析して、キュー・スペースを過度に使用する原因を判別し、必要な修正を行います。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQSPC0

関連情報:

 DFS0528I

0409

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。従属領域がこの待ち状態にある間に、無効な IMS Queue Control Facility アクションを受け取りました。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了は、IMS Queue Control Facility または IMS の内部エラーが原因で発生しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース: IMS 異常終了

0411

説明: メッセージ DFS0411I に示されたデータ・セットのオープンが失敗しました。

分析: 0411 は、ログ分析モジュール DFSILTA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル OPENWTO 内の命令を指しています。

OPEN が失敗したデータ・セットの名前を判別するには、この異常終了に伴うメッセージ DFS0411I のテキストを参照してください。データ・セット PRINTER、REPORT、LOGIN、HEADING、または LOGOUT のいずれかのオープンに失敗すると、異常終了が発生します。

このモジュールによって発行される 0411 異常終了はすべて、DCB オープン・フラグに関するテストの後、ラベル OPENERR に条件付き分岐した結果です。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 4 は、1 次基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了完了 コード、X'80000198'	FNDSTART および	この異常終了に伴うメッセージ DFS0411I に示されたデータ・セットの OPEN が失敗しました。レジスター 11 は、エラーのあるデータ・セットを指しています。REPORT2 の DCBOFLGS フィールド、REPORT-FILE、LOGIN、REPORT1、および LOGOUT データ・セットのそれぞれをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。OPEN が成功しなかった場合、異常終了するためにラベル OPENERR に分岐します。
Reg11= OPEN が失敗した DCB の アドレス	FNDLOG	

システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0411I を参照してデータ・セットを識別します。

問題判別: メッセージ DFS0411I に示された DD 名があるかどうか、JCL を検査します。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 DFS0411I

0413

説明: 一度に実行できるアプリケーション・プログラムの数が 255 という、内部テーブルの制限を超えました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: 0413 は、ログ・トランザクション分析モジュール DFSILTA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル P8PGMLP 内の命令を指しています。

DFSILTA0 はログ・レコードを読み取り、タイプ X'08' レコード (アプリケーション・プログラム・スケジューリングを示す) が検出されると、プログラム・テーブル (PGMTBL) エントリーをセットアップするために、ラベル PROC8 に分岐します。ログ分析は、空のエントリーが検出されるまで、テーブルをステップスルーします。各エントリーは 19 バイトのログで、テーブルの終わりは、エントリーの上位バイトの X'FF' によって示されます。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 1 に、異常終了完了コード X'80000191D' が入ります。レジスター 4 は、1 次基底レジスターです。MPP のタイプ X'08' レコードのみが使用されます。BMP からのタイプ X'08' レコードは無視されます。

キー	ラベル	説明
Reg6=A (X'08 ' ログ・レコード)	P8PGMLP	DFSILTA0 はプログラム・テーブルにもう 1 つエントリーを追加しようとしたが、テーブルが満杯でした。処理中は、レジスター 1 はテーブルの開始を指しています。しかし、後に異常終了処理によって完了コードでオーバーレイされます。

システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答: プログラム DFSILTA0 への入力として使用されたログ・データ・セットに有効な IMS ログ・レコードが含まれるかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、8、25、35

異常終了のストレージ・ダンプおよび入力ログ・データ・セットを保管します。

0415 • 0427

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0415

説明: EXEC ステートメントで無効なパラメーターが検出されました。

分析: この標準異常終了は、メッセージ DFS0408I または DFS0409I を伴い、無効なパラメーターを示します。

システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答: 関連したメッセージを検査して、無効なパラメーターを識別します。

問題判別: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 DFS0408I

 DFS0409I

0427

説明: VSAM データベースの処理中に、論理エラーが発生しました。詳しい説明は、メッセージ DFS0427I を参照してください。DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合、このエラーが発生したときに IMS 制御領域は異常終了します。

ある PCB では PROCOPT=L であり、別の PCB では PROCOPT=I (または GIRD または A) であるプログラム仕様ブロック (PSB) がある場合、結果は予測不能であり、この異常終了が発生する可能性があります。

分析: 0427 は、DFSDVSM0 および DFSDVBH0 によって発行される疑似異常終了です。0427 は、ユーザーが DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES をコーディングした場合に発行される標準異常終了です。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0427 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

ログに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了ダンプと、このモジュールのエントリー・ポイント・アドレス (SCD 内にある) が必要です。

SCDVSAM=DFSDVSM0

異常終了が発行された理由を判別するには、IMS システム定義情報内の DL/I トレース・テーブル情報を参照してください。バッファ・ハンドラー・トレース・テーブルから、この異常終了のエントリーを見つけます。これを行うには、最初のバイトが X'AB' に等しく、2 番目と 3 番目のバイトが X'0427' に等しいエントリーを見つけます。このエントリーは、以下のようにフォーマット設定されています。

表示	異常終了 0427	トレース・エントリー
X'00'	DLTRFCTN	X'AB'
X'02'	ENTRY02	X'0427'
X'04'	ENTRY1	PSTFNCTN
X'05'	ENTRY1+1	RPLREQ
X'06'	ENTRY1+2	TRACE SEQ NO
X'08'	ENTRY2	
X'0A'	ENTRY2+2	DSGINDA

表示	異常終了 0427	トレース・エントリー
X'0B'	ENTRY2+3	DSGINDB
X'0C'	ENTRY3	Reg8
X'10'	ENTRY4	VSAM 引数
X'14'	ENTRY5	VSAM 領域ポインター
X'18'	ENTRY6	VSAM 戻りコード
X'19'	ENTRY6+1	VSAM エラー・コード
X'1A'	ENTRY6+2	VSAM 要求オプション
X'16'	ENTRY7	AMP ポインター

エラーが検出された場所を判別するために、このトレース・エントリー内で使用する必要があるものとして、VSAM 戻りコード、VSAM エラー・コード、およびバッファ・ハンドラー機能コードがあります。

VSAM 戻りコードおよびエラー・コードの説明については、z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Setsを参照してください。バッファ・ハンドラー機能コードの説明については、IMS システム定義情報を参照してください。

ENTRY1

1 バイトの機能コード

ENTRY2

DFSDVSM0 への 2 バイトの変位

ENTRY6

1 バイトの戻りコード

ENTRY6+1

1 バイトのエラー・コード

ENTRY2 の 2 バイト (DFSDVSM0 への変位) から疑似異常終了をセットアップするために BALR が行われました。この値を使用して、以下の表で、使用するラベルを判別します。

この問題を診断するために異常終了ダンプが必要な場合は、VSAM OPTIONS ステートメントにパラメーター DUMP=YES を追加します。この処置により、疑似異常終了の代わりに、異常終了が発行されるようになります。以下の表は、レジスターとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	PUT1600	PUT 要求はエラー・コード X'6D' を返しました。これは、VSAM 索引トラップがアクティブ化されたことを示します。
Reg14=BAL	PUT4200	VSAM データベースに追加された論理レコードを取り出そうとしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	PUT6300	PUT 要求はエラー・コード X'40' を返しました。これは、使用可能なプレースホルダーがないことを示します。
Reg14=BAL	PUT9400	VSAM データベースに論理レコードを追加しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	ERSEERR1	VSAM データベースから論理レコードを消しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	SCHB4200	VSAM データベースで RBA 用のサブプール・バッファを探索しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	GET5020	カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、無効のローカル・ベクトル索引が検出されました。この問題が原因で、異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	GET5030	カップリング・ファシリティ・サービスを使用してバッファの妥当性をテスト中に、無効な VSAM バッファ接頭部が検出されました。この問題が原因で、異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	GET9800	VSAM データベースから論理レコードを取り出そうとしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	MRKBERR1	VSAM バッファ ALTERED のマークを付けようとしたか、VSAM バッファの所有権を解放しようとしたか、VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=BAL	WRB7400	VSAM データベースにバッファを書き込もうとしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVSM0、DFSDVBH0

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

 DFS0427I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0428

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) ステップまたは高速機能 (IFP) 領域を開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB がシステム定義時に定義されていなかったためです。

分析: 0428 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
		このルーチンは、PSB を見つけようとしています。プログラム仕様ブロック・ディレクトリー (PDIR) を見つけるために、サブシステム・オプション・ブロック (SSOB) で渡された PSB 名を使用して、DFSCBTS 検索が行われます。PDIR が見つからない場合、この異常終了が発行されます。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで、誤った PSB 名が指定されました。

システムの処置: BMP または IFP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義時に定義された PSB のリストを入手し、要求された PSB の正しい名前を見

つけます。EXEC ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドにある PSB 名を訂正してから、BMP を実行するために再実行依頼します。

問題判別: 2、3、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0430

説明: モジュール DFSDVBI0 が、DL/I データベース・バッファリング・サービス機能を初期設定できないと判断しました。メッセージ DFS0430I が発行され、そのメッセージにある理由コードが障害の理由を示しています。

分析: 0430 は、DFSDVBI0 (DL/I VSAM プール初期設定用のモジュール) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND430 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって無条件分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は 1 次基底レジスター、レジスター 11 は 2 次基底レジスターです。レジスター 13 に、保管セット内の保管域のアドレスが入っています。

この異常終了の前に、障害の理由を示すために、1 つ以上の IMS メッセージ (DFS0430I、DFS0431I、DFS0432I、DFS0436I、または DFS0438I) が出されることがあります。もう 1 つ考えられる理由は、DFSVSAMP データ・セットが提供されなかったことです。

DFSDVBI0 内のルーチンが発行する VSAM マクロの 1 つが失敗した場合、戻りコードがレジスター 15 に入り、付随する IMS 情報メッセージにも含まれています。その後リストが続き、発行された VSAM マクロとそれぞれの戻りコードを示します。マクロの説明と戻りコードの詳細については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

コード

説明

X'00'

VSAM が要求を完了しました。

X'04'

区画またはアドレス・スペース内 (LSR) またはシステム内 (GSR) に、リソース・プールが既に存在します。

X'08'

要求を満たすには仮想記憶域スペースが不十分です (GETMAIN または ESTAE 障害)。

X'0C'

バッファを実ストレージに固定できません (PAGEFIX 障害)。

X'10'

TYPE=GSR が指定されていますが、BLDVPR を発行したプログラムは、キー 0 または 7 を持つ監視プログラム状態ではありません。

X'11'

特定のサブプール/共用プール ID テーブルの DBD ステートメント、または特定の共用プール ID テーブルの POOLID ステートメントを処理中に、GETMAIN 障害が発生しました。

X'14'

STRNO が 1 より小さいか、255 より大きくなっています。ハイパースペース・バッファリングが 4K バイトより小さいサブプール・サイズに対して指定されているか、あるいは必要に応じて指定されるサブプール・サイズ用の拡張ストレージが不十分であるために、ハイパースペース・バッファリングが利用不可です。

0430

X'18'

BUFFERS の指定が誤っています (サイズ または数 が無効です)。

以下は、DLVRP マクロからの戻りコードです。

コード

説明

X'00'

VSAM が要求を完了しました。

X'04'

削除するリソース・プールがありません。

X'08'

要求を満たすための十分な仮想ストレージ・スペースがありません (GETMAIN または ESTAE 障害)。

X'0C'

リソース・プールを使用中のオープン・データ・セットが少なくとも 1 つあります。

X'10'

TYPE=GSR が指定されていますが、DLVRP を発行したプログラムは、保護キー 0 から 7 を持つ監視プログラム状態ではありません。

DFSDVBI0 内のルーチンが、失敗した IMODULE LOAD を発行している場合、レジスター 15 にも戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
DVBISW ^= X'40' DVBISW=X'10' Reg14=WTO への BAL	POOLCK05	VSAM サブプールが必要な場合、スイッチ DVBISW をテストして、サブプールが要求されているかどうかを調べます。このスイッチが設定されていないのに、スイッチがオンにされて、VSAM サブプールが必要であることを示している場合は、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。メッセージ DFS0430I (理由コード 02) が、異常終了に伴って出されます。
Reg14=WTO への BAL Reg15=VSAM BLDVRP マクロからのゼロ以外の 戻りコード	BLDVP080	VSAM 共用リソース・プールを作成するために、VSAM BLDVRP マクロが発行されます。レジスター 15 に戻りコードが入ります。これがゼロ以外の場合、IMS メッセージ DFS0432I が理由コードとともに出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。メッセージ DFS0430I (理由コード 06) も異常終了に伴って出されます。
DVBISW ^= X'80'	BLDVP100	DVBISW スイッチがテストされます。バッファ・ハンドラー・プールが作成されず、VSAM サブプールが要求されたが作成されなかった場合、ラベル MDL0D040 に分岐した後、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。バッファ・ハンドラー・プールが作成されず、VSAM サブプールが要求され、かつ 作成された場合、プールを削除するために VSAM DLVRP マクロが発行され、ラベル MDL0D040 に分岐した後、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。いずれの場合も、IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 09)が異常終了に伴って出されません。

キー	ラベル	説明
Reg9=SCD のアドレス Reg14=WTO への BAL Reg15=IMODULE からのゼロ以外の戻りコード	MDLOD060	DL/I バッファ・ハンドラー DFSDVBH0 の IMODULE LOAD が実行されます。戻りコードがレジスター 15 にロードされます。LOAD が失敗した場合 (レジスター 15 がゼロ以外)、ラベル MDLOD150 に分岐し、モジュール名と戻りコードを示した IMS メッセージ DFS0438I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 07) も異常終了に伴って出されます。
Reg9=SCD のアドレス Reg14=WTO への BAL Reg15=IMODULE からのゼロ以外の戻りコード	MDLOD070	DL/I VSAM インターフェース DFSDVSM0 の IMODULE LOAD が実行されます。戻りコードがレジスター 15 にロードされます。LOAD が失敗した場合 (レジスター 15 がゼロ以外)、ラベル MDLOD150 に分岐し、モジュール名と戻りコードを示した IMS メッセージ DFS0438I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 07) も異常終了に伴って出されます。
Reg8=DCB のアドレス Reg14=WTO への BAL	DCBERR	制御ステートメント・データ・セット (DFSVSAMP) を読み取ろうとしているときに、入出力エラーが発生しました。IMS メッセージ DFS0436I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 05) も異常終了に伴って出されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。障害の理由を示すメッセージが 1 つ以上発行されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0430I を参照して、問題の原因を判別してください。

問題判別: 1、2、3、18、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

 DFS0430I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0432

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。要求された PSB はテレプロセッシング・プログラムとして定義されたが、BMP ステップはメッセージ・ドリブンで、しかも並列オプションが指定されました。

分析: 0432 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPSCHDC	PSB がバッチ・タイプ 2 プログラム用であるかどうかを調べるために、検査が行われます。これに該当しておらず、並列オプションが指定されている場合、異常終了が発行されます。

0436 • 0437

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドに誤ったプログラム名が指定されました。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義時に生成されたプログラム名のリストを入手し、実行すべきプログラムの正しい名前を見つけます。次に、EXEC ステートメントの PARM フィールドにあるプログラム名を訂正してから、BMP を再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

0436

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、システム定義に定義されていなかったためです。

分析: 0436 は、DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPSB	入力シンボリック・キュー名が指定され、サブシステム・タイプが DBCTL であったか、あるいは宛先検索機能 (DFSICLF0) が SMB を検出できなかったかのいずれかです。DFSICLF0 に渡された入力シンボリック・キュー名が、PSTSYMB0 に入っています。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、システム定義時に定義されていませんでした。サブシステムが DBCTL の場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されず、したがって、入力シンボリック・キューは定義されませんでした。

DFSPCC20 の場合:

IMS スケジューラーが、入力トランザクション名が無効であるため BMP ステップをスケジュールできないと判断しました。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力トランザクション名が、システム定義時に定義されていませんでした。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義で定義された入力シンボル名のリストを入手し、名前を訂正します。次に、EXEC ステートメントで指定された入力シンボリック・キューを訂正してから、BMP を再実行します。

データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されていないので、入力シンボリック・キュー名を指定しないでください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0、DFSPCC20

0437

説明: この従属領域に対しては無効な IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) が使用されています。従属領域が、リソース・アクセス・セキュリティー (RAS) によって保護されていない IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) を使おうとしたときに、セキュリティー違反が発生しました。

分析: 0437 は、モジュール DFSASK00、DFSDASP0、または DFSDASS0 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: セキュリティー違反が発生した可能性があります。

システムの処置: 従属領域は終了します。

プログラマーの応答: 従属領域が IMS リソースに対して適切なアクセス権限を持つようにしてください。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00、DFSDASP0、DFSDASS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0438

説明: APSB 呼び出しで指定された PSB をスケジュールするための ODBA ユーザー要求が、SAF RACROUTE 処理に失敗しました。

分析: APSB 要求は失敗します。SAF RACROUTE AUTH 呼び出しが成功しなかった場合、メッセージ DFS2855A が出されます。

システムの処置: APSB 要求は失敗します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、6、11、35、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDASP0

関連情報:



DFS2855A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0440

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、トランザクション・コードではなかったためです。

分析: 0440 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPSB	入力宛先が検査されています。宛先が SMB ではありません。そのため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、トランザクション・コードとして指定されていませんでした。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義で定義されたトランザクション・コードのリストを入手し、有効なコードを選択します。次に、EXEC ステートメント上の入力シンボリック・キュー名をトランザクション・コードに変更してから、BMP を再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

0442

説明: VSAM 制御インターバルを書き込む前に、レコード定義フィールド (RDF) および制御インターバル定義フィールド (CIDF) が検査された結果、無効であるか、または IMS に必要なレコード・フォーマットと不整合であることが判明しました。レコード・フォーマットの不整合の一例として、複数の RDF に記述されているレコードの長さが異

0444

なっていることがあり、これも疑似異常終了 0442 の原因になります。

データベースが、特定のレコード長をもつデータベース記述 (DBD) を使用してロードまたは更新され、後に異なるレコード長を持つ変更された DBD を使用して更新またはロードされた場合、このエラーが発生する可能性があります。

分析: 0442 は、モジュール DFSDVSMO によって発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスターは、RPLIERMA + X'40' に保管されています。

考えられる原因: この異常終了に伴う DFS0442A のテキストを参照して、エラーの原因になった DBD および DD 名を入手してください。

キー	ラベル	説明
	STLEGL00	キーによる論理レコード検索呼び出しが発行された後、CI が不良であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、異常終了 U0442 が設定され、ラベル L9990 への分岐が作成されます。このルーチンで、呼び出し元に戻ります。
	S1800	VSAM に対して GET が発行されています。VSAM から戻った後、不良 CI 用の PST フラグが検査されます。フラグがオンの場合、異常終了 0442 が設定され、S9990 に分岐します。S9990 は呼び出し元のレジスターをリセットし、呼び出し元に分岐します。
	Y5220	この JRNAD ルーチンは、バッファーを書き出す必要があったために駆動されました。CI が不良であるかどうかを調べるために検査が行われます。そうである場合、異常終了 0845 は発行されず、呼び出し元に戻ります。
	Y8020	このルーチンは、CI 分割が進行中であるかどうかを調べます。CI が KSDS 索引 CI であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、不良 CI フラグがリセットされます。CI が KSDS 索引 CI でない場合は、CI が不良であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、不良 CI フラグが設定され、MSGDFS0442A が出されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0442A を参照して、問題の原因を判別してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVSMO

関連情報:

 DFS0442A

0444

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。EXEC ステートメント上の PARM フィールドの 5 番目の定位置オペランドで指定された出力シンボリック・キューが、システム定義に定義されていなかったためです。

分析: 0444 は、DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPSB	出力シンボリック・キュー名が指定され、サブシステム・タイプが DBCTL であるか、あるいは宛先検索機能 (DFSICLF0) が通信名テーブル (CNT) を検出できなかったかのいずれかです。DFSICLF0 に渡された出力シンボリック・キュー名が、PSTSYMB0 に入っています。

考えられる原因:

- EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 5 番目の定位置オペランドで指定された出力シンボリック・キューが、システム定義時に定義されていませんでした。サブシステムが DBCTL の場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されず、したがって、出力シンボリック・キューはシステム定義時に定義されませんでした。
- BMP JCL の EXEC ステートメントの OUT パラメーターでリモート LTERM (CNT) が指定されましたが、これは許可されません。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義で定義された論理端末名およびトランザクション・コードのリストを入手し、正しいものを選択します。次に、EXEC ステートメント上で出力シンボリック・キュー名を訂正してから、BMP を再実行します。OUT パラメーターでリモート LTERM (CNT) を指定することはできません。

データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されていないので、出力シンボリック・キュー名を指定しないでください。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

0448

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された入力トランザクション・コードが、リモート SMB を指定していたためです。

分析: 0448 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出力されます。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPSB	意図問題が解決された後、入力宛先を検査中に、または BMP のスケジュールを変更しようとしているときに、SMB がリモートであることが検出されました。バッチ・タイプ 2 領域は、リモートとして定義された入力 SMB をスケジュールすることはできません。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランド内のトランザクション・コード名が、リモート SMB 用のものです。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム定義で定義されたトランザクション・コードを調べます。次に、リモート SMB ではないトランザクション・コードを選択して、BMP を再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

 DFS554A (メッセージおよびコード)

0451

説明: データベース・データ・セットで物理入力エラーまたは物理出力エラーが発生しました。メッセージ DFS0451I または DFS0451A が発行されました。

異常終了したプログラム用の PSB が生成されたとき、PSBGEN マクロ・ステートメントで IOEROPN パラメーターが指定されました。IOEROPN=451 が指定されて、入出力エラー後にこのステップが終了したか、または IOEROPN=(n,WTOR) が指定されて、オペレーターが DFS0451A メッセージに対して ABEND を応答したかのいずれかです。

0452

注: n=451 の場合、オペレーターが DFS0451A メッセージに対して CONT を応答しても、IMS は異常終了 0451 で終了します。

分析: メッセージ DFS0451I または DFS0451A が出され、エラーを検出しているモジュール、DBD 名、および障害のあるデータ・セットの DD 名が示されます。以下のいずれかに該当しない限り、これは疑似異常終了です。

1. DL/I バッファ・オプション・ステートメントで「DUMP=YES」がコーディングされている場合、モジュール DFSDVBH0 が疑似異常終了 0451 をインターセプトし、それをラベル VBH050 で標準異常終了に変更します。
2. PSBGEN ステートメントで「IOEROPN=(n,WTOR)」がコーディングされており、「n」=451 である場合、ラベル PURGE090 でモジュール DFSDVBH0 から標準異常終了 0451 が発行されます。これは、オペレーターがメッセージ DFS0451A に対して「CONT」を応答した場合も起こります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0451 が示され、IMS は処理を続行します。DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されていた場合、アプリケーションは標準異常終了 0451 で終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0451I または DFS0451A を参照してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH40、DFSDISM0、DFSDVBH0、DFSDVSM0

関連情報:

 DFS0451I

 DFS0451A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0452

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクションが、コマンドまたは前のプログラム障害によって停止またはロックされていたためです。

分析: 0452 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出されます。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPSB	意図問題が解決された後、入力宛先を検査中に、または BMP のスケジュールを変更しようとしているときに、SMB がロックまたは停止されていること、あるいは既に別の PST にスケジュールされているが検出されました。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: そのトランザクションを再び開始してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

 DFS554A (メッセージおよびコード)

0453

説明: BMP プログラム・ステップを開始できませんでした。 EXEC ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクション・コードが、LU 6.2 主導で動的に作成されたトランザクションかまたは IMS 会話型トランザクションであるためです。

分析: 0453 は、DFSPCC20 および DFSSBMP0 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800001C5'	BMPRSPSB	会話型トランザクションが BMP にスケジュールされました。

システムの処置: BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答: EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクション・コードが、LU 6.2 主導で動的に作成されたトランザクションでも IMS 会話型トランザクションでもないことを確認します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0、DFSPCC20

0454

説明: 次のいずれかが発生しました。

- /CHE FREEZE または /CHE DUMPQ コマンドが発行された後で、従属領域をスケジュールしようとした。
- シャットダウン・チェックポイントがすでに他のすべてのアクティブな領域を静止および停止した後で、BMP または MPP が始動された。
- BMP または IFP のスケジューリングが、利用不能な IRLM を検出したため、スケジューリングは継続できない。
- XRF 環境の代替 IMS で事前始動された BMP または IFP スケジューリングが、/STOP BACKUP コマンドによって終了した。スケジューリングは完了しません。
- XRF 環境の代替 IMS で事前始動された BMP または IFP スケジューリングが、代替 IMS で発行された /STOP BACKUP コマンドまたは DFSHSBxx メンバーのアクティブ IMS および PSDEPAB=YES で発行された /CHE FREEZE コマンドによって終了しました。スケジューリングは完了しません。

分析: 0454 は、DFSHSBxx PROCLIB メンバーで PSDEPAB=YES が指定されているか、デフォルトで YES が使用される場合、モジュール DFSASK00 からモジュール DFSPCC20 (異常終了を発行するモジュール) に渡される疑似異常終了です。

DFSRRRA00 の場合:

次のいずれかが発生しました。

- /CHE FREEZE または /CHE DUMPQ コマンドが発行された後で、従属領域をスケジュールしようとした。
- シャットダウン・チェックポイントがすでに他のすべてのアクティブな領域を静止および停止した後で、BMP または MPP が始動された。

0454 は、モジュール DFSASK00 からモジュール DFSRRRA00 (異常終了を発行する) に渡される疑似異常終了です。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IMS が始動または再始動されたら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20

0455

説明: 異常終了 0455 は、Java アプリケーションが BMP 領域にスケジュールされていることを検出した、DFSSBMP0 によって発行されます。

システムの処置: Java アプリケーションは、Java 領域内で実行しなければなりません。

プログラマーの応答: Java アプリケーションを BMP 領域内にスケジュールすることはできないため、スケジューリングを停止するためにこの疑似異常終了が発行されます。Java アプリケーションは、Java 領域内にスケジュールしてください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP

0456

説明: DL/I バッチ領域、バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップ、または高速機能 (IFP) を開始できません。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB が、コマンドまたは前のプログラム障害によって、停止またはロックされたために問題が発生しました。

この異常終了は、以下の場合にも発生します。

- バッチ領域、BMP、または IFP が、NOTINIT 状況の PSB を参照しようとした。NOTINIT 状況の原因として、次のものが考えられます。
 - 初期設定中に、PSB が ACBLIB 内にはない。
 - PSB が IMS に定義されていない DBD を参照した。
 - PSB の BLDL が失敗した。
- 参照された PSB が DOPT として定義され、ACBLIB の最初の連結内で見つかった。
- 高速機能 PCB が参照する DBD がシステム内で見つからない。
- 高速機能 PCB が参照する主記憶データベース (MSDB) を、IMS 初期設定中にロードできなかった。メンバー DBFMSDBX が PROCLIB 内で見つからないか、またはメンバー DBFMSDBX 内で MSDB が指定されていないためです。
- 高速機能 PCB が参照する DEDB ランダム化モジュールを、IMS 初期設定中にロードできなかった。
- DMB プールが小さ過ぎるか、または他の PSB に排他的に割り振られている DMB を必要としているため、PSB をスケジュールできなかった。
- 指定された PROCOPT が、発行されている呼び出しと不適合である。
- 以前のバージョンの IMS で作成または更新された ACB メンバーを、新しいバージョンの IMS で使用しようとした。

分析: 0456 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出される可能性があります。

キー	ラベル	説明
	BMPYPOK SBMP0320 BMPERRBT	バッチ・タイプ 2 プログラム用の PSB が見つかりましたが、その PSB がロックされているか、利用不可である場合、この異常終了が発行されます。
	BMPERRBT	無効な PSB 処理オプションが指定されたため、PSB のスケジューリングが失敗しました。
	BMPERRBT	DOPT PCB で入出力エラーが発生し、PSB が利用不可であったため、PSB のスケジューリングが失敗しました。
	BMPERRBT	ACBLIB 内で、組み込み EOF が検出されました。この問題は通常、オンライン IMS の実行中に ACBLIB を圧縮しているときに発生します。

システムの処置: バッチ領域、BMP 領域、または IFP 領域は異常終了します。欠落した PSB は、初期設定中に発行されたメッセージ DFS830I 内に示されます。DFS563I も、初期設定中に発行されることがあります。

プログラマーの応答: PSB がロックまたは停止した理由を分析します。障害を起こした問題を訂正し、PSB をアンロックしてから、ジョブを再実行します。

BMP プログラム、非メッセージ・ドリブンの IFP、または DEDB ユーティリティー・プログラムのための PSB をアンロックするには、PSB 名を指定して /START PROGRAM コマンドを発行します。次に、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

 DFS554A

0457

説明: 既にスケジュールされている PSB に対して、バッチ・メッセージ処理 (BMP) 領域、高速機能 (IFP) 領域、CICS スレッド、または ODBA スレッドが始動されました。

リソース・マネージャー (RM) およびシスプレックス・シリアル・プログラム管理 (SSPM) がアクティブの共用キュー環境では、シリアル PSB が IMS 領域またはスレッドで使用中のときに制御領域に障害が起きた場合、この異常終了コードが発行されることがあります。このシリアル PSB は、障害が起きた制御領域が再始動されるまで、IMSplex の他のメンバーでスケジュールすることはできません。

分析: 0457 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPTYPOK	この PSB は既に別の領域にスケジュールされており、並列スケジューリングは指定されていませんでした。

システムの処置: BMP 領域、IFP 領域、CICS スレッド、または ODBA スレッドは異常終了しました。

プログラマーの応答: PSB の指定が重複した理由を判別します。これが、現行ジョブの重複ではない場合は、現行ジョブが完了してからこのジョブを再実行するか、またはIMS システム定義で並列スケジューリング・オプションを指定して PSB を訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

0458

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップ、または高速機能 (IFP) 領域が開始されませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB によって使用される高速機能データベースのいずれかが、前のプログラム障害によって停止またはロックされたためです。

高速機能オンライン・ユーティリティーが開始されている場合、EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定されたデータベースが、停止されているか、または DBDGEN で DEDB として定義されていません。

分析: 0458 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出されます。

高速機能オンライン・ユーティリティー領域が開始されている場合、この異常終了は、EXEC Parm= パラメーター (つまり、2 番目の定位置パラメーター) で指定されたデータベースが、停止されているか、または DBDGEN で DEDB として定義されていないことを示します。

システムの処置: BMP または IFP 領域は異常終了します。

0462 • 0474

プログラマーの応答: 高速機能データベースが停止している理由を判別します。データベースの停止の原因となった問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

 DFS554A (メッセージおよびコード)

0462

説明: アプリケーション・プログラムがメッセージ領域にスケジュールされたが、入力メッセージに対する GET UNIQUE を正常に発行することもなく終了しました。アプリケーション・プログラムは、他の呼び出しを少なくとも 1 つは正常に処理しました。

分析: 0462 は、スレッド正常終了ルーチン内のモジュール DFSASK00 によって検出される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
関連ログ・レコード	タイプ X'08'	トランザクションおよびプログラムがスケジュールされました。
	タイプ X'07'	アプリケーションの終了レコード: <ul style="list-style-type: none">• DLRGUMES からコピーされたフィールドがゼロより大きい場合、アプリケーション・プログラムによって GU が発行されました。• DLRGU1 からコピーされたフィールドがゼロより大きい場合、GU が正常に実行されました。異常終了 0462 は、終了時にこのフィールドがゼロに等しかったことを示しています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、PSB および SMB は停止されます。

プログラマーの応答: ユーザーのメッセージ処理プログラムの問題を判別し、それを訂正してから、ジョブを再実行します。

GET UNIQUE が発行されるように、アプリケーション・プログラムを修正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

0474

説明: /STOP REGION ABDUMP または /STOP REGION CANCEL コマンドの使用により、アプリケーション・プログラムが終了させられました。

重要: /STOP REGION ABDUMP コマンドが先行しているときに /STOP REGION CANCEL コマンドを発行した場合も、異常終了 0474 が発生する可能性があります。

分析: DBFSYN00 の場合:

0474 は、/STOP REGION ABDUMP コマンドを検出した後、DBFSYN00 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg10=EPST のアドレス		オペレーターが /STOP REGION ABDUMP コマンドを入力した後、DBFICL40 によって EPSTSTAB フラグがオンに設定されました。

DBFIRC10、DFSASK00、DFSCPY00、DFSDASC0、DFSDCPY0、DFSTMAD0 の場合:

異常終了 0474 は、/STOP REGION ABDUMP コマンドを検出した後、DBFIRC10、DFSASK00、DFSCPY00、DFSDASC0、DFSDCPY0、および DFSTMAD0 によって発行される疑似異常終了です。

DFSDLTR0 と DFSUICC0 の場合:

0474 は、/STOP REGION ABDUMP コマンドを検出した後、DFSDLTR0 および DFSUICC0 によって発行される異常終了です。

DFSDVBH0 の場合:

0474 は、/TERMINATE OLREORG OPTION(ABORT) コマンドを検出した後、DFSDVBH0 によって発行される異常終了です。

システムの処置: 領域は、ユーザー要求に応じて異常終了します。

| abendU0474 が発生する MPP の場合、TLIM カウントは増やされません。MPP では、abendU0474 を TLIM カウントに含めないでください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFSYN00、DBFIRC10、DFSASK00、DFSCPY00、DFSDASC0、DFSDCPY0、DFSDLTR0、DFSDVBH0、DFSTMAD0、DFSUICC0

0475

説明: Java アプリケーション・プログラムが IMS バッチ・ジョブとして実行しようとしていました。IMS バッチは Java アプリケーション・プログラムをサポートしません。

システムの処置: バッチ・プログラムは異常終了します。

ソース: IMS 異常終了

0476

説明: DL/I 呼び出しに、有効な PCB アドレスが含まれていません。DL/I 呼び出しでの PCB アドレス (2 番目のパラメーター、または最初のパラメーターがカウントである場合は 3 番目のパラメーター) が、エントリー・ポイントでアプリケーション・プログラムに渡された PCB アドレスのいずれでもありません。

この障害の原因として、次のものが考えられます。

- AIB のアドレスが指定されたが、ブロックの最初の 8 バイトが 'DFS AIB' でない。
- 指定された PSB 言語がアプリケーション・プログラムの言語と同じでない。
- 呼び出しには PCB アドレスが必要であるのに、呼び出しリストの最後の項目が機能である。
- 呼び出しでの PCB アドレスが、エントリー・ポイントでアプリケーション・プログラムに渡された PCB アドレスのいずれでもない。
- オンライン・プログラムが UNLD 呼び出しを発行した。UNLD 呼び出しは内部 DL/I 呼び出しであるため、アプリケーション・プログラムで発行してはなりません。

この異常終了は、アプリケーション・プログラムのアセンブルまたは生成が正しく行われなかった結果として発生することがあります。

分析: **DBFIRC10** の場合:

0476 は、モジュール DBFIRC10 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=PCB 検査リスト内のオフセットのアドレス		EPCB 内の EPCB オフセットにあるアドレスで、リストが呼び出しで渡された EPCB と一致していないことが検証されました。
Reg3=EPCB のアドレス		
Reg7=PCB 検査リストのアドレス		

キー	ラベル	説明
Reg1=EPCB のアドレス		EPCB が、呼び出し内の PCB アドレスを指していません。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムにエラーがある可能性があります。

DFSCDLI0 の場合:

DL/I 呼び出しリストで、AIB のアドレスが提供されました。しかし、その AIB は無効です。ブロックの最初の 8 バイトが「DFSAIB」に等しくありません。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムにエラーがある可能性があります。

DFSCPY00 の場合:

0476 は、領域間コピー機能モジュール DFSCPY00 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される、疑似異常終了です。TCBFSA+X'18' は ECP アドレスで、ECP+X'104' はユーザー呼び出しリスト・アドレスです。PCB アドレスは、リストの 2 番目のワードです。

DFSDLA00 の場合:

0476 は、DL/I 呼び出しアナライザー DFSDLA00 によっても検出されます。該当するレジスターを見つけるには、ログに出力された制御ブロックのスナップ・ダンプを使用します。SCD (ラベル SCDDLICT にある) から DFSDLA00 のエントリー・ポイントを入手して、呼び出しアナライザーの保管域を見つけ、レジスター 15 で、保管域セットを下に向けて検索してそのアドレスを見つけます。この保管域には、呼び出しアナライザーが呼び出された時点のレジスターが入っています。

エラー条件が検出されると、ラベル ERR22 に条件付き分岐し、そこから疑似異常終了コード X'100001DC' が PST の PSTABTRM フィールドに移動されます。

レジスター 14 から 11 は、PSTSAV15 にある保管セットに保管されます。保管セット内のレジスター 12 に、分岐元のラベルを判別するためのキー情報が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=X'80xxxxxx'、 ここで、xxx は パラメーター・ リスト PSTSAV15 の エントリーの アドレスです	TESTPCB0	レジスター 8 がロードされ、テストされます。レジスター 8 にリスト終了標識 (上位ビットがオン) が入っている場合、パラメーター・リスト内の最後のパラメーターは「機能」パラメーターであり、パラメーター・リストで PCB アドレスが渡されませんでした。ルーチンは異常終了を発行するためにラベル ERR22 に分岐します。
Reg12=X'xxxxAA01'		
Reg3 ⇐ ユーザーへのポインター PCB Reg10=Reg3=0 PSTSAV15 Reg12=X'xxxxAA02'	TESTPCB	レジスター 3 からレジスター 10 がロードされた後、テストされます。レジスター 10 がゼロの場合、パラメーター・リストからゼロの PCB アドレスが渡されました。ルーチンは異常終了を発行するためにラベル ERR22 に分岐します。
Reg3=ユーザーが渡した PCB アドレス PSTSAV15 Reg5=リスト内の最後の PCB の アドレス Reg12=X'xxxxAA03' Reg14=PCB リスト・アドレス	VALIDCK3	PCB 妥当性検査ルーチンが PCB リストをスキャンし、リストの終わりを示すエントリー X'80xxxxxx' を検出しました。しかし、ユーザー提供の PCB アドレスは有効な PCB アドレスではありません。そこで、ルーチンは異常終了を発行するためにラベル ERR22 に分岐します。

キー	ラベル	説明
PSTSAV15 Reg12=X'xxxxAA04'	PSEUDO CB	オンラインで UNLD 呼び出しが発行されました。

考えられる原因:

- 指定された PSB 言語が、アプリケーション・プログラムと同じでなかった。
- DL/I 呼び出しのパラメーター・カウントが無効であった。
- IMS によって無効な PCB が検出された。以下に例を示します。
 - アプリケーション・プログラムへのエントリー・ポイントが、DLITPLI または DLITCBL ではない可能性がある。これは、この 2 つのうちのいずれかでなければなりません。
 - CMPAT パラメーターが誤って指定されている。アプリケーション・プログラムが IOPCB を使用するよう設計されている場合、プログラムを DL/I バッチ領域で実行できるようにするには、PSBGEN ステートメントで CMPAT=YES を指定する必要があります。
 - GSAM 入力データ・セットの DD ステートメントの DCB 情報が誤っている可能性がある。
- DL/I 呼び出しパラメーター・リストで無効な DL/I 機能コードが検出された。

DFSECP10 の場合:

0476 は、領域間コピー機能モジュール DFSCPY00 によって検出され、DFSECP10 によって発行される疑似異常終了でもあります。DFSECP のコピーがモジュール DFSFSWA0 に移動され、文字ストリング「ECP」によって識別されます。モジュール DFSFSWA0 は、従属領域ダンプの CDE エントリーを介して見つけることができます。アプリケーション・プログラムによって渡された呼び出しリスト・アドレスは、DFSECP 内のオフセット X'104' で見つかりません。PCB アドレスはこのリスト内にあり、アプリケーション・プログラムで訂正する必要があります。

この異常終了は、拡張言語インターフェース DFSLIE00 および DFSLIE20 によって検出され、セットアップされることもあります。DFSLIE00 が無効な PCB アドレスを検出した場合、または DFSLIE20 が無効な AIB アドレスを検出した場合、疑似異常終了をセットアップし、最終的に DFSECP10 によって疑似異常終了が発行されます。前述のように、DFSECP がモジュール DFSFSWA0 にコピーされ、これは従属領域ダンプの CDE エントリーを介して見つけることができます。

DFSECP20 の場合:

0476 は、モジュール DFSECP20 から発行されます。

キー	ラベル	説明
R14=BAL	EC2ABEND	DL/I 呼び出しのパラメーター・リストで、無効な PCB または AIB アドレスが渡されました。DFSLIE00 または DFSLIE20 がこの条件を検出し、疑似異常終了をセットアップします。DFSECP20 は、異常終了を検出すると、異常終了を発行するために共通ルーチンに分岐します。R14 は、EC2ABAP0 に分岐した後の命令を指しています。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムが GSAM 呼び出しを行いました。無効な GSAM PCB アドレスを渡しました。DFSPROX0 が異常終了を検出しているときは、アプリケーションが発行した DL/I 呼び出しが指し示すパラメーター・リストに、ゼロに等しい PCB アドレスが含まれています。

DFSFR000 の場合:

0476 は、モジュール DFSFR000 から発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(DFSPRPX0) Reg5=PSB 内の A(PSBCODE)		ユーザー呼び出しのリストで渡された GSAM PCB が、PSB PCB リストの GSAM セクション内の GSAM PCB のいずれにも一致しませんでした。ラベル PCGPSBL にある DFSPRPX0 は、PSB PCB リスト内の最初の GSAM PCB を指しています。レジスター 4 は、PSB の言語フラグが入っている、PSB 内の 1 バイト・フィールドを指しています。このフラグが PL1 の場合、PSB PCB リストには、PCB へのポインタ (ドープ・ベクトル) へのポインタが入っています。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムが GSAM 呼び出しを行いました、無効な GSAM PCB アドレスを渡しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: パラメーター・リストを訂正してから、ジョブを再実行します。

- PSB 言語を変更して、アプリケーション・プログラムの言語に合わせます。
- アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しステートメントを訂正します。

問題判別: 4、17d

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10、DFSCDLI0、DFSCPY00、DFSDLA00、DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0477

説明: FLD ブロックを作成する 1 次エリアの大きさが不十分なため、FLD ブロックに必要な 8192 バイトのエリアを取得するために IGETBUF マクロが発行されました。しかし、このエリアは利用不能でした。バッチ処理では、GETMAIN によりスペースが取得されます。オンライン処理では、スペースはデータベース作業プールから取得されます。

分析: 異常終了 0477 は、DL/I 呼び出しアナライザー DFSDLAS0 によって検出される疑似異常終了です。該当するレジスターを見つけるには、ログに出力された制御ブロックのスナップ・ダンプを使用します。呼び出しアナライザーの保管域を見つけます。これを行うには、SCD (ラベル SCDDLICT にある) から DFSDLA00 のエントリー・ポイントを入手し、レジスター 15 で、保管域セットを下に向けて検索してそのアドレスを見つけます。この保管域には、呼び出しアナライザーが呼び出された時点のレジスターが入っています。その次の下位保管域に、異常終了への入り口のレジスターが入っています。ただし、レジスター 2 は例外で、ここには異常終了完了コード X'000001DD' が入っています。

この異常終了の場合、PST の PSTABTRM フィールドも X'10' に設定され、その後に異常終了コードが続きます。実際の異常終了は、プログラム要求ハンドラーのいずれかによって発行されます。下の表は、レジスター情報および説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=IGETBUF からのゼロ以外の戻りコード	GETOVER	オーバーフロー FLD 作業域を取得するルーチン内に、ラベル GETOVER が付けられているルーチンがあります。ラベル SCDSMMGB にある SCD 内に、EGETBUF モジュールのエントリー・ポイント・アドレスがあります。呼び出しアナライザーは IGETBUF に BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合、これはストレージが取得されなかったことを示しており、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg15=バッファ・ハンドラーからのゼロ以外の戻りコード、PSTRDCDE = X'04' または X'18'	ABC00477	GA 戻りコードを持つ STAT 呼び出しの 2 回目のパスル一時に、バッファ・ハンドラーがエラーを検出し、PSTRDCDE は、比較されたときに、RBN がデータ・セットを越えたことを示しています。異常終了が発行されます。

考えられる原因: バッチの場合、アドレス・スペースの大きさが不十分でした。オンラインの場合、データベース作業プールが小さすぎました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: バッチ処理の場合、より大きなアドレス・スペースを指定します。オンライン処理の場合、より大きなデータベース作業プールを指定します。

問題判別: 13、17a、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00、DFSDLAS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0478

説明: DL/I 呼び出しで、単一の DL/I データベース呼び出しのセグメント検索指数を構成する修飾ステートメントの最大許容数を超過しました。単一の DL/I 呼び出しでの修飾ステートメントの最大数は 1024 です。

分析: 0478 は、DL/I 呼び出しによって、または DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLAS0 のいずれかによって、検出される疑似異常終了です。アプリケーション・プログラムの異常終了ダンプを調べて、1024 を超える修飾ステートメントをもつ現行呼び出しを見つけます。

DL/I 呼び出しのセグメント検索指数に組み込まれた各修飾ステートメントは、DL/I によって FLD と呼ばれる 8 バイト・ブロックにエンコードされます。単一呼び出しで DL/I によって FLD ブロック用に割り振られる最大スペースは、8192 バイトです。したがって、単一の呼び出しでは、最大 1024 までの修飾ステートメントを使用できます。

DL/I 呼び出しがこの限度を超えると、この異常終了が発生します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 単一の DL/I 呼び出しで修飾ステートメントの数が 1024 の制限を超えないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。

問題判別: 11、17a、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLAS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0479

説明: バッファ・プール統計を入手するためのバッファ・ハンドラーへの STAT 呼び出しから、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: 0479 は、DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 によって検出される疑似異常終了です。DL/I 呼び出しアナライザーは、バッファ・ハンドラー統計を戻すために、バッファ・ハンドラー機能を備えたバッファ・ハンドラーを呼び出します。戻り時に、戻りコード (レジスター 15) がゼロでなく、PSTRDCDE がこの場合に可能な 2 つの戻りコードのいずれでもありませんでした。2 つの可能な戻りコードは、PSTGTDS (要約統計が戻された) または PSTNOTFD (サブプールが定義されていない) です。

0481

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: これは、多くの場合、IMS 内部エラーです。

問題判別: 17a、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0481

説明: IMS が、未確定状態のデータに関する情報を識別し保管するための、リカバリー可能未確定構造 (RIS) を作成できませんでした。未確定データを所有している間にスレッドが異常終了すると、システムは常に RIS の作成を試みます。レジスター 15 にあるサブコードが、問題を詳細に示しています。

分析: この異常終了は、RIS 作成処理中に起きる可能性がある複数の異なる問題を示します。それぞれの問題は、内部 IMS エラーであり、何らかの IMS サービスに対する要求の失敗です。異常終了への入り口にある以下のレジスターを確認してください。

DFSDRIS0 の場合:

- R14=要求されたサービスが戻るリターン・アドレス。これは、サービス・マクロの直後の命令のアドレスです。
- R5=RRE ブロックのアドレス。これは RIS のアンカー・ブロックです。
- R6=RIS の作成、ロック保護の EEQE 保護への変換、または障害が起きた CCTL のすべてのロックの保持を要求した AWE のアドレス。

DBFDBLS0 の場合:

- R4=この UOR の RPST のアドレス。

DBFDRIS0 の場合:

- R2=RRE ブロックのアドレス。これは RIS のアンカー・ブロックです。
- R4=この UOR の RPST のアドレス。
- R14=要求されたサービスが戻るリターン・アドレス。これは、サービス・マクロの直後の命令のアドレスです (サブコード 102 の場合)。

レジスター 15 に、問題を識別するサブコードが入っています。サブコード 1xx は、高速機能サブコードです。

サブコード

説明

001

このログを読み取ることができません。

002

IMS ストレージ・マネージャーからブロックを取得できません。

003

この未確定の ITASK を作成できません。

004

RRE ブロックを SIDX ブロックにエンキューできません。RRE は未確定 UOW を識別し、SIDX は作業単位を所有していたサブシステムを定義します。

005

DDIR/PDIR を検出できません。

006

PSB をスケジュールできません。

007

入出力許容 EEQE ブロックを取得できません。

008

不適切に作成/更新された RIS が検出されました。

009

ロック所有権を別のブロックに転送できないか、ロック保存呼び出しが失敗しました。

101

GETMAIN が高速機能 IEEQE ブロックの取得に失敗しました。

102

IMS ストレージ・マネージャーから高速機能 EQEL ブロックを取得できません。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDRIS0、DBFDBLS0、DBFDRIS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0482

説明: コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、IMS DB/DC に接続するために INIT 呼び出しを発行したが、IMS DB/DC システムでは、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・サポートに必須指定の DL/I SAS オプションが指定されていません。

システムの処置: IMS は、CCTL 接続処理を終了させます。

システム・プログラマーの応答: DBCTL サポートが必要な場合、IMS DB/DC システムに対して DL/I SAS オプションを指定します。

問題判別: 1、5、8、25、38

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0484

説明: IMS が始動したが、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムと IMS との間の再同期処理を完了することができませんでした。この処理は、IMS と CCTL との間で接続が行われるときか、またはオペレーター・コマンドに答えるかのいずれかによって開始されます。レジスター 15 にあるサブコードが、問題を詳細に示しています。

この異常終了は、IMS がコーディネーター・コントローラー (CCTL) またはコマンドからの RESYNC 要求を処理中に問題が発生したことを示しています。RESYNC 要求は、未確定作業単位 (UOW) のコミットまたはアボートのいずれかです。

分析: この異常終了は、RESYNC 処理中に起きる可能性がある複数の異なる問題を示します。異常終了への入り口にある以下のレジスターを確認してください。

DFSDRID0 の場合:

- R14=最新の呼び出しのサービス・ルーチンが戻ったリターン・アドレス。異常終了は、何らかのサービスを実行させるのに失敗した結果です。
- R4=RRE ブロックのアドレス。これは、未確定データを識別する、リカバリー可能な未確定構造 (RIS) のアンカー・ブロックです。
- R7=この RESYNC 処理を開始した AWE のアドレス。

0485 • 0499

DBFDLOG0 の場合:

- R6=DBRC に渡されたパラメーター・リストのアドレス。

レジスター 15 に、問題を識別するサブコードが入っています。サブコード 1xx は、高速機能サブコードです。

サブコード
説明

001

PDIR を検出できません

002

PSB をスケジュールできません

003

データベースを許可できません

108

ADSLIST 要求に対して DBRC からゼロ以外の戻りコード

112

ADSTAT 要求に対して DBRC からゼロ以外の戻りコード

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、5、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDRID0、DBFDLOG0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0485

説明: DFSDASD0 において、AWE 用のストレージ要求が失敗しました。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0499

説明:

挿入呼び出し数の最大値を超えたため、アプリケーションが X'A7' 状況コードを受け取りました。アプリケーションは、さらに別の挿入呼び出しの発行を試みたため、0499 で異常終了しました。

分析: 0499 は、モジュール DFSCPY00 または DBFHSRT0 によって発行される標準異常終了です。PCB でアプリケーション・プログラムに戻されるコードについて詳しくは、DL/I 状況コードの説明を参照してください。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、PSB は停止されます。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムが X'A7' 状況コードを認識するようにするか、あるいはシステム定義時に TRANSACT マクロで指定される最大挿入数を増やします。

問題判別: アプリケーション・ダンプおよび IMS システム定義のリスト。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00、DBFHRSRT0

関連資料:

 DL/I 状況コードの生命 (メッセージおよびコード)

0500

説明: IMS は、TCB DEB チェーンを追ったが、7770-3 DCB で指し示される DEB を検出することができませんでした。この問題は、IMS またはホスト・システムのエラーによって引き起こされた可能性があります。

分析: 0500 は、z/OS 用の 7770-3 DEB ビルダー・モジュール DFSASV20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル COMABEND 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 10 に、7770-3 DCB アドレスが入っています。レジスター 6 に、7770-3 DCB で指し示された DEB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F4' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=0 Reg6=DEB へのポインター	NEXTDEB	DCB で指し示された DEB の TCB DEB チェーンが検索されません。一致するものが見つからないままチェーンの終わりに達した場合 (レジスター 2=ゼロ)、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 1、6、10、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASV20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 14 章 IMS 異常終了コード 0501 - 0600

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0501

説明: 3270 リモート端末装置または 3275 ダイアル端末装置の装置依存モジュールが未解決問題を検出しました。

分析: 0501 は、3 つのモジュール DFSDN130、DFSDN140、DFSDS060 のいずれかによって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。また、コンソール・シートを調べて、障害が起きた端末に関連した IMS メッセージが出されていないか確認し、それぞれのセンス/状況バイトに注意する必要があります。

現在は 3 つのモジュールのすべてが、ラベル ABEND501 内に無条件ブランチ命令を持っており、0501 異常終了の周辺に分岐します。異常終了を取得するためには、NOOP 命令を使用してこの分岐をザップする必要があります。あるいは、モジュールの外に分岐し、再アセンブルおよび再リンクすることもできます。現在は、異常終了の代わりに、回線がシャットダウンされ、メッセージ DFS001I「UNDETERMINED ERROR ON 3270, LINE x, PTERM y」がマスター・コンソールに送信されます。ログ・レコード X'67'、サブタイプ X'01' がログに書き込まれるため、IMS TRACE により、制御ブロックおよびレジスターをトラップすることができます。

考えられる原因: ユーザーが IMS コードを変更したか、あるいはこれは端末のハードウェア障害である可能性があります。

DFSDN130 の場合:

これは、3270 リモート装置依存モジュール DFSDN130 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、(SVC 13) 異常終了の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、1 次基底レジスターです。レジスター 3 は、2 次基底レジスターです。レジスター 14 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F5' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス CTBDCTL2= X'80' Reg14=BAL	RI040	これは、端末が選択された後、発行元端末のデータの開始アドレスを判別するためのルーチンです。READ CONTINUE 操作が完了すると、装置依存モジュールは CTBD2SEL フラグをテストして、入力中の端末 CTB が、前の READ INITIAL で入力を処理するために使用されたのと同じ CTB であることを確認します。メッセージの途中で CTB を変更することはできないため、ルーチンはラベル ABEND501 に BAL します。

DFSDN140 の場合:

これは、3270 ローカル装置依存モジュール DFSDN140 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 14 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F5' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス CTBFLAG3=CTB3LAST Reg11=SCD のアドレス	RSU003	読み取りセットアップ・ルーチン内に、より大きいバッファを使用し画面を再読み取りする必要があるかどうかを判別するためのルーチンがあります。CLB 内の CLBDBUF フラグはオンですが、装置依存モジュールは、その回線の最後の CTB に達する前に、CTBDBUF も設定された CTB を見つけることができませんでした。CLBDBUF=X'01' の場合、CTBDBUF フラグが設定された CTB が少なくとも 1 つ必要です。そのようなになっていない場合、ルーチンはラベル ABEND501 に分岐します。
Reg7=CTB のアドレス Reg9=CLB のアドレス CLBDCTL=CLBDREAD	RI010	READ INTERRUPT に対して無効な入力が行われました (DD4 エントリー)。ルーチンは、UNLOCK 完了、READ INITIAL 完了、または READ MODIFIED 完了を検査します。これらの条件のいずれも検出できない場合、ルーチンはラベル ABEND501 に BAL します。

DFSDS060 の場合:

これは、3275 ダイアル装置依存モジュール DFSDS060 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 に、CLB のアドレスが入っています。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 15 には、モジュール DFSCSEA0 (2 進同期交換回線エラー分析ルーチン) またはモジュール DFSCVET0 (3270 切断判別ルーチン) からの戻りコードが入ります。この戻りコードは、エラー条件を処理するためのブランチ・テーブルへの索引としての役目を果たします。

DFSCVET0 は、X'08' をレジスター 15 に戻します。

これは、端末上の現行の出力メッセージをデキューするように伝えます。

DFSCSEA0 は X'02' をレジスター 15 に戻します。

DFSDS060 は、この値に 4 を乗算して、戻りコード X'08' の索引値を入手します。これは、競合状態があることを伝えます。

キー	ラベル	説明
Reg9=CLB のアドレス Reg15=DFSCSEA0 からの X'08'	CHECK	このサブルーチンは、入出力操作でエラーが発生したかどうかを判別します。モジュール DFSCSEA0 に BALR し、これがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合、競合状態が発生しており、レジスター 15 に X'02' が入ります。DFSDS060 は、この値に 4 を乗算し (ラベル CHK040 で)、その結果、ブランチ・テーブル・エントリー索引 X'08' が生成されます。これにより、ラベル ABEND501 に分岐し、異常終了します。
Reg15=DFSCVET0 からの X'08'	CONNECT2	CONNECT1 にあるルーチンはモジュール DFSCVET0 に分岐し、これがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合、渡される戻りコードは X'08' で、これは端末上の現行の出力メッセージをデキューする必要があることを示しています。DFSDS060 は戻りコードの X'08' をブランチ・テーブルへの索引として使用し、これが無効な条件であることを検出して、異常終了するためにラベル ABEND501 に分岐します。

システムの処置: メモリー・ダンプを生成するために、異常終了命令が発行されています。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別します。この問題が IMS 障害によって発生した場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。この問題がユーザー変更またはハードウェアによって発生した場合、問題を訂正してから、障害のあった操作を再試行します。

問題判別: 4、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDN130、DFSDN140、DFSDS060

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0502

説明: DFSDN070 の IMS グラフィックス・アテンション・ハンドラー・ルーチンが、2260 ローカル CLB を通知しようとしたが、アイドル・フラグ (CLB2IDLE) がオンにもかかわらず、この DECB が制御領域によって使用されていました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: これは、モジュール DFSDN070 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS が異常終了します。z/OS システムは、次のジョブ (ある場合) の処理を続行します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動プロシージャまたはコールド・スタートを使用して IMS を再始動できます。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDN070

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0503

説明: 停止を試みている CTB は、現在ディスパッチされている回線と同じ回線上にありません。PTERM に操作不能のマークを付けるルーチンが、PTERM の CTB が通信タスクと同じ回線上にないことを検出しました。レジスター 9 は、その回線の CLB を指し、レジスター 7 は、障害のある PTERM の CTB を指します。

分析: これは、端末に操作不能のマークを付ける通信モジュール DFSCPINO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。各 CLB (通信回線ブロック。回線状況情報を含む) は、関連付けられた DECB を持っています。このブロック (IECTDECB) は、レジスター 9 で指し示されています。レジスター 7 に、CTB へのポインターが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80002F7'が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス Reg9=DECB のアドレス (CLB)	DOIT	Reg9 内の CLB アドレスが、レジスター 7 で指し示された CTB 内の CLB フィールド (CTBCLB) と比較されます。2 つのアドレスが等しくない場合、ラベル ABEND に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を再始動してください。エラーが続く場合、障害が訂正されるまでは、処理を継続するために、障害のある回線の DD ステートメントを除去します。

問題判別: 5、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPINO

関連情報:

0504

説明: IMS 交換回線接続/切断プロセッサ・モジュール (DFSICLA0) が、交換回線上の照会論理端末に属するメッセージを削除しようとしているときに、キュー・マネージャーに対する GET UNIQUE (GU) または DEQUEUE (DEQ) 呼び出しでエラーを検出しました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: これは、交換回線の接続/切断プロセッサ・モジュール DFSICLA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の検出元であるラベル RWQERR 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は、基底レジスタです。レジスタ 11 に、SCD のアドレスが入っています。レジスタ 1 には、異常終了完了コード X'800001F8' が入っています。レジスタ 15 に、キュー・マネージャーからの戻りコードが入っています。DFSICLA0 は、受け入れ不能な戻りコードの場合、異常終了を発行します。

- GU 呼び出しの場合、X'00' と X'08' が受け入れ可能な戻りコードです。それ以外はすべてエラーです。
- DEQ 呼び出しの場合、X'00' が唯一の受け入れ可能な戻りコードです。それ以外はすべてエラーです。

キー	ラベル	説明
Reg11=SCD のアドレス Reg14=BALR Reg15= キュー・マネージャーからの戻りコード	DEQMSG	キュー・マネージャーの読み取りキュー・ルーチンのアドレスは、ラベル SCDIRWQE にある SCD 内で見つかります。DFSICLA0 は、呼び出しをデキューするためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスタ 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスタ 15 に受け入れ可能な戻りコード X'00' が入っていない場合、異常終了するためにラベル RWQERR に分岐します。
Reg11=SCD のアドレス Reg14=BALR Reg15= キュー・マネージャーからの戻りコード	GETMSG	キュー・マネージャーのルーチンのアドレスは、ラベル SCDIRWQE にある SCD 内で見つかります。DFSICLA0 は、GET UNIQUE 呼び出しを行うためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスタ 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスタ 15 に受け入れ可能な戻りコード X'00' または X'08' が入っていない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 4、35

DFSQMGR0 からの戻りコードがレジスタ 2 に入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICLA0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0505

説明: IMS が、サブプール 230、キー 5 で、新規の 7770-3 DEB のためのストレージを獲得しようとした。しかし、この要求を満たすのに使用可能な仮想記憶域がありませんでした。

分析: これは、モジュール DFSASV20 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 11 は、基底レジスタです。レジスタ 10 に、7770-3 DCB アドレスが入っています。レジスタ 6 に、DCB で指し示された DEB のアドレスが入っています。レジスタ 2 に、要求されたストレージのサイズが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=要求されたサイズ Reg6=DEB へのポインター	COUNTED	サブプール 230 に対する GETMAIN SVC が発行されており、戻りコードがレジスター 15 にロードされます。戻りコードがゼロ以外の場合、ルーチンは異常終了するためにラベル GETMFAIL に分岐します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 次回に IMS 制御領域を開始するときに、領域サイズを増やしてください。

問題判別: 1、4、8、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASV20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0506

説明: DFSBACK0 によって論理エラーが検出されました。次の 2 つのタイプのエラーのいずれかが発生しました。

- すべてのログ・データ・セットが EOF まで逆方向に読み取られましたが、リカバリー・トークンの 1 つである、バックアウトのための停止点が検出されませんでした。ただし、順方向読み取り時には停止点が検出されました。これは、ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にあり、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマウントしなかった場合に発生する可能性があります。
- データベース管理でエラーが発生しました。

分析: レジスター 6 の内容を確認します。

レジスター 6 がゼロの場合

バッチ IMS 入力ログの場合、入力ログの逆方向読み取りは、タイプ X'41' または X'0605' レコードが検出されると終了する必要があります。すべてのログ・データ・セットが EOF に向かって逆方向に読み取られたが、リカバリー・トークンの 1 つである、バックアウトのための停止点が検出されませんでした。ログ・データ・セットの順方向読み取りでは、停止点は検出されました。このエラーの理由として、次のものが考えられます。

- ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にあり、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマウントしなかった。
- 入力ログがマルチボリューム DASD データ・セットである。

IMS DB/DC または DBCTL サブシステムからの入力ログの場合、この異常終了は発生しないはずです。

レジスター 6 がゼロ以外の場合

データ・スペース管理エラーが発生しました。レジスター 6 に、モジュール DFSBACK0 内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 15 に、データ・スペース管理モジュール DFSRVSP0 からの戻りコードが入っています。モジュール DFSRVSP0 からの戻りコードは次のとおりです。

- | | |
|----|--------------------------|
| 12 | RVDL ブロックを取得できない |
| 16 | データ・スペースを取得できない |
| 20 | データ・スペースを拡張できない |
| 24 | 誤ったデータ・スペースの参照 (誤ったトークン) |
| 28 | 誤った長さの検索 |
| 32 | ALET を取得できない |
| 36 | 使用可能な補助ストレージが不十分である |

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答:

レジスター 6 がゼロの場合

0507

- ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にある場合、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマウントしたかどうかを確認します。
- マルチボリューム・テープ・データ・セットに対してモデル DSCB 名が指定された場合、変更されたデータベースごとにデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行します。ただし、バッチ・バックアウトの出力ログは除外します。入力ログの DD ステートメントからモデル DSCB 名への参照を除去して、バッチ・バックアウトを再実行します。

レジスター 6 がゼロ以外の場合

レジスター 6 がゼロ以外であり、レジスター 15 内のコードが 36 の場合は、READBACK オプションを使用してみてください。これでうまくいかない場合、またはレジスター 15 に別の値がある場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBACK0

0507

説明: バッチ・バックアウト・ユーティリティで異常終了オプションが選択されました。この異常終了は、SYSIN で ABEND 制御ステートメントを指定してバッチ・バックアウト・ユーティリティが実行される場合に常に発行されます。

また、ABENDMSG 制御ステートメントが指定されていて、メッセージ DFS894I、DFS896A、DFS3278A、または DFS3289A が出される場合にも、この異常終了が発行されます。

分析: メッセージ **DFS894I** の場合:

メッセージ DFS894I は、以下の表に適用されます。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
DFS894I	01	Reg3=0	LOGRSRCH	可変レコードのレコード長がゼロです。
	02	2(Reg2)≠0	LOGRSRCH	ゼロ以外のスパン・ビットをもつ可変レコードが検出されました。
	03	Reg3≠POOLED +1	GOSUB2	テープ入力の場合、BDW + バッファ開始アドレスが、POOLEND より大きくなっています。
	04	Reg2+Reg3 > BLOCKEND	LOGRSRCH	バッファ内の可変長レコードが BLOCKEND より大きくなっています。

ABEND 制御ステートメントが使用されている場合、すべてのバックアウト処理が完了した後で、異常終了が発生します。これは、最終的な戻りの前、かつログ・データ・セットがクローズされる前です。この異常終了は無条件であり、診断の目的にのみ使用されます。

ABENDMSG 制御ステートメントが使用されている場合、エラー・メッセージを発行し、入力ログをクローズした (必要な場合) 後で、異常終了が発生します。

現行ログ・レコードは、RECPTR フィールド内のアドレスを使用して見つけることができます。エラー・メッセージが出される時点で有効なレジスターは、STM レジスター 12、レジスター 11 を使用して、フィールド REGSAVE から始めて保管されます。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS894I の場合、原因には以下のものが含まれます。

- 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- 破損したログ入力 (正常でないテープ/ドライブ)
- 入出力読み取りエラー

- 正常でないログ・レコード

メッセージ **DFS896A** の場合:

以下の表は、メッセージ DFS896A に適用されます。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
DFS896A	01	Reg2= 0	DBCTL08	GPR02 で指し示されたりカバリー単位 (UOR) トークンが、RECPTR で指し示された TYPE08 非 CICS レコードと同じリカバリー・トークン値を持っています。
	02	TOKFAIL がオン	MTCHTOK	GPR02 で指し示されたりカバリー単位 (UOR) トークンが、RECPTR で指し示された非 TYPE08 CICS レコードと同じ PST を持っています。動的バックアウトが失敗したことを示している、TYPE07 終了レコードが既に検出されました。

考えられる原因: 誤った、または不完全なログ入力、この異常終了とメッセージ DFS896A の原因である可能性があります。

メッセージ **DFS3278A** の場合:

以下の表は、メッセージ DFS3278A に適用されます。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
DFS3278A	01	Reg2 + X'21' が、フ ィールド SAVETIME より小 さくなっています。	CASE50BF	現行の TYPE5X ログ・レコード (RECPTR) が TYPE06 より小さい日時を持っているか、あるいは順方向読み取り時に、前の TYPE5X レコードが処理されました。
	02	NBLKA または DP00LADR が、 DPOOLEND より大 きくなっています。	DREAD020	DASD ログの逆方向読み取り時に、現行バッファを越えて処理しようとした。
	03	DDLASTT=TT	DCCHTEST	DASD ログの逆方向読み取り時に、EOFの欠落が検出されました。
	04	Reg2 + X'14' が、フ ィールド SAVETIME より小 さくなっています。	CASE06BF	バッチ・ログで TYPE06 レコードが検出され、日時が SAVETIME より小さくなっています。
	05	LGSEQNR	GOSUB3 BCKSEQNR	IMS バッチ・ログ入力データ・セットについて、順方向読み取り時に読み取られた最後のログ・レコードのログ・レコード・シーケンス番号 (LGSEQNR) が、逆方向読み取り時に読み取られた最初のレコードのログ・シーケンス番号 (BCKSEQNR) に一致しません。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS3278A の原因には、以下のものが含まれます。

0509

- 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- 破損したログ入力
- 無効なログ入力
- IMSLOGR 入力の JCL エラーが、この異常終了とメッセージ DFS3278A の原因である可能性があります。

メッセージ **DFS3289A** の場合:

以下の表は、メッセージ DFS3289A に適用されます。

メッセージ	キー	ラベル	説明
DFS3289A	Reg2 で指し示されたレコードのログ・シーケンス番号が、前のシーケンス番号 + 1 に等しくありません。		2 つの隣接するレコードのログ・レコード・シーケンス番号が、1 だけ増えていませんでした。メッセージは、予期されたシーケンス番号と、検出されたシーケンス番号を表示します。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS3289A の原因には、以下のものが含まれます。

- 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- 破損したログ入力
- 無効なログ入力
- IMSLOGR 入力での JCL エラー

システムの処置: 処理終了後、ユーティリティはダンプ付きで終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

-  [DFS894I](#)
-  [DFS896A](#)
-  [DFS3278A](#)
-  [DFS3289A](#)

0509

説明: メッセージ生成プログラム・モジュール (DFSCLM00) が、IMS コマンドへの応答メッセージの作成中に、無効な SYSID を検出しました。

分析: これは、通信メッセージ生成プログラム・オーバーレイ・セグメント・プロセッサ DFSCLM00 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND509 内の命令を指しています。このラベルへは、エラーを検出したルーチンによって分岐リンクされます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 8 は、スクラッチパッドを指しています。レジスター 7 に、CTB アドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FD' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=ゾーン SID へのポインター Reg6=SID Reg9=CLB のアドレス	SIDBIN	ゾーン SID をバイナリーに変換するためのルーチンで、Reg6 が検査され、SID が 1 文字のみの長さであることが確認されます。そのようになっていない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND509 に分岐リンクします。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS システム・コードに問題の原因がある可能性があります。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLM00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0511

説明: 会話型処理エラーが発生しました。無効なバッファ要求が指定されたか、またはアクティブな会話がないときに会話を解放する要求が出されました。この問題は、おそらく IMS システム・エラーです。

分析: これは、モジュール DFSCONM0、DFSCON00、DFSCON10、DFSCON20 のいずれかによって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。この異常終了は、会話型制御ブロックのいずれかのエラーにより、または処理に不可欠なポインターが無効であるために、会話型処理を続行できないことによって起こります。

通常、レジスター 5 は BAL レジスターとして使用され、そのモジュール内の障害を特定の記述ラベルに分離するのを補助します。

DFSCONM0 の場合:

これは、リモート・システムから SPA を挿入するための会話型プロセッサ・モジュール DFSCONM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND511 内の命令を指しています。

このモジュールからの異常終了 0511 の原因になる可能性があるエラーには、2 つの異なるタイプがあります。

1. CTB ポインターが正常でない場合 (これは、下記の最初のラベルに示されたケース)、このエラーを検出するルーチンは、異常終了を発行するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
2. CCB 内の情報が意味不明である場合、問題を検出するルーチンはラベル ERRCCB に条件付き分岐し、これが異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 6 に、CCB アドレスが入っています。レジスター 7 に、リンクの CTB アドレスが入っています。レジスター 10 に、宛先 CNT アドレスが入っています。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=CNT からの CTB ポインター Reg4=CTB ポインター	(以下の直前) CONMOK1	会話が続行されているかどうかを判別するためのルーチンで、CTB ポインターが検査されます。レジスター 3 とレジスター 4 が比較されます。これらのレジスターのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

キー	ラベル	説明
Reg6=SPA からの CCB 番号 Reg8=パック入力 SPA へのポインター Reg11=SCD のアドレス	CONMWASE	入力 SPA から CCB を取得して検査するためのルーチンで、SCD (ラベル SCBCCBN にある) 内の CCB 番号が、SPA からの CCB 番号と比較されます。SPA からの CCB 番号の方が高ければ、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。
Reg4=CTB へのポインター (会話型 PTERM) CTBFLAG1=X'00' または X'04'	CONMWASE	会話の妥当性検査をするルーチンで、レジスター 4 によって指し示された CTB の CTBFLAG1 フィールドがテストされます。最初に、PTERM が会話モードであるかどうかを調べます。会話モードでない場合、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。2 番目のテストでは、会話が保留中 (PTERM 上でアクティブでない) かどうかを調べます。答えが「はい」であれば、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。
Reg4=CTB のアドレス Reg6=CCB のアドレス	CONMWASE	会話の妥当性検査をするルーチンで、CCB と CTB が一致しているかどうかを調べるための比較が行われます。この 2 つのブロックが等しくない場合、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。

DFSCON00 の場合:

これは、会話型プロセッサ START/CONT/END モジュール DFSCON00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND 内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABND511 にあるルーチンによって無条件分岐され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。ラベル ABND511 へは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg0	CONTINUE	レジスター 0=MINUS に、0 (開始) または 1 (続行) が入っている必要があります。
Reg6=CCB	CONTINUE	CTBCCBPT からロードされたレジスター 6 に、CCB ポインターが入っている必要があります。
Reg5 ⇐= 0	LOGERR	会話の開始をログに記録しようとしているときに、ゼロ以外の戻りコード。
Reg15 ⇐= 0	ISRTFLG1	「insert prefix」呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐= 0	ISRTFLG2	「put locate」呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐= 0	FNDBREAD	位置変更呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐= 0	ISRTISRT	APPC 接頭部のメッセージ接頭語移動呼び出しを挿入しようとしているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。

DFSCON10 の場合:

これは、SPA を挿入している会話型プロセッサ・モジュール DFSCON10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND 内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABND511 にあるルーチンによって無条件分岐され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。ラベル ABND511 へは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=入力端末 SID Reg11=SCD のアドレス	VERSID	入力端末の SID を取得して検査するためのルーチンで、レジスター 4 にゼロが入っている場合、ラベル VERSIDER に分岐します。ゼロでない場合は、レジスター 4 内の SID と SCD (ラベル SCDSIDN にある) 内の SID 範囲値が比較されます。入力端末の SID が有効範囲より高い場合、ラベル VERSIDER に分岐します。ラベル VERSIDER は、異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg7=CTB のアドレス CTBFLAG1=X'00'	CONLLOC	CTBFLAG1 フィールドをテストして、この PTERM が会話モードであるかどうかを調べます。このフィールドがゼロの場合、ラベル CONLERR1 に分岐し、これが異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg8=DFSCONG0 からの SPA への ポインタ Reg9=PST のアドレス Reg15=ゼロ以外の 戻りコード (DFSCONG0 から)	CONLWASE	CSECT DFSCONL0 内のルーチンが、入力メッセージから SPA を取り出すために、モジュール DFSCONG0 に BALR します。レジスター 15 に戻りコードがロードされた後、戻りコードがテストされます。これがゼロ以外の場合、ラベル CONLESPA に分岐します。ゼロの場合、SPA と PSTCCB 番号が比較されます。これらが等しくない場合、ラベル CONLESPA に分岐します。ラベル CONLESPA は、異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キュー・ マネージャーからの ゼロ以外の戻りコード DECTYPE=X'9B'	CONLRMT	一連の呼び出しによりメッセージ・キュー内にスペースを予約し、その中にメッセージ・セグメントを入れるルーチンで、ルーチンがキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合 (無効な長さや、セグメントが移動されなかったことを示しています)、ラベル BAL511 に分岐し、これは異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キュー・ マネージャーからの ゼロ以外の戻りコード DECTYPE=X'9A'	UPPRFSPA	このルーチンは、接頭部を挿入するためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合 (メッセージ接頭語が更新されなかったことを示しています)、ルーチンはラベル BAL511 に分岐し、これは異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キュー・ マネージャーからの ゼロ以外の戻りコード DECTYPE=X'9A'	ISRT62PF	

DFSCON20 の場合:

これは、会話型プロセッサ終了モジュール DFSCON20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND511 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB アドレスが入っています。レジスター 11 に、SCD のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。レジスター 0 の下位バイト (バイト 3) に、終了のために DFSCONE0 が呼び出された理由を説明するベクトル値が入っていることがあります。以下は、受け入れ可能なベクトル値とその意味を示しています。

コード 意味

- X'00' 会話型 MPP 異常終了。
- X'04' この会話の処理時の重大エラー。
- X'08' ローカルまたはリモート /EXIT。
- X'0C' /START。
- X'10' 非アクティブ会話の SPA。
- X'14' 矛盾する定義が認知された。
- X'18' /EXIT および入力メッセージがまだアクティブ。
- X'1C' /START および入力メッセージがまだアクティブ。
- X'20' 会話型 MPP が端末に応答を挿入しなかった。

キー	ラベル	説明
Reg10=SAVVPTR>X'14' に設定された作業保管域	DFSCONX0	フィールド SAVVPTR を比較して、保管ベクトルが有効 (X'14' の戻りコードより小か等しい) かどうかを調べます。保管ベクトルが無効 (X'14' より大きい戻りコード) 場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB 番号 VCT=X'00' Reg11=SCD のアドレス	CONXLOC	レジスター 6 の CCB 番号が、SCD の CCB 番号範囲と比較されます。レジスター 6 の値が有効範囲を超えている場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB の アドレス Reg7=CTB の アドレス VCT=X'00'	CONXLOC3	宛先端末が会話中の PTERM であるかどうかを調べるために、レジスター 7 の CTB アドレスと CCB (ラベル CCBCTBPT にある) の CTB ポインターが比較されます。この 2 つのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB からの CCB ポインター Reg7=CTB の アドレス VCT=X'0C'	CONXICL4	レジスター 6 に、CTB からの CCB ポインターがロードされます。テスト時に、レジスター 6 の値がゼロまたは負の場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg8 ⇐ SPA へのポインター VCT=X'00'	CONXRMT	会話がリモート・システムにあるかどうかを検査するためのルーチンで、レジスター 8 をテストして、SPA が使用可能であるかどうかを調べます。レジスター 8 の値がゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CTB からの CCB ポインター	DFSCONT0	CCB を非アクティブ・キューにリストアするためのサブルーチンで、レジスター 5 がテストされます。レジスター 5 のアドレスがレジスター 6 のポインターより低いか等しい場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg4=CCB からの CTB ポインター Reg4 ⇐ Reg7 Reg7=CTB のアドレス	CONT2	CCB (ラベル CCBCTBPT にある) からの CTB ポインターが、レジスター 7 の CTB アドレスと比較されます。この 2 つのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

キー	ラベル	説明
Reg6=CCB のアドレス CCBFLAG1=ゼロ	CONT2A	CCB の CCBFLAG1 をテストして、この CCB 上の会話がアクティブかどうかを調べます。このフラグ・フィールドがゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=論理 ロガーからの ゼロ以外の戻りコード	CONT4	会話の終わりをログに記録するためのルーチンが、論理ロガーに BALR し、その戻りコードをレジスター 15 にロードします。ログインが成功したかどうかを調べるためにレジスター 15 がテストされたときに、レジスター 15 がゼロでない場合、ルーチンはラベル LOGERR に分岐し、これは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
R15=Q マネージャー からの ゼロ以外の 戻りコード	CONXRMT2	このルーチンは、処理中の出力メッセージ・チェーンを解放するためにキュー・マネージャーに BALR します。レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=Q マネージャー からの ゼロ以外の 戻りコード	ENQIT	ENQ LIFO 要求で SPA をエンキューしようとしているときに、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードが戻されました。
Reg15=ロガーからの ゼロ以外の戻りコード	LOGERR	ロガーが、タイプ 12 ログ・レコードを書き込もうとしている時に、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg6=SPA からの CCB 番号 Reg8=パック SPA への ポインター Reg11=SCD のアドレス	VERACT	会話がまだアクティブかどうかを検査するルーチンで、レジスター 6 の CCB 番号が、SCD (ラベル SCDCCBN にある) の CCB 番号範囲と比較されます。レジスター 6 の値の方が高い場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg4=CCB からの CTB ポインター CTBFLAG1=ゼロ	VERACT1	CTB の CTBFLAG1 フィールドをテストして、PTERM がまだ会話中であるかどうかを調べます。フラグがゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg4=CTB のアドレス CTBFLAG1=X'40'	VERACT2	CTB の CTBFLAG1 フィールドをテストして、会話が保留中であるかどうかを調べます。保留中である場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg3 = SID	VERRMT	SID が有効であるかどうかを検査するルーチンで、レジスター 3 がテストされます。これがゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg3 = SID Reg11=SCD のアドレス	VERRMT1	レジスター 3 の SID 番号と SCD (ラベル SCDSIDN にある) の SID 番号範囲を比較して、SID が有効範囲内にあるかどうかを調べます。レジスター 3 の値の方が高い場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キュー・ マネージャーからの ゼロ以外の 戻りコード	ROUTE	このルーチンは、メッセージ・キュー・バッファ内スペースを予約し、その中にメッセージを入れるために、キュー・マネージャーに BALR します。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合 (メッセージ・セグメントが移動されなかったことを示しています)、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

0513

キー	ラベル	説明
Reg15=メッセージ・ルーターからのゼロ以外の戻りコード	ROUTER	このルーチンはメッセージをエンキューするためにメッセージ・ルーターに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、4、6、25、26、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCONM0、DFSCON00、DFSCON10、DFSCON20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0513

説明: Transaction Manager (TM) バッファ・プール (CIOP、HIOP、または SPAP) または自動化操作プログラム・バッファ・プール (AOIP) のいずれかでオーバーレイが発生した可能性があります。高速機能では、高速機能のセグメント圧縮の作業域 (SEG1 または SEG2) のストレージ・オーバーレイが発生した可能性があります。このエラーは、ユーザーの TM 出口ルーチンまたは編集ルーチンの 1 つ、アクセス方式 (VTAM など)、または IMS コードのエラーが原因で発生した可能性があります。AO プールに対するオーバーレイの場合、エラーはユーザーの TYPE 2 AO 出口 DFSAOE00、または IMS コードのエラーが原因で発生した可能性があります。レジスター 15 の理由コードにより、この障害の原因を診断するための追加情報が示されています。

分析: この異常終了は通常、AO バッファ・プール AOIP でオーバーレイが発生した場合に、さまざまなモジュールによって発行される標準異常終了です。バッファがオーバーレイされた回線、ノード、MSC リンク、または従属領域の処理中にエラーが検出されている場合は、各モジュールのエラーの説明を参照して、詳しい診断情報を入手してください。

レジスター 9 に、回線またはノードに関連する通信回線ブロック (CLB) のアドレス、リンクの論理リンク・ブロック (LLB) のアドレス、または従属領域の区画仕様テーブル (PST) のアドレスが入ります。APPC 装置の入出力に関して DFSLIEE0 から 0513 が発行されている場合は、レジスター 9 は適用されません。

レジスター 13 に、アクティブ保管域のアドレスが入っています。IMS 定様式ダンプの診断域または保管域トレース内の完全な保管域セットは、異常終了につながったモジュールのフローを判別するのに役立ちます。

フィールド SCDSMCON に、4 つのプール (I/OP、CWAP、HIOP、および LUMP) 内の各バッファの終わりで検出された 8 バイトの定数が入っています。すべての出口ルーチンの呼び出しの前と後にバッファが妥当性検査されるため、出口ルーチンの呼び出しの後で検出されたエラーは、出口ルーチン自体に原因がある可能性が最も高いと考えられます。

出口ルーチンが標準レジスター保管規則を使用している場合、ルーチンに渡されたレジスターは、異常終了時のレジスター 13 で指し示された保管セット内にあります。

各モジュールの診断情報は、以下のとおりです。

DBFCMP10 の場合:

高速機能セグメント圧縮作業域 (SEG1 または SEG2) の潜在的なストレージ・オーバーレイが発生しました。

これは、潜在的なストレージ・オーバーレイが発生している場合にモジュール DBFCMP10 によって発行される疑似異常終了です。レジスター 1 に、異常終了コードが入ります。以下の状態は、この異常終了を開始します。

1. ユーザー入出力域からキー 7 作業域 (SEG1) へのデータの移動
 - Reg2=無効データ長
 - Reg7=作業域接頭部のアドレス

- Reg8=入力データのアドレス
 - Reg10=A(EPST)
2. ユーザー入出力域からキー 7 作業域 (SEG2) へのデータの移動
- Reg9=無効データ長
 - Reg7=作業域接頭部のアドレス
 - Reg8=入力データのアドレス
 - Reg10=A(EPST)
3. セグメント圧縮出口ルーチンの呼び出し後の作業域接尾部 (ID) のオーバーレイ
- Reg7=作業域接尾部のアドレス
 - Reg10=A(EPST)

DFSCFEI0 の場合:

レジスター 11 は、通信インターフェース・ブロック (CIB) を指しています。フィールド CIBWORK は、ユーザー・バッファを指しています。最初の 2 バイトは、バッファの長さです。オーバーレイ定数は、バッファの最後にあります。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

レジスター 3 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON に、バッファ・オーバーレイ定数が入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。以下の表に示すように、このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'A4'	SEGM28	ユーザー MFS セグメント編集ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'A8'	SEGM29	ユーザー MFS セグメント編集ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCMCP0 の場合:

MSC チャネル間リンク・バッファが、無効な長さフィールドを持っています。

以下のレジスター (異常終了 SVRB 内) に、異常終了の発生時の診断情報が入っています。

レジスター 3 は、バッファ長です。

レジスター 4 は、通信端末装置テーブル (CTT) から計算されたバッファ長です。

レジスター 5 に、メッセージ・バッファのアドレスが入っています。

レジスター 9 に、論理リンク・ブロック (LLB) のアドレスが入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'84'	SETINPUT	チャネル間 (CTC) 入出力を開始するための準備中にバッファ・オーバーレイが検出されました (複数システム結合機能 CTC アクセス方式のみ)。

0513

DFSCMEI0 の場合:

レジスター 4 に、無効なバッファのアドレスが入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'B8' Reg4=無効な バッファ のアドレス	CKBFRTN	メッセージ制御エラー出口を呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'BC' Reg4=無効な バッファ のアドレス	CKBFRTN	メッセージ制御エラー出口を呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCMS00 の場合:

レジスター 9 は、MSC リンクの論理リンク・ブロック (LLB) のアドレスです。

レジスター 13 は、現行の保管セットのアドレスです。

レジスター 3 と 12 は、モジュール DFSCMS00 の基底レジスターです。

オーバーレイされたバッファ・アドレスが、DFSCMS00 内のフィールド BUFADDR に保管されています。バッファの最初の 2 バイトに、バッファの長さが入っています。

レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。フィールド SCDSMCON に、バッファ・オーバーレイ定数が入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'68'	DFSCMS00	複数システム結合機能 (MSC) アナライザ (DFSCMS00 - ITASK CREATE) に入るときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'6C'	DFSCIO01	MSC 装置依存のモジュールが入力メッセージ (ENTRY A01) を処理するためにアナライザに戻ったときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'70'	PROSMB	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出され、リンクから受け取った入力メッセージはトランザクション宛先を持っていました。
Reg15=X'74'	PROSMB	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出され、リンクから受け取った入力メッセージはトランザクション宛先を持っていました。
Reg15=X'78'	PROCNT	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出され、リンクから受け取った入力メッセージは送信されたルーティング・メッセージでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'7C'	PROCNT	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出され、リンクから受け取った入力メッセージは送信されたルーティング・メッセージでした。
Reg15=X'80'	RTNDISP	複数システム結合機能 (MSC) アナライザーが IMS ディスパッチャーに出たときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCOF0 の場合:

レジスター 9 は、処理中にバッファがオーバーレイされた回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) アドレスです。

CLBOUTBF は、オーバーレイされたバッファを指しています。バッファの最初の 2 バイトに、バッファの長さが入っています。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON に、フィールド・オーバーレイ定数が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15='88'	CALLDD6	エントリー 6 (DD6M または DD6S) で装置依存のモジュールを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15='8C'	CALLDD1	エントリー 1 (DDM1) で装置依存のモジュールを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCON20 の場合:

レジスター 9 に、以下のいずれかが入ります。

- 領域の区画仕様テーブル (PST) のアドレス (この IMS システムで会話型トランザクションが異常終了した場合)。
- /EXIT コマンドを発行した端末の CLB (このコマンドが原因で会話が終了した場合)。
- エラーのあるスクラッチパッド域 (SPA) を受け取った MSC リンクの論理リンク・ブロック (LLB)。リモート IMS システム (MSC) で、会話型トランザクションが異常終了しました。

レジスター 7 に、会話中の端末の通信端末装置ブロック (CTB) のアドレス、または会話が既に終了している場合は 0 が入ります。

レジスター 6 に、会話の会話型制御ブロック (CCB) のアドレス、または会話が既に終了している場合は 0 が入ります。

レジスター 10 に、保管セットのアドレスが入り、以下のようになっています。

- フィールド SAVGB5 (Reg10+X'30') に、出口ルーチンに渡された SPA バッファのアドレスが入っています。
- フィールド SAVGB9 (Reg10+X'38') は、このバッファの長さです。

呼び出し元が DFSCONM0 の場合、以下の SPA バッファ・アドレスおよび長さを含む保管セットが、R10 (SAVEID=WORKSA) で指し示された保管セットの前の 2 つの保管セットとして配置されています。

- フィールド SAVGB2 (オフセット X'24') に、出口ルーチンに渡された SPA バッファのアドレスが入っています。
- フィールド SAVGB6 (オフセット X'34') は、このバッファの長さです。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON に、バッファ・オーバーレイ定数が入っています。

SPA バッファのフォーマットは、次のとおりです。

0513

FIELD: SPA LL|ZZ|CCBID|TRANCODE|SPA DATA|BUFFER CONSTANT|
 LENGTH: 2 2 2 8 n 8

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'58'	CONE	ユーザー会話異常終了出口ルーチンを呼び出す前に、ルーチンに渡される SPA を含むバッファがオーバーレイされていることが検出されました。
Reg15=X'5C'	CONE10	ユーザー会話異常終了出口ルーチンを呼び出した後に、ルーチンに渡される SPA を含むバッファがオーバーレイされていることが検出されました。

DFSCRTU0 の場合:

レジスター 2 は、バッファ・オーバーレイ定数が見つかったバッファ位置を指しています。バッファは USEQDATA パラメーター域です。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。以下の表に示すように、このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'9C'		DFSINSX0 ユーザー出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'A0'		DFSINSX0 ユーザー出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSDMIF0 と DFSDMIQ0 の場合:

自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチン DFSAOE00 を呼び出す前と後に、DFSAOE0 制御ブロック、セグメント域、および作業域について、オーバーレイの有無が検査されます。

レジスター 3 は、機能固有のパラメーター・リストのアドレスです。セグメント域のアドレスは、フィールド AOE0SEG にあります。作業域のアドレスは、フィールド AOE0WRKA にあります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'C0'	DMIF7630	AO 出口ルーチン DFSAOE00 を呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'C4'	DMIF7600	AO 出口ルーチン DFSAOE00 を呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSICIO0 の場合:

DFSICIO0 内のフィールド BUFADDR に、無効なバッファのアドレスが入っていることがあります。フィールド RETADDR には、レジスター 14 のアドレスが入っています。これは、バッファ・オーバーレイ検査ルーチン (CKBFRTN) を呼び出したルーチンのアドレス、あるいは、ユーザー編集ルーチンが 10 バイトを超える追加をしたことが原因で異常終了が発行された場合は、エラーを検出したルーチンのアドレスのいずれかです。フィールド BUFADDR AND RETADDR については、モジュール DFSICIO0 の現行のアセンブリー・リストを参照してください。

レジスター 12 と 6 は、DFSICIO0 基底レジスターです。

レジスター 9 は、処理中にバッファがオーバーレイされた回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) アドレスです。

レジスター 13 に、保管域セット内の現行の保管域アドレスが入ります。ユーザー編集/出口ルーチン呼び出し後にエラーが検出された場合、レジスター 13 は、ユーザー・ルーチンに渡されたレジスターを含んでいる保管域セットのアドレスです (ルーチンが標準保管規則を使用している場合)。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。以下の表に示すように、このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg10=無効なバッファのアドレス	DFSCIO00	通信アナライザー (DFSICIO0 - ITASK CREATE) に入るときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'08' Reg10=無効なバッファのアドレス	DFSCIO01	装置依存のモジュールが入力セグメント (ENTRY A01) を処理するために戻ったときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'0C' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOUIEDIT	ユーザー物理端末入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'10' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOUIEDIT	ユーザー物理端末入力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されたか、あるいはユーザーがメッセージの長さを増やしたかのいずれかです。LL フィールドの長さを増やすことはできませんが、長さを任意の値に減らすことは可能です。
Reg15=X'14' Reg10=無効なバッファのアドレス	FEINTFMT	MFS 入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'18' Reg10=無効なバッファのアドレス	FEINTFMT	MFS 入力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'1C' Reg10=無効なバッファのアドレス	DEST2	ユーザー端末経路指定出口ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'20' Reg10=無効なバッファのアドレス	DEST2	ユーザー端末経路指定出口ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'24' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOTRANEX	ユーザー・トランザクション・コード入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'28' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOTRANEX	ユーザー・トランザクション・コード入力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'2C' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOMSGSEX	ユーザー・メッセージ通信編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'30' Reg10=無効なバッファのアドレス	GOMSGSEX	ユーザー・メッセージ通信編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'34' Reg10=無効なバッファのアドレス	DFSCIO02	アクセス方式 (ENTRY A02) を呼び出し中に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'38' Reg10=無効なバッファのアドレス	DFSCIO05	アクセス方式 (ENTRY A05) を呼び出し中に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3C' Reg14=無効なバッファ어의アドレス	RECEIVE	RECANY バッファ어를 VTAM に返しているときに、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'40' Reg10=無効なバッファ어의アドレス	CIOEXIT	通信アナライザー出口が IMS ディスパッチャーに出たときに、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'44' Reg10=無効なバッファ어의アドレス	GOUOEDIT	ユーザー物理端末出力編集ルーチンを呼び出す前に、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'48' Reg10=無効なバッファ어의アドレス	GOUOEDIT	ユーザー物理端末出力編集ルーチンを呼び出した後に、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'4C' Reg10=無効なバッファ어의アドレス	GOFES00	FES ユーザー出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'50' Reg10=無効なバッファ어의アドレス	GOFES00	FES ユーザー出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ어・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'AC' Reg1=無効なバッファ어의アドレス Reg3=最大許容メッセージ長 Reg5=A(RUNEDIT) または A(NONMFS) または A(PROCNT1) Reg14=入力メッセージ・セグメントのサイズ	USERRC11	ユーザー編集ルーチンが、10 進数で 10 バイト (端末が事前設定モードの場合は、10 進数で 19 バイト) を超えるメッセージの拡張を行いました。
Reg15=X'B0' Reg1=無効なバッファ어의アドレス Reg3=最大許容メッセージ長 Reg9=通信回線ブロック (CLB) のアドレス CLBTEMP4= 最大メッセージ長 + 追加の 10 バイト。	POCONT	ユーザー編集ルーチンが、10 進数で 10 バイトを超えるメッセージの拡張を行いました。

DFSIIIDM0 の場合:

自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチン DFSAOE00 を呼び出した後で、DFSIOE0 制御ブロック、セグメント域、および作業域について、オーバーレイの有無が検査されます。

レジスター 7 は、DFSIOE0 のアドレスです。セグメント域のアドレスは、フィールド AOE0SEG にあります。作業域のアドレスは、フィールド AOE0WRKA にあります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'C4'	IIDM6100	AO 出口ルーチン DFSIOE00 を呼び出した後に、バッファ어・オーバーレイが検出されました。

DFSIIIEE0 の場合:

レジスター 2 は、バッファ어・オーバーレイ定数が見つかったバッファ어位置を指しています。

レジスター 3 は、オーバーレイされたバッファ어를指しています。バッファ어의最初の 2 バイトに、バッファ어의長さが入っています。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON に、フィールド・オーバーレイ定数が入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'00'		DFSLUEE0 ユーザー出口を呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'04'		DFSLUEE0 ユーザー出口を呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSNCS10 の場合:

レジスター 2 は、バッファ・オーバーレイ定数が見つかったバッファ位置を指しています。バッファは、NCLZWORK 域または USEQDATA パラメーター域のいずれかです。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'94'		DFSSGNX0 ユーザー出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'98'		DFSSGNX0 ユーザー出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSQUEI0 の場合:

自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチン DFSAQUE0 を呼び出す前と後に、UEHB 制御ブロック、コピー・バッファ、およびユーザー・バッファについて、オーバーレイの有無が検査されます。(UEHCPYBF または UEHUBUF=0 の場合は、コピー/ユーザー・バッファが存在しない場合があります)。

UEHB アドレスは、レジスター 10 にあります。コピー・バッファ・アドレスは UEHB 内のフィールド UEHCPYBF に入っており、ユーザー・バッファ・アドレスはフィールド UEHUBUFF に入っています。UEHB およびバッファはすべて、バッファの長さ (接頭部を含む) が入っている 4 バイトの負の接頭部を持っています。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスです。フィールド SCDSMCON に、バッファ・オーバーレイ定数が入っています。

異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'60'	QUIUEXIT	AO 出口ルーチンを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'64'	UEXIT	AO 出口ルーチンを呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSSIST0 の場合:

0516

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON に、バッファ・オーバーレイ定数が入っています。異常終了への入り口のレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'B4'	CALL0300	グリーティング・メッセージ出口ルーチン (DFSGMSG0) を呼び出した後に、ユーザー・メッセージ・バッファのバッファ・オーバーレイが検出されました。また、戻されたユーザー・メッセージの長さが許容値より長い場合も、ユーザー・メッセージの代わりにこの異常終了コードが使用されます。

システムの処置: IMS が異常終了するか、あるいは、高速機能作業域のオーバーレイの可能性がある場合は従属領域が異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCMP10、DFSCFEI0、DFSCMCP0、DFSCMS00、DFSCOF0、DFSCON20、DFSCRTU0、DFSDMIF0、DFSDMIQ0、DFSICIO0、DFSIIDM0、DFSLIEE0、DFSNC10、DFSQUEI0、DFSSIST0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0516

説明: 同じ物理端末上で、複数の入力論理端末および複数の出力論理端末が会話状態にあります。

分析: これは、DFSCON00 または DFSICLH0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、以下の発行元モジュールおよび該当するラベルを特定する必要があります。この異常終了は、ラベル ABND516 への分岐の結果として発行されます。レジスター 12 は、これらのモジュールの基底レジスターです。

DFSCON00 の場合:

以下の表に示すように、異常終了 SVRB 内のレジスター 5 を使用して、特定のラベルに分離します。

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL (FNDCNT へ) Reg10=ゼロ	CNUECNT0	会話が進行中であり、新しいメッセージを処理するための呼び出しが出されています。FNDCNT は、レジスター 5 + 変位 (CNT が見つからないことを示す) を使用して戻ります。これにより、異常終了が発行されます。
Reg5=BAL (FNDCNTNX へ) Reg6=CCB CCBSAV + 4 7= X'00010001' Reg10=ゼロ	CNUECNT9	ラベル CNUECNT3 で、処理中の入力は、処理された最新の会話からのものでないことが判別され、そのため CNT の検索が行われます。すべての CNT がスキャンされてヒットがない場合 (レジスター 5 + 0 変位を使用した戻りによって示される)、この CCB に対して複数の入力が指示されているかどうかを調べるための検査が行われます。「等しくない」条件の場合、異常終了が発行されます。

DFSICLH0 の場合:

以下の表に示すように、異常終了 SVRB 内のレジスター 4 を使用して、特定のラベルに分離します。

キー	ラベル	説明
Reg4=BAL (FNDCNT へ) Reg6=CCB Reg7=CTB Reg10=ゼロ	HLDGIC	このルーチンは HOLD コマンドを処理します。FNDCNT からのレジスター 4 + 0 変位を使用した戻りは、この CTB に関連付けられたアクティブ CNT がいないことを示しています。
Reg4=BAL (FNDCNTNX へ) Reg6=CCB CCBSAV + 4 7= X'00010001'	HLDGIC6	このルーチンは、入力または出力 CNT が 1 つだけアクティブであることを検査します。
Reg4=BAL (FNDCNT へ) Reg5=呼び出し元の リターン・アドレス Reg10=ゼロ	FREIT	このルーチンは、EXIT コマンドが会話を終了できるかどうかを判別します。会話型 CNT が検出されなければなりません。Reg4 + 0 変位を使用した戻りは、「見つからない」条件を示しています。異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 同じ物理端末上で、1 つの入力論理端末および 1 つの出力論理端末のみが同時に会話状態になるようにします。これらの一方が論理入力端末を、他方が論理出力端末を表します。

問題判別: 1、4、25、26、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCON00、DFSICLH

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0517

説明: 会話型スクラッチパッド域 (SPA) アンパック・ルーチン (DFSCONU0) が無効なパック SPA を検出し、呼び出し元にゼロ以外の戻りコードを戻しました。通常、SPA はメッセージ・キューに書き込まれるとき、およびログに記録されるときにパックされます。メッセージ・キューから読み取られて処理されるときに、アンパックされます。

SPA をアンパックするために DFSCONU0 を呼び出すルーチンは、ゼロ以外の戻りコードを受け取った後、制御領域を異常終了するか、またはメッセージ領域を終了させるために疑似異常終了を発行するかのいずれかを行います。

分析: これは、3 つの異なるモジュール DFSCON20、DFSCONM0、DFSECP10 (DFSCPY00 およびその他によって設定) から発行される標準異常終了です。

パック SPA を見つけて、その妥当性を調べてください。パック SPA のフォーマットは、次のとおりです。

PPZZBBTRANCODEUUPP...Packed Data...

以下は、*PPZZBBTRANCODEUUPP* の値を定義しています。

PP パック SPA の長さを定義する 2 バイト・フィールド

ZZ 2 バイトの *Z1* および *Z2* フィールド

BB 2 バイトの CCB 番号

TRANCODE

8 バイトのユーザー・トランザクション・コード

UU アンパック SPA の長さを定義する 2 バイト・フィールド

Packed Data は、以下の記述子フィールドで構成されます。

8LLL 削除された長さ *LLL* の 2 進ゼロ

4LLL 長さ *LLL* の有効なアンパック・データが続きます

2LLL 削除された長さ *LLL* のブランク

0517

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) 内のレジスターを使用して、発行元モジュールおよび該当するラベルを特定する必要があります。

DFSCONM0 の場合:

MSC アナライザーがリモート会話型トランザクションから SPA メッセージを受け取りました。入力端末はこのシステム内にあります。DFSCONM0 は、SPA をアンパックするために DFSCONU0 を呼び出し、ゼロ以外の戻りコードが戻されています。

キー	ラベル	説明
Reg7=LTB および Reg9=LLB	CALLCONU	このエラーの問題判別は、モジュール DFSCON20 ラベル CONDA517 の場合と同じです。

DFSCON20 の場合:

会話型トランザクションが異常終了すると、DFSCON20 が呼び出されます。DFSCON20 は、SPA をアンパックするために DFSCONU0 を呼び出し、アンパックされた SPA を会話型異常終了出口 DFSCONE0 に渡します。SPA は、出口ルーチンが存在しない場合でもアンパックされます。DFSCONU0 が DFSCON20 にゼロ以外の戻りコードを戻すと、この異常終了が発行されます。

異常終了の原因を判別するために、入力メッセージ (SPA セグメントを含んでいる) を見つけてください。

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL Reg7=CTB Reg9=CLB Reg10= CON SAVE 作業域	CONX2	CONSAVE 内の SAVGB6 は、作業バッファーを指しています。QTTPCBLT のオフセットに、パック SPA があります。SPA の妥当性を調べます。
Reg5=BAL Reg7=CTB Reg8=パック SPA Reg9=CLB	CONFA517	レジスター 8 で指し示されたパック SPA の妥当性を検査します。
Reg5=BAL, Reg7=LTB および Reg9=LLB	CONDA517	このエラーはメッセージ DFS2146 によってシグナル通知され、MSC リンクは処理を異常終了させ、タイプ 6701 MSS1/MSS2 レコードをログに記録します。エラーがリカバリーされない場合、リンクは PSTOPPED されます。リンク LTB の CTBUEOB は、SPA セグメントを指しています。ダンプされていない場合、CLBINBUF は、SPA の全体または最後の部分を含む入力バッファーを指しています。CTBPREFIX は、メッセージの接頭部を指しています。この接頭部 (MSC セグメント項目) を使用して、送信側 IMS システムのログでメッセージ (タイプ 01 または 03) を見つけることができます。送信側システム内の SPA を調べて、エラーがそこで発生したかどうか (つまり、SPA が有効かどうか) を調べます。詳しくは、メッセージ DFS2146 を参照してください。

DFSECP10 の場合:

DFSCPY00 が、SPA をアンパックしてユーザー入出力域に入れるために、DFSCONU0 (VS/1) または z/OS SPA アンパック RTN を呼び出しました。

この疑似異常終了に先行する IMS ログ 01 (C10 ディスパッチ) または 03 (PST ディスパッチ) ログ・レコードは、異常終了 0517 ABTERM 同期点処理によって IMS ログに入れられるものであり、入力トランザクション・メッセージの最初のセグメントとして SPA (LLz, z=40) を持ちます。正常でない入力メッセージのソースを見つけるために IMS ログをさかのぼって追跡するか、あるいは SPA が DC によってメッセージ・キューにオーバーレイされている可能性があります。

システムの処置: エラーが発生した領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、6、25、26、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCONM0、DFSCON20、DFSECP10

関連情報:

 DFS2146 (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0519

説明: メッセージ・ルーター DFSICLR0 が無効なエンキュー要求で呼び出されました。レジスター 8 に理由コードが入っています。

分析: これは、モジュール DFSCMT10、DFSCLRM0、DFSICLR0、および DFSCLM00 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) およびレジスター 5 の BAL を使用して、以下の該当するラベルに分離する必要があります。この異常終了は、ラベル ABND519 にある共通異常終了ルーチンに分岐した結果です。レジスター 8 に、指標となる理由コードが入っています。レジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 に、計算された無効なキュー番号が入っています。

コード

説明

X'00'

宛先はリモート SMB ですが、宛先 SYSID がローカルです。

X'01'

これは識別されていないディスパッチです。

X'02'

PST の ASIS 要求が無効です。

X'03'

複数システム環境内でのシステム経路指定の無効な要求。

X'05'

宛先はリモート SMB ですが、宛先 SYSID が無効です。

アドレス

これは、リモート SMB の宛先 SYSID からの無効なリンク CLB ポインターです。

X'06'

DFSUSE func=inuse からの無効な戻りコード。

X'07'

DFSUSE func=nouse からの無効な戻りコード。

呼び出し元は、エントリー・ポイント「CLR-LR2...」の名前を持つ保管域の前の保管域セットを見つけることによって判別できます。

0525

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL Reg8=X'02'	PSTDISP	INIT のラベルが付いたサブルーチンで、要求のタイプが妥当性検査されます。このエンタリー・ポイント DFSICLR2 では、呼び出し元はディスパッチを PST として示しています。レジスター 1 は、PSTDECB を指している必要があります。そうでない場合、異常終了が発生します。
Reg8=X'06'		DFSUSE func=inuse からの無効な戻りコードが入っています。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードが入っているはずです。
Reg8=X'07'		DFSUSE func=nouse からの無効な戻りコードが入っています。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードが入っているはずです。

システムの処置: 複数システム VS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、5、6、10、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMT10、DFSCLMR0、DFSICLR0、DFSCLMO0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0525

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- ハードウェア・クロックが作動していない。
- IMS 初期設定で、GMT オフセット値が有効範囲外にあることが検出され、オペレーターが、メッセージ DFS0477A に対して A (打ち切り) を応答した。

分析:

これは、タイマー・サービス・ルーチン DFSTIME0 によって発行される標準異常終了です。異常終了時に、レジスター 15 には理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02'	ABEND	ハードウェア・クロックが作動不能であるため、STCK 命令が失敗しました。
Reg15=X'03'	ABEND	DFSTIME0 は、CVT からの UTC オフセット値が有効範囲外であることを検出し、オペレーターがメッセージ DFS0477A に対して A (打ち切り) を応答しました。

考えられる原因: この異常終了の原因には、以下のものが含まれます。

- ハードウェア障害が発生した。
- 内部プログラム・エラーが発生した。

システムの処置: IMS は異常終了するか、または問題が訂正されるまでメッセージ DFS0478A を出力します。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、ハードウェアまたはソフトウェアのサポートを依頼するか、あるいは、メッセージ DFS0477A または DFS0478A のオペレーター応答の説明に従います。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSTIME0

関連情報:

 DFS0477A

 DFS0478A

0545

説明: 代替でログ・タイプ 2702 レコードの処理中、疑似拡張の完了時に、アクティブ・データ・セット・エクステンション情報と代替データ・セット・エクステンション情報との間に不整合な状態がありました。

システムの処置: IMS 代替システムは異常終了します。

オペレーターの応答: IMS 代替システムを再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRELP0

0551

説明: GSAM PCB は存在しましたが、従属領域がバッチ・メッセージ処理領域 (BMP) ではありませんでした。

分析: これは、MPP/BMP プログラム・コントローラー DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PSABEND 内の命令を指します。ここへは、PCAB551 にあるルーチンによって分岐され、一方、このルーチンへは、エラーを検出した PC09 にあるルーチンによって分岐されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=PX のアドレス S (DFSPRPX0) dsect Reg10=DIRCA2 の アドレス	PC09	DIRCA2 のフィールド PDIRSPLT をテストして、GSAM PCB が存在するかどうかを調べます。存在する場合、RCPARMS ブロックの RCTYPE フィールドをテストして、これが BMP 領域であるかどうかを調べます。GSAM PCB が存在し、領域が BMP でない場合、異常終了を処理するために PCAB551 に分岐します。

考えられる原因: アプリケーション・プログラマーが、アプリケーション・プログラムを、BMP とすべきところを誤って MPP として定義した可能性があります。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: アプリケーションが誤って定義されています。このアプリケーションを BMP として指定します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20

0552

説明: 複数システム環境で会話型 MPP が異常終了しました。入力 SYSID に対する MSNAME が存在しないため、会話が制御される入力端末システムに SPA を送信できません。入力 SYSID は応答に使用されます。

分析: これは、2 つのモジュール DFSCON10 または DFSCON20 のいずれかによって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000228' が入ります。

考えられる原因: おそらく、システム定義エラーです。複数システム環境内では、システムごとに MSNAME パラメーターが提供されるようにしてください。

DFSCON10 の場合:

この異常終了は、SPA を挿入している会話型プロセッサ・モジュール DFSCON10 によって発行される可能性があります。異常終了は、ラベル ABND にある共通ルーチンから発行されます。

0552 は、PST 内の入力端末システムのシステム ID (SID) が、このシステムで定義されていないか、無効であるかの

いずれかの結果です。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 9 に、PST のアドレスが入っています。レジスター 6 に、CCB アドレスが入っています。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 12 は、CSECT DFSCON10 (SPA をキューに戻している問題プログラムのエントリー・ポイント) の基底レジスターです。レジスター 12 は、CSECT DFSCONL0 (同期点に達する前にアプリケーションによって SPA が挿入されなかった場合、会話に関連した制御ブロックを更新するためのエントリー・ポイント) の基底レジスターです。SPA が挿入されなかった場合、同期点からユーザー呼び出しアナライザー DFSDLA30 の COMM 部分によって SPA セグメントが検出されると、DFSCON10 が呼び出されます。

キー	ラベル	説明
Reg4<ゼロ Reg11=SCD のアドレス	CONIWASE	複数システム環境では、CSECT DFSCON10 内のルーチンは、入力端末システムの SID を検査するためにラベル VERSID に BAL します。レジスター 4 に、SID 内の論理リンク名ブロック (LNB) ポインタがロードされます。テスト時に、レジスター 4 が負の場合、ルーチンは異常終了を処理するためにラベル ABND552 に分岐リンクします。
Reg4<ゼロ Reg8=SPA へのポインタ Reg11=SCD のアドレス	CONLWASE	複数システム環境では、CSECT DFSCONL0 内のルーチンは、入力端末システムの SID を検査するためにラベル VERSID に BAL します。レジスター 4 に、SID からの論理リンク名ブロック (LNB) ポインタがロードされます。テスト時に、レジスター 4 が負である場合、ルーチンは異常終了を処理するためにラベル ABND552 に分岐リンクします。

DFSCON20 の場合:

この異常終了は、会話型プロセッサ端末モジュール DFSCON20 によって発行される可能性があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND552 内の命令を指します。このラベルへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

0552 異常終了は、応答の経路指定用の SID が、このシステム内に定義された LNB (MSNAME) を持っていないために起こります。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 10 に、DFSCONE0 (会話異常終了出口ルーチン) との通信用のベクトルへのポインタが入っています。DFSCOND0 は DFSCON20 内のエントリー・ポイントの 1 つであり、「戻された」ERRSPA メッセージが入力システムに到達した時点 (処理システム内のアプリケーション異常終了/不整合な定義/停止した SMB) で、リンク・アナライザー (DFSCMS00) によって呼び出されます。DFSCOND0 は、ERRSPA メッセージを入力システムに戻す必要がある場合 (処理システム内のリンク・アナライザーによって検出された不整合な定義または停止された SMB) に、処理システムによって呼び出されます。

キー	ラベル	説明
Reg3<ゼロ Reg11=SCD のアドレス	VERRMT2	SID を検査するルーチンで、レジスター 3 に論理リンク名ブロック (LNB) ポインタがロードされます。テスト時に、レジスター 3 が負の場合、異常終了するためにラベル ABND552 に分岐します。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了したシステムで、入力 SYSID に対応した MSNAME を指定します。

問題判別: 1、4、5、6、10、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCON10、DFSCON20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0553

説明: モジュール DFSCMM20 が、2 つの主記憶装置間 IMS システムの間のリンクに書き込み完了コードを通知したが、入出力操作がすでに進行中でした。主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) は、ECB(LXB) で競合を通知する標識を受け取りましたが、ターゲット CLB(LLB) 上には進行中の入出力がありませんでした。入出力アクティビティはリンク上で同期的に処理されるので、これは無効な状態です。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。別の IMS マシンから到着したデータが原因で、入力域 ECB(LXB) が通知されています。ディスパッチャーは、通知の妥当性を調べるために制御を DFSCMM20 に渡します。この場合は、ECB(LXB) で競合が通知されていますが、ターゲット CLB(LLB) 上には進行中の入出力がないことが示されました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である、ラベル CMM20BF0 を持つ命令を指します。エラーが検出されると、ラベル CMM20B50 に条件付き分岐し、レジスター 12 に異常終了コードがロードされ、異常終了を開始するために CMM20BF0 に無条件分岐します。異常終了 SVRB 内の以下のレジスターが、この異常終了に関連しています。レジスター 9=CLB(LLB) ポインター、レジスター 10=ECB(LXB) へのポインター、およびレジスター 8=基底レジスター。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000229'	CMM20A00	ECB(LXB) で競合通知が示されましたが、CLBFLAGS の検査の結果、進行中の入出力はないことが判明しました。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0554

説明: 主記憶装置間通知ハンドラー・モジュール (DFSCMM20) が、主記憶装置間リンク上で読み取りアテンション標識を受け取りました。これは無効な要求です。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。ECB(LXB) が読み取りアテンション (X'7FD9') で通知されました。これは非論理的コードです。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。エラーが検出されると、ラベル CMM20B60 に条件付き分岐し、レジスター 12 に異常終了コードがロードされ、異常終了を発行するために CMM20BF0 に分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は、ECB(LXB) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022A'	CMM20B01	ECB(LXB) に読み取りアテンションが通知されています。これは無効な通知です。
Reg10=A (ECB(LXB))		

考えられる原因: おそらく、主記憶装置間アクセス方式 (DFSMTMA0) 内の論理エラーです。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出して、両方のシステムからのメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

0555 • 0556

問題判別: 1、4、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0555

説明: IMS が主記憶装置間リンクで入出力操作を行う準備をしている間に、モジュール DFSCMM20 が、書き込みアテンションまたは読み取りアテンション以外の通知コードをそのリンクに通知しました。現在、CLB(LLB) も通知またはディスパッチされています。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。ECB(LXB) の通知は無効であり (書き込みアテンションも、競合もない)、CLBFLAG3 フィールドで示されているように、現在 CLB(LLB) がディスパッチされています。これは論理エラーであり、有効な通知の前にターゲット CLB(LLB) がディスパッチされていない場合にのみ発生する必要があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CCM20BF0 を指します。異常終了は CMM20B70 に分岐することによってセットアップされます。CMM20B70 は異常終了コードをレジスター 12 にロードし、CMM20BF0 に分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は ECB(LXB) へのポインター、レジスター 9 は CLB(LLB) へのポインターであり、レジスター 8 は基底レジスターです。CLBDECB=CLB + 0 および CLBFLAG3=CLB+X'32'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022B' Reg9=A(CLB(LLB)) Reg10=A(ECB(LXB))	CMM20B01	CLBDECB=X'40' および CLBFLAG3 = X'01' の場合、CLB(LLB) が実行を待っている (つまり、通知されたが、まだディスパッチされていない) ときに、無効な ECB(LXB) 通知が検出されました。CLBFLAG3=X'01' の場合、CLB(LLB) が現在ディスパッチされた状態の間に、無効な ECB(LXB) 通知が検出されました。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出した状態で、両方のシステムからメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0556

説明: モジュール DFSCMM20 が、前の入出力操作の理由で、エラー通知コードを主記憶装置間リンクに通知しました。主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) が、無効な ECB(LXB) 通知を受け取りました。ターゲット CLB(LLB) 上には処理中の入出力はありません。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。エラーが検出されると、レジスター 12 に異常終了コードをロードするためにラベル CMM20B80 に条件付き分岐し、次に共通異常終了ルーチンに無条件分岐します。

ECB(LXB) が無効なコードで通知されました。有効なコードは書き込みアテンション/競合 (X'E6D9E3') です。CLBFLAG2 フィールドは、ターゲット CLB(LLB) (異常終了 SVRB のレジスター 9 によって指し示される) には進行中の入出力がないことを示しています。CLBFLAG2=CLB+X'31'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022C' Reg9=CLB(LLB) CLBFLAG2 = X'06'	CMM20B01	CLBFLAG2 フィールドは、この CLB(LLB) については処理中の入出力がないことを示しています。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出した状態で、両方のシステムからメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS を再度立ち上げて、ジョブの実行を継続します。問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 1、4、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0557

説明: 複数システム結合機能 (MSC) システムの再始動処理中に、LCB/LLB 解決モジュール (DFSCMR00) が複数システム環境の妥当性検査を行います。論理リンク・ブロックのアドレスは存在するが、論理制御ブロックのアドレスがシステム目録ディレクトリー内に存在しません。

分析: これは、DFSCMR00 によって発行される標準異常終了です。DFSCMR00 は最初に、SCD(SCDLLB) 内の LLB アドレスを検査して、MSC がシステム内にあるかどうかを判別します。LLB をスキャンして LCB 割り振り標識をオフにしてから、LCB を検査して、それらが以前に LLB に割り当てられていたかどうかを調べます。割り当てられていた場合、LCB アドレスを LLB に入れて、接続が再確立されます。

この障害は、SCD に LCB アドレス (SCDLCB) が含まれていなかったが、LLB アドレス (SCDLLB) は使用可能であることが原因で発生します。

このモジュールの呼び出し元は DFSRNRE0 であり、異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は SCD を指し、レジスター 15 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022D' Reg10=ゼロ	CMR0A003	LCB が存在するかどうかを検査するテストが失敗しました (SCDLCB=X'00')。

考えられる原因: 再始動プロシーチャーの誤り

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMR00

関連情報:

0560

説明: バッファを獲得しようとして、メッセージ生成プログラムがキュー・マネージャーから無効な戻りコードを受け取りました。

分析: これは、DFSCLMR0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスター 14 の BAL を使用して、該当するラベルを判別します。レジスター 15 内のキュー・マネージャー戻りコードを使用して、異常終了の原因を特定する必要があります。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

DFSQMGR0 の戻りコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'00'

エラーなし

X'04'

無効なセグメント長

X'08'

これ以上メッセージはない

X'0C'

宛先が入力のために使用中

接頭部の更新の場合、タイプ 30 ログ・レコードが問題分析に役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg2=QTPPCB Reg14=BAL (DFSQMGR0 へ) DECTYPE=X'4A' (DLI 呼び出し元) DECTYPE=X'8A' (MG 呼び出し元) DECAREA=要求された バッファの長さ	GTBFGMGR	メッセージ・バッファ内にメッセージを入れるスペースを取得するために、キュー・マネージャーに要求が出されました。無効な長さが戻された結果、異常終了になります。
Reg2=QTPPCB Reg14=BAL (DFSQMGR0 へ) DECTYPE=X'49' DECTYPE=X'89'	CLMRCANC	出力メッセージを取り消すための要求が出されました。ロギングは要求されていません。ゼロ以外の戻りコードの結果、異常終了になります。
Reg0=メッセージ領域 Reg5=QTPPCB Reg6=メッセージ接頭語 Reg8=メッセージ 宛先 Reg9=DECB Reg11=SCD DECTYPE=X'4B'	LU62MP62	LU62 メッセージ接頭語をキュー・バッファに挿入するための要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードの結果、異常終了になります。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答: ダンプにあるレジスター 15 を調べて、キュー・マネージャーの戻りコードを分離します。戻りコードにより問題が識別されます。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLMR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0561

説明: 通知要求を処理するために主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) が呼び出されましたが、システム初期設定時にリンク制御ブロックに割り当てられたリンク番号が 0 でした。リンク番号は少なくとも 1 でなければなりません。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。異常終了コードをレジスター 12 にロードするためにラベル CMM20B90 に条件付き分岐し、次に共通異常終了ルーチンに分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスター 6 は、LCB へのポインターです。

レジスター 1 の通知 ECB(LXB) により、通知ハンドラーに入ります。リンク制御ブロック (LCB) のアドレス可能性が確立され、ターゲット論理リンク・ブロック (LLB) のリンク番号が判別されます。レジスター 9 に、LCBLNR フィールドからのハーフワードがロードされ、値がゼロより大きいかがテストされます。LCBLNR=LCB+X'0A'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000231'		ターゲット LLB のリンク番号がゼロです。
Reg6=A(LCB)		
LCBLNR=0		
Reg9=ゼロ		

考えられる原因: おそらく、LCB ブロックの作成に関するシステム定義問題です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS 制御領域へのアクセス権を取得するすべてのアプリケーション・プログラムを調べて、モジュール全体にわたって適切なアドレス可能性をもつようにします。

APAR 処理の場合: システム定義およびバインダー・リストの出力を保持してください。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0562

説明: 主記憶装置間バッファで非互換性の問題が発生しました。IMS 主記憶装置間システムが、相手の入力バッファで保持可能なサイズより大きなデータを伝送しました。バッファ長は同じでなければなりません。

分析: これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。主記憶装置間アクセス方式 (DFSMTMA0) は、出力バッファ・サイズが入力バッファ・サイズを超えていることを判別し (これは LXB 内のエラーを示します)、通知を発行します。主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) は、通知コードを無効として認識し、非互換バッファ長条件が存在することを判別します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。通知ハンドラーは、エラーのタイプを判別し、CMM20BA0 に条件付き分岐して、レジスター 12 に異常終了コードをロードしま

0563 • 0564

す。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は、通知された LXB へのポインターであり、レジスター 8 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000232' Reg10=A(LXB)	CMM20B01	LXB が長さエラー (X'41D3C5D5') で通知されます。

考えられる原因: 2 つの IMS MSC システムの入出力バッファが同じサイズではありません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 主記憶装置間入出力バッファが同じ長さになるようにします。

APAR 処理の場合: 両方のシステムのメモリー・ダンプを作成してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMM20

0563

説明: システム再始動中に、システムがダウンする前と同様に、すべてのリンク制御ブロック (LCB) が論理リンク・ブロック (LLB) に再接続されます。すべてのリンク番号は 1 を基準に設定されるが、リンク制御ブロック番号のいずれかが 0 です。

分析: これは、モジュール DFSCMR00 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=0233	CMR0C001	LCB1ASS フラグがオンで、LLBLNR フィールドが 0 です。

考えられる原因: システム定義時のエラー。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 再始動中のリンク番号が正しいかどうかを確認します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0564

説明: 装置依存のモジュールが、追加の入出力作業バッファを取得するために通信アナライザー (DFSICIO0) を呼び出しましたが、追加のバッファは既に存在します。この状態は、システム・エラーが原因で発生します。

分析: これは、通信アナライザー DFSICIO0 によって発行される標準異常終了です。異常終了は、ラベル GXTBUF にある共通ルーチンから発行されます。結果的に異常終了になったエラーは、検出もこのルーチンで行われています。

共通サービス・エントリー (DFSCIOC0) は、アナライザー機能を提供するために (これが提供されなければ、複数のユーザー・インターフェースが必要となる)、選択されたサブルーチンによって使用されます。レジスター 4 に、この CSECT の機能のエントリー・ベクトル値が入ります。異常終了 0564 の場合は、レジスター 4 に X'2C' (追加の作業バッファを取得するための機能) が入っている必要があります。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は 1 次基底レジスター、レジスター 6 は 2 次基底レジスターです。レ

レジスター 9 に、CLB へのポインターが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000234' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=X'2C' Reg9=A(CLB)	GXTBUF	DDM 用の追加の作業バッファを取得するためのルーチンで、フィールド CLBXTBUF を検査して、追加の作業バッファが既に存在するかどうかを調べます。フィールドがゼロでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICIO0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0566

説明: 内部およびリモートのコマンドを処理中に、内部論理エラーが検出されました。メッセージ・キュー・バッファが破壊された可能性があります。

分析: これは、複数システム・リモート・コマンド・コントローラー DFSCMI00 によって発行される標準異常終了です。このモジュールは複数 CSECT モジュールであり、異常終了は CSECT DFSCMI06 内から発行されます。この CSECT の目的は、すべての使用可能なブロックをログに SNAP することです。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 14 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 2 に、CTB へのポインターが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000236' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=リターン・アドレス Reg15 = ゼロ	REFETCH	メッセージをフェッチする必要があることが判別され、この機能を実行するために、ラベル CALLQ にあるルーチンに BAL します。レジスター 15 に、キュー・マネージャーからの戻りコードがロードされ、テストされます。レジスター 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMI00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0567

説明: 通信アナライザーが、システム・コンソールに IMS 作動可能メッセージを送信しているときに、入出力エラー条件を検出しました。

分析: これは、DFSCINB0 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスターは、異常終了 SVRB 内にあり

0568

ます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IN1BABND 内の命令を指しています。レジスター 2 に異常終了完了コードがロードされ、INBABND に分岐します。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg10=DFSIC100 への BAL Reg13 + X'C' = 0	INBA01	通信の初期設定中に作動可能メッセージがシステム・コンソールに送信されます。通信アナライザーは、戻りコードを呼び出し元の現行保管域に渡します。ゼロ以外の戻りコードは、入出力エラー条件を示します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 23、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0568

説明: 通信初期設定モジュール (DFSCINB0) が、IMS Ready メッセージを伝送するためにキュー・マネージャーからバッファーを獲得しようとして、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析: これは、DFSCINB0 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスターは、異常終了 SVRB 内にあります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である、ラベル INBABND が付けられた命令を指します。ラベル INB4ABND で、異常終了完了コードがレジスター 2 にロードされます。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'00'

バッファーが必要です。

X'04'

誤った長さが指定されました。バッファーは獲得されませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg9=DECB DECTYPE=X'0A00' (ISRT LOCATE) DECAREA=メッセージ長 Reg14=DFSQMGR0 への BAL Reg15 = 0	INBQCR	このルーチンで、作動可能メッセージ用のバッファーを獲得するためにキュー・マネージャーが呼び出されています。エラーが検出されると、キュー・マネージャーはエラー・コードをレジスター 15 に渡し、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 23、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0572

説明: 複数セグメント事前編集メッセージの内部セグメントの長さが、負の値です。

分析: これは、DFSCLMR0 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 を使用して、特定のラベルを分離します。

レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg3=負の値 Reg8=メッセージのセグメント長 フィールドへのポインター	LLZZSSZZ	複数セグメント事前編集メッセージの処理中に、内部セグメントのセグメント長フィールドが負の値であることが検出されています。この結果、ABEND が発生します。
Reg3=正の値 Reg5=STATISZ1 への BAL Reg8=負の値を含む 内部セグメントの SSZZ フィールドへのポインター	ADDSSINC	上述の同じ複数セグメント・メッセージについて、このルーチンは、内部セグメント・テストにより、負の SS フィールドを増分します。このテストは、SS フィールドの上位ビットがオンでないことをテストする方法で行われます。このビットがオンの場合、異常終了が発生します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLMR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0573

説明: 複数セグメント・メッセージの内部セグメントの長さが、メッセージの全長より長くなっています。長さフィールドのいずれかが不適切です。

分析: これは、DFSCLMR0 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

DFSCLMR0 は、複数セグメント事前編集メッセージ呼び出しの処理中です。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg10 + X'34'= 合計セグメント長 (WORK10) Reg15=内部セグメント length	LLZZSSZZ	このコードは、内部セグメントの長さが合計セグメント長を超えていないことを確認します。レジスター 15 と WORK10 の間で比較が行われます。レジスター 15 の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、35

0574 • 0578

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLMR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0574

説明: 高速 DB リカバリー領域でエラーが発生しました。エラーを説明するメッセージが、この異常終了コードの前に出力されます。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は異常終了します。

オペレーターの応答: この異常終了の前に発行されるメッセージのオペレーター応答を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

0577

説明: VTAM 端末で入力処理が選択されたが、VTAM サポートが DFSICIO0 用に生成されなかったため、この異常終了が発生しました。

分析: 「DFSVTAM COPY」でグローバル &DFSVTAM=N の指定を検査します。VTAM サポートが必要な場合は、IMS システム定義に COMM マクロを追加します。

キー	ラベル	説明
&DFSVTAM=N	IPCHECK	DFSICIO0 は、&DFSVTAM=N が指定されているときは VTAM サポート・コードを生成しません。代わりに、異常終了 0577 を発行するためのコードを生成します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 「DFSVTAM COPY」でグローバル &DFSVTAM=N の指定を検査します。VTAM サポートが必要な場合、IMS システム定義に COMM マクロを追加します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICIO0

0578

説明: CTT 装置タイプ (CTTDEVIC) が、2 進ゼロであったか、値がシステム・コンソール (X'33') より小さかったため、この異常終了が発生しました。Transaction Manager の初期設定中に定義済み端末ごとに CTTDEVIC が取り出されて、検査されます (制御 TCB)。IMS 端末の装置タイプは番号 1 から始まります。

上記の条件は共に明らかなエラーであり、次のいずれかの条件が原因である可能性があります。

1. DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーでエラーがあった。
2. DFSCLL0x のリンク・エディットでエラーがあった。

注: モジュール名の x 値は、中核接尾部を示します。

分析: これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーが受け入れ可能な出力を作成すること、および後続のバインドがエラーなしで行われることを確認します。

キー	ラベル	説明
Reg7=A(CTG)	OPN010	CTB の最初のワードは、誤っている CTT のアドレスです。CTT の最初のバイトは、装置タイプ (CTTDEVIC) です。

システムの処置: IMS は初期設定処理を終了します。

オペレーターの応答: DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーが受け入れ可能な出力を作成したこと、および後続のバインドがエラーなしに行われたことを確認します。該当のシステム・プログラマーに通知して、IMS の問題を訂正してもらいます。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0579

説明: 制御領域の初期設定で、どの回線グループも正常なオープンができませんでした。DFSIINB0 が、IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。これ以上、初期設定を継続することはできません。

分析: これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのレジスターに、以下の情報が入っています。

レジスター 8 = 無効な装置タイプ・コードを含む CIT。

レジスター 15 = 無効な装置タイプ・コード。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 正しい IMS 制御ブロックが IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0580

説明: DFSIINB0 が IMS Transaction Manager の初期設定中に IMS 内部エラーを検出したか、または DFSDINB0 がデータベース制御 (DBCTL) サブシステムの初期設定中に IMS 内部エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。

分析: **DFSIINB0** の場合:

DFSCMTI0 の CSACLB (ECB) 用の CSA ストレージを取得するための IMODULE GETMAIN が失敗しました。この問題は IMS 内部エラーです。

0580 は、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 に、GETMAIN で取得する予定の CSA の長さが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'04'

無効な機能またはオプション。

X'08'

z/OS の実行が、SVC ルーチン用のアセンブラー z/OS と整合していない。

X'14'

サブプールのストレージ不足、または要求された長さがゼロ。

0581

X'18'

プログラム・チェックまたは他の内部エラー。

DFSDINB0 の場合:

DB 制御 (DBCTL) の初期設定中に、IMODULE GETMAIN が失敗しました。

この異常終了と共に、メッセージ DFS697I が出されます。メッセージの EPLOC フィールドに、DWBUF ストレージ用の IMODULE GETMAIN が失敗したことを示す文字 DFSDWBUF が入ります。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 4 に、要求された DWBUF エリアのサイズが入っています。メッセージは IMODULE 戻りコードも表示しません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0、DFSDINB0

関連情報:



13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0581

説明: DFSIINB0 または DFSIINV0 が IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。宛先検索モジュール (DFSICLF0) が、VTAM/MSC 端末用に定義された CNT/LNB/RCNT を見つけることができませんでした。

分析: これは、モジュール DFSIIMS0、DFSIINB0、DFSIINU0、および DFSIINV0 によって発行される標準異常終了です。

DFSIINB0 の場合:

宛先検索モジュール (DFSICLF0) が、システム制御ブロック DFSMTCNT-CNT または DFSRMCNT-CNT を見つけることができませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

レジスター 2 に、見つける宛先へのポインターが入っています。

DFSIINV0 の場合:

宛先検索モジュール (DFSICLF0) が、VTAM 端末ブロック (VTCB) セットに関連したシステム制御ブロック (CNT) を見つけることができませんでした。レジスター 2 は、見つけることができなかった宛先を指しています。

考えられる原因: CNT ブロックを含んでいる IMS モジュール (DFSVNUCx) が変更され、一方 VTCB ブロックを含んでいる IMS モジュールが変更されなかったか、またはその逆です。

あるいは、必須の宛先が見つかりませんでした。これは JCLIN エラーが原因の可能性もあります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 正しい IMS 制御ブロックが IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。ブロックが正しくリンクされていた場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題の判別の支援を受けてください。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIMS0、DFSIINB0、DFSIINU0、DFSIINV0

関連情報:

0582

説明: DFSIINB0 が IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。DFSBCB 操作で、VTAM Receive Any のバッファ用ストレージを取得できませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

分析: これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 以下について検査します。

- EXEC パラメーターの RECA キーワードで指定された VTAM Receive Any バッファの数。
- IMS システム定義の COMM マクロの RECANY パラメーターに指定された VTAM Receive Any バッファの数とサイズ。

問題判別: 1、4、6、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0583

説明: システム定義が VTAM を使用せずに実行されましたが、SCD 制御ブロックは VTAM 制御ブロックが存在することを示しています。

分析: これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: IMS/VTAM 制御ブロックが非 IMS/VTAM 中核とバインドされている可能性があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 正しい SCD が IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0584

説明: 自動化操作プログラム・インターフェース・メッセージ生成プログラムによって、エラー状態が検出されました。レジスター 5 に、モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 2 に、異常終了の理由を示すコードが入っています。

分析: 0584 は、AOI メッセージ生成プログラム・モジュール DFSCDMA0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 5 は、エラーが検出されたモジュール内のコードを指しています。レジスター 2 に、以下のような異常終了の理由を示すエラー・コードが入ります。

0585

コード
説明

X'04'

LTERM ではないリモート宛先のメッセージをエンキューするために、メッセージ生成プログラムが呼び出されました。

X'08'

PUT LOCATE 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'0C'

CHANGE PREFIX 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'10'

ENQUEUE 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'14'

無効な宛先パラメーターを使用して、メッセージ生成プログラムが呼び出されました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、3

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLMA0

0585

説明: XRF 対応の IMS システムの初期設定中に、エラーが発生しました。レジスター 15 にあるサブコードが、特定の問題を示しています。

分析: レジスター 15 にあるサブコードが、特定の問題を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	HOTI01	HSBID パラメーター値が無効です。
Reg15=X'02'	HOTI65	IMS システム定義でシステム間連絡 (ISC) インターフェースとの XRF システム・リンクが定義されましたが、有効な通信回線ブロック (CLB) が存在しません。これは、内部 IMS エラーです。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- レジスター 15 が X'01' の場合、制御領域実行プロシーチャーの EXEC ステートメントの HSBID パラメーターが無効です。
- レジスター 15 が X'02' の場合、内部 IMS エラーが発生しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 = 1 の場合、制御領域実行プロシーチャーの EXEC ステートメントの HSBID パラメーター値を訂正します。レジスター 15 = 2 の場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0586

説明: XRF 対応の IMS システムの初期設定中に、次のいずれかのエラーが発生しました。

- 制御領域の EXEC ステートメントの HSBID パラメーターで無効な値が検出された。 HSBID=1、HSBID=2、または HSBID=ヌルのみが可能。 HSBID=ヌルは、XRF 機能を非活動化します。
- プロシージャ・ライブラリーの DFSHSBxx メンバーをオープンできなかった。

分析: これは、XRF 初期設定中に DFSHINT0 によって発行される標準異常終了です。EXEC ステートメントで無効な HSBID パラメーター値が検出されたか、または DFSHSBxx プロシージャ・ライブラリー・メンバーをオープンできませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	ABND5861	EXEC ステートメントの HSBID パラメーター値が、1、2、またはブランクではありません。FRBHOTID (レジスター 10 + X'118' で指し示される) に、無効値が入っています。
Reg15=X'02'	ABND5862	DFSHSBxx プロシージャ・ライブラリー・メンバーをオープンできませんでした。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 無効なパラメーターが指定された。
- 無効な HSBMBR パラメーターが指定されました。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 最初のエラーの場合、HSBID パラメーターを訂正し、2 番目のエラーの場合、HSBMBR パラメーターを訂正します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHINT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0587

説明: ストレージに対する要求が失敗したか、ロック要求が失敗したために、高速機能の緊急時再始動を完了できませんでした。戻りコード X'08' から X'18' は、DEDB 順方向リカバリー・ルーチン (DBFERS10) からのゼロ以外の戻りコードが原因で、高速機能の緊急時再始動ルーチン (DBFERST0) によって異常終了が発行されたことを示します。戻りコード X'1C'、X'20'、X'24'、または X'28' は、DEDB 緊急時再始動更新ログ・レコード・プロセッサ (DBFERDB0) によって異常終了が発行されたことを示します。

分析: レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード
説明

X'08'

高速保管域を取得できません。

X'0C'

一時記憶域を GETMAIN できません。

0587

X'10'

ストレージ不足のため、順方向リカバリー ITASK を作成できません。

X'14'

ストレージ不足のため、SRB を作成できません。

X'18'

DBFMGXCO から CI ロックを獲得できません。下の表は、ロック要求が失敗した理由を判別する方法を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(DMHR) Reg8=A(DMAC) Reg15=X'18' Reg15=X'1C' Reg15=X'24'	ERSTD BCL	DBFMGXCO は、CI ロックを取得できず、高速機能ロック要求処理プログラム (DBFLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。 IRLM は、ロック要求がリジェクトされた理由を説明する戻りコードと理由コードを渡します。これらのコードは、以下の方法で検索できます。 SCDRSTEB で指し示された RESTART PST を見つけます。位置 PSTLRXRC に IRLM からの戻りコードが入り、位置 PSTLRXFB に IRLM からの理由コードが入っています。IRLM コードについては、IRLM メッセージおよびコードに説明があります。

X'1C'

5947 ログ・レコードの処理中に、バッファ用ストレージを取得できません。

| X'20'

| 5950 専用バッファ・ログ・レコードを処理するために、拡張リカバリー機能 (XRF) 代替領域または高速データベース・リカバリー領域 (FDBR 領域) に必要なストレージを取得できません。前のログ・レコード処理で、半分のバッファ数しか取得できませんでした。

X'24'

5950 専用バッファ・ログ・レコードを処理するために必要なストレージを取得できません。

| X'28'

| 拡張リカバリー機能 (XRF) 代替領域または高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域が共用 VSO エリア用の専用バッファを取得できません。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味については、『分析』のセクションを参照してください。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFERST0、DBFERDB0

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0588

説明: ユーザー作成の、従属領域用の事前初期設定ルーチンをロードしてリンクする試みが失敗しました。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了の前に、メッセージ DFS3848 または DFS3849 が出力されます。どちらの場合も、BLDL マクロ命令により問題が検出されました。BLDL はリンク・ライブラリー、および、ジョブまたはステップ・ライブラリーを検索します。エラー・メッセージにリストされたモジュールがこれらのどのライブラリーにも見つからないか、またはこれらのライブラリーのいずれかを検索中に入出力エラーが発生しました。

問題判別: 1、2、3、6、11、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS3848 (メッセージおよびコード)

 DFS3849 (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0589

説明: 内部システム・エラーが発生しました。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) 制御ブロックに関する入出力許容サービスへの要求が失敗したか、または非同期作業エレメント (AWE) の取得要求または解放要求が失敗したかのいずれかです。

分析: **DFSHREQ0** の場合:

CBT サービスに対する FIND BLOCK 要求が失敗しました。

これは、テークオーバー中に XRF 代替システムによってモジュール DFSHREQ0 から発行される標準異常終了です。DFSHREQ0 は、XRF 代替システムによって追跡されるすべてのバッファの入出力許容 EEQE を作成します。DDIR (DMB ディレクトリ) に関する CBT サービスへの FIND BLOCK 要求が失敗すると、この異常終了が発行されます。検索パラメーター (通常は、DDIR 名) が誤っているために、FIND BLOCK 要求が失敗しました。DDIR 名は、バッファ・トラッキング・テーブルから取得されます。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。

キー	ラベル	説明
Reg1=A(parms) Reg4=A(BTTE) Reg7=A(DDIR) Reg15=V(code)	EEQE00	CBT サービスのパラメーター作業域のアドレス。バッファ・トラッキング・テーブルのアドレス。検索対象の DDIR 名のアドレス。CBT サービスからの戻りコード。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

DFSHCI00 の場合:

AWE プールからの非同期作業エレメント (AWE) に関する GET または RELEASE 制御ブロック要求 (DFSBCB FUNC=GET/REL) が失敗しました。

レジスター 14 は、GET AWE の場合はラベル HCIGAWA を指し、RELEASE AWE の場合はラベル HCIRAWA を指しています。レジスター 15 に、DFSBCB00 から戻されたエラー・コードが入っています。

考えられる原因: この要求を満たすために使用可能な CSA 内のストレージが不十分でした。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

0590 • 0591

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味については、上記の『分析』を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHREQ0、DFSHCI00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0590

説明: IMS 代替システムが稼働中の XRF 複合システムで、VTAM または IRLM に障害が起きました。中央演算処理装置複合システム (CPC) で、どちらか一方が異常終了しました。

分析: これは、内部 VTAM エラーによって TPEND 出口ルーチンが駆動されたか、代替システムが実行されている CPC で IRLM が異常終了した場合に発行されます。

キー	ラベル	説明
	HTRMTERM	XRF 代替システムは、異常終了 0590 で終了します。ダンプは取られません。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: VTAM または IRLM の障害の原因になったエラーを修正してから、代替 IMS システムを再起動します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHTRM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0591

説明: 高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、エラーが発生しました。高速機能順方向リカバリー・プロセッサ (DBFERS20) が、CI の順方向リカバリー処理中に CI ブロックを取得できなかったか、解放できなかったかのいずれかです。この問題の原因は、内部 IMS エラーです。

分析: 0591 は、高速機能順方向リカバリー・モジュール DBFERS20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 を調べて、ロック要求が失敗したのか、ロック解放が失敗したのかを判別します。レジスター 4 を調べて、IRLM 戻りコードと理由コードを判別します。

IRLM コードについての説明は、IRLM 要求の戻りコードと理由コードを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg2=DMAC アドレス Reg4=X'bbbbcccc' Reg7=XCRB アドレス Reg15=X'0001aaaa'	ERS2LOCK	X'0001' は、ロック要求が失敗したことを示します。X'aaaa'= DBFMGXC0 からの戻りコード X'bbbb'= IRLM 理由コード X'cccc'= IRLM 戻りコード DMAC には、DEDB エリアに関する情報が入っています。XCRB には、そのロック要求に関与する CI についての情報が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=DMAC アドレス Reg4=X'bbbbcccc' Reg7=XCRB アドレス Reg15=X'0002dddd'	ERS2RLSE	X'0002' は、ロック解放が失敗したことを示します。 X'dddd' = DBFLRH00 からの戻りコード X'bbbb' = IRLM 理由コード X'cccc' = IRLM 戻りコード DMAC には、DEDB エリアに関する情報が入っています。XCRB には、そのロック要求に関する CI についての情報が入っています。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFERS20

関連タスク:

 IRLM メッセージおよびコード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0592

説明: IMS が高速処理データベース (DEDB) のエリア・ロックを取得できませんでした。高速機能 XRF モジュールは、2 番目の CI から DMAC をリフレッシュするための準備中にエリア・ロックを取得できませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

分析: DBFMGXC0 は、CI ロックを取得できず、高速機能ロック要求処理プログラム (DBFLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

IRLM は、ロック要求がリジェクトされた理由を説明する戻りコードと理由コードを渡します。これらのコードは、以下の方法で検索できます。

RESTART PST (SCDRSTEB で指し示された) を見つけます。位置 PSTLRXRC に IRLM からの戻りコードが入り、位置 PSTLRXFB に IRLM からの理由コードが入っています。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFEACL0、DBFH CIR0、DBFENIS0、DBFE2CI0、DBFERS10

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0593

説明: 再始動中に、データベース・ブロック障害が発生しました。

分析: DFSRBLB0 の場合:

IMS 再始動処理中に、データベース・ブロック障害が発生しました。

これは、DFSRBLB0 によって発行される標準異常終了コードです。これは IMS 再始動のファイル終了処理中に発生します。レジスター 14 に、異常終了の検出元のアドレスが入っています。

0593

レジスター 15 には、以下のいずれかの異常終了サブコードが入ります。

コード

説明

X'01'

DFSBCB GET 障害

X'03'

DSFCWU エラー

X'04'

SCHEDULE PSB 障害

X'05'

「DDIR が見つからない」エラー

X'06'

トランザクション・コードが見つからず、タイプ 07 ログ・レコードが存在しない

X'07'

タイプ 0408 ログ・レコードを作成するための作業域用のグローバル・ストレージの IMODULE GETSTOR の失敗。

DFSRDBP0 の場合:

再始動処理中に、データベース・ブロック障害が発生しました。

これは、DFSRDBP0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、再始動、XRF トラッキング、または高速データベース・リカバリー (FDBR) トラッキングの実行時に、X'07'、X'08'、X'47'、または X'5607' ログ・レコードの処理中にのみ発生します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'01'

DFSBCB GET ブロック・エラー

X'02'

DFSCBTS ENQ/DEQ エラー

X'03'

DSFCWU エラー

X'04'

ブロック・ムーバー・エラー

X'05'

PDIR が見つからない

X'06'

PSB スケジュール用のプール・スペース不足

キー	ラベル	説明
Reg2=A(X'47' ログ・レコード) Reg15=X'01'	P470100 (CLNP020)	DFSBCBGET が、RRE または SIDX を取得できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(X'47' ログ・レコード) Reg15=X'02'	P470130 (CLNP042)	DFSSIDX0 への DFSCBTS ENQ または DEQ 呼び出しが失敗しました。
Reg2=A(ログ・レコード) Reg14=A (CWU 戻り) Reg15=X'03'	GETDPST (CLNP020)	X'07'/X'08'/ X'47' ログ・レコードの処理中に、作業単位の作成に失敗しました。
Reg2=A(PDIR) Reg14=A(戻り SCHD PSB) Reg15=X'04'	SCHDPSB	この戻りコードは、XRF 代替システムにのみ適用されます。ブロック・ムーバーからエラーが戻されました。PST の X'385' にある PSTSCHDF フィールドに、以下のいずれかの値が入ります。 X'01' PSB が停止またはロックされています。 X'02' データベースが停止またはロックされています。 X'03' PSB/DMB の読み取り中の入出力エラー。DMB が見つからないか、前の DMB エラー (DDIRBAD セット)。 X'04' 意図の矛盾。 X'05' PSB/DMB を保持するには PSBW/DMB プールが小さすぎます。 X'06' EPCB/DMB/PSB/PSBW プールのストレージが一時的に利用不可であるか、DFSDBAU が必要なスペースを取得できませんでした。詳しくは、PSTCODE1 を参照してください。 X'07' 無効な PCB PROCOPT L または LS。 X'08' FP バッファ・ページ固定エラー。 X'09' PCB の処理意図がデータベース・アクセスと互換性がありません。 X'0A' データベース許可が失敗しました。 X'0B' データベースが利用不可です。 X'0C' 入出力防止待ち (テークオーバー後の GSAM による BMP)。
Reg2=A(ログ・レコード) Reg11=PDIR RC 検索 Reg14=A(PDIR 検索の戻り) Reg15=X'05'	P080020 (P470050)	ログ・レコードで PSBNAME に対応する PDIR が見つかりませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(ログ・レコード) Reg14=(SCHD PSB 戻り) Reg15=X'06'	SCHDPSB	この戻りコードは、XRF 代替システムにのみ適用されます。プール・スペース・エラーが発生しました。PST 内のバイト X'B02' に、以下のいずれかの値が入ります。 X'40' 意図の矛盾 X'20' DMB 待機キュー上の PST X'08' タイプ 3 バッチ領域 X'04' PSB 待機キュー上の PST X'x2' X'02' の場合は、PSB プール不足です。X'12' の場合は、PSB 作業プール不足です。異常終了の前に発行される DFS992I または DFS993I が、プールのスペース不足のタイプを指定します。 X'00' 「意図リストのロード」または「DMB のロードおよび再配置」からエラーが戻された可能性があります。PST のバイト X'345' にある PSTSCHDF を確認して、原因を判別してください。例えば、PSTSCHDF に X'05' が入っている場合、DMB プールが小さすぎます。

DFSRESP0 の場合:

再始動時に、データベース・ブロック障害または再始動ブロック障害が発生しました。

これは、DFSRESP0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、DFSBCB/DFSCBTS 問題が原因で、再始動時の X'4027' および X'4028' タイプのログ・レコードの処理中にのみ発生します。

コード
説明

X'08'

要求された SIDX 機能で、ブロックが見つかりませんでした。

キー	説明
Reg2=A(X'4027' または X'4028') ログ・レコード Reg15=X'08'	SIDX FUNC=FOUND または GET、BLK=EQEL、DDIR、EQEL、または RRE 要求で、DFSBCB/DFSCBTS エラーが発生しました。

DFSRST00 の場合:

再始動処理中に、データベース・ブロック障害が発生しました。

これは、DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、再始動または XRF トラッキングの実行時のログ・レコードの処理中にのみ発生します。レジスター 14 に、異常終了が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかの異常終了サブコードが入ります。

コード
説明

X'01'

DFSBCBGET が、サブルーチン GETRPST で、EQEL、RPST、または SIDX を取得できませんでした。

X'02'

サブルーチン GETRPST で DFSCBTS ENQ が失敗したか、またはサブルーチン RELRPST で DEQ が失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了時のレジスター 15 に入っているコードが、障害の原因を示しています。

上記で説明されているエラー・コードに応じて、適切な処置を取ります。CSA フラグメント化がコード 3 または 4 の原因になる場合があります。この場合は、再 IPL してからジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRBLB0、DFSRDBP0、DFSRESP0、DFSRST00

0594

説明: 内部システム・エラーが発生しました。RPST 制御ブロックに関するストレージ管理サービスへの要求が失敗しました。要求側が異常終了を発行することもあります。

分析: これは、エラー再始動時に XRF/非 XRF システムによって発行される、またはトラッキング・フェーズで XRF 代替システムによって発行される、標準異常終了です。RPST ブロック管理モジュールに対するサービス要求が失敗し、要求側が 0594 を発行しました。これは、内部システム・エラーです。IBM による問題分析のために、以下の情報を入手してください。

1. RPST サービス要求が失敗した場所。(異常終了への入り口の PSW を使用して、異常終了しているモジュールと、異常終了の発行元の命令を判別します。これにより、RPST サービス要求が失敗した場所が切り分けられます。)
2. 処理中のログ・レコードのコピー。(レジスター 2 を参照。) ログ・レコード・タイプは、X'07/08/37/47/50/51/52' です。
3. レジスター 1 で指し示された呼び出し元のパラメーター作業域のコピー。この領域は、40 (X'28') バイトの長さです。
4. レジスター 15 内の異常終了サブコード。

キー	ラベル	説明
Reg1=A(parms)		RPST ブロック管理サービスの呼び出し元のパラメーター作業域のアドレス。
		呼び出し元のログ・レコードのアドレス
Reg14=A(リターン)		呼び出し元へのリターンのアドレスおよび DFSCBTS 呼び出しからのリターン・アドレス、または呼び出しが異常終了ルーチンに分岐した場所。
Reg15=V(サブコード) または 0 (エラーが DFSCBTS 呼び出しからのゼロ以外の戻りコードの結果ではなかった場合)		呼び出し元に戻された異常終了サブコード。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、15、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0595

説明: サブプール 231 からの主記憶域の GETMAIN 要求が失敗しました。

分析: これは、XRF 同期中に代替システムによって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=V(異常終了コード)		ユーザー異常終了コード。GETMAIN 要求からの戻りコード
Reg15=V(戻りコード)		

考えられる原因: IMS 制御領域 JCL の JOB ステートメントの REGION パラメーターの値を増やす必要があります。

システムの処置: 代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHDAI0、DFSHPTK0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0596

説明: 内部システム・エラーが発生しました。この異常終了は、XRF 複合システム内または高速データベース・リカバリ領域内のすべての IMS バッファ・トラッキング・モジュールによって発行されます。

分析: これは、トラッキングまたはテークオーバー・フェーズ中に XRF 代替システムによって発行される標準異常終了です。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。レコード・タイプは、X'07/08/27/37/50/51/52/53' です。

レジスター 1 に、ユーザー異常終了コード 0596 (X'254') が入っています。レジスター 15 に、サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'	RD53	バッファ・トラッキング・プールを見つけることができません。
Reg15=X'08'	CHECKAG	バッファ・トラッキング 1 次プールでバッファを見つけることができません。
Reg15=X'0C'	MATCHR	バッファ・トラッキング・オーバーフロー・プールでバッファを見つけることができません。
Reg15=X'10'	BLDWKA	バッファ・トラッキング・プール用のストレージを割り振ることができません。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

システムの処置: 代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHPTK0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0597

説明: 内部システム・エラーが発生しました。この異常終了は、XRF 複合システムのすべての IMS ロック・トラッキング・モジュールによって発行されます。

分析: これは、トラッキングまたはテークオーバー・フェーズ中に XRF 代替システムによって発行される標準異常終了です。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。レコード・タイプは、X'07/08/27/37/50/51/52/53' です。

レジスター 1 に、ロック・トラッキング障害またはロック再獲得障害からのユーザー異常終了コード 0597 (X'255') が入っています。レジスター 15 に、サブコードが入っています。

DFSHLTK0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	HLTK0200	ロック・トラッキング障害 - ログ・レコード内にロック・トラッキング・データがありませんでした。
Reg15=X'03'	TRLK1500	ロック・トラッキング障害 - 獲得されなかったロック・トラッキング・エントリーを削除しようとしています。
Reg15=X'04'	TRLK1700	ロック・トラッキング障害 - 獲得されなかったロック・トラッキング・エントリーを削除しようとしています。
Reg15=X'05'	DELLWKAE	ロック・トラッキング障害 - このロック・トラッキングまたはハッシュ・テーブル・エントリーのプール・ヘッダーを見つけることができません。
Reg15=X'06'	GETP0500	ロック・トラッキング障害 - ロック・トラッキング・プールを IMODULE GETMAIN できません。Reg5 に戻りコードが入っています。
Reg15=X'07'	DELL0200	ロック・トラッキング障害 - ロック・トラッキング・プールを IMODULE DELETE できません。Reg5 に戻りコードが入っています。

DFSHRAL0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg15=X'05'	HRAL0420	ロック再獲得障害 - ロック・トラック・エントリーから DDIR を検出できません。
Reg15=X'06'	HRAL0502	ロック再獲得障害 - IRLM から RIDX ロックを再獲得できません。
Reg15=X'07'	HRAL0521	ロック再獲得障害 - IRLM から SEGX ロックを再獲得できません。
Reg15=X'08'	HRAL0511	ロック再獲得障害 - IRLM から SEGL ロックを再獲得できません。
Reg15=X'09'	HRAL0541	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDP ロックを再獲得できません。
Reg15=X'0A'	HRAL0551	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDX ロックを再獲得できません。
Reg15=X'0B'	HRAL0531	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDL ロックを再獲得できません。

0598

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	HRAL0531	ロック再獲得障害 - IRLM から XIDP ロックを再獲得できません。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

システムの処置: 代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSHLTK0、DFSHRAL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0598

説明: 拡張リカバリー機能 (XRF) 複合システムの同期フェーズ中、または代替システムの緊急時再始動中に、システム・データ・セット内で不整合が検出されました。レジスター 3 に、この問題の原因となったシステム・データ・セットを示す文字ストリングが入っています。エラーの可能性のあるデータ・セットは、リスタート・データ・セット (RDS)、MODSTAT、QBLK、LGMSG-Q、SHMSG-Q、および MSDB です。詳しくは、メッセージ DFS3889A を参照してください。

分析: **DFSRST00** の場合:

XRF 同期時または再始動時に、アクティブ・システムと代替システムのシステム・データ・セットの DSNAME および VOLID が不整合です。

0598 は、XRF 同期中または非 XRF システムの再始動中に、不整合な DDNAME が原因で DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。アクティブ・システムの DSNAME および VOLID が、'4001' チェックポイント・ログ・レコードに入れて代替システムに渡され、代替システムの DSNAME および VOLID と比較されます。アクティブ・システムと代替システムのシステム・データ・セットの DSNAME または VOLID が不整合であると、この異常終了が発行されます。

代替システムが終了する前に、戻りコード (RC=) を含むメッセージ DFS3889A がマスター端末に送信されます。レジスター 2 にログ・レコードのアドレスが入り、レジスター 7 に高速再始動ブロック (FRB) のアドレスが入っています。レジスター 15 に、以下の戻りコードが入ります。

コード

説明

RC=04

アクティブ・システムの再始動中に、使用された DSNAME または VOLID が異なっていました。COLDSTART または BLDQ オプションが指定されていない限り、これらは同じでなければなりません。

RC=08

緊急時再始動中は、短いメッセージ・データ・セットおよび長いメッセージ・データ・セットのデータ・セット数が整合している必要があります。変更が必要な場合は、コールド・スタートまたは BLDQ オプションのいずれかが必要です。

RC=0C

XRF 環境での緊急時再始動中に、バックアップ・システムのキュー・マネージャー・データ・セット (qblks-shmsg-lgmsg) が同じです。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムが使用するシステム・データ・セットとは異なっている必要があります。

RC=10

XRF 環境での緊急時再始動中に、バックアップ・システムのオンライン変更用のシステム・データ・セット、または再始動データ・セットが異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムと同じである必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg3=C'MODS' Reg8=ONLINE CHANGE 作業域 MSWA のアドレス	MODBAD CHECKSDS	アクティブ・システムと代替システムの DSNAME および VOLID MODSTAT データ・セットまたは MODSTAT2 データ・セットが同じではありません。
Reg3=C'RDS' REG4=A(DCBEXT) RDSBAD CHECKSDS Reg5=A(DCB) REG8=A(UCB)	RDSBAD CHECKSDS	アクティブ・システムと代替システムの RDS または RDS2 データ・セットの DSNAME および VOLID が同じではありません。
REG3=C'QBLK' REG4=A(DCBEXT) REG5=A(DCB)	QBLKBAD CHKSYS10	アクティブ・システムと代替システムの QBLK データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。
REG3=C'SMSG' REG4=A(DCBEXT) REG5=A(DCB)	SMSGBAD CHKSYS20	アクティブ・システムと代替システムの SHMSG データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。
REG3=C'LMSG' REG4=A(DCBEXT) REG5=A(DCB)	LMSGBAD CHKSYS30	アクティブ・システムと代替システムの LGMSG データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。

DBFNRS0 の場合:

再始動または XRF 同期の MSDB データ・セット名または VOLID が不整合です。

再始動または XRF 同期による 4080 ログ・レコードの (高速機能チェックポイントから始まる) 処理中に、ログに記録されている MSDB データ・セット名または VOLID が、再始動/バックアップ・システム内で見つかりませんでした。異常終了の前に、メッセージ DFS3889A が出されます。レジスター 8 は、4080 ログ・レコードを指しています。レジスター 11 は、ESCD を指しています。フィールド ESCDMDSN は、MSDB チェックポイント・データ・セットの DSNAME および VOLID を含んでいるブロックへのポインターです。このブロックは、マクロ DBFMDSN にマップされます。

キー	ラベル	説明
Reg3=C'MSDB'	NRST4080	次のいずれかの問題が発生しました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常再始動、緊急時再始動、または XRF バックアップ同期中に、ログに記録されている MSDB DBD 名がシステム内で見つかりませんでした。 2. XRF 同期中に、アクティブ・システムと代替システムの MSDB VOLID の間に矛盾が見つかりました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- IMS が誤ったプロシージャータを使用して開始された。
- データ・セットが異なるボリュームにマイグレーションされた。
- 内部プログラム論理エラーが発生した。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

0599 • 0600

プログラマーの応答: 制御領域の JCL を訂正します。XRF 対応の IMS システムのデータ・セット名およびポリュームの要件については、「XRF データ・セットの割り振り (システム定義)」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRST00、DBFNRS0

関連情報:

 DFS3889A (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0599

説明: XRF 対応の IMS アクティブ・システムのチェックポイント中、または XRF 複合システムの同期フェーズで、ページ固定またはページ解放のエラーが発生しました。IMSAUTH PGFIX/PGFREE 機能によってレジスター 15 に戻りコードが渡されます。これらの戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析: 0599 は、DFSRCP00 または DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。IMSAUTH マクロが、ページ固定サービスまたはページ解放サービスのために DFSV4200 を呼び出しました。ゼロ以外の戻りコードが、レジスター 15 で呼び出し元に渡されました。

キー	ラベル	説明
Reg14=IMSAUTH 呼び出しに続く BAL R14,ABND599 の次の順次命令 Reg15=ゼロ以外の戻りコード	ABND599	ページ固定/解放要求が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム論理エラーまたはインターフェース・エラーが発生しました。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCP00、DFSRLP00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0600

説明: VM の下で XRF 対応の IMS システムが稼働中に、DIAGNOSE-0 命令でエラーが発生しました。

分析: これは、VM の下で XRF 対応の IMS システムが稼働中にチェックポイントが取られるとき、または X'4001' ログ・レコードが代替システムによって処理されるときに、DFSRCP00 および DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。VM の下で稼働している場合、IMS は VM USERID を取得するために DIAGNOSE O 命令を発行します。アクティブと代替の IMS システムが同じ USERID の下で実行されているかどうかを調べるための比較が行われます。

キー	ラベル	説明
Reg14=分岐リンク (BAL) 命令の 次の順次命令の アドレス	ABEND600 ABND600	DFSRCPO0 DFSRLPO0 DIAGNOSE O 作業域 (レジスター 2 (DFSRCPO0) またはレジスター 8 (DFSRLPO0) で指し示される) が文字ストリング「VM」で始まっていないか、 または USERID が取得されませんでした。DIAGNOSE O 命令 DC X'83100000' は、割り込みを無効にして実行されます。

考えられる原因: 内部プログラム論理エラーが発生しました。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: XRF 対応の IMS システムを再実行する試みが失敗した場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCPO0、DFSRLPO0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 15 章 IMS 異常終了コード 0601 - 0700

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0601

説明: IMODULE サービスを使用したアドレス・スペース専用エリアまたは共通サービス域 (CSA) のストレージの取得または解放の要求中に、障害が発生しました。

分析: この異常終了は、IMODULE GETMAIN/ DELETE を使用して一時ストレージを獲得または解放できなかった場合に、DBFDBFM0、DBFERS20、DBFTOPU0、DFSIDC00、DFSTODI0、および DFSTOPR0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

レジスター 15 に戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: おそらく、領域サイズまたは CSA のサイズを増やす必要があります。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBFM0、DBFERS20、DBFTOPU0、DFSIDC00、DFSTODI0、DFSTOPR0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0602

説明: IMS の入出力許容機能で論理エラーが発生しました。この異常終了の前に出力されるメッセージ DFS0612I に、予期しない条件を説明するレジスター 14 およびレジスター 15 の戻りコードが含まれています。

分析: DBFTOFNO と DBFTOPUO の場合:

これは、DBFTOPUO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'61'	ABNOSRB	FP SRB 取得が失敗しました
Reg15=X'62'	ABNOSRBR	FP SRB 解放が失敗しました
Reg15=X'63'	ABNPOST	PST が渡されませんでした
Reg15=X'64'	ABNEPSTR	EPST 解放が失敗しました
Reg15=X'65'	ABNOLCHG	ロック変更が失敗しました

キー	ラベル	説明
Reg15=X'66'	ABNLKREL	ロック解放が失敗しました (RO = IRLM rc)
Reg15=X'67'	ABNOEPST	EPST 取得が失敗しました
Reg15=X'68'	ABNOBUFF	バッファ・アドレスがゼロです
Reg15=X'69'	ABNODATA	データ・バッファが無効です

DFSTOBHO と DFSTORSO の場合:

これは、DFSTORSO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DSF0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'22'	ABND602	バッファ・ハンドラー・ルーチンからのゼロ以外の RC
Reg15=X'31'	DOMSG	EEQE が見つかりません
Reg15=X'32'	DOMSG	ddir が見つかりません

DFSTODIO の場合:

これは、DFSTODIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DFS0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'41'	MSG612	EEQE を作成する DBRC からのゼロ以外の RC
Reg15=X'42'	MSG612	EEQE を削除する DBRC からのゼロ以外の RC
Reg15=X'43'	MSG612	DBRC からのゼロ以外の RC

DFSTOPRO の場合:

これは、DFSTOPRO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DFS0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'	ABND602	DDIR/DMAC が見つかりません
Reg15=X'11'	ABND602	削除するための EEQE が見つかりません
Reg15=X'12'	ABND602	EEQE の作成時にバッファ長が指定されませんでした。
Reg15=X'13'	ABND602	DBRC 変更 EEQE エラー
Reg15=X'14'	ABND602	バッチ・バックアウト中の DBCR 変更 EEQE エラー
Reg15=X'15'	ABND602	無効な EEQE が見つかりました
Reg15=X'1F'	ABNOEPST	EEQE COPY で無効な EEQE が見つかりました

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードについては、メッセージ DFS0612I を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFTOFNO、DBFTOPUO、DFSTOBHO、DFSTODIO、DFSTOPRO、DFSTORSO

関連情報:

 DFS0612I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0603

説明: XRF 複合システムの代替 IMS システムがシステム・ログ・データ・セットから主記憶データベース (MSDB) をロードしたときに、エラーが発生しました。レジスター 15 の戻りコードが、このエラーの理由を示しています。

分析: これは、IMS システム・ログから MSDB をロード中に DBFHLOD0 または DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。CHECKPOINT DUMPQ が取られると、MSDB データが X'407x' ログ・レコードとして IMS システム・ログに書き込まれます。XRF 同期中に、DFSRLP00 はこれらのレコードを読み取って DBFHLOD0 に渡します。異常終了時には、レジスター 14 は BAL R14,ABEND 命令の後の次の順次命令を指しており、レジスター 15 に理由コードが入っています。レジスター 2 は、処理中のログ・レコードを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg8+X'40'=FRBCHKNO のアドレス Reg10=A(ESCD) Reg15=X'01'	ABEND	ログ・レコード X'4070' で渡されたチェックポイント ID が、ログ・レコード X'4071'、X'4071'、X'4072'、X'4073'、X'4074'、または X'4079' 内のチェックポイント ID に一致しません。FRBCHKNO に、チェックポイント ID が入っています。
Reg1=A(ログ・レコード項目) Reg6=ECNT 項目の長さ Reg8+X'28'=FRBECNT =CURRENT ECNT アドレス Reg10=A(ESCD) Reg15=X'02'	HLOD4071	X'4071' ログ・レコードで渡された拡張通信ノード・テーブル (ECNT) 名が、システム内で見つかりませんでした。
Reg15=X'03' ESCDDDBFA=Reg10+X'224' =X'00000000'	HLOD4073	X'4073' ログ・レコードが DBFHLOD0 に渡されましたが、ページ固定 MSDB が定義されていませんでした。
Reg7=累算長さ。 Reg10+X'228'=ESCDBFL Reg15=X'04'	HLOD4079	ページ固定 MSDB データの合計長が、ESCDBFL 内の長さに一致していません。
Reg15=X'05' ESCDBBPA=Reg10+X'22C' =X'00000000'	HLOD4074	X'4074' ログ・レコードが DBFHLOD0 に渡されましたが、ページング可能 MSDB が定義されていませんでした。
Reg7=累算長さ Reg10+X'230'=ESCDBPL Reg15=X'06'	HLOD4079	ページング可能 MSDB データの合計長が、ESCDBPL 内の長さに一致していません。

0604 • 0605

キー	ラベル	説明
Reg1=A(ログ・レコード項目) Reg 5=A(ヘッダー項目) Reg 15=X'07' Reg15=X'08'	HLOD4072	X'4072' ログ・レコードで渡された MSDB 名、HEADER 長さ、またはセグメント長が、対応する MSDB HEADER 項目の名前、長さ、またはセグメント長に一致していません。ヘッダーが複数の X'4072' ログ・レコード間にまたがっている場合、レジスター 15 が X'08' に設定されます。
Reg2=A(X'4070' ログ・レコード) Reg10+X'2C'=ESDCNNO =ECNT の数 Reg10+X'32'=ESDCnln =ECNT の長さ Reg15=X'09'	HLOD4070	チェックポイントが取られた ECNT の合計数と長さが、このシステム内の ECNT の数と長さに一致していません。
Reg14+X'42'= FRBMSDFL=X'80' Reg14+X'42' ⇐ X'C0' Reg15=X'0A'	L4099S10	XRF 複合システムの同期フェーズ中に MSDB チェックポイント・レコード (X'407x') が検出されましたが、X'4079' レコードが処理されませんでした。DFSRLP00 はこの検査を X'4099' 処理の最後に行います。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 内部プログラム論理エラーが発生した。
- アクティブ・システムと代替システムが同じシステムでない。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正してから、代替システムを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHLOD0、DFSRLP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0604

説明: 代替システムによるテークオーバーを要求するために、XRF 複合システムのアクティブ・システムまたは代替システムから、/SWITCH SYSTEM FORCE (ACTIVE) または /SWITCH SYSTEM ACTIVE コマンドが入力されました。このコマンドに回答して、アクティブ・システムに対して異常終了コード 0604 が予想されます。代替システムがテークオーバーします。

システムの処置: アクティブ・システムの制御領域は終了します。

プログラマーの応答: 必要ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICA20、DFSTRM00

0605

説明: スケジューリング・シリアライゼーション・ラッチまたは ACBLIB 読み取りシリアライゼーション・ラッチを解放しようとしたときに、予期しない条件が発生しました。この異常終了が発生した理由は、ラッチが所有されていないため、またはラッチを解放しようとしたルーチンがそのラッチの所有者でないためです。これは、IMS システム・エラーです。モジュール DFSBML00 または DFSDBLR0 によって、異常終了 0605 が発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) によって、障害が特定のモジュールに切り分けられます。

分析: DFSBML00 の場合:

326 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

スケジューリング・シリアライゼーション・ラッチを解放しようとしていたときに、予期しない条件が発生しました。ラッチが所有されていないか、解放するルーチンがそのラッチの所有者でないために、異常終了が発生しました。これは、IMS システム・エラーです。

DFSBML00 と DFSDBLR0 の場合:

これは、DFSBML00 または DFSDBLR0 のいずれかによって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害を特定のモジュールに切り分ける必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBML00、DFSDBLR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0606

説明: IMS IRLM 延期出口で予期しない条件が発生しました。これは、IMS システム・エラーか、または無許可のアプリケーション・プログラムが IMS 仮想記憶間オプションを使用しようとした可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSSUSX0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND0606 のルーチン内の命令を指しています。エラーが検出された場合は、DFSSUSX0 のさまざまな場所からこのルーチンに分岐します。レジスター 4 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された場所のアドレスが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSUSX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0608

説明: /TRACE SET ON TRAP 2 コマンドが使用可能な状態のとき、IMS が MFS ブロックの上書きを検出したか、または MOD と DOF のブロック検査が失敗しました。

DFSCFE80、DFSCFE90、DFSCFE10 の場合: /TRACE SET ON TRAP 2 コマンドが使用可能なときに、IMS が MFS ブロックの上書きを検出しました。

DFSCFE00 の場合: /TRACE SET ON TRAP 2 コマンドが使用可能なときに、IMS が一部の MOD および DOF パラメーターを検査しました。MOD または DOF が検査に失敗しました。

分析: レジスターに以下の情報が入っています。

レジスター 11

CIB のアドレスが入っています。CIB は、再コンパイルする必要があるフォーマットを示します。

レジスター 14

エラーを検出したモジュール内のアドレスが入っています。このアドレスを使用して、エラーを検出したモジュールのサブルーチンを判別することができます。

レジスター 15

バッファ境界を越えたストレージ・アドレス、またはブロック検査からのエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
CIB+X'00' =		MID または MOD の名前
CIB+X'0C' =		DIF または DOF の名前

R15 エラー・コード:

コード

説明

- 1 DOF 作業バッファ・サイズ (DOFSWKSZ) が負です。
- 2 DOF の最初のバッファ・オフセット (DOFSBOWF) が負です。
- 3 MOD フィールド・データ長 (MODFLNG) が負です。
- 4 MOD リテラル・オフセット (MODFLIT) がゼロまたは負です。
- 5 MOD syslit ベクトル (MODFVECT) が X'0020' より大きい値です。
- 6 MOD syslit ベクトル (MODFVECT) が 4 で割り切れません。
- 7 MOD リンケージ・エントリ・オフセット (MODDOFL) が負です。
- 8 DOF FDE オフセット・リンケージ (DOFSSIZE) が負です。

DOF ビルド・タイプ 0 (3270):

コード

説明

- 9 DOF 行バッファ・データ・サイズ (DOFSLBDS) がゼロまたは負です。
- A DOF FDE シリーズ終了 (DOF1EOF) が FDE タイプ 7 より前に検出されました。
- B DOF シリーズ・リンク (DOFFLINK) がゼロまたは負です。
- C DOF 索引値 (DOFFLAG1、ビット 4 から 7) が 8 より大きい値です。
- D DOF データ/リテラル長さ (DOFFLNG) が負です。
- E DOF リテラル・オフセット (DOFFLIT) がゼロまたは負です。

DOF ビルド・タイプ 1 (3270 以外):

コード

説明

- F DOF 行バッファ・データ・サイズ (DOFSLBDS) がゼロまたは負です。
- 10 DOF 索引値 (DOFFLAG1、ビット 4 から 7) が 8 より大きい値です。
- 11 DOF 行バッファ・オフセット (DOFFBOFF) が負です。
- 12 DOF データ/リテラル長さ (DOFFLNG1) が負です。
- 13 DOF リテラル・オフセット (DOFFLIT1) がゼロまたは負です。
- 14 DOF 物理ページ・リンク (DOFFLINK) がゼロまたは負です。

システムの処置: 形式ライブラリまたはテスト形式ライブラリを再コンパイルします。

問題判別: 上書きが発生した場合、レジスター 14 に、上書きが検出されたモジュール内の位置が入れます。MOD または DOF がブロック検査に失敗した場合、レジスター 15 にデバッグ・コードが入れます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCFE80、DFSCFE90、DFSCFEI0、DFSCFEO0

0611

説明: 装置出力形式 (DOF) フィールド記述子エレメント (FDE) の処理中に、メッセージ形式サービス (MFS) が、無効な要求が出されたことを検出しました。MFS 出力作成モジュール (DFSCFE80 または DFSCFE90) のいずれかによって、DOFFLAG1 内で無効な DOFFTYPE が検出されました。原因として、DOF が以下の状態にある可能性があります。

- 正しく作成されていない。
- ストレージ内でオーバーレイされている。
- 正しく変更されていない。

分析: これは、MFS 出力作成モジュール (3270 装置では DFSCFE80、3270 以外の装置では DFSCFE90) から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、ラベルに分離することができます。レジスター 11 に、エラーが発生したときに使用中であったメッセージ出力記述子 (MOD) 名のアドレスが入っています (CIB)。両方のモジュールからの異常終了は、ラベル PROCFDE からラベル ABEND611 への無条件ブランチの結果です。

キー	ラベル	説明
Reg2=アクション値 Reg8=DOFFDE dsect アドレス Reg15=DFSCFE80 基底 DOFFLAG1=DOFFDETYPE	DOSERIES (PROCFDE)	適切な物理ページであることが検証済みであるため、この DOF FDE シリーズは処理できます。要求されたアクション (レジスター 2) が装置には無効であるために、異常終了が発行されています。
Reg2=アクション値 Reg3=CURSTBL DOFFLAG1=X'80' Reg8=DOFFDE dsect アドレス Reg15=DFSCFE80 基底	STEPFDE (PROCFDE)	このルーチンは、6 バイトまたは 4 バイトのエントリーの FDE を処理中です。要求されたアクション (レジスター 2) が装置には無効であるために、異常終了が発行されています。
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=DOFFSZ1 Reg12=DFSCFE90 基底	FDEDONE (PROCFDE)	現行の FDE の処理が終了して、DOF リテラルの検査が行われています。リテラルがなければ、次の FDE が処理されることとなります。DOFFLAG1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのアクションは装置には無効であるため、この異常終了が発行されています。
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=DOFFLAG Reg12=DFSCFE90 基底	FDEDONE (PROCFDE1)	現行の FDE の処理が終了して、DOF リテラルの検査が行われています。リテラルがあれば、その処理に進みます。DOFFLAG 1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのアクションは装置には無効であるため、異常終了が発行されています。
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=FDE アドレス Reg12=DFSCFE90 基底	PPLINK (PROCFDE1)	物理ページ・リンク FDE が検出されており、それが処理される予定です。DOFFLAG1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのビットは装置には無効であるため、異常終了が発行されています。

考えられる原因: DOFFLAG1 が変更された可能性があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: ありません。

問題判別: 11、16、35

0616

レジスター 11 の内容は、エラーが発生したときに使用中だったメッセージ出力記述子 (MOD) 名のアドレスです。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCFE80、DFSCFE90

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0616

説明: 最後に残っていた IMS ログ・データ・セットで、永続入出力エラーが発生しました。IMS バッチで重複ロギングが使用されている場合、この異常終了は両方のログ・データ・セットが損傷したときに発生します。IMS オンラインの場合、これが発生するのは、最後に残っていた OLDS に永続入出力エラーがあったか、チェックポイント・フリーズを完了するための十分なスペースがないときです。

分析: これは、物理ロガー (バッファ後処理ルーチン DFSFDLB0) によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害の検出元のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=A(LDSET) Reg9=A(LBUFFER)	WRTE1500	SLDS データ・セット IEFORDER (重複の場合は、IEFORDER2) に入出力エラーがあります。バッファ接頭部 LBUFFER には BSAM DECB が入り、LDSET には状況フラグが入っています。

DFSFDLS0 の場合:

バッチの場合、この異常終了は、ログのクローズ中にエラーがあったことを示しています。オンラインの場合は、最大ブロック数の 4 294 967 295 を超過したか、またはエラー・フリー OLDS (または OLDS ペア) が存在せず、現行の OLDS (または OLDS ペア) が満杯であるかのいずれかです。

この異常終了は、物理ロガー・セットアップ・ルーチン DFSFDLS0 によって発行される可能性があります。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害の検出元のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=A(LDSET)	SETU0700	次の使用可能な OLDS が要求されたとき、エラー・フリー OLDS が残っておらず、現行の OLDS が満杯であったために、要求は無視されました。
Reg8=A(LDSET)	OPEN1400	ログ・ブロック数が最大値 (4 294 967 295) を超えました。
Reg8=A(LDSET)	EOVSTART EOVL1300	最後の OLDS に充てんした後、EOV ルーチンはエラー・フリー OLDS が残っていないことを検出しました。
Reg8=A(LDSET)	EOVL1550	ログ・ブロック数が最大値 (4 294 967 295) を超えました。
Reg8=A(LDSET)	CLOSEBAD	バッチ・ログ・データ・セットで CLOSE エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 新しいログ・データ・セットを割り振り、入出力エラーを起こしたログ・データ・セットと置き換えます。書き込みエラーまたはクローズ・エラーのないログ・データ・セットを作成するには、ログ・リカバリー・ユーティリティを使用する必要があります。十分な数のログ・データ・セットが使用可能になったら、IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDLB0

0622

説明: IMS が、0 から 7 の範囲の保護キーで制御領域以外を初期設定しようとした。キー 0 から 7 の下で稼働できる領域は、z/OS 内の CTL および CTX オンライン制御領域に限られます。詳細については、IMS 環境で使用されるプロシージャ (システム定義) のプロシージャの説明を参照してください。

分析: これは、DFSRRRA40 (オンライン) または DFSRRRA70 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS0622I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

キー 0 から 7 の下で実行するように指定されたプログラム DFSRRRC00 (領域コントローラー) を使用して、DL/I 領域、従属領域、またはユーティリティ領域が開始されました。このように指定された非制御領域は、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

キー	ラベル	説明
	RAMPCOM RADSVC1	TCB 保護キー・フィールド (TCBPKF) をテストして、キーが 0 から 7 の範囲であるかどうかを調べます。非制御領域は 8 から 15 の保護キー範囲で実行する必要があります。

考えられる原因: プログラム名 DFSRRRC00 が、間違って z/OS プログラム・プロパティ・テーブル内にあります。このテーブル (モジュール IEFSD060) は、システムの LPALIB 内にあります。

システムの処置: IMS は、この異常終了を発行した領域を終了させます。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。z/OS システム・プログラマーと一緒に、プログラム DFSRRRC00 がキー 0 から 7 の下で実行するように指定されていないかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、8、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報:

 DFS0622I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0623

説明: IMS は 8 から 15 の範囲の保護キーを使用して z/OS 内のオンライン制御領域を初期設定しようとしたが、0 から 7 の範囲のキーが必要です。

分析: これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了に先行して、メッセージ DFS0623I が出力され、マスター・コンソールに送られます。

オンライン制御領域は 0 から 7 のキー範囲で実行する必要があります。制御領域は、CTL か CTX に関係なく、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

キー	ラベル	説明
	RACTX/RACLT	この 2 つのラベル内で、TCB 保護キー・フィールド (TCBPKF) をテストして、キーが 0 から 7 の範囲であることを確認します。テストが失敗した場合、ラベル RACTXLAB に分岐し、メッセージが出され、異常終了が発生します。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- プログラム DFSMVRC0 が z/OS プログラム・プロパティ・テーブルに含まれていないか、プログラムの保護キーが誤っている。このテーブルはメンバー名 IEFSD060 であり、システムの LPALIB 内にあります。
- JOBLIB 内の一部のデータ・セットが許可されていない。

システムの処置: IMS は、この異常終了を発行した領域を終了させます。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。z/OS システム・プログラマーと一緒に、プログラム DFSMVRC0 がキー 0 から 7 の下で実行するように指定されていること、およびすべての JOBLIB データ・セットに APF 許可が与えられていることを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、8、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS0623I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0624

説明: IMS が、AWE ストレージのための DFSBCB 要求からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 の下位 16 ビットに DFSBCB 戻りコードが入り、高位 16 ビットには場合により修飾情報が入ります。

分析: 0624 は、AWE ストレージのための DFSBCB FUNC=GET 呼び出しを発行した後、DFSBCB モジュールからゼロ以外の戻りコードが戻された場合に、さまざまな IMS モジュールから発行される標準異常終了です。レジスター 15 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。DFSBCB 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 のコードに応じて、適切な処置を取ります。

問題判別: 4、11、35

ソース: IMS 異常終了

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0630

説明: IMS の初期設定中に以下のいずれかの条件が発生した場合、初期設定モジュール DFSXCB00 は、処理中に検出されたいずれのエラーに対してもこの異常終了コードを発行します。

1. 次のいずれかのモジュールで IMODULE LOAD が失敗しました: DFSSPF00、DFSCBT10、DFSBC000、または DFSBCB60。
2. QSAV、BXQE、または AWE で、いずれかのプールの初期設定が失敗した。

3. DFSCBTS FIND 機能が、IMS 制御ブロック・テーブル (DFSCBT10) に定義されている IMS 制御ブロックを見つけるのに失敗した。
4. IMS ストレージ・マネージャー (DFSSTM00) がストレージ要求を満たすことができなかった。
5. IMODULE GETMAIN 要求が失敗した。

分析: この異常終了は、DFSXCB00 によって発行される標準異常終了です。

レジスター 14 とレジスター 15 に、必要な診断情報が入っています。レジスター 14 には、異常終了条件が検出されたモジュールのアドレスが入っています。レジスター 15 には、異常終了の正確な原因を特定する標識と戻りコードが入っています。このレジスターに含まれている 4 バイトの戻りコードは、1 文字から 3 文字の EBCDIC 障害標識と、その後続く 16 進数の戻りコードから成っています。以下では、まずレジスター 15 の考えられる内容を要約し、その後でさらに詳しく説明します。

'F' 00 00 nn

CBTE の DFSCBTS FUNC=ALTER または FUNC=FIND が失敗しました。戻りコードは nn です。DFSCBT10 が要求された制御ブロック定義を含んでいません。

'G' 00 00nn

DFSCBTHD の IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'I' nnnnnn

DFSXCB01 の IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nnnnnn です。

'LBC' nn

DFSBC000 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LCB' nn

DFSCBT10 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LC5' nn

DFSCBT50 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LSC' nn

DFSSTC00 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LSP' nn

DFSSPF00 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'L60' nn

DFSBCB60 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'Q' nnnnnn

QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。DFSBCB 戻りコードは nnnnnn です。

'SM' nnnn

IPAGE を取得するために DFSSTM00 が呼び出されました。IMODULE GETMAIN が、要求されたストレージを取得しようとして失敗しました。レジスター 8 に CBTE アドレスが入ります。IMODULE 戻りコードは nnnn です。

'S' 00 00 nn

制御ブロック・テーブル・エントリーの初期設定中に、ブロック QSAV、BXQE、AWE の 1 つ以上で CBTE が見つかりませんでした。値 nn は、DFSCBT10 に定義された CBTE を持っていないブロックの数です。

1. 次のいずれかのモジュールで IMS IMODULE LOAD が失敗しました: DFSSPF00、DFSCBT10、DFSBC000、または DFSBCB60。

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 L - IMODULE LOAD が失敗しました

2 および 3

CB - ラベル HDRSTART で DFSCBT10 のロードが失敗しました。BC - ラベル BCB80 で DFSBC000

のロードが失敗しました。SP - ラベル BCB80 で DFSSPF00 のロードが失敗しました。60 - ラベル HDREXIT で DFSBCB60 のロードが失敗しました。

4 IMODULE 戻りコード

2. QSAV、BXQE、AWE プール障害。おそらく、バインド・エラーです。DFSCBT10 が、上記の制御ブロック定義の 1 つを含んでいません。DFSCBT10 アセンブリーにエラーがあったのに、出力が IMS にバインドされました。(ラベル BCB07)

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 S - 上記のブロックのいずれかでスキャンが失敗しました。システム・プログラマーはテーブル (DFSCBT10) を調べて、ブロック ID を判別する必要があります。

2 00

3 00

4 00

3. DFSCBTS FIND 障害。内部制御ブロック FIND 機能が、必要な制御ブロックを見つけることができませんでした。おそらく、バインド・エラーです。DFSCBT10 が、上記の制御ブロック定義の 1 つを含んでいません。DFSCBT10 アセンブリーにエラーがあったのに、出力が IMS にバインドされました。(ラベル BCB80)

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 F - DFSCBTS FIND 障害。

2 00

3 00

4 08 - DFSSCBT0 戻りコード。ブロックを見つけることができませんでした。

レジスター 7 に、制御ブロック・テーブル (DFSCBT10) で見つからなかった制御ブロック・タイプのアドレスが入っています。

4. ストレージ要求の失敗。ストレージの要求 (DFSSTM00) が満たされませんでした。JCL で領域サイズを増やしてください。(ラベル GETBLK30)

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 および 2

SM - DFSSTM00 ストレージ要求の失敗。

3 および 4

RC - 失敗の理由を表示する、DFSSTM00 によって設定された 2 バイトの戻りコード。おそらく、これは領域サイズを少なくとも 8K バイト増やす必要があることを示しています。モジュール DFSSTM00 の Prolog を参照して、戻りコードに関する追加情報を入手する必要があります。

5. IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。ストレージに対する内部要求が失敗しました。(ラベル HDRSTART)

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 G - IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

2 00

3 00

4 RC - IMODULE 戻りコード。

6. DFSCBT50 の IMODULE ロード要求が失敗しました。

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 L - IMODULE ロードが失敗しました。

2 および 3

C5 - DFSCBT50 のロードが失敗しました。

4 IMODULE 戻りコード。

7. DFSXCB01 のための IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 I - DFSXCB01 ための IMODULE GETMAIN が失敗しました

2 00

3 00

4 IMODULE 戻りコード。

8. QSAV ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。これはバッチ領域でのみ発生する可能性があります。

レジスター 15 に、以下が入ります。

Bytes 説明

1 Q - QSAV ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。

2 00

3 および 4

DFSBCB00 の 2 バイトの戻りコード。おそらく、これは領域サイズを少なくとも 8K バイト増やす必要があることを示しています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: レジスター 15 によって示される障害の原因を判別し、問題を訂正してからジョブを再実行します。IMODULE および DFSBCB 戻りコードの意味については、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

ストレージ不足のためにこの異常終了が発生した場合、専用ストレージまたは CSA ストレージの割り振りを次のように増やします。

- 専用ストレージのサイズを増やすには、JCL の領域サイズを増やします。
- CSA のサイズを増やすには、より大きな CSA 割り振りを指定して z/OS を再 IPL します。

問題判別: 1、4、5、6、7、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXCB00

関連資料:



IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0631

説明: ECB を初期設定するために、DFSCIR マクロを使用して IMS CREATE ITASK プロセッサに対する呼び出しが行われました。DFSCIR が、要求を処理できないことを示す、ゼロ以外の戻りコードをレジスター 15 に戻しました。

分析: これは、DFSINB0 または DFSINV0 によって発行される標準異常終了です。DFSCIR マクロが、レジスター 15 に戻りコードを戻しました。コードの意味は次のとおりです。

コード

説明

0632

X'08'

SAP を割り振ることができません。

X'0C'

保管域オフセットが指定されませんでした。

X'10'

QMGR 作業域を割り振ることができません。

X'14'

ルーチンのアドレスが指定されませんでした。

X'18'

DSPWRK を見つけることができません。

X'1C'

無効な機能が指定されました。

さらに、以下のレジスターがこの問題の診断に役立ちます。

レジスター

意味

レジスター 7

ECB が通知されるときに制御を受け取るルーチンのアドレスが入っています。

レジスター 9

初期設定される予定の ECB のアドレスが入っています。

レジスター 10

DFSCIR マクロを呼び出したルーチンのアドレスが入っています。

システムの処置: IMS は、初期設定処理を異常終了させます。

問題判別: 1、4、6、10、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINB0、DFSIINV0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0632

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドに入っていた定位置パラメーターが多すぎます。

分析: これは、DFSRRA20 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS632I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

考えられる原因: PARM フィールドに正しい個数の定位置パラメーターがあるか検査してください。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA20

関連情報:

 DFS632I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0633

説明: IMS DL/I DBB 領域の始動プロシージャーで DBRC=C が指定されたが、MBR パラメーターで DFSBBO00 が指定されませんでした。DBRC=C IMS バッチ・バックアウトでのみ有効です。

分析: これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0633I が z/OS コンソールに送信されます。

キー	ラベル	説明
	RAIR	DBRC=C と RCPGM が、等しいバッチ・バックアウト (DFSBO00) ではありません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DBRC パラメーターまたは MBR パラメーターのいずれかを訂正します。

問題判別: 1、2、3、4、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA70

関連情報:

 DFS0633I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0634

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの定位置パラメーターに、1 つ以上の先行ブランクがあります。

分析: これは、DFSRRRA20 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS634I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

考えられる原因: PARM フィールドの定位置パラメーターに先行ブランクがないか検査してください。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 1、2、3、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA20

関連情報:

 DFS634I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0636

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの最後の固定長パラメーター値が短すぎました。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、または DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS636I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコ

0638

ードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN3	最後の固定長パラメーターが短すぎます。

考えられる原因: PARM の各フィールドの長さが正しいか検査してください。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL を保存してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS636I (メッセージおよびコード)

0638

説明: 固定長パラメーターの範囲内で、コンマが検出されました。

分析: 0638 は、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRA30 (制御領域)、DFSRRA40 (従属領域)、または DFSRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS638I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRA20 内で検出されます。DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRA20 に BAL します。DFSRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN5	固定長パラメーター内で、組み込みコンマが検出されました。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドにおける JCL エラー。正しいフォーマットについては、IMS システム定義情報を参照してください。

APAR 処理の場合: 領域ダンプ、および入力 JCL。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS638I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0640

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初の 3 文字によって指定される、実行の種類に応じた必須パラメーターを省略しました。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRA30 (制御領域)、DFSRRA40 (従属領域)、または DFSRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS640I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRA20 内で検出されます。DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRA20 に BAL します。DFSRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN8/ PMSCN13	入力パラメーター・リストは、この PARM フィールドに必須フィールドが存在することを示していますが、走査操作は必須の定位置パラメーターが欠落していることを判別しています。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドでこれらの必須の定位置パラメーターが省略されています。最初の 3 文字として指定される、異なる領域の必須パラメーターについては、IMS システム定義情報を参照してください。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS640I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0641

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 が、無効な領域タイプで実行されました。//EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターで指定されるバッチ領域は、UDR である必要があります。

分析: これは、//EXEC PARM フィールドの 2 番目のサブパラメーターで指定されたデータベース・ユーティリティーが DFSURDB0 であるときに、最初のサブパラメーターの領域パラメーターが ULU として指定されていることを検出した場合に、DFSRRA80 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。データベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 は、領域タイプ UDR を指定して実行する必要があります。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドの領域パラメーターが誤っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA80

0642

説明: DL/I 実行のプログラム名など、パラメーター値が最大許容長さを超えています。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRA30 (制御領域)、DFSRRA40 (従属領域)、または DFSRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS642I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRA20 内で検出されます。DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRA20 に BAL します。DFSRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN9	パラメーターの長さが最大許容値を超えています。

考えられる原因: JCL エラー (例えば、DL/I 実行のプログラム名が 8 文字を超えています)。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置: この異常終了を発行した領域は終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正してからジョブを再実行するか、または正しい長さのパラメーターを指定して START コマンドを再発行します。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS642I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0643

説明: 数値パラメーターに対して非数値が指定されました。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRA30 (制御領域)、DFSRRA40 (従属領域)、DFSRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS643I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRA20 内で検出されます。DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRA20 に BAL します。DFSRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN52	数値に対して非数値が指定されました。

APAR 処理の場合: 領域メモリー・ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置: この異常終了を発行した領域は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL の EXEC ステートメント・パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 1、2、3、4、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS643I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0644

説明: 内部宛先リストが無効です。これは、内部 IMS エラーです。

分析: 0644 は、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRA30 (制御領域)、DFSRRA40 (従属領域)、DFSRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS644I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

宛先リストは DFSRRA00 によって作成され、DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 によって、入力パラメーターとして DFSRRA20 に渡されます。リストは、DFSRRA20 のレジスター 8 でアドレス指定され、命令「BZ PRMC7」(DFSRRA20 内) をザップしてプログラム・チェックを強制することにより、リストを表示できます。

この異常終了は、モジュール DFSRRA20 内で検出されます。DFSRRA30、DFSRRA40、または DFSRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRA20 に BAL します。DFSRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN3	宛先リスト内の長さ指定 (DESLNT) がゼロです。これは無効です。

考えられる原因: 内部論理エラー。

APAR 処理の場合: DFSRRA20 にインストールされたプログラム・チェック・トラップ付きの異常終了ダンプ。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: モジュール DFSRRA00 に対するユーザー変更があるかどうかを調べます。

問題判別: 1、2、3、4、35

また、サイトで使用されている DFSRRA00 のアSEMBリー・リストを入手してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報:

 DFS644I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0646

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの SPIE オプションが無効です。

分析: これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS646I が IMS マスター・コンソールに送信されます。エラーのある IMS 領域は、ダンプ付きで異常終了します。

SPIE オプションは、以下の領域で有効です。

- 独立型バッチ
- メッセージ処理
- バッチ・メッセージ処理

正しい SPIE オプションの設定についての説明は、IMS システム定義情報の中のプロシージャーに関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
	RADLNMVM	独立型バッチ領域の場合、このルーチンに入ります。SPIE オプションの検査が行われるラベル RAOPTTR に BAL します。値が X'01' より大きければ、ラベル RCRC1 に分岐し、メッセージ DFS646I が出され、異常終了が発生します。
	RAMSG/RACMP	メッセージ処理領域を処理するために、これらのルーチンに入ります。上で説明したのと同じ論理が実行されます。
	RABMP/RABMS	バッチ・メッセージ領域のパラメーターの処理中に、これらのルーチンに入ります。SPIE オプションを妥当性検査するための論理は、バッチ専用領域の場合と同じです。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA00

関連情報:

 DFS646I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0648

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの妥当性検査オプションが無効です。

分析: これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS648I が IMS マスター・コンソールに出されます。異常終了の発行元の領域は、メモリー・ダンプ付きで終了します。

妥当性検査オプションの指定が (1) か (0) かについて、ユーザー呼び出しリスト内のアドレスを妥当性検査する必要があります。このオプションは、DLI または BMP 領域の場合はシンボリック・フィールド (&TEST) であり、MSG 領域の場合は定位置パラメーターです。

キー	ラベル	説明
	RADLNVMVM	独立型バッチ領域の場合、このルーチンに入ります。妥当性検査オプションの検査が行われるラベル RAOPTTR に BAL します。値が X'01' より大きければ、ラベル RCRC2 に分岐し、レジスター 1 にメッセージ・コードがロードされます。RAMSGAB への分岐により該当するメッセージが出され、最終的にラベル RAABND で異常終了します。
	RAMSG/RACMP	メッセージ処理領域を処理するために、これらのルーチンに入ります。上述の論理とまったく同じものが、このルーチンにも適用されます。
	RABMP/RABMS	バッチ・メッセージ領域のパラメーターの処理中に、これらのルーチンに入ります。妥当性検査の論理は、独立型バッチ領域の場合と同じです。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドの JCL エラー。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS648I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0652

説明: PARM フィールドが省略されました。すべての IMS EXEC ステートメントには、PARM フィールドが必要です。

分析: 0652 は、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS652I が IMS マスター・コンソールに出されます。

DFSRRA00 に最初に入った時点で、EXEC ステートメントの PARM フィールドが妥当性検査されます。すべての IMS EXEC ステートメントに PARM フィールドが含まれている必要があります。PARM フィールドのフォーマットについては、「IMS V13 システム・ユーティリティー」または IMS システム定義情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
	RASTART	EXEC ステートメントの初期スキャン中に、PARM フィールドが無効であると判別されています。長さがゼロでないかどうかをテストするために、RCRC3 に分岐します。長さゼロが示された場合、メッセージを発行して異常終了するために、RCRC31 に分岐します。

考えられる原因: JCL エラー

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS652I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0654

説明: EXEC ステートメントで指定された PARM フィールドの長さが 3 文字より少なくなっていました。

制御領域タイプの場合、EXEC ステートメントの最初の 2 つのパラメーターが必要です。これらのパラメーターは、両方とも 3 文字の長さでなければなりません。これが当てはまらない場合、この異常終了が発生します。他の領域タイプの場合、EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初のパラメーターが必要です。このパラメーターは、3 文字の長さでなければなりません。これが当てはまらない場合、この異常終了が発生します。

すべての領域タイプの EXEC ステートメントの PARM フィールドで使用されるパラメーターの説明は、IMS システム定義情報を参照してください。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS654I が IMS マスター・コンソールに出されます。

PARM フィールドの最初の 3 文字は、開始される領域のタイプを示します。このフィールドは存在する必要があり、正確に 3 文字の長さでなければなりません。

キー	ラベル	説明
	RASTART	EXEC ステートメントの初期スキャン中に、PARM フィールドにエラーがあることが判別されています。長さゼロ (省略) かどうかをテストするために、ラベル RCRC3 に分岐します。このテストが失敗し、PARM-too-short 出口ルーチンが実行されます。

考えられる原因: JCL 指定エラー。

システムの処置: この異常終了を発行した領域は終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS654I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0657

説明: GSAM 初期設定エラーが発生しました。領域の初期設定中に、GSAM ルーチンで次のようなエラー条件が検出されました。

- 無効な PCB 処理オプション
- 無効な DBD または PCB
- システム・エラー
- ACBLIB および PSBLIB の PSB 定義間の不整合
- ストレージの取得の失敗。
- 障害のある PST の PSTNR または LCRESEQN が 2 進ゼロである。LCRESEQN は、ポインター PSTCRE を使用して LCRE 内で見つかります。

分析: 0657 は、GSAM 初期設定モジュールがそのエラー処理ルーチンの結果として発行する標準異常終了です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0657I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了の発行元モジ

ール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスクカバーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー理由コードが入っています。このエラーは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

この異常終了は、ACBGEN とオンライン変更の両方を行わずに、GSAM PCB を PSB に追加した結果である可能性があります。オンライン・アプリケーション・プログラムで、定義された GSAM PCB を持つ PSB を使用するためには、その PSB が ACBLIB と PSBLIB の両方で同じでなければなりません。ACBGEN およびオンライン変更を行わずに GSAM PCB が PSBLIB 内の PSB に追加されている場合、その PSB を使用するアプリケーションがスケジュールされると、予測不能の結果が起きる可能性があります。

コード
説明

C4C900xx

DFSZDI00 がエラーを検出しました。

C4C920xx

DFSZDI20 がエラーを検出しました。

キー	ラベル	説明
R2=C4C90001	C4C90001	IMS DD ステートメントのオープン中のエラー。 説明: PSBLIB および DBDLIB の IMS DD ステートメントのオープンに失敗しました。 オペレーター応答: このステップに PSBLIB および DBDLIB の IMS DD ステートメントが含まれていること、およびそれが適切なライブラリーを指定していることを確認します。
R2=C4C90002	C4C90002	PSB の不整合。 説明: ACBLIB 内の PSB はその PSB が GSAM PCB を含んでいることを示していますが、PSBLIB 内の PSB には GSAM PCB が何も含まれていません。 オペレーター応答: 該当する PSB を修正して、ACBGEN または PSBGEN を再実行します。
R2=C4C90003	C4C90003	追加の PCB が拒否されました。 説明: BMP 領域でエラーが発生しました。GSAM PCB を PCB リストに追加中でした。これは、内部 IMS エラーです。 オペレーター応答: ジョブを再実行します。この状態が続く場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。
R2=C4C90004	C4C90004	ストレージの取得の失敗。要求されたストレージの量は、レジスター 6 に記載されています。 オペレーター応答: 領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、このアプリケーションを再実行します。
R2=C4C92001	C4C92001	無効な DBD (GSAM DBD でない)。 説明: GSAM PCB が、GSAM DBD ではない DBD を指定しています。メッセージ DFS0657I に DBD 名が含まれています。レジスター 8 も DBD 名を指しています。 オペレーター応答: 該当する PSB または DBD を修正して、PSBGEN、DBDGEN、または ACBGEN を再実行します。

キー	ラベル	説明
R2=C4C92002	C4C92002	<p>R15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。</p> <p>説明: これは、そのステップに DD ステートメントが存在しないことを示している可能性があります。ただし、前の DEVTYPE マクロは、DD ステートメントが存在することを示していました。</p> <p>オペレーター応答: 必要な場合、GSAM データベース用の適切な DD ステートメントを提供して、ジョブを再実行します。</p>
R2=C4C92003	C4C92003	<p>RDJFCB マクロから戻ったときに、ARLAREA (RDJFCB によって取得された ARA エリアのアドレス) がゼロです。</p> <p>この場合、ARLCODE (下記で説明) はおそらく = 08 です。</p> <p>オペレーター応答: 該当する ARLCODE (下記の C4C9004 に表示) を参照してください。</p>
R2=C4C92004	C4C92004	<p>RDJFCB マクロから戻ったときに、REG5 + X'1C' にある ARLCODE がゼロ以外です。</p> <p>説明:</p> <p>ARLCODE = 4 の場合 RDJFCB マクロを発行する前に、ARL が正しく初期化されていませんでした。</p> <p>ARLCODE = 8 の場合 ARA エリアを戻すために使用可能な仮想記憶域が不十分でした。(ARA エリアは、DD ステートメントに含まれているデータ・セットにつき約 200 バイトです。)</p> <p>オペレーター応答: 領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、このステップを再実行します。</p>
R2=C4C92005	C4C92005	<p>GSAM または BSAM DD ステートメントで、連結内のデータ・セットの数が 255 を超えています。</p>

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題を修正して、再実行します。

問題判別: 11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZDI00、DFSZDI20

関連情報:

 DFS0657I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0658

説明: プログラム名パラメーターが PARM フィールドから省略されました。

分析: これは、モジュール DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: JCL 指定エラー

346 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0662

説明: PARM フィールドの最初の定位置パラメーターが無効でした。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS662I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

最初の定位置パラメーター (PARM フィールドの位置 1 から 3) に、開始される領域のタイプを示す有効な 3 文字のフィールドが含まれている必要があります。有効な 3 文字のフィールドは、CMP、MSG、DLI、BMP、BMS、CTL、CTX、DBB、UPB、RST、または PRL です。「UST」が選択されている場合、またはフィールドが前述のいずれにも一致しない場合、異常終了が発生します。

CIC 領域は、DCCTL 環境では無効であるため、この異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
	RATBS	ラベル RATBID にあるテーブルが、有効なルーチンへのベクトルとして使用されます。PARM フィールドの最初の 3 文字が、有効なエントリーと比較されます。一致が検出されない場合、メッセージおよび異常終了コードを初期化するために、ラベル RAABE に分岐します。

考えられる原因: JCL 指定エラー

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS662I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0670

説明: OTMA メッセージを処理する OTMA モジュール DFSYPSI0 または DFSYTIB0 で障害が発生しました。

DFSYPSI0 モジュールの場合、必要な動的ストレージが、TPIPE に保管されている事前割り振り済み DYNP ストレージより大きく、IMS で OTMA メッセージを処理するための LUMC ストレージが不足しています。

DFSYTIB0 モジュールの場合、IMS で OTMA メッセージを処理する要求に必要な DYNP および LUMC の両方のストレージが不足しています。

分析: DFSYPSI0 または DFSYTIB0 の DFSYPROC が、モジュール・エントリー用に LUMC ストレージを取得するために DFSYMAGL マクロを呼び出しました。ただし、IMS では LUMC ストレージが不足しています。LUMC ス

0684

トレージは、IMS のほとんどの OTMA モジュールに必要なため、システム内にさらに問題が発生するのを防ぐために、IMS は異常終了します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: システム内で十分な LUMC ストレージが使用可能であることを確認し、IMS を再始動して OTMA メッセージを処理してください。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSYPSIO

0684

説明: IMS タイプ 2 SVC 初期設定が失敗しました。障害の理由として、次のものが考えられます。

- すでに稼働中のものと同じ IMSID を使用して、IMS 制御領域の別のコピーを始動しようとした。この障害は、同じ IMSID を使用した、前の IMS の実行で IMS の SVC 終了が失敗した場合にも発生することがあります。
- SDFSRESL が許可されていないか、または IMS SVC モジュールが無許可ライブラリーからロードされている。
- 領域サイズが小さすぎる。

分析: この異常終了は、SVC 初期設定 (DFSVCI INIT SVC 要求) がエラーを検出した場合、モジュール DFSRRA00 内のサブルーチン SVCRTNE によって発行されます。SVC 初期設定障害の場合、制御領域の終了の前にメッセージ DFS684I がシステム・コンソールに送信されます。

この異常終了は、バッチ初期設定 (DFSVCI INITBAT 要求) がエラーを検出した場合、DFSXBAT0 によって発行されます。

DFSVCI 機能要求は、タイプ 2 SVC モジュール DFSVC200 および SVC 初期設定/終了モジュール DFSVCI00 によって処理されます。これらのモジュールでの処理中にエラーが検出された場合、機能コードと DFSVCI 要求からの戻りコードが含まれたメッセージ DFS686W が発行されます。

この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS686W により、追加の診断情報が提供されます。

DFSRRA00 の場合:

キー	ラベル	説明
	SVCABEND	制御領域またはバッチ領域の SVC 初期設定が失敗しました。

DFSXBAT0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg14	CLBCIC	レジスター 14 は、異常終了への入り口 (マクロ DFSBLC) でエラーを検出したサブルーチンを指しています。
Reg15		異常終了への入り口の SVC 戻りコード。

考えられる原因: 上述の理由および以下のいずれかの理由。

- システム定義時の IMSCTRL マクロ、JCL の EXEC ステートメント、またはメンバー DFSPRRG0 または DFSPRRD0 の IMS 実行パラメーターで指定された、IMSID が固有でない。実行中の別の領域が同じ IMSID を持っています。
- IMS 実行ライブラリーが許可されていない。
- システム定義時、メンバー DFSPRRG0 または DFSPRRD0 の IMS 実行パラメーター、または JCL EXEC ステートメントで指定された、コマンド認識文字 (CRC) が固有でない。実行中の別の IMS 領域が同じ CRC を持っています。
- DFSMRCL0 (IMS リソース・クリーンアップ) が正常にインストールされていない可能性がある。IMS 終了時にメッセージ DFS627I または DFS627W を受け取っていない場合には、DFSMRCL0 は IMS リソースをクリーンアップするための制御を取得していません。

APAR 処理の場合: 異常終了ダンプ

システムの処置: ABEND を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかを実行してください。

- 重複した IMSID を訂正してから、ジョブを再実行します。同じ IMSID を使用した、前の稼働での IMS SVC 終了が失敗した場合、オペレーティング・システムを再 IPL するか、または別の IMSID を指定して稼働させます。
- SDFSRESL が許可されるようにするか、または IMS SVC モジュールを含んでいる許可ライブラリーを指し示す DFSRESLB DD ステートメントを組み込みます。
- 領域サイズを大きくする。

追加情報については、メッセージ DFS686W を参照してください。

問題判別: 1、2、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00、DFSXBAT0

関連情報:

 DFS684I (メッセージおよびコード)

 DFS686W (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0688

説明: オペレーターがメッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力しました。

分析: これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。従属領域の異常終了の前に、メッセージ DFS688I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

DFSRRA00 は、従属領域のパラメーター分析の処理中に、制御領域がアクティブでないことを判別しています。次の 2 つのいずれかの条件の結果、この異常終了が発生します。

1. 従属領域の EXEC ステートメントで取り消しオプション (OPT=C) が指定された。
2. オペレーターがエラー・メッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力した。

オンライン制御プログラムが間もなくアクティブになることが予想される場合、オペレーターにはメッセージ DFS690A に対して WAIT を指定するオプションもあります。

キー	ラベル	説明
	RAENQ1	オペレーターがメッセージ DFS690A に対して「C」または「CANCEL」を入力しました。メッセージを発行して異常終了するために、ラベル RAENQ6 に分岐します。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS688I

 DFS690A

0689

説明: DBRC 領域または DL/I 従属アドレス・スペース領域は、初期設定時に制御領域がアクティブでないと、このコードで異常終了します。START DBRC PROC コマンドを発行している IMS の IMSID が、DBRC プロシージャ内の IMSID に対応していません。異常終了の前に、メッセージ DFS689I が発行されます。制御領域が異常終了の処理中であるか、制御領域が存在しない可能性があります。

分析: 0689 は、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域の異常終了の前に、メッセージ DFS689I が IMS マスター・コンソールに出されます。

DFSRRA00 は、DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域のパラメーター分析の処理中に、制御領域がアクティブでないことを判別しています。この状態は、次のいずれかの条件が原因です。

1. START コマンドを発行することにより、またはジョブにより、DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域が開始されたが、IMS 制御領域がアクティブでない。
2. DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域に対する START コマンドを発行した以降に、IMS 制御領域が異常終了した。
3. IMSID が IMS 以外の SSID に対して定義されている可能性があります。IMSID が、IMS 以外の SSID によって使用されるように定義されていないことを確認してください。

キー	ラベル	説明
	RAENQWT1	メッセージを発行して異常終了するために、ラベル RAMSGAB に分岐します。

システムの処置: 異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答: 制御領域ダンプを分析して異常終了の原因を判別し、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 DFS689I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 16 章 IMS 異常終了コード 0701 - 0750

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0701

説明: IMS が、無効なキュー制御ブロックまたは無効なキュー・エレメントを使用してエンキューしようとした。

分析: これは、DFSIIEN0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指します。異常終了 SVRB に保管されたレジスターが、エンキュー・ラベルを判別するのに役立つことがあります。

重要: IMS 定様式ダンプ診断域は、DFSIIEN0 の代わりに、異常終了したモジュールとして呼び出しモジュール ID を表示します。

DFSIIEN0 は、IMS キュー制御ブロック (QCB) 上のキュー・エレメント (QE) をエンキューします。このモジュールは、共通システム・キューのキュー・エレメントを処理します。入力レジスターは次のとおりです。レジスター 1=QCB、レジスター 2=QE 順方向ポインター (QE+4)、レジスター 12=基底レジスター、レジスター 14=呼び出しルーチンのリターン・アドレス。

キー	ラベル	説明
Reg2=QE アドレス + 4 QESQCB ビットがオン	SETQE01	このテストは、レジスター 2 で渡されたアドレスが QE であるかどうかを判別します。上位ビットがオンの場合、入力ブロックは QE ではありません。
Reg1=QCB アドレス QCBSQCB ビットがオフ	SETQE02	このテストは、レジスター 1 で渡されたアドレスが QCB であるかどうかを判別します。上位ビット (QCBSQCB) がオフの場合、入力ブロックは QCB ではありません。
Reg1=QCB アドレス Reg2=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス QCB LIFO ビット = ON (QUEUE LIFO) Reg6=ゼロ Reg10=正のアドレス	ENQLIFO	このルーチンは、QCB 上の QE LIFO をエンキューしようとしています。レジスター 6 に、使用する最初の QE のアドレスが入っている必要があります。
Reg1=QCB アドレス Reg2=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス Reg6=ゼロ Reg10=負のアドレス	ENQPRTY	QE のエンキューは指定された優先順位で実行する必要がありますが、デキュー・ポインター (レジスター 6、使用する最初の QE) がゼロです。

考えられる原因: 呼び出しモジュール (レジスター 14 で指し示される) が、レジスター 1 とレジスター 2 に無効なパラメーターを渡しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

0702 • 0704

モジュール: DFSIEN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0702

説明: IMS が、無効なキュー制御ブロックまたは無効なキュー・エレメントを使用してデキューしようとした。

分析: 0702 は、DFSIIDE0 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターは、異常終了が発生したときに現行であったレジスターです。レジスター 14 を使用して、DFSIIDE0 の呼び出し元を判別します。入り口のレジスター 1 は、キュー・エレメントの順方向チェーン・ポインター (QE + 4) またはキュー制御ブロック (QCB) のいずれかを指します。状況ビットは上位ビットであり、制御ブロックを QE (ビットがオフ) または QCB (ビットがオン) として識別します。

以下の原因での異常終了の結果、ラベル ABEND に条件付き分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス Reg4=0	DEQQE	レジスター 4 に、キュー・エレメントのバック・ポインターのアドレスが入っている必要があります。制御ブロックはポインターが存在することを示しているが、アドレスが見つからない場合、論理エラーが存在します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIDE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0704

説明: バッファーを取得するために、ICREATE 呼び出しが発行されました。しかし、すでに同じ名前でもバッファーが存在するため、バッファーを割り振ることができません。

分析: 異常終了 0704 の場合、ラベル ICSTART を検索します。複数の命令の後に ICDUBUF への分岐があり、ここで異常終了コードがレジスター 1 にロードされます。次に ABNDEXIT に分岐し、ここから異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了 コード	ICSTART	サブルーチン FINDZIB が、同じ名前を持つ既存の ZIB を検出しました。レジスター 2 に、ユーザーが作成しようとしているプールの 4 バイトの名前が入っています。レジスター 6 に、同じ名前を持つゾーン初期設定ブロック (ZIB) のアドレスが入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が 2 度目にプールを作成するために DFSISMN0 を呼び出しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0705

説明: バッファを解放するために IDESTROY 呼び出しが発行されたが、指定された名前のバッファを検出できません。

分析: 異常終了 0705 の場合、ラベル DFSIDEST を検索します。複数の命令の後に IDNOBUF への分岐が検出され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。次に ABNDEXIT に分岐し、ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	DFSIDEST	サブルーチン FINDZIB が、指定された名前を持つ ZIB を見つけることができませんでした。レジスター 2 に、ユーザーが戻そうとしているプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が、作成されていないプールを破棄するために DFSISMN0 を呼び出しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0707

説明: IMS が、存在しないプールからバッファを取得 (IGETBUF) しようとした。異常終了時のレジスター 2 に、誤ったプール名が入っています。

分析: 0707 異常終了の場合、ラベル IGSTART を検索します。いくつかの命令の後に IGNOPOOL への分岐があり、これがレジスター 1 に異常終了コードをロードします。次に ABNDEXIT に分岐し、ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	IGSTART	サブルーチン FINDPOOL が、指定されたプールを HASH テーブルで見つけるために、DFSSPOOL FIND 呼び出しを発行しました。DFSSPOOL 呼び出しからゼロ以外の戻りコードが戻されました。指定されたプールが見つかりませんでした。レジスター 2 に、ユーザーがバッファを取得しようとしたプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 作成されていないプールからバッファを取得するために DFSISMN0 を呼び出しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

0708 • 0709

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0708

説明: IMS が、存在しないプールに対してバッファを解放 (IFREEBUF) しようとした。異常終了時のレジスター 2 に、誤ったプール名が入っています。

分析: 異常終了 0708 の場合、ラベル DFSIFBUF を検索します。複数の命令を発行した後、ラベル IFNOPOOL に分岐します。IFNOPOOL は、レジスター 1 に異常終了コードをロードし、ABNDEXIT に分岐します。ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	DFSIFBUF	サブルーチン FINDPOOL が、指定されたプールを HASH テーブルで見つけるために、DFSSPOOL FIND 呼び出しを発行しました。DFSSPOOL 呼び出しからゼロ以外の戻りコードが戻されました。指定されたプールが見つかりませんでした。レジスター 2 に、ユーザーがバッファを解放しようとしたプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が、存在しないプールからバッファを解放するために DFSISMN0 を呼び出しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0709

説明: IMS が、ストレージ・プールからバッファ (IGETBUF) を取得しようとした。要求されたバッファの長さが、許可されている最大バッファ・サイズを超えていました。異常終了時の R2 に、プール名が入っています。R3 に要求されたサイズが入っています。

考えられる原因: このストレージ・プールは、要求を満たすほど大きくありません。

システムの処置: 関係するストレージ・プールによっては、ABENDU0709 は以下のいずれかの状況になる可能性があります。

- 従属領域は異常終了します。
- IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 次回の IMS 始動時にさらに大きいプール・サイズを指定します。

関係するプールが EPCB プールの場合、この異常終了は通常はメッセージ DFS0673E を伴います。詳しくは、マスター・コンソールからのエラー・メッセージを見つけてください。次回の IMS 始動時にさらに大きい EPCB プール・サイズを指定するか、または従属領域の EPCB サイズ要件を小さくします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBPV0、DFSISMN0

関連情報:

 DFS0673E (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0710

説明: 最初の保管域を見つけるために、レジスター 13 によって指し示される保管域チェーンがたどられました。しかし、この保管域には、保管域接頭部 (SAP) へのポインターが含まれていません。保管域チェーンが破壊されているか、または最初の保管域にある SAP ポインターがオーバーレイされているかのいずれかです。

分析: これは、DFSISMN0 内の 2 つの位置のいずれかから発行される標準異常終了です。DFSISMN0 は、メインルーチン内のラベル INOSAP で異常終了コードをレジスター 1 にロードし、ABNDEXIT に分岐して、そこで異常終了が発行されます。

DFSIZBR0 サブルーチン内で、異常終了 0710 がラベル GSAB710 から発行されます。異常終了時の R13 に、現行保管域のアドレスが入っているはずですが、このアドレスを使用して保管域全体をトレースバックして、上部保管域で保管セットまたは SAP アドレスのオーバーレイが発生したかどうかを判別します。これは、モジュール・フローを判別するために役立ち、保管セットをオーバーレイした呼び出し元を判別できる場合もあります。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。ESS TCB の下でこの異常終了が発生した場合、ESS TCB はメモリー・ダンプを伴って終了しますが、制御領域は稼働し続けることができます。

プログラマーの応答: この問題は、内部 IMS エラーです。

問題判別: 4、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0711

説明: z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) 環境または z/OS UNIX System Services (z/OS UNIX) 環境で処理中にシステム・エラーが検出されました。

DFS0613I メッセージを受け取ることがあります。これは、0711 が原因で異常終了 0113 が発生したことを示します。RRS が終了し、高速機能同期点処理中に IMS 従属領域が ABEND058 で終了した場合、この状態が生じることがあります。ABEND058 は、診断に使用できるように 0711 RC2D に変換されます。この状態を検査するには、以下のステップを実行します。

1. メッセージ DFS0613I にリストされている従属領域名を見つけます。
2. その従属領域についての ABEND058 を示す前のメッセージ DFS629I を探します。
3. 異常終了 0113 ダンプを使用して、その従属領域の DPST を見つけます。フラグ SAPX1AFP がオンになり、EPSTW1SY=1 です。
4. IMS スケジューラー・トレースの IRC START 項目に、その従属領域の異常終了 0058 完了コードが示されません。

0711 が RRS 環境で出された場合、IMS はログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0607' を書き込む可能性があります。ここで、X'06' は D0SUBTYP、X'07' は D0ERRCOD です。サブタイプ X'0607' は、IMS DFSRRSI SWITCH_CONTEXT サービスが失敗したことを意味します。RC= 値 (4 バイト・フィールド D06RC) には、失敗した RRS サービスの戻りコードが入ります。フィールド D0SUBTYP、D0ERRCOD、および D06RC は、DFS67D0 マッピング・マクロで定義されます。

0711

0711 が z/OS UNIX 環境で出された場合、IMS はログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0608' を書き込む可能性があります。ここで、X'06' は DOSUBTYP、X'08' は DOERRCOD です。サブタイプ X'0608'は、BPX1TLS (z/OS UNIX タスク・レベル・セキュリティー) などの z/OS UNIX サービスが失敗したことを意味します。RC= 値 (4 バイト・フィールド D06RC) には、失敗した z/OS UNIX サービスの戻りコードと理由コードが入ります。上位 2 バイトには z/OS UNIX 戻りコードが入り、下位 2 バイトには z/OS UNIX 理由コードが入ります。

分析: 異常終了 0711 診断では、RRS アドレス・スペース、そのデータ・スペース、IMS 制御領域、および MVS ロガー・アドレス・スペースに関する情報の収集が必要なことがあります。この情報は、以下の SLIP トラップを使用し取得できます。

```
SLIP SET,C=U0711,JOBLIST=(ctljname,rrsjname,IXGLOGR),
SDATA=(CSA,PSA,RGN,SQA,SUM,TRT,GRSQ,LPA,ALLNUC),
ID=nnnn,DSPNAME=('rrsjname'*),END
```

ただし、次のとおりです。

ctljname

制御領域ジョブ名

rrsjname

RRS ジョブ名

nnnn

オプションのトラップ ID

DFSASK00、DFSCPY00、DBFHGU10、DFSPCC20、DFSECP10、DFSDCPY0 の場合:

これらのモジュールのいずれかによって発行された場合、0711 は疑似異常終了です。IMS は、ログ・レコード X'67D0'、サブタイプ X'07' を書き込んで、レコードを書き込んだモジュール、失敗した RRS サービス、およびそのサービスからの戻りコードを示します。

症状ダンプが生成され、DFSPCC20 によって異常終了が発行されたことが示されると、DFSASK00 が異常終了 0711 をセットアップします。症状ダンプに DFSECP10 が異常終了を発行したことが示されていた場合、その異常終了は DFSCPY00 によってセットアップされたものです。

RRS 理由コード 0701 を受け取った場合、RRS が使用可能にはなったが、IMS がまだ RRS への登録を完了していなかったことが原因と考えられます。登録が完了すると異常終了 0711 は停止します (メッセージ DFS0653I で示されます)。

DFSDCPY0:

理由コード

説明

X'35'

領域間通信 (IRC) 要求を完了できませんでした。要求は ODBA 環境で行われましたが、リカバリー単位は RRS ローカル・トランザクションであるためです。

DFSRRRC10、DFSRRSB0、DFSRRSI0、DFSTMS00、DFSFAERG0 の場合:

これらのいずれかのモジュールによって発行された場合、0711 は標準異常終了です。RRS との保護会話または同期 APPC/OTMA 共用キュー・トランザクションのいずれかを処理するための準備中に、重大エラーが発生しました。レジスター 15 に理由コードが入っています。以下の理由コードはすべて IMS の異常終了になります。ただし、X'12'、X'13'、X'14'、X'15'、X'16'、X'1D'、X'1E'、X'1F'、X'20'、X'21'、X'26' (バッチのみが異常終了する)、X'32'、および X'33' を除きます。

DFSRRRC10:

理由コード

説明

X'2D'

従属領域は RRS の終了時に ATRCMIT または ATRBACK に対する呼び出しの処理中に従属領域は RRS が終了し、ABEND058 が発行されました。ABEND058 は 0711 RC2D に変換されます。レジスター 1 に、ABEND058 完了コードが示されています。

DFSRRSB0:

理由コード

説明

X'23'

IMS が、リソース・マネージャーとして RRS に登録できませんでした。レジスター 2 に、CRGGRM サービスからの戻りコードが入っています。

X'24'

IMS が、専用コンテキストが別のバッチ TCB への切り替えに失敗しました。レジスター 2 に、CTXSWCH サービスからの戻りコードが入っています。

X'26'

IMS が、専用コンテキストを作成できませんでした。レジスター 2 に、CTXBEGC サービスからの戻りコードが入っています。

X'2B'

IMS が、RRS 呼び出し可能スタブをすべてロードすることはできませんでした。

DFSRRSI0:

理由コード

説明

X'00'

呼び出し元が無効な DFSRRSI 機能を要求しました。

X'01'

IMS が、DFSRRSIB のためのストレージの取得に失敗しました。レジスター 2 に、IMODULE GETMAIN からの戻りコードが入っています。

X'03'

IMS および RRS ログ名の取得に失敗しました。レジスター 2 に、ATRIRLN サービスからの戻りコードが入っています。

X'04'

RRS から返された IMS ログ名の長さが無効です。レジスター 2 に、ログ名の長さが入っています。

X'05'

RRS から返された IMS ログ名が無効です。レジスター 2 に、ログ名のアドレスが入っています。

X'06'

IMS のコミットが完了する前に、RRS コミット出口に障害が起きました。UR が全機能のみの場合、この異常終了の前にメッセージ ATR306I およびメッセージ DFS0693I が出ています。オペレーターは、/CHANGE UOR COMMIT コマンドを実行して、メッセージ DFS0693I に指定されている URID をコミットする必要があります。UR が高速機能のみまたは混合モードの場合、この異常終了の前に、メッセージ・テキストに理由コード 0000 を含むメッセージ DFS0698W が出されています。また、それが異常終了 0113 の原因になっています。

X'07'

LXRES 呼び出しが、システム LX 値の取得に失敗しました。レジスター 2 に、LXRES サービスからの戻りコードが入っています。

X'08'

IMS は、IMS ログ名を RRS に設定できませんでした。レジスター 2 に、ATRISLN サービスからの戻りコードが入っています。

0711

X'09'

IMS が、RRS で再始動プロセスを開始できませんでした。レジスター 2 に、ATRIBRS サービスからの戻りコードが入っています。

X'0A'

IMS が、次の未完了インタレストを取得できませんでした。レジスター 2 に ATRIRNI サービスからの戻りコードが入っています。

X'0B'

IMS が、取得したインタレストに応答できませんでした。レジスター 2 に、ATRIRRI サービスからの戻りコードが入っています。レジスター 4 に IMS 応答コードが入っています。

X'0C'

ETCRE 呼び出しは、IMS リソース・マネージャー出口ルーチンのエントリー・テーブルの作成に失敗しました。レジスター 2 に、ETCRE サービスからの戻りコードが入っています。レジスター 3 にエントリー・テーブル定義のアドレスが入っています。

X'0D'

ETCON 呼び出しは、エントリー・テーブルを各アドレス・スペースのリンケージ・テーブルに接続できませんでした。レジスター 2 に ETCON サービスからの戻りコードが入っています。

X'0E'

IMS が、リソース・マネージャー出口ルーチンを RRS コンテキスト・サービスで確立できませんでした。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'0F'

IMS が、リソース・マネージャー出口ルーチンを RRS リソース・リカバリー・サービスで確立できませんでした。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'10'

IMS が、据え置きリカバリー単位を RRS に通知できませんでした。レジスター 2 に、ATRPDUE サービスからの戻りコードが入っています。

X'13'

IMS が ATRBACK 呼び出しを発行しましたが、呼び出しが失敗しました。関連のプログラムおよびトランザクションは停止状況にはなりません。レジスター 2 に、ATRBACK サービスからの戻りコードが入っています。

X'14'

IMS が ATRCMIT 呼び出しを発行しましたが、呼び出しが失敗しました。そのため、アプリケーションが異常終了し、バックアウト処理が強制実行されました。関連のプログラムおよびトランザクションは停止状況にはなりません。レジスター 2 に、ATRCMIT サービスからの戻りコードが入っています。

X'15'

LCURXITN に、無効な RRS UR 出口番号が含まれていました。レジスター 2 に、無効な出口番号が入っています。

X'16'

次の UR に入っていた保護インタレストの明示が失敗しました。レジスター 2 に ATRSROI サービスからの戻りコードが入っています。

X'17'

IMS が、SIDX への RRE のエンキューに失敗しました。レジスター 2 に DFSCBTS サービスからの戻りコードが入っています。

X'18'

IMS が、RRE ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'19'

IMS が、QSAV ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'1A'

IMS が、AWE ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'1B'

IMS 通知出口は、リソース・マネージャー出口ルーチンをどちらの RRS コンテキスト・サービスでも設定できませんでした。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'1C'

RRS が、インタレストの再始動明示のための COMMIT 出口または BACKOUT 出口を呼び出しませんでした。レジスター 2 に出口番号が入っています。

X'1F'

コンテキスト (CTXSWCH) を従属領域 TCB に切り替えようとしたのですが、既存のコンテキストは関連付けが解除されていました。この問題は、システム・エラーです。

X'22'

アクティブな保護会話タスクが入っている内部テーブルを使い果たしました。

X'27'

IMS が、リカバリー単位内の保護インタレストを RRS に明示できませんでした。レジスター 2 に、ATREINT サービスからの戻りコードが入っています。

注: APPC/OTMA SMQ Enablement がアクティブな状態で、IMS フロントエンド・システムが有効ではない場合、IMS バックエンド・システムでは、メッセージ・テキスト内に REASON=03A30027 を伴う DFS554A メッセージを受信する可能性があります。この状態は、共用キューの残りのトランザクションに対して発生します。この条件を判別するために、IMS フロントエンドおよび IMS ログ・レコードを確認する必要があります。

X'28'

IMS と RRS の間に回復単位の互換性がない状況が生じています。

X'29'

回復単位インタレスト・トークンはすでに無効です。IMS 処理の進行中に RRS が終了して再始動された可能性があります。レジスター 2 に、ATTRURD サービスからの戻りコードが入っています。

X'2C'

現行コンテキスト内でのインタレストの明示が失敗しました。レジスター 2 に、CTXEINT サービスからの戻りコードが入っています。

X'2D'

従属領域が ATRCMIT または ATRBACK に対する呼び出しを処理中に、RRS が終了しました。

X'31'

IMS は、XID が必要なときに XID を取得できませんでした。

DFSTMS00:

理由コード

説明

X'02'

バックエンド IMS システムでカスケード・トランザクションを処理中のアプリケーションが、APPC アウトバウンド保護会話を発行した後で、プログラム間通信を発行しました。フロントエンド IMS の UR をコミットする要求は失敗しました。

0711

X'11'

IMS が、RRS での再始動プロセスを終了できませんでした。レジスター 2 に、ATRIERS サービスからの戻りコードが入っています。

X'12'

IMS が、同期点コーディネーターを判別できませんでした。レジスター 2 に、ATRREIC サービスからの戻りコードが入っています。

X'1D'

アプリケーションは保護会話に関係していて、プログラム間通信を行おうとしましたが、これは無効です。

X'1E'

アプリケーションは、保護会話または同期 APPC/OTMA 共用キュー・トランザクションに関係しています。フェーズ 1 の同期点処理中に、IMS は、LU 6.2 デバイスまたはフロントエンド共用キュー IMS から、アプリケーションの同期点の終了通知を受け取ります。CM1 OTMA トランザクションの場合、クライアントは、トランザクション応答の受け取り時に (PREPARE の代わりに) ROLLBACK で応答することによって、アプリケーションのコミット時に終了します。コミット・フェーズ 1 は開始されません。

IMS Connect は、その ROLLBACK 要求を取得し、AWE_FUNC = AWERBAUR (ロールバック要求) を指定した AWE を RRS に送信します。RRS は、リソース・コーディネーターとして、同期点処理を進めないように IMS に通知し、IMS が 0711 RC1E 異常終了を発行して ROLLBACK を正常に実行できるようにします。

バックエンド IMS で処理される同期 APPC/OTMA トランザクションを実行するためにフロントエンド RRS が取り消されて再始動された場合も、この戻りコードが返されることがあります。

X'21'

現行 TCB からの専用コンテキストの関連付け解除が失敗しました。レジスター 2 に、CTXSWCH サービスからの戻りコードが入っています。

X'2A'

作業単位についての非同期終了呼び出しを受信したために、IMS 従属領域が疑似異常終了しました。/STOP REGION xx ABDUMP コマンドが WAIT-RRS/OTMA PC 状況の領域に対して発行された場合、または同期 APPC/OTMA トランザクションのためにバックエンド IMS で RRS が再始動された場合にも、この問題のエラーが発生することがあります。

X'32'

同期点処理中に DFSRRSI FUNC=SET_SIDE_INFORMATION 呼び出しが失敗したために、IMS 従属領域が疑似異常終了しました。この問題は IMS 内部エラーおよび RRS エラーです。疑似ダンプ (67FF ログ・レコード) を分析してください。

X'34'

バックエンド IMS システムでカスケード・トランザクションを処理中のアプリケーションが、APPC アウトバウンド保護会話を発行した後で ROLB 呼び出しを発行しました。このアプリケーションは、データ保全性エラーを回避するために異常終了し、オリジナル・トランザクションのスケジュールが変更されます。

X'35'

バックエンド IMS システムでカスケード・トランザクションを処理中のアプリケーションが、APPC アウトバウンド保護会話を発行した後で、デッドロックが発生したためにロールバック (ROLB) されました。デッドロック状態により、アプリケーションの U0777 異常終了が発行されるか、アプリケーションに FD または BC の状況コードが返されます。このアプリケーションは、データ保全性エラーを回避するために異常終了し、オリジナル・トランザクションのスケジュールが変更されます。

DFSAERG0:

理由コード

説明

X'33'

ODBA は、アプリケーションを呼び出しの検証を正常に実行できませんでした。レジスター 5 に、CTXRDTA サービスからの戻りコードまたはその他の診断情報が入っています。レジスター 14 には、エラーが検出された位置のアドレスが入っています。

DFSPCJM0、DFSPCJB0、DFSPCC20、DFSECP10、または DFSECP20 の場合:

これらのいずれかのモジュールによって発行された場合、0711 は標準異常終了です。従属領域のスケジューリングからの z/OS UNIX 呼び出し (BPX1TLS など) の処理中に重大エラーが発生しました。

IMS は、ログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0608' を書き込みます。ここで、X'06' は D0SUBTYP、X'08' は D0ERRCOD です。サブタイプ X'0608' は、z/OS UNIX 呼び出しが失敗したことを意味します。このエラーを報告するために、メッセージ DFS554A が発行され、REASON= メッセージ・テキストに z/OS UNIX 戻りコードと理由コードが示されます。

DFSTMAS0 の場合:

モジュール DFSTMAS0 によって発行された場合、0711 は疑似異常終了です。従属領域のスケジューリングからの z/OS UNIX 呼び出し (BPX1TLS など) の処理中に重大エラーが発生しました。

IMS は、ログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0608' を書き込みます。ここで、X'06' は D0SUBTYP、X'08' は D0ERRCOD です。サブタイプ X'0608' は、z/OS UNIX 呼び出しが失敗したことを意味します。このエラーを報告するために、メッセージ DFS554A が発行され、REASON= メッセージ・テキストに z/OS UNIX 戻りコードと理由コードが示されます。

システムの処置: この異常終了が再始動処理中に発生した場合、IMS は異常終了します。従属領域の処理中に発生した場合、その従属領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この問題が RRS/MVS サービス障害などの内部エラーの場合、まず、システム内で RRS/MVS がアクティブであったかを確認します。その後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSCPY00、DBFHGU10、DFSPCC20、DFSECP10、DFSRRRC10、DFSRRSI0、DFSTMS00、DFSRRSB0、DFSFAERG0、DFSDCPY0、DFSPCJM0、DFSPCJB0、DFSECP20、DFSTMAS0

関連資料:

 z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

関連情報:

 DFS0613I (メッセージおよびコード)

 DFS629I (メッセージおよびコード)

 IMS 異常終了 0113

0712

説明: IMS トランザクションのエンキュー・サービスまたはデキュー・サービスでシステム・エラーが発生しました。レジスター 15 の理由コードにこのエラーが示されています。

分析: **DFSIMBE0** の場合:

これは、モジュール DFSIMBE0 によって発行される標準異常終了です。

0713

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'、Reg14=BAL、 Reg2= ラッチ・マネージャーの 戻りコード、Reg3=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'08'、Reg14=BAL、 Reg2=ラッチ・マネージャー戻 りコード、Reg3=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'0C'、Reg14=BAL Reg3=A(TCT)		クラス内部の最高優先順位トランザクションへのポインター (TCTPRIOR) が無効でした。
Reg15=X'10'、Reg14=BAL、 Reg3=A(TCT)		新規トランザクションをエンキューするためにその上位の優先順位 のトランザクションを見つけようとしたが、クラス内の最高優 先順位を超えていました。
Reg15=X'14'、Reg14=BAL、 Reg3=A(TCT)		クラス内の最高優先順位トランザクションへのポインター (TCTPRIOR) がゼロでした。

DFSIMBD0 の場合:

これは、モジュール DFSIMBD0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'、Reg14=BAL		呼び出し元から無効な機能コードが提供されました。
Reg15=X'08'、Reg14=BAL、 Reg10= ラッチ・マネージャ ー戻りコード、Reg9=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'0C'、Reg14=BAL、 Reg9=A(TCT)		トランザクション・クラス・テーブル (TCT) に最後にエンキューさ れたトランザクションのアドレスがゼロでした。
Reg15=X'10'、Reg14=BAL、 Reg10= ラッチ・マネージャ ー戻りコード、Reg9=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを解放する要求が失敗しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

システム・プログラマーの応答: レジスター 15 の戻りコードが、このエラーの原因を示しています。

問題判別: 1、4、5、6、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIMBE0、DFSIMBD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0713

説明: IMS MPP スケジューラーまたは IMS トランザクション・エンキュー・サービスでシステム・エラーが発生しました。レジスター 15 の理由コードにこのエラーが示されています。

分析: **DFSSMSC0** の場合:

これは、モジュール DFSSMSC0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg14=BAL		呼び出し元から無効な機能コードが提供されました。
Reg15=X'08' Reg14=BAL Reg7=A(TCT) Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		排他モードで TCTB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'0C' Reg14=BAL Reg5=A(PDIR) Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'10' Reg14=BAL Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		共用モードで APSB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'14' Reg14=BAL Reg7=A(TCT) Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'18' Reg14=BAL Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		共用モードで SCHD ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'1C' Reg14=BAL Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		不特定モードで SCHD ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'20' Reg14=BAL Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		共用モードで APSB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'24' Reg14=BAL Reg5=A(PDIR) Reg2= ラッチ・マネージャーの戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'28' Reg14=BAL Reg9=A(PST) Reg8=SUBQ 番号 Reg7= スケジューラー・サブキュー・エンキュー・サービスからの戻りコード		スケジューラー・サブキューの 1 つで、領域 (PST) をエンキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'2C' Reg14=BAL Reg9=A(PST) Reg8=SUBQ 番号 Reg7= スケジューラー・サブキュー・デキュー・サービスからの戻りコード		スケジューラー・サブキューの 1 つで、領域 (PST) をデキューする要求が失敗しました。

DFSIMBE0 の場合:

これは、モジュール DFSIMBE0 によって発行される標準異常終了です。

0714

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg14=BAL Reg10=A(現行 ITASK) Reg6=A(PST) Reg5=A(SQE) Reg4=A(SMB) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=A(SUBQ)		新規にエンキューされたトランザクション (SMB) を処理する領域 (PST) を検出した後で、その領域のスケジューラー・サブキュー・エレメント (SQE) が、その領域が誤ったスケジューラー・サブキュー (つまり SQPSTSQNReg3) に入っていることを示しています。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。これでこの状態が訂正されるはずですが。

システム・プログラマーの応答: レジスター 15 の戻りコードが、このエラーの原因を示しています。

問題判別: 1、4、6、11、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSMSC0、DFSIMBE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0714

説明: IMS BMP 領域スケジューラーまたは IMS APSB/DPSB 呼び出しプロセッサが、スケジューラー・サブキューで領域をエンキューまたはデキューしようとしたときに、システム・エラーが発生しました。レジスター 15 の理由コードにこのエラーが示されています。

分析: DFSSBMP0 の場合:

これは、モジュール DFSSBMP0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg9=A(PST) Reg2=IMS 宛先 検索サービス 戻りコード		IN= パラメーターで指定されたトランザクションを検索する要求を処理しているときに、IMS 宛先検索サービスが失敗しました。
Reg15=X'08' Reg9=A(PST) Reg2=IMS 宛先 検索サービス 戻りコード		OUT= パラメーターで指定されたトランザクションまたは LTERM を検索する要求を処理しているときに、IMS 宛先検索サービスが失敗しました。
Reg15=X'0C' Reg10=A(SAP) Reg9=A(PST) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=IMS スケジューラー・ サブキュー・エンキュー・サービス 戻りコード		スケジューラー・サブキューの 1 つで、BMP 領域をエンキューする要求が失敗しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10' Reg10=A(SAP) Reg9=A(PST) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=IMS スケジューラー・サブキュー・デキュー・サービス戻りコード		スケジューラー・サブキューの 1 つで、BMP 領域をデキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'14' Reg14= サブルーチンの呼び出し元の リターン・アドレス RELTPDRBL Reg9=A(PST) Reg7=A(PDIR) Reg2= ラッチ・マネージャー 戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'18' Reg14= サブルーチンの呼び出し元の リターン・アドレス RELTPDRBL Reg9=A(PST) Reg7=A(PDIR) Reg2= ラッチ・マネージャー 戻りコード		共用モードで APSB ラッチを解放する要求が失敗しました。

DFSTMAD0 の場合:

これは、モジュール DFSTMAD0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg9=A(PST) Reg3=IMS スケジューラー・サブキュー・エンキュー・サービス 戻りコード Reg2=A(SAP)		スケジューラー・サブキュー 4 で、CPI-C アプリケーション領域をエンキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'08' Reg9=A(PST) Reg3=IMS スケジューラー・サブキュー・デキュー・サービス 戻りコード Reg2=A(SAP)		スケジューラー・サブキュー 4 で、CPI-C アプリケーション領域をデキューする要求が失敗しました。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。これでこの状態が訂正されるはずですが。

システム・プログラマーの応答: レジスター 15 に、エラーの原因を示す理由コードが入っています。

問題判別: 1、4、6、11、15、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0、DFSTMAD0

0716

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0716

説明: IMS 制御領域の初期設定中に、NO BUFFERS 条件が検出されました。

分析: 0716 は、DFSIIINS0 からの BAL を使用してキュー管理バッファ・プールを初期設定するために呼び出された DFSIIINQ0 の処理中にエラーが検出された場合に、メッセージ・キュー・バッファ初期設定モジュール DFSIIINQ0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了が発行されるのは、QPOOL のサイズが 1 つのメッセージ・バッファのサイズより小さいためです。QPOOL サイズは、SCD のラベル SCDQPOOS に入っています。バッファ・サイズは、長 MSG キュー・データ・セットの DCB ブロック長 (DCBBUFL) に等しい長さです。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル NOBUFFS を持つルーチン内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 が SCD を指しています。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 7 に長 MSG キュー・データ・セットの DCB ブロック・サイズが入っています。レジスター 8 に、以下の異常終了サブコードが入っています。

サブコード (16 進数)

説明

X'04'

キュー・バッファ・アドレス・リスト DFSPQBFA 用の専用ストレージを割り振り中に、IMODULE GETMAIN が失敗しました。

- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

IMODULE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。ストレージ割り振りが原因で IMODULE 障害が発生した場合は、JCL の領域サイズ・パラメーターを大きくしてから、ジョブを再実行します。

X'08'

QBUF プールに必要なバッファの数は、EXEC パラメーター上で、またはシステム定義時に指定できます。指定された数が 3 より大きい場合、QBUF プールのサイズは、必要なバッファの数にバッファ・サイズを乗じた結果を使用して計算されます。指定されたバッファの数が 3 以下の場合、QBUF プールは内部のデフォルト・サイズを使用して割り振られます。デフォルトのサイズが、少なくとも 1 つのキュー・マネージャー・バッファを保持するには不十分な大きさの場合に、この異常終了が発行されます。レジスター 5 に、計算されたキュー・マネージャー・バッファの長さが入っています。この問題は、内部論理エラーです。

X'10'

ユーザー指定の DD ステートメントの処理中に、DCB DDNAME の内容がすべてブランクであることが判明しました。レジスター 3 に、処理中の DCB のアドレスが入っています。

X'14'

ユーザー指定の DD ステートメントの処理中に、1 次 DCB DDNAME に 8 文字が含まれていることが判明しました。1 次 DD 名は 8 文字未満でなければなりません。レジスター 3 に、処理中の DCB のアドレスが入っています。

X'18'

オプションの DCB DD カード用の専用ストレージを割り振り中に、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。ストレージ割り振り失敗によって IMODULE 障害が発生した場合、JCL の領域サイズ・パラメーターを増やしてから、ジョブを再実行します。

X'0C'

QBUF プールが割り振られた後、プールが少なくとも 1 つのキュー・マネージャー・バッファを保持するのに

十分な大きさかどうかを確認するためにテストが行われました。この妥当性検査中に、QBUF プール・サイズが不十分であることが判明しました。レジスター 5 に、計算されたキュー・マネージャー・バッファの長さが入っています。

X'1C'

QMBA ブロックのブロック・サイズおよび数を設定中に、DFSCBTS FUNC=ALTER が失敗しました。レジスター 15 に DFSCBTS 戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800002CC' Reg6= 負の値	(以下の直前) LOOP	QPOOL のサイズ (レジスター 1) は、長メッセージ・データ・セット DCB (DCBBUFL (レジスター 5)) のバッファ長で除算されます。この結果が正の値 (レジスター 6) でなければなりません。そうでない場合は異常終了します。

考えられる原因: MSGQUEUE バッファ・オペランド (サイズ 3) のシステム定義指定が正しくありません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 以下の処置を行ってください。

サブコード (16 進数)

処置

X'04'

ストレージ割り振り失敗によって IMODULE 障害が発生した場合、JCL の領域サイズ・パラメータを増やしてから、ジョブを再実行します。

X'08'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'10'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'14'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'18'

ストレージ割り振り失敗のために IMODULE 障害が発生した場合、JCL の領域サイズ・パラメータを増やしてから、ジョブを再実行します。

X'0C'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'1C'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

問題判別: 1、4、11、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINQ0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0717

説明: 初期設定中に、プールの初期設定を実行するために DFSIINS0 が呼び出されました。IMS 制御領域の EXEC ステートメントのパラメーター・フィールドの指定 (または暗黙の指定) に従ってプール・サイズを設定しようとしたときに、エラーが発生しました。DFSDOBIO 内のバッファーク・プールを取得するための IMODULE GETMAIN の実行中に、使用可能な CSA または専用ストレージが不十分であった場合も、このエラーが起こることがあります。

OSAM を使用しているバッチ環境では、該当のバッファーク・プールは専用ストレージ内にあります。この領域は、要求されたバッファークを十分収容できるサイズにしておく必要があります。

分析:

異常終了 0717 は、モジュール DFSIINS0 および DFSDOBIO によって発行される標準異常終了です。

OSAM バッファーク・プール初期設定モジュール DFSDOBIO は、バッファーク・プール用のストレージを獲得するために IMODULE GETMAIN 呼び出しを発行します。DFSMODU0 からの戻りコードがゼロ以外の場合、異常終了 0717 が発行されます。異常終了時に、レジスター 10 には SCD アドレスが入り、レジスター 2 にはバッファーク・プールの合計サイズが入っています。IMODULE GETMAIN 要求からの戻りコードは、レジスター 15 に入ります。

この異常終了がモジュール DFSIINS0 によって発行される場合は、処理中にエラーが検出されたことを示す一般的な異常終了です。IMS 初期設定中に、ストレージ・プールの初期設定を実行するために DFSIINS0 が呼び出されました。レジスター 11 には SCD アドレスが入り、レジスター 8 には以下のいずれかの異常終了サブコードが入っています。

サブコード (16 進数)

説明

X'04'

DFSIINS0 によって呼び出されるモジュールに十分な保管域を確保する目的で、QSAV ストレージを取得するための DFSBCB GET 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが DFSBCB から戻されました。レジスター 15 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

ZIB および FAQE ブロックの 1 次割り振りである DFSZIB00 用のストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'0C'

ストレージ・プール・ヘッダー・ブロック PHDRxxxx (xxxx はストレージ・プール名) 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 4 に、ストレージ・プール・ヘッダーの CDE 名のアドレスが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'10'

ストレージ・プール DFSPxxxx (xxxx はストレージ・プール名) 用のストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 4 に、ストレージ・プールの CDE 名のアドレスが入っています。

- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。
レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'14'

IGETBUF/IFREEBUF または DFSPPOOL マクロを使用してストレージ・プール・マネージャーによって取り扱われるすべてのストレージ・プールには、固有の 4 文字のストレージ・プール名がなければなりません。プール名は、ストレージ・マネージャーのハッシュ・テーブル内で、ストレージ・プール・ヘッダーを探すのに使用されます。DFSIIINS0 が、ハッシュ・テーブルに新規のストレージ・プール・ヘッダー・アドレスを追加しようとしたが、プール名が重複していました。

- レジスター 4 に、ストレージ・プール名が入っています。
- レジスター 9 に、ストレージ・プール・ヘッダーのアドレスが入っています。

| X'18'

| DFS1MP00 に対する IMODULE LOAD 要求が行われました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

| X'1C'

| ラージ (1 MB) ページによってバックアップされた 31 ビット・ストレージを取得するために、STORAGE
| OBTAIN 要求が行われました。ストレージ・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター
| 15 に戻りコードが入っています。

| X'20'

| 1 MB ページング可能ページによってバックアップされたプール内のストレージの合計量が、2 GB の 31 ビッ
| ト・アドレス・スペース (X'7FFFFFFF') に収まる量を超えています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DFS モジュールでの障害からリカバリーするには、次の処置を取ります。

DFSIIINS0

IMODULE および DFSBCB 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

DFSMODU0

より大きな CSA またはより大きな領域サイズのいずれか、あるいはその両方を指定して、ジョブを再実行します。

DFSISMN0

JCL EXEC ステートメントの PARM フィールドのプール・サイズ指定にエラーがあれば、それを訂正してから、ジョブを再実行します。

DFSDOBIO

次のいずれかを行います。

- より大きな CSA サイズまたはより大きな領域サイズのいずれか、あるいはその両方を指定します。
- 定義されたサブプールの数またはバッファー・プールのサイズのいずれか、あるいはその両方を減らします。その後でジョブを再実行します。

問題判別: 1、4、11、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIINS0、DFSDOBIO

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0718

説明: IMS 初期設定中にエラーが発生しました。必要なモジュールが見つからないか、または、PDS ディレクトリーの検索中に永続入出力エラーが検出されました。

分析: これは、モジュール DFSAINB0、DFSPLDR0、DFSPCC30、DFSPLPP0、DFSXBAT0、DFSXCTL0、DFSDINB0、DFSXLCI0、DFSXSL10、DFSXSTM0、および DFSXTRA0 のいずれかによって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害が発生したモジュールを判別してください。

DFSRRRA00 からの BAL を使用して DFSPLDR0 が開始され、その結果、DFSPLDT0 および BAL が DFSPLPP0 (モジュール・プリロード・プロセッサ) にロードされます。DFSPLPP0 は、PROCLIB のメンバー DFSIIN10 と DFSIIN20 で指定されたモジュール、およびユーザーがメンバー DFSMPLxx に指定したモジュールの BLDL 処理を実行します。BLDL 処理が完了すると、DFSPLPP0 がリストを DFSPLDR0 に渡し、DFSPLDR0 が IMODULE LOAD 機能を実行します。

レジスター 11 を使用してアドレス指定された作業域 DSECT (DFSPLDT0 の) は、DFSPLPP0 および DFSPLDR0 の共通域として使用されます。

DFSXLIC0 は、共通サービス ITASK の管理下で最初に制御を取得するモジュールです。共通サービス ITASK は、DFSXSTM0 によって作成されます。

DFSPCC30 は、バッチ・システム用のアプリケーション・プログラム・コントローラーです。ロード中にバッチ・プログラム要求処理プログラム・モジュールに障害が発生したとき、DFSPCC30 が異常終了 0718 を発行しました。

DFSAINB0 の場合:

RACF (または同等の機能) またはコマンド許可出口ルーチン (あるいはその両方) を使用して ICMD セキュリティーが実装されている場合に、DFSCCMD0 をロードしようとする試みが失敗すると、異常終了 0718 が DFSAINB0 CSECT LOADXITS によって発行されます。この異常終了コードの発行前に、エラー・メッセージは発行されません。

キー	ラベル	説明
Reg15= 戻りコード	LOADXITS	DFSCCMD0 の IMODULE LOAD に関する SVC が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。ロードは失敗しました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 必要なモジュールが PDS がない。
- DBC、DCC、または IMS プロシージャの AOIS パラメーターが、このインストール環境では正しくない。

DFSPLDR0 の場合:

これは、必要なモジュールをロードしようとする試みが以下のいずれかの理由で失敗した場合に、DFSPLDR0 によって発行されます。

1. z/OS が失敗した。
2. IMS モジュール・マネージャー DFSMODU0 がロード要求をリジェクトした。

異常終了の前に、メッセージ DFS677I または DFS678I が、メッセージ DFS679I と共にシステム・コンソールに発行されています。DFS677I は入出力エラーを示し、DFS678I はモジュールが見つからなかったことを示しています。メッセージ DFS679I には、モジュール名が関連の IMODULE LOAD 戻りコードと共に示されています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABNDBADL 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800002CE'	LLPCHECK	必要な IMS モジュールのロードに失敗しました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

1. ハードウェア障害
2. PDS ディレクトリーの損傷
3. 必要なモジュールが PDS がない

DFSPLPP0 の場合:

この異常終了は、PDS ディレクトリーのスキャン中に BLDL 処理で永続入出力エラー状態が検出されたために、DFSPLPP0 によって発行されたものです。メッセージ DFS677I に、入出力エラーを検出したモジュールがリストされています。このメッセージは、異常終了の前に IMS マスター・コンソールに送信されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル BLAR 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 15 には、BLDL マクロ命令からのエラー戻りコードが入っています。レジスター 12 は基底レジスターです。返される可能性のある BLDL 戻りコードは、次のとおりです。

コード 意味

X'04' リスト内の 1 つ以上の項目に入力を提供できませんでした。提供されたリストは無効である可能性があります。

X'08' 永続入出力エラーが検出されました。

レジスター 15 を使用して、以下の表に示す特定のラベルを分離する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg15>X'08'	BLDLOOP	BLDL マクロ命令から返された値が指定の範囲外にあります。
Reg15=X'08'	BLDLNXT	永続入出力エラー状態が検出されました。

考えられる原因: ハードウェア障害または PDS ディレクトリーの損傷。

DFSXBAT0 の場合:

これは、モジュール DFSBSCD、DFSPCCC0、DFSRDSH0、DFSBNUC0、DFSKBDP0、DFSCST00、DFSCSS00、DFSCNS00、DFSPCC30、DFSBACM0、DFSFXC10、DFSRDBC0、DFSSDL90、DFS3DF10 のいずれかに対する IMODULE LOAD が失敗したときに、DFSXBAT0 によって発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800002CE'	ABEND4	必要な IMS モジュールに対する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg14=BAL レジスター		レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXBAT0 内の位置を指しています。
Reg15=戻りコード		レジスター 15 に、IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。

DFSXCTL0 の場合: これは、DFSXCTL0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード	ABEND3	DFSXCIC0 または DFSKDP10 の IMODULE LOAD が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。ロードは失敗しました。レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXCTL0 内の位置を指しています。

DFSXLIC0 の場合: これは、DFSXLIC0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード	CALLXRIC	DFSPCCC0 の IMODULE LOAD に関する SVC が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。ロードは失敗しました。

DFSDINB0 の場合: DB 制御 (DBCTL) 初期設定中に IMODULE LOAD が失敗しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS697I が出力されます。このメッセージには、IMODULE がロードできなかったモジュールの名前、および IMODULE からの戻りコードが入っています。

DFSXSL10 の場合: IMS の初期設定中に、DFSXSL10 の IMODULE LOAD または IMODULE GETMAIN が失敗しました。

これは、モジュール DFSSINP0、DFSOCM10、または IMODULE GETMAIN のいずれかに対する IMODULE LOAD が失敗したときに、DFSXSL10 によって発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	説明
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE LOAD DFSOCM10 Reg15=1	DFSOCM10 に対する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE GETMAIN Reg15=2	IMODULE GETMAIN が失敗しました。
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE LOAD DFSSINP0 Reg15=3	DFSSINP0 に対する IMODULE LOAD が失敗しました。

DFSXSTM0 の場合:

これは、モジュール DFSFSTM0、DFSXRPS0、DFSHINT0、DFSFDOT0、DFSXLIC0、DFSCNS00 のいずれかに対する IMODULE LOAD が失敗したときに、DFSXSTM0 によって発行されます。Reg14 は、ロードに失敗したルーチンからの戻りレジスターであり、Reg15 には IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL レジスター		レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXSTM0 内の位置を指しています。
Reg15=戻りコード		レジスター 15 に、IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。

DFSXTRAO の場合: システムは、必要な外部トレース・モジュールまたは制御ブロックをロードできませんでした。外部トレース TCB は異常終了し、OLDS 外部トレースのみが許可されました。レジスター 14 に、エラーがあったルーチンを指す BAL REG が入っています。レジスター 15 には、IMODULE からの戻りコードが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了が DFSPLPP0 または DFSPLDR0 のいずれかによって発行された場合、入出力エラーが発生したモジュールが、メッセージ DFS677I、DFS678I、または DFS679I にリストされます。問題を訂正する

のに必要な情報については、該当するメッセージを参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAINB0、DFSPLDR0、DFSPCC30、DFSPLPP0、DFSXBAT0、DFSXCTL0、DFSDINB0、DFSXLCI0、DFSXSL10、DFSXSTM0、DFSXTRA0

関連情報:

 DFS677I (メッセージおよびコード)

 DFS678I (メッセージおよびコード)

 DFS679I (メッセージおよびコード)

0719

説明: 制御領域の初期設定で、どの回線グループも正常なオープンができませんでした。DFSIIINB0 が、IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。

交換回線装置の場合、端末タイプ識別番号が有効な範囲を超えています。

分析: これは、モジュール DFSIIINB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのレジスターに、以下の情報が入っています。

レジスター 8

無効な装置タイプが入っている CTT

レジスター 15

無効な装置タイプ

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 正しい制御ブロックが IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、6、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIINB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0720

説明: IMS 初期設定でストレージをページ固定することができませんでした。レジスター 14 に、異常終了を発行した位置が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH SVC PGFIX 機能からの戻りコードが入っています。IMSAUTH PGFIX 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

IMS は、他の理由によってもこの異常終了を発行します。

分析: 異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了を発行したモジュールがどれかを判別することができます。異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。システムに書き込まれた制御ブロックのダンプが必要です。

この異常終了は、ページ固定エラー以外の理由でモジュール DFSMINI0 から発行されます。診断の助けとなる情報については、DFSMINI0 の個別の説明を参照してください。

どちらかのモジュールで、IMS SVC IMSAUTH が直前に発行されました。IMS SVC (DFSV4200) が、レジスター 15 にエラー・コードを返しました。

DFSMINI0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	INREP01	ディスパッチャー・モジュール (DFSREPO0 または DFSDSPX0) をロードできませんでした。
Reg15=X'02'	INIDSP0	ディスパッチャー・モジュール DFSIDSP0 をロードできませんでした。
Reg15=X'03' Reg14=BAL		IMODULE GETMAIN が、ストレージの取得に失敗しました。
Reg15=X'04'		「許可索引の予約」が失敗しました。
Reg15=X'05'		「許可索引の設定」が失敗しました。
Reg15=X'06'		「リンクージ・テーブル索引の予約」が失敗しました。
Reg15=X'07'		「エントリー・テーブルの作成」が失敗しました。
Reg15=X'08'		エントリー・テーブル接続要求が失敗しました。
Reg15=X'09'		DFSCPY00 をロードできません。
Reg15=X'0A'		PC ルーター・ルーチン DFSPCR00 をロードできません。

これらすべてのサブコードの場合、レジスター 10 には、エラーを検出したサービスからの戻りコードが入っています。レジスター 14 には、エラーが検出された DFSMINIO 内のアドレスが入っています。

DFSXI0B0 の場合:

IMS は、OSAM 入出力プールの初期設定中に、OSAM 入出力モジュール (DFS AOS70) のページ固定ができませんでした。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題診断に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル RETURN5 内の命令を指します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード、Reg14= RET1A のテーブルからのオフセッ ト、Reg15= IMSAUTH ページ固定呼 び出しからの戻りコード	RETURN5	OSAM 入出力モジュールをページ固定しようとしたが、IMSAUTH からゼロ以外の戻りコードが返されました。

考えられる原因: 使用されたパラメーター・リストまたはモジュール・アドレスが、正しくありませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、6、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSMINIO、DFSXI0B0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0721

説明: 存在しないバッファ・アドレスを解放するために、IFREEBUF 呼び出しが発行されました。

分析: 異常終了 0721 の場合は、ラベル IFSCAN を見つけてください。それからいくつか後の命令に、命令 BZ IFNOBUF があります。IFNOBUF は、異常終了コードをレジスター 1 に設定し、異常終了が発行される ABNDEXIT に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード Reg2= プール名 Reg3=A(解放するバッファ) Reg6= プール・ヘッダー Reg6 + X'2C'= 先頭の FAQE	IFSCAN	問題のプールに対する FAQE チェーンのスキャンで、レジスター 3 に一致するバッファ・アドレスを見つけることができませんでした。キューをスキャンして、そのキューが正しいかどうか確認してください。

考えられる原因: バッファを解放するために DFSISMN0 が呼び出されましたが、該当のバッファがプール内にはありません。プログラムは、2 回目のバッファ解放を試行している可能性があります。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0722

説明: DFSISMN0 によって待機された ECB への不適切な通知が検出されました。

分析: 0722 は、DFSISMN0 内の 2 つの位置のいずれかから発行される標準異常終了です。

メインルーチン内の WAIT30 の後に、命令 BNE BADPOST があります。BADPOST は、エラー・コードをレジスター 1 に設定し、ABNDEXIT に分岐し、そこで異常終了が発行されます。

DFSIZBR0 サブルーチン内の GSTGABND の後に、命令 BAL R14, GSAB722 があります。GSAB722 は、0722 異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード、 Reg15= 予期される通知コード	WAIT30	WAIT により待機中の ECB が、ストレージ管理以外のルーチンによって通知されました。レジスター 9 に ECB アドレスが入っています。
Reg1= 異常終了コード、 Reg15= 予期される通知コード		ISERWAIT により待機中の ECB が、ストレージ管理以外のルーチンによって通知されました。レジスター 9 に ECB アドレスが入っています。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0723

説明: OSAM 初期設定中に、IMS がサブシステム制御テーブル (SSCT) を見つけることができませんでした。

分析: 異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用してください。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル RETURN6 の命令を指しています。この異常終了は、入出力プールの初期設定処理中にエラーが検出された場合の一般的な異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード、Reg14= RET1A のテーブルからのオフセット、Reg15= 左半分に機能コード、Reg15= 右半分に戻りコード	RETURN6	入出力プールの初期設定中に無効な条件が発生しました。レジスター 15 に、記述コードが入っています。
Reg15=0001 0004	RETURN6	OSAM 入出力プールが DW 境界に割り振られていません。
Reg15=0002 00xx	RETURN6	OSAM 入出力モジュールの戻りコードが見つかりません。xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0003 0004	RETURN6	見つかった入出力モジュールは検証チェックで不合格でした。
Reg15=0004 00xx	RETURN6	IMODULE GETMAIN が、ページ固定リストまたは作業域に関して失敗しました。戻りコード xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0006 00xx	RETURN6	OSAM 入出力プールの割り振りが失敗しました。戻りコード xx は DFSSTM00 によって設定されます。
Reg15=0007 00xx	RETURN6	IMODULE DELETE が作業域に関して失敗しました。戻りコード xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0008 0004	RETURN6	CCW の変換中に、LRA によってゼロ以外の条件コードが設定されました。
Reg15=0009 0004	RETURN6	無効なプール・タイプがフォーマット設定のために OSAM に渡されました。

考えられる原因: この異常終了の原因として考えられるのは以下の 2 つです。

1. リソース・クリーンアップ・モジュール (DFSMRCL0) が正しくインストールされていない。
2. 誤ったレベルの DFSMRCL0 が使用されている。複数レベルの IMS を同一のオペレーティング・システムで実行している場合は、最高位の DFSMRCL0 を使用してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: リソース・クリーンアップ・モジュール (DFSMRCL0) が、「IMS V13 インストール」で説明されているとおりに正しくインストールされているかどうかを確認します。同じオペレーティング・システム上で複数のレベルの IMS を稼働させている場合、DFSMRCL0 が、稼働中の最も高いレベルの IMS システムからのものであるかどうかを確認します。

問題判別: 1、4、6

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXDCC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0725

説明: 追加の ZIB および FAQE を取得しようとしたときに、IMS でストレージ不足が発生したか、または、DFSMODU0 の実行中にエラーが発生しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

分析: 追加の ZIB および FAQE を取得しようとしたときに、IMS でストレージ不足が発生したか、または、DFSMODU0 の実行中にエラーが発生しました。DFS0CSS 呼び出しからの戻りコードがレジスター 15 に入っています。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: より大きい CSA 割り振りを指定して z/OS の再 IPL を実行してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、4、5、6、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISMN0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0728

説明: IMS バッチ領域をスワップ不能にしようとしたとき、IMSAUTH SVC で問題が発生しました。

分析: これは、モジュール DFSDLN00 によって発行される標準異常終了です。

戻りコードはレジスター 15 に設定されています。IMSAUTH NOSWAP 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS バッチ領域は異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 1、4、8、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLN00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0729

説明: DFSPPOOL GET 要求中に、既存のストレージ・プールからブロックを割り振るために、モジュール DFSSPM40 が呼び出されました。処理中に、リカバリー不能な内部エラーが検出されました。

この異常終了は、DFSSPM40 および DFSSPM50 の両方から発行されます。DFSPPOOL GET 要求中に、既存のストレージ・プールからバッファを割り振るために、モジュール DFSSPM40 が呼び出されます。DFSPPOOL REL 要求中に、バッファを解放するために、モジュール DFSSPM50 が呼び出されます。DFSSPM40 が異常終了の発行者の場合、このロジックによって (異常終了の直前に) 使用される R0、R1、および R15 が、DFSSPM40 の後ろに設定されている保管域に保管されます。リカバリー不能な内部エラーがどちらかのモジュールによって検出されると、異常終了 0729 が発行されます。

0730

分析: これは、モジュール DFSSPM40 および DFSSPM50 によって発行される一般異常終了です。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。

コード

説明

X'04'

バッファを取得するとき、呼び出し側のタスクが待ち状態に置かれました。タスクが通知されたとき、ストレージ・マネージャーによって、通知コードが無効であると判断されました。

X'08'

GET 要求の処理中に、ストレージ・マネージャーがフリー・バッファのあるブロックを検出し、ブロック・ヘッダー内のビットマップを更新することによってそのバッファを割り振りました。ストレージ・マネージャーは、バッファのアドレスを呼び出し元に返す前に、バッファがブロック内に存在しているかどうかを検証します。存在していない場合は、この異常終了が発行されます。このエラーは、ストレージ・オーバーレイが原因で発生する場合があります。

X'10'

バッファ接頭部の最初のワードのアドレスが、ブロック・ヘッダーを指していません。オーバーレイが発生したか、または誤ったアドレスがストレージ・マネージャーに渡されました。

X'14'

バッファが、正しいプールに対して解放されていません。オーバーレイが発生した可能性があります。

X'18'

解放しようとしているバッファは、現在割り振られていません。オーバーレイが発生した可能性があります。

X'C'

バッファ接頭部の最初のワードがゼロになっています。オーバーレイが発生したか、または誤ったアドレスがストレージ・マネージャーに渡されました。

X'1C'

解放しようとしているバッファのアドレスが、ブロック内のバッファ境界上にありません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、6、11、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSPM40、DFSSPM50

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0730

説明: IMS 初期設定中に、ストレージ・プール・マネージャーの初期設定を実行するためにモジュール DFSXSPM0 が呼び出されました。

分析: これは、処理中にエラーが検出された場合にモジュール DFSXSPM0 によって発行される一般異常終了です。IMODULE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。レジスター 8 に、異常終了サブコードが入っています。

コード

説明

X'04'

ストレージ・プール・マネージャーのハッシュ・テーブル SPMHSHTB 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'08'

ストレージ・プール・マネージャーのビットマップ・ルックアップ・テーブル SPMBMTAB 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

ストレージ・プール定義 DFSSPM10 を拡張 CSA にロードするため、IMODULE LOAD 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'10'

ストレージ・プール・マネージャー・ルーチンを含む複合モジュール DFSSPM40 をロードするため、IMODULE LOAD 要求が出されました。IMODULE から、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'14'

制御領域 JCL で SPM= 接尾部を使用して IMSVS.PROCLIB メンバーが指定されていますが、そのメンバーが見つかりませんでした。

X'18'

IMSVS.PROCLIB FPL= ステートメントの処理中に、内部エラーが発生しました。DFSXSPM0 が、一時プール域に定義しておいたよりもさらに有効なプール名を検出しました。PROCLIB ステートメントでオーバーライドできるバッファ定義に入れられるのは、固定タイプのプールのみです。固定プール定義はすべて、DFSSPM10 内にあります。DFSXSPM0 で一時定義用に予約されるストレージ量は、すべての固定プールが処理できるほど十分でなければなりません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、11、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSXSPM0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0731

説明: モジュール DFSSPM10 で定義された 1 つ以上のストレージ・プールを割り振るために、DFSPOOL ALLOC 機能によってストレージ・プール・マネージャーが呼び出されました。ストレージ・プール割り振り処理中に、1 つ以上のエラーが検出されました。ストレージ・マネージャーがゼロ以外の戻りコードを戻したため、呼び出し側が処理を終了しました。

分析: レジスター 2 に、1 つ以上のプール割り振り項目を指す DFSPOOL パラメーター・リストのアドレスが入っています。各項目は、DFSPOOL GENLISTD で生成される POOLALOC DSECT によってマップされます。リストの最後の項目はワード X'FFFFFFF' です。各項目のバイト 2 には、その項目で指定されたプールが割り振られたかどうかを示す 2 バイトの戻りコードが入っています。戻りコードの高位バイトは、ゼロ以外の場合には、IMODULE GETMAIN サービスからの戻りコードです。レジスター 15 には、全項目の処理中に検出された最も大きな DFSPOOL 戻りコードが入っています。DFSPOOL および IMODULE GETMAIN 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

0732 • 0735

プログラマーの応答: レジスター 2 に、1 つ以上のプール割り振り項目を指す DFSPPOOL パラメーター・リストのアドレスが入っています。各項目は、DFSPPOOL GENLISTD によって生成される POOLALOC DSECT でマップされます。リストの最後の項目は、ワード X'FFFFFFFF' です。

各項目のバイト 2 には、その項目で指定されたプールが割り振られたかどうかを示す 2 バイトの戻りコードが含まれます。戻りコードの高位バイトは、ゼロ以外であれば、IMODULE GETMAIN サービスからの戻りコードです。戻りコードの低位バイトは、DFSPPOOL ALLOC サービスからの戻りコードです。

レジスター 15 に、全項目の処理中に検出された最も大きな DFSPPOOL 戻りコードが入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFINI20、DFSINB0、DFSING0、DFSINQ0、DFSXESI0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

0732

説明: 前もって割り振られたストレージ・プールからバッファを取得するために、DFSPPOOL GET 機能によってストレージ・プール・マネージャーが呼び出されました。バッファ割り振り処理中にエラーが検出されました。ストレージ・マネージャーからのゼロ以外の戻りコードにより、呼び出し側が処理を終了しました。レジスター 15 に、DFSPPOOL GET 戻りコードが入っています。

分析: レジスター 15 に、DFSPPOOL GET 戻りコードが入っています。DFSPPOOL 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。戻りコードが、上限に問題があったことを示している場合、ユーザーが指定した上限にエラーがないかどうかを確認してください。戻りコードが X'20' より大きい場合、この問題は内部システム・エラーです。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードが、上限に問題があったことを示す場合、ユーザーが指定した上限にエラーがなかったかどうかを確認します。戻りコードが X'28' より大きい場合、この問題は 内部の IMS エラーです。

問題判別: 1、4、11、34

ソース: IMS 異常終了

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0735

説明: この異常終了は、処理中にリカバリー不能な内部エラーが検出されたとき (すなわち、CLB ITASK を実行中であるが、実行フラグがオンでない)、モジュール DFSICIO0 または DFSASLT0 によって発行される一般異常終了です。

この異常終了は、MSCWA_CMS10_SAV がゼロ以外の場合にも、モジュール DFSCMS00 によって発行されます。これは、DFSCMS00 が呼び出し元に戻らなかったこと、その代わりにディスパッチャーへの戻りを試みていることを示しています。

分析: PSW は、DFSICIO0、DFSASLT0、および DFSCMS00 内の異常終了が発生した位置を示しています。問題診断に、IMS ダンプおよびログが必要です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、4、5、6、11、36

ソース: IMS 異常終了

380 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

モジュール: DFSCMI00、DFSCMS00、DFSICI00、DFSASLT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0736

説明: IMS 初期設定中に、再始動作業域を取得するための十分なストレージがありません。

分析: これは、DFSTMEI0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABEND を持つ異常終了ルーチンを指しています。レジスター 15 に IMODULE GETMAIN ルーチンからの戻りコードが入り、レジスター 0 に、定数 DFSSTPWA へのアドレス・ポインターが入ります。これらを使用して、正しいラベルを分離する必要があります。これらのレジスターは、異常終了 SVRB に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg0=A (DFSSTPWA')	IMOS0009	レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが返されたために、STOP 領域の作業域に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMS システムは異常終了します。
Reg1=X'800002E0'		

考えられる原因: IMS 制御領域の領域サイズが小さすぎます。

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: IMS 制御領域の領域サイズを増やして、IMS を再始動します。

問題判別: 8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSTMEI0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0737

説明: データベースを開始させようとしたときに、IMS 内部エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了時のレジスター 15 に設定される次のコードのいずれかによって、障害の原因が示されます。

コード (10 進数)

説明

- 1 作業用ストレージの GETMAIN が失敗しました。要求されたサイズが、異常終了時にレジスター 8 に入られます。
- 2 制御領域では、開始させようとしているデータベースのバックアウトの必要性が認識されているが、DBRC ではバックアウトの必要性が認識されていません。
- 3 内部 RRE ブロックを取得する試みが失敗しました。
- 4 開始しようとしているデータベースは、バックアウトが必要でした。しかし、このデータベースは当初、特定のリカバリー有効範囲の下で変更されたいくつかのデータベースの 1 つでした。バックアウトの実行後、システム情報を更新するために他のデータベースのブロックを見つけることができませんでした。
- 5 制御領域は、開始しようとしているデータベースのバックアウトを正常に実行しましたが、LCRE ストレージの解放に失敗しました。

0738 • 0741

示された戻りコードに応じて、適切な処置を取ります。

ソース: IMS 異常終了

0738

説明: IMS 制御領域がメッセージ領域に対するサービスを完了した後で、メッセージ領域への戻りに失敗しました。メッセージ領域が z/OS によって取り消されたためです。

分析: 異常終了 0738 は、領域がすでに存在しなくなっているために ISWITCH が失敗するときに発行された疑似異常終了または標準異常終了である可能性があります。ISWITCH は、従属領域から制御領域への切り替えか、制御領域から従属領域への切り替えか、いずれかです。

考えられる原因: 制御ブロックは使用可能でしたが、現在はその制御ブロックはオーバーレイされたか破損しています。

システムの処置: 該当 PST は再使用のために解放されます。(メッセージ領域は、MVS CANCEL の結果、すでに終了しています)

問題判別: 1

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00、DFSCPY00、DFSUICC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0739

説明: IMS メッセージ領域内に、従属領域の領域間連絡域を取得するための十分なストレージがありません。

システムの処置: メッセージ領域は終了します。

プログラマーの応答: メッセージ領域のサイズを増やして、ジョブを再実行します。

問題判別: 8

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0740

説明: パートナー製品のユーザー出口が、モジュール DFSRDY00 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: パートナー製品のユーザー出口 DFSPUE0 によって発生した問題を訂正します。

ソース: IMS 異常終了

0741

説明: 複数システム結合が、初期設定を完了できませんでした。

分析: 0741 は、DFSIIIMS0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 を、特定ラベルへのキーとして使用する必要があります。

レジスター 0 およびレジスター 1 は、終了の前にラベル ABENDSAV に保管されます。レジスター 12 はこのモジュールの基底レジスターで、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

382 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg9=BAL	GETLXBS	チャンネル間 (CTC) リンクを確立する必要があります。DFSCMC40 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 15 に、IMS SVC (DFSMODU0) から返された戻りコードが入ります。
Reg14=BAL	IMOS0005	DFSCMC40 に関する IMODULE LOCATE が失敗しました。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。ABENDSAV では、レジスター 0 に DFSCMC40 のサイズが入り、レジスター 1 にそのアドレスが入っています。
Reg14=BAL	IMOS0007	CTC LXB のストレージに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了が発行されます。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。
Reg14=BAL	(ラベルなし)	CTC LXB をページ固定するための IMS SVC が実行されました。ページ固定は失敗し、レジスター 15 にエラー戻りコードが入っています。
Reg14=BAL	IMOS0010	モジュール DFSCMC40 に関する IMODULE DELETE が失敗しました。レジスター 15 にエラー・コードが入っています。ABENDSAV のレジスター 0 は、z/OS 接頭部保管域 (PSA) を指しています。
Reg14=BAL	TRYMTM	主ストレージ間のリンクのためには、アクセス方式モジュールをロードする必要があります。DFSMTMA0 に関する IMODULE LOAD が失敗し、異常終了が発生しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。
Reg14=BAL	IMOS0014	LXB および入出力バッファに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。
Reg14=BAL	BLDP1	LXB を初期設定できるように、リンクのタイプを判別するために CTT がテストされます。不明なリンク・タイプの場合、失敗して異常終了が発生することになります。レジスター 15 に、CTT へのアドレス・ポインタが入っています。
Reg14=BAL	SIDLOOP1	SID が存在していることは判明しましたが、それはローカル SID ではありませんでした。この結果、異常終了が発生します。ABENDSAV のレジスター 1 がその SID を指しています。

GETMAIN が失敗した場合、ラベル MS0ABEND でモジュール DFSCMMP0 から異常終了 0741 が発行されることがあります。CTC 入出力バッファのストレージに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了コードが発行されます。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- CSA の量が不十分で、MSC 制御ブロックを作成できない。
- SVC4 に対する無効な要求が原因で、MSC 通知ハンドラー (DFSCMC20-DFSCMM20) のロードまた削除が失敗した。
- このシステム用のローカル SID がない (おそらくはシステム定義のバグ)。

APAR 処理の場合: 異常終了メモリー・ダンプ、コンソール・シート。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 14 の内容から 4 を引いた値が、エラーを判別した命令のアドレスです。ロードされるモジュールが SDFSRESL にあるかどうかを確認します。IPL 時に、必ず z/OS に十分な CSA を含めるようにしてください。

問題判別: 1、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIMS0、DFSCMMP0

0742

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0742

説明: DL/I タスク識別子の保守でエラーが検出されました。この識別子は、IMS オンライン実行中に、データベース内の解放されたスペースの再使用を制御します。

分析: DFSDLA00 の場合:

DL/I タスク識別子の保守でエラーが検出されました。この識別子は、IMSS オンライン実行中に、データベース内の解放されたスペースの再使用を制御します。次の 3 つの条件のいずれかが発生しました。

- チェックポイント中に、新しい日付が検出されたが、有効な DL/I タスク識別子を生成できませんでした。原因は、時刻 SVC のエラーまたはプロセッサに設定された日付のエラーがあった可能性があります。この条件は、IMS システムが 658 日を超えて連続稼働した場合にも発生することがあります。日付情報を含むタスク識別子の部分がオーバーフローするためです。
- アクティブな識別番号の範囲内でエラーが検出されました。例えば、低位の識別番号が、次に使用可能な識別番号よりも大きな値でした。
- 従属領域の識別番号が、(アクティブな識別番号の) 既知の範囲の外部にあることが検出されました。

これは、モジュール DFSDLA00 によって発行される標準異常終了です。関係するフィールドは以下のとおりです。

SCDLOWID:

最も古いアクティブ・タスクの識別番号

SCDNAVID:

次に割り振られるタスク識別子

PSTTSKID:

このタスクの識別番号

考えられる原因: IMS システム・エラー

DFSRDBC0 の場合:

XRF テークオーバーの一部としてバックアウトを実行している間に、以下のいずれかの条件が発生しました。

- アクティブな識別番号の範囲内でエラーが検出されました。例えば、低位の識別番号が、次に使用可能な識別番号よりも大きな値でした。
- 従属領域の識別番号が、(アクティブな識別番号の) 既知の範囲の外部にあることが検出されました。

DFSRDBC0 がこの標準異常終了を発行する場合、異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 は PST を指し、レジスター 11 は SCD を指します。以下に説明するフィールド SCDLOWID、SCDNAVID、および PSTTSKID も、問題診断に役立ちます。

SCDLOWID:

最も古いアクティブ・タスクの識別番号

SCDNAVID:

次に割り振られるタスク識別子

PSTTSKID:

このタスクの識別番号

DFSDHD00 の場合:

DFSDHD00 は、PST の TASKID のエンキュー要求から戻った際に、以下の条件があった場合にこの異常終了を発行します。

- ゼロ以外の戻りコードが返され、かつ
- 現在スケジュールに入っている疑似異常終了がない。

フィールド PSTTSKID には、このタスクの識別番号が入っています。

システムの処置: 条件 1、2、または 4 の場合、IMS 制御領域が異常終了します。条件 3 の場合、従属領域のアプリケーションが異常終了します。

オペレーターの応答: 条件 1、2、または 4 の場合、緊急時再始動を実行します。条件 3 の場合、 /START コマンドを発行して、影響を受けたプログラムおよびトランザクションを開始し、さらに、その領域が BMP であった場合は、領域を再始動します。

プログラマーの応答: 問題を判別し、再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00、DFSRDBC0、DFSDHD00

0743

説明: SCD にあるアクティブ領域カウンターの値が負です。アクティブな MPP 領域 (SCDMPPAC) またはアクティブな BMP 領域 (SCDBMPAC) の数が、そのタイプの領域の終了処理中に負になりました。データ・アドレスは、32 ビットでアドレス可能でなければなりません。

分析: これは、DFSSABN0 によって発行される標準異常終了です。DFSSABN0 が呼び出されるのは、必要な PST クリーンアップ機能を実行するために従属領域に対して TERMINATE THREAD 呼び出しが発行された場合です。

異常終了 SVRB のレジスター 2 には、アクティブ領域の数を表す負の数値が入っています。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

キー	ラベル	説明
Reg2= 負の値 Reg11=SCD アドレス Reg12= 基底レジスター	SABN0600	アクティブな MPP 領域またはアクティブな BMP 領域のいずれかの数が、従属領域の終了処理中に負になりました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSABN0

0744

説明: モジュール DFSSMIC0 が呼び出されましたが、これは無効です。PST 内の再配置済み RCPARMS イメージの RCSCHD フィールドにある呼び出し機能は、INIT または LOAD でなければなりません。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、25、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0745

説明: IMS スケジューラーが、バッチ・メッセージ処理 (BMP) 領域のスケジューリング中に、SSOB 内で無効な機能 (CREATE THREAD 以外) を検出しました。

分析: 渡された関数が CREATE-THREAD ではありませんでした。異常終了 SVRB のレジスター 6 には、EBCDIC フォーマットの呼び出し関数が入っているはずですが、レジスター 12 は、基底レジスターです。

0746 • 0747

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800002E9' Reg8=a(SSOB) Reg9=a(PST)	GOON	フィールド SSOBFUNC で渡された関数が CREATE-THREAD ではありません。

考えられる原因: DFSASK00 で渡された SSOB が無効です。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

問題判別: 1、5、11、12

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0746

説明: バッチ終了中またはチェックポイント中に、モジュール DFSDLA00 が CLOSE 呼び出しで障害を検出しました。

分析: IMS OPEN/CLOSE エラー・メッセージからの戻りコードおよび情報を確認してください。システム・エラー・メッセージがある場合には、それらのエラー・メッセージからの戻りコードおよび情報も確認してください。

キー	ラベル	説明
ビット PSTOCBAD がバイト PSTFNCTN でオンになっています。 (??)	UNCLCOM	PSTOCBAD がオンになっていて、他の異常終了が開始されていない場合は、DFSDLA00 が異常終了 0746 を開始します。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: システム・エラー・メッセージまたは出された IMS エラー・メッセージ (あるいは両方) で、CLOSE 障害を調べます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

0747

説明: TERM-THREAD を発行せずに、同じ TCB に対して別の CREATE-THREAD が発行されました。

分析: 0747 は、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置: 従属領域は終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0748

説明: モジュール DFSCST00 に対して IMODULE LOAD 要求を実行しようとしたときに、IMODULE マクロでエラーが発生しました。

分析: 0748 は、モジュール DFSCST00 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB のレジスターは、異常終了の時点で最新であったものです。レジスター 15 の下位半分に、戻りコードが入っています。レジスター 15 の上位半分には、DFSCST00 によってロードされた理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15 = X'000400xx'	用語	DFSTRM00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg15 = X'000800xx'	DBCMD5	DFSDBDR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。

重要: xx は、IMODULE マクロから渡される戻りコードに相当します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMODULE LOAD マクロにより、ゼロ以外の戻りコードがレジスター 15 に戻されました。戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報の IMODULE LOAD 戻りコードを参照してください。

問題判別: 1、4、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCST00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0749

説明: アプリケーション・プログラムによってユーザー異常終了コード 0 が発行されると、この異常終了が発生します。追加情報は、システム・コンソール・ログから入手できます。スレッド終了処理が、IMS STAE 処理ではなく、タスクの終了またはストレージの終了によって実行された場合、異常終了 0749 が発生することがあります。IMS (E)STAE が、TERMINATE-THREAD 処理が完了する前に、制御を獲得できなかったか、または異常終了しました。

分析: これは、モジュール DFSASK00 および DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS は、異常終了 0749 を IMS メッセージおよびログ・レコードの完了コードとして使用します。

プログラマーの応答: 異常終了 0749 完了が必要であれば、異常終了コード 0 を使用します。異常終了 0749 が不要でない場合は、異常終了コード 0 を使用しないでください。

問題判別: 1、5、6、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC20、DFSASK00、DFSSDA20、DFSSABN0、DFSBCK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 17 章 IMS 異常終了コード 0751 - 0800

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0756

説明: XRF 環境で、ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットの OPEN 障害が検出されたか、または DFSQDOC0 がロードに失敗しました。

IMS は、ローカル・メッセージ・キューのサイズが小さすぎる場合にもこの異常終了を発行します。ローカル・メッセージ・キュー・データ・セット (IMS.LGMSGL、IMS.SHMSGL、および IMS.QBLKSL) のいずれかのレコード数が、システム定義時に定義された MSGQUEUE マクロの SHUTDOWN パラメーターに指定されたレコード数より少ない場合に、この異常終了が発生します。

分析: 0756 は、以下の 2 つの原因のどちらかで、モジュール DFSCST00 によって発行される標準異常終了です。

DFSQDOC0 に関する IMODULE LOAD が失敗した場合、IMODULE マクロはレジスター 15 に戻りコードを入れます。戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報の IMODULE LOAD 戻りコードを参照してください。

1 つ以上のローカル・メッセージ・キュー・データ・セットに関して OPEN の失敗が発生した場合、DFSQDOC0 はレジスター 15 に戻りコードを入れます。

レジスター 3 は、DFSCNS00 によって使用される以下の情報を指しています。

Reg3+X'00'= AWE のアドレス (X'30' バイト)

Reg3+X'0C'=01 FUNC=OPEN

Reg3+X'30'=DCB オープン・リスト。(各ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットについて、1 項目がリストに含まれています。項目のフォーマットは以下のとおりです。)

- +0 DCB アドレス
- +4 予約済み
- +5 フォーマット・オプション =01
- +6 アクセスは OSAM=01
- +7 OSAM* からの戻りコード

OSAM 戻りコードの説明については、メッセージ DFS986A を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg5=ABENDU0756 への BAL Reg15=DFSQDOC0 の IMODULE LOAD からの 戻りコード	CST0003	DFSQDOC0 はロードに失敗しました。

キー	ラベル	説明
Reg3=AWE のアドレス (DFSCNS00 に渡される オープン・リストが 含まれています。) Reg5=ABENDU0756 への BALR Reg15=DFSCNS00 からの 戻りコード	ABENDU0756	ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットの 1 つがオープンに失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: これはおそらくユーザー・エラーです。ローカル・メッセージ・キュー・データ・セット (IMS.LGMSGL、IMS.SHMSGL、および IMS.QBLKSL) の LRECL および BLOCKSIZE の定義を調べます。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCST00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS986A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0757

説明: IMS システム・メッセージ・キュー・マネージャーのコンポーネントでエラー条件が検出されました。原因として、キュー・マネージャーのいずれかの呼び出し側での論理エラー、キュー・マネージャー・ルーチンのいずれかの内部での論理エラー、または、緊急時再始動状態に関連する操作エラーによる可能性があります。次の操作エラーによって、この異常終了が発生することがあります。

- 定義済みシステムの変更後のウォーム・スタート。
- 誤ったログ・データ・セットを使用した、またはログ・データ・セットなしでの緊急時再始動の試み。
- 不適切に終了したログ・データ・セットを使用した緊急時再始動。

分析: 異常終了 0757 は、以下にリストされているモジュールのいずれかから、キュー・マネージャーによって発行される標準異常終了です。エラー状態を検出したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。異常終了 SVRB のレジスター 15 に、どのモジュールが 0757 を発行したかを判別するのに役立つサブコードが入っています。レジスター 6 には通常、エラーが検出されたおおよその場所を示すアドレスが入っています。エラーが検出された時点のレジスター 15、0、および 1 の内容が、異常終了の発行前に QSAPWKAD 領域 (フィールド QSAPAB15、QSAPABR0、および QSAPABR1) に保管されます。これらのサブコードについては、次のセクションに相互参照を示し、各モジュールのサブセクションで詳細に説明します。

DSECT を使用する場合:

モジュール内部で参照されている特定ラベルへの DSECT 内のオフセットを見つけるには、マクロ QSAPWKAD、ISCD、ICLI、QLOGMSGP、IDLI、QBFALSTD、QLOGMSGP、IAPS、OSAMDECB、QLOGRECS、および DFSQMGR を表示して調べます。

サブコードの相互参照

サブコード

モジュール

000 DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQGU00 DFSQIS00 DFSQMGR0 DFSQNP00 DFSQRH00 DFSQRL00
DFSQXF00
001 DFSQMGR0
002 DFSQMGR0
003 DFSQC070
004 DFSQEQ00 DFSQGU00
005 DFSQEQ00
006 DFSQIS00
007 DFSQDQ00
008 DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQMGR0
009 DFSQGU00
00A DFSQIS00
00B DFSQMGR0
00C DFSQIS00
00D DFSQNP00
00E DFSQDQ00
00F DFSQIS00 DFSQGU00
010 DFSQIS00 DFSQEQ00
011 DFSQEQ00
012 DFSQEQ00
013 DFSQEQ00
014 DFSQEQ00
015 DFSQEQ00
016 DFSQC060
017 DFSQNP00
018 DFSQGU00、DFSQNP00
019 DFSQGU00、DFSQNP00
01A DFSQNP00
01B DFSQNP00
01C DFSQMGR0
01D DFSQGU00
01E DFSQGU00
01F DFSQGU00
020 DFSQMGR0
021 DFSQGU00
022 DFSQGU00
023 DFSQGU00
024 DFSQGU00
025 DFSQGU00
026 DFSQGU00
027 DFSQXF00
028 DFSQXF00
029 DFSQXF00
02A DFSQXF00
02B DFSQEQ00、DFSQMGR0
02C DFSQEQ00
02D DFSQGU00
02E DFSQRL00
02F DFSQRL00
030 DFSQC020
031 DFSQC020
032 DFSQC020

0757

033	DFSQEQ00
034	DFSQEQ00
035	DFSQEQ00、 DFSQMGR0
036	DFSQDQ00
037	DFSQDQ00
038	DFSQDQ00
039	DFSQDQ00
03A	DFSQDQ00
03B	DFSQDQ00
03C	DFSQDQ00
03D	DFSQDQ00、 DFSQMGR0、 DFSQGU00
03E	DFSQIS00
03F	DFSQC040
040	DFSQGU00
041	DFSQGU00、 DFSQEQ00
042	DFSQGU00
043	DFSQGU00
044	DFSQGU00
045	DFSQDQ00
046	DFSQEQ00、 DFSQIS00
047	DFSQIS00
048	DFSQGU00、 DFSQMGR0
049	DFSQGU00
04A	DFSQRL00、 DFSQXF00
04B	DFSQMGR0
04C	DFSQC010 DFSQC020 DFSQC050 DFSQEQ00 DFSQGU00 DFSQIS00 DFSQMGR0 DFSQXF00
04D	DFSQC030 DFSQC060 DFSQC080 DFSQMGR0 DFSQXF00
04E	DFSQGU00
04F	DFSQGU00
050	DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQGU00 DFSQMGR0 DFSQRL00 DFSQXF00
051	DFSQRL00
052	DFSQC030
053	DFSQC030
054	DFSQDQ00
055	DFSQEQ00
056	DFSQEQ00
057	DFSQDQ00
058	DFSQGU00
059	DFSQNP00
05A	DFSQNP00
05B	DFSQC010
05C	DFSQC010
05D	DFSQC010
05E	DFSQNP00
05F	DFSQXF00
060	DFSQDQ00、 DFSQEQ00、 DFSQGU00、 DFSQIS00、 DFSQRL00
061	DFSQGU00
063	DFSQGU00
064	DFSQXF00
065	DFSQRL00
066	DFSQXF00
067	DFSQDQ00

101	DFSQBFM0
102	DFSQBFM0
104	DFSQBFM0
105	DFSQBFM0
205	DFSQRST0、DFSQRSQ0
206	DFSQRST0
209	DFSQRST0、DFSQRSQ0
20A	DFSQRST0、DFSQRSQ0
20B	DFSQRST0、DFSQRSQ0
20C	DFSQRST0、DFSQRSQ0
20D	DFSQRST0、DFSQRSQ0
20E	DFSQRST0
210	DFSQRST0
211	DFSQRST0
212	DFSQRST0
213	DFSQRST0
214	DFSQRST0
215	DFSQRST0、DFSQRSQ0
216	DFSQRST0
217	DFSQRST0
218	DFSQRST0
219	DFSQRST0
21A	DFSQRST0
21B	DFSQRST0
21C	DFSQRST0、DFSQRSQ0
21D	DFSQRST0
21E	DFSQRST0
21F	DFSQRST0、DFSQRSQ0
301	DFSQLOG0
306	DFSQLOG0
309	DFSQLOG0
30A	DFSQLOG0
30B	DFSQLOG0
30C	DFSQLOG0
30D	DFSQLOG0
30E	DFSQLOG0
30F	DFSQLOG0
310	DFSQLOG0
311	DFSQLOG0
312	DFSQLOG0
313	DFSQLOG0
314	DFSQLOG0
315	DFSQLOG0
316	DFSQLOG0
801	DFSQFIX0
802	DFSQFIX0
803	DFSQFIX0
804	DFSQFIX0
805	DFSQFIX0
806	DFSQFIX0
807	DFSQFIX0
901	DFSQRH00

DFSQC010 の場合:

DFSQC010 は、挿入要求の実行時に相対レコード番号をメッセージに割り当てます。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻り コード	ASSIGN70 ASSIGN90	MSGP タイプのメッセージ・ブロックを取得しようとしたが、失敗しました。
05B	Reg15=X'5B' Reg11=A(SCD) SCDFRB=0 SCDSTOP1 ビット: SCDSTQUE がオフ	ABENDQU	継続挿入呼び出しの実行時に、キュー・マネージャーの通常メッセージ・キューが利用不可で、IMS が XRF 対応ではありませんでした。
05C	Reg15=X'5C' QSAPCFUN ビット: DCDLI がオン	NWASSIGN	継続挿入呼び出し中または ENQUEUE 呼び出しの実行時に、呼び出し元が DL/I または RESTART でした。
05D	Reg15=X'5D' QSAPAB15=A(CNT) CNTFLG2 ビット: CNTF2CNT がオフ、または CNTF2LQU がオフ	NWASGN20	継続挿入呼び出し中または ENQUEUE 呼び出しの実行時に、DRRN を割り当てようとしたが、ローカル QPOOL が使用中ではありませんでした。

DFSQC020 の場合:

DFSQC020 モジュールには 3 つのエントリー・ポイント (DFSQC020、DFSQC021、DFSQC022) が含まれており、そのうちの 2 つ (DFSQC020、DFSQC021) が理由コードを発行します。DFSQC020 は、キュー・バッファのレコード (DRRN) を解放します。DFSQC021 は、メッセージのチェーンを解放し、必要な「フリー」ログ・レコードを作成して、緊急時再始動ができるようにします。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
030	Reg15=X'30' Reg10=A(メッセージの先頭) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	FREEM10	返されたレコードは、解放すべきメッセージの先頭レコードではありませんでした。
031	Reg15=X'31' Reg4=A(解放されたレコードの DRRN) Reg10=A(返されたメッセージ) MSGMDRRN=QSAPFRFR	FREEM30	メッセージの 2 番目から最後まで DRRN を解放しようとしたが、返されたメッセージ (MSGMDRRN) のメッセージ DRRN が先頭レコード (QSAPFRFR) の DRRN に等しくありませんでした。
031	Reg15=X'31' Reg4= 解放されたレコードの DRRN Reg10=A(返されたメッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	FREEM33	メッセージの 2 番目から最後まで DRRN を解放しようとしたとき、返されたメッセージがそのメッセージの先頭レコードでした。
032	Reg15=X'32' QSAPFRML=QSAPFRFR または 0 QSAPFRML0=0	FREEM60	各メッセージの解放後に、メッセージ・チェーンに対する終了が無効なことが判明しました。
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	QSMFRE25	MSGP タイプのメッセージ・ブロックを取得しようとしたが、失敗しました。

DFSQC030 の場合:

DFSQC030 モジュールには 4 つのエントリー・ポイント (DFSQC030、DFSQC031、DFSQC032、DFSQC033) が含まれており、そのすべてが理由コードを発行します。DFSQC030 は、キュー・マネージャー汎用ラッチを取得します。このラッチが取得できない場合、ラッチ・マネージャーは異常終了します。DFSQC031 は、キュー・マネージャー・ラッチを解放します。DFSQC032 は、QBFM スチール汎用ラッチを取得します。DFSQC033 は、QBFM スチール汎用ラッチを解放します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
04D	Reg15=X'4D'	QC310070	キュー・マネージャー・ラッチを解放する試みが失敗し、QSAPAB15 にラッチ・マネージャー戻りコードが入っています。
	QSAPAB15=DFSCLM 戻りコード	QC310080	
		QC310090	
		QC330005	
		QC330010	
052	Reg15=X'52'	QC33RCT	無効なラッチ・ヘッダー・アドレスが検出されました。
	Reg4=A(ラッチ・ヘッダー)	QC310005	
053	Reg15=X'53'	QC300020	無効なラッチ・モードが要求されました。有効なモードは SHR または EXCL です。
	Reg8= ラッチ・モード	QC320005	

DFSQC040 の場合:

DFSQC040 は、挿入されるメッセージ・セグメントの前の処理を完了します。

SC	キー・データ	ラベル	説明
03F	Reg15=X'3F' Reg10=A(メッセージ)	ENDIT20	前の呼び出し元が、宛先 DCB の LRECL のサイズを超過しました。

DFSQC050 の場合:

DFSQC050 は、完了したメッセージを、非共用キュー環境内のキュー・バッファまたは共用キューに移動してログに記録します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	QCSH0900	UOWE タイプのブロックを取得しようとした が、失敗しました。 QMBA タイプのブロックを取得しようとした が、失敗しました。
		QCSH6010	
		QLD0LOG	

DFSQC060 の場合:

DFSQC060 モジュールには 2 つのエントリー・ポイント (DFSQC060、DFSQC061) があり、そのそれぞれが理由コードを発行します。DFSQC060 は、宛先アドレスでキュー・マネージャーの直列化を提供します。DFSQC061 は、DFSQC060 により提供された直列化を解除します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
016	Reg15=X'16' Reg1=0	QXCDEQ20	解放する QCB がありませんでした。
04D	Reg15=X'4D'	QXCENQ3	キュー・マネージャーによって取得された DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。
	QSAPAB15=DFSCLM 戻りコード	QXCDEQ	

DFSQC070 の場合:

DFSQC070 モジュールには 2 つのエントリー・ポイント (DFSQC070、DFSQC071) が含まれており、そのうちの 1

つ (DFSQC071) が理由コードを発行します。DFSQC071 キュー・マネージャーは、QPOOL no-purge カウント・プロセッサの値を減少させます。このキュー・マネージャーは、X'4001' レコードのチェックポイント・ロギングの前に完了しなければならない、進行中の操作の QPOOL カウントを減少させます。

SC	キー・データ	ラベル	説明
003	Reg15=X'03' Reg0<0 Reg0=QPNOPRG-1 Reg1=QPNOPRG Reg3=A(QPOOL)	QC710900	ページが待たなければならないアクティビティのカウン트가負になりました。

DFSQC080 の場合:

DFSQC080 は、キュー・マネージャーの SMB クリーンアップ・プロセッサです。これは、SMB の中断キューから通常キューにメッセージを移動します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
04D	Reg15=X'4D' QSAPAB15=DFSCLM 戻りコード	CLNQ0220	キュー・マネージャーによって取得された DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。

DFSQBFM0 の場合:

DFSQBFM0 は、キュー・マネージャー・バッファ・プールのメッセージ・キュー・レコードにアクセスします。DECTYPE では、以下の要求のタイプを記述します。

- X'00' DRRN による検出
- X'04' 解放 (変更なし)
- X'08' 検出および変更
- X'0C' ページ (すべての変更済みブロックの書き込み)
- X'10' DRRN へのアドレスの変換
- X'14' バッファの意図カウントの減少

SC	キー・データ	ラベル	説明
101	Reg15=X'101' Reg9=A(DECBB) DECBB= 要求タイプ・コード	QBMLCT QBMLCTA QBMRDSU QBMSNID2	DRRN の「D」部分 (DECBB のバイト 0) が、X'00'、X'04'、X'08'、またはストレージ内にある X'88' に等しくありません。
101	Reg15=X'101' Reg1=0 Reg1=DECBB & X'00FFFFFF' Reg9=A(DECBB)	QBMLCTB QBMSNID3	「D」を DRRN から除去したあとで、残りの「RRN」部分がゼロであることが判明しました。
102	Reg15=X'102' Reg3=(DECBTYPE-1) & X'0000001F' Reg3>X'14' Reg9=A(DECBB)	QBMTTYP	無効なタイプ要求コードが検出されました。有効なタイプ要求コードのリストは、DFSQBFM0 の分析セクションに示されています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
104	Reg15=X'104' Reg3=(QBSTAT1 & X'0000FF00')/256-1 Reg3<0 Reg4=A(QBFFR) Reg14=QBSTAT1	QBINA104	意図カウントを減らそうとしていたときに、負の値が検出されました。
105	Reg15=X'105' Reg2=DECBRBN Reg4=A(QBFFR)= A(入力バッファ) NOT(QBIDL<=DECBRBN<=QBIDH)	QBINT050 QBINT070	入力 DRRN が、指定されたバッファ範囲に含まれていませんでした。

DFSQDQ00 の場合:

DFSQDQ00 は、キュー・マネージャーの DEQUEUE/SAVE/DELETE コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'04' デキュー要求

X'05' 保管要求

X'07' 削除要求

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 または DRRN	DEQFRST DEQCONT	無効な関数が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。
007	Reg15=X'07' QSAPDQOP ビット: QLDQOFNM がオフ	DEQ40	壊れたキューが見つかりました。キューの先頭メッセージの後にメッセージがありませんでした。
007	Reg15=X'07' QSAPDQOP ビット: QLDQOFNM がオフ	DEQ44	壊れたキューが見つかりました。キューの先頭でも最後でもないメッセージの後に、別のメッセージが続いていません。
007	Reg15=X'07' QSAPDQOP ビット: QLDQOFNM がオン	DEQ46	壊れたキューが見つかりました。キューの最後のメッセージの後にある後続メッセージが検出されました。
008	Reg15=X'08'	DEQ86	中断キューが壊れていることが判明しました。除去するメッセージを検索しているときに、チェーン内の次のメッセージが見つかりませんでした。
008	Reg15=X'08' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	DEQ12G DEQ183 DEQ50 DEQ86A DQMSC280	チェーン内の次のメッセージを見つけようとしているときに、キューが壊れていることが判明しました。レジスター 10 が指しているメッセージは、メッセージの先頭レコードではありません。
008	Reg15=X'08' Reg7=A(QDEST) Reg10=A(メッセージ) MSGODSTN=QDNAME	DEQ50A DEQ86B	チェーン内の次のメッセージを見つけようとしているときに、キューが壊れていることが判明しました。ログ・レコード宛先名とキュー・マネージャー宛先名が一致しません。

SC	キー・データ	ラベル	説明
00E	Reg15=X'0E' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: DCALR がオフでない	DELETE	DELETE の呼び出し元が通信ではありませんでした。
036	Reg15=X'36' QSAPAB15= メッセージ DRRN	DEL20	削除に渡されたメッセージの DRRN が無効でした。
037	Reg15=X'37' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	DELETE20	これは、削除すべきメッセージの先頭レコードではありません。
038	Reg15=X'38' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFQNR がオンでない	DELETE30	QNR が正しくセットアップされていませんでした。メッセージを削除する場合、すべてゼロである必要があります。
039	Reg15=X'39' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) QTPDST=A(宛先) QTPQNR<1 または QTPQNR>5 QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない	DELETE52 DELETE54	宛先が SMB でなく、QNR が 1 から 5 (両端を含む) の範囲内にありませんでした。
03A	Reg15=X'3A' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1ERRL がオン	DELETE60	読み取り入出力エラーが原因でキューがロックされました。
03B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオン	DEQ12	宛先 CNT が DL/I 呼び出し元のシステム CNT ではありませんでした。
03B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPCB) QSAPSV4=次のものによって設定される DRRN DFSQGU00 QSAPSV4=QTPRRN QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない、 かつ QDF2MDEL がオン	DEQ12E	DL/I 呼び出し元に関する SMB 宛先をテストしていましたが、DFSQGU00 で設定された DRRN が処理中の DRRN と同じではありませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
03B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(PST) PSTQIMSG= 解放する DRRN PSTQIMSG≠QTPRRN QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない、 かつ QDF2MDEL がオフ	DEQ12F	DL/I 呼び出し元に関する SMB 宛先をテスト中でしたが、解放される DRRN が処理中の DRRN と同じではありませんでした。
03B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない MSGDFLG3 ビット: MSGF3ZLN がオフ MSGFLAGS ビット: MSGFNRQU がオフ	DEQ12H	SMB 宛先に対するメッセージが APPC の長さゼロのメッセージではありませんでした。
03C	Reg15=X'3C' Reg8=A(QTPPCB) QTPFRRN≠QTPRRN	DEQQFIVE	除去すべきメッセージが、バックアップ・キューからの DEQ、SAVE、または DELETE に関する単一メッセージではありませんでした。
03D	Reg15=X'3D'	DEQ150	DELETE 呼び出しの実行時に、削除すべきメッセージが見つかりませんでした。そのメッセージは間違ったキューに入っているか、またはキューにまったく存在していない可能性があります。DEQOFFQ に対する参照をすべて確認してください。
045	Reg15=X'45' Reg7=A(QDEST) Reg10=A(メッセージ) QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオン	DEQ13B DQMSC100	DEQUEUE 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、RACF セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
045	Reg15=X'45' Reg7=A(QDest) Reg10=A(メッセージ)	DQMSC460	DEQUEUE 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、システム・セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	DEQRETRN	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたましたが、失敗しました。
054	Reg15=X'54' Reg4= バッファ意図の数	RETURN	バッファ意図が解放されませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
057	Reg15=X'57' Reg8=A(QTPPCB) QTPDST=A(宛先)	DELETE50	宛先アドレスがフルワード境界に位置合わせされていませんでした。
060	Reg15=X'060' Reg2=A(CCB) Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッセージ)	DEQ19A	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
067	Reg15=X'67' Reg7=A(QDest) Reg10=A(メッセージ)	DQMSC160 DQMSC180 DQMSC200	宛先タイプまたは名前が、メッセージ内の宛先タイプまたは名前に一致しませんでした。

DFSQEQ00 の場合:

DFSQEQ00 は、キュー・マネージャーの ENQUEUE/REENQUEUE コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

- X'0C' FIFO でエンキュー
- X'0D' LIFO でエンキュー
- X'0E' FIFO で再エンキュー
- X'0F' LIFO で再エンキュー
- X'2F' SMB 中断キューから SMB 通常キューに LIFO で再エンキュー
- X'1C' FIFO-TDEST で条件付きエンキュー
- X'1D' LIFO-TDEST で条件付きエンキュー

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 または DRRN	QEQLFIRST QEQLCONT	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。
004	Reg15=X'04' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) MSGMDRRN=QTPFRRN	ENQ0100	ENQUEUE 呼び出しに関して、PCB が正しくないことが判明しました。メッセージの DRRN が、メッセージの先頭バッファの DRRN に等しくありませんでした。
005	Reg15=X'05' Reg8=A(QTPPCB)	CKDS0010 CKDS0020	宛先がフルワード境界になかったか、または読み取り入出力が原因で宛先がロックされていました。
008	Reg15=X'08' Reg6=A(検出されたエラー) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DEC B) Reg10=A(メッセージ) Reg11=A(QSCD)	SQENQ100 SQENQ150 SQENQ200	DFSQBFM0 から返されたメッセージ (QTPFRRN で取得した DRRN) が、正しいメッセージではありませんでした。
011	Reg15=X'11' Reg7=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない、かつ QDF2CNT がオンでない	CKDS0040	宛先が SMB または CNT ではありませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
012	Reg15=X'12' Reg8=A(QTPPCB) QTPQNR<1 または QTPQNR>5	CKDS0060 CKDS0100	ENQUEUE 呼び出し中に無効な QNR が指定されました。
013	Reg15=X'13' Reg7=A(QDEST) QSAPABR1=A(前のメッセージ) MSGODSTN=QDNAME または MSGMDRRNQSA=PNQPM	CHNT0500 CHNT0530	FIFO ENQUEUE 要求の実行時に、壊れたキューが見つかりました。前のメッセージ宛先が入力宛先に等しくなかったか、または前のメッセージの DRRN が無効でした。
014	Reg15=X'14' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFQNR がオフでない	ENQ0448	通常のエンキューに、無効な QNR が見つかりました。QNR は、メッセージ内ではゼロである必要があります。
014	Reg15=X'14' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFQNR がオンでない	RENO0448	通常の再エンキューに、無効な QNR が見つかりました。QNR は 1 である必要があります。
015	Reg15=X'15' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1=QMRNQFCM	CKDS0110	REENQUEUE を要求する呼び出し元は、単純通信呼び出しであることが必要です。
02B	Reg15=X'2B' QSAPABR0=A(DEQ チェーン) QSAPABR1=A(ENQ チェーン)	GFTD0260 GFTD0400 GFPD0400 GFPD0405	デキュー・チェーンとエンキュー・チェーンの両方がゼロである必要があるのに、いずれか一方がゼロではありませんでした。
02B	Reg15=X'2B' QSAPABR0=A(ENQ チェーン) QSAPABR1=A(DEQ チェーン)	GFTD0410 GFTD0415 GFPD0410 GFPD0415	デキュー・チェーンとエンキュー・チェーンが両方ともゼロ以外である必要があるのに、いずれか一方がゼロでした。
02C	Reg15=X'2C' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) MSGMDRRN=QTPFRRN	ENQ0444 RENO0444	エンキューまたは再エンキューの対象としてアクセスされたメッセージが、それ自体を指していませんでした。
02C	Reg15=X'2C' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	ENQ0446 RENO0446	エンキューまたは再エンキューの対象としてアクセスされたメッセージが、メッセージの先頭レコードではありませんでした。
033	Reg15=X'33' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1BKR がオン	RENO0150	バックアップ・キュー呼び出しに対する REENQUEUE の実行時に、QDFLG1 では存在が示されていましたが、メッセージが存在していませんでした。
033	Reg15=X'33' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット:5=0 QDF1BKR がオフ	RENO0160	バックアップ・キュー呼び出しに対する REENQUEUE の実行時に、QDFLG1 では存在しないことが示されていましたが、メッセージが存在していました。
034	Reg15=X'34' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: QLNQCREQ がオン、または DCDLI がオフ	GFTD0090 GFTD0100	REENQUEUE 呼び出しがバックアップ・キュー以外のキューに対して実行されたか、または DL/I が ENQUEUE 要求の呼び出し元ではありませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
035	Reg15=X'35' Reg7=A(QDEST)	GFPD0320	CNT チェーンに壊れたキューが見つかりました。QBLK が割り当てられていない場合は、メッセージが存在するキューがあってはなりません。
041	Reg15=X'41' Reg6=A(検出されたエラー) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DECB) Reg10=A(メッセージ) Reg11=A(QSCD)	SQENQ450	レジスタ 10 が指しているメッセージに、必要なトランザクション管理ルーター・セグメント項目 X'8C' が入っていません。
046	Reg15=X'46' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2MSC がオフ	CONV4600	ENQUEUE 呼び出しの実行時に、MSC セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
046	Reg15=X'46' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2MSC がオン	CONV46ER	ENQUEUE 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、MSC セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
04C	Reg15=X'4C' Reg5=A(QSAPWKAD) Reg6=A(検出されたエラー) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DECB) Reg11=A(QSCD)	SQENQ300	UOWE ブロックに対する DFSBCB 要求が失敗しました。戻りコードは QSAPAB15 に入っています。戻りコードについては、FSBCB マクロの BCBRC を参照してください。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻り コード	RETORD10	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたのですが、失敗しました。
055	Reg15=X'55' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: QLNQCTMP がオン	REENQ	REENQUEUE 関数の実行時の一時的宛先が無効です。
056	Reg15=X'56' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ	RENO0050	現行呼び出しがアクティブであれば、通信 REENQUEUE 呼び出しは無効です。
060	Reg15=X'060' Reg5=A(ログ・レコード) Reg10=A(メッセージ)	ENQ0490	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
060	Reg15=X'060' Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(CLB) Reg10=A(メッセージ)	RENO0513	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
060	Reg15=X'060' Reg3=A(CCB) Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッセージ)	CONV4625 CONV4820	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

DFSQFIX0 の場合:

DFSQFIX0 は、キュー・データ・セットおよびチェーンが必ず有効になるようにします。これは、キューを検査して、無効なレコードをすべて除去または訂正します。レジスター 14 は、QSAPWKAD 領域を指しています。ほとんどの場合、IMS の再始動時に DFSQFIX0 で 0757 異常終了が発生すると、リカバリーには /ERE COLDCOMM または IMS のコールド・スタートが必要です。

SC	キー・データ	ラベル	説明
801	Reg15=X'801' Reg10=A(メッセージ) QSAPAB15=CHKRCD 戻りコード	MCHNCK4	メッセージのレコードを検査しているときに、リカバリー不能メッセージが検出されました。
802	Reg15=X'802' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	NOAPPC	メッセージ・レコードを検査しているときに、フラグには存在が示されていましたが、APPC システム・セグメントが検出されませんでした。
803	Reg15=X'803' QSAPAB15=SCDLSCD 値	LOGDST10	X'3C' ログ・レコードを記録しようとしたが、ブロックが SMB、CNT、LNB、QAB、または TIB ブロックではありませんでした。
804	Reg15=X'804' QSAPAB15=DFSLUMIF 戻りコード	LOGDST26	APPC TIB ブロックの X'3C' ログ・レコードを記録しようとしたが、LUP トークンを取得できませんでした。
805	Reg15=X'805' Reg10=A(メッセージ) QSAPAB15=DFSLUMIF 戻りコード	CHKRCD1E	APPC メッセージ・レコードの検査時に、宛先が一致しませんでした。
806	Reg15=X'806' QSAPAB15=DFSLUMIF 戻りコード	LOGDST46	APPC QAB ブロックの X'3C' ログ・レコードを記録しようとしたが、LU、SIDE、および TP 名を取得できませんでした。
807	Reg15=X'807' Reg2=A(CCB) Reg10=A(メッセージ)	MCHNCK1C	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
807	Reg15=X'807' Reg7=A(CCB) Reg10=A(メッセージ)	CKCCB3	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

DFSQGU00 の場合:

DFSQGU00 は、キュー・マネージャーの GET コマンド・プロセッサです。これは、UNIQUE および NEXT という 2 つのタイプの GET コマンドを処理します。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'02' get unique

X'03' get next

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 または DRRN	QGUFIRST QGUCONT_10 QMGGNT DLIGU	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。継続呼び出しの場合、QTPQMBA はゼロであってはなりません。

SC	キー・データ	ラベル	説明
004	Reg15=X'04' Reg10=A(メッセージ) MSGMDRRN=QTPFRRN	BYP62ENQ	ENQUEUE 呼び出しに関して、PCB が正しくないことが判明しました。メッセージの DRRN が、メッセージの先頭バッファの DRRN に等しくありませんでした。
009	Reg15=X'09' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG3 ビット: QTPQCOMP がオン QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ	QGUAB09	GU 継続呼び出しの実行時に、呼び出し元が DL/I または RESTART ではありませんでした。
00F	Reg10=A(メッセージ) Reg8=A(QTPPCB)	BSHR1270 BSHR1290 BSHR1280	メッセージ・チェーンが壊れています。
018	Reg15=X'18'	QMGGN10	GN 呼び出しの実行時に、入力レコードのセグメント長が無効でした。
018	Reg15=X'18' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	GUGNSEG1	GN 呼び出しの実行時に、入力レコードのセグメント長が無効でした。
019	Reg15=X'19' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	GUGN100 MGN0070	GN 呼び出し中に次のレコードを取得しようとしたが、返されたレコードが先頭レコードでした。
01D	Reg15=X'1D'	GU11 GU20 GU61 BY60520	宛先アドレスがフルワード境界に位置合わせされていませんでした。
01E	Reg15=X'1E' Reg7=A(QDEST) SMBFLAG2 ビット: SMB2RMT がオフ	GU12	Communications がローカル SMB に対して GU を発行しました。
01F	Reg15=X'1F' Reg7=A(QDEST)	GU14A	GU 呼び出しに関して、無効な QNR 番号が提供されました。
021	Reg15=X'21' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QTPFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない	GU61A	GU 呼び出しの実行時に、宛先が SMB のアドレスではありませんでした。
021	Reg15=X'21' Reg7=A(QDEST) SMBFLAG2 ビット: SMB2RMT がオン	GU61B	GU 呼び出しの実行時に、宛先 SMB がリモートでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
022	Reg15=X'22' Reg4=A(バッファ接頭部) Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	GU21	壊れたキューが見つかりました。GU 呼び出しの実行時に、次のメッセージがチェーンの先頭レコードで始まっていませんでした。
023	Reg15=X'23' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	GU65	DL/I、RESTART、または GU 呼び出しの実行時に、壊れたキューが見つかりました。GU 呼び出しをログに記録するためにメッセージへのアクセスが行われたとき、コピー対象の先頭レコードがメッセージの先頭レコードではありませんでした。
024	Reg15=X'24' Reg10=A(メッセージ)	GUCSWEND GU10_1D GU10_3D GU67	メッセージのチェーン・ポインタが壊れていたか、または正しく終了していませんでした。
025	Reg15=X'25' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) MSGODSTN'=QDNAME QTPOFST ビット: QLGUFOPD がオン	GU81 RELOC_40 RELOCABD	宛先が誤ったキューに入っていました。
025	Reg15=X'25' Reg7=A(QDest) Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) MSGODSTN'=QDNAME	MGUCM460	宛先名が、メッセージにある名前と一致しません。
026	Reg15=X'26' Reg10=A(メッセージ) Reg8=A(QTPPCB)	GU82 GU83 MGUCM500 MBUCM520	PCB とメッセージ QNR が等しくありませんでした。
02D	Reg15=X'2D' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	GU18 GU23 SHR0020 SHRA100 SHRA120 SHRLKCLN MGUSQ200	GU 呼び出しの実行時に、返されたメッセージが先頭レコードではありませんでした。
03D	Reg7=A(QDEST)	SHR4120 SHR0007	LOCAL=yes オプションが指定された GU 呼び出しの実行時に、QBLK が割り当てられませんでした。
040	Reg15=X'40'	QMGNT05 MGN0030	前の GU 呼び出しでメッセージの検出に失敗した後で、GN 呼び出しが発行されました。

SC	キー・データ	ラベル	説明
041	Reg15=X'41' Reg10=A(メッセージ)	GU30A1 GU32A GU32C GU64_A1 GU72_005 GU72G GU72I GU79_A GU79A GU80AB42 DEL0185 DEL0200 MGUCM100 MGUCM160 MGUCM420	GU 呼び出しの実行時に、APPC セグメント、TMR セグメント、会話接頭部セグメント、拡張接頭部セグメント、WLM 接頭部セグメント、またはセキュリティー・セグメントのうちのいずれかのセグメント項目が、メッセージ接頭語から欠落していました。
043	Reg15=X'43' Reg10=A(メッセージ)	GU66AB43 GU68AB43 BYP60310 GU75AB43 GU75AE43 SHRLK055	DL/I GU 呼び出しの実行時に、TMR セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
044	Reg15=X'44' Reg10=A(メッセージ)	GU80AB44 MGUCM300	GU 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、RACF セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
048	Reg15=X'48' Reg10=A(メッセージ)	GU80AB48 MGUCM380	GU 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、ISC セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
049	Reg15=X'49' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG3 ビット: QTPQCOMP がオン	QMGGUF	シリーズの最初の GU 呼び出しの実行時には、メッセージが完了してログに記録されている必要があります。その後でなければ、GU 呼び出しは処理できません。
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻り コード	DFSQGU09 QGU09_300 PREFUPDT SHR0050 SHR0110 REC_BUF REC_BUF200 QLD0LOG CQS_DEL DEL0170 SHRLK045	QMBA、UOWE、または QLST を取得しようとしたが、失敗しました。
04E	Reg15=X'4E' QSAPIFL1 ビット: QSAP1PRM がオフ	GU30B GU64A GU74B GUGNEXIT MGUCM660	パラメーター・リスト・インターフェースが、キュー・マネージャーとの通信に使用されませんでした。
04F	Reg15=X'4F'	GU16	宛先を指定しない GU 呼び出しが発行され、QSAPAREA フィールドに提供された DRRN が無効でした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
050		QGU09_200 QGU09_400	GU 呼び出しの間に、キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたが、失敗しました。
058	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻り コード	QGUCONT1 QMGGUT DLIGU010 BYP60500	GU 呼び出しの実行時に、宛先アドレスがゼロでした。
060	Reg15=X'58' Reg8=A(QTPPCB) QTPDST=0	GU790CA	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
061	Reg15=X'061' Reg6=A(ABEND) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DECB) Reg10=A(メッセージ) Reg11=A(QSCD)	SHR1150 SHR1250 BSHR1235 BSHR1250	CQS のメッセージ・レコードが、ラージ・メッセージ・キュー・バッファのサイズよりも大です。
063	Reg15=X'063' Reg6=A(ABEND) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DECB) Reg11=A(QSCD)	QGUCONT4 BYPRTN BYP000 CONTRTN BYP60320 GU10_1A GU61F SHRQRTN_DC GU60 GUISRTN BYPQRTN MGUSQ100	呼び出されたルーチンから返された戻りコード値が無効です。

DFSQIS00 の場合:

DFSQIS00 は、キュー・マネージャーの INSERT コマンド・プロセッサです。これは、LOCATE、PREFIX、MOVE、MOVE(スパン可能) の 4 つのタイプの INSERT コマンドを処理します。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

- X'0A' Insert Locate
- X'0B' Insert Move
- X'15' エラー出口 - メッセージ転送
- X'1A' Insert Prefix (接頭部内のフィールドを更新)
- X'1B' Insert Move (スパン可能呼び出し)

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 または DRRN	QIS1000 QISCONT	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。

SC	キー・データ	ラベル	説明
006	Reg15=X'06' Reg1=a (メッセージ・テキスト) MSGXFLG1 ビット: MSGX1FST がオフ	ISMF10J	メッセージ・テキストの先頭セグメントではありません。
006	Reg15=X'06' Reg3=必要なレコード・サイズ Reg4=拡張接頭部の長さ	ISIEPHAL	メッセージ接頭語が長すぎてメッセージ・レコードに収まりません。
006	Reg15=X'06' Reg3= 残りのメッセージ・ テキストの長さ Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: FSPC がオン	ISMF60	直前の呼び出し元が宛先 DCB の LRECL を超過していました。
006	Reg15=X'06' Reg3= 残りのメッセージ・ テキストの長さ Reg10=A(メッセージ)	ISMC30	INSERT-MOVE 呼び出しの実行時に、直前の呼び出し元が宛先 DCB の LRECL を超過していました。
00A	Reg15=X'0A' Reg11=A(SCD) SCDSSTYP ビット: SCDSSDBC がオン	PREFO20	INSERT-PREFIX 呼び出しの実行時に、DBCTL システムから UPDATE FORMAT-NAME が要求されました。MFS がないので、DBCTL システムではこの要求は無効です。
00C	Reg15=X'0C' QSAPPFUN ビット: QMGOPIL がオンでない	ISMCONTS	処理中の呼び出しは INSERT-MOVE SPANNABLE ですが、直前の呼び出しが INSERT-LOCATE ではありませんでした。
00F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	ISICMP	無効な継続メッセージ・セグメントです。メッセージの最後の DRRN が検出されました。
00F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGRDRRN= 元の DRRN	ISICMP10	無効な継続メッセージ・セグメントです。レコードの DRRN が元の DRRN に等しくありません。
00F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGRDRRN= 最初の バッファの DRRN	ISICMP20	無効な継続メッセージ・セグメントです。メッセージの DRRN が、最初のバッファ (QTPFRRN) の DRRN に等しくありません。
010	Reg15=X'10' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0	QIS0900	正しくない INSERT-PREFIX 要求が出されました。
03E	Reg15=X'3E' Reg11=A(SCD) SCDPRDEF ビット: SCDPDMUL がオフ	PREFO21	INSERT-PREFIX 呼び出しの実行時に UPDATE MSC FLAGS が要求されましたが、MSC がシステムに含まれていませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
046	Reg15=X'46'	PREF021C	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、UPDATE MSC FLAGS 要求の処理中ですが、MSC のシステム・セグメントが無効です。
046	Reg15=X'46'	PREF022A	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、UPDATE RESPONSE MODE INDICATOR 要求の処理中ですが、MSC のシステム・セグメントが無効です。
047	Reg15=X'47' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオフ	PREF029	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です (セグメント項目が存在しません)。
047	Reg15=X'47' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	PREF029B	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です。
047	Reg15=X'47' QSAPABR2= 新規 APPC length	PREF029C	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です (新規 APPC の長さがセグメント項目の長さ等に等しくありません)。同じではありません。
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻り コード	ISLF10 ISMF10	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を取得しようとしたが、失敗しました。
060	Reg15=X'060' Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッセージ)	PREF028D	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

DFSQLOG0 の場合:

DFSQLOG0 は、IMS 中核の一部として存在していて、論理的にはキュー・マネージャー・モジュールの拡張機能です。これは、以下の 2 つの機能を実行します。

1. メッセージが IMS メッセージ・キューに挿入されるにつれて、メッセージ接頭語を作成し、メッセージ・レコードをログに記録する (01 および 03 レコード)。
2. DFSQMGR0 での必要に応じて、他のログ・レコードを作成する。

入り口では R0 に以下のログ・コードが入っています。

- X'00' メッセージの先頭レコード
- X'01' メッセージの先頭以外のレコード
- X'02' DL/I 入力リジェクト
- X'03' QBLK 付き転送
- X'04' QBLK なしで転送 (ロギングは実行されない)
- X'05' DL/I メッセージ GU
- X'06' 非 DL/I メッセージ GU
- X'07' 解放 (後続のチェーンを受け入れ)
- X'08' 解放 (後続メッセージ・セグメントなし)
- X'09' 入力解放 (入力メッセージなし) (ロギングなし)
- X'0A' 入力メッセージ解放
- X'0B' 出力メッセージ解放 (出力キュー解放)

X'0C'	メッセージのエンキューまたは再エンキュー
X'0D'	キューからの DEQ/SAVE/DELETE
X'0E'	キュー 5 からの DEQ/SAVE/DELETE
X'0F'	メッセージのキャンセル
X'10'	メッセージ接頭語情報
X'11'	ROLS からの RELB 時に TDEST から出力メッセージを解放
X'12'	ROLS からの RELB 時にメッセージ DRRN を更新
X'13'	ROLS からの RELB 時に QBLK を更新
X'14'	入力メッセージ解放の終わり (REL/ROLB または ROLS)
X'15'	REL/ROLS の終わり

SC	キー・データ	ラベル	説明
301	Reg15=X'301' Reg1= ログ・コード * 2	QLOG0100	無効なログ・コードが検出されました。有効なコードのリストについては、DFSQLOG0 分析セクションを参照してください。
306	Reg15=X'306' Reg14=CTBCNTPT=A(ソース CNT) CNTFLG2 ビット: CNTF2CNT がオンでない	MSG235	入力端末 CTBCNTPT の CNT オフセットが無効です。
309	Reg15=X'309' Reg8=A(QTPPCB) QTPDST=0	MSG320 MSG520A1 MSG522	出力宛先オフセットが設定されていません。
30A	Reg15=X'30A' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2PRM がオフ	MSG523	メッセージが永続宛先用ではありませんでした。
30B	Reg15=X'30B' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない	MSG520A	宛先の CNT オフセットが無効でした。
30B	Reg15=X'30B' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない	MSG525	宛先の SMB オフセットが無効でした。
30C	Reg15=X'30C' Reg4=A(ログ・レコード) MSGFLG2 ビット: MSGFFRST がオフ	MSG528	接頭部を作成しようとしたとき、ログに記録するレコードがメッセージの先頭セグメントではありませんでした。
30C	Reg15=X'30C' Reg3=A(メッセージ) MSGFLG2 ビット: MSGFFRST がオフ	DEQ90 XFER90	返されたレコードは、デキューするメッセージまたは転送するメッセージの先頭レコードではありませんでした。
30D	Reg15=X'30D' Reg4=A(ログ・レコード) MSGFLG2 ビット: MSGFFRST がオン	LMSGB	接頭部を作成しようとしたとき、ログに記録するレコードがメッセージの先頭セグメントでした。
30E	Reg15=X'30E' Reg4=A(ログ・レコード) MSGRDRRN または MSGMDRRN が X'04' または X'08' に 等しくない	MSG600 MSG612	レコード DRRN またはメッセージ DRRN が X'04' または X'08' に等しくありませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
30F	Reg15=X'30F' Reg4=A(ログ・レコード) Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPAB15=ILOG 戻りコード	MSG6216 QLOG93	論理ロガーは、リカバリー不能メッセージのレコードの一部 (短い部分) またはレコード全体をログに記録できませんでした。
310	Reg15=X'310' Reg7=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない、かつ QDF2CNT がオンでない	GU3	GU 呼び出しの実行時に、宛先が CNT でも SMB でもありませんでした。
310	Reg15=X'310' Reg4=A(QLGURCD) Reg11=A(SCD) QLGUFLGS ビット: QLGUFDLI がオフ SCDPRDEF ビット: SCDPDMUL がオフ	GU5	通信 SMB 宛先を使用する GU 呼び出しの実行時に、MSC がシステムにありませんでした。
311	Reg15=X'311' Reg4=A(ログ・レコード) MSGFLAGS ビット: MSGFQNR がオフでない	MSG614	メッセージ接頭語 (MSGFLAGS の下位 4 ビット) に、メッセージ・キュー番号 (QNR) が予定外に検出されました。DFSQLOG0 は、QTPQNR からのフィールドを設定する前にこの検査を行います。このフィールドは本来はゼロでなければなりません。
312	Reg15=X'312' Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPAB15=A(メッセージ)	MSG199 MSG15A MSGI05	接頭部を作成しようとしたときに、MSC セグメント項目がメッセージ接頭語に含まれていませんでした。
312	Reg15=X'312' Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPAB15=A(メッセージ)	QLOG3010	APPC 接頭部をログ・レコードに追加しようとしたときに、APPC セグメント項目がメッセージ接頭語に含まれていませんでした。
313	Reg15=X'313' Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPAB15=DFSPPOOL 戻りコード	QLOG3020	ログ・レコードを完了するためのストレージを HIOP から取得できませんでした。
314	Reg15=X'314' Reg3=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオフ	XFER91	メッセージを転送しようとしたとき、トランザクションが APPC トランザクションではありませんでした。
315	Reg15=X'315' Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPXFRB=A(宛先 QBLK)	XFERDQLP	APPC トランザクションのメッセージを転送しようとしているときに、QBLK の 5 つのキューのいずれにもメッセージがありませんでした。
316	Reg15=X'316' Reg4=A(メッセージ)	LMSGA	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

DFSQMGR0 の場合:

DFSQMGR0 は、どの機能が要求されたかを判別して、適切なモジュールを呼び出します。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン MSGDFLG3 ビット: MSGF3NOE がオフ	CANCI025	無効な CANCEL INPUT 呼び出しが DL/I によって行われました。
001	Reg15=X'01' QSAPPFUN ビット: FOUT がオン QTPFLG3 ビット: QTPQCOMP がオフ	QMAGENT45	前の呼び出しは入力で、現在の呼び出しは出力です。QSAPXFUN には要求された機能が入っていますが、呼び出し元 ID がなく、QSAPCFUN に呼び出し元 ID が入っています。
001	Reg15=X'01' QSAPPFUN ビット: FOUT がオフ QTPFLG1 ビット: QMRNQFDL がオフ	QMAGENT4A	前の呼び出しは出力で、現在の呼び出しは入力です。QSAPXFUN には要求された機能が入っていますが、呼び出し元 ID がなく、QSAPCFUN に呼び出し元 ID が入っています。
002	Reg15=X'02' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: FDN がオン	RPOS0500	現在のメッセージなしで、位置変更呼び出しが行われました。
00B	Reg15=X'0B' Reg10=A(メッセージ) Reg11=A(SCD) SCDSSTYP ビット: SCDSSDBC がオン	PREFI	フォーマット名を取り出す必要があるのに、フォーマット・サービスが (DBCTL) システムにありません。
01C	Reg15=X'1C' QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ	QMREJECT	REJECT 呼び出しの実行時には、呼び出し元は DL/I でなければなりません。
020	Reg15=X'20' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG3 ビット: QTPQMBP がオフ	QMAGENT1	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファー作業域 (QMBA) が使用不可です。
02B	Reg15=X'2B' Reg10=A(QBLK) Reg0= デキュー・チェーン Reg1= エンキュー・チェーン	MCINS100 MCINS120	デキュー・チェーンとエンキュー・チェーンが両方ともゼロである必要があるのに、いずれが一方がゼロではありませんでした。
02B	Reg15=X'2B' Reg10=A(QBLK) Reg0= デキュー・チェーン Reg1= エンキュー・チェーン	MCINS140 MCINS150	デキュー・チェーンとエンキュー・チェーンが両方ともゼロ以外である必要があるのに、いずれか一方がゼロでした。
035	Reg15=X'35' Reg7=A(QDEST)	MCINS060	CNT チェーンに壊れたキューが見つかりました。QBLK が割り当てられていない場合は、メッセージが存在するキューがあってはなりません。
03D	Reg15=X'3D' Reg6=A(ABEND) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DEC B) Reg11=A(QSCD)	CANCI110 CANCI200	CANCEL INPUT 呼び出しの CNT に QBLK レコードが割り当てられていませんでした。

SC	キー・データ	ラベル	説明
048	Reg15=X'48' Reg10=A(メッセージ)	RPOSERR	GU 呼び出しの実行時に、接頭部フラグには存在が示されていましたが、ISC セグメント項目が接頭部に含まれていませんでした。
04B	Reg15=X'4B' QSAPAB15=DFSQC080 戻りコード	QMGENT38	IMS はクリーンアップ・ルーチン (DFSQC080) に分岐します。クリーンアップに失敗した場合は、ゼロ以外の戻りコードがレジスター 15 に入れられます。
04C	Reg15=X'4C' Reg3= 機能コード Reg8=A(QTPPCB) QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード QSAPCFUN= 呼び出し元 ID + 機能コード QTPRRN=0 または DRRN	QMGENTC	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を再取得しようとしたが、失敗しました。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。 この失敗の原因は、通常、IMS 制御領域の「REGION=」JCL パラメーターに指定した仮想ストレージの量が不足していることです。
04D	Reg15=X'4D' QSAPAB15=DFSCLM 戻りコード	QMGRATE	QLOG が取得した DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	RELQMBA	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたが、失敗しました。
008	Reg15=X'08' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	MCI0120	返されたレコードが、取り消すべきメッセージの先頭レコードではありませんでした。

DFSQNP00 の場合:

DFSQNP00 はキュー・マネージャーの NOTE および POINT コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'1F' Note

X'3F' Point

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00'	QMGNP005	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。
00D	Reg15=X'0D' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0	QMGNP010	呼び出しが継続呼び出しでない場合、NOTE/POINT 機能要求は無効です。
017	Reg15=X'17' QSAPCSV1= 直前の機能コード	QMGNP020	NOTE/POINT 機能が要求されましたが、前の呼び出しが無効でした。NOTE/POINT 呼び出しは、GU、GN、または DL/I ROLB 呼び出しの後に続く必要があります。

SC	キー・データ	ラベル	説明
018	Reg15=X'18' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	GUGNSEG1	入力レコードのセグメント長が無効でした。
019	Reg15=X'19' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	GMGGNT4	次のレコードを取得しようとしているときに、返されたレコードが先頭レコードでした。
01A	Reg15=X'1A' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPFRRN-=MSGMDRRN MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	POINT10	POINT 呼び出しの実行時に、返されたレコードがメッセージの先頭レコードでも、同じメッセージの一部でもありませんでした。
01A	Reg15=X'1A' Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DECB) Reg10=A(メッセージ) QTPFRRN-=DECBRBN MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	POINT20	POINT 呼び出しの実行時に、返されたレコードはメッセージの先頭レコードでしたが、そのレコードは同じメッセージの一部ではありませんでした。
01B	Reg15=X'1B' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	POINT55	現在のメッセージを再読み取りする DL/I POINT 呼び出しの実行時に、メッセージの先頭レコードを取得できませんでした。
059	Reg15=X'59' Reg10=A(メッセージ)	POINT30	POINT 呼び出しの実行時に、提供されたレコード・オフセットがレコードを超えています。
05A	Reg15=X'5A' Reg10=A(メッセージ)	POINT31	POINT 呼び出しの実行時に、処理されるメッセージへのオフセットの LL が 4 以下でした。
05E	Reg15=X'5E' Reg10=A(メッセージ)	POINT32	POINT 呼び出しの実行時に、オフセットに LL を加算した結果がレコードを超えました。

DFSQRH00 の場合:

DFSQRH00 は、新規パラメーター・リスト・インターフェースです。このパラメーター・リストは、dsect DFSQMGR によって記述されます。

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'000' Reg4=A(DFSQMGR) QMGRFUNC= 機能 コード	QRH24000 QRH25000 QRH26000	要求された機能が無効です。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。機能コードは、レジスター 4 が指しているパラメーター・リストの中にあります。このパラメーター・リストをマップする DSECT は DFSQMGR です。

SC	キー・データ	ラベル	説明
901	Reg15=X'901' Reg5=A(QSAPWKAD) QSAPABR0=APPC 接頭部長 QSAPABR1=A(APPC 接頭部)	QRH11000 QRH12000 QRH27000 QRH28000	APPC 接頭部の長さがゼロまたは負です。この長さは、QSAPABR1 が指す接頭部の最初のハーフワードに入っています。

DFSQRL00 の場合:

DFSQRL00 は、キュー・マネージャーの RELEASE コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'16' Release

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00'	REL10	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。
02E	Reg15=X'2E' Reg7=A(QDEST) Reg10=A(メッセージ) MSGODSTN=QDNAME	REL190	RELEASE 呼び出しの実行時に、宛先が無効でした。
02F	Reg15=X'2F' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1LQ1 がオン	REL215	メッセージが解放された後で、SMB が空ではありませんでした。
02F	Reg15=X'2F' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1LQ1 がオフ	REL230	前のメッセージが存在していたので、SMB は、中に含まれているものがあることを示すフラグを立てる必要がありました。
04A	Reg15=X'4A' Reg10=A(QBLK) QSAPAB15=DFSFNDDST 戻りコード	REL337 REL634	QBLKDSTN フィールドに指定された宛先が見つかりませんでした。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	REL1020	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたが、失敗しました。
051	Reg15=X'51' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG3 ビット: QTPQMBP がオフ	REL175 REL280	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) が使用不可でした。
060	Reg15=X'060' Reg2=A(CTB) Reg5=A(QSAP) Reg7=A(CNT) Reg10=A(ログ・レコード)	REL340	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
065	Reg15=X'65'	REL1120	保護会話メッセージの処理時に、RRE アドレスが呼び出し元から渡されませんでした。

DFSQRSQ0 の場合:

DFSQRSQ0 モジュールは、共用キュー環境での IMS キューの ERE 再始動を取り扱います。ERESTART が、このモジュールの唯一の呼び出し元です。DECTYPE に、呼び出しタイプまたは実行する必要のある機能が記述されています。

X'00' BUILDQ 処理

- X'01' ERE 作業域初期設定
 X'02' キュー・マネージャーのログ・レコードの ERE 処理
 X'03' ERE クリーンアップ処理

SC	キー・データ	ラベル	説明
205	Reg15=X'205' Reg5=A(ログ・レコード) Reg3=A(メッセージ)	UPDMSG00 UPDMSG01	セグメント拡張または TMR セグメントのいずれかのセグメント項目が、メッセージ接頭語から欠落していました。
206	Reg15=X'206' Reg5= メッセージ・レコード length	BLDMSG0B	メッセージ・レコード長が、論理レコード長より大でした。
209	Reg15=X'209' Reg9=A(DECBC) DECBCTYPE=X'01'	BLDWKA10	作業域内に、少なくとも 2 項目分の十分なスペースがありませんでした。
20A	Reg15=X'20A' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBCTYPE=X'02'、 X'03'、または X'04'	QRSQERE	キュー再始動作業域が ERE 処理用に初期設定されていませんでした。
20B	Reg15=X'20B' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBCTYPE=X'01' SCDQRWKA=0	BLKWKA	キュー再始動作業域がありませんでした。
20C	Reg15=X'20C' Reg8=A(RWKA)	FRWKABND	作業域を解放しようとしたとき、作業域チェーン・ポインター・アドレスがゼロでした。
20D	Reg15=X'20D' Reg5=A(ログ・レコード) Reg9=A(DECBC) DECBCTYPE=X'02' MSGLCODE=X'01'、 X'03'、または X'07' で、 かつ、 (X'30' ≤MSGLCODE≤X'3F') ではない	QLOGREC QLOGRECA PPLOOPA PPCLN30	ログ・コードが、X'01'、X'03'、X'07' でもなければ、キュー・マネージャー・ログ・レコード (X'30' から X'3F') でもありませんでした。
215	Reg15=X'215' Reg5=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	QLOGRINB	X'01' または X'03' APPC メッセージを挿入しようとしたときに、QAB/TIB が見つからなかったか作成されておらず、宛先が SMB ではありませんでした。
21C	Reg15=X'21C' Reg7= ログ・レコード長 Reg5=A(ログ・レコード)	BLDPFX0B UPDPFXI2	許容メッセージ長を超えました。
21F	Reg15=X'21F' Reg5=A(ログ・レコード)	QLOGRINA	BUILDQ 処理の実行時に、フラグには存在が示されていましたが、APPC システム・セグメント・ヘッダーがありませんでした。

DFSQRST0 の場合:

DFSQRST0 モジュールは、緊急時再始動に関するキュー・ログ・レコードを取り扱い、ERESTART の終わりに最終クリーンアップを実行します。ERESTART が、このモジュールの唯一の呼び出し元です。DECTYPE に、呼び出しタイプまたは実行する必要のある機能が記述されています。

- X'00' BUILDQ 処理
 X'01' ERE 作業域初期設定
 X'02' キュー・マネージャーのログ・レコードの ERE 処理
 X'03' ERE クリーンアップ処理

SC	キー・データ	ラベル	説明
205	Reg15=X'205' Reg3=A(メッセージ) Reg8=A(ログ・レコード)	PMSGI20	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
205	Reg15=X'205' Reg5=A(ログ・レコード) Reg14=A(メッセージ)	PENQ33A	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
205	Reg15=X'205' Reg1=A(CCB) Reg14=A(メッセージ)	PENQ34C	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
206	Reg15=X'206' Reg5= メッセージ・レコード length Reg5>DCBLRECL	PBUILDQP	メッセージ・レコード長が、論理レコード長より大でした。
209	Reg15=X'209' Reg9=A(DECBC) DECBCYPE=X'01'	BLDWKA11	作業域内に、少なくとも 2 項目分の十分なスペースがありませんでした。
20A	Reg15=X'20A' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBCYPE=X'02' または X'03'	QRSTERE	キュー再始動作業域が ERE 処理用に初期設定されていませんでした。
20B	Reg15=X'20B' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBCYPE=X'01' SCDQRWKA=0	BLDWKA	キュー再始動作業域がありませんでした。
20C	Reg15=X'20C' Reg8=A(RWKA)	FRWKABND	作業域を解放しようとしたとき、作業域チェーン・ポインター・アドレスがゼロでした。
20D	Reg15=X'20D' Reg5=A(ログ・レコード) Reg9=A(DECBC) DECBCYPE=X'02' MSGLCODE≠X'01'、 X'03'、または X'07' で、 かつ、 (X'30'≦MSGLCODE≦X'3F') ではない	QRSTERE1 QRSTERE2	ログ・コードが、X'01'、X'03'、X'07' でもなければ、キュー・マネージャー・ログ・レコード (X'30' から X'3F') でもありませんでした。
20E	Reg15=X'20E' Reg9=A(DECBC) DECBCYPE≠0、1、 2、または 3	CLNERE	無効な機能コードが検出されました。有効な機能コードのリストについては、DFSQRST0 分析セクションを参照してください。

SC	キー・データ	ラベル	説明
210	Reg15=X'210' Reg9=A(DECB) DECBRBN=0、4、または 8	PBUILDQG PISRT38 PENQ42	DFSQRST0 で無効な DRRN が検出されました。DRRN の「D」部分が X'00'、X'04'、または X'08' に等しくないか、DRRN の RRN 部分がゼロであるか、または DRRN の RRN 部分がデータ・セットの高範囲の外部にあります。RRN が高範囲の外部にある場合、原因は一般に、緊急時再始動の前にデータ・セット・サイズが減少したためです。
211	Reg15=X'211' Reg7=A(RWKID) Reg8=A(RWKA)	NGWKAPCB	呼び出し元の ID が使用中であってはならない条件のときに、その ID が作業域チェーン内で検出されました。
212	Reg15=X'212' Reg8=A(RWKA)	ACWKAPCB ACWKAXXX	異なる状況シリーズが作業域で検出されました。
213	Reg15=X'213' Reg8=A(RWKA) RWKMINOR= X'00'	PXFER18 PRELI88	XFER または RELI と同じ ID の古い作業域が検出されましたが、マイナー状況が一致しませんでした。
213	Reg15=X'213' Reg8=A(RWKA) RWKMINOR= X'01' または X'04'	PRELO80 PRELO90	RELO と同じ ID の古い作業域が検出されましたが、マイナー状況が一致しませんでした。
214	Reg15=X'214' Reg5=A(QLFNMRCD) QLFRFUNC= ログに記録された機能	PFREE70	作業域の外部で X'33' ログ・レコードを処理しているときに、ログに記録された無効な機能コードが検出されました。
215	Reg15=X'215' Reg5=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	PISRT34 PISRT80B	X'01' または X'03' APPC メッセージを挿入しようとしたときに、QAB/TIB が見つからなかったか作成されておらず、宛先が SMB ではありませんでした。 ラベル PISRT80B の場合、Reg14=A(メッセージ)
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLGURCD)	PGU10	X'31' ログ・レコードの処理時に、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLENQRCD)	PENQ20 PENQ31B	X'35' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLXFRRCD)	PXFER27	X'37' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLRIRCD)	PRELI10	X'38' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLFRERCD)	FENDC20	X'33' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLMCRCDD)	CLNC08 CLNDCUR	C または D クリーンアップ・シリーズ中に X'3E' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
216	Reg15=X'216' Reg5=A(QLDQSRCD)	PDEQABND	X'36' ログ・レコードを処理しているとき、宛先が見つかりませんでした。
217	Reg15=X'217' Reg8=A(RWKA) QLFRFLGS ビット: QLFRFEND がオフ	PFREE44	フリー・ログ・レコードの処理時にシリーズが X'0A' (ISRT) でしたが、これは無効です。

SC	キー・データ	ラベル	説明
217	Reg15=X'217' Reg8=A(RWKA) QLFRFLGS ビット: QLFRFEND がオン	PFREE50	チェーンの最終レコードのフリー・ログ・レコード処理時にシリーズが X'0A' でしたが、これは無効です。
218	Reg15=X'218' Reg8=A(RWKA) RWKMAJOR>X'10'	PFREE40	この「FREE」ログ・レコード用のシリーズが、許容最高シリーズより大でした。
219	Reg15=X'219' Reg5=A(QLMCRCD) MSGFLGS ビット: MSGFFRST がオン MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	CLNC04	C クリーンアップ・シリーズ中に X'3E' ログ・レコードのメッセージ DRRN を更新しようとしたとき、QAB/TIB が見つからなかったか作成されておらず、宛先が SMB ではありませんでした。
21A	Reg15=X'21A' Reg3=A(メッセージ接頭語)	PMSGI110	X'30' ログ・レコードの接頭部を変更しようとしたとき、QAB/TIB が見つからなかったか、作成されていませんでした。
21B	Reg15=X'21B' Reg14=A(メッセージ) Reg7=A(SMB)	CLNR24	同一メッセージに 2 回チェーニングしました。メッセージ・チェーンは壊れました。/ERE BUILDQ を実行して、メッセージ・キューを再作成してください。
21C	Reg15=X'21C' Reg3= ログ・レコード長 Reg5=A(ログ・レコード)	PISRT38	許容メッセージ長を超えました。
21D	Reg15=X'21D' Reg5=A(QLENQRCD) または A(QLDQSRCD)	PENQ60 PDEQ30A	X'35' または X'36' ログ・レコードを処理しているとき、OTMA T パイプが見つかりませんでした。
21E	Reg15=X'21E' Reg5=A(QLMCRCD)	CLND10A FDST00	D クリーンアップ・シリーズ中または FINDDEST の呼び出し時に X'3E' ログ・レコードを処理しているとき、ブロックが SMB、CNT、LNB、QAB、または TIB ブロックではありませんでした。
21F	Reg15=X'21F' Reg4=A(ログ・レコード)	PBUILDQC PISRTA1 PISRT80A	BUILDQ 処理の実行時に、フラグには存在が示されていましたが、APPC システム・セグメント・ヘッダーがありませんでした。

DFSQXF00 の場合:

DFSQXF00 は、キュー・マネージャーの TRANSFER コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'1E' Transfer

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00'	DFSQXF00	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。
027	Reg15=X'27' Reg7=A(QDEST)	XFR21	キューが空であることが判明しましたが、キュー・マネージャー宛先の DRRN がゼロではありませんでした。空のキューの場合はこれはゼロでなければなりません。

SC	キー・データ	ラベル	説明
028	Reg15=X'28' Reg9=A(DECBB) Reg10=A(最終メッセージ) MSGMDRRN=DECBB	XFR24	プリンターへの最終メッセージは、すでにこの DECBB にチェーンングされていました。
029	Reg15=X'29' Reg10=A(QBLK)	XFR32	一時宛先キューから CNT へのポインターの移動時に、フラグはそのキューにメッセージがあることを示していましたが、ポインターがゼロではありませんでした。
02A	Reg15=X'2A' Reg9=A(DECBB) Reg10=A(メッセージ) MSGMDRRN=DECBB	XFR34	移動されるメッセージは前方にチェーンングされてはなりません。
04A	Reg15=X'4A' Reg10=A(QBLK) QSAPAB15=DFSNDST 戻りコード	XFR11A	QBLKDSTN フィールドに指定された宛先が見つかりませんでした。
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	CQSDEL DEL040 GETQMBA GETQMBS PROTCONV PUTR200 QLD0LOG SHR215	UOWE、QMBA、QMBS、または QLST 作業域を取得しようとしたが、失敗しました。
04D	Reg15=X'4D' QSAPAB15=DFSCLM 戻りコード QSAPNQF2 ビット: QSAPLATE がオン	XFR46	QLOG が取得した DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	GQMBA_300 XFR80	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファ作業域 (QMBA) を解放しようとしたが、失敗しました。
05F	Reg15=X'5F' QSAPAB15=DFSUSE 戻りコード	XFR26	DFSUSE FUNC=INUSE 呼び出しが失敗し、X'1C' 以外の戻りコードが返されました。
064	Reg15=X'64' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ)	SHR100	CQS PUT のためにアクセスされたメッセージが、メッセージの先頭レコードではありませんでした。
066	Reg15=X'66' Reg4=A(メッセージ)	BSTQ1000 BSTQ1500 BSTQ2000 BSTQ3000 BSTQLOOP BSTQ5000 BSTQ6500	CQSPUT エラーの後でシリアル・トランザクションのステージ・キュー項目を再作成しているときに、ILOG Function Read 呼び出しから無効なメッセージが返されました。

図 1: メッセージ・キュー・マネージャーで使用する Dectype フォーマット

xx.. 呼び出し元 ID を定義します。

00.. 呼び出し元は通信です。

10.. 呼び出し元は DL/I です。(アプリケーション・プログラム要求)

- 01.. 呼び出し元はメッセージ生成プログラムです。
- ..x. Note/Point および Insert Move 呼び出しの特殊修飾子。
- ..0. Note/Point の場合、Note を示します。
- ..1. Note/Point の場合、Point を示します。
- ..1. メッセージ生成プログラムの Insert Move の場合、AOI 呼び出しを示します。
- x... 通常、入力 (キューにすでに入っているメッセージを処理) または出力 (メッセージをキューに入れるアクション) を示すために使用されます。
- 0... 入力操作クラス。
- 1... 出力操作クラス。
-x.. 通常、完了したメッセージをキューに入れるか、またはメッセージをキューから除去することによって、キュー・マネージャーに対する一連の呼び出しを終了するために使用されます。
-0.. 一連の呼び出しは完了していません。
-1.. 一連の呼び出しは完了しています。
- ..xx xxxx
これらのビットは、要求される機能を完全に定義するために使用されます。

機能	名前	説明
..00 0000	Get prefix	指定された接頭部情報を読み取ります。
..00 0001	Cancel input	入力要求を取り消します。
..00 0010	Get unique	次のメッセージの最初のセグメントを取得します。
..00 0011	Get next	現在のメッセージの次のセグメントを取得します。
..00 0100	Dequeue	このシリーズの呼び出しで読み取られたすべてのメッセージをデキューします。
..00 0101	Save	現在のメッセージを保管します。
..00 0110	Reject	指定された一時宛先から現在のメッセージをリジェクトします。
..00 0111	Delete	指定されたメッセージをキューから削除します。
..00 1000	Cancel output	現在の出力メッセージを取り消し、テキストを取り消し済みとしてログに記録します。
..00 1001	Cancel output	現在の出力メッセージを取り消しますが、テキストをログに記録しません。
..00 1010	Insert locate	出力メッセージ内に連続スペースを予約します。
..x0 1011	Insert move	出力メッセージにメッセージ・セグメントを挿入します。
..00 1100	Enqueue	完了したメッセージを永続宛先にエンキューします。(FIFO)
..00 1101	Enqueue	完了したメッセージを永続宛先にエンキューします。(LIFO)
..00 1110	Reenqueue	保管したメッセージを永続宛先に再エンキューします。(FIFO)
..00 1111	Reenqueue	保管したメッセージを永続宛先に再エンキューします。(LIFO)
..01 0000	Reposition	現在のメッセージの最後のセグメントに位置変更します。
..01 0001	Command input	指定されたコマンド用の AOI 処理を開始します。
..01 0010	AOI SYMSG	指定されたメッセージ用の AOI 処理を開始します。
..01 0011	Abort	現在のシリーズの呼び出し用の AOI 処理を強制終了します。
..01 0100	AOI term	現在のシリーズの呼び出し用の AOI 処理を強制終了します。
..01 0101	Error exit	MSC エラー・メッセージを転送します。
..01 0110	Release	指定された一時宛先からすべてのメッセージを解放します。
..11 0110	Release	ROLS 機能
..01 0111	Reserved	
..01 1000	Reserved	
..01 1001	Reserved	
..01 1010	Insert prefix	現在の出力メッセージのメッセージ接頭語に追加情報を挿入します。
..01 1011	Put spanned	出力メッセージのスパン・キュー・レコードにメッセージ・セグメントを挿入します。
..01 1100	Enqueue (Temp)	完了したメッセージを、後で永続宛先に転送する目的で、指定された一時宛先に FIFO でエンキューします。

機能	名前	説明
..01 1101	Enqueue (Temp)	完了したメッセージを、後で永続宛先に転送する目的で、指定された一時宛先に LIFO でエンキューします。
..01 1110	Transfer	指定された一時宛先から永続宛先にすべてのメッセージを転送します。
..x1 1111	Note/Point	一連の入力呼び出し内でのメッセージ位置を記録する (Note) か、または Note で記録された一連の入力呼び出し内のメッセージ位置を返します (Point)。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: まず、操作エラーによる異常終了の可能性を除去します。操作エラーが原因ではない場合は、異常終了時のレジスター 15 のサブコード値を使用して、問題の詳細な説明については、上記の「分析」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、6、8、11、35

最新の DUMPQ/BUILDQ、または最新のコールド・スタート以降のログ・データ・セットを保管します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQC010、DFSQC020、DFSQC030、DFSQC040、DFSQC060、DFSQC070、DFSQC080、DFSQBFM0、DFSQDQ00、DFSQEQ00、DFSQFIX0、DFSQGU00、DFSQIS00、DFSQLOG0、DFSQMGR0、DFSQNP00、DFSQRH00、DFSQRL00、DFSQRSQ0、DFSQRST0、DFSQXF00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0758

説明: システムが内部チェックポイント・ダンプ・キューを使用してシャットダウンされる前に、メッセージ・キュー・データ・セットがオーバーフローしました。

共用キューを使用して実行されている IMS の場合、DFSQC010 から異常終了 0758 が発行されます。これは、使用可能なすべてのデバイス相対レコード番号 (DRRN) が使い尽くされたためです。

分析: 0758 は標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、障害が発生したモジュールを指しています。

考えられる原因: この異常終了は通常、INSERT-LOCATE、INSERT-MOVE、または INSERT-MOVE-SPANNABLE を実行中の従属領域プログラムにループが生じたことが原因で発生します。

- 問題が INSERT-LOCATE の場合:
 - Reg5+X'168' = QSAPXFUN = X'0A'
 - Reg9+X'0C' = DECBAREA = テキストの長さ
- 問題が INSERT-MOVE の場合:
 - Reg5+X'168' = QSAPXFUN = X'0B'
 - Reg9+X'0C' = DECBAREA = テキストのアドレス
- 問題が INSERT-MOVE-SPANNABLE の場合:
 - Reg5+X'168' = QSAPXFUN = X'15'
 - Reg9+X'0C' = DECBAREA = テキストのアドレス

共用キューの場合、この異常終了は通常、QBUFMAX の設定が原因で発生します。QBUFMAX を低く設定しすぎると、使用可能なすべての DRRN を使い尽くしてしまうことがあります。キュー・プールで使用可能なバッファ数が無制限になるように、QBUFMAX パラメーターには値を設定しないでおくことをお勧めします。

QBUFMAX パラメーターについて詳しくは、IMS システム定義の説明を参照してください。

APAR 処理の場合: ABEND DUMP、コンソール・シート、システム・ログのコピー。

キー	ラベル	説明
Reg6=Bal	ASSIGN65	
Reg3=RRN	ASSIGN65	レジスター 3 の RRN がデータ・セットの最高 RRN より大きい場合、異常終了で QMGNOSPC への BAL が使用されます。 最高 RRN は、Reg7+X'74' のアドレスから X'0C' 離れた位置です。
REG2='QBLK' または 'SMSG' または 'LMSG'	ASSIGN65	レジスター 2 に、エラーのあるデータ・セットの ID が入っています。

レジスター 2 に「SMSG」または「LMSG」が入っていて、そのメッセージ・キュー用に複数のデータ・セットを定義してある場合は、データ・セットが正しく割り振られているかどうか確認してください。「実行データ・セット (インストール)」の中の IMS.QBLKS、IMS.SHMSG/1-9、IMS.LGMSG/1-9 に関する情報、および「IMS キュー・マネージャー (システム管理)」の中のメッセージ・キュー・データ・セットの割り振りに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 下記に示されたキュー・データ・セットのいずれかのスペース割り振りを増やしてから、キュー構築を指定してシステムを緊急時再始動する必要があります。IMS システム定義を実行することにより、シャットダウン・レコード数を増やすことができます。異常終了時のレジスター 14 の内容は、一杯になったキュー・データ・セットの DCB を指しています。

IMS.QBLKS
IMS.SHMSG
IMS.LGMSG

多くの場合、このエラーは、アプリケーション・プログラム内のループによって大量のメッセージ・データが作成されることが原因です。その場合には、ループしているアプリケーションからの出力は、ログ・データ・セットを調べることで識別できます。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQC010

0759

説明: メッセージ・キュー・データ・セットを読み取りまたは書き込みしようとして、キュー・マネージャーでリカバリ不能エラーが発生しました。入出力操作は 3 回再試行されます。再試行が成功しなかった場合は、異常終了が発行されます。

分析: 0759 は標準異常終了です。異常終了 SVRB のレジスターを調べて、DFSQBFM0 内のどこでエラーが検出されたかを判別する必要があります。

レジスター 3

内容

バイト 1

DECBTYPY からの OSAM 命令コード

バイト 2

入出力通知コード

バイト 3

DECBSTAT からの状況コード

バイト 4

DCB ID が入っています。ここで、
X'00' は、キュー・ブロック・データ・セットです。

0760

X'04' は、簡略メッセージ・キュー・データ・セットです。

X'08' は、詳細メッセージ・キュー・データ・セットです。

レジスター 9

エラーのある OSAM DECB を指します。

レジスター 2

エラーが検出された DFSQBFM0 のラベル名/エラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
DECB/=X'7F' (Reg9)、FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、STATUS=bb,cc (Reg3 バイト 2、3)、DCBid (Reg3 バイト 4)	D8C2C601 (Reg2)	入出力操作が、入出力エラーを示す IOS POST コードで完了しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0762Iが出力されます。
DECB/=X'7F' (Reg9)、FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、STATUS=bb,cc (Reg3 バイト 2、3)、DCBid (Reg3 バイト 4)	D8C2C602 (Reg2)	入出力操作をしようとした結果、入出力エラーを示す IOS POST コードが返されました。メッセージ DFS0762I を発行するための OSAM IOSB が使用できません。レジスター 3 のバイト 1、2、および 3 には、メッセージ DFS0762I の定義に従って、OSAM 命令コード、IOS POST コード、および DECB 状況コードが入っています。レジスター 3 のバイト 4 には、エラーが発生した DCBid が入っています。考えられる原因: Reg 3、バイト 2=X'10' Status=DECBI0BE。追加の IOSB 用の IPAGE を割り振るための余裕が CSA ストレージにありません。
DECB=X'7F' (Reg9)、FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、STATUS=bb,cc (Reg3 バイト 2、3)、DCBid (Reg3 バイト 4)、読み込み領域のアドレス = Reg4+X'40'	D8C2C603 (Reg2)	IMS は、読み取り要求を発行する前に、読み込み領域の先頭バイトに X'FF' を入れます。読み取りの完了が通知された後で、X'FF' がオーバーレイされたかどうかを確認するための検査が行われます。先頭バイトに X'FF' が入っていると、入出力要求は正常に完了した (X'7F'POST) が、データ転送は行われなかったことを示します。この状態は入出力エラーとみなされます。考えられる原因: 入出力エラーが発生しましたが、標識は出ませんでした。入出力装置とバッファ・ストレージの間でのデータ転送は行われていません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: BUILDQ および FORMAT オプションを指定して IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQBFM0

関連情報:

 DFS0762I

0760

説明: 次の 2 つのうちのいずれかのエラー条件が検出されました。

- メッセージ・キュー・データ・セットのフォーマット設定が必要です。

- IMS シャットダウン用にメッセージ・キュー・データ・セットに予約されたレコード数が、データ・セット内のレコード数より大きい。

分析: これは、DFSQDOC0 によって発行される標準異常終了です。DFSCNS マクロが、上記のいずれかのシステム・データ・セットを開くために DFSAOS10 を呼び出しました。戻りコード X'18' が DFSQDOC0 に返されました。

キー	ラベル	説明
レジスター 7 に DCB アドレスが入っています。異常終了 0760 の直前に発行された DFS986A に、エラーのあるデータ・セットの名前が含まれています。	OSM60BAD	IMS シャットダウン用にメッセージ・キュー・データ・セットに予約されたレコード数が、データ・セット内のレコード数より大きい。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 次のことを行ってください。

- FORMAT キーワード・パラメーターを使用して IMS を再始動することによって、下記にリストされているデータ・セットのいずれかをフォーマット設定します。異常終了 0760 の直前に発行されたメッセージ DFS986A に、フォーマット設定が必要なデータ・セットの名前が含まれています。異常終了時のレジスター 7 に DCB アドレスが入っています。
- 下記にリストされたシステム・データ・セットのいずれかのスペース割り振りを増やします。再割り振りしたそれらのデータ・セットをフォーマット設定することも考慮して、キュー構築を指定してシステムを緊急時再始動 (/ERESTART BUILDQ FORMAT) します。IMS システム定義を実行することにより、シャットダウン・レコード数を変更することができます。異常終了 0760 の直前に発行されたメッセージ DFS986A に、エラーの原因となったデータ・セットの名前が含まれています。異常終了時のレジスター 7 に、エラーのある DCB のアドレスが入っています。システム・データ・セットには以下のものがあります。

IMS.QBLKS
IMS.SHMSG
IMS.LGMSG
IMS.SPA

フォーマット設定されていないシステム・データ・セット (上記) を使用してIMS を始動するか、またはこれらのシステム・データ・セットのいずれかを少なすぎるスペースで再割り振りすると、このエラーが発生します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQDOC0

関連情報:

 DFS986A

0762

説明: IMS 仮想記憶間処理中に、重大なシステム・エラーが検出されました。

分析: この異常終了は、モジュール DFSDSPX0 が仮想記憶間機能の処理中に重大な内部エラーを検出した場合に、このモジュールによって発行されます。異常終了レジスターのレジスター 14 は、DFSDSPX0 内部のエラーが検出された場所のアドレスを指しています。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード
説明

X'01'

DFSDSPX0 が、無効な機能コードで呼び出されました。

0763

X'02'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードからホーム・モードに戻ろうとしていたときに、無効な 1 次アドレス・スペース番号を検出しました。IMS 内部制御ブロックに保管されたホームの 1 次アドレス・スペース番号が、真のホーム・アドレス・スペース番号に一致しません。ストレージ・オーバーレイまたは制御ブロック・ポインター・エラーが発生した可能性があります。

X'03'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードからホーム・モードに戻ろうとしていたときに、無効な 2 次アドレス・スペース番号を検出しました。IMS 内部制御ブロックに保管されたホームの 2 次アドレス・スペース番号が、真のホーム・アドレス・スペース番号に一致しません。ストレージ・オーバーレイまたは制御ブロック・ポインター・エラーが発生した可能性があります。

X'04'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードに切り替えようとしていたときに、無効なターゲット・アドレス・スペース索引を検出しました。

X'05'

XMCA 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。ブロック内の目印が「XMCA」に等しくありませんでした。

X'06'

XMCI 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。ブロック内の目印が「XMCI」に等しくありませんでした。

X'07'

XMCI 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。XMCI 内の SAP ポインターが現行の SAP アドレスに等しくありませんでした。

X'08'

仮想記憶間モードに入ろうと（または仮想記憶間モードから出ようと）試みているときに、エラーが発生しました。レジスター 15 の高位バイトには、以下のいずれかの値が含まれています。

X'01' ターゲットの 1 次アドレス・スペース番号が無効でした。

X'02' ターゲットの 2 次アドレス・スペース番号が無効でした。

X'09'

DFSDSPX0 が、ITASK の仮想記憶間モードを復元するために呼び出されたときに、無効な 1 次アドレス・スペース番号を検出しました。

考えられる原因: これらのすべての理由コードは、IMS 内部エラーを示します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、3、4、6、33、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSPX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0763

説明: IMSシステム・メッセージ・キュー・マネージャーが、別の IMS サブタスクのキュー・マネージャーによって通知されるのを待機していたが、この IMS システムの別の部分によって DECB が通知されました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: これは、DFSQCP00、DFSQMGR0、または DFSQBFM0 によって発行される標準異常終了です。したがって、エラー条件が検出された場所の判別に、異常終了 SVRB のレジスターが使用されます。

異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用し、特定のラベルを分離するにはレジスター 14 の BAL を使用します。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	DFSQCP20	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。予期される通知コードは X'63' です。そうでない場合は異常終了が発行され、レジスター 9 がエラーのある DECB を指します。
Reg14=BAL	INCNPG0	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。予期される通知コードは X'63' です。そうでない場合は、QMGRPERR に分岐して異常終了が発行されます。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。
Reg14=BAL	QXCENQ4	このルーチンでは、宛先アドレスの直列化が行われます。レジスター 7 には直列化されるアドレスが入っていて、宛先所有権に対する IWAIT の後で通知コードがキュー・マネージャーからのものでなかった場合は、異常終了が発生します。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。
Reg14=BAL	QBMWTI	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。キュー・マネージャーからの通知コードでない場合は、異常終了が発行されます。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。
Reg14=BAL	QBMIOER	入出力チェック・ルーチンから戻った際に、DECB の通知コード (レジスター 9) が有効な IOS 通知コードかどうかを検査されます。通知コードが無効な場合、QMGPERR に分岐して異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、2、4、6、9、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQBFM0、DFSQCP00、DFSQMGR0

0764

説明: WRTQUED 処理中に、OSAM アクセス方式で RBN を MBBCCHHR 形式のフル・ディスク・アドレスに変換できませんでした。OSAM が、等しくない入出力終了コード (X'7F') で入出力 ECB を通知しました。異常終了 0764 が起こる原因は 2 つあります。それらの説明は、次のとおりです。

1. R15 = 0 の場合、WRTQUED 再駆動処理中に、OSAM が RNB を MBBCCHHR 形式の完全なディスク・アドレスに変換できないことを示します。
2. R15 = X'FFFFFFFF' の場合、どの異常入出力終了に対しても異常終了 764 を要求するために、ユーザーが DFSVSMxx に「DUMPIO=YES」を指定したことを示します。

分析: これは、DFSA0S80 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB にエラー・レジスターが保管され、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル AB0764 内の命令を指しています。

障害発生時に、レジスター 5 には DECB アドレスが入り、レジスター 6 には SCD アドレスが入り、レジスター 4 には IOB アドレスが入っています。レジスター 12 は基底レジスターです。

0765

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800002FC'	INTERR	X'41' (異常完了) を示す DECB が通知されました。再駆動処理中に、OSAM アクセス方式で無効な RBN が検出されました。RBN は、フル・ディスク・アドレスに変換できませんでした。無効な RBN は、現行バッファ接頭部のフィールド IBFCBLK にあります。現行バッファ・アドレスは、IOB に入っています。

考えられる原因: おそらく、制御装置または制御チャネルのハードウェアの誤動作です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: これは、内部 IMS エラーです。

問題判別: 1、2、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAOS80

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0765

説明: OSAM アクセス方式が、仮想アドレスを実アドレスに変換しようとしたのですが、変換は失敗しました。変換の前にすべてのページが固定されていたので、この問題は IMS 内部エラーです。z/OS 環境では、ページ固定ルーチンからのエラー戻りコードによってこの障害が発生した可能性があります。DECB の DECBSTAT フィールドに、X'7F' 以外のエラー状況コードが入っています。

分析: これは、DFSAOS80 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスターは異常終了 SVRB に入っています。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル XLERROR で発行された異常終了 (SVC 13) を指しています。

レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 5 には DECB アドレスが入り、レジスター 4 には IOSB アドレスが入り、レジスター 1 には、異常終了コード X'800002FD' が入っています。

DECB の状況フィールド (DECB STAT=18) には、特定のエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
DECBSTAT=X'1F'	SOMERR	ページ固定エラーが検出されました。
DECBSTAT=X'20'	SOMERR	CCW 変換エラーが検出されました。
DECBSTAT=X'03'	SOMERR	IDAL 変換エラーが検出されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、2、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAOS80

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0766

説明: IMS ITASK ディスパッチング中に、重大なシステム問題が検出されました。

分析: これは、DFSIDSP0 (IMS ITASK ディスパッチャー) によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、ECB の選択、ITASK の作成および終了のエラーの結果として発生します。

X'07' 以外のすべての理由コードの場合、レジスター 8 に、問題の ECB の ECB 接頭部のアドレスが入っています。異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード
説明

X'01'

作動可能キューにある次にディスパッチされる ECB が、それ自体にチェーニングされています。

X'02'

動的 SAP ECB が非動的 SAP TCB に通知されています。

X'03'

作動可能キューにある次にディスパッチされる ECB に、無効なチェーン・ポインターがあります。ポインターは、キューにある次の ECB のアドレスか、またはゼロでなければなりません。その代わりに、ディスパッチャー・コード X'0FC4E2D7' が入っています。

X'05'

IMS ITASK が、無効な IMS 保管域で終了しました。R13 で指示された保管域の先頭ワードが、ITASK SAP を指していませんでした。R13 が ITASK の元の保管域を指していないか、SAP ポインターがオーバーレイされたか、いずれかです。

X'07'

指定された ITASK 終了は IMS TCB の制御下にありません。

X'08'

再ディスパッチ対象の ECB は、以前に IWAIT の対象になっていません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIDSP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0767

説明: IMS ディスパッチャーが IWAIT または ISERWAIT 呼び出しを処理中に、重大なシステム問題が検出されました。

分析: これは、DFSIDSP0 (IMS ITASK ディスパッチャー) によって発行される標準異常終了です。ISERWAIT または IWAIT ルーチンで検出されたエラーでは、分岐して SVC 13 が発行されます。

レジスター 8 には、問題の ECB の ECB 接頭部のアドレスが入っています。レジスター 14 には、IWAIT または ISERWAIT の呼び出し元のリターン・アドレスが入っています。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下の理由コードが入っています。

コード
説明

0768

X'01'

IWAIT の呼び出し元の ECB にアクティブな ITASK がありません。

X'02'

IWAIT または ISERWAIT 呼び出しで、ディスパッチャーに渡された ECB が現在ディスパッチされている ECB ではありませんでした。

X'03'

TYPE=IXCTL が指定された IWAIT 呼び出しで、IWAIT 呼び出しのターゲット ECB の ECB 接頭部が無効でした。レジスター 5 に、無効な接頭部に関する理由を示す戻りコードが入っています。

コード 意味

X'04' ECB はディスパッチャー・キューに入っています。

X'0C' ECB ITASK はすでにアクティブになっています。

X'10' ECB は、IWAIT 呼び出しの発行元とは異なる IMS TCB に割り当てられています。

レジスター 3 には、ターゲット ECB のアドレスが入っています。レジスター 7 には、現行 ECB のアドレスが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIDSP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0768

説明: IMS ディスパッチャーが ISWITCH 呼び出しを処理中に、システム問題が検出されました。

分析: これは、モジュール DFSIDSP0 および DFSREP00 によって発行される標準異常終了です。

X'09' から X'0B' までを除き、以下にリストされているすべての理由コードの場合、レジスター 8 は、問題の ECB (ITASK) の ECB 接頭部を指しています。レジスター 10 は ECB の SAP を指しています。X'01' 以外のすべてのコードの場合、レジスター 4 は、現在実行中の IMS TCB のディスパッチャー作業域を指しています。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード

説明

X'01'

ISWITCH の呼び出し元がアクティブな ITASK ではありません。

X'02'

呼び出し元 ITASK の SAP のフラグに、ISWITCH がすでに ISWITCH TO= 呼び出しのための処理を進行中だったことが示されているか、または、ITASK が、IMS 制御 TCB の下で実行中に別の TCB に ISWITCH で切り替えようとしている従属領域であるか、いずれかです。

X'03'

呼び出し元 ITASK の SAP のフラグは、ISWITCH がすでに ISWITCH TO=RET 呼び出しのための処理を進行中だったことを示しています。

X'04'

ISWITCH TO=DEP 呼び出しで、ISWITCH のターゲット TCB は従属領域でしたが、ITASK のホーム従属領域ではありませんでした。

X'05'

ISWITCH 呼び出しで、ISWITCH ルーチンに渡された ECB が現在ディスパッチされている ECB ではありませんでした。このサブコードは、DFSIDSP0 の DFSISWIT サブルーチン (通常 TCB ISWITCH) または DFSREP00 の DFSKXMSW サブルーチン (クロスメモリー ISWITCH) から発行されます。

X'06'

ISWITCH 後に再ディスパッチ中の ECB に無効な通知コードがあります。コードは、T0 または RET でなければなりません。

X'07'

ECB は新規 TCB への ISWITCH のように再ディスパッチ中でしたが、SAP 内のフラグが、ISWITCH 処理されなかったことを示しています。

X'08'

従属領域シャットダウン用 ITASK が、IMS 制御領域 TCB 以外の TCB の下で実行されていました。

X'09'

アンスタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、ITASK スタックが空であった (アンスタックすべきものが無かった) か、現行のスタック項目索引が無効でした (スタックの終わりを超えていました)。

X'0A'

スタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、ITASK スタックがいっぱいでした (新規項目を追加する余地がありませんでした)。

X'0B'

アンスタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、現行のスタック索引が無効な項目を示しています。索引が範囲外にあるか、指示されているスタック項目がアクティブでない (有効なデータを含んでいない) か、いずれかです。

考えられる原因: 内部システム・エラー

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIDSP0、DFSREP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0769

説明: ディスパッチャー制御ブロックの初期設定を試みているときに、ディスパッチング・サブルーチンで重大なシステム問題が検出されました。

分析: これは、DFSIDSP0 (IMS イベント ITASK ディスパッチャー) によって、または IPOST、IXCTL、および INITECB のエラーの場合に DFSREP00 によって発行される、標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード

説明

X'01'

INITECB 呼び出しで、初期設定中のイベント制御ブロック (ECB) がチェーンに入っていたか、またはすでに待機中でした。レジスター 8 が、ECB 接頭部を指しています。

0770

X'02'

INITECB 呼び出しで、初期設定中の ECB がすでに通知され、キューに入っていました。レジスター 8 が、ECB 接頭部を指しています。

X'03'

INITECB 呼び出しで、初期設定中の ECB が通知済みでした。ディスパッチャーは通知されたキューに ECB を入れようとしたのですが、ECB が割り当てられている TCB が中断状態でした。レジスター 8 が ECB 接頭部を指し、レジスター 4 が中断状態の TCB を指しています。

X'07'

IXCTL 呼び出しで、転送中の ECB はすでにアクティブ ITASK でした。レジスター 8 が現行の ECB 接頭部を指し、レジスター 3 がターゲットの ECB 接頭部を指しています。

X'08'

IXCTL 呼び出しで、転送中の ECB が UNINIT 呼び出しに失敗しました。レジスター 9 に UNINIT 戻りコードが入っています。R9=X'04' の場合、ECB 接頭部のチェーン・フィールドが無効でした。R9=X'10' の場合、ECB が現在実行中の TCB とは別の TCB に割り当てられていました。レジスター 8 が現行の ECB 接頭部を指し、レジスター 3 がターゲットの ECB 接頭部を指しています。

X'09'

通知される ECB が非通知出口ルーチン待ち状態になっていたときに、DFSKPXT 呼び出し (z/OS 分岐項目 POST) が仮想記憶間モードで行われました。レジスター 3 が ECB を指しています。

X'0A'

廃止された SCP 通知ルーチンが呼び出されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: 緊急時再始動を実行します。

問題判別: 1、4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIDSP0、DFSREP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0770

説明: 従属領域で ITASK を初期設定しようとしているとき、または従属領域を OPEN または CLOSE しようとしているときに、システム・エラーが検出されました。

分析: これは、DFSIDSP0 (IMS イベント ITASK ディスパッチャー) または DFSREP00 によって発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード

説明

X'01'

ECB 接頭部エラー。SAP アドレスが設定されていませんでした。

X'02'

ECB 接頭部エラー。ディスパッチャー作業域アドレスが設定されていなかったか、または従属領域のオープンに有効な TCB ではありませんでした。

X'03'

現行 TCB のディスパッチャー作業域に TCB テーブル項目が見つかりません。

X'04'

従属領域のリカバリー・エレメントのエンキューが失敗しました。

X'05'

無効かまたは再帰的なシャットダウン呼び出しです。

X'06'

従属領域異常終了クリーンアップ・ルーチンが、制御領域以外の TCB から呼び出されました。

X'07'

従属領域異常終了クリーンアップ・ルーチンに対する呼び出しで、現行 ITASK が従属領域に関連付けられていませんでした。

X'08'

DEP signoff DFSBCB get quick save が失敗しました。

X'09'

DEP signoff DFSBCB get AWE が失敗しました。

X'0A'

DEP signoff 保管域が ITASK セット内にありません。

X'0B'

LSO signon AWE に関する DFSBCB get が失敗しました。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: メモリー・ダンプ付きで制御領域をシャットダウンします。制御領域を再始動してから、従属領域を再始動します。

問題判別: 1、5、6 (制御領域と従属領域のダンプを保管)、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIDSP0、DFSREP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0773

説明: 呼び出し中に行われた更新を除去するために単一呼び出しバックアウトを必要とする ISRT または DLET 呼び出しのときに、アプリケーションが、バッファー・ハンドラーから読み取りエラーまたはオープン・エラーを受け取りました。次のいずれかの理由で、単一呼び出しバックアウトが失敗しました。

- バッチで、動的バックアウトのためのディスク・ログが指定されなかった。
- PSB 内の他の PCB の中で位置が調整された。
- バックアウトが失敗した。

分析: これは、DFSDA00 が単一呼び出しバックアウトを実行できない場合に DFSDDLCO または DFSDDLEO によって発行される疑似異常終了です。問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要な場合があります。バッチ領域の場合は、必ず dynamic backout= Y を使用してディスク・ログを指定します。すべての領域について、PSB 内の他の PCB の位置が変更された (PSTDLSB=PSTDLSB7) か、または DFSRDBC0 がゼロ以外のコードを返すことが原因で、異常終了 0773 が発生する可能性があります。後者の場合、DFSRDBC0 は DFSDLA00 の前のブロックを SNAP します (レジスター 7 に戻りコードが入っています)。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 読み取りエラーまたは単一呼び出しバックアウト障害の原因を訂正します。

問題判別: 1、17

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLCO、DFSDDLEO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0774

説明: モジュール DFSPLEX0 または DFSPIXA0 からのリソースに対するロックを待っている PST が、X'60' または X'6F' 以外の通知コードで待ち状態の終了を通知されました。X'60' 通知コードは、デッドロックの結果として PST が通知されるときに使用されます。X'6F' 通知コードは、待機していたロックが認可されたときに PST を開始します。

分析: 異常終了ダンプ内のレジスター 10 に、PST のアドレスが入っています。PST の最初のワードは、無効な通知コードを含んでいる DECB です。

メモリー・ダンプが IMS 制御領域からのものである場合、ディスパッチャー・トレースをスキャンして、通知を示す X'06' 項目を見つけます。この項目には、通知が開始されたアドレスが含まれています。

メモリー・ダンプが CICS 領域からのものである場合、CICS トレースをスキャンして、通知についての項目を見つける必要があります。CICS トレース項目を復号する際にヘルプが必要な場合は、CICS サポート・グループ連絡してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メモリー・ダンプが IMS 制御領域からのものである場合は、ディスパッチャー・トレースをスキャンして、通知を示す X'06' 項目を見つけます。この項目には、通知が開始されたアドレスが含まれています。

メモリー・ダンプが CICS 領域からのものである場合、CICS トレースをスキャンして、通知についての項目を見つけます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPLEX0

0775

説明: IMS がこれ以上 ENQ/DEQ ブロックを獲得できないか、または PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い尽くしたときに、この異常終了が発行されます。標準異常終了の場合と疑似異常終了の場合があります。

ケース 1

標準異常終了がラベル XC10ABND で発行されます。異常終了に入ったときのレジスターまたは異常終了 SVRB のレジスター (異常終了 0775 メモリー・ダンプから取得) を使用して、どの CASE1 項目が現在の障害に当てはまるかを判別してください。

ケース 2

疑似異常終了がラベル NOCORE でセットアップされます。メッセージ DFS2450I に関する説明が、異常終了 0775 の原因を判別し、解決策を得るために役立ちます。

詳しくは、メッセージ DFS2450I を参照してください。メッセージ DFS2450I が発行されなかった場合、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たした可能性があります。DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、または DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の PIMAX パラメーターのサイズを増やします。バッチ・データ共用については、「CICS Transaction Server for z/OS Messages and Codes」(GC34-6827) を参照してください。

分析: DFSFXC10 がストレージを獲得できなかったことが原因で異常終了が発行される場合は、メッセージ DFS2450I も発行されます。このメッセージでは、SSCDROUT から取得された宛先コードが使用されます。デフォルトの宛先コード 2 および 7 では、メッセージがマスター・コンソールに送付されます。マスター・コンソールは、メイン・システム・コンソール、およびシステム定義中にマスター・コンソールとして定義されたその他の任意のコンソールです。正しいコンソールにメッセージが送られていない場合、IMSCTRL マクロの MCS パラメーターを使用して、宛先コードを変更することができます。

このメッセージに、獲得できなかったストレージの ENQ/DEQ ブロックの名前が示されています。この名前の最後の 2 桁または 3 桁は、ブロック番号です。メッセージには、異常終了を開始した原因が何かを判別する際に役立つ理由コードも含まれています。以下に、理由コードと意味、および取るべき処置を示します。

コード	意味	処置
8	最初の ENQ/DEQ ブロック用として使用可能なストレージがない。メッセージにブロック 01 が示され、標準異常終了が発生します。	z/OS の場合、CSA の割り振りを増やします。
0	最初または最後のブロックでないブロックが要求された。これは、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たしたわけではなく、別のストレージ・ブロックに関する GETMAIN が失敗したということです。	z/OS の場合、CSA の割り振りを増やします。

メッセージ DFS2450I が発行されなかった場合、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たした可能性があります。DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、または DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の PIMAX パラメーターのサイズを増やします。エンキューおよびデキューのストレージ要件については、エンキューおよびデキュー要件の指定 (システム定義)を参照してください。このトピックでは、データベースの保全性を維持するためにデータベース更新イベントを内部ストレージに保管および解放する方法の概要を説明します。実行されている MPP および BMP ごとにストレージを個別に見積もり、次にその見積もりを合計します。異常終了 0775 を回避できるように、PIMAX パラメーターの値はエンキュー/デキューのテーブル項目を保持できる十分な大きさにする必要があります。

重要: BMP でチェックポイントを取る回数が多いほど、必要な合計ストレージ・サイズが減少します。CICS の下で実行していて、DBCTL を使用していない場合は、PIMAX および PIINCR パラメーターで指定する値の取り扱いが異なります。CICS 初期設定パラメーターは、最大ストレージを指定した CORE の 2 番目のパラメーターをオーバーライドします。

この異常終了がなおも続く場合、プログラム分離 (PI) トレース (/TRACE コマンドを参照) を実行し、DFSERA10 を使用して結果を DFSERA40 出口ルーチンで出力します。この結果を分析して、この異常終了の発生時に未処理のままになっていた PST 当たりの ENQ の数を判別する必要があります。続いて、前に説明した数式の PST で使用して、必要なストレージの合計サイズを再計算します。

メッセージ DFS2450I が見つからない場合は、システム・メモリー・ダンプを取ってください。このメモリー・ダンプは、どの CASE 2 障害が発生したのかを判別するのに役立ちます。

CASE 1:

キー	ラベル	説明
Reg0= 負の値 Reg7=REQQEL	ALTW2	このエンキュー要求は共用可能で、待機の必要はありませんでした。待機カウントが減少すると、値が負になって異常終了が発行されます。
(Reg5+X'00') Reg8= 全桁 0 REQCTLW BIT4=0	ALTW4	この要求の QEL では、デッドロック保護に割り当てられたマトリックス行がありませんでした。要求が ABORT を指示しなかったため、異常終了が発行されます。
Reg1= 全桁 0 PRMENCTN BIT1=1 (Reg10+X'06')	GTCINT	内部呼び出し元が QCB を要求しました。これ以上 GETMAIN 対象になるコアがなく、使用可能な内部 QCB がない場合は、異常終了が発行されます。
XCGMID2=X'FB' (Reg11+X'62')	XC10WTOA	最初の ENQ/DEQ ブロックについてコアを取得できなかったため、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL(ALTW2) Reg14=BAL	ENQ31	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。この新しい要求は、既存の要求と制御を共用しません。待機カウントを調整するルーチンから戻った際に、待機カウントが負またはゼロの場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg6=BAL(ALTWC) Reg14=BAL	ENQ31C	このラベルの後には XC10ABND への 3 つの BAL があります。待機カウントを調整するサブルーチンから戻った際に、カウントが負になっていなかったか、または調整が打ち切られたため、異常終了が発行されました。
Reg2 & Reg3=QCBID Reg4=SAVQCR Reg9=REQQCB Reg14=BAL	QCDEQ3	DEQ 要求のための QCB を検出するサブルーチンから戻った際に、QCB が見つからなかった場合、異常終了が発行されます。
Reg9=REQQCB Reg14=BAL	PURGE	リソースをパージする試みでは、このリソースの QCB を見つけるために QCB チェーンが検索されます。QCB が見つからなかった場合、異常終了が発行されます。
Reg5=REQBLK ベース Reg6=BAL(ALTWC)	ADJUP2	この要求および現在このリソースの制御を待っている要求の待機カウントを調整するための呼び出しが行われました。待機カウントを調整するサブルーチンから戻った際に、待機カウントが負になった場合、異常終了が発行されます。
Reg5=REQPREQ Reg14=BAL	ADJUP3A	REQ を更新しようとしていて、REQ が見つからないままチェーンの終わりが検出された場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL(ALTWC) Reg14=BAL	ADJUP3B	待機カウントを調整するサブルーチンから戻った際に、不可能条件が示されました。調整は終了し、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL(ALTWC) Reg14=BAL	ADJDN	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。待機カウントを調整するサブルーチンから戻った際に、正の値または不可能条件のいずれかが示されました。調整は終了します。これらのエラー条件について、異常終了が発行されます。
Reg5=REQPREQ Reg14=BAL	ADJDN2	QCB で複数の要求が指示されている場合は、次に処理する要求を見つけるために検索が行われます。次の要求が見つからない場合、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL(ALTWC) Reg14=BAL	ADJDN3	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。待機カウントを調整するサブルーチンから戻った際に、正の値または不可能条件のいずれかが示されました。調整は終了します。これらのエラー条件について、異常終了が発行されます。
Reg5=CURRREQ Reg7=REQQEL Reg8=0 Reg14=BAL	ALWCER1	デッドロック検出に使用可能な列がなく、無効な要求が行われたため、異常終了が発行されます。
Reg5=CURRREQ Reg7=REQQEL Reg8=0 Reg14=BAL	ALWCER3	デッドロック検出に使用可能な行がなく、無効な要求が行われたため、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL	ALTWCY1	待機カウントの調整時にカウントが負になったため、異常終了が発行されます。
Reg4=0 Reg14=BAL	RMVREQ1	QEL および QCB から REQ を除去しようとしたとき、REQ が見つからなかったため、異常終了が発行されます。
Reg4=0 Reg14=BAL	RMVREQ3	このルーチンが QCB から除去する要求を検出したが、その前の要求を検出できない場合に、異常終了が発行されます。

ケース 2:

キー	ラベル	説明
Reg6=BAL PRMFNCTN=0 Reg7=0 Reg10=PST	NOTFP2	事前初期設定が完了しました。要求された制御レベルがセットアップされ、QEL を割り当てる試みが行われます。GETQCB が QCB を割り当てることができなかった場合、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL PRMFNCTN=01 Reg14=BAL	TSTFENQ	これはエンキュー要求ではなく、対応する QCB が見つかりませんでした。GETQCB が QCB 用のスペースを獲得できなかったため、異常終了が発行されます。
Reg8=PRIORQCB	NOTFASTP からの NOCORE1	QCB が取得された後で REQ 用に使用可能なスペースがありませんでした。QCB が解放され、異常終了が発行されます。
Reg8=BAL PRMFNCTN=0	ENQ30A	これはリソースに対する最初の要求です。QEL によって保持または要求されたリソース・リストに新規リソース ID を追加するルーチン (ADDID) が、ID を追加するスペースがないことを検出したため、異常終了が発行されます。
Reg0=0 PRMFNCTN=X'03' Reg8=BAL	ENQ31	リソースに対する新規要求は、既存の要求と制御を共有しません。リソース・リストへの要求 ID の追加 (ADDID) が試行されました。使用可能なスペースがなかったため、異常終了が発行されます。
REQCTLW=REQCTLW Reg6=BAL(ALTWC)	ADJUPE0	この要求および現在このリソースの制御を待っている要求の待機カウントを調整するために、ALTWC に対する呼び出しが行われました。 要求が強制終了された場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IMS ENQ/DEQ に使用可能な最大ストレージを使用しているにもかかわらず、なお疑似異常終了 0775 を受け取る場合は、エラーが検出された時点の通常の ABEND ダンプを取ってください。メモリー・ダンプを取るには、ENQXTA への無条件ブランチを XC10ABND (ラベル NOCORE から数命令後にある) への無条件ブランチに変更します。

システムの処置: ケース 1 の場合、IMS 制御領域が異常終了します。ケース 2 の場合、アプリケーション・プログラムが異常終了します。

オペレーターの応答: ケース 1 の場合は、ありません。ケース 2 の場合は、領域をいくつか停止してシステム負荷を減らしてから、示された SMB および PSB を開始します。BMP がチェックポイントを取らずに、使用可能な ENQ スペースをすべて使用した場合、BMP を取り消します。

プログラマーの応答: ケース 1 の場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要請してください。ケース 2 の場合、ENQ に使用可能な最大ストレージを増やすか、または ENQ の要求を減らすことによって、問題を修正します。

問題判別: ケース 1 の場合: 1、2、4、6、13

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFXC10

関連資料:

 CICS メッセージおよびコード

関連情報:

 DFS2450I (メッセージおよびコード)

 IMS 問題判別 (メッセージおよびコード)

0776

説明: ROLB 呼び出しの処理中に、動的バックアウトで障害が発生しました。ROLB 呼び出しに必要なチェックポイントが現行のオンライン OLDS に含まれていない場合、この異常終了が発生します。OLDS の割り振りが膨大な処理量と比べて少なすぎる場合、OLDS が循環した可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSRBO10 および DFSFXC50 によって設定され、DFSECP10、DFSECP20、または DFSFDMP0 によって発行される疑似異常終了です。

DFSECP10 と DFSECP20 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS981I を使用して、障害の理由を判別する必要があります。DFS981I メッセージに名前が示されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。この異常終了については、ダンプは取られません。

DFSFDMP0 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS0832I を使用して、障害の理由を判別する必要があります。DFS0832I メッセージに名前が示されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。この異常終了については、ダンプが取られます。

システムの処置: ROLB 呼び出し障害が発生した IMS 従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: DFSECP10 と DFSECP20 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS981I を参照して、障害の理由を判別します。メッセージで指定されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行します。

DFSFDMP0 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS0832I を参照して、障害の理由を判別します。メッセージで指定されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行します。

問題判別: DFSECP10 と DFSECP20 の場合:

メッセージ DFS981I を参照して、障害の理由を判別します。

DFSFDMP0 の場合:

メッセージ DFS0832I を参照して、障害の理由を判別します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20、DFSFDMP0

関連情報:

 DFS981I (メッセージおよびコード)

 DFS0832I (メッセージおよびコード)

0777

説明: 潜在的なリソースがデッドロック状態にあったため、または外部サブシステム・リソースの場合は、リソースが利用不可であるかデッドロック状態にあったため、アプリケーション・プログラムが異常終了しました。

この異常終了は、作業単位を強制終了し、場合によっては、関連のトランザクション・メッセージをスケジュール変更させるために使用されます。メッセージがスケジュール変更される場合、異常終了メッセージは生成されません。IMS は、67FF デッドロック・レコードを生成し、これは IMS ログに書き込まれます。また、いかなる場合でも、07 レコード完了コードは U0777 を示します。CICS DBCTL スレッド・メッセージは CICS に関連付けられているため、スケジュール変更できません。スレッドは異常終了します。

分析: これは、モジュール DBFIRC10、DBFLRH00、DFSESPR0、DFSLRH00、DFSFXC10、DFSCMD30、または DFSCMD60 によって発行される疑似異常終了です。異常終了が DFSESPR0 によって発行された場合、外部サブシ

- システムは IMS に、デッドロック状態またはリソース使用不可状態を示す、NORMAL CALL 戻りコード 04 または CREATE THREAD 戻りコード 24 を渡しました。外部サブシステムは、問題の原因を示すメッセージを発行している可能性があります。外部サブシステムを参照して、リソースが使用不可になっている原因を判別する必要があります。IMS は以下の処置を取ります。
- メッセージ・ドリブン・プロセスの場合、入力メッセージを入力キュー (MPP または IFP) の先頭に戻します。
 - コミットされていないすべてのメッセージ出力およびデータベース更新を廃棄します。
- DFSCMD30 または DFSCMD60 から発行された場合は、この異常終了により、アプリケーション・プログラムから ICMD 呼び出しまたは CMD 呼び出しが発行されて、DBR コマンド、MODIFY COMMIT コマンド、および MPP 領域の間の潜在的デッドロックが切断されます。
- アプリケーション・プログラムが PROCOPT=GOx を使用して IMS HALDB 区画にアクセスし、その区画に対してデータベース・コマンドが進行中であるために区画が使用不可であり、かつ DFSVSMxx PROCLIB メンバーで PPUR=Y が指定されている場合は、U0777 異常終了も発生する可能性があります。この場合、関連するメッセージ (ある場合) はスケジュール変更されますが、67FF レコードは生成されません。
- 外部サブシステムにアクセスする、非メッセージ・ドリブン BMP がリソース使用不可状態を受け取り、PSB に GSAM PCB が含まれている場合は、U0777 異常終了も発生する可能性があります。この場合に取りられる処置は、関連する PSB の PSBGEN 内の GSROLBOK パラメーターの指定によって異なります。GSROLBOK=YES が指定されている場合、アプリケーションは異常終了 U0777 で終了しませんが、ESS 呼び出しで障害標識を受け取り、その後内部 IMS ROLB が続いています。DB2 の場合、これは SQL CODE -911 です。それ以外の場合、BMP は、異常終了 U0777 で異常終了します。
- システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。MPP 領域または IFP 領域で実行されていた場合、処理中のメッセージは自動的にスケジュール変更されます。
- オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。
- システム・プログラマーの応答: BMP が失敗した場合は、ジョブを再実行してください。
- ソース: IMS 異常終了
- モジュール: DBFIRC10、DBFLRH00、DFSESPR0、DFSLRH00、DFSFXC10、DFSCMD30、DFSCMD60

0778

説明: ユーザー・アプリケーション・プログラムによって ROLL 呼び出しが発行されたか、あるいは、別の領域でのデータベース・バックアウト・ユーティリティで障害が発生し、内部的に発行された ROLL 呼び出しの結果としてすべての領域が終了しました。

分析: 0778 は DL/I 呼び出しアナライザー・プログラム DFSDLA00 によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。フィールド選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

この異常終了を開始する状態は 2 つあります。ユーザー発行の ROLL 呼び出し、またはデータベース・バックアウト・ユーティリティの障害です。最初の状態の場合、ユーザー・プログラムが、実行した処理に何か無効な点があると判断したときに、ROLL 呼び出しを発行します。最後の同期点以降のすべてのデータベース・アクティビティはバックアウトされ、ユーザーが実行中の従属領域はダンプなしで終了します。2 番目の状態の場合、データベース・バックアウト・ユーティリティの障害が生じた結果、すべての従属領域が終了します。この状態の SNAP には、バックアウト障害の発生時にアクティブであった他の従属領域の制御ブロックが含まれています。前に述べたように、従属領域のダンプは出力されません。

バックアウトが完了すると、元のトランザクションは (廃棄可能であれば) 廃棄されます。再実行はされません。リモート・トランザクション・プログラムに通知するために、システムは z/OS APPC verb の ATBCMDC TYPE(ABEND) に TPI を指定して発行します。この結果、すべてのアクティブな会話は (アプリケーション・プログラムによって作成されたものも含めて) すべて DEALLOCATED TYPE(ABEND_SVC) で処理されます。

0779 • 0780

メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。

キー	ラベル	説明
状態 1	FUNCLOW	ユーザー・アプリケーション・プログラムが ROLL 呼び出しを発行しました。
状態 2	DCPCBOK、RET000	別の領域で失敗したデータベース・バックアウト操作の結果、他のアクティブな従属領域が終了します。

考えられる原因: ユーザー発行の ROLL 呼び出し (アプリケーション・プログラム・データベース・バックアウトの検査) が異常終了しました。この状態の場合、異常終了 0778 は正常です。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは、ストレージ・ダンプなしで異常終了します。

オペレーターの応答: メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

0779

説明: アプリケーション・プログラムが、同期点間で、PSB の PSBGEN ステートメントの MAXQ パラメーターで指定された数より多くの *Q コマンド・コードを発行しようとしていました。

分析: これは DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 によって開始される疑似異常終了です。レジスター 12 は、基底レジスターです。

異常終了に入ったときに、アプリケーション・レジスターが PST の 13 番目の保管域で検出された可能性があります。これらのアプリケーション・レジスターは、ラベル PSTSAV13 で始まる保管域内の、オフセット「C」で始まります (システム・ログに書き込まれた制御ブロックのダンプを使用)。

DFSDLA00 は、*Q コマンド・コードが指定されたか呼び出しが処理中であると判別すると、PSBCQCNT (現在の *Q カウント) を PSBMQCNT (最大 *Q カウント) と比較します。PSBCQCNT は PSBMQCNT より小さい必要があります。そうでない場合、異常終了が発行されます。これらのフィールドは両方とも PSB 接頭部に含まれています。PSBMQCNT に保管される値は、その PSB の PSBGEN ステートメントの MAXQ フィールドにコーディングされている処理の結果です。これは、同期点と同期点の間でアプリケーション・プログラムに許される *Q コマンドの最大数を表します。これは、アプリケーションが必要以上に多くのリソースをエンキューし、ループに陥る可能性を許さないためのチェックとして使用されます。

システムの処置: 制御領域は正常に継続するが、このメッセージ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムにエラー (例えば、ループ) がある場合、それを訂正します。PSB の MAXQ の値が小さすぎる場合、PSB を訂正してから、ACB を再生成します。

問題判別: 4、19

最新の同期点以降に発行された *Q コマンドの数の累算が PSB に入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0780

説明: IMS ラッチ・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

分析: これは、モジュール DFSCLM00、DFSCLM10、DFSCLM20、DFSDBDR0、DFSDDTA0、および DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。DFSCLM00、DFSCLM10、または DFSCLM20 から発行された異常終了の場合

合、メッセージ DFS655I のテキスト、レジスター 15、または PSTLATRC フィールドに、異常終了サブコードが入っています。レジスター 14 には、CLM モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、入力パラメーター域のアドレスが入っています (DFSCLM dsect を使用)。DFSDBDR0 から発行された異常終了の場合、レジスター 15 にモジュール DFSCLM00 からの戻りコードが入っています。

異常終了の時点で要求されたラッチ・タイプを判別するには、パラメーター域の CLMPTYPE を調べます。

異常終了時に作業単位 (UOW) が所有していたラッチを判別するには、SAPACLE を使用して、SAP (Save Area Prefix: 保管域接頭部) に付加されている共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) ブロックを確認します。CLLE 定義を以下にリストします。

以下のコードは DFSCLM00 異常終了に関するものです。DFSCLM00 は、リクエスターのラッチを取得します。

コード
説明

X'001'

予約済み。

X'002'

リクエスターは、現在、このレベルで割り振られたラッチを所有しています。

X'003'

要求されたラッチ・レベルは、保持されている最高ラッチより小です。

X'004'

排他的ラッチのリクエスターは、要求されたラッチの現在の所有者です。

X'005'

ラッチ・マネージャーの ECB の通知コード。待機キューはラッチ・マネージャー通知コードではありません。

X'006'

共用ラッチのリクエスターは、要求されたラッチの現在の所有者です。

以下のコードは、CLM01000 (DFSCLM00 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM01000 は、ラッチ・リクエスターに DLLE を割り振ります。

コード
説明

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

0780

以下のコードは、CLM01000 (DFSCLM00 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM01000 は、ラッチ・リクエスターに DLLE を割り振ります。

コード

説明

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

以下のコードは DFSCLM10 異常終了に関するものです。DFSCLM10 リクエスターのラッチを解放します。

コード

説明

X'102'

リクエスターはこのレベルで割り振られたラッチを所有していません。

X'103'

リクエスターは、要求されたラッチの現在の所有者ではありません。ラッチ要求モードは排他的です。

X'104'

ラッチ要求は共用で、リソースが共用モードではありません。

X'105'

ラッチ要求は共用で、リソース・カウントが正です。

以下のコードは CLM11000 (DFSCLM10 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM11000 は、ラッチ・リクエスターの CLLE を割り振り解除します。

コード

説明

X'111'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'112'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振り解除ができません。

X'113'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'114'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'115'

非 ITASK リクエスターの CLLE ブロックの割り振り解除ができません。

X'116'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

以下のコードは DFSCLM20 異常終了に関するものです。DFSCLM20 は、障害が起こった作業単位 (UOW) (つまり SAP) によるラッチをリカバリー (解放) します。

コード

説明

X'201'

DFSCLM20 が、無効な通知コードで通知されました。DFSCLM20 は、初期設定ルーチンによって通知されます。DFSCLM20 は AWE プロセッサです。

X'202'

リカバリーするラッチ・タイプが無効です。

X'203'

渡されたラッチ・モード (共用、排他的、任意) が無効です。

X'204'

リカバリー中の排他的ラッチは、SAP が所有していません。

X'205'

排他的ラッチ - リカバリー出口ルーチンが指定されていません。

X'206'

排他的ラッチ — リカバリー出口ルーチンは指定されていますが、何も提供されていません。

X'207'

排他的ラッチ — リカバリー出口ルーチンが指定されて駆動されましたが、障害が発生し、ゼロ以外の戻りコードが返されました。

X'208'

共用ラッチが所有されていません。

| X'209'

| 共用ラッチ - リカバリーされるラッチ・タイプに対してリカバリー出口ルーチンが指定されましたが、ルーチンの
| アドレスがゼロでした。

| X'20A'

| 共用ラッチ - リカバリー出口ルーチンが指定され、呼び出されました。リカバリー出口ルーチンは、ラッチがリカ
| バリー可能ではないことを示す、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別して、IMS を再始動してください。

問題判別: 4、5、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCLM00、DFSCLM10、DFSCLM20、DFSDBDR0、DFSDDTA0、DFSASK00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0783

説明: DMB および PSB プール・スペース・マネージャー (DFSDPDM0) が、マスター PDIR のチェーン上にない PSB のスペースを削除して解放しようとした。

分析: これは、モジュール DFSDPDM0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 8 は BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 は、削除中の PDIR を指しています。レジスター 10 は、PST を指しています。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 4 および 5、または 25

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDPDM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0790

説明: IMS USE マネージャー・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

分析: これは、モジュール DFSUSE00、DFSUSE10、または DFSUSE20 によって発行される可能性のある標準異常終了です。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。レジスター 14 には、USE モデル内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、DFSUSE00 および DFSUSE10 (DFSUSE20 のレジスター 9 を使用) の入力パラメーター域のアドレス (DFSUSE DSECT を使用) が入っています。

DFSUSE00 は、リクエスターのために In use、Lock、Connect、Merge、または Inquire 機能を実行します。

コード

説明

X'001'

予約済み。

X'002'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または USE アンカー・ポインターがゼロです。

X'003'

リクエスターが、Lock 機能を発行する前に In-use 機能を発行しませんでした。

X'004'

INUSE/LOCK/CONNECT 待機キューが、USE マネージャー以外のユーザーによって通知されました。

X'005'

User request = LOCK。リクエスターの Use List (CULE) は、エレメントがすでにリソースに割り振り済みであることを示していますが、そのエレメントがリソース・エレメント・チェーンに含まれていません。

X'006'

User request = LOCK。リクエスターは、リソースの現在のロック所有者です。

X'007'

User request = LOCK/CONNECT。この作業単位 (UOW) に対して、別の INUSE/LOCK/CONNECT がアクティブになっています。UOW は、アクティブな LOCK/CONNECT を 1 つしか持つことはできません。追加要求により、デッドロックが発生する可能性があります。

X'008'

ユーザー要求は INUSE でした。リクエスターは、リソースの現在の共用者です。

X'009'

ユーザー要求は INUSE/LOCK/CONNECT でした。リソースは論理的に削除されました。

X'010'

ユーザー要求は MERGE でした。リクエスターの取り出し元 リソースにロックがありません。

USE01000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CULE を割り振ってリクエスターをラッチします。

コード

説明

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CULE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CULE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振るために使用されます。USE01000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が CULE を割り振り解除します。

X'021'

予約済み

X'022'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'023'

予約済み

X'024'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB00 を呼び出して CULE を解放するために、AWE の割り振りを試行中です。

X'025'

非 ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'026'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振り解除するために使用されます。

X'061'

User request = INUSE。再試行中に、該当エレメントがリソース・エレメント・チェーン上に見つかりませんでした。

X'062'

INUSE/LOCK/CONNECT 待機キューが、USE マネージャー以外のユーザーによって通知されました。

0790

X'063'

User request = INUSE/LOCK/CONNECT。リソースは論理的に削除されました。

USE03000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、DCSL ラッチを割り振ります。

USE07000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CONV ラッチを割り振ります。

コード

説明

X'041'

CULEF2LS または CULEF2LE のいずれかが設定されていません。この問題は、USE Manager 内部エラーです。

X'042'

予約済み

X'043'

予約済み

X'044'

ラッチはすでに所有されています。

X'045'

ラッチ階層違反が発生しました。

X'046'

排他的ラッチを取得できませんでした。

X'047'

共用ラッチを取得できませんでした。

X'048'

ラッチ・マネージャーで内部エラーが発生しました。

USE04000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、DCSL ラッチを解放します。

USE08000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CONV ラッチを解放します。

コード

説明

X'051'

リクエスターがそのラッチを所有していません。

X'052'

リクエスターに共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) がありません。

DFSUSE10 は、No-use、Unlock、または Disconnect 機能を実行します。

コード

説明

X'101'

共通使用エレメント・ブロック (CULE) が作業単位 (UOW) に割り振られていません。

X'102'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または USE アンカー・ポインターがゼロです。

X'103'

request = NOUSE の場合、リクエスターはこのリソースに対するアクティブな INUSE を持っていません。

request = UNLOCK/DISCONNECT の場合、リソースに対して LOCK/CONNECT が実行されなかったか、またはリソース・ヘッダーがゼロです。

X'104'

トークン使用リストの workID/callID が、パラメーター・リストの workID/callID に一致しません。

X'105'

ロック使用キュー・ロジックで、無効な通知コードが検出されました。

X'106'

予約済み。

X'107'

リクエスターが、要求されたリソースに対する use 所有権を持っていません。

USE11000 (DFSUSE10 のサブルーチン) が、ラッチ・リクエスターの CULE を割り振り解除します。

コード

説明

X'111'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスター用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'112'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'113'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスター用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'114'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスター用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'115'

非 ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'116'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスター用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'120'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または use アンカー・ポイントがゼロです。

DFSUSE20 が、In use 所有権を AWE キューからリカバリー (解放) します。

コード

説明

X'201'

初期設定 - アイドル状態からの無効な通知コード

X'202'

無効なりカバリー・タイプが指定されました。

USE21000 (DFSUSE20 のサブルーチン) が、作業単位の使用を割り振り解除します。

コード

説明

X'210'

無効なブロック・タイプが指定されました。

X'211'

無効なりカバリー・トークンが指定されました。

0790

X'212'

作業単位の CULE テーブルは、リソースがロックされていることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がその作業単位に割り振られていません。

X'213'

作業単位の CULE テーブルは、リソースが使用中であることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がどの作業単位にも割り振られていません。

X'214'

作業単位の CULE テーブルは、リソースが使用中であることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がその作業単位に割り振られていません。

DFSSLC00 と DFSSLC10 の場合:

IMS ラッチ・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

異常終了 0790 は、モジュール DFSSLC00 または DFSSLC10 によって発行される可能性のある標準異常終了です。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。レジスター 14 には、SLC モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、DFSSLC00 および DFSSLC10 (DFSSLC20 のレジスター 9 を使用) の入力パラメーター域のアドレス (DFSSLC DSECT を使用) が入っています。パラメーター域の SLCPTYPE は、異常終了の時点で要求されたラッチ・タイプを判別します。

リクエストのラッチ取得に関する DFSSLC00 GET のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'01'

渡された ECB が SAP に付加された ECB と一致しませんでした。

X'02'

AWE 用の DFSBCB GET にパラメーター域を割り振ることができません。

X'03'

ラッチ割り振りが失敗しました。ラッチはすでに保持されています。

X'04'

ラッチ割り振り解除が失敗しました。

X'05'

パラメーター域の割り振り解除ができません。

リクエストのラッチ解放に関する DFSSLC10 REL のサブコードは以下のとおりです。

コード

説明

X'01'

渡された ECB が SAP に付加された ECB と一致しませんでした。

X'02'

無効な検索タイプが指定されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メモリー・ダンプ分析を参照して、USE マネージャーの原因を判別します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUSE00、DFSUSE10、DFSUSE20

0791

説明: Open Database Access (ODBA) 同期点タスク制御ブロック (TCB) の初期設定または処理で、重大なシステム・エラーが検出されました。

分析: 0791 は、モジュール DFSAERS0、 DFSAERN0、 DFSAERC0、 DFSAERG0、 DFSAERM0、 および DFSAIBEQ によって発行される可能性のある標準異常終了です。

DFSAERS0 の場合:

コード
説明

X'04'

BCB QSAV 取得が失敗しました。

X'08'

DFSCDSP 呼び出しが失敗しました。

X'0C'

IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'10'

DFSCWU 呼び出しが失敗しました。

X'14'

DFSCIR 呼び出しが失敗しました。

X'18'

IMODULE LOAD が失敗しました。

X'1C'

IPOST が失敗しました。

X'20'

IMODULE GETSTOR が失敗しました。

X'24'

名前/トークン・サービス呼び出しが失敗しました。

X'28'

ODBA スレッドを終了するための呼び出しが異常終了しました。

DFSAERN0 の場合:

コード
説明

X'04'

DFSBCB GET 呼び出しが失敗しました。

X'20'

ODS 機能が無効です。

X'28'

ODBA スレッドを終了するための呼び出しが異常終了しました。

DFSAERC0 の場合:

コード
説明

X'04'

DFSBCB GET 呼び出しが失敗しました。

0793

DFSAERG0

コード
説明

X'2C'

DFSAERM0 のアタッチが失敗しました。R14 に、ATTACH からの戻りコードが入っています。

X'400'

ODBM 互換性呼び出しを使用中ですが、ODBA アドレス・スペースが RRMS または ODBM に登録されていません。これはおそらく内部エラーです。

X'404'

ODBA 互換性呼び出しの完了後に、ODBM がリカバリー・リソース管理サービス (RRMS) コンテキストを関連付けることに失敗しました。これはおそらく内部エラーです。

X'408'

ODBA 互換性呼び出しを行う前に、ODBA は、現在の RRMS コンテキストの関連付けを解除することに失敗しました。これはおそらく内部エラーです。

X'40C'

ODBA から ODBM への PSB 割り振り (APSB) 呼び出しが失敗しました。PSB 名が正しいこと、および IMS に定義されていることを確認してください。

X'410'

ODBA はローカル PCB を見つけることができませんでした。アプリケーションが有効な PCB 名を使用しているか検査してください。

DFSAERM0

コード
説明

X'30'

DFSAERM0 初期設定エラーが発生しました。AIBRSA1 が欠落しているか、無効なサブ関数コードが提供されました。INIT パラメーター・エラーが見つかりました。

X'34'

DFSAERM0 は、初期設定を完了するための十分なストレージを取得できませんでした。AERWORK 領域取得の失敗が検出されました。

X'38'

DFSAERM0 初期設定エラーが発生しました。ESTAE の確立が失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、3、4、5、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAERS0、DFSAERN0、DFSAERC0、DFSAERG0、DFSAERM0、DFSAIBEQ。

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0793

説明: モジュール DFSISTS0 が、LOGIN または LOGOUT のいずれの DD ステートメントもオープンできませんでした。

分析: この異常終了は、モジュール DFSISTS0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: z/OS エラーが発生しました。

システムの処置: モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、3、8

各 DD 名の JCL を確認してください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISTS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0794

説明: モジュール DFSISTS0 が、SORT プログラムにリンクしようとして、ゼロ以外の戻りコードを検出しました。戻りコードはゼロでなければなりません。

分析: これは、DFSISTS0 (統計フォーマッター・プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFSISTS0 は、SORT プログラムを呼び出して、個々の完全なメッセージをまとめて ENQ、DEQ、または CANCEL レコード (あるいはこれら 3 つのレコードすべて) に入れます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル LINKRC 内の命令を指しています。LINK(SVC 6) からの戻りコードはラベル SAVER15 に保管されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000031A'	SORTINIT	SORT プログラムのマクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを返しました。

システムの処置: モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

問題判別: 1、2、3、4、8、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISTS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0795

説明: SORT プログラムの出力フェーズで、無効なレコード・タイプが検出されました。レジスター 7 は無効なレコードを指しています。SORT プログラムの問題である可能性があります。

分析: これは、DFSISTS0 によって発行される標準異常終了です。ログ・データ・セット・レコードが、入力出口ルーチン (E15ON) を使用してインライン SORT に読み取られました。レコードは現在、後続の処理を行うために、出力出口ルーチン (E35ON) を使用して DFSISTS0 に渡されています。DFSISTS0 は、受け取り順にレコードを検証し、無効なレコード・タイプが検出されると異常終了します。有効なレコード・タイプは以下のとおりです。

コード

説明

X'36'

DEQ レコード

X'35'

ENQ レコード

0796

X'34'

CANCEL レコード

X'33'

フリー・キュー・レコード

X'31'

GU レコード

X'03'

出力レコード

X'01'

入力レコード

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル BADSORT 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 7 は無効なレコードを指しており、レジスター 12 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000031B'、 レコード)	Reg7=A(無効な CHECKED	SORT 出力出口ルーチン (E35ON) が、DFSISTS0 に無効なレコード・タイプを渡しました。

考えられる原因: SORT プログラム障害

システムの処置: モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

問題判別: 1、2、3、4、8、25、35

APAR 処理の場合: コンソール・シート、メモリー・ダンプ、IMS ログのコピー

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISTS0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0796

説明: REPL 呼び出しの処理中に、DFSDLD00 内の置換モジュール DFSDLDR0 が、ルート・セグメントが検索機能によってロックされていないことを検出しました。

分析: これは、モジュール DFSDLDR0 から発行される疑似異常終了であり、DL/I トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして使用されています。

キー	説明
41410118	DFSDLDR0 は、置換処理用の更新ロックを取得する前に、検索機能によってルート・セグメントがロックされたかどうかを検査します。DSGTOKEN=0 の場合 (ルート・ロック・トークンが含まれていない場合) は、この異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17d、17f、17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0797

説明: 削除機能または置換機能が、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメントを受け取りました。

分析: これは、モジュール DFSDDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。異常終了 0797 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして使用されています。

キー	説明
4343011C	可変長でも圧縮でもないセグメントを置換しようとしたしましたが、置換モジュールが、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメント・タイプを受け取りました。
4343021C	可変長でも圧縮でもないセグメントを置換しようとしたしましたが、古いコピーをログに記録するためにロガーでインターフェース処理をした後で、バッファ内のセグメントがロギング前と同じものではありませんでした。
4343031C	可変長セグメントまたは圧縮セグメントを置換しようとしたしましたが、置換モジュールが、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメント・タイプを受け取りました。
4343041C	可変長セグメントを置換しようとして、置換モジュールが、そのセグメントの古いコピーが分離されていることを検出しました。しかし、データベースが HD 編成されていなかったか、セグメントのデータ部分のセグメント・コードが接頭部のセグメント・コードに一致しませんでした。
4343051C	可変長セグメントを置換しようとして、置換モジュールが、そのセグメントの古いコピーが分離されていることを検出しました。しかし、接頭部が指すデータ部分は、それが分離されていることを示していませんでした。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17d、17f、17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0799

説明: DELETE/REPLACE モジュールが、セグメントを拡張または圧縮するために、ユーザー作成のセグメント編集/圧縮ルーチンを呼び出しました。戻り時に、削除/置換機能が、セグメントの新しい LL が許容最大 LL を超えていることを検出しました。

高速機能を使用していて、出口ルーチンから戻ったときに、以下のいずれかの問題が検出されました。

- キーが変更された (サブコード 1)。
- 長さが正しくない (サブコード 2)。
- 圧縮セグメント長が変更された (サブコード 3)。

0799

分析: 異常終了 0799 は、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0799 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
04040134	セグメントの圧縮解除後に、結果の長さが 2 より小さくなります。
04040234	セグメントの圧縮解除後に、結果の長さが DMBSGMX より大きくなります。
04040334	セグメントの圧縮後に、結果の長さが 2 より小さくなります。
04040434	セグメントの圧縮後に、結果の長さが DMBSGMX より大きくなります。
04040534	固定長セグメントの圧縮後に、結果の長さが DMBDL に 10 を加えた値より大きくなります。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 可変長セグメントの圧縮データ長が DMBSGMX より大きい。
- 固定長セグメントの圧縮データ長が DMBDL に 10 を加えた値より大きい。
- 編集/圧縮ルーチンにエラーが発生したか、または編集/圧縮ルーチンに無意味なデータが渡された。

DBFCMP10 の場合:

セグメント圧縮出口ルーチンから戻った後で、キーが変更されたか、または長さ (LL) が正しくありませんでした。

この異常終了は、キーが変更された場合にモジュール DBFCMP10 によって発行される疑似異常終了です。レジスター 1 には異常終了コードが入り、レジスター 2 にはサブコード 1 が入っています。

Reg3 A (ユーザー出口ルーチンを呼び出した後のセグメント)

Reg4 A (ユーザー出口ルーチンを呼び出す前のセグメント)

Reg7 キー長

Reg10 A (EPST)

DBFCMP10 は、以下の条件下でもこの異常終了を発行します (レジスター 1 には異常終了コードが入り、レジスター 2 にはサブコード 2 が入っています)。

1. LL がデータベース記述 (DBD) に指定された最小長より小さい。
2. LL が DBD に指定された最大長 (最大 10 バイト) より大きく、指定された CI サイズ (120 バイトより小さいオーバーヘッド) より小さい。

Reg4 A (MLTE)

Reg5 返された LL

Reg6 ABEND コード

Reg7 CI サイズ (120 バイト)

Reg8 A (DEDB エリア制御 (DMAC))

Reg10 A (EPST)

最大値 (SDBLMAX) および最小値 (SDBLMIN) を見つけるには、MLTESDBS から A (SDBS) を見つけます。CI サイズは DMACBLKL です。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: セグメント編集/圧縮ルーチンを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 17a から 17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL00、DBFCMP10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0800

説明: 使用中のセグメント編集/圧縮出口ルーチンが、可変長圧縮セグメントを拡張しました。返されたセグメントの長さが、許容最大長を超えたか、または 2 バイト以下でした。

モジュール DFSDLR00 内の VLEXP ルーチンの処理中に、PROCOPT=GO、GON、または GOT (GOx) を使用した PCB が、圧縮セグメントの LL フィールドで無効な長さを検出しました。LL フィールドの長さ値が、最大セグメント長を 11 バイト以上超えたか、または 2 バイト以下でした。PROCOPT=GOx をもつ PCB に対して拡張を行う前に、更新トランザクションがセグメント・データを変更している可能性があります。

- 高速機能 DEDB に対して圧縮出口が使用されており、PROCOPT=GOx がその位置を失ったために、拡張されたセグメント長がセグメント作業域より大きくなっている場合、オーバーレイを防ぐためにこの異常終了が発行されます。

分析:

- 0800 は、複数のモジュールから発行される疑似異常終了です。

DFSDLR00 の場合: 異常終了が検出されると、検索機能は、オフセット X'C' で始まるレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) を PST 内の最新保管域に保管します。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。

キー	ラベル	説明
Reg0=WKA サイズ Reg15=連結キー長 Reg0=000320 Reg7=PST	VLEN2	レジスター 15 は、セグメント長を指しています。これが DMBSGMX と比較され、セグメント長が大きい場合は異常終了が発行されます。
	COMPG020	レジスター 3 にセグメント長が入っています。レジスター 3 が 2 バイト以下の場合、異常終了が発行されます。

- DBFCMP10** および **DBFCMP11** の場合: IMS は、PROCOPT GOx 処理に起因するオーバーレイ問題を検出しました。

システムの処置: バッチまたはメッセージ処理領域は異常終了します。制御領域は正常に継続します。

プログラマーの応答: セグメント編集/圧縮出口ルーチンを修正します。

PCB が LL フィールドで無効な長さを検出した場合、PROCOPT=GOx トランザクションを再実行します。異常終了が再発する場合、データベース内のセグメントの LL フィールドを調べます。

問題判別: 4、17c

ソース: IMS 異常終了

- モジュール: DFSDLR00、DBFCMP10、DBFCMP11

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 18 章 IMS 異常終了コード 0801 - 0850

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0801

説明: この異常終了コードが出る理由は 3 つあります。

1. 「PSBIOAWK」作業域が小さすぎて、返すべき連結キーまたはセグメントを保持できない。ユーザーが PSBGEN (PSBGEN ステートメントの IOASIZE= パラメーター) で小さすぎるエリアを定義した場合、またはアプリケーションに戻される連結セグメントの結合された長さが 65535 バイトを超えるようなパス CALL が指定された場合に、この問題が発生する可能性があります。PSBGEN で IOASIZE パラメーターが省略されている場合 (この場合、「PSBIOAWK」のサイズはブロック・ビルダーによって決定されます)、この問題は IMS エラーの可能性がります。
2. DFSDLR00 からの「DBWP」プールに対する GET BUFF 呼び出しへの応答で、ストレージ・マネージャーからゼロ以外の戻りコードが返された。ストレージ・マネージャーからのゼロ以外の戻りコードは、通常、要求を満たすだけの十分なスペースが「DBWP」プール内にあることを示します。
3. 可変長セグメントの長さフィールドが、2 より小さいか、または定義された最大長より大きい。

分析:

0801 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。検索トレースがアクティブになっていた場合、それを使用して、異常終了を開始したサブルーチンを見つけることができます。レジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内にある最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。レジスター 14 は、先頭バイトの X'AA' によって示されます。検索トレースがアクティブになっていなかった場合、レジスター 12 に入っている基底アドレスを使用して、異常終了を開始したサブルーチンを判別することができます。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 3=JCB

レジスター 4= レベル・テーブル

レジスター 5=SDB

レジスター 7=PST

レジスター 8=DSG

レベル・テーブルは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=WKA サイズ、 連結キー長 Reg15=	RDLP200 (RDLPABND)	この検索機能では、物理キーを使用して 01 タイプの論理子の連結キー長を検索します。レジスター 15 内の連結キー長とレジスター 0 内の作業域のサイズが比較されます。作業域のサイズは、PSBIOAWK の値と PSBSSAWK の値の差です。レジスター 15 の値の方が大きい場合、異常終了が発行されます。
Reg0=WKA サイズ、 Reg15=00000004	RDPR010 (RDPRABND)	レジスター 1 内の入力 SDB のデータ長と作業域のサイズが比較されます。作業域のサイズは、PSBIOAWK の値と PSBSSAWK の値の差です。レジスター 1 の値の方が大きい場合、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL(GETBUF)	CCTOMEB (CCTOMEER)	キー長に等しいスペースの場合、IGETBUF が発行されます。DFSIGBUF から戻った際にレジスター 15 がゼロでない場合は、異常終了が発行されます。

0802

キー	ラベル	説明
JCBSGMX=WKA サイズ	MVSGA (MVSEXAB)	データ長 (JCBSEGLL と JCBSGMV の合計) と作業域のサイズが比較されます。作業域は、PSBIOAWK と PSBSSAWK の差として計算され、JCBSGMX に保管されます。データ長が作業域のサイズを超えている場合、異常終了が発行されます。
Reg0= データの長さ	MVSQ (MVSEXAB)	データ長 (JCBSEGLL) は、有効な範囲内になければなりません。JCBSEGLL が 2 より小さいか最大長 (DMBSGMX) より大きい場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: PSBGE が正しくありません。

APAR 処理の場合: DBDGEN および PSBGEN のリスト

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 「IOASIZE=」パラメーターには、必ず、そのパラメーターの指定に従った値を定義してください。ABEND 時の呼び出しがパス CALL の場合、戻される連結セグメントのすべてを結合した長さが 65535 バイトを超えないようにします。このサイズが制限を超えていた場合、1 回の呼び出しではなく、一連のパス CALL を発行することにより、どの呼び出しでも 65535 バイト制限を超えないようにすることができます。異常終了の原因が可変長セグメントの不適切な長さフィールドである場合、その無効な長さを訂正します。

問題判別: 17a、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0802

説明: 置換機能は、可変長セグメントを置き換えるためにスペース管理からスペースを取得しようとしていました。新しい LL または最小 LL が、古い LL より大です。そのため、置換機能はスペース管理からの追加スペースを要求しましたが、データ・セット内に使用可能なスペースがないことを示す戻りコードを受け取りました。

分析: 0802 は、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0802 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
43430028	置換モジュールが、セグメントを拡張するためにスペース要求を発行しました。スペース管理からの戻りコードにより、使用可能なスペースがないことが示されました。

考えられる原因: フリー・スペースまたは潜在的なフリー・スペースをアクセス可能にするためには、データ・セットの再配置が必要です。それには、UNLOAD を実行し、続いてデータ・セットを再ロードします。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: データベースを再編成します。

問題判別: 17a から 17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0803

説明: 削除機能または置換機能が論理的に関連付けられたセグメント (通常、論理親または物理対の論理子) が見つからなかったか、論理子の削除で論理親のカウンターが減少した場合に値が負になったか、あるいは、論理子が論理兄弟チェーン上に見つかりませんでした。

物理対の論理子が見つからなかった場合、次の 2 つの条件のいずれかが存在します。

- 対セグメントが存在しない。
- 対セグメントの交差データが元の交差データに等しくない。

この最後の条件は、ユーザーのロード・プログラムが、両方のコピーに等しい交差データをロードすることに失敗したことが原因です。

分析: これは、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0803 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
3131012C	論理子セグメントを削除する必要があります。しかし、論理親接頭部のカウンターが 0 で、論理親に論理子がないことが示されています。
3535012C	削除モジュールが論理チェーンの先頭と判断した論理子セグメントを削除しているときに、論理親内 LCF ポインターがこのセグメントを指していないことが判明しました。
3535022C	LCF ポインターが、削除すべき論理子を指していません。チェーン上のセグメントを検索中に、LTF ポインターが存在しないことが判明しました。
3535032C	削除すべき論理子が、論理論理兄弟チェーン上に見つかりませんでした。
6363012C	削除/置換モジュールは、LC データベースから LP データベースへと進んで関係を全探索する必要があります。論理子には論理親ポインターがありますが、その値が 0 です。
6363022C	削除/置換モジュールは、LP データベースから LC データベースへと進んで関係を全探索する必要があります。論理子の先頭ポインターは論理親セグメント中に存在していますが、その値が 0 です。
6565012C	検索したばかりのセグメントの PSTBYTNM が、予期したものではありません。(HISAM)
6565022C	論理関係を全探索してセグメントを取得した後で、削除/置換モジュールがセグメントを識別できませんでした。(HISAM)
6565032C	論理関係を全探索してオーバーフロー・レコードを取得した後で、オーバーフロー・レコードが空であることが判明しました。(HISAM)
6666002C	キーによってルート・セグメントを見つけることができません。
6666012C	キーによってセグメント位置を見つけることができません。
6666022C	

0804

キー	説明
6666032C	ポインターによってセグメント位置を見つけることができません。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- データベース再編成後、データベースへの他の呼び出しの前に接頭部更新機能が実行されなかった。
- 物理対の論理子を削除中に、等しい交差データが物理対の論理子にロードされなかった。
- 接頭部解決ユーティリティーの実行後、接頭部更新機能の実行前に、実装の有無に関して戻りコードが検査されなかった (0 でない場合)。
- シンボリック・キーを使用している場合、論理親が存在しなかった。
- 論理構造が存在している場合、固有ではないキーの使用時にポインターが失われた。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 再編成およびロード・プログラムが必ず正常に実行されるようにしてください。データベース部分再編成ユーティリティー (DFSPRCT1) (データベース管理)を参照してください。

問題判別: 17a から 17g、35

異常終了時に、レジスター 11 が CSECT DFSDLDS0 を指している場合は、削除または置換機能が論理親または対の論理子を見つけることができませんでした。ただし、レジスター 11 が CSECT DFSDLD00 を指している場合は、レジスター 15 に問題を識別する値が入れられます。レジスター 15 が負の場合は、削除呼び出しの前に論理親カウンターがゼロでした。レジスター 15 がゼロの場合は、論理親が、削除すべき論理子を指していません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLD00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0804

説明: DL/I アクション・モジュールが作業用ストレージに対して要求を出しました。データベース作業プール内で使用可能なスペースが十分になかったため、要求を満たすことができませんでした。データベース作業プールは、少なくとも、アクティブな従属領域の数に 2K を乗じた大きさが必要です。

分析: これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0804 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
22220130	作業域削除 (DLTWA) チェーンが無効です。削除モジュールが最新作業域を検出しました。しかし、PST は、別の作業域が存在することを示しています。
67670030	作業域を作成するためのストレージを要求した後で、ゼロ以外の戻りコードが GETBUF から取得されました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- COBOL V3.1 から SORT が呼び出されたとき、VS SORT が割り振り済みストレージの 80 バイトを解放しなかった。

- アプリケーションがバッチ領域内でオーバーレイ・モードで実行されたが、アプリケーション・マクロがこれを反映するようにコーディングされていなかった。
- DB/DC 環境の場合、DBWP が小さすぎる。
- バッチ環境の場合、領域サイズが小さすぎる。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは停止し、現行メッセージはメッセージ・キューに再エンキューされます。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムを再始動することができ、また、トランザクションは再びスケジュールされます。

プログラマーの応答: オンライン・システムで 0804 異常終了が発生した場合、データベース作業プール (DBWP) のサイズを増やす必要があります。このサイズは、EXEC ステートメントのパラメーターとして指定できます。バッチ領域でこの異常終了が発生した場合、領域サイズを増やす必要があります。

問題判別: 4、5、6

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0805

説明: High Availability Large Database (HALDB) の区画の再ロード処理中に、接頭部が HALDB 区画に無効であるか、または接頭部の長さが HALDB 区画に無効であることが判明しました。

分析: これは、DFSDLA00 によって設定され、モジュール DFSPR000 から発行される疑似異常終了です。

SYSABEND または SYSUDUMP DD カードによって生成されるダンプで、異常終了の時点でレジスター 11 に入っていたアドレスが指す PST を見つけます。DFSADSCT モジュールによって参照される IPST dsect をアSEMBルして、フィールド PSTFUNCH の正しいオフセットを見つけます。

PSTFUNCH には、次のエラー・コードのいずれかが含まれています。

- **RER1** - 無効な区画接頭部
- **RER2** - 無効な区画接頭部の長さ

考えられる原因: アンロードされた HALDB の区画以外のデータベースが、再ロード時に指定されました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

ユーザーの処置: アンロードされた正しい区画データベースを指定して、再ロード・ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、17a、35、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0806

説明: 削除/置換機能が、バイト探索呼び出しでバッファー・ハンドラーから無効な戻りを受け取ったか、または変更されたバッファーにマークを付けようとしてエラーが発生しました。バッファー・ハンドラーに対する要求は、Mark Buffer Altered、Byte-Locate 呼び出し、Erase-Logical-Record 呼び出し、SETL、または Block-Locate 呼び出しのいずれかであった可能性があります。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析: これは、モジュール DFSDDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

PSTFNCTN にあるバッファー・ハンドラー機能コードに、実行された呼び出しのタイプが示されます。

0806

呼び出し

PSTFNCTN

X'E1' Block Locate

X'E2' Byte Locate

X'E6' Mark Buffer Altered

X'F1' Erase Logical Record

X'F2' SETL

異常終了 0806 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードは、0202xx34 でなければなりません (ここで、xx は上記に示す PSTFNCTN コードです)。4 番目のバイト X'34' は、異常終了 0806 の場合の削除/置換機能の内部コードです。最初の 2 バイトはルーチン識別番号で、最初のバイトがこの項目の発信元、2 番目のバイトが異常終了の発信元を表します。識別番号 X'02' は、削除/置換モジュール内の CALLBH ルーチンを表します (ID 番号についてはモジュールのプロローグを参照してください)。

このトレース項目から入手できる追加情報項目は以下のとおりです。

オフセット

項目

22 CSECT (呼び出し元) からの戻りオフセット

24 DSG アドレス

28 PSTBYTNM

最初のトレース項目では問題の診断に不十分な場合、以下の表に従って、CALLBH を呼び出したルーチンを 2 番目のトレース項目から識別することができます。

ルーチン ID

ソース・モジュールおよびルーチン

01 から 1F

DFSDLDC0: 制御/共通サブルーチン

20 から 3F

DFSDLDD0: 削除ルーチン

40 から 5F

DFSDLDR0: 置換ルーチン

60 から 7F

DFSDLDW0: DLTWA 作成ルーチン

例えば、2 番目の項目の ENTRY1 ワードが 4202E234 の場合、PSTFNCTN コード (E2) は Byte-Locate 呼び出しを示し、ルーチン ID (42) は呼び出し元のモジュールが DFSDLDR0 であることを示します。DFSDLDR0 のプロローグを参照すると、ルーチン 42 が CPRDATA であることが分かります。コードおよびコメントから、さらに詳細な問題診断を行う必要があります。

複数のロケーションから CALLBH に進むルーチンの場合、CALLBH への正確な出口は、前のトレース項目のオフセット X'16' から判別できます。このハーフワードには、呼び出し元の CSECT の先頭から、CALLBH に分岐した「BALR R10,R11」命令の次の命令までのオフセットが含まれています。問題診断を続けるには、コードおよびコメントをお読みください。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17g、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLD00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0807

説明: 削除/置換機能が、物理構造内で位置を取得できません (ルートへの物理パスが必要)。この障害は、論理ブロックの検索中、またはルートへの物理パスの検索中に発生した可能性があります。この問題は、おそらくシステム・エラーです。

分析: これは、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0807 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
05050038	削除/置換モジュールは、バッファ・ハンドラーからオーバーフロー・レコードを取得した後で、そのレコードの予期された位置に有効なセグメント・コードが含まれていないことを検出しました。
25250138	VSAM KSDS データベースに論理関係が存在する DELETE の処理中に、論理子のデータベースに削除スキャンを返す際に、ルート・セグメントのキーによる検索で該当セグメントが見つかりませんでした。
2320138	PTF ポインターまたは PCF ポインターを更新しようとしていたとき、セグメントのスペース解放の直前に、削除モジュールが兄弟チェーン上でセグメントを検出できませんでした。
64640138	削除作業域のレベル・テーブルに、RBN が 0 の項目が含まれています。
6660038	レベル・テーブル (削除作業域内の) のルート・セグメントの項目で、RBN が 0 で使用可能なキーがありません。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 17a から 17g、および 35

レジスター 11 が CSECT DFSDLDS0 を指している場合、削除/置換機能が、削除または置換されるセグメントからルート・セグメントに向かって、論理ブロック (SDB およびレベル・テーブル) をたどることができませんでした。このエラーは、通常、削除が求められている位置を検索機能によって通知していないために発生します。レジスター 11 が CSECT DFSDL00 を指している場合、除去すべきセグメントが物理チェーン (PCF、PCL、PTF、PTB、または RAP) によって指し示されていません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0808

説明: 削除/置換機能が、論理関係のデータベース・ブロック記述を解決できなかったか、または検索されたセグメント・コードに対する PSDB のアドレスを計算できませんでした。

分析: これは、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0808 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されません。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下でキーとして使用されています。

キー	説明
2020013C 2828013C 3838013C 2A2A013C 2A2A023C 2A2A033C 2A2A043C 3232013C 3232043C 3A3A013C 3C3C013C 3131023C	検索したばかりのセグメント・コードの PSDB のアドレスを計算できませんでした。
2121013C 2626013C	論理子の PSDB のアドレスを、その論理子に関する論理親の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
3131013C	削除モジュールが、論理子を削除する前に論理親のカウンターの値を減らす必要があることを判別しました。その論理親にはカウンターがありません。
3232023C 6565003C	逆方向ポインティングのない兄弟チェーン上のセグメントを検出しようとする際、削除/置換モジュールは親セグメントから開始する必要があります。しかし、親セグメントに、子セグメントへのポインターがありません。
3232033C 3838023C	順方向チェーンに沿って移動しているときに、順方向ポインターのないセグメントが検出されました。
3434013C 3434023C 6868043C	親セグメント (既知の PSDB を持つセグメントの親セグメント) の PSDB のアドレスを計算できませんでした。
3B3B013C 4242023C 4444003C 6868023C	論理子の SECLST 項目に、論理親に関する項目が含まれていません。
3B3B023C 2626013C 4242033C	論理親の PSDB のアドレスを、その論理親に関する論理子の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
3B3B033C 4242053C	論理親の SECLST 項目に、論理子に関する項目が含まれていません。
4242013C 6868013C	論理子の PSDB に、SECLST 項目のアドレスが含まれていません。

キー	説明
4242043C	論理親の PSDB に、SECLST 項目のアドレスが含まれていません。
4242063C 7272033C 7272043C	論理子の SECLST 項目に、対の論理子に関する項目が含まれていません。
4242073C 7272013C 7767013C	対の論理子の PSDB のアドレスを、その対のオリジナルの論理子の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
6363013C	論理子からその論理親へのパスが存在していません。その論理子には、論理親ポインターがなく、論理親のキーも含まれていません。
6363023C	双方向の関係で、論理親から論理子へのパスが存在していません。その論理親には、論理子先頭ポインターがありません。
6666003C	HIDAM で、ルート・セグメント用の SECLST 項目に 1 次索引の項目が含まれていません。
6868033C	論理子のシーケンス・フィールドが、論理親の仮想連結キーに含まれています。
6969033C	論理ブロックから位置とキーを取得しようとしたのですが、SDB から取得された現行セグメントの PSDB アドレスが、そのセグメントに関する削除作業域レベル・テーブル内の PSDB アドレスに一致しません。
7272023C	論理親または論理子のいずれか (対でなく) の PSDB のアドレスを、SECLST 項目から計算できませんでした。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17g、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0810

説明: アプリケーション・プログラムがデータベースをロードしようとしたのですが、データベース内のすべてのデータ・セット・グループに対してセンシティブではありませんでした。

分析: 0810 は、DFSDLOC0 (DL/I データベース OPEN/CLOSE モジュール) によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。フィールド選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSER30 を指定する必要があります。

この疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDLOC0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDLICL の SCD からエントリ・ポイント・アドレスを取得し、保管セットの中からそれに一致するアドレスがレジスター 15 に入っているものを探してください。この保管セットには、OPEN/CLOSE モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。この保管セットのレジスター 1 は、PST を指しています。

PCB (PSTFNCTN=X'0A') に対して OPEN が要求されました。PCB 処理オプションがロード (PROCOPT=L) の場合に、JCB 内の各 DSG に関連付けられた AMP がすべてオープンかすべてクローズのどちらかになっていることを調べるために、テストが行われます。

0811

キー	ラベル	説明
PSTABTRM=X'1000032A' PSTFNCTN=X'80'	LDOCHKEG	すべての AMP がオープンかクローズのどちらかであることを確認するために、処理バイト (OCWORKSW) がテストされます。不合格の場合、ラベル NOTOPNLD に分岐し、異常終了が発行されます。

考えられる原因: PSBGEN が各データ・セット・グループ内の少なくとも 1 つのセグメントに対して、センシティブになっていません。

APAR 処理の場合: PSBGEN、DBDGEN パラメーター、システム・ログのコピー、および従属領域ダンプ

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: PSB 生成を再度実行し、プログラムが各データ・セット・グループ内の少なくとも 1 つのセグメントに対してセンシティブになるようにします。

問題判別: 2、3、9、18、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDL0C0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0811

説明: 削除/置換機能がセグメントの接頭部にあるポインターを変更しようとした。しかし、ポインターの古い値が予期したものではないことをシステムが検出しました。以前のポインター保守にエラーがありました。

分析: 異常終了 0811 は、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。異常終了 0811 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下でキーとして使用されています。

キー	説明
37370140	削除されたセグメントは、物理子チェーンの最初または最後のセグメントでした。しかし、親セグメント内のポインターを変更しようとしたとき、削除モジュールが、削除されたセグメントの RBA がポインターに含まれていないことを検出しました。
38380140	削除されたセグメントは、物理チェーンまたは論理チェーン上にありました。
39390140	前または次のセグメントにポインターをチェーニングしようとしたとき、削除モジュールが、削除されたセグメントの RBA がポインターに含まれていないことを検出しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17g、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDL00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0812

説明: ランダムイザ・ルーチンから、4 より大きい戻りコードが返されました。

分析: これは、モジュール DFSDLDC0 および DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLDC0、DFSDLR00

0814

説明: データ・キャプチャー処理中に、変更されたデータ・ロギングまたは変更されたデータ出口がデータベースに定義されたときに、リカバリー不能エラーが検出されました。

分析: エラーのタイプは、この異常終了を生成したモジュールによって異なります。

DFSCP40

z/OS データ圧縮サービスの呼び出し準備中にエラーが検出されたか、または z/OS データ圧縮サービスからの戻りコードがエラー状態を示していたために、この異常終了が発行されました。レジスター 5 が負の場合、z/OS データ圧縮サービスに渡す出力長を計算しているときに、エラーが発生しました。レジスター 5 が負でない場合は、z/OS データ圧縮サービスからレジスター 15 にエラーが返されました。CSRCE SRV 戻りコードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書 第 1 巻 (ABEND-HSPSERV)」(SA88-8578) を参照してください。

DFSECP10/DPSECP20

全機能データベースのためのデータ・キャプチャー中に DFSDCAP0 がエラーを検出したために、疑似異常終了が発生しました。PST のフィールド PSTCDCRC に、診断情報が入っています (PST は、この異常終了の場合に作成されるX'67FF' ログ・レコードでフォーマット設定されます)。フィールド PSTCDCRC の内容は、DFSDCAP0 がこの異常終了を発行する場合のレジスター 15 の内容と同じです (下記を参照)。

DFSPCC30

異常終了時に、DSPSERV または ALESERV 要求が無効な戻りコードをレジスター 15 に受け取りました。戻りコード 8 の場合、IEFUSI ユーザー出口ルーチンによってキー 8 データ・スペースの作成が妨げられたため、データ・スペースの作成が許可されませんでした。

DFSDCAP0

バッチ領域 (DLI/DBB) で全機能データベースのためのデータ・キャプチャー中に、エラーが発生しました。レジスター 15 に、以下の情報が入っています。

バイト	サブコード (括弧内は 16 進数) および説明
先頭バイト - エラーを検出したモジュール	04 (04) DFSDCAP0
2 番目のバイト - エラーを検出したルーチン	04 (04) バイト位置指定の実行 08 (08) バイト位置指定 12 (C) 論理親連結キーの作成 16 (10) ポインターの検出 20 (14) 処理の取得 24 (18) ストレージの取得 28 (1C) パス・データの削除
3 番目のバイト - エラーの理由コード	04 (04) サブコードは DMB セグメント・コードです。 08 (08) サブコードは PST 戻りコードです。 16 (10) サブコードは失敗したキャプチャー機能です。

バイト	サブコード (括弧内は 16 進数) および説明
4 番目のバイト - エラーのサブコード	<i>nm</i> 理由コード 04 の場合は PST 戻りコード <i>nm</i> 理由コード 08 の場合は DMB セグメント・コード 04 (04) 理由コード 16 の場合、作業用ストレージを獲得できません。 08 (08) 理由コード 16 の場合、使用可能なデータ・スペース・ストレージがありません。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: バッチ領域の JCL を調べます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDCAP0、DFSECP10、DFSECP20、DFSPCC30、DFSCP40

関連資料:

 z/OS: CSRCESTRV の戻りコードおよび理由コード

0816

説明: 索引同期エラーが発生しました。副次索引の内容が、ターゲット・データベースの内容と対応していません。この問題は、ターゲット DBD および 2 次 DBD を参照する PSB を再作成せずに、それらの DBD を再作成した結果である可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 索引がターゲット・データベースと同じレベルでリカバリーされるようにします。また、索引セグメントを検査して、その内容が有効であるかどうかを確認します。索引セグメントは、PSBXIOWK に含まれているアドレスが示す場所にあります。PSB は、PSTPSB にあるポインターを PDIR までたどり、さらに PDIRADDR にあるポインターを PSB までたどることによって見つけられます。データベースおよびすべての副次索引を再ロードします。特定のデータベース呼び出しに至るまで、同期エラーの原因をたどる必要があります。

問題判別: 4、5、11、17b、17c、17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0819

説明: IMS 内部システム・エラーが検出されました。次のいずれかが起こります。

- 同期点のフェーズ 1 の間に CLOSE 障害が発生し、同期点処理は打ち切られます。
- 同期点のフェーズ 1 で、参加プログラムのいずれかが "NO" と表明します。
- モジュールが同期点プロセッサ (DFSFXC30) を呼び出して、未定義の機能を要求しました。
- データベース制御 (DBCTL) 環境で、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム・スレッドが、同期点 PREPARE を行う前に、同期点 COMMIT を要求しました。

分析: DFSFXC30 の場合:

未定義の機能を処理するために、同期点プロセッサ (DFSFXC30) が呼び出されました。

SPOOL/API 処理を実行していた場合、以下の理由でシステムが異常終了しました。

- 同期点のフェーズ 1 の間に CLOSE 障害が発生し、同期点処理を打ち切る決定が行われた。
- 同期点のフェーズ 1 で参加プログラムが NO と表明した。

これは、DFSFXC30 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 SVC を指しています。レジスター 1 には、ラベル ABEND819 にある完了コードがロードされています。

許容されるエンコード済み機能コードは、PST のラベル PSTFUNCT に入っており、以下のとおりです。

コード

説明

X'01'

MSG が固有コードを取得しました。

X'42'

正常/異常終了

X'79'

同期呼び出し

X'85'

チェックポイント呼び出し

X'89'

ROLB

X'8E'

内部 ROLB

異常終了 SVRB のレジスター 13 は、現在の保管域セットを指しています。この保管域セットで、レジスター 14 は呼び出し元のリターン・アドレス、レジスター 1 は PST のアドレスです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000333'	(ラベルの前) WASHRTNE	有効な機能が存在するかどうか、PSTFUNCT フィールドが検査されます。無効なコードが渡された場合、異常終了が発行されます。

DFSDSC00 の場合:

前に PREPARE 要求を出さずに、COMMIT 要求が行われました。

システムの処置: IMS は異常終了します。

オペレーターの応答: (システム・オペレーター) マスター端末オペレーターに、IMS 制御領域の異常終了を連絡してください。

(マスター端末) 緊急時再始動を実行してください。

問題判別: 4、5、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFXC30、DFSDSC00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0820

説明: モジュール DFSDLA30 または DFSFXC40 のいずれかでエラーが検出されました。次のようなエラーの可能性ががあります。

- DFSDLA30:

- キュー・マネージャーから無効な戻りコードを受け取った。これは、IMS システム・エラーです。
- 呼び出しの宛先を探そうとしているときに、障害が発生した。

- DFSFXC40
 - 無効な機能コードが DFSFXC40 に渡された。これは、IMS システム・エラーです。
 - ゼロ以外の戻りコードがメッセージ・ルーター DFSICLRO から戻された。これは、IMS システム・エラーです。
 - 入出力 PCB 宛先出力が SMB を表しているが、従属領域はメッセージ・ドリブンである。これは、IMS システム・エラーです。

分析: これは、DFSDLA30 または DFSFXC40 のいずれかによって発行される標準異常終了です。障害が起こったモジュールを分離するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSDLA30 の場合:

0820 は、DFSDLA30 (DL/I 通信呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル xxxAB820 内の命令を指しています。レジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は、DL/I 呼び出し機能ルーチンの基底レジスターです。レジスター 9 には、PST アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg9=PST アドレス	ROLB1000	ROLB 呼び出し処理。PSTSMB アドレスがゼロです。
Reg15=DFSCON10 からの RC	ROLB2400	ROLB 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSCONC10 から受け取りました。
	GETGU20	GU 呼び出し処理。疑似 WFI サブルーチンが、GU 呼び出しを待っている SAP の呼び出しフラグが設定されたことを検出しました。DFSDLA30 は、SMB DEQ ルーチンと同期されていません。
Reg15=DFSQMGR からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSQMGR から受け取りました。
Reg15=DFSSLC からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC CNTS 検索呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSSLC からの RC	GMOVABND	GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC LNBS 検索呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSFNDDST からの RC	GMOV1900	GU、GN、CHKP、または ROLB 処理で FINDEST 呼び出しを (DFSSLC を使用して) 実行し、無効な戻りコードを受け取りました。
Reg15=DFSSLC からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC CNTS 検索呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSFNDDST からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 処理で FINDEST 呼び出しを (DFSSLC を使用して) 実行し、無効な戻りコードを受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	CANMSG	GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSQMGR から受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	CMSG1000	GU または CHKP 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSQMGR リジェクト (QMRJDLI) 呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSCMD30 からの RC	GCMDEXIT	GCMD 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSCMD30 から受け取りました。

キー	ラベル	説明
Reg15=DFSFXC40 からの RC	PURG4000	PURG 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSFXC40 から受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	ISRT085	ISRT 呼び出し処理。MODNAME を更新しようとしているときに、無効な戻りコードを DFSQMGR 接頭部挿入 (QMIPDLI) 呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	ISRT098	ISRT 呼び出し処理。MODNAME を更新しようとしているときに、無効な戻りコードを DFSQMGR 接頭部挿入 (QMIPDLI) 呼び出しから受け取りました。

DFSFXC40 の場合:

これは、DFSFXC40 (通信同期点プロセッサ) によって発行される標準異常終了です。DFSFXC40 は、同期点の通信部分を処理するために、DFSFXC30 によって呼び出されます。機能ベクトルが DFSFXC40 に渡されます。このベクトル値が無効な場合、またはメッセージ・ルーター・エラーが発生した場合に、異常終了が発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND820 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 10 には、機能ベクトル値 (16 進数)、またはルーチン ROUTERR の BAL アドレスが入っています。呼び出し元のレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) は、レジスター 13 に X'C' を加えた位置に保管されます。

キー	ラベル	説明
R10= 機能コード	ABEND820	無効な機能コードが DFSFXC40 に渡されました。DFSFXC40 の保管域のレジスター 14 は、呼び出し側モジュールを指しています。
	DLAWQ6	IOPCB が SMB を指していますが、これは無効です。これが有効なのは、非メッセージ・ドリブン BMP の OUT= パラメーターに別のトランザクションが宛先として指定されている場合のみです。
Reg15=DFSICLR0 からの RC	ABEND820	メッセージ・ルーター (DFSICLR0) が、ゼロ以外のコードを返しました。レジスター 14 は、メッセージ・ルーターに対する呼び出しの後の命令を指しています。

考えられる原因: ベクトル Router-Qmgr エンキュー戻りコードがゼロより大きい場合は、DFSFXC30 内のコーディング変更またはユーザーによる変更。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、5、11、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA30、DFSFXC40

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0821

説明: DBB タイプの IMS 領域を実行中に、プログラムおよびデータベース制御ブロックの初期設定でエラーが発生しました。

分析: これは、DFSBIND0 (DL/I バッチ ACBLIB ブロック・ローダー・インターフェース・モジュール) によって発行される標準異常終了です。特定ラベルを分離するには、異常終了 SVRB のレジスター 10 を使用します。レジスター 11 は SCD を指しており、レジスター 12 は基底レジスターです。異常終了ダンプに加えて、情報メッセージが

ジョブのメッセージ・クラスに含まれていて、システム出力装置 (SYSPRINT) に書き込まれます。

バッチ・ジョブは、以下の順序で、OLCSTAT または MODSTAT データ・セットのいずれかを選択してオンライン変更状況を読み取ります。

1. JCL 経由で割り振られた OLCSTAT データ・セットがあればそこから。
2. MDA メンバーに定義されている OLCSTAT データ・セットがあればそこから。
3. OLCSTAT DD ステートメントが JCL にコーディングされておらず、しかも OLCSTAT MDA メンバーが定義されていない場合は、JCL で割り振られた MODSTAT データ・セットから。
4. デフォルトでは、JCL にコーディングされた MODSTAT DD ステートメントもなく、OLCSTAT も存在しなければ、ACBLIB を IMSACB DD ステートメントから使用する。

OLCSTAT、MODSTAT、または IMSACB のいずれかのデータ・セットが選択された後で、データ・セット名が正しくないかまたはデータ・セットにアクセスできないために、エラーが発生する場合があります。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(DCB) Reg10=BAL	DFSBIND0	ACBLIB データ・セットが開かれている必要があります。「not open (開かれていません)」状態が発生すると、メッセージ DFS823I が出て異常終了が発行されます。
Reg5=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBIND0	PSB の BLDL SVC (SVC 18) の結果、戻りコード 8 が返され、メッセージ DFS824I が発行されました。
Reg 5=A(SELACBDD)	SELACBDD	OLCSTAT または MODSTAT データ・セットが開けなかったか、無効なデータが含まれているか、または DD DUMMY としてコーディングされています。説明については、ABEND0821 の前のエラー・メッセージを参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBIND0	BLDL SVC は 8 より小さいエラー戻りコードで完了しましたが、TTR フィールドがゼロでした。これは、「not found (見つかりません)」状態を示します。メッセージ DFS830I を参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBIND0	このコードは、別名かどうかをテストします。別名は許可されず、エラー状態として処理されます。ALIAS の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBIND0	BLDL は PSB に対するものでしたが、BLDFLAG フィールドのビットは DMB を示しています。NOTPS の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg0= ゼロ Reg8=A(PDIR) Reg10=BAL	DFSBIND0	PSB サイズがゼロであることが判明しました。これはクリティカル・エラーです。NOBUF の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg10=BAL	IDMBD7	DMB の BLDL SVC (SVC 18) の結果、戻りコード 8 が返されました。メッセージ DFS824I を参照してください。
Reg10=BAL	IDMB20	メッセージ DFS826I に、DBD 名および障害の理由が示されています。
Reg10=BAL	EODAD	共用副次索引の読み取り操作中に、入出力エラーが発生しました。メッセージ DFS838I を参照してください。
Reg10=BAL	BINMODRD	MODSTAT データ・セットが開けなかったか、または無効なデータが含まれています。メッセージ DFS3467I を参照してください。

システムの処置: IMS 領域は異常終了します。1 つ以上のメッセージがシステム・コンソールに書き込まれます。バッチ初期設定モジュール (DFSBIND0) がエラーを検出した場合、メッセージ DFS2855I、DFS823I、DFS824I、

DFS826I、DFS830I、DFS838I、DFS3467I のうちの 1 つ以上が表示されます。

ブロック・ムーバー・モジュール DFSDBLM0、またはブロック・ムーバーによって呼び出された任意のモジュールでエラーが検出された場合、バッチ DBB 領域でそれらのモジュールにより出力されたメッセージのすべてが表示されます。これらには、DFS561I、DFS564I、および DFS592I が含まれます。

プログラマーの応答: 上記にリストされたメッセージを参照して、障害の原因および問題判別ステップを判断します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBIND0

0822

説明: 単一メッセージ・キュー・セグメントが PSB 索引作業域に収まりません。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析: これは、DFSDLA30 (通信 DL/I 呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。メッセージ・セグメントには、複数のキュー・セグメントが必要な場合があります。QMGR へのそれぞれの呼び出しが、1 つのキュー・セグメントを返します。メッセージが複数のキュー・セグメントにまたがっている場合は、各ブロックごとに QMGR 呼び出しが必要です。QMGR の GU 機能がメッセージの先頭ブロックを検索し、後続の GN 呼び出しがメッセージのすべての追加ブロックを検索します。PSB 索引作業域には、常に、少なくとも 1 ブロックが保持されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル GETAB822 内の命令を指しています。レジスター 14 は、異常終了の発行元のアドレスです。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000336'	GETEND1	これは最初の呼び出しです (レジスター 8= ゼロ)。セグメント全体が XWA に収まりません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4 または 11、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA30

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0824

説明: IMS が、ユーザーのプログラム・ルーティング出口から無効な戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、無効な戻りコードが入っています。

分析: 0824 は、DFSDLA30 (通信 DL/I 呼び出しハンドラー) から発行される標準異常終了です。メッセージに入力されたもの以外のリモート端末コンポーネントへの応答を経路指定するために、複数システム (MS) プログラム・ルーティング出口モジュール (DFSCMPR0) が呼び出されました。DFSDLA30 は、レジスター 15 内の戻りコードをテストして、「CHNG」呼び出しを処理する必要があるかどうかを判別します。有効な戻りコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'00'

CHNG 呼び出しによって提供される宛先名を使用して、宛先を見つけます。

X'04'

発信元システム ID を使用して、メッセージを発信元システムに送り返します。

0825

X'08'

「A1」状況コードをアプリケーション・プログラムに戻します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND824 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 2 は、「CHNG」呼び出しで提供される宛先名へのポインターです。レジスター 15 には、無効な戻りコードが入っています。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 14 は異常終了の発行元のアドレスです。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15<ゼロまたは >X'08'	CHGNONC	DFSCMPRO によって、無効な戻りコードが DFSDLA30 に渡されました。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA30

0825

説明: バッファ・ハンドラー (DFSDDBH0) から予期しない戻りコードが検出されたか、Move Character Long (MVCL) 命令の実行中に重大なエラーが発生しました。

分析: 0825 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。ユーティリティ DFSERA10 に EXITR=DFSERA30 を指定して実行し、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。

疑似異常終了に適用されるレジスターを (制御ブロックの SNAP を使用して) 検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD から DFSDXMT0 のエントリー・ポイント・アドレスを取得し、保管域セットの中からレジスター 15 にそのアドレスが入っているものを探してください。この保管域セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入ります。この保管域セットのレジスター 1 には、PST へのポインターが入ります。すぐ下位にある保管域セットには、サブルーチン DPRSYS が呼び出されたとき、またはモジュール DFSDDBH0 が呼び出されたときのレジスターが入ります。レジスターが、サブルーチン DPRSYS が呼び出されたときのものであれば、その次の (つまり 2 番目に下位にある) 保管域セットに、バッファ・ハンドラー (DFSDDBH0) への入力レジスターが入ります。

バッファ・ハンドラーへの呼び出しのパラメーターおよび実際の戻りコードは、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブルに示されます。このトレース・テーブルは、フォーマット設定された SNAP の中でラベル (BFSP) で見つけるか、または SCDDBFSP にあるポインターに従って見つけることができます。現行トレース・テーブル項目は、呼び出しが実行された DSG、および DFSDBVH0 に渡された PSTBYTNM の内容を示しています。

次に、索引作業域 (XWORKARA) を見つける必要があります。PSB の制御ブロックの SNAP をスキャンしてください。PSB の最初のワードが、PST へのポインターです。2 番目のワードが索引作業域 (XWORKARA) へのポインターです。XWORKARA 内のフィールド ASUPRO は、エラーで終了する前のレジスター 14 の保管域として使用されます。このレジスター 14 BAL を使用して、特定のラベルに分離します。索引作業域に加えて、PST 内には以下の関連フィールドがあります。

PSTFNCTN: 要求された機能

PSTRTCDE: バッファ・ハンドラーの戻りコード

PSTBYTNM: 相対バイト・アドレス (RBA)

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL (ASUPRO)	DRETSEG	バッファ・ハンドラーが予期しないエラー・コードを返しました。
Reg14=BAL (ASUPRO)	DSPNOTSX	DFSDDBH0 が予期しない戻りコードを返しました。
Reg14=BAL (ASUPRO)	SPRETCL	DFSDDBH0 が予期しない戻りコードを返しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL (ASUPRO)	MVTRBL	MVCL 命令が処理に失敗しましたが、エラーは発生しませんでした。

システムの処置: バッチまたはメッセージ処理領域は異常終了します。制御領域は継続します。

プログラマーの応答: PST フィールドを調べます。関連する PST フィールドおよびその内容は、以下のとおりです。

名前 説明

PSTFNCTN

要求された機能

PSTRTCDE

戻りコード

戻りコードが X'04' の場合、以下のフィールドに関連情報が入っています。

名前 説明

PSTBYTNM

不適切な相対バイト・アドレス

PSTDBPCB

PCB のアドレス

DBPCBJCB

JCB のアドレス

入出力エラーが示されている場合、データベースをリカバリーするのに必要な処置を取ります。他のエラーは、おそらく DL/I エラーです。

問題判別: 4、5、11、17b、17c、17g、35

バッチ環境で問題を再現し、この異常終了の前の 2 つの呼び出し時点の制御ブロックおよびバッファ・プールのスナップを取ります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDBH0、DFSDXMT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0826

説明: 索引保守によって、それ以上のデータベース処理が禁止される状態が検出されました。メッセージ DFS0840I に、索引および状況コードが示されます。原因として、次のものが考えられます。

- バッファ・ハンドラーによって読み取りエラーが検出された。状況コードは「NO」です。
- 索引データベースをオープンできなかった。状況コードは「NI」です。
- 索引 DB に挿入するとき、入出力エラーが検出された。状況コードは「NO」です。
- 副次索引を使用した DB のロード中に、作業ファイル・データ・セットでオープン・エラーが発生した。状況コードは「NI」です。
- 索引保守で、バッファ・ハンドラーから受け取った戻りコードを処理できなかった。状況コードはブランクです。

分析: これは、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって検出される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断のために使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

特定のラベルを分離するには、次の 2 つの項目が必要です。

1. PST. 制御ブロックの SNAP で検出されます。

2. メッセージ DFS0840I。IMS マスター・コンソールへ発行されます。メッセージに、障害のある索引および状況コードが示されます。

PST 内の PSTENCTN フィールドには、要求された DL/I 関数が入っています。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つけます。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエントリー・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。すぐ下位の保管セットには、バッファ・ハンドラー (DFSDDDBH0 か VSAM DFSDVBH0 用) または OPEN/CLOSE (DFSDLOC0) のレジスターが入っています。

キー	ラベル	説明
状況コード = ブランク	DREPLS	置換機能プロセッサ・サブルーチン (DREPLACE) は、バッファ・ハンドラーを使用して索引セグメントを置換します。バッファ・ハンドラーが、ゼロ以外の戻りコードを渡しました。
状況コード = 「NO」 PSTFNCTN=X'E2'	DRETSEG	バッファ・ハンドラー検索機能要求で読み取りエラーが検出されました。
状況コード = 「NI」 PSTFNCTN=X'48'	DINITDSG	LOAD 要求について、データベースのオープン に失敗しました。
状況コード = 「NO」 PSTFNCTN=X'F4'	DISRTVSM	索引セグメントの VSAM 挿入が失敗しました。
状況コード = 「NI」	DTAPERA	作業ファイル DFSURWF1 を開くことができなかったため、ルート・ロード・サブルーチン (DLOAD) が失敗しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: オープン・エラーの場合、JCL パラメーター、または DD ステートメント漏れの有無を調べます。入出力エラーの場合、影響を受けたデータ・セットのリカバリーの必要性を調べます。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDXMT0

関連情報:



DFS0840I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0827

説明: 索引出口ルーチンの使用に関連した LATCH、UNLATCH、または IMODULE LOAD の処理中に、エラーが発生しました。原因として、次のものが考えられます。

- ジョブまたはステップ・ライブラリーの中に、DBDGEN で指定された名前の出口ルーチンが見つからなかった。
- ライブラリーから出口ルーチンを読み取る際に、読み取りエラーが発生した。
- 索引出口ルーチンを逐次化しているときに、ラッチ ECB が誤って通知された。

分析: 0827 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断のために使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXTITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエントリー・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに

一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。

この異常終了は、DBDGEN をコーディングして、キーワード EXTRTN を指定した XDFLD ステートメントを組み込んだ場合にのみ発生します。このオプションのオペランド (EXTRTN) を使用して、ユーザー提供の索引保守出口ルーチンの名前を指定します。この出口ルーチンは、選択した索引ポインター・セグメントの作成を抑制するために使用されます。

この異常終了の原因は 2 つあります。ユーザー出口ルーチンをロードしようとしている IMODULE LOAD が失敗したか、DMB ラッチ (DMBLATCH) の直列化が失敗しました。1 番目の原因は、DB/DC 環境でのみ発生する可能性があります。IMODULE 障害の場合、異常終了の前に、レジスター 14 からレジスター 12 が 2 番目の下位保管セットに保管されます。この保管セットのレジスター 3 は、索引保守パラメーター・リスト (DMXMPRM) を指しています。ラベル DMBXMXNM に、ユーザー提供の出口ルーチンの名前があり、レジスター 15 には、IMODULE LOAD の戻りコードが入っています。

2 番目の場合、ラッチまたはアンラッチ操作が失敗しました。LATCH/UNLATCH へ入った時点のレジスターは 3 番目の下位保管セットに格納されるはずですが、ここでエラーが発生した場合、終了する前に環境の保管は行われません。したがって、ラベルがロジック全体のガイドとして提供されており、KEY 情報は存在していません。

キー	ラベル	説明
ゼロ以外の Reg15 (2 番目の下位保管セット)	DSPRETAA	出口ルーチンに関する IMODULE LOAD が失敗しました。
	DSUPISLD	LATCH 操作の場合は、ラッチの所有者が呼び出し元ではないか、または通知コード (PSTDECB) が ISERWAIT の後で無効であるかのどちらかです。UNLATCH 操作の場合は、ラッチの所有者が呼び出し元ではありません。

考えられる原因: JOBLIB または STEPLIB JCL が、ユーザー出口ルーチンがあるライブラリーを指していません。

APAR 処理の場合: DBD のアセンブリー、従属領域ダンプ、およびシステム・ログのコピー

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題の原因になった可能性のあるライブラリー・エラーを分析します。ラッチ問題は、オンライン環境でのみ発生する可能性があります。ハードウェア・エラーまたはユーザー・エラーでない場合、問題判別を続行します。

問題判別: 3、8、11、17b、18、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDXMT0、DFSURGU0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0828

説明: 索引保守で、固有として指定された索引に対して新しい索引項目を挿入しようとしたが、索引項目の重複が発生しました。

分析: これは、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断に使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエンタリー・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに

0829

一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。

PST の印刷出力は重要です。フィールド PSTRTCDE および PSTFNCTN は、重要な 2 つのフィールドです。PSTWRK4 には、索引項目セグメントの SSA が入っています。異常終了の前にメッセージ DFS0840I が IMS マスター・コンソールへ発行されます。状況コードは NI です。

副次索引項目の重複が発生する場合、索引を非固有として指定し、オーバーフロー用の入力順 (EDS) データ・セットを準備する必要があります。バッチで実行している場合は、データベース索引を再同期するためにバックアウトを実行する必要があります。

キー	ラベル	説明
PSTFNCTN=X'F4' PSTRTCDE=X'28' DISRTVSM		新規索引項目を挿入しようとしているときに、重複する索引レコードが検出されました。

システムの処置: エラーが発生した時点で、挿入しようとしたセグメントはすでにデータベースに追加されており、他の索引がすでに更新されている可能性があります。バッチ・システムでディスク・ロギングを使用して実行中で、しかも実行パラメーター BKO=Y (動的バックアウト) が指定されなかった場合は、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。そうでない場合、動的バックアウトが実行されます。

プログラマーの応答: 副次索引項目の重複が発生する場合、索引を非固有として指定し、オーバーフロー用の入力順データ・セットを準備する必要があります。

問題判別: 1、11、35

APAR 処理の場合: システム・ログのコピー

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDXMT0

関連情報:

 DFS0840I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0829

説明: VSAM ERASE 呼び出しが発行されたとき、VSAM バッファ・ハンドラーから無効な戻りコードが戻されました。

分析: 0829 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断に使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエン트리・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。

索引削除が要求されました。正しい索引セグメントが検出され、タイプ X'50' ログ・レコードが書き込まれ、索引セグメント項目の消去を実行するためにバッファ・ハンドラーが呼び出されます。バッファ・ハンドラー戻りコードを判別するには、PST の PSTRTCDE フィールドを参照する必要があります。また、バッファ・ハンドラー・トレース (BFSP) を見つけ、消去の前の呼び出しの順序を記録する必要があります。

キー	ラベル	説明
PSTABTRM=X'1000033D' PSTFNCTN=X'F1'	DDLTVSAM	消去操作によって、無効なバッファー・ハンドラーの 戻りコードが返されました。

APAR 処理の場合: システム・ログのコピー、および従属領域ダンプ

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 11、17、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDXMT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0830

説明: アプリケーション・プログラムが GU 呼び出しを発行し、DC 呼び出しハンドラー (DFSDLA30) がメッセージに無効なフィールド (MSC SYSIDS、IMSID、SOURCE 名など) が含まれていることを検出しました。

このエラーは次の場合に起こります。

- MSC ネットワークのリモート IMS で (および、共用キュー環境のキューで) このメッセージが未完了の間に、これらのフィールドの設定元のリソースが変更された場合。
- 共用キュー環境の 1 つ以上のシステムが MSC リンク付きで定義されている場合 (それ以外は MSC リンクなしで定義されている)。IMSpIex では、ある IMS システムが MSC 対応の場合には、IMSpIex 内のすべての IMS システムが MSC 対応でなければなりません。IMS システムを MSC 対応にするには、システム定義時に IMS システムに対して MSC リンクを定義する必要があります。この MSC リンク定義は、機能させる必要はありません。
- IMS 内部エラーによる場合。

分析: 0830 は、DFSDLA30 によって発行される標準疑似異常終了です。以下のイベントが発生します。

- メッセージ DF554A がマスター端末あてに発行されます。
- メッセージをバックアウトしてメッセージ・キューに戻すために、疑似異常終了 0830 が発行されます。このメッセージは、ローカル・キュー (SQ 以外) または作動可能キュー (SQ) に入れられ、アンロックされます。
- プログラムおよびトランザクションは停止されます。
- タイプ 6701-LA3E のレコードが IMS ログに書き込まれます。タイプ 67D0 のレコードも書き込まれる場合があります。タイプ 67FF の疑似異常終了レコードは書き込まれません。

ログ・ファイル選択ユーティリティー DFSEAR10 を使用して、タイプ X'6701' ID=LA3E および X'67D0' のログ・レコードを印刷してください。

6701-LA3E レコードには、以下の制御ブロックが含まれています。

- PCB (PST 内の入出力 PCB)
- SMB (トランザクション・コードおよび特性)
- INP_QBUF (入力メッセージの先頭または唯一の QBUF)
- PST (従属領域の区画仕様テーブル)
- 2 番目の 6701-LA3E レコードに記録される追加情報には、以下のものが含まれています。

AB830RSN

ABENDU0830 理由コード - ラベル GETAB830 に保管された、DFSDLA30 レジスターからの ABEND
0830 R15 理由コード (以下の表を参照)

PSTJOBNM

PST からのジョブ名およびステップ名。

これに加えて、2 番目の 6701-LA3E レコードに MSC 関連の問題に関する以下のフィールドが含まれていることがあります。

SIDPFXHD

SID テーブルの接頭部およびヘッダー (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSSIT を参照)

SIDENT

SID テーブル項目 (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSSIT を参照)

IMIDENT

IMS ID テーブル項目 (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSIMT を参照)

これらの制御ブロックの DSECT を取得するには、以下の CSECT をアセンブルします。

```
CSECT
IDLI TPCBASE=0
IAPS SMBBASE=0
ILOGREC TYPE=DSECT,RECID=01
IPST ISIT=YES
END
```

要確認: PST には GU 呼び出しの処理に使用される情報フィールドが含まれています。PST には、保管域 PSTSAV1 から PSTSAVxx (ここで、xx=20) も含まれています。DFSDLA30 用の保管域は PSTSAV4 または PSTSAV5 です。疑似異常終了が検出されると、現行レジスターがその保管域に保管され、異常終了 0830 理由コードが Reg15 に、戻りコード (該当する場合) が Reg1 に入っています。

以下の情報フィールドがログに記録されます。

- エラーの入力メッセージは INP_QBUF に記録されます。このメッセージのフォーマットは QLOGMSGP マクロに入っています。
- 疑似異常終了コード 1000033E (X'33E' = 10 進数 0830) は、フィールド PSTABTRM に保管されます。IPST マクロを使用して、IPST DSECT をアセンブルしてください。

エラーが検出されたときの DFSDLA30 からのレジスターは、保管域 PSTSAV4 に入っています。この保管域およびその他のすべての保管域は、以下のフォーマットを備えています。

PSTSAV4	DC	F'0'	0 または最初のセットの SAP ポインター
PSTBCK4	DC	A(PSTSAV3)	PSTSAV3 への逆方向ポインター
PSTFRD4	DC	A(PSTSAV5)	PSTSAV5 への順方向ポインター
	DC	15F'0'	REG14 から REG12 をここに保管

- PSTSAV4 には、エラーが検出されたときの DFSDLA30 内のレジスターが入っています。
- Reg1 は、エラー (例えば FINDEST エラー) を検出した呼び出しからの戻りコードです (エラーがそのような呼び出しに関連している場合)。

PSTSAV5 保管域には、以下のような追加の診断情報が含まれています。

- Reg14、Reg15、Reg0 には、SCDCKTIM からの 12 バイトの UTC 時刻が入っています。これは、この IMS が再始動された時刻です。この時刻を使用して、メッセージ発信元の UTC 時刻 (INP_QBUF のシステム拡張接頭部 (タイプ 8A) の MSGUTC フィールド) と比較します。このメッセージが、この IMS が再始動される前に送信されたものかどうかを判別してください。
- Reg1 には、PSEUDOABEND コード X'1000033E' が入っています。このコードは、PST の PSTABTRM にも入っています。
- Reg2 および Reg3 には、IMS の IMSID が入っています。この IMSID をメッセージ発信元の IMSID (INP_QBUF の基本接頭部のフィールド MSGORGID) と比較して、このメッセージがこの IMS から発信されたか、IMSplex または MSC ネットワーク内の別の IMS から発信されたかを判別してください。

67D0 レコードには (DFSQD00 によって書き込まれた場合)、以下の情報が記録されています。

- SCD、IMS システム目録ディレクトリー
- ECB (PST と同じアドレス)

- 32 バイトの UOW
- 10 バイトのサービス要求詳細情報
- 8 バイトの宛先名
- 24 バイトの失敗したサービス要求
- 4 バイトの戻りコード
- 4 バイトの理由コード
- ダンプ項目 1
- ダンプ項目 N

DFSQCLD0 は OCO です。この情報を分析するには、IBM ソフトウェア・サポートへのお問い合わせが必要な場合があります。

異常終了 0830 Reg15 理由コードの説明は、以下の表に示されています。

キー	ラベル	説明
Reg15=00000001		<p>ローカル・ソース名は、PSTSYMB0 で見つかりましたが、有効な LTERM ではありませんでした (つまり、FINDEST によって返されたブロックが SMB または LNB のどちらかでした)。これは、ローカル CNT またはリモート RCNT のいずれかでなければなりません。</p> <p>最も可能性の高い原因は以下のいずれかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム定義エラーが検出された。 2. 共用キュー (SQ) を使用している場合、すべての IMS システムが共用キュー・グループ (SQG) に結合される前に、IMSplex が再始動された。 <p>この問題を修正するには、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケース 1 の場合、システム生成を訂正します。 2. ケース 2 の場合、領域を始動する前に SQG 内のすべての IMS システムを再始動するか、またはこのメッセージを SQ からデキューします。
Reg15=00000002		<p>QMGR への呼び出しから、ゼロ以外の戻りコードが REG15 に返されました。戻りコードは R1 に移動され、PSTSAV4 または PSTSAV5 の REG1 に保管されます。この戻りコードが無効なことが判明しました。この問題は IMS 内部エラーです。</p>
Reg15=00000003		<p>メッセージには MSGIDSTN/PSTIDSTN に入った APPC/OTMA ソース名がありますが、このメッセージには APPC/OTMA 接頭部のタイプ X'87' セグメントがありませんでした。この問題は IMS 内部エラーです。</p>
I Reg15=00000004		<p>CQS エラーが発生しました。</p>
Reg15=00000006		<p>MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID はリモートですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるソース名が MSNAME ではありません。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されていた場合、プロシーチャー・エラーが発生します。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。</p>

キー	ラベル	説明
Reg15=00000007		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID がリモートです。ソースはローカル APPC/OTMA 名です。しかし、メッセージが BE IMS で処理されており、これは無効です。ソース SYSID がこのメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されている場合、プロシージャー・エラーが発生します。つまり、SQG でフロントエンド IMS を始動せずに、リモート SYSID を持つリモート IMS が単独でオープンされたこととなります。フロントエンド IMS を始動し、メッセージを再処理のために解放してください。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=00000008		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID が無効です。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか検査してください。変更されていた場合、プロシージャー・エラーが発生します。PSTSIDS の値がゼロの場合、そのメッセージはおそらく、MSC 対応でない (またはメッセージが共用キューに入れられたときに MSC 対応でなかった) IMS から受け取ったものです。共用キュー・グループ内のすべての IMS システムが MSC 対応か、またはすべてが MSC 非対応であることを確認してください。IMSplex では、ある IMS システムが MSC 対応の場合には、IMSplex 内のすべての IMS システムが MSC 対応でなければなりません。IMS システムを MSC 対応にするには、システム定義時に IMS システムに対して MSC リンクを定義する必要があります。この MSC リンク定義は、機能させる必要はありません。変更されていない場合は、この異常終了の原因は多くの場合 IMS 内部エラーです。
Reg15=00000009		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID が無効です。メッセージは、この IMS に対してローカルの位置にある非 APPC または非 OTMA LTERM からのものです。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されていた場合、プロシージャー・エラーが発生します。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0000000A		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージ・ソース SYSID が、リモートであるか、または無効です。メッセージは有効なローカル・メッセージであると判別されました。MTO 端末 CNTSIDL を使用してソース SYSID の訂正が試みられましたが、この SYSID はローカルでなかったため、SYSID を変換できませんでした。このエラーは、多くの場合、IMS 内部エラーです。
Reg15=0000000B		このソース名は MSNAME タイプですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるソース名が APPC/OTMA トークン名です。この問題は無効であり、おそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0000000C		ソース SYSID はリモートですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるシステム・ソース名が PSTSYMB0/MSGMSINM にある端末ソース名と一致しています。これらの名前が一致するのは、ローカル・メッセージの場合のみです。この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0000000D		PSTIDSTN/MSGIDSTN で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つけるための FINDDEST 呼び出しが失敗しました。強制作成が使用されたため、LTERM を検索または作成できませんでした。ETO がアクティブであることを確認してください。ETO がアクティブでない場合はアクティブにして、問題が解決するかどうか確認してください。ETO がアクティブな場合は、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。

キー	ラベル	説明
Reg15=0000000E		PSTIDSTN/MSGIDSTN でソース MSNAME を見つけるための FINDDEST 呼び出しで、Reg15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。MSC MSNAME が、この IMS で有効であることを確認してください。有効な名前でない場合、メッセージが SQ で処理を待っていた間に、この MSNAME が除去された可能性があります。変更されていない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0000000F		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。問題がこれに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=000000010		PSTIDSTN/MSGIDSTN でソース MSNAME を見つけるための FINDDEST 呼び出しが正常に完了しませんでした。この IMS では、共用キューをサポートしていません。メッセージの作成後に MSNAME がシステム定義から除去されていないことを確認してください。また、IMS がウォーム・スタートで開始されてメッセージがキューに残っていたことを確認してください。MSNAMES を変更するには、少なくとも、CTLBLKS システム生成およびコールド・スタートによって、メッセージをキューから除去する必要があります。変更されていない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=000000011		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=000000012		PSTSYMBO/MSGMSINM で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つけるための FINDDEST 呼び出しで、Reg15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。これは、MSC メッセージがこの IMS から発信され、処理のためにリモート IMS に送信されたことを示しています。リモート IMS が、プログラム間通信をソース IMS へに戻すように発行しました。名前がまだ有効な LTERM であって、TRANCODE または MSNAME でないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=000000013		PSTSYMBO/MSGMSINM で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つけるための FINDDEST 呼び出しが失敗しました。強制作成が使用されたため、LTERM を検索または作成できませんでした。ETO がアクティブで LTERM を作成できる状態であることを確認してください。これは、MSC メッセージがこの IMS から発信され、処理のためにリモート IMS に送信されたことを示しています。リモート IMS が、プログラム間通信をソース IMS へに戻すように発行しました。名前がまだ有効な LTERM であって、TRANCODE または MSNAME でないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=000000014		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。

キー	ラベル	説明
Reg15=00000015		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域に入っています。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=00000016		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、MSC 拡張接頭部 MSGMSCE (タイプ 8B) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域に入っています。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=00000017		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域にあり、フロントエンド SQ IMS で処理を実行する APPC/OTMA メッセージです。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=00000018		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域にあり、フロントエンド SQ IMS で処理を実行する APPC/OTMA メッセージです。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=00000019		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。

システムの処置: 以下のアクションが発生します。

- 疑似異常終了 0830 が発行され、メッセージ DFS554A がマスター端末に送信されます。
- プログラムおよびトランザクションは停止されます。
- メッセージは作動可能キュー (アンロック状態) に戻されます。
- 6701-LA3E レコードが IMS ログに書き込まれます。

オペレーターの応答: 共用キュー IMS を使用している場合、まず、このメッセージが共用キュー・グループ内の別の IMS によって正常に処理されていないかどうかを確認します。メッセージがまだキューにある場合は、/DEQUEUE TRANSACTION *trannname* PURGE1 を実行して除去できる場合があります。*Trannname* はメッセージ DFS554A 内の TRANCODE 名です。/START コマンドを出して、トランザクションおよびプログラムを再始動することもできます。エラーが訂正されたら、アプリケーション・プログラムにメッセージの再スケジュールと GU を行わせることができます。

複数システム結合機能 (MSC) に対応した共用キュー IMSplex を使用していて、記録済みの IMS でメッセージが入力され、しかも無効な MSC SYSID がエラーの原因である場合は、共用キュー・グループ内のすべての IMS システムを開始してエラーを訂正できることがあります。この処置により、SQG 内の IMS システム間で SYSID が交換され、すべての SYSID が有効になります。

プログラマーの応答: この問題はプロシージャー・エラーまたは IMS 内部エラーの可能性がありますが、どちらが可能な解決であるかを判別するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) を使用して、タイプ 6701-LA3E レコード (および、作成されている場合は X'67D0' レコード) を印刷し、分析する必要があります。

問題判別: 5, 6, 17h

次の情報は 17h に適用されます。

- ログ・レコード・タイプ x'6701'ID=LA3E を印刷します。
- ログ・ファイル選択ユーティリティ DFSERA10 を使用します。
- 次の制御カードを使用します。

```
OPTION PRINT 0=5,V=6701,L=2,C=M,T=X,E=DFSERA30
OPTION PRINT 0=9,V=LA3E,L=4,C=E,T=C,E=DFSERA30
OPTION PRINT 0=5,V=67D0,L=2,C=E,T=X,E=DFSERA30
```

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA30

関連情報:

 DFS554A (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0831

説明: 全機能データベースのブロック直列化を処理中に、IMS が論理エラーを検出しました。タスクが所有していないブロックに対してブロック直列化ロックの解放を要求したと DFSBLSER が判定したため、異常終了が発行されました。

分析: 異常終了 0831 は、PST が所有していないブロックに対してブロック直列化ロックを解放しようとした場合に発行される、標準異常終了です。スペース管理は、この PST のエレメントを見つけるために、SCDHDPTR の先頭エレメントから開始してエレメント・チェーン全体をスキャンしました。チェーンの終わりに達し、エレメントが検出されない場合は、ラベル WERELOST に分岐します。

異常終了時のレジスターの通常の使用法は、以下のとおりです。

R3 NEXT には、ゼロが入っています。これは、ブロック直列化チェーンの全体がスキャンされ、このタスクのエレメントがチェーン上で検出されなかったことを示します。

R4 OURS には、チェーン上で検出されなかったエレメントへのポインターが入っています。また、PSTDHDEL にはエレメントが入っています。

R10 待機しているタスクの PST アドレスです。R11 - SCD アドレスです。

システムの処置: IMS は異常終了し、IMS 異常終了 0831 が示されます。

プログラマーの応答: IMS 従属領域の活動中に異常終了が発生した場合は、IMS の緊急時再始動ができます。

IMS の緊急時再始動時の動的バックアウトの最中に異常終了が発生した場合は、/ERESTART コマンドにオプション COLDBASE または COLDSYS のどちらかを指定して IMS を再始動し、バッチ・バックアウトを使用してバックアウトを実行する必要があります。

バッチ・バックアウトの最中に異常終了が発生した場合は、順方向リカバリーを使用してデータベースをリカバリーする必要があります。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、8、14、15、25、40

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSMMUD0、DFSRDBC0

0832

説明: HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースのスペースを要求または解放しているときに、接頭部アドレスが PSTBUFFA にあるブロック内で、不適切なフリー・スペース・エレメント (FSE) が検出または作成されました。現行呼び出しは完了しないこともあります。異常終了が発行される原因となるいくつかの条件がチェックされます。

- FSE の長さが DCB バッファ長を超えている。
- FSE のポインターまたは長さフィールドが、正の数ではない。
- FSE の位置が、次の FSE またはブロックの終わりにオーバーラップしている。

分析:

0832 は、2 つのモジュール DFSRCHB0 (ブロック検索ルーチン) または DFSFRSP0 (スペース解放ルーチン) のいずれかで検出された、疑似異常終了です。これらのルーチンはどちらも、ラベル AB832 で CSECT DFSAB832 (つまり DFSRCHB0 のソース) に直接分岐します。DFSAB832 は、オフセット X'C' で始まる最新レベル保管域 (PSTSAVL)

に、現行レジスターを保管します。X'C' の先頭バイトには、レジスター 14 を指示する X'FF' が入っています。レジスター 12 (DFSRCHB0 および DFSFRSP0 の両方の基底レジスター) を使用して、エラー条件を検出したモジュールを判別する必要があります。

DFSAB832 は、DL/I トレース・テーブルの現行の HD スペース管理要求のトレースも行います。このトレース項目には、レジスター 14 (スペース管理の呼び出し元のリターン・アドレス) が含まれています。呼び出し元は、バックアウト機能、削除/置換機能、またはロード/挿入機能です。

フィールド PSTDATA は、現在使用中のブロックまたは CI が入っているバッファを指しています。

DFSRCHB0 の場合:

DFSRCHB0 に入り、FSE チェーン全体を検索して、1 セグメントのデータに最適なサイズのフリー・スペースのブロックを見つけます。チェーンの検索を行う前に、以下のものを入れるために 3 つのプレースホルダーが初期設定されます。

1. ぴったりのサイズ
2. セグメントと最小長のセグメントに十分なスペース
3. セグメント 2 個分のスペース

DFSRCHB0 の場合、レジスター 2 がブロックの先頭を指します。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(BLOCK) Reg3>Reg11	CTNUSRCH	フリー・スペースのポインターが、バッファ長を超える位置を示している場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg7>Reg11	MAXOK	FSE の長さがバッファ長を超える場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg8>Reg3	MAXOK	前の FSE が現在位置にオーバーラップする場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg8=PSTWRK2	SKIPZRO	新規の FSE がバッファ長を超えているかどうかを検査します。PSTWRK3 および PSTWRK2 の内容の合計と、レジスター 11 の内容が比較されます。レジスター 11 の方が小さい場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) (Reg9+Reg3)>Reg11	TWOHOLES	フリー・スペース・ポインターが、バッファ長を超える場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) PSTWRK2>Reg11	TWOHOLES	前の FSE が現在の FSE にオーバーレイする場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) (PSTWRK2+PSTWRK3) >Reg11	TWOHOLES	FSE がバッファ長を超える場合は、異常終了が発行されます。

DFSFRSP0 の場合:

セグメント解放要求によって、DFSFRSP0 が呼び出されます。該当のセグメントが検索され、新規 FSE を作成する必要があるのか、またはこのフリー・スペースを既存の FSE に追加できるのかについて、決定が行われます。どちらの場合も、該当のタスクが実行され、必要に応じてビットマップが更新されます。DFSFRSP0 の場合、レジスター 6 がブロックの先頭を指します。

キー	ラベル	説明
Reg6=A(BLOCK) Reg3>Reg8 Reg6≠RBASE	NOTODD	バッファ長 (DCB に X'18' を加えた値) が、解放すべきバイト数と比較されます。解放すべきバイト数の方が大きい場合、異常終了が発行されます。RBASE は、後で PSTDATA から PSTOFFST を引いた値として定義されます。
Reg6=A(BLOCK)	NTVSM	FSE を作成すると、ビットマップをオーバーレイする可能性があります。
Reg6=A(BLOCK) Reg9<0	SCAN	FSE の長さが負でないことを確認してください。負の場合、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg9>Reg8	SCAN	FSE の長さがバッファ長を超えているかどうかを確認してください。自己参照がある場合、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg9>Reg3	SCAN	前の FSE が現在位置にオーバーラップしないことを確認してください。オーバーラップする場合は、異常終了が発行されます。
Reg4=Reg3 Reg6=A(BLOCK)	SCAN	FSE がすでに解放されていないこと、または領域がゼロでないことを確認してください。解放されているか領域がゼロの場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg11>(Reg3≠0)	ONWARD	次の FSE がオーバーレイされないことを確認してください。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) (Reg11+PSTWRK3)>Reg8 PSTFNCTN=E6	XITDOCH	FSE がバッファ長を超えないことを確認してください。超える場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) (PSTWRK4+2)+ (PSTWRK3+2)>Reg8	XITDOCH	2 番目の FSE を作成した後、その長さがバッファ長を超えていないことを確認してください。超えている場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーのあったデータベースを識別するには、PSTDMBNM からデータ管理ブロック番号、および SCD から DDIR を入手します。データ管理ブロック番号を使用して、該当する DDIR 番号を見つけます。データベースを再編成して FSE を訂正するか、または次のことを実施します。

1. ブロック内の FSE アンカー・ポイントをゼロに設定します。これにより、そのブロックにある FSE は使用できなくなります。
2. データベース・イメージ・コピー・ユーティリティを使用して、データベースのメモリー・ダンプを作成します。FSE をゼロに設定する前に、このブロックでのアクティビティのバックアウトを試みてはならないので、これが重要です。期待されたスペースがない場合、バックアウトはセグメントを正しく置き換えなため、結果は予測不能です。

問題判別: 17a、17b、17g、35、および不適切なデータ・ブロックについてのアクティビティを参照するため、ログ・テープを保管します

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRCHB0、DFSFRSP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0833

説明: 無効な SYSID が検出されました。レジスター 15 に、無効な SYSID が入っています。このエラーは、おそらく論理エラーであるか、またはデータ域が破壊されています。

分析: 0833 は、DFSDLA30 (通信 DL/I 呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。このモジュールは、メッセージ・キューを参照する DL/I 呼び出しを処理します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害が発生したモジュールを分離してください。

レジスター 10 の BAL を使用してラベル GETLNB のサブルーチンを呼び出し、発信元 SID に関連付けられた論理リンク名ブロック (LNB) を取得します。発信元の SID 値を PST (ラベル PSTSIDS) から取得し、レジスター 15 に挿入します。値がゼロ (レジスター 15= ゼロ) の場合、または最大定義 (SCDSIDN) より大きい場合は、異常終了が発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル xxxABEND 内の命令を指しています。レジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離することができます。レジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 は PST へのポインターで、レジスター 11 は SCD を指します。

キー	ラベル	説明
	CHG1400	リモート・システムから会話型プログラムの入力が発信されましたが、その入力システムに関連付けられた宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
	CHG8200	リモート・システムから非会話型プログラムの入力が発信されましたが、その入力システムに関連付けられた宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DLNB) ルーチンからの RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DLNB) ルーチンからの RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DLNB) ルーチンからの RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DLNB) ルーチンからの RC	GMOV2830	GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。
	ISRT0106	リモート・システムで、メッセージが発信されましたが、宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
	ISRT0464	宛先システム ID がローカル・システム ID と同一でないことが検出されました。

考えられる原因: 内部論理エラーが存在しているか、またはデータ域が破壊されています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA30

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0834

説明: スペースを検索中に、スペース管理がバッファ・ハンドラーから 3 回連続で読み取りエラーの戻りを受け取りました。この異常終了の前に、バッファ・ハンドラーから入出力エラー・メッセージが発行されています。

分析: これは、ラベル ABEND834 の DFSGGSP0 によって発行される疑似異常終了です。スペース管理からの呼び出し時に、バッファ・ハンドラーが同一のデータ・セットを読み取る 3 つの入出力エラーを検出したときは、常にこの疑似異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: トランザクションの終了前に発行された入出力エラー・メッセージを参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSGGSP0

0835

説明: 索引ソース・セグメント内のフィールドに関して、フィールド記述子ブロック (FDB) でエラーが検出されました。FDB によって表されるフィールドが、XDFLD ステートメントの SUBSEQ または DDATA オペランドで指定され、FDB はそれがシステム関連のフィールドであることを示しているが、フィールド名が /CK または /SX で始まっていません。索引保守モジュール DFSDXMT0 が、このエラーを検出しました。

分析: 0835 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって発行される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断に使用可能にする必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエンタリー・ポイントのアドレスを取得し、保管セットの中からそれに一致するアドレスがレジスター 15 に入っているものを探してください。この保管セットには、DFSDXMT0 が呼び出されたときのレジスターが入ります。

この異常終了は、索引ソース・セグメントの処理中に発生します。XDFLD ステートメントの SUBSEQ または DDATA オペランドで指定されたフィールドの FDB は、フィールドがシステム関連のフィールドであることを示していますが、フィールド名が /CK または /SX で始まっていません。PST のアドレスは、DFSDXMT0 用の保管セットのレジスター 1 に入っており、その PST に、ラベル PSTWRK1 の索引ソース・セグメントの SDB または PSDB のアドレスが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDXMT0、DFSURGU0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0840

説明: セグメント編集/圧縮ルーチンが、圧縮または展開サービスを試みているときに、処理エラーを検出しました。

分析: 異常終了の原因を判別するには、以下の情報が役立ちます。

SYSTEM LOG

エラーを診断するには、システム・ログに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要になります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

DATA COMPRESSION

ハードウェアのデータ圧縮 (DFSZLDX0) の問題については、異常終了 3325 の戻りコードを参照してください。ソフトウェアのデータ圧縮の問題については、異常終了 2990 (DFSCMPX0) および異常終了 2991 (DFSKMPX0) の戻りコードを参照してください。

PSTLOGWA

PSTLOGWA には、処理エラーに関連する診断情報が入っています。

オフセット

項目

X'00' セグメント編集/圧縮ルーチンによって返されたラベル名またはエラーの理由。

04 ルーチンから発行された可能性のあるユーザー異常終了コード。

08 ルーチンに渡されるパラメーター・レジスターは、以下のとおりです。

ワード 1

有効な情報が含まれていません。

ワード 2

ソース・セグメントのアドレス。これは入力フィールドです。

ワード 3

宛先セグメントのアドレス。これは出力フィールドです。

ワード 4

PSDB アドレス。高速機能の場合はゼロ。

ワード 5

DMBCPAC のアドレス。高速機能の場合は、DBFCMPC のアドレス。

ワード 6

入力コード。

X'20' DMBCPAC のコピー。高速機能の場合は、DBFCMPC のコピー。

DFSDLR00 の場合: これは、ラベル COMPCALL でモジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。分析については、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDXMT0 の場合: これは、ラベル NOKEY でモジュール DFSDXMT0 から発行される疑似異常終了です。分析については、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDDL00 の場合: これは、ラベル NDXREP3、NOASRT2、または CKKEYLP でモジュール DFSDDL00 から発行される疑似異常終了です。分析については、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDLDC0 の場合: これは、EXPAND ルーチンのモジュール DFSDLDC0 から発行される疑似異常終了です。分析については、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

| **DFSDCAP0** の場合: これは、ルーチン PSEUDO_ABEND でモジュール DFSDCAP0 から発行される疑似異常終了です。分析については、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSPRIMS の場合: これは、ルーチン IMS0B でモジュール DFSPRIMS から発行される疑似異常終了です。レジスター 14 には、PSTLOGWA のアドレスが入っています。

| **DBFCMP10** の場合: これは、ルーチン CALLEXIT でモジュール DBFCMP10 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 2 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって返されたエラーの理由が入っています。

| **DBFCMP11** の場合: これは、ルーチン CALLEXIT でモジュール DBFCMP11 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 2 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって返されたエラーの理由が入っています。

| **DBFDAC50** の場合: これは、ルーチン DECOMPRESS でモジュール DBFDAC50 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 15 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって返されたラベル名またはエラーの理由が入っています。レジスター 14 には、ルーチンから返された異常終了コードが入っています。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: 編集/圧縮ルーチンが適切に作成され、リンクされているかどうかを確認します。

問題判別: 4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストとリンク・リスト

ソース: IMS 異常終了

| モジュール: DFSDLR00、DFSDXMT0、DFSDDL0、DFSDLDC0、DFSDCAP0、DFSPRIMS、DBFCMP10、DFSURGU0、DBFDAC50

関連情報:

異常終了 2990

異常終了 2991

異常終了 3325

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

| 0841

| 説明: IMS がセグメント編集/圧縮ルーチンを開始しようとしたときに、そのルーチンのアドレスが無効でした。

| 分析: レジスター 2 およびレジスター 3 に、セグメント編集/圧縮ルーチンの名前が含まれています。

| システムの処置: バッチまたはメッセージ処理領域は異常終了します。制御領域は正常に継続します。

| プログラマーの応答: 追加情報については、メッセージ DFS0733I を確認してください。セグメント編集/圧縮ルーチンがアクセス可能であること、および IMS にそのルーチンをロードできる十分なストレージがあることを確認してください。

| ソース: IMS 異常終了

| モジュール: DBFCMP10、DBFCMP11

| 関連情報:

|  DFS0733I (メッセージおよびコード)

0842

説明: データ共用環境で、OSAM データベースに対して疑似データ・セットの拡張を実行しようとしているときに、エラーが発生しました。

分析: **DFSDVBH0** の場合: これは、データ共用環境でデータ・セットの拡張中に発生する疑似異常終了です。

異常終了の前に、メッセージ DFS0842I がマスター端末オペレーターに発行され、エラーが発生したデータ・セットの DDNAME、DBDNAME、および DSNAME が示されます。理由コードの定義については、メッセージ DFS0842I を参照してください。

DFSDVBH0 の場合: これは、オプション・ステートメントでユーザー・コード DUMP=YES が指定されている場合に、非高速機能障害に関して発行される標準異常終了です。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0842 インターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

システムの処置: 異常終了の前に、メッセージ DFS0842I が発行され、拡張エラーが発生したデータ・セットの DBDNAME、DDNAME、および DSNAME が示されます。アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0842 が示され、IMS は処理を続行します。しかし、DL/I バッファ・オプション・ステートメントに

0843 • 0844

DUMP=YES が指定されていた場合、アプリケーションは標準的異常終了コード 0842 で終了し、制御領域が異常終了します。

プログラマーの応答: すべてのデータベース・データ・セットが、データ・セットを共有するすべてのサブシステムから共有できるかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、4、17

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH40、DFSDBVH0

関連情報:

 DFS0842I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0843

説明: ご使用のランダム化ルーチンから DL/I に渡されたブロック番号にブロック・サイズを掛けた値が、アドレス可能な最大データ・アドレスを超えます。データ・アドレスは、VSAM では 32 ビット、OSAM では 31 ビットでアドレス可能でなければなりません。

分析: 0843 は、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: 処理中のタスクは異常終了します。

プログラマーの応答: ランダム化ルーチンから DMBDACP に戻された値を調べます。ブロック番号部分に CI サイズを乗じた数が、対応する最大許容値より大きい場合、ランダム化ルーチンを変更するか、またはルート・アドレス可能域のサイズを減らします。

問題判別: 11、25、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0844

説明: データベース内に使用可能なスペースがないか、またはデータ・セットが DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていました。エクステントを持つ VSAM データ・セットの CLOSE TYPE=T 処理中にエラーが発生した場合にも、この問題が起こることがあります。

分析: この異常終了を発行するモジュールの定義は、以下のとおりです。

DBFIRC10

DEDB 領域に使用可能なスペースがありません。

DFSVDVSM0、DFSVDGSP0

データベース内に使用可能なスペースがないか、またはデータ・セットが DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていました。エクステントを持つ VSAM データ・セットの CLOSE TYPE=T 処理中にエラーが発生した場合にも、この問題が起こることがあります。

DFSDBVH0

オプション・ステートメントに DUMP=YES パラメーターが指定されている場合の、非高速機能の障害です。

DBFIRC10 の場合: この疑似異常終了は、DEDB 領域が満杯の場合に発行されます。異常終了の前に、スペース不足のデータ・セットの DDNAME を示すメッセージ DFS2765W または DFS2767I が、マスター端末オペレーターに送信されています。DEDB DL/I 呼び出しを処理するために呼び出される DBFMCLX0 にやって、戻りコード 16 が設定されます。同期戻りコード X'36' は、EPSTSPRC フィールドに設定されます。

DFSDVSM0 の場合: この標準異常終了は、オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合に、非高速機能障害に関して発行されます。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0844 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。CLOSE TYPE=T 障害の場合、データベースが停止されたことを示すために X'4C' ログ・レコードが書き込まれます。PSTRTCDE フィールドは、新しい戻りコード X'50' に設定されます。

DFSDVBH0 の場合: この標準異常終了は、オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合に、非高速機能障害に関して発行されます。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0844 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

システムの処置: 高速機能データ・セットの場合、異常終了の前にメッセージ DFS2765W または DFS2767I が発行されて、DDNAME データ・セットがスペース不足であることが示されます。

非高速機能データ・セットの場合、異常終了の前にメッセージ DFS0844I が発行されて、スペース不足状態が発生したデータ・セットの DBDNAME および DDNAME が示されます。アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0844 が示され、IMS は処理を続行します。ただし、DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステートメントで指定されていた場合は、アプリケーションは異常終了して、標準的な異常終了コード 0844 が示され、制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 高速機能データ・セットの場合、データ・セットのサイズを増やす必要があります。DEDB 直接再編成ユーティリティを実行することにより、スペースが使用可能になることもあります。

非高速機能データ・セットの場合、データベースが無効である可能性があります。データベース・バックアウト・ユーティリティを実行するか、またはより大きなスペースを割り振ってデータベースを再作成します。LIST VTOC ジョブを実行すると、誤解を招く情報が提供されます。オフライン (/DBR コマンドを使用) の間に、より大きなスペース割り振りの領域にデータベースをコピーする必要があります。次に、/START コマンドを使用して、そのデータベースをオンライン領域で使用可能にします。

問題判別: 4、12

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10、DFSDVBH0、DFSDVSM0、DFSGGSP0

関連情報:

 DFS0844I

 DFS2765W

 DFS2767I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0845

説明: DFSTOCL0、DFSDVBH0、DFSNOTB0、DFSDVSM0、DFSNOT0、または DFSFXC50 で、予期しない条件が検出されました。この問題は、IMS システム・エラーです。DFS1058E メッセージからの理由コードか、または異常終了時のレジスターからのレジスター 6 の値を使用して、いずれかの表のキー・フィールドで値が一致するものを見つけてください。そのキーで参照されるラベルが、モジュール内でエラーが検出されたラベルです。

説明: **DFSDVBH0** の場合:

0845 は、モジュール DFSDVBH0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSNOTB0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSDVBH0 内のアドレスを指します。

0845

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084510' 理由コード =010	AB845R10	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084515' 理由コード =015	AB845R15	BUFC 書き込みエラー標識が設定されていません。

DFSTOCL0 の場合:

0845 は、モジュール DFSTOCL0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSTOCL0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSNOTB0 内のアドレスを指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084520' 理由コード =020	AB845020	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084525' 理由コード =025	AB845025	BUFC 書き込みエラー標識が設定されていません。

DFSDVSM0 の場合:

この問題は、モジュール DFSDVSM0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および「REGS AT ENTRY TO ABEND」のレジスターを問題分離に使用することができます。

ダンプ内で、PSW アドレスを見つけてください。次に、そのアドレスから下方ヘスキャンして、ラベルおよびエラーの説明が示されている DC ステートメントを見つけます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084530 理由コード =030	AB845R30	モジュール DFSDVSM0 に入ったときに、VSAM 内の RPL がすでにアクティブになっていました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084531' 理由コード =031	AB845R31	ESDS 挿入処理中に、ゼロ以外の戻りコードを VSI 更新から受け取りました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084532 理由コード =032	AB845R32	ESDS 挿入処理中に、VSAM SVC 109 を使用する VSI 更新呼び出しからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084533' Reg8=RPL ブロック 理由コード =033	AB845R33	JRNAD 出口ルーチンに渡された RPL は、IMS RPL ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084534' 理由コード =034	AB845R34	サブプール内のすべてのバッファーで、書き込みエラーが検出されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084536' Reg2= バッファー・アドレス Reg4=CI の RBA 理由コード =036	AB845R36	共用読み取り処理の実行中に、VSAM バッファー・プールのバッファー内で、無効な RDF か CIDEF のいずれか、またはその両方が検出されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084537' Reg8=RPL ブロック 理由コード =037	AB845R37	UPAD 出口ルーチンに渡された RPL は、IMS RPL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084538' Reg2= バッファー・アドレス Reg3=CI サイズ Reg4=CI の RBA 理由コード =038	AB845R38	書き込み先のバッファーで、無効な RDF か CIDEF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084539' Reg2= バッファー・アドレス Reg3=CI サイズ Reg4=CI の RBA 理由コード =034	AB845R39	書き込み先のバッファーで、無効な RDF か CIDEF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。
Reg1=X'034D' Reg6=E408453A Reg2= バッファー・アドレス Reg3=CI サイズ Reg4=CI の RBA 理由コード =03A	AB845R3A	書き込み先のバッファーで、無効な RDF か CIDEF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。

DFSFXC50 の場合:

バッファー・プールがページされた後の同期点の時点で、データベースに書き戻されなかったバッファーが検出されました。

0845 は、ラベル ABEND845 で発行される標準異常終了です。異常終了時のレジスター 2 に、バッファー接頭部のアドレスが入り、レジスター 10 にバッファー・キュー・エレメント (BQEL) のアドレスが入っています。いつバッファーが変更されたのか、バッファーの変更後に何が起こったのかを判別することが、問題の解決に役立ちます。

考えられる原因: バッファーへの書き込みが行われなかったか、または BQEL が作成される前に書き込みが行われました。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084540' 理由コード =040	AB845R40	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。

0845

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084545' 理由コード =045	AB845R45	BUFC 書き込みエラー標識が設定されていません。

DFSNOTB0 の場合:

0845 は、モジュール DFSNOTB0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSNOTB0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSNOTB0 内のアドレスを指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084560' 理由コード =060	AB845060	バッファ無効化エラーです。変更されたバッファが無効化されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084561' 理由コード =061	AB845061	バッファ無効化エラーです。変更されたバッファが無効化されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084562' 理由コード =062	AB845062	バッファ無効化エラーです。VSAM VSI アドレスが IMS VSI アドレスに等しくありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084563' 理由コード =063	AB845063	保管域ストレージに対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084564' 理由コード =064	AB845064	VSAM KSDS データ VSI が IMS KSDS データ VSI と一致しません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084565' 理由コード =065	AB845065	VSAM ESDS データ VSI が IMS ESDS データ VSI と一致しません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084566' 理由コード =066	AB845066	VSI は、キー 0 ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084567' 理由コード =067	AB845067	無効な VSI ブロック ID です。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084568' 理由コード =068	AB845068	VSI キーが 0 に等しくありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084569' 理由コード =069	AB845069	VSAM/IMS データ・セット名が一致しません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456A' 理由コード =06A	AB84506A	バッファ無効化エラーです。変更されたバッファが無効化されました。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456B' 理由コード =06B	AB84506B	保管域に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456C' 理由コード =06C	AB84506C	保管域に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456D' 理由コード =06D	AB84506D	保管域に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456E' 理由コード =06E	AB84506E	AWE に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084570' 理由コード =070	AB845070	AWE に対する getmain が失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 17a、35

疑似異常終了の場合、レジスター 14 が PST のフィールド PSTDATA に保管されます。レジスター 14 の内容は、異常終了が発行されたバッファ・ハンドラー内のアドレスです。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH0、DFSTOCL0、DFSDVSM0、DFSFXC50、DFSNOTB0、DFSNOT0

関連情報:

 DFS1058E (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0846

説明: モジュール DFSDBH0 が予期しない通知コードで通知されました。この問題は、おそらく IMS システム・エラーです。

分析: レジスター 14 の内容は、異常条件が検出された DFSDBH0 内のアドレスです。

考えられる原因: モジュール DFSDBH0 は、何らかのバッファ・ハンドラー機能が完了するのを待っていました。通知を受け取ったとき、その通知コードにエラーがありました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0847

説明: OSAM バッファ・ハンドラーで予期しない条件が発生しました。この問題は、IMS システム・エラーです。レジスター 14 に、異常条件が検出された DFSDBH00 内の位置のアドレスが入ります。

分析: 区画仕様テーブル (PST) は、バッファを待つ必要がありますが、スタックが空です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABENDWE にあるルーチン内の命令を指しています。エラーが検出された場合は、DFSDBH00 のさまざまな場所からこのルーチンに分岐します。レジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターで、制御が渡された元の位置のアドレスが入っています。

また、カップリング・ファシリティ・サービスを使用してバッファの妥当性をテストしているときに、無効なローカル・ベクトル索引が検出された場合にも、異常終了 0847 が発行されることがあります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0848

説明: OSAM バッファ・サブプールのすべてのバッファ接頭部が、書き込みエラーのためにロックされました。

分析: 0848 は、DFSDBH20 によって発行される疑似異常終了です。エラーのマークを付けられた各バッファについて、メッセージ DFS0762I が出力されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 27、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH20

関連情報:

 DFS0762I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0849

説明: 検索機能が、PROCOPT=GO の DBPCB に関して疑似異常終了を発行しようとした。異常終了コードが異常終了 0849 に変更されました。

分析:

モジュール DFSDLR00 が障害を検出し、PROCOPT=GOx の DB PCB に対して疑似異常終了を発行しようとした。元の異常終了がユーザー異常終了 0849 に変更されました。元の異常終了コードに対応するレジスターの内容は、PST 内の最新レベルの保管域に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。オリジナルの異常終了コードは、PSTSAVL+X'14' に保管される REG0 の下位 2 バイトに入っています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

0850

説明: キー・タイプ呼び出しまたはバイト探索呼び出しの場合の、バッファ・ハンドラーに対する検索要求が失敗しました。DFSDLR00 が、バッファ・ハンドラーへの呼び出しから無効な戻りコードを受け取りました。

分析: これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。バッファ・ハンドラーの戻りコードは、フィールド PSTRTCDE または JCBRC のいずれかに入っています。要求された機能は、フィールド PSTFNCTN に入っています。

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- R3=JCB
- R4= レベル・テーブル
- R5=SDB
- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000352' Reg14=BAL	IBYTERR	バッファ・ハンドラーから戻ったとき、レジスター 15 はゼロ以外の値です。IBYTE ルーチンから入力された場合は、PSTFNCTN=X'E2' です。BYKEY ルーチンから入力された場合は、PSTFNCTN=X'F0'、X'F2'、X'F4'、または X'F8' です。

考えられる原因: この異常終了は、データベースの作成に使用された DBD が、データベースの更新に使用された DBD と異なっていたことが原因となった可能性があります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 使用している DBD を分析します。データベースを作成するのに使用した DBD およびデータベースを更新するのに使用した DBD が同じかどうかを確認します。

問題判別: 17a から 17e

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 19 章 IMS 異常終了コード 0851 - 0900

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0851

説明: 検索に、LRECL の先頭セグメントとして返されるルート・セグメントが含まれていませんでした。バッファ・ハンドラーには、検索で LRECL を検出するためのキーが渡されていました。

HISAM または INDEX データベースの場合、論理レコード内の最初のセグメント・コードがセグメント・コード 1 ではありませんでした。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析:

0851 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。PSTFNCTN は、X'F0'、X'F2'、または X'F8' に等しい値です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。レジスター 1 および JCBBUFSC は、X'01' のセグメント・コードであると予期されていたバイトを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000353'	ABENDX	LRECL の開始のアドレスは、PSTDATA に入っています。DMBPFOFF には、LRECL の開始から LRECL 内の最初のセグメント・コードへのオフセットを示す定数が入っています。LRECL の最初のセグメント・コードが X'01' でない場合で、しかもそれが HISAM 2 次データ・グループでなく、単純 HISAM でもない場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17e

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0852

説明: HDAM、HIDAM、HISAM、PHDAM、または PHIDAM データベース用のバッファ・ハンドラーに対するバイト探索呼び出しから、検索機能に無効なセグメント・コードが返されました。

バッファ・ハンドラーへの PSTBYLCT 呼び出しに対する応答として返されたセグメント・コードが、そのデータベ

ースに有効なセグメント・コードではありませんでした。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析:

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。レジスター 1 は、無効なセグメント・コードを指しています。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- R3=JCB
- R4=LEVEL TABLE
- R5=SDB
- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000354' Reg6= 最後にアクセスされたセグメント Reg12=GETPSDB Reg15=DMB	GTPSDBER	このルーチンへの分岐は、GTPSDB10 から行われます。使用されるセグメント・コードは、JCBACSC からのものです。これは、最後にアクセスされたセグメントからのセグメント・コードです。このセグメント・コードは、データベースに対して有効なセグメント・コードの範囲内にないため、無効です。
Reg0=X'00000354' Reg5=SDB Reg8=DSG Reg9=PSDB SDBHH=0 Reg15=SAVELEVR	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。レジスター 5 は、SDB の基底レジスターです。SDBHH=0 およびバイト探索呼び出しで返されたセグメント・コードが SDBPHYCD に等しくないため、セグメント・タイプは、兄弟タイプ・ポインタを持っている必要があります。(LEVCOMMT=X'80')
Reg0=X'00000354' Reg6=PSDB の先頭アドレス Reg9=0	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。レジスター 5=SDB。SDB が階層チェーンにない場合 (SDBHH ≠0)、バイト探索呼び出しで返されたセグメント・コードは SDBPHYCD に等しくなければならず、また、ゼロのセグメント・コードは無効です。
Reg0=X'00000354' Reg6=PSDB の先頭アドレス Reg9=PSDB オフセット	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。返されたセグメント・コードが DMB 内で有効なセグメント・コードの 1 つであることを確認するために、テストが行われます。レジスター 9 がレジスター 0 以上の値である場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: データベースを分析します。無効なポインタがある場合、データベースをリカバリーします。

問題判別: 17a から 17e、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0853

説明: HIDAM、HDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースの場合、ルート・セグメントを探そうとしたときに、戻されたセグメントのセグメント・コードが 1 でなかったか、あるいは (HIDAM または PHIDAM の場合) そのセグメントが索引ポインター・セグメントのキー値と異なるキー値を持っていました。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。この異常終了は、すべてのセグメントが削除済みになっているデータベースで GHU を行う際にも返されることがあります。

分析:

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- R3=JCB
- R4= レベル・テーブル
- R5=SDB
- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。セグメント・コードが X'01' でない場合、レジスター 14 は、POSTW ルーチンからの戻りレジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'30000355' Reg1=A(セグメント)、 セグメント・コード = X'01' Reg14=POSTW 呼び出し元の リターン・アドレス Reg15=RC8	ABEND33	レジスター 1 は、X'01' セグメント・コードを持つセグメントの先頭を指している必要があります。そうでない場合は、POSTW から ABEND33 に分岐して、この異常終了が呼び出されます。
Reg0=X'30000355' Reg1=A(セグメント) Reg4= レベル・テーブルのアドレス Reg5= ルート (SDB) Reg8= ルート (DSG) Reg15=RC8	ABEND33	レジスター 1 は、返されたセグメントのセグメント・コードを指しています。返されたセグメントのキー値が、索引ポインター・セグメントのキー値と一致しませんでした。この異常終了は、HIDBLCT から ABEND33 への分岐によって呼び出されます。

2 番目のテーブル項目に記述されている異常終了となったキーを見つけるには、以下の各ポインターを取得します。

- ルート DSG からの DSGLRKEY
- ルート SDB にある SDBTARG からの索引 SDB
- 索引 SDB からの DSG
- 索引 DSG からの DSGLRKEY

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17e

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0854

説明: HSAM データベースの場合に、データ管理ブロックに対応した有効なセグメント・コードではないセグメント・コードが検出されました。検索サービス・ルーチンが現行ブロック内の次のルートを探していたときに、無効なセグメント・コードを検出しました。

分析:

0854 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 8=DSG
- レジスター 9=PST
- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000356'、 DSGNOSAM= ブロック・アドレス、 PSTOFFST= ブロック内のオフセット	HSABEND	この異常終了は、セグメント・コードの妥当性検査を行った NXTSGGHS から SETL サブルーチンへの分岐によって呼び出されます。エラーのあるセグメント・コードは、レジスター 1 で示されています。ブロック内のセグメント・コードが、DMB 内のセグメント・コードに等しくありません。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17e

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0855

説明: ロック要求ハンドラーが、ロック要求の処理中にエラーを検出しました。PSTLRPRM に、DFSLR マクロによって設定された要求パラメーターが含まれています。

必要なユーザー出口 (DFSDBUX1) をロードできないか、または DBDGEN で DATXEXIT=YES が指定されているのにユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定した場合に、疑似異常終了 DFSDLA00 が発行されます。

分析: DFSLRH00 と DBFLRH00 の場合:

これは、モジュール DFSLRH00 または DBFLRH00 (ロック要求処理プログラム) によって発行される疑似異常終了です。この異常終了は、ラベル AB855COM にある共通異常終了ルーチンから発行されます。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

DFSLRH00 レジスター 2=PST、レジスター 6=AMPB、レジスター 7=DSG、レジスター 9=SCD。これらのレジスターは、DFSLRH00 が DFSPLEX0 を呼び出す場合にのみ使用可能で、DFSPLEX0 のエントリー・ポイントを収容する保管域に保管されます。DFSDLR00 が DFSLRH00 を呼び出した場合、DFSDLR00 は戻り時に、最新レベル保管域の自己のレジスターを、オフセット「C」で始まる保管域にラベル PSTSAVL から始めて保管します。

DBFLRH00 は、ラベル AB855 の後で、この異常終了を発行します。そして、次のようにしてレジスターを SAV13 に保管します。

レジスター

内容

- Reg0** ロック・マネージャー (PI/IRLM) からの戻りコードがある場合、それを保持します。
- Reg1** DBFLRH00 の呼び出し元のリターン・アドレス
- Reg6** ESCD アドレス
- Reg7** DMAC アドレス
- Reg8** LRHPARM アドレス
- Reg9** EPST アドレス
- Reg10** PST アドレス
- Reg11** SCD アドレス
- Reg14** エラーを検出したサブルーチンを指します。
- Reg15** ABENDU0855 デバッグ領域の目印を指します。

PSTLRPRM (4 バイト) に、DFSLR マクロで設定された要求パラメーターが入っています。PSTLRSUB に、異常終了の理由を示すサブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
PSTLRSUB=X'01'、 PSTLRPRM=X'30'、 X'60'、 X'80'、または X'81' PSTLRPRM+2=X'02' DSGTOKEN=0 DSGFLGB=X'20' または X'02'	RTLPROC	ルート・ロック要求を処理しているときに、LRH が DSGFLGB に基づき、DSGTOKEN 内にルート・ロック・トークンを持つデータベース・レコードで更新が発生したことを判別しました。しかし、要求は共用状態ロック用です。更新の場合、共用状態は無効です。
PSTLRSUB=X'02'、 PSTLRPRM=X'60RTLNOTOK または X'81'、 DSGTOKEN=0		ルート・ロックの解放要求を処理しているときに、LRH が、DSG にルート・ロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。
PSTLRSUB=X'03' SCDCMDTK=0 PSTLRPRM=X'26' および PSTLRPRM+2=X'03' または PSTLRPRM=X'56'	FBLCIDTK	ルート・ロックの解放要求か、または読み取り状態で保持されたコマンド・ロックに対する更新状態ロック取得要求を処理しているときに、LRH が、SCD に読み取り状態コマンド・ロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。
PSTLRSUB=X'04'、 DMBPFTOK=0、 FBLDIDB PSTLRPRM=X'55'		データ・セット参照ロックの解放要求を処理しているときに、LRH が、AMPB にロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。
PSTLRSUB=X'05' PSTLRPRM=X'13'、 X'22'、 X'31'、 X'33'、 X'43'、 X'52'、 X'62'、または X'63'	CRBN0040 CRBNOSH FBIDRNA FBIDV060	バッファー・ロック要求を処理しているときに、LRH が、PSTBLKNM で渡された RBA/RRN が無効であると判定しました。HISAM OSAM データ・セットの RRN がゼロの場合、または、RBA の値が ESDS データ・セットまたは HD OSAM データ・セットのブロック・サイズより小さい場合は、AB85505 に分岐します。
PSTLRSUB=X'07' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求のための要求機能コードが無効です。PSTDECB に、その機能コードが入っています。
PSTLRSUB=X'08' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求の STATE パラメーターが無効です。PST に、STATE パラメーターが入っています。
PSTLRSUB=X'10' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求のためのリソース名の LOCKID が、非ブロック・レベルの共用では無効でした。LOCKID は、EPSTLKID に入っています。

キー	ラベル	説明
PSTLRSUB=X'11' (DBFLRH00)		高速機能ブロック要求のためのリソース名の LOCKID が、ブロック・レベル共用では無効でした。LOCKID は、EPSTLKID に入っています。
PSTLRSUB=X'12' (DBFLRH00)		高速機能アンロック要求または変更要求のトークン・アドレスが指定されていませんでした。EPSTTKNA が指しているトークン保管域のアドレスがゼロであるか、EPSTTKNA がゼロです。
PSTLRSUB=X'13' (DBFLRH00)		DMAC 内のロック有効範囲フラグが、高速機能変更要求でリセットされました。DMACLKSF フラグには、ローカル・ロック・フラグもグローバル・ロック・フラグも含まれていません。
PSTLRSUB=X'DD'	RELBUF	バッファ所有権を解放するために LRH が呼び出したバッファ・ハンドラーが、ゼロ以外の戻りコードを設定しました。
PSTLRSUB=X'FE' Register4=BAL	LMGLGTAB LMGLRTAB	PSTLRIPM に、グローバル・ロック要求の場合には無効な機能コードが入っています。レジスター 4 には、呼び出しサブルーチンのリターン・アドレスが入っています。
PSTLRSUB=X'FB'		カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、予期しない戻りコードが VSAM から戻されました。
PSTLRSUB=X'FD'		カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、無効のローカル・ベクトル索引が検出されました。
PSTLRSUB=X'FF'	LR00020 BRTABLE	LRH に無効な機能コードが渡されました。PSTDECB に、その機能コードが入っています。

DFSDLA00 の場合:

IMS を再始動してトランザクションを再実行する前に、この出口を必ず APF 許可ライブラリーにバインドしてください。DBDGEN で DATXEXIT=YES が指定されているにもかかわらず、ユーザー出口で SRCHFLAG が X'FF' に設定された場合は、DATXEXIT=YES を DBDGEN から除去するか、SRCHFLAG を X'FF' に設定しないようにユーザー出口を変更してください。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a、17b、17e、17f、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLRH00、DBFLRH00、DFSDLA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0857

説明: HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM セグメントの挿入位置の検査で、有効なチェーンを見つけることができませんでした。

挿入位置は判別されました。次に、その位置を検証しようとしたが、挿入されるセグメントが指し示すセグメントをその親からたどって見つけることができませんでした。データベースに、無効なポインターがある可能性があります。こ

の異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析: 0857 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM の挿入の場合、階層チェーンが壊れるのを防ぐために、SDBPOSP 内のセグメントが SDBPOSN 内のセグメントを指しているかどうかを確認するために、ルーチン ISRTVER が呼び出されます。

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
JCBR4 BIT3=1	IVRERR	このルーチンへの分岐は、IVRB ルーチンから行われます。チェーンに従って、SDBPOSN セグメントをその親から見つけるための検索が行われます。検索が失敗したため、異常終了が発行されます。
SDBPCF=0 SDBTFLG BIT3=1	IVRERR	このルーチンへの分岐は、代替チェーニングを使用していると判定した IVRB から行われます。しかし、セグメントへの物理子順方向ポインターが SDBPCF に見つからないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a、17b、17c、17g

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0858

説明: 物理対のセグメントの一方を見つけることができませんでした。

分析:

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブルは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'0000035A'	DPRERR	SDB が渡されたときに、セグメントの物理対の検索で該当の対を検出できなかったことを示す X'04' 戻りコードがレジスター 15 に返された場合に、RDPRGC からこのルーチンに分岐します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a、17b、17c、17g

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0859

説明: GET 呼び出しのときに、IMS は論理子を見つけたが、論理親は見つかりませんでした。

分析:

0859 は、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17e

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0860

説明: データベース・ハンドラーへの呼び出しで、戻りエラーが発生しました。これは、以下の 3 つのうちのいずれかの理由で DFSDDLE0 から発行される異常終了です。

1. 検索機能 (DFSDLR00) から SDB への挿入位置が正しくない。
2. データベースに無効なポインターがある (DFSDDLE0 のエラー)。
3. 最初にデータ・セットをロードするための十分なスペースが、データ・セットにない。

分析: 異常終了 0860 を診断するには、疑似異常終了時の制御ブロックの SNAP dump が必要です。SCD を使用して、DFSDDLE0 (SCDDLI07)、スペース管理 (SCDDHDS0)、バッファ・ハンドラー (SCDDBH0)、および DFSDDL00 (SCDDLIDR) のエントリー・ポイントを取得します。保管域セットを検索して、レジスター 12 に DLI/LOAD (DFSDDLE0) のエントリー・ポイントが入っている保管域を見つけます。この保管域のレジスター 1 が PST を指しています。レジスター 8 には DFSDDLE0 内の戻り点が入っています。レジスター 4 は SDB を指してい

ます。レジスター 6 は JCB を指しています。PSTRTCDE を調べます。PSTRTCDE がゼロでない場合、PSTRTCDE に、スペース管理またはバッファー・ハンドラーからの不正な戻りコードが入っています。PSTRTCDE がゼロである場合は、可変長 HISAM 置換ルーチンでエラーが検出されたということです。

PSTRTCDE がゼロでない場合は、レジスター 12 に DFSDDLE0 のエントリー・ポイントが入っている保管域が、使用すべき保管域です。この保管域のレジスター 15 に、スペース管理またはバッファー・ハンドラーのエントリー・ポイントが入っています。レジスター 14 を使用して、不正な戻りコードに関するエラー条件が DFSDDLE0 のどこで検出されたかを判別してください。不正な戻りコードの問題については、この分析セクションの後に示すラベル定義の使用で、以下の問題に関連した領域を調べてください。

名前 説明

PSTFNCTN

要求された機能

PSTBYTNM

要求された RRN または RBN

PSTRTCDE

戻りコード

PSTDSGA

データ・セット・グループ (data set group)

バッファー・ハンドラーに問題があり、バッファー・ハンドラーのトレース・テーブルがある場合は、それを使用してバッファー・ハンドラーによる呼び出しをトレースします。バッファー・ハンドラーのトレース・テーブルがない場合は、問題を再現し、トレースをオンにしてジョブを再実行することができます。

すべてのバッファー・ハンドラーへの呼び出しでは、GOTOFUNC の BAL または BALR か、あるいは GOTOBUFF の BAL または BALR を使用します。呼び出しが「GOTOFUNC」または「GOTOBUFF」に進む場合は、バッファー・ハンドラーのアドレスがレジスター 15 にロードされ、続いてレジスター 15 への無条件分岐が行われます。

PSTRTCDE がゼロに等しい場合、DFSDDLE0 のエントリー・ポイントが入ったレジスター 15 を持つ保管域の前の保管域のレジスター 15 が、DFSDDL00 のエントリー・ポイントを指しています。このケースでは、上に示した 4 つのラベルのいずれかから DLETERR への分岐を使用して、HISAM 可変長置換機能によって異常終了が発行されました。これは、HISAM データベース内の可変長セグメントを置換するためにセグメントをシフトするための、DELETE/REPLACE から LOAD/INSERT への特殊呼び出しです。

キー	ラベル	説明
PSTRTCDE=0 TM SDBORGN for X'0C'=0 (Reg4+X'09')	DLETSHT	HISAM データベースのセグメントをシフトするルーチンは、これが HISAM データベースであることを確認するためのテストを行いました。HISAM データベースでなかったため、異常終了が発行されました。
PSTRTCDE=0 TM DMBFLAG for X'48'=0 (Reg5+X'20')	CHKPP	前のテストで、データベースに物理対があるはずであることが示されました。物理対を検証するためのテストが行われました。物理対ではなかったため、異常終了が発行されました。
PSTRTCDE=0 SDBPSDB=PSTDLIW7	FREPP	物理対が検出され、それが置換すべきセグメントでない場合は、異常終了が発行されます。
PSTRTCDE=0 TM DMBVLDLF for X'0C'=0 X'0C'=0 (Reg5+X'18')	SDBREP	可変セグメントまたは圧縮セグメントかどうかについて、検査が行われます。このセグメントはどちらでもないため、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E2'	NDXREPL	このルーチンは、データベースでの置換の後で索引保守を実行中でしたが、機能コード E2 (セグメント要求) でバッファ・ハンドラーに進みました。レジスター 7 には、置換機能の索引保守に対する BAL を実行した DFSDDLE0 内のリターン・アドレスが入ります。バッファ・ハンドラーによって不正な戻りコードが設定されたため、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E2'	NDXREP1	このルーチンは、置換後の索引保守を実行中でしたが、機能コード 02 (データの RBA の取得) でバッファ・ハンドラーに進みました。PSTDATA にはデータのアドレスが入り、レジスター 7 に、このルーチンに BAL を実行した DFSDDLE0 内のリターン・アドレスが入ります。バッファ・ハンドラーから不正な戻りコードが返された結果、この異常終了が発行されました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E2'	LPSPLIT	論理親および分割データを処理している間に、データ部分を取得するためにバッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTDLIW1 には接頭部 RBN が入り、PSTBYTNM にはデータ RBN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E2'	VRLPREP	このルーチンが処理中であった可変長セグメントは、分割されていませんでした。PSTBYTNM に、接頭部 RBA が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	ISIS0001	新規の OSAM レコード用のバッファを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われます。PSTBYTNM に、OSAM RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	ISIS0010	前の OSAM レコードを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、前のレコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'F4'	SHISAM01	新規ルートを挿入するためのセットアップ時には、新しい KSDS LRECL が作成され、これが重複レコードであるかどうかを調べるためにキーによる検索が発行されます。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E2'	NOTC2N	バッファを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	ANCLB	データがシフトされたオリジナルのレコードを検索するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBUFFA は、バッファ接頭部のアドレスです。PSTBYTNM は、オリジナルのレコードの RRN です。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	ANCLD	新規 OSAM レコードの RRN をオリジナルの OSAM レコードへ移動しようとした。しかし、中間スペースが使用されたため、オリジナルの OSAM レコードを再度検索する必要があります。PSTBYTNM に、オリジナルの OSAM レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	RHX5	データをシフトし、セグメントを拡張した後で、ルーチンは元のレコードを取得する必要があります。PSTBYTNM に、元のレコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	SPACEOK	アンカー・ポイント用のエンキュー・コマンドが発行されたときに、WAIT が発生したため、再度レコードを取得する必要があります。PSTBYTNM=RBA。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	UPHDA	HD タイプ編成のアンカー・ポイントを更新しようとした。PSTBYTNM に、アンカー・ポイントの RBA が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	LOGRELNO	これは、親を取得するバッファ・ハンドラーへの呼び出しであるため、接頭部が更新された可能性があります。PSTBYTNM に、親の RBN が入っています。バッファ・ハンドラーによって返されたエラー・コードが、この異常終了の原因です。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	UPPREFIX	セグメントの接頭部を更新しようとした。PSTBYTNM に、更新を要求しているセグメントの RBN が入っています。バッファ・ハンドラーから返されたエラー・コードが、この異常終了の原因です。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	HDREPL	このルーチンは、物理パス内で削除されたセグメントを置換します。PSTBYTNM に、更新すべきセグメントの RBN が入っています。バッファ・ハンドラーからエラー・コードが返されたために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL	CALLFUCN	これは、バッファ・ハンドラー・サブルーチンへの呼び出しで、DFSDDLE0 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際には、REG「A」が戻りレジスターとして使用されています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードを受け取りました。バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われた理由を調べるために、REG「A」が指す場所に進んでください。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'01'	TOSPACE	このサブルーチンには、DFSDDLE0 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際に、レジスター 8 を戻りレジスターとして指定した BAL が使用されています。スペース管理がエラー戻りコードを返したために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL	DHDCALL	このサブルーチンには、DFSDDLE0 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際に、レジスター 8 を戻りレジスターとして指定した BAL が使用されています。スペース管理がエラー戻りコードを返したために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'81'	REPVL50	以前に分離された可変長セグメントを置換しようとしているときに、スペース管理から返されたエラーが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	SAMEDSG	HISAM データベースの OSAM レコードを読み取るために、バッファ・ハンドラーが呼び出されました。PSTBYTNM には、要求された RRN が入ります。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	NOTVSAM2	JCBSTOR4 に、HISAM ロード書き込みルーチンに入った理由を示すコード・バイトが入っています。PSTBYTNM に、OSAM レコードの RRN が入っています。レジスタ 7 に、DFSDDLE0 内部に戻るためのリターン・アドレスが入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'F4'	ISRTROR2	HISAM ルーチンでのルート挿入の実行中に、PSTBYTMN が挿入されるキーを指していました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN='E2'	NOSWAPIE	PSTBYTNM に、OSAM レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	LOGAFTNX	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	GETLP	論理親を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、論理親の RRN が入っています。このルーチンに入る際に、R8 を戻りレジスタとして指定した BALR が使用されています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'F4'	NORMLOAD	KEY-RECORD による検索のために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	YESVSAM1	新規レコードを取り戻すために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	REINVLBS	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	CKSEGSZ	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	SEGTOOLD	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	SEGTONNEW	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	ANCLG	OVERFLOW 内の次の LRECL を取得するために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生し ました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	INSADJUS	セグメントの LRECL を取得するために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	MOVEITIN	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しまし た。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	SHFTRITE	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しまし た。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	NEWOLDTL	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しまし た。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E4'	RHX8	次の LRECL のために、バッファ ー・ハンドラーへの呼び出しが行 われました。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコード が原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'E6'	REPRELD	UCF ロード再始動については、索引項目のポインターが、新規 挿入された上位キー (X'FFFF...FF') のルートを目指すように訂正さ れている必要があります。レコードのアドレスは、PSTDATA に 入っています。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコード が原因で、異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	UPCTR5	HISAM データベースについて、物理対セグメントが挿入されま した。論理親カウンターを更新する必要があります。 PSTBYTNM に、論理親の RRN が入っています。バッファ ー・ ハンドラーから不正な戻りコードが返された結果、異常終了が発 行されました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'ED'	CHECKPT	ユーティリティー制御機能 (UCF) がチェックポイントを要求し ました。すべてのデータベース・バッファ ーをフラッシュする必要 があります。バッファ ー・ハンドラーが、異常終了の原因を示 すエラーを出して戻りました。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	REHID	兄弟逆方向ポインターを持つ HIDAM データベースに対する再 ロード呼び出しの場合、ルーチンは、上位ルートのチェーニング を解除し、索引項目を削除します。PSTBYTNM に、セグメント の RRN が入っています。バッファ ー・ハンドラーから返された エラー・コードが、この異常終了の原因です。
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'EB'	UNCAP	兄弟順方向ポインターを持つ HIDAM データベースに対する RELOAD 呼び出しの場合、アンカー・ポイントをリセットする 必要があります。PSTBYTNM は、ルートが入ったブロックを指 しています。バッファ ー・ハンドラーからの不正な戻りコードが 原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN=X'F2'	DELROOT	このルーチンに入るのは、KSDS レコードを削除するためです。PSTBYTNM に、キーのアドレスが入っています。バッファー・ハンドラーから正常に戻れなかった結果、異常終了が発行されました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 原因として、次のものが考えられます。

- 検索機能 (DFSDLR00) から SDB への挿入位置が正しくない。
- データベースに無効なポインターがある。DFSDDLE0 のエラーです。
- 最初にデータ・セットをロードするための十分なスペースが、データ・セットにない。

問題判別: 4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0861

説明: HISAM の従属セグメントを挿入するとき、または長さが変わった HISAM の可変長セグメントの置換のとき、挿入ポイントの右側のセグメントの長さを判別しようとした際に、DFSDDLE0 (LOAD/INSERT) によって無効なセグメント・コードが検出されました。

分析: 0861 は、ラベル ABEND861 で DFSDDLE0 から発行されます。0861 の原因を診断するには、ログに出力された制御ブロックの SNAP が必要です。

最新保管域を検出するまで、保管域を下方に検索します。レジスター 12 は、DFSDDLE0 (SCDDLI07) のエンター・アドレスに等しい値です。このレジスター保管域内のレジスターを使用してください。レジスター 14 は、このサブルーチンが入力された DFSDDLE0 のポイントを指しています。レジスター 10 は、挿入ポイントまたはシフトする先頭セグメントを指しています。レジスター 9 は、無効なセグメント・コードを指しています。レジスター 1=PST、レジスター 4=SDB、およびレジスター 6=JCB。PSTABTRM は、16 進数の疑似異常終了コードです。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	NOX2	シフト・データの長さを計算するため、この BAL が SCANREC に使用されました。ラベル ABEND861 は、ラベル「COMPSHFT」からいくつか後の命令に分岐しました。レジスター 9 で指示されたセグメントのセグメント・コードを使用して計算されたアドレスが、PSDB 範囲の終わりを越えていたことが判明しました。
Reg14=BAL	SHFTRITE	シフト・データの長さを計算するため、この BAL が SCANREC に使用されました。ラベル ABEND861 は、ラベル「COMPSHFT」からいくつか後の命令に分岐しました。アドレス (レジスター 9 で指示されたセグメントのセグメント・コードを使用して計算された) が、PSDB 範囲の終わりを越えていたことが判明しました。
Reg14=BAL	HISNLP	レコード内の挿入ポイントのオフセットがゼロバイトであることが判明しました。これが VSAM DATA SET であるかどうかを確認するために、テストが行われます。そうである場合、マルチデータ・セット・グループが含まれるエラー状態が生じます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 原因として、次のものが考えられます。

- セグメントの長さを変更して DBD を再作成したが、データベースを再ロードしていない。
- 検索機能 (DFSDLR00) または置換機能 (DFSDL00) から SDB への挿入位置が正しくない。

問題判別: 4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0862

説明: 論理子/論理親連結セグメントを論理親挿入規則の仮想で挿入するときに、ユーザー入出力域のフォーマットは正しかったが、論理親を置換しようとした際に、論理親の中のキーが、論理子の中にある論理親の連結キーの対応する部分と一致しませんでした。モジュール DFSDLR00 は、論理子の中の論理親の連結キーを使用して、論理親を位置決めしました。この位置は、論理親の SDB の SDBPOSC フィールドに入れられました。その後、論理親の置換が試みられたとき、この位置は論理親の連結キーとは整合しませんでした。

分析: 0862 は、ラベル ABEND862 における DFSDLE0 から発行されます。異常終了を診断するには、ログに出力された制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。異常終了時のレジスターは、PST 内にある最新保管域に保管されます。レジスター保管域内のレジスターを使用してください。レジスターの内容は、次のとおりです。

レジスター

	内容
1	PST
2	PCB
4	論理親の SDB
6	JCB
9	ユーザー入出力域内の論理子の連結キー内にある論理親のキーのアドレス
10	データ・セットから取得した論理親セグメント内にある論理親のキーのアドレス

キー	ラベル	説明
Reg11=X'035E'	ABEND862	レジスター 9 (論理子の連結キー内にある論理親のキー) とレジスター 10 (論理親セグメント内にある論理親のキー) が比較された際に、これらが等しくありませんでした。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 問題に関連するデータを確認してください。

問題判別: 4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0863

説明: 編集/圧縮ルーチンのエラーにより、次のいずれかが起きました。

- セグメント長が、定義された最大長より大きい。あるいは、セグメントが固定長の場合は、定義された長さ + 10 より大きい。
- 固定長セグメントの場合は、長さが定義された長さより大きい。
- キー圧縮を指定せずに、キーが変更された。

0863

分析: 異常終了 0863 は、ラベル VLDERR の DFSDDLE0 によって検出されます。異常終了 0863 を診断するには、システム・ログに出力される制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。DFSDDLE0 のエンター・ポイントのアドレスに等しいレジスター 12 を持つ保管域セットを使用してください。このレジスターの内容は、以下にリストされています。

レジスター

	内容
1	PST
2	ユーザーの入出力域にあるセグメントのアドレス
5	このセグメント用の PSDB のアドレス
10	圧縮セグメントのアドレス
4	SDB アドレス

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL DMBVLDFG=X'04' (Reg5+X'25')	NOASRT2	ラベル VLDVSEFXL の直前に、CH 命令があります。レジスター 7 にこのセグメントのデータ長があり、これが、可変長セグメントの最大長である DMBSGMX (レジスター 5+X'1E') に照らして比較されます。これは可変長セグメントであるため、長さが最大長より大きい場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL DMBVLDFG=X'02' (Reg5+X'25')	CKEYCMP	このセグメントがレベル 01 セグメントでないことを確認するために、検査が行われます。01 レベルはルート・セグメントであり、ユーザーが HISAM ルート・キーを圧縮することはできません。セグメント・レベル (レジスター 4+X'08') が X'01' に等しく、SDBORGN で HISAM の SDBORH1 がオンの場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL DMBVLDFG=X'04' (Reg5+X'25')	VLDVSEFXL	これは固定長セグメントで、セグメント・データ長 (レジスター 7) が固定長 (DMBDL、レジスター 5+ X'0A') 以下の値であることを確認するために、検査が行われます。データ長が固定長より大きい場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg8 のデータ Reg A のデータ		すべての圧縮は正常でした。ただし、セグメントの先頭部分からキーを通じて取得されたすべてのデータは変更されなかったことを確認するために、検査が行われます。レジスター 8 およびレジスター 10 は、CLCL 命令の結果として比較しない先頭バイトを指しています。これが変更されている場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 編集/圧縮ルーチンが正しく実行するようにします。「問題判別」にリストされた情報を分析用に入手します。

問題判別: 4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リスト

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0864

説明: プログラム分離 ENQ/DEQ ルーチンから、または IWAIT への無効な通知から予期しない結果を受け取りました。これは、IMS システム・エラーです。

分析: 0864 は発行されない疑似異常終了で、この疑似異常終了を設定するコードがラベル ABEND864 で DFSDDLE0 に入ります。このコードは、診断作業に使用する場合に備えて DFSDDLE0 に残っています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0865

説明: HISAM データベースでセグメントを挿入または置換するとき、1 つの LRECL を保持するために作業域が要求されました。ICREATE マクロを使用してもスペースが使用可能になりませんでした。

分析: 0865 は、疑似異常終了です。異常終了 0865 を診断するには、ログ・データ・セットに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。また、DFSDDLE0 のエントリー・ポイントも必要です。(SCD 内のラベル SCDDLI07 で見つかります。)

DFSDDLE0 のエントリー・ポイントと同じレジスター 15 を持つ保管域が見つかるまで、保管域セットを検索します。その保管域のすぐ下位の保管域で、レジスター 12 に DFSDDLE0 のエントリー・ポイントが入り、レジスター 14 に、ラベル GETSPC への BAL を実行したモジュール内のアドレスが入っているはずで

これらのレジスターを使用して、レジスター 6 に X'92' を加えた結果が、要求された領域の長さを指しています。

その次に下位の保管域で、DFSICRET の呼び出しが行われた時点で現行状態であったレジスターを見つけることができます。これらのレジスターを、診断 0865 に使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL	GETPOOL	ICREATE がスペースを取得できなかった場合、DFSICRET (ICREATE) から戻ったときに 0865 が発行されます。レジスター 2 に、4 バイトの POOL 名が入っています。レジスター 3 に、要求された POOL サイズがバイト単位で入っています。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: プログラムに使用可能なストレージを増やします。

問題判別: 17a、17b

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0867

説明: 論理子を挿入するとき、論理子の 2 次リストを介して論理親を探し、更新する試みが行われます。挿入される論理子のための 2 次リスト項目が見つかりませんでした。これは ACBGEN が不完全であることを示します。

分析: 0867 は、モジュール DFSDDLE0 によって発行される疑似異常終了です。この異常終了に入ったとき、レジス

0868

ター 11 は、論理子の SDB を指しており、レジスター 5 は、有効な 2 次リスト項目が見つからなかった DMBPSDB を指しています。異常終了時のレジスターは、PST 内にある最新保管域に保管されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 11 またはレジスター 5 は、有効な 2 次リスト項目が見つからなかった論理子の SDB を指しています。エラーのある DBD を訂正するか、ACBGEN を戻してから (または両方を行ってから)、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、9、17d

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0868

説明: 更新モードで兄弟逆方向ポインターを使用して HIDAM または PHIDAM ルートを挿入しているときに、兄弟順方向ポインターがゼロであることが検出されました。ルート・レベルで兄弟逆方向ポインターが指定された場合、値がゼロの兄弟順方向ポインターがあってはなりません。これは、無効なデータベースであるか、または索引記録内に すべて FF のキーがないことを示します。

分析: 0868 は、ラベル ABEND0868 で DFSDDLE0 から発行されます。オンライン領域で発生するこの異常終了を診断するには、ログに出力されている IMS 制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。SCD を使用して DFSDDLE0 (SCDDLI07) のエントリー・ポイントを取得し、DFSDDLE0 のエントリー・アドレスと同じレジスター 15 を持つ保管セットを見つけるまで、保管域を検索します。この保管セットの下で、レジスター 14 の上位バイトに「AA」が入っていて、レジスター 12 に DFSDDLE0 のエントリー・アドレスが入っている保管セットを見つけます。これが異常終了時の保管セットです。この保管セットのレジスター 4 に、挿入しようとしているセグメント用の SDB のアドレスが入っています。SDB 内のオフセットには、次のような情報が入っています。

コード

説明

X'34'

挿入されるセグメントの位置を示す、3 位置のワードの先頭です。

X'34'

前の兄弟の RBA です (ある場合)。

X'38'

挿入されたセグメントが配置される RBA です。

X'3C'

次の兄弟の RBA です。異常終了 0868 は、X'3C' がゼロであったことを示します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: データベースを分析して、兄弟順方向および兄弟逆方向チェーンが妥当であるかどうか、また、すべて FF のキーが記録内で欠落しているかどうかを調べます。いずれの場合も、データベースをリカバリーする必要があります。

問題判別: 17a から 17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0869

説明: DL/I バッファ・ハンドラー・ルーターが、未定義の機能を実行するように要求されました。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析: 0869 は、モジュール DFSDVBH0 によって発行される標準異常終了です。関連 PST フィールドは、PSTFNCTN です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: すべての出力を IMS システム・プログラマーに送信してください。IMS 再始動手順に従います。

問題判別: 4、11、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVBH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0870

説明: PTR=TB が指定されている HIDAM または PHIDAM のルートの挿入位置を決めているときに、検索機能が不良な兄弟チェーンを検出しました。DL/I 検索モジュールが VSAM 索引を使用して取得した前の HIDAM または PHIDAM ルートが、挿入操作中のルートのキーよりも上位のキー値を持っています。

分析: 0870 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。X'C' の先頭バイトの X'AA' は、R14 を示します。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

キー	ラベル	説明
R0=X'10000366' R6=ABEND870 ラベルへの ポインター	ABEND870	JCBWC の RBA は、PRIORRBA の RBA に一致します。PRIORRBA の RBA は、呼び出しと同等またはそれ以上のキー (X'F2') による検索で VSAM から返された索引項目から取得されます。前のルートが読み取られたとき、そのルートが、挿入操作中のキーより大きいキーを持っていました。VSAM への呼び出しが再実行されました。二度目も VSAM がすぐ上位の同じキーを返した場合、異常終了 0870 が発行されます。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 索引が壊れている (索引項目が欠落している)。
- 以前に挿入された HIDAM ルートが順不同である。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00

関連情報:

0880

説明: HALDB の処理中に、予期しない条件が発生しました。このエラーは、以下のイベントのいずれかを処理中に検出された可能性があります。

- 拡張ポインター・セットの作成
- 間接リスト項目の作成
- 拡張ポインター・セットの訂正
- HALDB 区画の選択
- 間接リスト項目の更新
- 拡張ポインター・セットの検証

分析: HALDB の DL/I 処理中に以下のいずれかの機能について予期しない条件が検出された場合、異常終了 0880 が発生します。

- 区画の選択
- 拡張ポインター・セットの作成
- 間接リスト項目の作成
- 間接リスト項目の更新
- 拡張ポインター・セットの検証
- 拡張ポインター・セットの訂正

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'1C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。この保管域のオフセット X'1C' でエラー理由コードを見つけることができます。返される可能性のある理由コードは、以下にリストされています。

理由コード

説明

X'C001'

区画化されていない DB アクセスです。

X'C002'

区画がアクティブではありません。

X'C003'

区画が停止しました。

X'C004'

区画構造が終了中です。

X'C005'

区画構造が初期設定されていません。

X'C006'

区画構造の再作成に失敗しました。

X'C009'

ILDS DSG が提供されていません。

X'C010'

異常な構造状況です。

X'C030'

無効な許可理由コードです。

X'C031'

OPEN エラーが発生しました。DFS0730I メッセージを調べて、問題の原因を判別します。

X'C040'

無効な区画 DDIR です。

X'C041'

無効な区画セット操作です。

X'C042'

PSETE ストレージの割り振りができません。

X'C043'

無効な区画セット選択アクションです。

X'C050'

ユーザー選択出口が開始されませんでした。

X'C060'

無効な機能コード。

X'C070'

バッファ・ハンドラーのバイト探索要求が失敗しました。

X'C071'

キーによるバッファ・ハンドラー探索要求が失敗しました。

X'C073'

バッファ・ハンドラーの変更マーク要求が失敗しました。

X'C074'

バッファ・ハンドラーのバイト探索要求および変更マーク要求が失敗しました。

X'C075'

ルート・ロックの取得要求が失敗しました。

X'C076'

DFS BCB ストレージ獲得要求が失敗しました。

X'C077'

HALDB OLR カーソルのリフレッシュが失敗しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00、DFSDDLE0、DFSDXMT0、DFSDDLDC0

関連情報:



DFS0730I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0881

説明: HALDB PINT (区画初期設定) 呼び出されたは UNLD 呼び出しの処理中に、モジュール DFSFXC50 で予期しない条件が発生しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 17a から 17d、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0882

説明: 索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPREC0) の実行中に障害が発生しました。理由コードは、以下のようなエラーのタイプおよび取るべき処置を示しています。

コード

説明

- 04 区画選択および区画初期設定ルーチンに対する呼び出しが、重大エラーのために失敗しました。
- 08 基本データ・セットをオープンする呼び出しが失敗しました。
- 0C 索引データ・セットをオープンする呼び出しが失敗しました。
- 10 基本データ・セットの最初のブロックを探すための、バッファー・ハンドラーからの呼び出しが失敗しました。
- 14 基本データ・セットをクローズする呼び出しが失敗しました。
- 18 索引データ・セットをクローズする呼び出しが失敗しました。
- 20 間接リスト項目を挿入する呼び出しが失敗しました。
- 24 GN DL/I 呼び出しで、無効な状況コードが戻されました。
- 28 データベース内で次のブロックを探すための、バッファー・ハンドラーからの呼び出しが失敗しました。

2C データベース・ブロックをスキャン中に、処理中のセグメントのレベルに応じた PSDB が見つかる前に、PSDB の終わりに達しました。

システムの処置: ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答: 出力されたダンプおよびレジスターを保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 1、3、6、8、17a から 17d、35、40

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0885

説明:

以下の理由で、必須ユーザー出口 (DFSDBUX1) でエラーが発生しました。

1. 出口をロードできなかった。
2. DATXEXIT=YES が DBDGEN で指定されたが、ユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定した。

分析: IMS を再始動してトランザクションを再実行する前に、この出口が APF 許可ライブラリーにバインドされているかどうかを確認する必要があります。2 番目の理由に当てはまる場合、DBDGEN から DATXEXIT=YES を除去するか、またはユーザー出口を変更して SRCHFLAG が x'FF' に設定されないようにします。

システムの処置: IMS はデータベースを停止し、トランザクションは疑似異常終了を出して終了します。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、トランザクションを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

0888

説明: アクティブ・フォーマット・ライブラリーにメンバーが含まれていないが、IMS システムには MFS サポート 端末が含まれています。アクティブ・フォーマット・ライブラリーには、少なくとも、IMS システム定義で生成される デフォルトのフォーマット・ブロックが含まれていなければなりません。

分析: これは、MFS バッファ・プール初期設定モジュール DFSIING0 (XA) または DFSIINF0 (非 XA) から発行 される標準異常終了です。フォーマット・ブロック数の値がゼロであることが検出された場合に、この異常終了が発生 します。アクティブ・フォーマット・ライブラリーには、少なくとも、IMS システム定義で生成されるデフォルトのフ ォーマット・ブロック数が含まれていなければなりません。

システムの処置: IMS は異常終了コード 0888 で異常終了します。

プログラマーの応答: FORMATA DD ステートメントの形式ライブラリーの指定を有効なデータ・セットに訂正しま す。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINF0、DFSIING0

0889

説明: DEVTYPE マクロが、無効なエリア・アドレスを使用して発行されました。

分析: 0889 は、DFSIINF0 (メッセージ・フォーマット・ブロック・プールを初期設定するモジュール) によって発行 される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラ ベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABENDA への無条件ブランチの結果です。ラベ ル ABENDA は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールへ IMS エラー・メッセージ DFS891A を書き出す WTO (SVC 35) を発行します。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、DD ステートメント妥当性検査ルーチン DFSIDDP0 からの戻りコード (この場合は X'08') が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=ABEND コード X'00000379'	DDRCCHKS	DD 妥当性検査ルーチン (DFSIDDP0) への分岐が行われまし た。エラーが検出された場合、このルーチンがレジスター 15 に 戻りコードをロードします。この場合は、DEVTYPE パラメー ター・エラーが発生した (指定された領域アドレスが無効だっ た) ため、X'08' がレジスター 15 にロードされます。 X'08' 戻りコードが原因で、ラベル ABEND への分岐が発生し ます。
Reg14=BALR		
Reg15= 戻りコード X'08'		

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 2、3、4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINF0、DFSIING0

関連情報:

 DFS891A

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0890

説明: DEVTYPE マクロが、アクティブ・フォーマット・データ・セットの DD 名 (FORMATA または FORMATB) に対して発行されたが、不在条件が発生しました。

分析: アクティブ・フォーマット・ライブラリーの DD 名は、DFS3410I のメッセージ・テキストに示されています。

0890 は、DFSINFO (メッセージ・フォーマット・ブロック・プールの初期設定するモジュール) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABENDA への無条件ジャンプの結果です。ラベル ABENDA は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールへ IMS エラー・メッセージ DFS891A を書き出す WTO (SVC 35) を発行します。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、DFSIDDP0 (DD ステートメント妥当性検査ルーチン) からの戻りコード X'04' が入っています。DFSIDDP0 は、エラー条件を検出したモジュールです。X'04' は、DD 名が見つからなかったことを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=ABEND コード X'0000037A' Reg14=BALR Reg15= 戻りコード X'04'	DDRC0416	DD 妥当性検査ルーチン (DFSIDDP0) への分岐が行われました。エラーが検出された場合、このルーチンがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合は、DEVTYPE マクロの DD ステートメントが欠落しており、X'04' がレジスター 15 にロードされます。X'04' の戻りコードは、異常終了 0890 を発行するラベル ABENDA への分岐の原因となります。

考えられる原因: DD 名 FORMATA または FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セットを定義している DD ステートメントが、ジョブ・ストリームに欠落していました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: DD 名 FORMATA または DD 名 FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セット用の有効な DD ステートメントがあることを確認して、ジョブを再実行します。アクティブ・フォーマット・ライブラリーの DD 名は、DFS3410I のメッセージ・テキストに示されています。

問題判別: 2、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSINFO、DFSINFO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

 DFS891A

 DFS3410I

0891

説明: IMS の初期設定時に、アクティブ・フォーマット・データ・セットを開くことができませんでした。

分析: 0891 は、DFSINFO または DFSTMEIO の 2 つのモジュールのいずれかから発行される可能性のある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを使用して、障害を特定のモジュールに分離します。

アクティブ・フォーマット・データ・セットは、FORMATA または FORMATB の DD ステートメントを使用して、システムに定義されます。DCBOFLGS は、DCB 内の X'30' にあります。

DFSTMEIO の場合:

524 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

これは、4つのフォーマット・プール DCB のいずれかを開くことができなかった場合に、DFSTMEI0 によって発行される可能性があります。レジスター 2 にフォーマット・プールのアドレスが入っています。レジスター 12 は、エントリー・ポイント・アドレスで、モジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1='8000037B'	PREOPEN	PREFETCH ECB の初期設定時に、3270 が定義されている一部のシステムで、フォーマット・データ・セットが開かれます。アクティブ・フォーマット・データ・セットの DD 名 FORMATA または FORMATB に関連する、4つの DCB のいずれかを開くことができなかったために、この異常終了が発行されます。

DFSINF0 の場合:

これは、アクティブ・フォーマット・ライブラリー (FORMATA または FORMATB) に DD 名で定義されている DCB のいずれかのオープンに失敗した結果として、モジュール DFSINF0 によって発行される可能性があります。

レジスター 12 は、オープンに失敗した DCB を指しています。また、異常終了の前にメッセージ DFS891A がマスター・コンソールに発行されます。レジスター 11 に、モジュールのエントリー・ポイントのアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1='8000037B' Reg12= DCB (失敗) DCBOFLGS= X'10'	OPENM	このモジュールは、フォーマット・ブロック・プールを初期設定します。DDNAME FORMATA または FORMATB によって定義されている DCB に OPEN マクロ命令が発行されます。いずれかの DCB でオープンに失敗すると、OPENERR への分岐が実行され、さらにラベル ABENDA に分岐して、そこでメッセージ DFS891A およびこの異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSINF0, DFSTMEI0

関連情報:

 DFS891A

0892

説明: プールの初期設定を完了させるための十分なストレージが、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) 内にありません。

分析: 0892 は、DFSINF0 によって発行される標準異常終了です。DFSINF0 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル SPACERR にあるルーチンによって、ラベル ABEND0 のルーチンへの無条件ブランチが行われた結果として発生します。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS892 を発行します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg2=DFS892A メッセージの アドレス Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C'	FREINIT	この時点で、レジスター 3 には、IMS プロシージャ用の EXEC ステートメントの FBP パラメーターから算出された、計算済みの MFBP サイズが入っています。レジスター 15 には、計算済みの MFBP サイズ (FRE のサイズ、プールの固定長、1 DECB のサイズ、12 ディレクトリー項目のサイズ、スラック・スペース用の 40 バイトをすべて足した合計) が入ります。2 つのレジスターが比較されます。この時点でレジスター 3 の方が小さい場合、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 3 の内容がオーバーレイされることに注意してください。
Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C' Reg2= DFS892A メッセージの アドレス	MOVELAST	ストレージのディレクトリー項目長が MFBP 内のフリー・スペースから減算された後で、レジスター 3 (この時点で、レジスター 3 には、MFBP に残っているフリー・スペースの量が入っています) とディレクトリー項目長が比較されます。レジスター 3 の方が小さい場合は、残りのフリー・スペースがないことを示しており、異常終了を処理する SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 3 の内容がオーバーレイされることに注意してください。
Reg8=\$\$IMSDIR の サイズ Reg9= プールに残っている フリー・スペースの量	HITIMS	ストレージ内にある索引に対して十分なスペースがあるかどうかを判別するために、比較が行われます。Reg8 の値がレジスター 9+X'04' の値と同等またはそれより大きい場合は、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。
Reg2=DFS892A メッセージの アドレス Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C'	CLSE	このルーチンの実行時には、MFBP に最小動的スペースがあるかどうかを判別するために、レジスター 2 の内容 (この時点で、レジスター 2 には MFBP の動的スペースの最小サイズが入っています) とレジスター 3 (この時点で、レジスター 3 には MFBP の動的スペースの量が入っています) が比較されます。この時点でレジスター 3 の方が小さく、十分な最小スペースがない場合は、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 2 およびレジスター 3 の内容がオーバーレイされます。

考えられる原因: IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBP パラメーターを確認してください。さらに大きなプールを定義することが必要な場合があります (FBP のプール・サイズは、1 KB ブロック単位で定義されます)。IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBPR パラメーターを確認してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBP パラメーターで、より大きな形式プールを定義してから、ジョブを再実行します。

プログラマーの応答: プール・サイズを定義するときに考慮すべき要因については、「バッファの指定 (データベース管理)」を参照してください。

問題判別: 4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINF0、DFSIING0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0893

説明: メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) の初期設定中に、入出力エラーが発生し、アクティブ・フォーマット・ライブラリー (IMS.FORMATA または IMS.FORMATB) に関する POINT または FIND マクロが発行されました。

分析: 0893 は、DFSINF0 によって発行される標準異常終了です。DFSINF0 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABEND4 のルーチンによって、ラベル ABEND0 のへの無条件ブランチが行われた結果として発生します。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS983I を発行します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 3 に異常終了完了コード X'8000037D' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチンへの BAL、Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	POINTD1	すべてのディレクトリー・ブロックで読み取りを行うルーチンの場合、レジスター 14 に常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、入出力エラーが発生したことを示しており、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	HIT	\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り中に入出力エラーが発生したことを示しています。ラベル ABEND3 へ分岐が行われ、フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。
Reg14= ディレクトリー・ブロックの 終了、Reg8= 次のディレクトリーの項 目名のアドレス、 R1ERRBIT=X'20'	IMSCOMP	レジスター 8 とレジスター 14 が比較されます。レジスター 8 のアドレスがレジスター 14 のアドレスと同等またはそれより大きい場合は、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合は、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	HITIMS	ストレージの常駐ディレクトリーの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されたため、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。

考えられる原因: おそらく、アクティブ・フォーマット・データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがありま

0894

す。DFS3410I のメッセージ・テキスト内の DD 名 FORMATA または FORMATB は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを示します。MFS ユーティリティーが正しく実行されたことを確認してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: おそらく、形式データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。MFS ユーティリティーが正しく実行されたかどうかを確認してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、4、11、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINF0、DFSING0

関連情報:

 DFS983I

 DFS3410I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0894

説明: メッセージ・フォーマット・ブロック・プールの初期設定中に、アクティブ・フォーマット・データ・セットに対する READ マクロが発行されたときに、入出力エラーが発生しました。

分析: 0894 は、DFSIINF0 によって発行される標準異常終了です。DFSIINF0 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABEND3 のルーチンによってラベル ABEND0 のルーチンへの無条件ブランチが行われた結果として発行されます。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS894I を発行します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 3 に異常終了完了コード X'8000037E' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチンへの BAL、Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	POINTD1	すべてのディレクトリー・ブロックで読み取りを行うルーチンの場合、レジスター 14 に常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、READ 中に入出力エラーが発生したことを示しており、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	HIT	\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時に入出力エラーが発生したことを示しています。ラベル ABEND3 への分岐が行われます。また、フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg14= ディレクトリー・ブロックの終り、 Reg8= 次のディレクトリーの項目名のアドレス、 R1ERRBIT=X'20'	IMSCOMP	レジスター 8 とレジスター 14 が比較されます。レジスター 8 のアドレスがレジスター 14 のアドレスと同等またはそれより大きい場合は、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、 Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	HITIMS	常駐ディレクトリーをコアに読み取っている間、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されたため、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。

考えられる原因: おそらく、アクティブ・フォーマット・データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。IMS がアクティブ中は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを更新してはなりません。MFS ユーティリティーが正しく実行されたことを確認します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: おそらく、形式データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。IMS がアクティブ中は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを更新してはなりません。MFS ユーティリティーが正しく実行されたかどうかを確認してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、4、11、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIINF0、DFSIING0

関連情報:

 DFS894I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0895

説明: PDS ディレクトリー索引を作成するための十分なストレージが、IMS 拡張専用域内にありません。この索引は、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答: IMS 拡張専用域内でより多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIING0

0896

説明: DD DUMMY パラメーターは、アクティブ・フォーマット・データ・セットに対してはサポートされていません。DD 名は FORMATA または FORMATB です。メッセージ DFS3410I を参照して、どちらの DD 名がアクティブ・フォーマット・データ・セットかを識別してください。

分析: これは、DFSIINF0 によって発行される標準異常終了です。DFSIINF0 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABENDND 内の命令を指しています。

この異常終了は、ラベル ABEND6 のルーチンによってラベル ABENDND への無条件ブランチが行われた結果として

発行されます。この初期処理およびセットアップでは、DFSINF0 はモジュール DFSIDDP0 (DD ステートメント妥当性検査ルーチン) への BALR を実行します。DFSIDDP0 は、DD ステートメントのエラー (特にデータ・セット名エラー) を検出すると、エラー戻りコード (X'10') をレジスター 15 に入れて DFSINF0 に返します。戻りコードに基づいて、DFSINF0 内で、DDRC0416 にあるルーチンから異常終了を処理するルーチンへの分岐が行われます。

異常終了 0896 は、ダンプを伴いません。ラベル ABENDND にあるコードには、ダンプ・オプション標識 (レジスター 1 の上位ビット) を設定するための準備機能はありません。この異常終了は、FORMAT データ・セットの DD ステートメントに DD DUMMY をコーディングした直接の結果として発生します。このデータ・セットには、有効なデータ・セット名が指定されていなければなりません (DUMMY は使用できません)。

ダンプが必要な場合は、障害のあるジョブを再実行し、ラベル ABEND6 におけるブランチ命令を変更することで、ラベル ABEND9D (47F0 Bxxx) への無条件ブランチを実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: DD ステートメントを訂正して有効なデータ・セット名を指定してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSINF0、DFSING0

関連情報:

 DFS3410I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0897

説明: ステージング・バッファを割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。このバッファは、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答: IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSING0

0898

説明: MFS 動的ディレクトリーを作成するための十分なストレージが、IMS 拡張専用域内にありません。このディレクトリーは、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答: IMS 拡張専用域内でより多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSING0

0899

説明: MFS バッファ・プール制御域を割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。

オペレーターの応答: IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSING0

0900

説明: ダミー ECB 用のストレージを割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。この ECB は、31 ビット・モードで MFS 形式ライブラリーを読み取るのに必要です。

システムの処置: IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

第 20 章 IMS 異常終了コード 0901 - 0950

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0904

説明: MFS ユーティリティー・プログラムによる PDS ディレクトリー項目の処理中に、32K より大きなフォーマット・ブロック・サイズをもつ無効な項目が検出されました。MFS 形式作成モジュールでは、作成ブロックのサイズが 32K に制限されています。ディレクトリー項目が破壊されています。

分析: 0904 は、以下から発行される標準異常終了です。

- DFSIINF0、フォーマット・ブロック・プール・イニシエーター
- DFSFDIR0、MFS XA ディレクトリー作成モジュール
- DFSICV50、/MODIFY COMMIT プロセッサ

MFS 形式作成モジュールでは、作成ブロックのサイズが 32K に制限されています。PDS ディレクトリー項目のサイズが無効です。レジスター 2 にディレクトリー項目のアドレスが入っており、レジスター 8 にフォーマット・ブロックのサイズが入っています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了に入ったときのレジスター 2 が、ディレクトリー項目を指しています。レジスター 8 にフォーマット・ブロック・サイズが入っています。無効な項目を削除してから、プログラムを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSICV50、DFSIINF0、DFSFDIR0

0905

説明: ブロック・ビルダーが、必要な制御ブロックを作成するための十分なストレージを取得できません。

分析: 0905 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0905I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターおよび DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されたレジスターを、問題診断に使用できます。特定のラベルに分離するために、ラベル ERRORSVE 保管域からのレジスター 14 BAL を使用します。

制御ブロックを作成するストレージを取得するために GETMAIN マクロが発行されます。レジスター 15 のルーチンに、次のいずれかの戻りコードが渡されます。

コード	説明
-----	----

X'00'

仮想ストレージ要求が割り振られました。

X'04'

仮想ストレージは割り振られませんでした。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。モジュールによる制御の流れは、次のとおりです。まず、サブルーチンが GETMAINR への BAL を実行します。GETMAINR は、レジスター 15 およびレジスター 0 を SAVE0 に保管し、GETMAIN マクロを発行します。(DFSDLBA0 が基底の場合は、サブルーチンはアドレス可能度の問題を解決するためにラベル GETMAIN への BAL を実行し、その後、GETMAIN が GETMAINR への BAL を実行します。)戻り時に、ADCON ADDR (GETMAIN 領域のアドレス) が X'04' について検査され、同等の場合は

ERROR905 に分岐します。ERROR905 は、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0905I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN により、SETPSEU に分岐し、これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

これに対する唯一の例外は、サブルーチン SUMSPDX が DFSDLBA0 (エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行する場合です。この場合は、ラベル BLDLIMT2 で GETMAIN マクロが発行されます。レジスター 15 がゼロの戻りについてテストされ、ゼロでない場合は、INTRET4 へ分岐します。INTRET4 は、戻りコードを設定し、INTRET へ分岐します。INTRET は、一部のハウスキーピングを実行して DFSDLBL0 へ戻ります。この時点で ERROR905 への分岐が行われ、前に述べた制御が続行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=CURLIM アドレス (現行の限度テーブル) Reg11=DFSDLBL0 基底 Reg12=DFSDLBA0 基底 Reg14=BAL Reg15=X'04'	SUMSPDX BLDLIMT2	このルーチンは、セグメント・タイプ別の意図に基づき、エンキュー・リストを作成します。これは、意図伝搬ルーチン (DFSDLBA0 エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。そこで、渡された PSDB から始めて、PSDB アドレスのテーブルが構成されます。サブルーチン BLDLIMT2 は、GETMAIN マクロを発行します。テーブルを構成するためにストレージが使用可能でない場合、DFSDLBA0 は、戻りコード X'04' をレジスター 15 に入れて DFSDLBL0 へ渡します。その後、DFSDLBL0 が異常終了を発行します。
Reg2= 必要な DDIR スペース Reg3=PSB アドレス Reg4=DBPCB リスト・アドレス Reg14=BAL Reg15=X'04'	ISDBPCB GETMAINR	このルーチンは、PSB によって参照されるすべての DBD についての一時的 DDIR のリストを作成するために必要なスペースを獲得します。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、要求を満たすために使用可能なストレージがなかったことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2= 必要な SDB スペース Reg14=BAL Reg15=X'04'	SGTABGSD GETMAINR	PSB に必要な SDB の数は、PCB をスキャンし、SENSESEG ステートメントの数を数えることで計算されます。最後の PCB が処理された時点で、このルーチンは、SDB の作成に必要なストレージを獲得しようとしています。ゼロ以外の戻りコードは、要求を満たすために使用可能なスペースがなかったことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg1= 必要な新規 PSB スペース Reg2=SDB 拡張サイズ Reg14=BAL Reg15=X'04'	LOOPN GETMAINR	このルーチンは、SDB 拡張ブロックのためのストレージを獲得します。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2= 必要な DMB スペース Reg14=BAL Reg15=X'04'	NOINDXTD GETMAINR	DMB の作成に必要なストレージのサイズが計算されたから、このルーチンはストレージの取得を試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないことを示し、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2= 必要な SDB スペース Reg3=PSB Reg6=SDB Reg13=DFSDLBL0 基底 Reg14=BAL Reg15=X'04'	GETSDBA GETMAINR	論理データベース用の SDB を取得するために、BLDSDBEB からこのサブルーチンに分岐しました。GETSDBA は、8 つの SDB を作成するためのスペースの割り振りを試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なストレージがないことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2=PRLSTSZ サイズ Reg14=BAL Reg15=X'04'	BLDLOGLV GETMAINR	このルーチンは、物理対用に生成された SDB を記述するリストを作成するために、ストレージの取得を試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードによって、異常終了が発生します。
Reg0= SECLIST テーブル項目の長さ Reg2= SECLIST テーブルのサイズ Reg4=DDIR Reg14=BAL Reg15=X'04'	BLDDBNDA GETMAINR	このルーチンは、SECLIST を処理するために、ストレージの取得を試みます。これは、各 SECTAB + 1 について 1 項目をベースとして、SECLIST テーブルに対して GETMAIN を実行します。GETMAIN からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能な中核がないことを示しており、異常終了を生じる結果となります。
Reg2= ENQUEUE リストのサイズ Reg14=BAL Reg15=X'04'	ENQACUMA GETMAINR	物理 DBD のエンキュー・リスト (意図リスト) のサイズが計算され、その後、そのエンキュー・リスト用のストレージの取得が試みられます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないことを示しており、そのため異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、処理中の PSB を指しています。領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。メッセージ DFS0905I を参照してください。

問題判別: 4、9、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0906

説明: SENSEG ステートメントに、無効な処理オプションが指定されています。

分析: 0906 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0906I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、SENSEG 名と PSB 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR906 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 7 には、PSB 名アドレスがロードされます。レジスター 14 は、ERROR906 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0906I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7= オプション・テーブルの アドレス Reg15=A(PROCOPT)	BLDSDB LOOPA	このルーチンは、SENSEG ステートメントから SDB を作成します。レジスター 15 にある PROCOPT について、処理オプションを収容しているテーブル項目の比較が行われます。一致するオプションが見つからない場合は、無効な PROCOPT が存在していると判別され、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は SENSEG 名を指し、レジスター 7 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。メッセージ DFS0906I を参照してください。

問題判別: 4、9、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0906I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0907

説明: PSB 内に、論理 DBD を参照し、しかも PROCOPT が L または LS である PCB があります。

分析: 0907 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0907I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERR907 に分岐します。これが DFSDLBL0 を基底として復元し、ERROR907 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR907 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS907I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=DDIR 基底、 DDIRADDR=X'22'	CLRDDIR9	このルーチンは、論理 DDIR を処理します。X'22' (論理 DBD およびロード・オプションを指定する) について、DMB ストレージ・アドレス (DDIRADDR) の上位バイトがテストされます。この状態ではロード PROCOPT が無効なため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 5 は PCB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、9、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0907I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0908

説明: PSB が、有効な PSB ではありません。

注: 付随する DFS0908I メッセージがない場合、この異常終了は、IMS ではなく別のプロダクトによって発行されたものです。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。IMS PSBGEN を使用して PSB を作成してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS0908I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0909

説明: DBD 名が、有効な DBD ではありません。この異常終了の前に、メッセージ DFS0909I が発行されます。

分析: 0909 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 および DFSDPSB0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 の場合:

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR909 に分岐します。これは、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に DBD をロードします。レジスター 14 は、ERROR909 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0909I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD addr	LOADDBD	DBD がロードされました (TYPESW=X'20')。フィールド
Reg4=DDIR addr		AMODLEV は、バージョン 1 DBD (ビット 1 および 2=X'30')
AMODLEV=X'30'		についてテストされます。DBD が無効な場合は、異常終了が発行されます。

DFSDPSB0 の場合:

このモジュールは、領域パラメーターが UDR または ULU である場合に、DFSDLBL0 によって呼び出されます。パラメーター・リストのアドレスがレジスター 1 に渡されます。

入力レジスター (レジスター 14 からレジスター 12) は、レジスター 13 に X'C' を加えた位置に保管されます。異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。

異常終了 0909 のエラー条件は、このモジュール内で検出されます。ただし異常終了 (SVC 13) は、実際にはモジュール DFSDLBL0 から発行されます。DFSDPSB0 は、異常終了コードをレジスター 15 に入れて DFSDLBL0 に渡し、DFSDLBL0 がラベル SETPSEU で異常終了を発行します。

0910

キー	ラベル	説明
Reg10=DBD 基本 AMODLEV=X'30'	NOLOAD (DFSDLBL0) GETDBD (DFSDPSB0)	このルーチンは、現行レベルの DBD の妥当性検査を行います。バージョン 1 DBD (フィールド AMODLEV のビット 1 および 2=X'30') でない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD を指しています。IMS DBDGEN を使用して DBD を作成してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0、DFSDPSB0

関連情報:

 DFS0909I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0910

説明: PSB の処理中に、内部プログラミング・エラーが発生しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0910I が発行されます。

分析: 0910 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0910I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、PSB 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR910 に分岐します。これは、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。レジスター 14 は、ERROR910 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS910I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐し、そこで異常終了 (SVC 13) が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg5= 代替索引 データベース名 Reg8=PCB アドレス	LOOP01	このルーチンは、DDIR の処理を試みています。これは、この PCB の代替処理シーケンスに必要なものを探しながら、最終に達するまで (Reg5 内の DMB 名と Reg15 内の DDIR を比較しながら) DDIR 全体をループします。一致するものが検出されない場合は、異常終了が発行されます。
Reg5=索引テーブルの開始 Reg5 + X'8'=X'40' または X'20'	LOOPU	このルーチンは、PSB によって参照されるが、PSB 内の PCB または SENSEG からは参照されない、副次索引データベース名を処理します。このルーチンは、すべての項目が処理されたかどうかを確認するために、代替処理シーケンスの索引テーブル項目のビットおよび INDICES オペランドをテストします。これらのビットは、この時点でクリーンアップされていないため、処理されていない場合は異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、エラーを起こした PSB 名を指しています。問題の PSB を処理リストから除去して、プログラムを再実行します。

問題判別: 4, 17d, 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0910I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0911

説明: 示された PSB について、処理オプション意図リストの長さが誤って計算されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0911I が発行されます。

分析: 0911 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0911I が出力されます。

DFSDLBL0 (SUMSPDH) は、セグメント・タイプ別の意図に基づいてエンキュー・リストを作成するために、意図伝搬ルーチン (DFSDLBA0 エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。INTPROP 内では、さまざまなサブルーチンがルーチン SETNT への BAL を実行します。ルーチン SETNT は、渡された PSDB を配置し、それに関連する意図項目を設定します。意図リストが項目を十分収容できる大きさであることを確認するために、比較が行われます。大きさが不十分な場合は、エラーが発生します。

ルーチン INTPROP および SETNT は、その呼び出し元のレジスター (それぞれ、レジスター 14 からレジスター 12、およびレジスター 14 からレジスター 7) をレジスター 13 に X'C' を加えた値に保管します。異常終了 SVRB のレジスター 13 から、これらの保管域セット全体のトレースを行うことで、エラー条件の原因となった制御の流れをトレースすることができます。特定のラベルに分離するために、ラベル ERRORSVE に保管されているレジスター 14 BAL を使用する必要があります。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。ラベル SETNT でエラーが検出された場合は、INTRET8 および INTRET への分岐が行われます。ここで、ハウスキーピングが実行され、レジスター 15 に戻りコード X'08' が設定されます。INTRET が、戻りコードと共に CSECT DFSDLBL0 に戻り、ERROR911 へ分岐します。ERROR911 は、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。レジスター 14 は、ERROR911 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0911I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg4=BAL Reg8=PSDB アドレス Reg9=DDIR アドレス Reg14=BAL	SETINTNT	このラベルに対して BAL を実行する Reg4 が 6 つあります。これらを使用して、設定する意図項目のタイプを判別します。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の限度テーブル 項目のアドレス Reg14=BAL	DLETUP	更新意図は、「D」PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の限度テーブル 項目のアドレス Reg14=BAL	UPISRTB	更新意図は、「I」PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の限度テーブル 項目のアドレス Reg14=BAL	UPISRTE	更新意図は、「I」PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg8=現行の限度テーブル 項目のアドレス Reg14=BAL	UPISRPTR	現行 PSDB の更新意図は、論理親に伝搬されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。

0912

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。これは、内部プログラム・ロジック・エラーです。問題の PSB を除去してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0911I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0912

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) が、DBD 内の SEGM を参照しました。しかし、この SEGM は DBD 内にはありません。PSB、SECM、および DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0912I に示されています。

分析: 0912 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0912I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、PSB、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR912 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR912 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS912I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB アドレス	BLDSDBDA	このルーチンは、参照されるスケルトン SDB と一致する SEG TAB 項目を DBD 内で見つけようとしています。DBD 内に一致するものが見つからない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名をそれぞれ指しています。PSB または DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0912I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0913

説明: 示された DBD に、無効または不明なアクセス方式が含まれています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0913I が発行されます。

分析: 0913 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、初期時点でロード、再ロード、またはスキャンされている DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR913 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR913 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0913I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐し、そこで異常終了 (SVC 13) が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg9=PREFIX 基底、 PREACCES=X'0F'	NOPASS	DDIR によって参照される DBD のロード中に、アクセス方式が X'0F' 以下として定義されているかどうかを確認するための比較が行われます。定義されている値がそれより高い場合、アクセス方式は無効となり、異常終了が発行されます。
Reg1=0	SIGMAIA	有効なアクセス方式について検査する場合、フィールド PREACCES からの文字がレジスター 1 に挿入されます。レジスター 1 がゼロに等しい場合はアクセス方式が指定されていないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、初期ロード、再ロード、またはスキャンされた DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0913I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0914

説明: PSB に含まれている SENSEG ステートメントに対応する SEGM が、DBD 内にありません。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、プログラムは停止します。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかを使用して DBD を新規の DBD コピーに置き換えて、ACBGEN ユーティリティー・プログラムを再実行します。

- BUILD PSB=ALL
- BUILD DBD=dbdname
- BUILD PSB=psbname, DBD=dbdname

問題判別: 11、17a、17b、17d、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0915

説明: 指定された INDEX DBD に、索引フィールド長と異なるシーケンス・フィールド長が指定されています。正しい長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0915I が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 は必要とされる長さを指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS0915I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0916

説明: 指定された DBD には、ルート・セグメントについてのシーケンス・フィールドの指定が必要です。シーケンス・フィールドが指定されなかったか、または非固有として指定されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0916I が発行されます。

分析: 0916 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR916 に分岐します。これが DFSDLBL0 を基底として復元し、ERROR916 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR916 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0916I が発行され、PSTSTAT が 'X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg14=0	ISHISAME	このサブルーチンは、HISAM または索引データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FDB アドレス	ISHISAME	FDB で、HISAM または索引データベースのルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 およびビット 2 が両方ともオンか両方ともオフ (それぞれ非固有ルート・キーであるか、またはシーケンス・フィールドがないことを示す) であるため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISHDORGC	このサブルーチンは、OSAM HDAM または HIDAM データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FDB アドレス	ISHDORGC	FDB で、ルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 および 2 は、シーケンス・フィールドが指定されていないこと、または重複したシーケンス・フィールドが許可されていることを示します。いずれの場合も、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=0	ISVHIBA	このサブルーチンは、共用索引 (VSAM HISAM) データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FDB アドレス、 FDBDCENF=X'40'	ISVHIBA	FDB が探索されました。フィールド FDBDCENF は、シーケンス・フィールドが指定されていないことを示しているため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISVHIBC	このサブルーチンは、VSAM HISAM または索引データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FDB アドレス、 FDBDCENF=X'40' および X'20' DMBORG=X'0F'	ISVHBCA	FDG で、VSAM HISAM または索引データベースのルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF が、シーケンス・フィールドが指定されなかったことを示している場合、異常終了が発行されます。フィールド FDBDCENF が、シーケンス・フィールドが指定されており、重複シーケンス・フィールドが許可されていることを示している、さらに、フィールド DMBORG が VSAM 索引編成を指示していない場合、重複シーケンス・フィールドを使用できるのは VSAM 索引のみであるため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISVHDC	このサブルーチンは、VSAM HIDAM データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FDB アドレス	ISVHDC	FDB が探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 および 2 は、シーケンス・フィールドが指定されていないこと、または重複したシーケンス・フィールドが許可されていることを示しているため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0916I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0917

説明: 最初の DBD が、2 番目の DBD 内にある SEGM を参照しました。しかし、この SEGM は、2 番目の DBD 内にはありません。DBD および SEGM は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0917I に示されています。

分析: 0917 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了

0918

SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、参照された DBD、参照されたセグメント、および参照された DBD を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR917 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR917 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種のサブルーチンへ分岐が行われます。RETURN でメッセージ DFS0917I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5=2 次リスト、 DMBSECDB=DDIR DMBSECNM= セグメント名	EPSILONV	DDIR から 4 を引いた値は、セグメント名を収容している表を指しています。このサブルーチンは、テーブル全体を探索して、論理子セグメント名または論理親セグメント名 (DMBSECNM) をテーブル項目にゼロを足した値と比較します。一致するものが検出されない場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は参照する DBD、レジスター 6 は参照されるセグメント、レジスター 7 は参照される DBD をそれぞれ指しています。一方または両方の DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0917I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0918

説明: 指定された PSB に、指定されたセグメントに関する SENSEG ステートメントが含まれていました。SENSEG ステートメントが、論理子セグメントをセグメント連結の最初の部分として参照していました。論理子の論理親または物理親を示す、連結の 2 番目の部分に、有効な物理親が含まれていません。この異常終了の前に、メッセージ DFS0918I が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名を指し、レジスター 6 は SENSEG 名を指しています。エラーのある PSB または DBD (または両方) を訂正し、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS0918I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0919

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) 内の PCB に、最も長い完全連結キーを保持するには小さすぎる KEYLEN パラメーターが含まれています。正しい長さがメッセージに示されています。 PSB および PCB は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0919 に示されています。

分析: 0919 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、PCB 名、PSB 名、および必要とされる長さを指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR919 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR919 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0919I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
TYPESW=X'08'	SUMSPNAB	SDB キーの長さおよび全セグメントのフィードバック位置が判別されました。フィールド TYPESW は、PCB キーのフィードバックの長さが短すぎることを示す X'08' について検査されます。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PCB 名、レジスター 6 は PSB 名、レジスター 7 は必要とされる長さをそれぞれ指しています。 PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0919I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0920

説明: 指定された PSB には、指定された DBD に対して PROCOPT の L で少なくとも 1 つの参照があり、同じ DBD に対して L 以外の PROCOPT で少なくとも 1 つの別の参照があります。参照は、PCB ステートメント内におけるように直接的な場合と、論理関係または索引関係を介して別の DBD を参照する DBD におけるように間接的な場合があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS0920I が発行されます。

分析: 0920 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR920 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR920 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0920I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
DDIRADDR=X'20' および X'80'	ISHISAM	このルーチンは、HISAM 用の DCB および INDEX タイプの DBD を作成します。ロードおよびスキャン処理オプションを示す X'A0' について、DDIRADDR の高位バイトがテストされます。競合する PROCOPT が指定されている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は DBD 名を指し、レジスター 6 は PSB 名を指しています。PSB または 1 つ以上の DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0920I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0921

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) がロードされました。しかし、検査の結果、この PSB は有効な PSB でないことが判明しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0921I が発行されます。

分析: 0921 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR921 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0921I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=PSB Reg15=0	RETLOAD	このルーチンは、ロードされた PSB が有効かどうかの確認を試行します。PSB 内の索引入出力域アドレスがゼロでない場合、これは実際の DBD であり、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。JCL ステートメントまたは制御ステートメント (または両方) を検査し、エラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0921I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0922

説明: 指定された DBD がロードされました。しかし、検査の結果、この DBD は有効な DBD でないことが判明しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0922I が発行されます。

分析: 0922 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR922 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR922 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0922I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD アドレス Reg15=0	BLDSDBC	このルーチンは、DBD をロードしようとした。ロードは成功しましたが、ロードされた項目は PSB で、DBD ではありませんでした。そのため、異常終了が発行されます。
Reg2=PSB 名アドレス Reg4=PDIR アドレス	RETLOOP	HD アンロード領域、HD 再ロード領域、またはデータベース・リカバリー領域で、DBD 名が提供されませんでした。そのため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。JCL ステートメントまたは制御ステートメント (または両方) を検査し、エラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0922I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0923

説明: 指定された DBD 内の指定された論理子セグメントに、論理親の完全連結キーより短い BYTES 指定があります。最小許容長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0923I が発行されます。

分析: 0923 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 5 は、それぞれ、セグメント名、DBD 名、および最小長を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR923 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR923 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で、各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0923I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0= 負の値、DMBSECSC= 参照される セグメントのセグメント・コード、 DMBSFD= 論理親キーの長さ	EPSILONW	このルーチンは、論理関係を解決しているときに、論理子セグメントのデータ長が、その論理親の連結キーより短いかどうかを確認するためのテストを行います。短い場合は、無効なセグメント長であるため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名、レジスター 5 は最小の長さをそれぞれ指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0923I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0924

説明: 指定された INDEX DBD のルート・セグメントのデータ長が、必要な索引データを保持するには小さすぎます。最小許容長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0924I に、DBD 名が示されています。

分析: 0924 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、DBD 名と最小長を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR924 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR924 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0924I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 索引 DDIR アド レス、Reg7=PSDB、 DMBDL<DDIROPT	EPSILOMO	このルーチンは、索引 DBD を指定して作業を行っているときに、ターゲット・セグメントの連結キーのデータ長と索引セグメントのデータ長を比較します (索引セグメントはシンボルで指示されるため、ターゲットの連結キー全体がこのセグメントに含まれていなければなりません)。索引セグメントの長さが十分でない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 は最小の長さを指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0924I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0925

説明: 指定された論理子セグメントに定義されているシーケンス・フィールドが、論理子内の論理親の連結キー領域内にあり、そのキーが VIRTUAL として指定されていました。キーは、物理兄弟シーケンス・フィールドの一部として使用する場合、PHYSICAL と指定する必要があります。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0925I に、セグメントの名前が示されています。

分析: 0925 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、セグメント名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR925 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR925 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0925II が発行され、PSTSTAT が 'X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0= シーケンス・フィールドの開始 オフセット、Reg0<Reg14 + X'8'	EPSILOAA	このルーチンは、論理関係を解決しているときに、この仮想論理親のキー領域で始まるシーケンス・フィールドを持つ論理子セグメントを検出しました。これはエラーであるため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 7 は DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0925I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0926

説明: 示されている PSB 内の示されている PCB に代替処理シーケンスが指定されていました。示されている副次索引は、指定されている SENSEG では無効です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0926I が発行されます。

分析: 0926 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7 およびレジスター 8 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR926 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR926 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0926I が発行され、

0927

PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg9= ルート・セグメントの 最新 SEC LIST DMBSCDE=X'80' Reg15=BAL	LOOPJ	このルーチンへの BAL は NOTPL12 から実行されます。NOTPL12 が PCB を処理中に、代替処理シーケンスが指定されたことが判明したため、副次索引用の SDB を作成する必要があります。このルーチンは、索引項目を入手するために 2 次リスト (Reg9) を取得します。該当項目が見つからないままリストの終わりに達した場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。
Reg8= ルート・セグメントの 最終 FDB FDBXDFLG=X'80' Reg15=BAL	LOOPR	2 次リスト項目が見つかった場合は、適切なシーケンス・フィールドを取得するために FDB がスキャンされます (Reg8)。適切なフィールドが見つからないまま FDB の終わりに達した場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は SENSEG 名、レジスター 7 は PCB 名、レジスター 8 は PSB 名をそれぞれ指しています。PSB または DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0926I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0927

説明: INDEX DBD が、INDEXED DBD 内の存在しない索引フィールドを指定しました。DBD の名前については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0927I を参照してください。

分析: 0927 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、INDEX DBD 名と INDEXED DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR927 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR927 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0927I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg15=LASTPSDB	INDXLOC	索引フィールドについて、索引付きデータベースの PSDB をスキャン中です。すべての PSDB が処理済みかどうかを確認するため、Reg15 と LASTPSDB が比較されます。処理済みの場合は、索引参照が無効となり、異常終了が発行されます。
Reg1=0 Reg15= ターゲット ト PSDB	EPSILOMM	X'60'/X'64' タイプのリスト項目について、ターゲット PSDB 内の 2 次リスト項目をスキャン中です。X'60'/X'64' タイプのリスト項目が索引 DDIR にチェーニングされていない場合は、索引参照が無効となり、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は INDEX DBD 名を指し、レジスター 7 は INDEXED DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0927I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0928

説明: INDEX DBD は有効なフィールドを指していますが、そのフィールドはシーケンス・フィールドではありません。DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0928I に示されています。

分析: 0928 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、INDEX DBD 名を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 1 は、索引 DDIR を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、Harrower への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、Harrower への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0928I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=FDB アドレス、 FDBDCENF=X'40' または X'10'	EPSCHKF	このルーチンは、索引 2 次リスト項目および FDB を取得しました。これは、シーケンス・フィールドが存在するかどうかを確認するために、X'10' および X'40' のフィールド FDBDCENF をテストします。存在しない場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は INDEX DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0928I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0929

説明: 指定されたメンバーのディレクトリー項目リストを構成するために、BLDL マクロ呼び出しが発行されました。このメンバーは DBD または PSB ライブラリーで検出されませんでした。この異常終了の前に、メッセージ DFS0929I が発行されます。

0929

分析: 0929 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、メンバー名を指しています。

この異常終了は、IMS カタログが IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで使用可能になっている場合、または IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) が機能コード 1 に組み込まれている場合にも発行されます。いずれの場合も、カタログ・メンバー (DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000) のすべてが正しいライブラリーに含まれていることを確認してください。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR929 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR929 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0929I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=PSB 名 Reg15=0	MODLOAD	これは特殊な領域要求ではないため、渡された PSB をロードする必要があります。このルーチンは、PSB 名を BLDL リストに移動し、メンバーを見つけるために BLDL を発行します。メンバー PSB 名がライブラリーにない場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=PSB 名 PDSAV<X'B' Reg15=0	MODLODA	このルーチンは、PSB をロードしようとしているときに、バインド・プログラムが PSB を作成していなかったことを判別しました。そのため、異常終了が発行されます。
Reg4=DDIR Reg4 + X'8'=DBD name Reg15=0	MODLOAD	DDIR によって参照される DBD をロードする必要があります。このルーチンは、DBD 名を BLDL リストに移動し、メンバーを見つけるために BLDL を発行します。メンバー DBD 名がライブラリーにない場合は、異常終了が発行されます。
Reg4 + X'8'=DBD name PDSAV<X'B' Reg15=0	MODLODA	このルーチンは、DBD をロードしようとしているときに、バインド・プログラムが DBD を作成していなかったことを判別しました。そのため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はメンバー名を指しています。該当のライブラリーのエラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

この異常終了の原因が IMS カタログ・メンバーの欠落にある場合は、DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000 について適切な PSB 生成ユーティリティーまたは DBD 生成ユーティリティーを再実行してください。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0929I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0930

説明: DBD に含まれている LCHILD ステートメントが、指定された SEGM を PAIR= オペランドで参照していました。しかし、その SEGM は見つからなかったか、またはその SEGM は仮想セグメントであり、そのソース・セグメントに PTR=PAIRED オペランドが含まれていました。DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0930I に示されています。

分析: 0930 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、DBD 名とセグメント名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR930 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR930 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0930I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD Reg5= SEC LIST の アドレス DMBSCDE=X'01' および X'10' Reg8=第 1 LCHILD の オフセット	EPSILOXE	論理子セグメントには、対セグメントへの変位が入っています。2 次リストが作成され、対の論理子の物理対へのパスを示すために、論理親セグメントが記述されています。レジスター 15 に対セグメントへのオフセットが入っていなかったため、終わりに達するまで、LCHILD dsect の検索 (Reg14 と Reg8 の比較) が行われます。対セグメントを検出できなかった場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=SDB アドレス SDBTFLG=X'10'	BLDSDBSR	このルーチンは、指定されたセグメントにソース項目があり、これが論理 DBD でないことを判別しました。SDBTFLG=X'10' は、SDB が物理対用であることを示しています。物理対を仮想セグメントにすることはできないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 はセグメント名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0930I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0931

説明: INDEXED DBD が、指定された INDEX DBD と索引関係にありました。INDEX DBD はその INDEXED DBD に対して同様の関係にないか、または指定された PSB で参照されるほかの DBD もその INDEX DBD と索引関係にあります。DBD の名前については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0931I を参照してください。

分析: 0931 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 5 は、それぞれ、PSB 名、INDEXED DBD 名、および INDEX DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR931 への分岐

が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR931 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS931I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=索引フィールドの FDB Reg5= タイプ X'44' の 2 次リスト Reg10=DBD Reg15= 索引接頭部のサイズ DMBXPSDB= 関連した索引 PSDB	EPSILOMN	タイプ X'44' の 2 次リストの作成中に、索引付きセグメントは、シンボリック・ポインティングが索引ポインターの検査を行っていなかったことを示しました。DBD 内の索引接頭部のサイズが 2 以下です。これは、それがシンボリック・ポインティングであって、FDB の情報に一致しなかったことを示しています。異常終了が発行されます。
Reg5=タイプ X'60' の 2 次リスト SAVE0= 索引 PSDB	EPSILOME	タイプ X'60' の 2 次リストは、ターゲット PSDB を指しています。そのターゲット PSDB が、索引 PSDB にチェーニングされた 2 次リスト項目で指示されたターゲット PSDB と異なっています。この索引関係は無効で、異常終了が発行されます。
Reg1= 索引値 Reg13+12= 索引テーブル項目	INDXLOOP	索引テーブル項目は、処理される 2 次リストのタイプを示しています。この項目は無効で、異常終了が発行されます。有効な項目値は、0、4、8、および 12 です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名、レジスター 7 は INDEX DBD 名、レジスター 5 は INDEXED DBD 名をそれぞれ指しています。該当する PSB または DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0931I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0932

説明: INDEX DBD には、索引セグメント用に定義されたシーケンス・フィールドがありません。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0932I に、DBD が示されています。

分析: 0932 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR932 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR932 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0932I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
FDBDCENF=X'10' FDBDCENF=X'80' Reg1= 索引 PSDB Reg5= 索引 2 次リスト	FDBNXT	このルーチンが、索引 2 次リスト項目および FDB を見つけました。ルーチンは、X'10' のフィールド FDBDCENF をテストして、項目がシーケンス・フィールド内にあるかどうかを確認します。ない場合、最終 FDB であるかどうかを確認するために、FDBDCENFの X'80' がテストされます。最終項目である場合、シーケンス・フィールドが指定されていないために、異常終了が発行されます。
Reg5=タイプ X'60' の 2 次リスト 項目 Reg15=索引キーの FDB	SETNDXB	タイプ X'60' の 2 次リスト項目の処理中に、索引フィールドでキーを検出することができず、異常終了が発行されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0932I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0933

説明: PSB に、無効な INDICES オペランドが含まれていました。INDICES オペランドで指定された値が、関連する SENSEG ステートメントの有効な索引名ではありませんでした。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0933I に、PSB が示されています。

分析: 0933 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、索引データベースの PSB 名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR933 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR933 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS932I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7= 索引付き PSDB	RELOCJA	INDICES= を使用して参照される索引の索引テーブル項目が検出されました。参照している SENSEG の PSDB アドレスが対応する SEGTAB 項目から取得されましたが、索引付き PSDB に一致しませんでした。
Reg4=X'04' FDBDCENF=X'80' Reg6=FDB Reg6=SDB Reg8=FDB	RELOGC	索引付き PSDB からの FDB がレジスター 8 にロードされます。FDB は、代替シーケンス・フィールド (FDBXDFLG=X'10') についてスキャンされます。これが最終 FDB であるかどうかを確認するために、テストが行われます。FDBDCENF=X'80' (最終 FDB) が、PSB 上に無効な INDICES オペランドが存在していることを示しており、異常終了が発行されます。

0934 • 0935

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 7 は INDICES=value を指しています。エラーのある PSB または DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0933I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0934

説明: PSB が、指定された DBD の指定された論理子 SEGM を参照しました。論理子には、物理的に保管される論理親の連結キーが必要ですが、VIRTUAL が指定されていたか、または指定された DBD 内で LP セグメントを見つけることができませんでした。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0934I に、PSB が示されています。

分析: 0934 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 7 は、それぞれ、PSB 名と DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR934 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR934 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0934I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB SDBTFLG=X'20'、 SDBORGN=X'08'、 Reg15= 論理親 SDB	SUMSPNA	このルーチンは、セグメントの論理親を検査します。論理親は、HISAM データベースに入っています。論理親の連結キーは、物理的に保管されません。編成は HISAM であるため、これはエラーで、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名をそれぞれ指しています。該当する DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0934I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0935

説明: 指定された PSB が、SENSEG ステートメントを介して、指定された DBD を参照しています。しかし、このセグメント定義内の論理構造または論理関係が無効です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0935I が発行されます。

分析: 0935 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

556 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7、レジスター 6、およびレジスター 5 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR935 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR935 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0935I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB SDBPOSN+1=X'01', SDBLEVEL=X'01'	CHKVIRRT	このルーチンは、現行の SDB の親子関係を判別し、論理構造を検証します。現行の SDB は論理子で、ルート・セグメントです。この構造は無効であり、異常終了が発行されます。
Reg1=DMB SECLIST、 Reg6=SDB、 DMBSECDB≠= SDBDDIR	SETPRNTB	このルーチンは、論理親の 2 次リスト項目を検査します。このルーチンが、X'02' タイプの 2 次リストを検出することができなかったため、異常終了が発行されます。
Reg6=SDB、 SDBLEVEL=X'01', SDBPHYCD≠=X'01', SDBF4≠=X'40'	PSRNTSTQ	レジスター 6 にある SDB の SDB 親子関係を調べています。セグメントの論理レベルはルートですが、これは物理ルートではなく、また代替処理シーケンスがありません。PCB がルート・セグメント定義で始まっていないため、異常終了が発行されます。
Reg1= 親 SDB Reg6=SDB	PARNTSTC	このルーチンは、親 SDB (Reg1) と、そのターゲット SDB を見つけます。ルーチンは、現行の SDB および親のターゲット SDB が同一のデータベースにあることを判別し、ターゲットの PSDB (Reg14) を取得します。セグメント・コードの比較によって、SDB および親のターゲット SDB が同一のセグメントを記述しているということが判明しました。これは無効な構造で、異常終了が発行されます。
Reg1= 親 SDB、 SDBTFLG≠=X'80', Reg6=SDB	PARNTSTI	このルーチンに入るのは、親 SDB が論理親を持っていないか、反転構造を持っているか、または、そのターゲットが現行の SDB (Reg6) として同一のデータベースにないためです。親 SDB の PSDB が獲得されます。現行 SDB (Reg6) は、親 SDB (REG1) の物理親です。構造の反転を示す指示はありません。これは無効な構造で、異常終了が発行されます。
DMBSCDE=X'80'	SUMPSPCD	現行セグメントは論理子です。この 2 次リストが、論理親についてスキャンされます。これが最後の SEC LIST 項目であるかどうかを確認するために、テストが行われます。最後の項目である場合、無効な構造が存在し、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 7 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 5 は DBD 名をそれぞれ指しています。指定された DBD、または PSB によって参照される論理 DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0935I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0936

説明: SEGM が、名前付き PSB 内で PROCOPT に L または LS を使用して参照されました。しかし、SEGM は仮想セグメントであり、そのためロードできません。SEGM の識別については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0936I を参照してください。

分析: 0936 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、無効なセグメントの名前と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR936 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR936 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS936I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB SDBTFLG=X'08' SDBF3=X'01' Reg10=SEGTAB DBDSSOFF=X'FF'	NOTER930	このルーチンは、セグメントがソース項目を持っており、物理 DBD 内にある (そのため仮想セグメントとなっている) こと、および呼び出しのセンシティブティー (SDBF3) が LOAD 用であることを判別しました。仮想セグメントをロードすることはできないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は無効なセグメントの名前を指し、レジスター 6 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0937

説明: 指定された DBD が、指定されたセグメントを仮想セグメントとして指定しました。SEGM ステートメントの SOURCE パラメーターに、複数のオペランドが含まれています。おそらく、SOURCE オペランドの一对の括弧が欠落していることが原因です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0937I が発行されます。

分析: 0937 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR937 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR937 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0937I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0=0	DDIRADRC=X'02' BLDSDBEB	このルーチンは、仮想セグメントのソースが複数の項目を持つ物理データベースに存在していることを判別しました (レジスター 0= ソース・セグメント数)。仮想セグメントは 1 つのソースしか持つことができないため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: SOURCE オペランドの括弧の対の欠落

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 5 は DBD 名を指しています。DBD ソース・セグメントを訂正してから、DBDGEN を再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0937I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0938

説明: 指定された PSB 内のデータベース PCB には、PSBGEN 時に SENSEG ステートメントが定義されていませんでした。PSBGEN は無効でした。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0945I に、PCB が示されています。

分析: 0938 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR938 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR938 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS945I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=0、Reg8=PCB アドレス	SGNOTPLI	SENSEG の数を数えて、この PSB に必要な SDB の数を計算するために、PCB をスキャンしています。このルーチンが SENSEG を持たない PCB を検出したため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名を指し、レジスター 6 は PCB 名を指しています。PSB ソース・ステートメントを訂正してから、PSBGEN を再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0945I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0939

説明: INDEX DBD に含まれている INDEX= オペランドで、先頭の 3 文字が /CK であるフィールド名が指定されていました。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0946I に、DBD が示されています。

分析: 0939 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0946I および DFS0939I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR939 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR939 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0946I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=FDB アドレス、 FDBSYSNM=C'/'、 FDBDCENF=X'10'、 Reg14= 索引付き SEC LIST のアドレス	EPSILOMK	索引 2 次リスト項目および FDB が獲得されました。この FDB は、特殊な FDB (システム関連または索引付きの) です。FDBSYSNM は、システム関連フィールドを示す C'/' について検査されます。該当フィールドが存在していれば、無効な索引であるため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0939I

 DFS0946I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0941

説明: DBD 内のセグメントが、物理対の論理子であり、しかも可変長でした。対の相手は固定長でした。物理対セグメントは、同じ長さ属性を持っていなければなりません。

分析: 0941 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS0948I に、セグメントおよび DBD が示されています。

異常終了 SVRB のレジスターおよび DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されたレジスターを、問題診断に使用できます。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、セグメント名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR941 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。異常終了コードは、レジスター 1 にロードされます。レジスター 14 は、ERROR941 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS948I が発行され、PSTSTAT が X'16' の戻りコードに設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

上記の唯一の例外は、最初のインスタンス (ラベル UPISRTK) の場合です。この場合、DFSDLBL0 (SUMSPDX)

は、セグメント・タイプによる意図に基づいてエンキュー・リストを作成するために、意図伝搬ルーチン (DFSDLBA0 エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。セグメントの更新意図が設定され、その論理親および物理対に伝搬されます。論理親の PSDB を処理した後で、物理対が確実に同一の長さ属性を持つようにするため、テストが行われます。同一の長さでない場合、エラーが発生し、INTRET12 および INTRET への分岐が行われます。ここで、ハウスキーピングが実行され、レジスター 15 に戻りコード X'0C' が設定されます。INTRET は、戻りコードと共に DFSDLBL0 に戻ります。そこで ERROR941 への分岐が行われ、前に述べた制御が続行されます。

ルーチン INTPROP は、その呼び出し元のレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) をレジスター 13 に X'C' を加えた位置に保管します。

キー	ラベル	説明
Reg8= セグメントの PSDB アドレス UPISRTK DMBVLDG=X'C' Reg15= 物理対の PSDB アドレス DMBVLDG=X'C'	UPISRTK	セグメントの論理親 PSDB が処理されました。セグメントの物理対が存在していることが判別しました。物理対の 2 次リストが探索されます。セグメントに圧縮ルーチンがあるか、またはセグメントに変長 (DMBVLDG=X'C') が含まれているかどうかを確認するために、テストが行われます。含まれている場合、物理対の PSDB が取得され、この PSDB に圧縮ルーチンまたは変長 (DMBVLDG=X'C') があるかどうかを確認するテストが行われます。物理対にこれらの属性のいずれかが無いと、異常終了が発行されます。
Reg3=PSDB アドレス Reg15= 物理対の PSDB アドレス DMBVLDG=X'04'	CLRDIR6	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。このルーチンが、変長論理子であるセグメントを検出しました。ただし、これには、変長でない物理対があったため、異常終了が発行されます。
Reg3=PSDB アドレス Reg15= 物理対の PSDB アドレス DMBVLDG=X'04'	CLRDIRA	このルーチンが、変長論理子でないセグメントを検出しました。ただし、これには、変長でない物理対があったため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 7 は DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0948I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0942

説明: INDEX DBD に含まれている LCHILD ステートメントに、この索引データベースと同じデータベース名の索引付きデータベースが含まれていました。

分析: 0942 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS0949II に、DBD が示されています。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR942 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR942 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0949I が発行され、PSTSTAT が X'16' の戻りコードに設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

0943

キー	ラベル	説明
Reg1=DBD の DDIR 参照 DDIRADDR=X'04' Reg1+X'8'=Reg4 +X'8' Reg4= 索引 DBD DDIR アドレス NTNDXB Reg15= データベース ref 表アドレス	NTNDXB	ロードされた索引 DBD が、参照された DBD についてスキャンされ、新規の DDIR が処理用にチェーンングされます。索引 DBD が確実にそれ自体を参照しないようにするために、参照された DBD の DDIR を処理する前に、ロードされた索引 DBD の名前が、参照された DBD の名前と比較されます。自己参照がある場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0949I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0943

説明: 無効な論理関係が検出されました。次のいずれかの条件が検出されました。

- 論理子が、指定されたデータベース内の指定されたセグメントを参照しているが、指定された論理親には LCHILD ステートメントがない。
- 論理親が、指定されたデータベース内の論理子セグメントを参照しているが、論理子には論理親への参照がない。
- 論理 DBD には、指定されたセグメントへの参照が SOURCE= オペランドになく、このオペランドではその対応する論理子または論理親を参照しています。

分析: 0943 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0950I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7 およびレジスター 8 は、それぞれ、DBD 名と参照されるセグメント名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR943 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR943 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0950I が発行され、PSTSTAT が戻りコード X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=reg データベースの DDIR アドレス、 OR DMBSCs=ref セグメントの セグメント・コード Reg8=SEC LIST 項目アドレス Reg15=DMB	CLRDDIR3	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。セグメントは、論理子または論理親のいずれかで、その関連の 2 次リストが獲得されました。セグメントの DDIR と関連の SEC LIST 項目の DDIR が比較されます。それらが同等の場合は、セグメント・コードが比較されます。それらが同等でなく、また、リストの終わりに達した場合、エラーが発生します。セグメント・コードが同等でなく、SEC LIST の終わりに達した場合も、エラーが発生します。いずれの状態の場合も、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 7 は DBD 名を指し、レジスター 8 は参照されたセグメント名を指しています。DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0950I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0944

説明: メッセージ ID が、メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) 内で見つかりません。

分析: 0944 は、モジュール DFSUMSG0 または DFSDMSG0 のいずれかから発行される標準異常終了です。メッセージ番号が指定されている場合、モジュールは、メッセージ・リストからメッセージを選択し、DFSUMSG0 の場合は SYSPRINT データ・セット、DFSDMSG0 の場合は WTO を使用する JCL データ・セットに、そのメッセージを送信します。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内のラベル TBLEND を指しています。

レジスター 13 で指示される保管域のレジスター 1 には、UERR マクロでセットアップされたパラメーター・リストへのポインターが入っています。パラメーター・リストのフォーマットは以下のとおりです。

ハーフワード

2 進数のメッセージ ID

ハーフワード

H'0' は、メッセージに何も挿入しないことを示します。

H'-1' は、指定した挿入アドレス (ある場合) を挿入することを示します。

レジスター 4 には、レジスター 9 で指示される ID テーブル項目からのメッセージ ID が入っています。レジスター 9 がテーブルの終わりを指している場合、これには X'FFFF' が入ります。

キー	ラベル	説明
Reg2=パラメーター からのメッセージ ID リスト	TESTID	パラメーター・リストの ID の ID テーブルを検索する場合は、レジスター 9 がテーブルの中の連続項目を指し、レジスター 4 にはテーブルから (レジスター 9 から) ID がロードされます。レジスター 4 は、最後のテーブル項目かどうかをテストするために、X'FFFF' と比較されます。これがテーブルの最後 (レジスター 4=X'FFFF') である場合は、UERR パラメーター・リストで渡されるメッセージ ID がテーブル内で検出されなかったために、異常終了が発行されます。
Reg3= パラメーター・ リストからの 第 2 ハーフワード		
Reg4=X'FFFF'		

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) に対して、無効な修正が行われなかったかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、8、9、12、13、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDMSG0、DFSUMSG0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0945

説明: メッセージ・フォーマッターは挿入を渡されると予想していましたが、UERR マクロを介して何も渡されなかったか、または、誤った数のパラメーターが、メッセージ・フォーマッター (モジュール DFSUMSG0) に渡されました。

分析: 0945 は、モジュール DFSUMSG0 または DFSDMSG0 のいずれかから発行される標準異常終了です。メッセージ番号が指定されている場合、モジュールは、メッセージ・リストからメッセージを選択し、DFSUMSG0 の場合は SYSPRINT データ・セット、DFSDMSG0 の場合は WTO を使用する JCL データ・セットに、そのメッセージを送信します。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内のラベル TBLEND を指しています。

レジスター 13 で指示される保管域のレジスター 1 には、UERR マクロでセットアップされたパラメーター・リストへのポインターが入っています。パラメーター・リストのフォーマットは以下のとおりです。

ハーフワード

2 進数のメッセージ ID

ハーフワード

H'0' は、メッセージに何も挿入しないことを示します。

H'-1' は、指定した挿入アドレス (ある場合) を挿入することを示します。

キー	ラベル	説明
Reg2=UERR パラメーター・リストからのメッセージ ID Reg3=UERR パラメーター・リスト (=F'O') からの挿入標識 Reg7=メッセージ・バッファ内のテキスト・テーブル項目のアドレス Reg7 + 0 = X'FF'	IDEQU	UERR パラメーター・リストからの要求メッセージ ID (レジスター 2 内の) が、メッセージ ID テーブルで検出されました。対応するメッセージ・テキスト・テーブル項目がメッセージ・バッファに移動され、レジスター 7 で指示されます。レジスター 7 + 0 は、挿入タイプ・メッセージを示す X'FF' であり、挿入変数が UERR 呼び出しで指定されたかどうかを確認するために、レジスター 3 がテストされます。指定されていない場合 (レジスター 3=X'FFFF'), 挿入が少なくとも 1 つは予期されていたが、UERR マクロ命令にコーディングされていなかったことを示す異常終了が発行されます。
Reg1= ERR パラメーター・リストからのメッセージ ID Reg3= テキスト・テーブル項目 (X'FF') に挿入するテキストのフォーマット・バイト Reg7=メッセージ・バッファ内のテキスト・テーブル項目のアドレス Reg1 + 0 = X'FFFF'	GETMSG	レジスター 7 で指示されるメッセージ・テキストに、少なくとも 1 つの挿入変数が移動されました。レジスター 3 は、フォーマット・リストの終わりではなく、次の挿入変数のオフセットを指しています。これは、レジスター 3 + 0 が X'FF' と同等でないためです。UERR マクロ命令で別の挿入変数が指定されたかどうかを確認するために、レジスター 1 + 0 が X'FFFF' と比較されます。指定されていない場合 (レジスター 1 + 0 = X'FFFF'), UERR 呼び出しで指定された挿入変数が少なすぎることを示す異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) に対して、無効なプログラム修正が行われなかったかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、9、12、13、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDMSG0、DFSUMSG0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0947

説明: 無効な 2 次リスト・コードが、データ管理ブロックで見つかりました。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析: 0947 は、モジュール DFSUAMB0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0570I およびメッセージ DFS0951I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了は、ラベル INVSEC の異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベルを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5= 処理中の DDIR 項目 Reg6=DMB Reg7=PSDB Reg8= 無効なコード Reg10=PST DMBSCDE≠CODETAB	NXSECL	このセクションのコードは、DMB アドレスを DMB の先頭からのオフセットに再配置します。2 次リストが取得されます。コードをブランチ・テーブル索引に変更するために、DMB コード・バイト (DMBSCDE) に対して TRANSLATE AND TEST 命令を実行します。無効なコードがある場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 8 は無効なコード、レジスター 5 は処理中の DDIR 項目、レジスター 7 は処理中の PSB をそれぞれ指しています。

問題判別: 1、2、3、4、9、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUAMB0

関連情報:

 DFS0951I

 DFS0570I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0948

説明: SYSPRINT データ・セットで、永続入出力エラーが発生しました。

分析: 0948 は、SYSPRINT データ・セットへの PUT の実行中に入出力エラーが発生したためにモジュール DFSUACB0 から発行される異常終了で、IOS によって SYNAD 出口ルーチン IOERRORQ 経由で呼び出されます。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 14 BAL (分岐リンク) を使用して、どのラベルから PUT が発行されたかを判別することができます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、IOERRORQ 内にある異常終了ルーチン (ABEND2) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=SYSPRINT DCB Reg14=BAL	PM0	ルーチン GETT が、メッセージ印刷ルーチン (PRTMSG) への BAL を実行しました。ページ・ヘッダーを印刷するために、SYSPRINT データ・セットに対する PUT が発行されました。
Reg2=SYSPRINT DCB Reg14=BAL	PM11	ルーチン GETT が、メッセージ印刷ルーチン (PRTMSG) への BAL を実行しました。要求された行を印刷するために、SYSPRINT データ・セットに対する PUT が発行されました。

0949 • 0950

重要: DFSUMSG0 (ACBGEN エラー・メッセージ・フォーマッター) は、エラー・メッセージを印刷する PRTMSG ルーチンも呼び出します。

考えられる原因: ハードウェア・エラー。LOGREC を調べて、エラーの原因となった装置およびエラーの理由を判別してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: LOGREC を調べて原因を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、9、23、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0949

説明: SYSPRINT データ・セットをオープンできませんでした。

分析: 0949 は、モジュール DFSUACB0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABEND にある共通異常終了ルーチンを指しています。

エラーが検出された最初のインスタンス (ラベル CMPR3) では、SYSPRINT DCB は、インライン・コードです。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS= X'10'	CMPR3	IEBCOPY へのリンクによって、ACBLIB でインプレース圧縮を実行中です。SYSPRINT DCB が再オープンされます。DCB がオープンされない場合は、異常終了が発行されます。
Reg4=DCB DCBOFLGS= X'10'	OPENERR	このルーチンは、開かれなかった DCB ごとにエラー・メッセージを書き込みます。DCB が開かれない場合は、DCB が SYSPRINT 用かどうかを確認するために、比較が行われます。この用途の場合、エラー・メッセージを書き込むことができないため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: JCL 内の無効な SYSPRINT DD ステートメント

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: SYSPRINT 用に有効な DD ステートメントが JCL に含まれているかどうかを確認し、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、9、23、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0950

説明: 作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEH0) が、制御データ・セットを読み取ろうとしました。データ・セットが正常に開けませんでした。あるいは、開けた場合に、データがなかったか、エラー・データが含まれていたか、データの全ブロックを読み取れなかったか、いずれかです。

分析: この異常終了は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラ

ム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスター 14 BAL を使用して、エラーが検出されたラベルを判別する必要があります。

制御データ・セットの DCB は、インライン・コード (CSDSCB) です。CSDSCB に X'30' を加えたものに、DCB オープン・エラー・フラグ (DCBOFLGS) が入っています。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS=X'10'	TEST #@LB18	このルーチンは、制御データ・セット内での読み取りの準備として、CDS DCB に対する OPEN を発行します。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされます。エラーがある場合は、異常終了が発行されます。
Reg3= 読み取り領域 アドレス Reg14=BAL DCBOFLGS=X'10'	TEST #@LB20	データの新規ブロックが読み取られ、元のブロックが解放されました。CDS DCB が閉じられ、入力用に再度 CDS DCB に対して OPEN が発行されました。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされます。エラーがある場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=blockcount (読み取られる ブロック数) Reg3= 読み取られる 次のブロック Reg14=BAL (ブロック単位で読み取る ための GET ルーチン)	CDSEOF (#@LB22) #@LB30	すべてのブロックが読み取られたかどうかを確認するために、レジスター 2 がテストされます。レジスター 2 がゼロでない場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=0 Reg3=CDSHD (CDS 読み取り 領域ポインター) Reg14=BAL	CDSEOF	レジスター 3 に、CDS の最初のブロックを指すポインターがロードされます。すべてのブロックが読み取られた (レジスター 2=0) が、レジスター 3=X'00' の場合は、CDS が空であるため異常終了が発行されます。
Reg3=CDSHD (CDS 読み取り 領域ポインター) Reg3=X'04'C "control data set" Reg14=BAL	CDSEOF (#@LB22) #@LB34	データの最初のブロックが読み取られました。control data set 内の文字について検査が行われます。文字が存在しない場合は、CDS は無効となり、異常終了が発行されます。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 制御データ・セットは、DFSURCDS という名前の DD ステートメントで指定する必要があります。また、制御データ・セットは、データベース事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO) を使用して生成する必要があります。

問題判別: 1、2、3、4、17d、18、19、および DFSURCDS データ・セットの印刷出力

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSEH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 21 章 IMS 異常終了コード 0951 - 1000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0951

説明: 作業データ・セット生成ユーティリティ (DFSDSEH0) が動的限度検査を実行していましたが、限度検査が失敗しました。データベースの再編成の前に、限度検査障害が発生したセグメントを示す診断メッセージが発行されます。

分析: 0951 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用することができます。

レジスター 11 に、DCB のアドレスが入っています。DCB に X'52' を加えたものが、論理レコード長 (LRECL) です。レジスター 15 には、最大ソート・レコード長 (X'C8') が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=レコードの CK の長さ	GS #@LB185	検査中のレコードの連結キー (レジスター 4) が、レジスター 15 の最大レコード長と比較されます。レジスター 4 の値がレジスター 15 の値を超えている場合は、限度検査障害が発生し、異常終了が発行されます。

システムの処置: ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: データベース事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO) の実行中に、限度検査障害が発生したセグメントを示す診断メッセージが提供されています。これらのメッセージを使用して、適切なアクションを取ってください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSEH0

0952

説明: 作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEH0) が、作業データ・セットを開こうとしましたが、失敗しました。作業データ・セットは、DFSURWF1 という名前の DD ステートメントで指定する必要があります。

分析: 0952 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 11 には、DFSURWF1 作業ファイル DCB のアドレスが入っています。オープン・エラー・フラグ (DCBOFLGS) は、レジスター 11 に X'30' を加えた位置にあります。異常終了時のその他のレジスター: レジスター 10=PST、レジスター 9=PCB、レジスター 7=SDB、レジスター 6=PSDB。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS=X'10'	RNDX	作業ファイル・データ・セットが開かれないため、OPEN が発行されます。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされます。DFSURWF1 の DCB を開けない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 初期データベース・ロード時、データベース再ロード時、およびデータベース・スキャン時に、影響を受けるデータベースに論理関係にあるセグメントを含んでいる場合、この DD ステートメントが常に必要です。

0953 • 0955

問題判別: 4、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSEH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0953

説明: 作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEH0) が、論理関係にあるセグメントに対応する DL/I 制御ブロックを探そうとしました。DL/I 制御ブロックが見つかりませんでした。

分析: 0953 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 7 に SDB のアドレスが入っています。レジスター 3 に DMBSEC (DMB 2 次リスト) のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=DMBSEC DMBSND=X'01'	#@LB80	DFSDSEH0 は、論理子セグメントについて記述してある DMB 2 次リストを検索します。これは、最後のリストがチェックされるまで (DMBSND 内のバイト 1 のビット 0 まで) ループします。これが終点に達したため、ルーチンが DL/I 制御ブロックが検出できなかつたと判定し、異常終了が発行されます。

考えられる原因: DBDGEN エラー。初期ロード、再ロード、またはスキャンするデータベースについて、有効な DBD が使用可能かどうかを調べます。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 初期ロード、再ロード、またはスキャンするデータベースについて、有効な DBD が使用可能かどうかを調べます。

問題判別: 1、2、3、4、17d、および 20。DFSURWF1 データ・セットの印刷出力、および DFSURCDS の印刷出力

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSEH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0955

説明: この異常終了コードは、SYSIN 入力ストリームに異常終了制御ステートメントが指定されたときに、モジュール DFSURGP0、DFSURGS0、および DFSURG10 によって発行されます。

分析: この異常終了は、モジュール DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、または DFSURPR0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: この異常終了は、プログラム実行の終了時に発行されます。

オペレーターの応答: 異常終了ステートメントが入力側に提供された理由を判別し、適切なアクションを取ってください。

問題判別: 1、2、3、4、17d、および 20。DFSURWF1 の印刷出力または DFSURWF3 の印刷出力 (あるいは両方)

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0956

説明: 作業データ・セット生成プログラムは、論理関係を構築する作業テープを作成するために、HDAM 初期ロード、再ロード、またはスキャンによって呼び出されます。論理関係の解決を試みているときに、ゼロバイトの長さの連結キーを持つ論理親セグメントを検出しました。

分析: 0956 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 9 に PCB のアドレスが入っています。DBPCB は、論理親の連結キーの長さを計算するために使用されません。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBPCBLKY	LPLC	このルーチンは、論理親の連結キーを、関係を解決するために使用する必要があるかどうかを判別します。レジスター 2 が、論理親の連結キーの長さについてテストされます。レジスター 2=0 の場合は、異常終了が発行されます。
Reg4=CENT	#@LB62	
Reg8=PSDB		
Reg9=PCB		
Reg10=PST		

考えられる原因:: DBDGEN のエラーです。論理子セグメントがルート・セグメントとして定義されていたか、またはシーケンス・フィールドがルート・セグメント上に定義されていませんでした。これを指定するには、NAME=(xx, seq, u) の代わりに NAME=xx を指定する必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: フィールド定義を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDSEH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0957

説明: セグメントは物理対になっています。2 つの交差データ長が等しくないか (固定長セグメントの場合)、または 2 つの対セグメントについて最大交差データ長が等しくありません。メッセージ DFS0951I は、セグメントを識別しません。

分析: 0957 は、複数の CSECT モジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴い、メッセージ DFS951I が発行されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB レジスターでは、レジスター 6 は参照されるセグメント名を指しています。レジスター 2 およびレジスター 4 には、計算後の 2 つのデータ長が入っています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERR957 に分岐します。これが、DFSDLBL0 を基本として復元し、ERROR957 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0951I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2= 物理対のデータ長 Reg3= 物理対の PSDB Reg4= セグメントのデータ長 Reg15= セグメントの DMB	CLRDDIR6	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。参照されるセグメントのデータ長は、レジスター 4 にロードされます。セグメントには物理対があり、そのデータ長はレジスター 2 にロードされます。対セグメントのデータ長は等しくなければならないため、2 つのレジスターの比較結果が等しくない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、参照されたセグメント名を指しています。レジスター 2 およびレジスター 4 には、計算後の 2 つのデータ長が入っています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



DFS0951I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0958

説明: PSB が、1 次索引 DBD を参照できません。この異常終了に伴うメッセージ DFS0952I が、DBD を特定しました。

分析: 0958 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR958 に分岐します。そこで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS952I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=SEC LIST アドレス DMBXDFLGSVRB を 問題診断 X'10' に使用する必要 があります。 Reg6=SDB アドレス Reg7=PSDB	SUMSPAC	PCB を処理中です。データベースは索引 1 です。「G」以外のすべての PROCOPT について、フィールド SDBF3 がテストされます。更新が指定されているため、データベースが副次索引であるかどうかを確認するためのテストが行われます。副次索引でない場合は、エラーが発生します。1 次 HIDAM 索引で使用できるのは読み取り処理オプションのみであるため、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 1 次索引が処理されないように PSB を変更してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 3、4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0952I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0959

説明: メッセージ DFS0953I で示されるデータベースの論理子の SEGM ステートメントにエラーがあります。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインタを指定することはできません。PTR=LP は不適切な指定であり、PTR= のみを指定する必要があります。

分析: 0959 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR959 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0953I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=PSDB アドレス DMBPTR=X'02' DMBLORG=X'04' Reg8=SEC LIST 項目 Reg10=SEC LIST 項目	CLRDDIR4	論理関係の妥当性検査を実行中です。論理子セグメントの 2 次リストが取得されました。このセグメントには論理親ポインタがあります。論理親は、HISAM に入っています。HISAM では直接ポインタは使用できないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: 論理子の SEGM ステートメントを訂正して、LP 指定を除去します。代わりに、PTR= のみを指定して、DBD を再アセンブルします。ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0953I
0960

説明: メッセージ DFS0954I で示されるデータベースの LCHILD ステートメントにエラーがあります。PTR=SNGL と PTR=DBLE のいずれかを指定しています。これはどちらを指定しても誤りです。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインタを指定することはできません。

分析: 0960 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS954I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR960 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS954I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

0961

キー	ラベル	説明
Reg3=PSDB アドレス DMBSLCFLSVRB を問題 diagnosis0 に使用 する必要があります。 DMBLORG=X'04' Reg15=DMB アドレス	CLRDDIRC	論理関係の妥当性検査を実行中です。論理子ステートメントには、論理子順方向ポインターが指定されています。論理子セグメントは、HISAM データベースに入っています。HISAM では直接ポインターは使用できないため、異常終了が発行されます。

システムの処置: DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0954I

0961

説明: 共用索引を指す DBD の XDFLD ステートメントにエラーがあります (メッセージ DFS0955I を参照)。同じ値を持つ XDFLD 定数を複数指定しています。共用索引に関する各 XDFLD ステートメントは、固有の CONST= 指定が必要です。

分析: 0961 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0955I が出力されます。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR960 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSAVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0955I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DMBXDPAD Reg5=PSDB アドレス Reg6=SEC LIST の アドレス Reg8=FDB アドレス	CKCONSTB	このルーチンは、共用索引と共に作動しています。ルーチンは、定数を指定している XDFLD を確認するために、レジスター 2 で指示される定数値のテーブルに照らして、PSDB (先頭の PSDB 以外) を調べます。定数値は固有でなければならぬため、レジスター 2 に示されているものと同一の定数値を持つ PSDB が検出された場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: エラーのある XDFLD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0955I

0962

説明: 示された PSB 内の SENSEG ステートメントが、階層シーケンス (上から下、左から右) で指定されていませんでした。詳しくは、この異常終了に伴うメッセージ DFS0956I を参照してください。

分析: 0962 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PSB 名とセグメント名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR962 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0956I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7= 親 SDB SDBFCSDB=0 Reg10= 親 SDB から 現行 SDB への変位	SKIPAND	インライン SDB を作成中です。現行 SDB は、その親の第 1 子であると判別されました。セグメントの第 1 子は階層シーケンスの直後に続くため、これらの 2 つの SDB は隣接していなければなりません。隣接していない場合、階層シーケンス・エラーになり、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントの順序を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS0956I

0963

説明: バックアウトで、チェックポイント制御データ・セット (SYSIN) をオープンできなかったか、または DEVTYPE マクロが失敗しました。

分析: 0963 は、モジュール DFSBACK0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 12 は、基底レジスターです。異常終了への入りのプログラムの状況ワード (PSW) が、ラベル ABSYSIN の共通異常終了ルーチンを指しています。

DFSBACK0 は、データベース・バックアウト・モジュール DFSRDBC0 への入力として使用するログを処理します。チェックポイント ID の SYSIN 入力を停止点としてチェックするために、DEVTYPE マクロが発行されます。レジスター 15 に、DEVTYPE からの戻りコードが入っています。

コード
説明

X'04'

DD 名が見つかりませんでした。

X'08'

無効な領域アドレスです。出力域のアドレスが、保護違反になっているか、仮想ストレージの範囲外にあります。

モジュールの通常のレジスター使用法: レジスター 7=PDIR、レジスター 9=SCD、レジスター 10=PSB、レジスター 11=PST

キー	ラベル	説明
Reg15>X'04'	DLITCBL	チェックポイント・データ・セットの存在を検証するために、DEVTYPE (SVC 24) マクロが発行されます。ゼロ以外の戻りコードが X'04' より大きい場合は、エラーになり、異常終了が発行されます。
CHKPDCB=DCB DCBOFLGSSVRB を 問題診断 X'10' に使用する必要があります。	DLITDBL	OPEN (SVC19) マクロが、チェックポイント SYSIN データ・セットに対して発行されます。DCB はモジュールの内部にあり、ラベル CHKPDCB で見つかります。OPEN が失敗した場合は、DCBOFLGSSVRB が問題診断 X'10' に使用され、異常終了が発行されます。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントまたはデータ・セット (あるいは両方) を訂正してから、バックアウトを再実行します。

問題判別: 2、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0965

説明: 再編成または初期ロードされるデータベース内のセグメントに関連する DL/I 制御ブロックに不整合があります。論理的に関連したデータベースの制御ブロックが、不完全かまたはエラーです。この問題は、IMS システム・エラーか、または論理関係の定義が不適切です。

分析: これは、モジュール DFSURPR0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS ユーティリティ事前再編成モジュール (DFSURPR0) は、異常終了します。

プログラマーの応答: 論理的に関連したすべての DBD が、正確で使用可能であるかどうかを検査します。

問題判別: 2、8、11、18、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0966

説明: PCB の PROCOPT で H が指定されていますが、DBD は DEDB ではありません。PROCOPT H は DEDB の場合のみ有効です。この異常終了の前にメッセージ DFS964I が発行され、そこに PCB の名前が含まれています。

分析: 0966 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR966 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR967 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS964I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1= アドレス「H」または Reg3= アドレス「H」	HMCHK1 HCHK1	これらのルーチンは、非 DEDB DBD の PROCOPT を検査します。 PBPCBPRO 内の文字が「H」かどうかチェックされます。「H」の文字 が見つかった場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PCB 名を指し、レジスター 7 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS964I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0967

説明: PSB に、PROCOPT で L または LS を指定した、PHIDAM DBD への複数の明示的な参照が含まれています。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS1008I に、PSB の名前が示されています。

分析: この異常終了は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR967 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR967 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS1008I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
DDIRADDR=X'40'	ISVHDORG ISHDORG	これらのルーチンは、HIDAM タイプ DBD の DCB を作成します。複数のロードを指示する X'40' について、DDIRADDR の高位バイトがテストされます。複数のロード PROCOPT が指定されている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 5 は DBD 名を指しています。PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

プログラマーの応答: 4、17d、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS1008I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0969

説明: 変更累積データ・セットの読み取り中に、ヘッダー・レコードの前に明細レコードが見つかったか、または無効なレコード・タイプ・コードのレコードが見つかりました。

分析: 0969 異常終了は、変更累積データ・セットからの入力レコードが有効なレコード・タイプでない場合に発行されます。異常終了 SVRB には、DFSURIO0 からのレジスターが入っています。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。エラーを検出するルーチンは、異常終了 (SVC 13) を発行するルーチンに分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1=入力レコードのアドレス Reg14=DFSURIO0 へのBAL	GETFILE	DLOGCODE が X'00'、X'24'、X'25'、X'50'、X'5B'、または X'5947' の戻りコードに等しくありません。

考えられる原因: 変更累積データ・セットまたはリカバリー・ユーティリティへの入力に無効なデータ・セットが使用されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSURIO0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0970

説明: 再始動処理で、再始動に使用するチェックポイントを判別しようとしているときに、予期されたエラー条件のいずれかが発生しました。異常終了時のレジスター 10 に、エラー位置を正確に示す戻りコードが入っています。

分析: 0970 は、モジュール DFSRBCP0 から発行される標準異常終了です。この異常終了は、再始動時にのみ発生します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を判別することができます。異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 10 に、サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=AWE Reg10=1		<p>再始動データ・セット (RDS) からチェックポイント・テーブルを初期設定しようとしたのですが、失敗しました。AWE (AWRFDBK) のフィードバック・フィールドに、エラーが検出されたことを示す DFSRDS00 からの戻りコードが入っています。フィードバック・フィールド AWRFDBK は、4 バイトの領域です。下位バイトに下位のサービス・ルーチンからの戻りコードが入っています。この戻りコードについては、ここでは説明しません。上位 3 バイトには、検出されるエラーのタイプを示す下記のいずれかの目印が入っています。</p> <p>OPNx 再始動データ・セットのオープン・エラーまたは初期設定エラーが発生しました。再始動データ・セットのオープン障害について詳しくは、この異常終了の前に出力されるメッセージ DFS3128A を参照してください。</p> <p>RLVx アクティブな IMS リリース・レベルとバックアップの IMS リリース・レベルが異なっています。アクティブ・システムとバックアップ・システムの両方が、同一の IMS バージョンおよびリリース・レベルでなければなりません。</p> <p>GIBx 再始動データ・セットの入出力で使用する IOSB を取得できません。これは、システム・エラーです。</p> <p>BCPx チェックポイント・テーブル BCPT のための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。</p> <p>BCBx 高速保管域を取得できませんでした。これは、システム・エラーです。</p> <p>LOGx RDS データ・セットからチェックポイント・テーブルを復元できませんでした。ログ (X'42' ログ・レコード) からテーブルの最新コピーを取得しようとしたのですが、失敗しました。このエラーは、OLDS オープン/読み取りエラーを示しています。</p> <p>CBTx RRE、LCRE、SIDX のいずれかのブロックのための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。</p> <p>ALTx RRE、LCRE、SIDX のいずれかのブロックのための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。</p> <p>QCSx BCPT、RRE、SIDX、LCRE のいずれかに対するストレージ割り振り要求が失敗しました。あるいは、戻りコードが 04 の場合、MAXPST 始動パラメータが、以前の IMS 再始動時の MAXPST 値よりも小さくなっています。</p> <p>IDMX IMSID (非 xrf) または RSENAME (xrf) の間に不一致が発生しました。IMS のウォーム・スタート中は、この変更は許可されていません。</p>
Reg2=AWE、 Reg10=2、 Reg15=BCB 戻りコード		IMS は、サブシステム索引ブロック (SIDX) を取得できませんでした。内部 IMS エラーです。
Reg10=3		有効なチェックポイントが書き込まれる前に、システムを再始動しようとした。これは、通常、コールド・スタートが正しく完了する前に /ERE 実行しようとした場合に起こります。
Reg10=4		IMODULE は、再始動のためのログの読み取りで使用するバッファのストレージを取得できませんでした。
Reg10=5 Reg15= ロガーの戻りコード		読み取り用にログを開く際のエラー
Reg10=6 R15= ロガーの戻りコード		最初のチェックポイント・レコードの読み取り時のエラー
Reg10=7 Reg3=A(BLOCK)		「4001」レコード (チェックポイント開始) が、最初の読み取り要求への応答としてロガーから返されたブロック内で検出できません。
Reg10=8 Reg3=A(BLOCK)		最初の読み取り要求に対する応答としてロガーから返されたブロックに、誤ったチェックポイント ID が入っていました。
Reg10=9 Reg3=A(BLOCK)		ブロック内で検出されたチェックポイントは、正しいチェックポイントでした。しかし、このチェックポイントは、要求された再始動のタイプと互換性がありません。/ERE CHKPT0 を指定したがコールド・スタート時にチェックポイントが返されなかったか、または、BUILDQ を指定したがチェックポイントにキュー・レコードが含まれていないか、いずれかです。

0971

キー	ラベル	説明
Reg10=0A Reg15= FIND からの戻りコード		緊急時再始動が要求されました。RDS データ・セットからチェックポイント・テーブルが復元されました。DFSRBCP0 は、ローカル・サブシステムの SIDX を検出できませんでした。
Reg10=0B		TOD クロックの値がチェックポイント・テーブルの現行のチェックポイント値より古いことを、DFSRBCP0 が判別しました。
Reg10=0C		DFSRBCP0 は、RRE をデキューまたはリリースできませんでした。

APAR 処理の場合: ストレージ・ダンプ

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 適切なすべてのログ・データ・セットが制御領域に割り振られているかどうかを確認します。また、十分なストレージが制御領域に割り振られているのかも確認します。この異常終了は、おそらく IMS システム・エラーです。

問題判別: 4、5、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRBCP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0971

説明: 再始動処理中に、予期されたエラー条件のいずれかが発生しました。

分析: 異常終了時のレジスター 15 に、以下のコードのいずれかが入ります。

コード

説明

X'01'

システム・データ・セットをオープンする試みが失敗しました。オープンに失敗したデータ・セットを示すメッセージも提供されます。

X'02'

再始動で、バックアウト・テーブル DFSRPSTB 用のストレージを取得できませんでした。十分なストレージを制御領域に割り振ってから、再実行します。

X'03'

LCRE をデキューしようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'04'

LCRE を解放しようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'05'

RRE をデキューしようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'06'

RRE を解放しようとしたときに、内部エラーが発生しました。

コード 01、02 の場合、おそらく、JCL および発行されたメッセージを調べれば、問題を解決できます。コード 03 から 06 の場合、問題の内部調査が必要です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: コード 01、02 の場合、おそらく、JCL および発行されたメッセージを調べれば、問題を解決できます。コード 03 から 06 の場合、問題の内部調査が必要になります。

問題判別: 4、5、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00、DFSRST00、DFSRBCP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0979

説明: データベース変更ロガー DFSRDBL0 が、エラー条件またはプロセス障害を検出し、その要求処理を完了できません。レジスター 15 に 16 進数の理由コードが入っています。

分析: 0979 は、モジュール DFSRDBL0 に渡されるパラメーターでエラーが検出された場合、または変更ログ要求を完了するために必要な処理が失敗した場合に、モジュール DFSRDBL0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスター 15 に、異常終了の理由コードが入っています。(以下の表を参照してください。)レジスター 14 は、異常終了を発行するラベル ABND979 の共通ルーチンへの BAL に使用されます。レジスター 2、4、8、9、および 11 には、それぞれ、PST、DDIR、ログ作業域、JCB、および SCD のアドレスが入っています。

キー	最も近いラベル	説明
Reg15=1	ORGDONE	無効のデータベース編成
Reg15=1	SETFUNC	無効な PSTWRK1 機能
Reg15=1	BADFUNC	無効な DLOGPARM 機能
Reg15=2	RBAKSDS	HD RBA がゼロです。
Reg15=3	GOODLGWX	LGWX IPAGE GET が失敗しました。CTL (LSO=Y) または DLI (LSO=S) 内の拡張専用ストレージの拡張が必要な場合があります。
Reg15=4	ALLOCALL	SWAREQ 要求が失敗しました。
Reg15=5	ALLOCALL	IRLM 終了要求が失敗しました。
Reg15=6	ALLOCALL	DBRC ALLOC 呼び出しが失敗しました。
Reg15=7	ALLOCALL	TIOT DDNAME が DMB と一致しません。
Reg15=8	SERVCMPR	圧縮サービス・エラー
Reg15=9	BFSERCH	無効な PSTBUFFA
Reg15=A	XRFL0100	ローカル DMB 番号を使用する FUNC=SCAN で、DDIR を検出できませんでした。
R15=B	SRG000B	DBRC が、「未登録」または「パーツでない」ことを示しました。
R15=C	SRG000C	DBRC で入出力エラーが検出されました。
R15=D	SRG000D	DBRC が未定義の呼び出しを検出しました。
R15=E	SRG000E	DBRC が、無効な REORG # を渡されたことを検出しました。
R15=F	SRG000F	不明な DBRC 戻りコード
R15=10	SRG000G	DBRC オープン RECON 問題
R15=11	SRG000H	DBRC クローズ RECON 問題
R15=12	SRG000I	DBRC が、REORG# が渡されなかったことを検出しました。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答: これは、IMS 内部論理エラーです。

問題判別: 1、4、11、35

ソース: IMS 異常終了

0982 • 0985

モジュール: DFSRDBL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0982

説明: 緊急時再始動で、参照されたプログラムおよびデータベースのバックアウト・キューを読み取ることができませんでした。

分析: 0982 は、DFSRBOI0 によって発行される標準異常終了です。

バックアウト処理の緊急時再始動中に、ログ・データ・セットで入出力エラーが発生しました。メッセージ DFS982I がマスター・コンソールに送信され、異常終了が発生します。ICHECKOS ルーチン (DFSAOS30) によって入出力エラーが検出され、レジスター 15 に戻りコードが返されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の、ラベル X100 を持つルーチン内の命令を指しています。レジスター 10 に、データベース・ログ・レコードのアドレスが入っています。レジスター 5 に、現行の PST のアドレスが入っています。レジスター 11 に、RSRDSECT のアドレスが入っています。レジスター 12 に、基底レジスターが入っています。これらのレジスターは、異常終了 SVRB に保管されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'03D6'	RBOI0040	動的ログ・データ・セットに読み取り入出力エラーが発生したため、必要なバックアウトを完了できませんでした。メッセージ DFS982I が出され、異常終了となります。

考えられる原因: 障害のある動的ログ・データ・セット

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: このエラーが、バックアウト・レコードがアーカイブされていて OLDS 内にはないために発生した場合、バックアウトを実行するために、入力としての SLDS を指定してデータベース・バックアウト・ユーティリティーを使用します。

問題判別: 1、2、3、4、5

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRBOI0

関連情報:

 DFS982I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0985

説明: 緊急時再始動でバックアウトを実行できませんでした。異常終了時のレジスター 15 に、戻りコードが入っています。

分析: 0985 は、DFSRBLB0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) を指しています。異常終了に入ったときのレジスターのレジスター 15 に入っている理由コードの意味は、次のとおりです。

理由コード

説明

X'01'

ITASK を作成できないか、バックアウト・タスク用の QSAV を解放できません。(内部)。

X'04'

バックアウト用の無効なログ・レコード・アドレスが検出されました。

X'05'

バックアウト・タスク用の QSAV または RRE を取得できないか、RRE を SIDX にエンキューできません。

X'06'

変更されたデータベースの DDIR を判別できません。

X'07'

/ERE コマンドが、データベース・レコードの RBN を判別することができませんでした。

X'08'

タイプ X'31' ログ・レコードの処理中に、XRF 代替システムが DPST の検出に失敗しました。

X'09'

LCRE 用のサブプール 231 ストレージを取得できません。

X'0A'

XRF 代替システムにデータベース・レコード処理のための DPST がありません。

APAR 処理の場合: ストレージ・ダンプおよびログが緊急時再始動のために使用されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 4、5、17b、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRBLB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

0986

説明: ある論理データベース内のセグメントのソースが、別の論理データベース内のセグメントとして指定されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2425I を参照してください。

分析: 0986 は、モジュール DFSDLB0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS2425I が出力されます。

DFSDLB0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2425I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

レジスター 5 は、セグメント名を指しています。

レジスター 6 は、最初の DBD 名を指しています。

レジスター 7 は、ソースの DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR986 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2425I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg4= 第 2 論理 DDIR のアドレス	BCDSDBEF	SDBPOSP フィールドには、ソース・セグメントの名前が入っています。このソース・セグメントは、ソース・セグメントがあることも示しています。
Reg6= セグメント用の SDB のアドレス		
Reg10= 第 2 ソース・セグメントのアドレス		

0987 • 0988

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2425I

0987

説明: 索引 DBD 内の LCHILD ステートメントで、索引付きセグメントに誤ったセグメント名が指定されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2426I を参照してください。

分析: 0987 は、モジュール DFSDLBL0 によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2426I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD 名を指しています。
- レジスター 6 は、索引セグメント名を指しています。
- レジスター 7 は、索引付きセグメント名を指しています。
- レジスター 8 は、索引付き DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR986 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2426I が送信され、PSTSTAT が 'X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5= 索引付きセグメント名および DBD 名を含んでいる DDIR 拡張。 Reg7= 索引 LCHILD。	NOTER988	索引 LCHILD セグメント名が索引付きセグメント名と一致しません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2426I

0988

説明: 索引付き DBD 内の LCHILD ステートメントで、索引 DBD 内に存在しないセグメントが参照されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2427I を参照してください。

分析: 0988 は、モジュール DFSDLBL0 によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2427I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD 名を指しています。
- レジスター 6 は、正しくない索引セグメント名を指しています。
- レジスター 7 は、索引付きセグメント名を指しています。
- レジスター 8 は、索引付き DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR988 に発行します。これにより、レジスター

0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2427I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5= 索引付きセグメント名および DBD 名を含んでいる DDIR 拡張。 Reg10= 索引 segtab 項目	BLDDON	索引セグメント名が DDIR 拡張のセグメント名と一致しません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2427I

0989

説明: 索引関係の解決中に、モジュール DFSDLBL0 で、索引 DBD が索引付きセグメント用の複数の LCHILD ステートメントによって参照されていることが判明しました。索引 DBD の名前については、付随するメッセージ DFS2428I を参照してください。

分析: この異常終了は、モジュール DFSDLBL0 によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次の項目を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD の DDIR を指しています。
- レジスター 2 は、索引付きデータベースの DBD を指しています。
- レジスター 4 は、DBD を参照するものについての DBD LCHILD テーブル項目を指しています。
- レジスター 10 は、DBD の現行の SEG TAB 項目を指しています。
- レジスター 14 は、BLDXTDOK において、ERROR989 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR989 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2428I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5 + X'14'	DDIRBLDL	先頭セグメントのセグメント名および DDIR を参照する DDIR 索引拡張項目のアドレスは、この索引によって索引付けされることを指定します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 索引付き DBD 内の参照を訂正して、各索引付きセグメントが固有の索引を持つようにします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2428I

0990

説明: モジュール DFSDLBL0 で、論理 DBD または PSB 内で兄弟セグメントが参照される順序にエラーがあることが検出されました。PTR=HIER を指定した親に従属する兄弟セグメント、または HISAM DBD に従属する兄弟セグメントは、物理 DBD 内で確立された順序と異なる順序で参照できません。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2429I を参照してください。

分析: 0990 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 6 は、順不同の 2 つのセグメントのいずれかの SDB を指し、レジスター 15 はもう一方の SDB を指します。レジスター 8 はデータベース PCB を指し、レジスター 14 は ERROR990 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指します。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR990 に発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2429I が書き込まれ、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg14	DFSDLB40 内の SUMSPSBNB	上記を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 論理 DBD または PSB を再コーディングし、プロシーチャーを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2429I

0991

説明: 論理子の目標親連結が無効です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS2430I が出力されます。

分析: 0991 は、モジュール DFSDLB70 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、メッセージ DFS2430I で使用される名前を指すポインターが含まれています。レジスター 5 は、処理中の SDB を指し、レジスター 6 は現行の PCB を指しています。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR991 に対して発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2430I が書き込まれ、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
SDBPOSN +1 = X'01'、 Reg7=A(PSDB)、 DMBFLAG=OMBLPEX Reg14 = BAL	CHKVIRT	SDBPOSN は、SOURCE= オペランドで SDB が指定されていることを示します。ただし、PSDB の DMBFLAG で DMBLPEX (=X'20')が OFF の場合は、セグメントが論理子セグメントでないことを示すため、エラー出口ルーチンが実行されます。

キー	ラベル	説明
SDBTFLG = SDBSLP、Reg7=A (PSDB)、DMBFLAG≠DABLPEX、Reg14 = BAL	PARNTSTM	SDBTFLG は、SDB が論理子を論理親に連結するためのものであることを示します。ただし、DMBFLAG が DMBLPEX でない場合、SOURCE= オペランドで指定された最初のソース・セグメントが論理子セグメントではないため、参照は無効になります。
Reg1=A (論理親 2 次リスト)、Reg7=A(PSDB)、DMBFLAG = DMBLPEX、Reg14 = BAL、SDBTFLG = SDBSLP	CHKNAMES	SOURCE= オペランドで指定された宛先親がセグメントの論理親であるかどうかを確認するために、セグメント名テーブル項目がレジスター 15 にロードされます。テーブル項目の名前がセグメントの論理親の 2 次リスト (レジスター 1) にある名前と一致しない場合は、エラー出口ルーチンが実行されます。
SDBTFLG = SDBSLP、Reg7=A (PSDB)、DMBFLAG = DMBLPEX、Reg14 = BAL、Reg15= このセグメントの A (セグメント名テーブル項目)。	GET02LSA	宛先親がセグメントを論理子として参照しているかどうかを確認するために、このセグメントのセグメント名テーブル項目がレジスター 15 にロードされます。レジスター 1 を使用して、宛先親の 2 次リスト全体を対象にループが実行されます。このセグメントと同一の ODIR およびセグメント・コードを持つ論理子セグメント、およびテーブル項目の名前と一致する名前を持つ論理子セグメントについて、2 次リストが検出されない場合、エラー出口ルーチンが実行されます。
SDBTFLG=SDBSLP、DMBFLAG≠DMBLPEX、Reg1=A (宛先親の PSDBPSDB)、Reg1 + X'20' *X'20' Reg14= BAL	GETLCNME	SOURCE= オペランドで指定された宛先親が論理親セグメントであることを確認するために、レジスター 1 に宛先親の PSDB のアドレスがロードされます。DMBFLAG-DMBPSDB (R1) で DMBLCEX が OFF の場合は、出口ルーチンが実行されます。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答: DFS2430I で示されたステップに従います。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLB70

関連情報:

 DFS2430I

0992

説明: DBD が、LCHILD ステートメントで、索引 DBD として参照されましたが、これは無効です。参照された DBD は ACCESS=INDEX として指定されていませんでした。詳しくは、この異常終了の前に出力される DFS2431I メッセージで示されます。

分析: 0992 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLB0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLB0 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 2 は索引付きデータベースの DBD を指し、レジスター 10 は索引付きセグメントの DBD にあるセグメント・テーブルの項目を指し、レジスター 14 は ERROR992 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指します。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR992 または ERR992A に発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2431I が書き込まれ、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

次の表で参照されるラベルは、DFSDLB00 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg1=A (ターゲット DBD) Reg5=A (索引 DDIR) Reg10=A (ターゲット・セグメント・テーブル項目) Reg14=BAL	BLDXTDOK	索引には、ターゲット・データベースの完了前に作成されるようにフラグが立っていました。
Reg4= 索引として不正に参照された DBD の DDIR Reg4 + 20 (DDIRBLDL)= 無効な参照を行われた DBD のセグメント名 および DDIR アドレスを含んでいる DDIR 拡張のアドレス Reg14=BAL	NOPROT	非索引付きデータベースは、作成済みの索引拡張があります。これは、LCHILD ステートメントの索引付き DBD として参照されたことを意味します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2431I

0993

説明: SENFLD ステートメントでセグメント定義の無効なフィールド名が参照されました。詳しくは、メッセージ DFS2432I を参照してください。

分析: 0993 は、複合モジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、フィールド名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR993 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2432I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg5=PSDB Reg6=SDB Reg7=FSB Reg14=BAL	FLSMRG00	FSB の名前とレジスター 5 にある PSDB 用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。
Reg5=PSDB Reg6=SDB Reg7=FSB	FLSMRG34 FLSMRG32 FLSLP30	レジスター 6 の SDB が物理論理子を参照した場合に、FSB の名前と、論理親の PSDB 用の FDB のフィールド名または論理子用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。レジスター 6 の SDB が仮想論理子を参照した場合に、FSB の名前と、このセグメント用の DMBSEC フィールド項目のフィールド名、論理親の PSDB 用の FDB のフィールド名、または対セグメントの PSDB 用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2432I (メッセージおよびコード)

0994

説明: PSBGEN で指定されたフィールド・マッピングにより、破壊的なオーバーラップが発生します。追加情報については、メッセージ DFS2433I を参照してください。

分析: 0994 は、複合モジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル STEPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR994 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2433I が発行され、PSTSTAT が 'X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg1=FSB1 Reg3=FSB2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	FLSSRT22	アプリケーション・プログラムは、データベース・セグメント (そのうちの少なくとも 1 つは文字タイプ・データでない) のフィールドのオーバーラップにセンシティブです。
Reg1=FSB1 Reg3=FSB2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	FLSSRT25	フィールドは、データベース・セグメントでオーバーラップしますが、ユーザーの入出力域でのオーバーラップほど大きくはなく、セグメントは更新センシティブティを持っていません。
Reg1=FSB1 Reg3=FSB2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	FLSSRT30	データベース・セグメントからの 2 つの個別フィールドが、ユーザーの入出力域の内の同一のロケーションあてに指定されています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2433I (メッセージおよびコード)

0995

説明: 挿入されるセグメントの PCB で、シーケンス・フィールドに対するセンシティブティイーが指定されています。詳しくは、メッセージ DFS2434I を参照してください。

分析: 0995 は、複合モジュール DFSDLBL0 からの標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR995 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2434I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	FLSSRT90	ルーチンは、セグメントにユーザーがセンシティブではないキー・フィールドがあり、このセグメントのための PROCOPT は I か L のどちらかであると判別しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2434I

0996

説明: フィールド・レベル・センシティブティイーが、PROCOPT=I または L の指定がある論理子に対して指定されています。詳しくは、メッセージ DFS2435I を参照してください。

分析: これは、複合モジュール DFSDLBL0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR996 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2435I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	BLDFSBS	フィールド・レベル・センシティブティイーがこのセグメントに指定されたため、このルーチンに制御が渡され、ルーチンが、処理オプションは I か L であると判断しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 DFS2435I

0997

説明: 関連する論理関係により内部処理限界を超えるため、必要な PSB 制御ブロックを構築できませんでした。メッセージ DFS2436I が発行され、この異常終了の原因となった PSB および PCB が示されます。

分析: 0997 は、複合モジュール DFSDLBL0 から発行されます。DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

また異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンからも発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB70 のサブルーチンは、BAL REG14 を DFSDLB80 のラベル ERROR997 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。

メッセージ DFS2436I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定された場合、RETURN は SETPSEU に分岐します。これが、異常終了 (SVC 13) を発行します。

次の表で参照されるラベルは、DFSDLB70 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg5=PCB	SUMNOIX1	最高位の内部処理番号を保管するためにルーチンに制御が渡され、ルーチンが、内部処理番号が限界を超えたと判定しました。
Reg14=BAL	SUMALTS	
	SUMNOIX3	
	SUMGENP2	
	SUMNDSG	
	SUMLDND	

システムの処置: メッセージ DFS2436I を発行した後、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: PSB または DBD (あるいは両方) を変更して、PCB 内で、LOGICAL CHILD/LOGICAL PARENT 連結を参照する SENSEG ステートメントの数を減らします。PSBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0、DFSDLB80

関連情報:

 DFS2436I

0998

説明: 仮想論理子用に定義されたフィールドが、仮想論理子に収まりませんでした。このフィールドは、論理子内で始まり、論理子内で終わらなければなりません。

分析: 0998 は、複合モジュール DFSDLBL0 から発行され、メッセージ DFS2437I を伴います。DFSDLBL0 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。SVRB のレジスター 3、レジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、論理親 DBD 名、仮想論理子フィールド名、実論理子セグメント名、および実論理子 DBD 名を指します。

0998

このエラーは、モジュール DFSDLB50 で検出されます。DFSDLB50 は、DFSDLB80 内のラベル ERROR998 に BAL REG14 を発行します。DFSDLB80 は、レジスター 0 から 15 をラベル ERRORSVE に保管し、メッセージ DFS2437I を発行する DFSLBLM0 を呼び出します。その後 DFSDLB80 は、ラベル SETPSEU に分岐します。これが、異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB50 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'08' seclist のアドレス Reg3=LC PSDB のアドレス Reg10=X'02' seclist のアドレス Reg14=BAL Reg15= 現行 PSDB のアドレス	CLRDLP08	仮想フィールドが、仮想論理子内で始まっていません。
Reg2=X'08' seclist のアドレス Reg3=LC PSDB のアドレス Reg5= 仮想フィールド長 Reg10=X'02' seclist のアドレス Reg14=BAL Reg15= 現行 PSDB のアドレス	NOTER998	仮想フィールドが長すぎて、仮想論理子の終わりを超えています。

システムの処置: メッセージ DFS2437I が発行された後、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。論理子の定義の直後の FIELD ステートメントに誤りがあります。フィールドが論理子内で始まっていないか、またはフィールドが長すぎて論理子内に収まらないかのいずれかです。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLBL0、DFSDLB50

関連情報:

 DFS2437I

第 22 章 IMS 異常終了コード 1001 - 1050

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

1001

説明: バッチ DL/I または DBB 領域を初期設定できませんでした。EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB によって使用されるデータベースのいずれかが、MSDB または DEDB であるためです。サブコードがレジスター 15 に設定されます。

分析: 1001 は、EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された無効な IMS 従属領域を検出した際に、DBFUDLB0 または DFSBIND0 から発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' または X'08'		高速機能データベース管理制御ブロックは、アプリケーション制御保守ユーティリティの実行時にのみ作成されます。動的制御ブロックの作成は、その他の環境ではサポートされていません。レジスター 15=4 の場合は、DLS 領域タイプが指定されました。レジスター 15=8 の場合は、DBB 領域タイプが指定されました。

考えられる原因: 従属領域開始プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの、1 番目の定位置オペランドで指定された領域タイプ・パラメーターで、指定に誤りがありました。バッチ・バックアウト・ユーティリティの場合: PSB に高速機能データベースが含まれている場合は、領域タイプ DBB が指定されていることを確認してください。

システムの処置: バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答: PSB 訂正し、PSBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。PSB 内のすべての PCB が MSDB または DEDB にアクセスする場合は、高速機能 (IFP) 領域プロシーチャーを使用する必要があります。

バッチ・バックアウトをバッチ DL/I 領域で試みていた場合は、DBB 領域プロシーチャーを使用してジョブを再実行します。

問題判別: 17a、d

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFUDLB0、DFSBIND0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1002

説明: 以下のいずれかの状態が発生しました。

IMS カタログを更新するために DL/I 呼び出しを実行中に、IMS カタログ・ユーティリティの 1 つが、そのユーティリティが処理するよう設計されていない DL/I 状況コードを受け取りました。この異常終了の前に、メッセージ DFS4425E、DFS4432E、または DFS4474E が出されます。

または、使用可能なストレージがないために、GETMAIN が失敗しました。この条件ではメッセージ DFS4477E が発行されます。

分析: 以下の表は、DL/I 状況コードを受信したときにユーティリティが実行していた内容を示します。

表 8. レジスター 15 のキーの説明

レジスター 15 のキー	ユーティリティ	説明
X'04'	DFS3CNTL DFS3DBLC DFS3DCNC DFS3LU10 DFS3LU20 DFS3PBLC DFS3PCNC DFS3PDBD DFS3PLOC DFS3PPSB DFS3PSDC DFS3PU00 DFS3REAC DFS3SDBD DFS3SPSB DFS3SREF	使用可能なストレージがないために、GETMAIN が失敗しました。REGION サイズを確認し、それを 0M に設定することを検討してください。
X'0C'	DFS3PU00	IMS カタログ内に DBD または PSB インスタンスを挿入中。キー X'0C' について詳しくは、次の表を参照してください。
X'10'	DFS3LU10 DFS3LU20 DFS3PU00	IMS カタログ内から DBD または PSB インスタンスを検索中または削除中。

レジスター 15 のキーが X'0C' の場合、レジスター 2 には、以下の情報が含まれるエラー・ブロックのアドレスが含まれます。

表 9. キー X'0C' のセグメントのインスタンス・エラー・ブロック (SIEB) の内容

内容	10 進数オフセット	長さ	データ・タイプ
'SIEB'	0	4	文字
挿入されているレコード内のカタログ・セグメント間のセグメント番号 (1 番目、2 番目、3 番目、と続く)	4	4	2 進数
カタログ・セグメント名	8	8	文字
ISRT 呼び出しからの PCB 状況コード	16	2	文字
未使用	18	2	文字
挿入されているカタログ・セグメントのアドレス	20	4	ポインター
ルート・セグメントの先頭からのカタログ・セグメントの変位	24	4	2 進数

システムの処置: IMS はエラー・メッセージを発行し、ユーティリティは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: レジスター 15 の値を確認して、先行するリストの値の説明を参照します。

DFS4425E、DFS4432E、または DFS4474E の状況コード情報を参照して、根本的な問題を修正してください。

問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFS3PU00、DFS3PU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 IMS Catalog Record Purge ユーティリティ (DFS3PU10) (システム・ユーティリティ)

| 関連情報:

- |  DFS4425E (メッセージおよびコード)
- |  DFS4432E (メッセージおよびコード)
- |  DFS4474E (メッセージおよびコード)
- |  DFS4478E (メッセージおよびコード)

1003

説明: 高速機能 (IFP) 領域を初期設定できませんでした。EXEC ジョブ制御ステートメント上の PARM フィールドの 10 番目の定位置オペランドのセット・タイマー (STIMER) オプションが正しく指定されていなかったためです。

分析: 1003 は、無効な STIMER オペランド仕様の検出時に、DFSRRRA00 から発行される標準異常終了です。有効な STIMER オペランドは、0 または 1 です。

キー	ラベル	説明
Reg2= RCPARMS のアドレス	RAIFP	STIMER 仕様が、IFP 領域の初期設定中に検証されました。無効な仕様を検出された場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IFP 開始プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドで指定された STIMER パラメーターで、指定に誤りがありました。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: EXEC ジョブ制御ステートメントの STIMER オペランドを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 8、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA00

| 関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1004

説明: 高速機能 (IFP) 領域を初期設定できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 7 番目の定位置オペランドの異常終了限界カウント (TLIM) オプションが正しく指定されていなかったためです。

分析: この異常終了は、ゼロの TLIM オペランド仕様の検出時に、DFSRRRA00 から発行される標準異常終了です。有効な TLIM オペランドは、1 から 99 です。

キー	ラベル	説明
Reg2= RCPARMS のアドレス	RAFP1	TLIM 仕様は、IFP 領域の初期設定中に検証されます。無効な仕様を検出された場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IFP 開始プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドで指定された TLIM パラメーターで、指定に誤りがありました。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: EXEC ジョブ制御ステートメントの TLIM オペランドを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

1005 • 1006

モジュール: DFSRRA00

1005

説明: バッチ・メッセージ処理 (BMP) ステップまたは高速機能 (IFP) 領域が、次のいずれかの理由でスケジュールされませんでした。

- 従属領域は BMP であったが、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていた。
- 従属領域は IFP であったが、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていなかった。
- 従属領域は IFP であったが、PSB がメッセージ・ドリブン・アプリケーションとして定義され、サブシステム・タイプが DBCTL であった。
- 従属領域は IFP であり、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていたが、アプリケーションが、メッセージ・ドリブンでも高速機能ユーティリティでもなかった。

分析: この異常終了は、DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPRCFP	BMP または IFP がスケジュールに入れている場合は、IMS 従属領域のタイプおよび PSB 定義が検証されます。無効な仕様が検出された場合は、疑似異常終了が開始されます。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 1 番目の定位置オペランドで指定される従属領域のタイプが BMP でした。PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB が、IMS システム定義の高速機能アプリケーションとして定義されている可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプが IFP であった場合、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていない可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプが IFP であった場合、PSB がメッセージ・ドリブン・アプリケーションとして定義され、サブシステム・タイプが DBCTL である可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプは IFP であり、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されましたが、PSB はメッセージ・ドリブンであるか、または高速機能ユーティリティとして定義されなければなりません。そうでない場合は、異常終了 1005 が発行されます。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別し、適切な訂正を行います。

問題判別: 8、10、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSBMP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1006

説明: DBBF、DBFX、または BSIZ で定義されたバッファー・マネージャーを使用している場合、ページ固定のために要求されたバッファーの数が現在使用可能なバッファーの総数を超過しています。あるいは、FPBP64 で定義され、ユーザーが FPBP64M パラメーターを使用して設定した 64 ビット・バッファー・マネージャーを使用している場合に、要求された 64 ビット・ストレージの量が最大量を超えています。この異常終了は、高速機能データベースにアクセスするように定義された任意の領域で発行されます。

分析: 1006 は、従属領域のスケジューリング中に、高速機能バッファー・ページ固定要求を満たすことができない場合に発行される疑似異常終了です。異常終了 1006 は、DFSSMSC0 または DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行されます。

この異常終了は、DBFINTE0 によって戻りコード 08 と共に設定されて返され、

DFSSMSC0、DFSSBMP0、DFSSJBMP、または DFSSJMP0 によって検出されて DFSISI00 または DFSRRC20 によって発行されます。

必要なページ固定バッファの数は、現行のバッファ・マネージャーについて DBBF、DBFX、および BSIZ として定義した場合、次の方法で判別されます。

必要なページ固定バッファの合計 =
 指定された DBFX オペランドの値
 + すべてのスケジュール済み領域で指定された
 NBA オペランドの合計
 + すべてのスケジュール済み領域で指定された
 最大 OBA オペランド + 開かれる DEDB 領域の数。

この計算結果の合計が IMS 制御領域 EXEC PARM フィールドで指定された DBBF オペランドの値より大きい場合は、疑似異常終了が開始されます。この検査は、領域 JCL で NBA=0 および OBA=0 を指定していても、高速機能データベースへのアクセスが定義された個々の従属領域について行われます。

FPBP64 で定義された FP 64 ビット・バッファ・マネージャーの場合、バッファ・プールに割り振られた現行の 64 ビット・ストレージの量が、FPBP64M パラメーターまたは UPDATE POOL TYPE(FPBP64) コマンドで設定した 64 ビット・ストレージの最大量を超えています。

考えられる原因: IFP、BMP、または MPP 領域 JCL の EXEC PARM フィールドの NBA および OBA パラメーターに指定した値が大きすぎるか、IMS 制御領域の EXEC ジョブ制御ステートメントの DBBF パラメーターに指定した値が小さすぎる可能性があります。/DIS POOL FPDB コマンドを入力して、使用可能な高速機能バッファの数を調べてください。

FPBP64 で定義された FP 64 ビット・バッファ・マネージャーの場合、FPBP64M または UPDATE POOL TYPE(FPBP64) で設定した現行の 64 ビット・ストレージの許容量が、現在使用中の 64 ビット・ストレージの量より少なくなっています。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: EXEC ジョブ制御ステートメントに指定された NBA および OBA オペランドを調べてから、次のいずれかを実施します。

- オペランド値を減らして、ジョブを再実行します。
- 他の領域が終了するのを待ってから、ジョブを再実行します。

FPBP64 で定義された高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャーの場合、UPDATE POOL TYPE(FPBP64) コマンドを使用して 64 ビット・ストレージの許容量を増加し、ジョブを再実行します。

問題判別: 8、10、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSISI00、DBFBPN61、DBFCBHL0、DBFINTE0、DBFMBED0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1007

説明: 高速機能 (IFP) 初期設定中に、プログラム DBFCPY00 で、スケジュールされた高速機能 PSB に 1 つ以上の GSAM PCB が含まれていることが検出されました。

分析: 1007 は、モジュール DBFCPY00 によって発行される標準異常終了です。

GSAM は IFP 領域ではサポートされないことに注意してください。GSAM アクセスが必要な場合は、IMS システム定義の APPLCTN ステートメントに FPATH=NO を指定する必要があります。この場合は、PSB を非高速機能アプリケーションとして再定義して IMS システムを変更してから、BMP 領域で PSB を再実行してください。GSAM アクセスが必要ない場合は、TYPE=GSAM を指定している PCB ステートメントを PSBGEN 入力ストリームから除去し、その後で PSBGEN および ACBGEN を再実行してください。

1008

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: エラーのある PSB を訂正する必要があります。PSB を非高速機能アプリケーションとして再定義するか、または PSB から GSAM PCB を除去します。

問題判別: 4、9、18、19

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCPY00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1008

説明: MPP、BMP、または IFP 従属領域の終了中に、プログラム DBFATRM0 でエラーが検出されました。

- IFP メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムが正常に戻ったが、入出力 PCB に QC 状況コードを通知しなかったか、または高速機能バッファを解放しなかった。
- MPP、BMP、または IFP 非メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムが正常に戻ったが、高速機能データベース・バッファを解放しなかった。

分析: 1008 は、DBFATRM0 から発行される疑似異常終了です。アプリケーション・プログラムを正常終了するために、クリーンアップ・プロセスの実行中には次の規則が強制適用されます。

1. メッセージ・ドリブン・アプリケーションは、入出力 PCB に通知される「QC」状況コードを受け取り、高速機能データベース・バッファを解放しなければならない。
2. MPP/BMP/IFP 非メッセージ・ドリブン・アプリケーションは、高速機能データベース・バッファを解放しなければならない。

上記の規則に違反すると、異常終了が発生することになります。

キー	ラベル	説明
従属領域ダンプにコピーされた DBFEPST0 診断領域を取得し、EPST 内の EPSTDREG、EPSTXCOC、および EPSTNRBH フィールドを確認します。(DBFATRM0 ソース・コードを調べて、異常終了時の高速機能制御ブロック・コピーがあるかどうか確かめてください。)		IFP メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムは、正常に戻る前に、「QC」状況コードを受け取っていませんでした。EPSTDRQC フラグがオフになっているか、またはアプリケーション・プログラムが、正常に戻る前にバッファを解放しませんでした。EPSTXCOC または EPSTNRBH のどちらかに、ゼロ以外の値が入っています。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラー

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを訂正します。メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムの場合、入出力 PCB に「QC」状況コードが通知された後でのみ、IMS プログラム・コントローラーに制御を戻すようにしてください。あるいは、「SYNC」または「ROLB」呼び出しを発行してバッファを解放した後で、制御を戻します。

問題判別: 17a

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFATRM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1009

説明: 領域タイプに IMS 高速機能 (IFP) が指定されたが、この IMS システムでは高速機能が生成されなかったか、または IFP 領域の初期設定および終了を処理するモジュールで、発生してはならない重大な状態が検出されました。サブコードがレジスター 15 に設定されます。

分析: 異常終了 1009 は標準異常終了です。

DBFHIELO と DBFHQMIO の場合:

DFSPOOL REL=EMHB 機能を使用して EMHB を解放しようとしているときに、FP モジュールがゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

1009 は、モジュール DBFHIELO および DBFHQMIO から発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'21'		

DBFIBUF0 の場合:

- 発生してはならない重大な状態が DBFIBUF0 で検出されました。

これは、DBFIBUF0 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		DMHR チェーンでループが検出されました。
Reg15=X'05'		許可されたページ固定呼び出しまたはページ解放呼び出しで、予期しないエラーが発生しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

- 診断資料の場合: z/OS コンソール・シート、IMS 制御領域の異常終了メモリー・ダンプ、およびログ・データ・セットの印刷出力。

DBFINI20 の場合:

ユーザー・ハッシュ・モジュールのロードを実行しているときに、発生してはならない重大な状態が DBFINI20 内で検出されました。

1009 は、DBFINI20 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0D'		ユーザー・ハッシュ・モジュールをロードできません。DFSQCSS FUNC=LOAD の下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが渡されました。

考えられる原因: ユーザー・ハッシュ・モジュールの IMS システム定義にエラーがあります。

DBFINTE0 の場合:

IFP 領域の初期設定時および終了時に、発生してはならない重大な状態が DBFINTE0 内で検出されました。

1009 は、DBFINTE0 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の中のサブコードの内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		適切な PST 検証テーブル項目が ESCD で見つかりません。
Reg15=X'02'		PST 検証テーブルからの現行の PST 項目が ESCD に見つかりません。
Reg15=X'03'		適切なロードおよび平衡化グループ項目 (BALG) が ESCD に見つかりません。
Reg15=X'04'		先頭の RCTE が英字チェーンから検出されませんでした。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

APAR 処理の場合: z/OS コンソール・シート、IMS 制御領域の異常終了メモリー・ダンプ、およびログ・データ・セットの印刷出力。

DBFLRLS0 の場合:

解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンに見つかりません。

これは、モジュール DBFLRLS0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'18'		解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンに見つかりません。

DBFPUXR0 の場合:

解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンまたは EPST チェーンに見つかりません。

これは、モジュール DBFPUXR0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'17'		UXRB に関連するすべての XCRB を解放した後、解放すべき DEDB リソースを DMAC チェーンに見つかりません。
Reg15=X'18'		UXRB に関連するすべての XCRB を解放した後、解放すべき DEDB リソースが EPST チェーンに見つかりません。

DBFXPIX0 の場合:

DEDB リソースを解放する必要がありますが、DMAC チェーンに見つかりません。

1009 は、モジュール DBFXPIX0 によって発行される標準異常終了です。レジスターには、次の情報が含まれていません。

- レジスター 3 = DMAC チェーンのアンカー・ポイント・アドレス
- レジスター 4 = UXRБ のアドレス
- レジスター 5 = リソース ID (RBA)
- レジスター 7 = 解放すべき XCRB のアドレス
- レジスター 8 = DMAC のアドレス

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'		DEDB リソースを解放するためにモジュール DBFXPIX0 に制御が渡されましたが、そのリソースが DMAC チェーンに見つかりません。
Reg15=X'11'		内部エラー: UXRБ に関連するすべての XCRB が解放された際に、DBFXPIX0 は、UXRB DMAC チェーンで UXRБ を検出できません。
Reg15=X'12'		内部エラー: OTHREAD が所有していない UOW ロックを持つ UXRБ を解放するために、DBFXPIX0 が呼び出されました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

APAR 処理の場合: IMS 制御領域のメモリー・ダンプ

DFSDBLM0、DFSDBLP0、DFSDBLB0、DFSSABN0、DFSSMSC0、DFSCST00 の場合:

高速機能ルーチンへの出口ルーチンを実行しようとしたときに、発生してはならない重大な状態が検出されました。

1009 は、上記のリストにあるいずれかのモジュールから発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'07'		モジュール DBFINTE0 が IMS 中核に含まれていませんでした。
Reg15=X'08'		モジュール DBFUDLB0 がモジュール DFSDBLB0 に含まれていませんでした。
Reg15=X'09'		モジュール DBFDBAC0 がモジュール DFSCST00 に含まれていませんでした。

考えられる原因: 内部 IMS システム定義エラー

APAR 処理の場合: IMS 制御/従属領域の異常終了メモリー・ダンプおよび IMS システム定義の STAGE 1 出力。

DFSPCC20 の場合:

EXEC ステートメントの PARM フィールドに IFP が指定されましたが、高速機能がこの IMS システムで生成されませんでした。これは、モジュール DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: この IMS システムに高速機能が生成されていなかった時に、IFP が指定されました。

APAR 処理の場合: IMS 制御領域のメモリー・ダンプ

システムの処置: IMS 制御領域または従属領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHIEL0、DBFHQMI0、DBFIBUF0、DBFINI20、DBFINTE0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFXPIX0、DFSASK00、DFSDBLM0、DFSDBLP0、DFSDBLB0、DFSPCC20、DFSSABN0、DFSSMSC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1010

説明: DBFDBIL0 は、ECNT 項目内のセグメント・ポインターが、すでに別のセグメント用に使用されていたことを検出しました。これは、システム・エラーです。

分析: 端末関連 MSDB セグメントまたは端末関連キーを持つ非関連 MSDB セグメントは、各 MSDB の LTERM ごとに 1 つだけ有効になります。

キー	ラベル	説明
Reg4=MSDB セグメント 接頭部のアドレス Reg7=ECNT のアドレス Reg9=BHDR のアドレス	DBIL0270	順次データ・セットから読み取られる MSDB レコードは、DASD の中にあり、DBFCNT0 内の主ストレージ・プール領域に配置されます。ECNT に関連する MSDB セグメント領域が別の LTERM によって使用されている場合、この処理の最中に異常終了が発行されます。

考えられる原因: MSDB データベースが重複キーを使用して作成されました。

1011

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: ありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDILO

1011

説明: IMS の始動または再始動時に高速機能初期設定エラーが検出されたため、IMS 制御領域の初期設定に失敗しました。

詳しくは、この異常終了の前に発行されたエラー・メッセージを参照してください。最も可能性の高い原因は、十分なストレージが CSA または ECSA にないことです。特に再始動時に、(フラグメント化のために) ECSA に十分な連続ストレージ・スペースがない場合にも、この異常終了が発生する可能性があります。

| 分析: 1011 は、DBFBPNI0、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、
| DBFDAC50、DBFICIR0、DBFICI10、DBFINI20、DBFINI21、DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、
| DBFINI24、DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、または DBFINI2R から発行される標準異常終了で
| す。

| **DBFDAC50** の場合:

| DBFDAC50 はストレージの取得を試みましたが、ストレージ要求を満たすことができませんでした。DEDB 変更は異
| 常終了し、異常終了コード U1011 が示されます。一部のストレージを解放して、DEDB 変更を再実行します。

| **R2=** 理由 (STOR)

| **R3=** RSN コード (保守用)

DBFICIR0 の場合:

DBFICIR0 は、DFSCIR マクロを使用する高速機能 OTHREAD ITASKS および高速機能 ASYNCHRONOUS 処理 ITASKS を作成するために、下位モジュールを呼び出します。下位モジュールのうちの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFICIR0 へ返されます。異常終了に入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BAL、 Reg15=DFSCIR、 FUNC=ITASK 戻りコード	ABEND2	DBFICIR0 は、IMS/高速機能 ITASKS 初期設定モジュールです。このモジュールは、高速機能 OTHREAD ITASKS および高速機能 ASYNCHRONOUS 処理 ITASKS を作成するために、DFSCIR FUNC=ITASK を実行します。このマクロからゼロ以外の戻りコードが渡される結果として、異常終了が発生します。

DBFICI10 の場合:

DBFICI10 は、下位モジュールを呼び出して、次のことを行います。

- 通信ルーター ITASKS およびエラー・メッセージ・ルーター ITASKS の作成
- ロック制御 ITASKS、通知割り振り ITASKS、コマンド処理 ITASKS、および従属コマンド ITASKS の解放
- 共通サービス用の PST-EPST の作成

下位モジュールのうちの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFICI10 へ返されます。異常終了に入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BAL レジスター、 Reg15=DFSCIR、 FUNC=ITASK 戻りコードまたは FUNC=CWU 戻りコード。 Reg15 に入る戻りコード: -EPS (高速機能の共通サービス用の EPST 作成時の障害の場合)。 -PST (PST 作成時の障害の場合)。または Reg15=DFSBCB、 FUNC=GET 戻りコード	ABEND2	DBFICI10 は、通信ルーター ITASKS、エラー・メッセージ・ルーター ITASKS の作成、制御 ITASKS、通知割り振り ITASKS、コマンド処理 ITASKS、従属コマンド ITASKS のロック解除、および高速機能の共通サービス用の PST-EPST の作成を行うために、下位モジュールを呼び出します。下位モジュールのうちの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFICI10 へ返される結果として、異常終了が発生します。問題の原因として最も可能性が高いのは、CSA でのストレージ不足状態です。

DBFBPNI0、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、DBFICIR0、DBFICI10、DBFINI20、DBFINI21、DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、DBFINI24、DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、または DBFINI2R の場合:

高速機能の初期設定中に、DBFINI2x モジュールは、さまざまな制御ブロック、ロード・モジュールおよび作業域、ページ固定ストレージ、予約プール・スペースのためのストレージを取得します。これらの要求のいずれかで起きた障害は、IMS から異常終了 1011 が出る原因となります。多くの場合、追加情報が含まれている関連メッセージも発行されます。

ストレージ不足状態になる場合は、他のジョブを停止することができます。これにより同じく、DBFINI2x が必要なストレージを取得する妨げとなっていた条件を解放できる場合があります。この方法でうまくいかない場合、システムの IPL が必要になることがあります。

ページ固定障害の場合は、PAGEABLE ストレージを解放する必要があります。その他の異常終了は、IMS 内部エラーによるものです。IBM サポートに連絡して、支援を要請することが必要になることもあります。

DBFINI2x モジュール (DBFINI20、DBFINI27、DBFINI29、DBFINI2R、または DBFBPN80) のうちの 1 つが、高速機能初期設定を実行します。異常終了の前に、障害に関する追加情報を示す IMS メッセージ (DFS2528I、DFS2559I、DFS2627I、DFS2703A、DFS2706A、DFS2707A、DFS2707I、DFS2709W、DFS2710W、DFS2711A、DFS2779I、DFS2840W、DFS3300W、または DFS3704I のいずれか) が発行される場合があります。

異常終了時に、次の表に示す情報を参照すると、問題の診断に役立ちます。

レジスター	内容の説明
レジスター 2	<p>以下に示す、異常終了時に操作されるリソースの記述の 1 つが入っています。</p> <p>AWE 非同期作業エレメント</p> <p>AREL 領域リスト</p> <p>BCNT モジュール DBFBCNT0</p> <p>BPN00 DBFBPN00 のロード不能</p> <p>BPNK0 DBFBPNK0 のロード不能</p> <p>BPNI0 DBFBPNI0 のロード不能</p> <p>BPNO0 DBFBPNO0 のロード不能</p> <p>BSIZ BSIZ パラメーター</p> <p>CON1 DBFCNT1 (MSDB および ECNT を収容するストレージ)</p> <p>CON3 DBFCNT3 (DBHR および BUFFER を収容するストレージ)</p> <p>CON4 DBFCNT4 (DEDB ブロックを収容するストレージ)</p> <p>CON5 DBFCNT5 (OTHRD を収容するストレージ)</p> <p>CON6 DBFCNT6 (BALG を収容するストレージ)</p> <p>CON7 DBFCNT7 (内部使用バッファを収容するストレージ)</p> <p>DMB DBFDMB (ACBLIB 読み取り用の DEDB 入出力域として使用されるストレージ)</p> <p>DT11 モジュール DBFDT110</p> <p>DT15 モジュール DBFDT150</p> <p>FRBM FRBMSDNM (XRF MSDB 作業域)</p> <p>HAGU モジュール DBFHAGU0</p> <p>HASH ご使用のハッシュ・ルーチン</p> <p>IFIX モジュール DBFIFIX0</p> <p>L56X L56X 制御ブロック</p> <p>MMIO モジュール DBFMMIO0</p> <p>MMPR モジュール DBFMMPR0</p> <p>MSDS DBFMSDSN (MSDB 読み取り用の MSDB 入出力域として使用されるストレージ)</p> <p>64BC 64 ビット共通ストレージ</p> <p>64BP 64 ビット専用ストレージ</p>
レジスター 3	<p>失敗したサービス呼び出しについて説明する次のいずれかのコードが入っています。</p> <p>コード 説明</p> <p>04 GETMAIN の障害。要求されたストレージの量については、レジスター 8 を参照してください。</p> <p>08 モジュールの探索またはロードが失敗しました。</p> <p>12 モジュールが、予期されたロード・モジュール内に見つかりませんでした。</p> <p>16 ページ固定エラー。</p> <p>20 各種エラー。エラーの説明については、関連メッセージを参照してください。</p> <p>24 BCB 取得が失敗しました。</p> <p>28 ストレージ要求を満たすのに十分な 64 ビットの連続ストレージを取得できません。</p>
レジスター 8	要求されたストレージの量 (レジスター 3=00000004 の場合に適用可能)。
レジスター 15	異常終了の原因となったサービス呼び出しからの、ゼロ以外の戻りコード。

| **DBFSYP20** の場合:

| **DBFSYP20** は、順次従属セグメント (SDEP) 用のシステム・バッファの取得を試みます。この要求が 10 回の試行
| 後に失敗すると、アプリケーションは異常終了U1011 で異常終了します。

考えられる原因: 異常終了 1011 の原因は、次の状態のいずれかであると考えられます。

- IMS 制御領域始動プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールド内の、REGION パラメーターまたは BSIZ/DBBF オペランドのエラー
- ストレージ不足の状態
- モジュールの探索またはロードの障害
- ストレージ・ページ固定の失敗
- ブロックの取得の失敗

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: エラー・メッセージおよびダンプ分析によって示されたとおりに、障害の原因を判別します。ストレージ不足のためにこの異常終了が発生した場合、CSA ストレージ割り振りを増やします。

問題判別: 3

ソース: IMS 異常終了

| モジュール: DBFBPNIO、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、DBFDAC50、
| DBFICIR0、DBFICI10、DBFINI20、DBFINI21、DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、DBFINI24、DBFINI25、
| DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、DBFINI2R、DBFSYP20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1012

説明: 高速機能 MSDB のロード判別処理時にエラーが検出されたため、IMS 制御領域の初期設定に失敗しました。高速機能 MSDB のロード判別処理が失敗しました。詳しくは、この異常終了の前に発行されたエラー・メッセージを参照してください。

- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=Y の場合、MSDBINIT データ・セットのエラーのために MSDB をロードできないときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=C の場合、IMS 始動後の最初のチェックポイントで MSDB を MSDBCPN データ・セットに書き込み中にエラーが発生したときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のカードが MSDBABND=I の場合、上記のオプション「Y」で説明されているように、MSDBINIT データ・セットから MSDB を初期ロード中にエラーが発生したとき、または定義された 1 つ以上の MSDB について MSDBINIT データ・セット内にセグメントがないときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のカードが MSDBABND=A の場合、上記のオプション「C」および「I」で説明された状況のときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=B の場合、上記のオプション「Y」および「C」で説明された状況のときに、この異常終了が発行されます。

分析: DBFINI10 が ESCDMSDA ビットを設定した場合に、異常終了を発行する DBFINI10 または DBFDBDL0 から、ゼロ以外の戻りコードが DBFXFP10 へ返されます。

異常終了に入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入っています。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- MSDB テーブル項目が DBFMSDBn (n は IMS.PROCLIB 内の MSDB メンバーの接尾部) に指定された。

1013 • 1014

- ACBLIB への変更の後、ウォーム・スタートが実行された。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 3

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFXFP10、DBFDDBL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1013

説明: 従属領域スレッド作成 (スケジューリング呼び出し) 中に、関連する DEDB の DBD に含まれているセグメント数より多いセグメントを PCB が参照していることが、プログラム DBFCPY00 で検出されました。DBFCPY は、DMCB (DMCBSGNNR) からのセグメント・カウントを使用して、セグメント名によって PCB の SDB と SMLTE の突き合わせを試みるループを制御します。

分析: PSB と DEDB の DBD との間に不整合があります。DBD が DBDLIB で変更され、ACBGEN 作成 PSB 処理に使用されました。DBD は ACBLIB で置き換えられなかったことを示す警告が ACBGEN から出されました。DBCTL スレッドについては、メッセージ DFS0526A も発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14 = DMCB のアドレス		DMCB+8 = 再作成されていない DBD の DBDNAME。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: PSB と DBD の間に不整合があります。DBD が DBDLIB 上で変更されています。ACBGEN が実行されたときに、BUILD PSB は指定されたが BUILD DBD が指定されなかったために、DBD は再作成されませんでした。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCPY00

関連情報:

 DFS0526A

1014

説明: モジュール DBFXSL30 が SUSPEND マクロを使用して従属領域を非活動化しようとしていました。レジスター 4 に戻りコードが入っています。

分析: これは、DBFXSL30 によって発行される標準異常終了です。レジスター 4 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=X'01'		従属領域を非アクティブにしようとしている時に、従属領域をアクティブにする試みが以前に複数回行われていたことが判明しました。
Reg4=X'02'		すでに非アクティブにされていた従属領域を非アクティブにする試行がなされました。
Reg4=X'03'		プログラム DBFXSL30 が、LOCAL LOCK を取得できませんでした。
Reg10=EPST のアドレス		エラーの EPST。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

システムの処置: 高速機能従属領域は異常終了します。

606 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

問題判別: この異常終了の最終的な原因を突き止めるには、レジスター 4 の内容とストレージ・ダンプで十分です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFXSL30

1015

説明: IMSAUTH SVC で、ストレージのページ固定またはページ解放を試みているときに、問題が検出されました。レジスター 2 に、FIX または FREE が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH PGFIX/PGFREE 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析: 1015 は、DBFCSTS0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 11 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'		ページ固定操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

DBFDBDL0 の場合:

MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDBDL0 が、IMSAUTH マクロを使用する DBFDBDL0 によって呼び出されたページ固定/解放モジュール DFSV4200 から、不正な戻りコードを受け取りました。

これは、DBFDBDL0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に、「FIX」または「FREE」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 14 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'	DBDLFIX	ページ固定操作が失敗しました。
Reg2=CL4'FREE'	DBDLFREE	ページ解放操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

DBFMFLG0 の場合:

IMS 高速機能 DEDB 設定フラグ・モジュール DBFMFLG0 が、IMSAUTH マクロを使用する DBFMFLG0 によって呼び出されたページ固定/解放モジュール DFSV4200 から、不正な戻りコードを受け取りました。

これは、DFMFLG0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 6 には SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'		ページ固定操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

1016 • 1017

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCSTS0、DBFDL0、DBFMFLG0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1016

説明: MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDL0 が、チェックポイント論理端末名とシステム論理端末名が一致しないことを検出しました。(チェックポイントの ECNTNAME とシステムの ECNTNAME が等しくありません。)制御ブロックの変更のため、MSDB チェックポイント内の ECNT 名と IMS システム内の ECNT 名とが一致しません。

分析: これは、DBFDL0 によって発行される標準異常終了です。チェックポイント ECNT は、次の 2 つの場所のいずれかに置くことができます。(1) レジスター 1 によって指し示される入力域、(2) レジスター 7 によって指し示される保管域。レジスター 10 は、システムの ECNT を指します。

キー	ラベル	説明
Reg0= この ECNT の終了 アドレス AREAENDA= 領 域終了アドレス	DBDLPROC	レジスター 0 が AREAENDA より高位でない場合は、不一致のチェックポイント ECNT は、レジスター 1 で指示される入力域にあります。レジスター 0 が AREAENDA より高位である場合は、レジスター 7 で指示される保管域にあります。

考えられる原因: 制御ブロックの変更が行われた

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: 適切なシステムで IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDL0

1017

説明: load real address (LRA) 命令を使用して、仮想アドレスを実アドレスに変換しようと試みている MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDL0 がエラーを検出し、ゼロ以外の条件コードを設定しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

分析: これは、DBFDL0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード 意味

X'01' CCW 領域アドレスを変換できませんでした。

X'02' 入力域アドレスを変換できませんでした。

X'03' IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	DBDLSRD	CCW 領域アドレスを変換できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02'	DBDLMRD DBDLSRD	入力域アドレスを変換できませんでした。
Reg15=X'03'	DBDLMRD	IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

考えられる原因: ハードウェア・エラー、内部プログラム・ロジック・エラー、またはインターフェース・エラーが発生しました。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1018

説明: 再同期コミット要求中に、順次従属 (SDEP) 処理でエラーが発生しました。

分析: 拡張区画仕様テーブル (EPST) にある EPSTUDFI アンカーには、コミットされている順次従属更新レコードのキューが入っています。モジュール DBFDSRP0 は、これらのレコードを SDEP バッファへコピーします。SDEP バッファの検索は、DEDB 領域制御リスト (DMAC) のフィールド DMACXNYW から始まり、DMACLYNW で終了します。順次従属更新レコードにある RBA は、DMACXNYW チェーン・アンカーに含まれていなければなりません。チェーンにない場合、モジュールは 1018 で異常終了します。

キー	ラベル	説明
Reg1		DMACXNYW (SDEP バッファのチェーン) のアドレス
Reg6		LRST (DBFDSRP0 が挿入しようとしている SDEP 更新レコード) のアドレス
Reg8		この順次従属更新レコードの DMAC アドレス
Reg9		DMACXNYW からの現行の SDEP バッファ・チェーンのアドレス

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 1、4、5、6、15、36

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDSRP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1019

説明: 高速機能キュー・マネージャーに対して無効な呼び出しが行われました。この異常終了は、内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラーが原因です。

分析: レジスター 3 に、ABEND ルーチン用のブランチ・テーブルのアドレスが入っています。異常終了 1019 は、レジスター 3 の内容が 20 から 60 の間か、または 68 より大きい場合にのみ発生します。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 呼び出しインターフェースを訂正するか、または IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 4、5、11、24

1020 • 1021

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHQMI0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1020

説明: 高速機能の非同期タスク (または OTHREAD タスクのうちの 1 つである非 z/OS システムの非同期タスク) が異常終了したので、IMS の残りを停止するために、この異常終了が発行されます。

分析: これは、DBFFATIO によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 に、異常終了した TCB のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=TCB アドレス	FPTCBXIT	このルーチンは、DBFFATIO の ATTACH 出口ルーチンに含まれています。非同期タスクから戻るときに、完了コードがゼロ以外の場合は、この異常終了が発行されます。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFFATIO

1021

説明: モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 の場合:

DEDB ランダム化モジュールから無効なデータが戻されました。次のいずれかの問題が発生しました。

- レジスター 0 が、DEDB 内の有効なアンカー・ポイント・オフセットでない。
- ランダム化モジュール (レジスター 15) からの戻りコードが、0 または 4 ではありませんでした。
- 異常終了時に、レジスター 1 に有効なアドレスが含まれていません。(レジスター 1 は、デバッグ目的のためにレジスター 2 に保管されます。)

モジュール DBFDADC0 および DBFDADCS の場合:

DEDB 変更ユーティリティー、ALTER AREA を実行中に、古いランダムマイザーと新しいランダムマイザーが同じキーに対して異なる AREA を返したことが検出されました。同じキーを使用して異なる AREA にランダム化することは許可されていません。

DEDB 変更ユーティリティーの実行中に、シャドウ DEDB ランダムマイザーが、変更中の AREA とは異なる AREA (DMAC) を返しました。

分析: この異常終了は、DBFMGAP0、DBFMGAP1、DBFDADC0、および DBFDADCS によって発行される標準異常終了です。ランダム化モジュールは、通常はユーザー提供モジュールです。ユーザーがこのようなモジュールを提供していない場合、システム提供のモジュールを使用できます。システムのサンプルは、DBFHDC40 という名前です。

以下のキーは、モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 に対応します。

キー	説明
Reg3、DMACFOVF	レジスター 3 が、DMACFOVF の内容より大か等しくなっています。

キー	説明
Reg15	レジスター 15 が、0 または 4 ではありません。
Reg3、Reg8	レジスター 3 に、返された DMCB への DMAC のポインターが入っています。レジスター 8 に DMCB アドレスが入っています。レジスター 3 がレジスター 8 に等しくありません。
Reg6	異常終了時のレジスター 6 に理由コードが入っています。
	01 異なる DEDB の AREA が、ランダムマイザーによって返されました。
	02 次の HSSP AREA の検索を試行中に発生してはならないエラー。
	03 AREA の RAP セクションの外部の CI にランダム化されました。
	04 ランダムマイザーが 0 または 4 に等しくない戻りコードを返しました。

以下のキーは、モジュール DBFDADC0 および DBFDADCS に対応しています。

キー	説明
Reg 7	レジスター 7 は ACTIVE (現行) DMAC を指しています。
Reg 8	レジスター 8 が、SHADOW DMAC を指しています。

異常終了時の保管域チェーンを見つけてください。次に、現行の保管域より 2 つ高位の保管域を見つけます。この保管域の RET (R14) スロットに c'rand' があります。R5 を除く残りのレジスターは、ランダム化ルーチンから返されたものです。これらのレジスターを、「IMS V13 出口ルーチン」に記載されている高速処理データベース・ランダム化出口ルーチンについての情報と共に使用すると、ランダム化ルーチンにおける問題の原因を判別するのに役立ちます。

考えられる原因:

モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 の場合: ルーチン・エラーのランダム化

モジュール DBFDADC0 および DBFDADCS の場合: ステージング ACBLIB のから SHADOW DMCB の新規 RANDOMIZER が無効な方法で変更されました。

システムの処置: 高速機能従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 の場合: ランダム化モジュールのエラーを訂正します。

モジュール DBFDADCS の場合: ランダムマイザーを修正して、DEDB 変更ユーティリティを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMGAP0、DBFMGAP1、DBFDADC0、DBFDADCS

1022

説明: LOCESCD マクロが、ESCD によって識別される高速機能 SCD 拡張を見つけることができなかったか、あるいは高速機能モジュールの IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 に、マクロで使用される ID が入っています。すべての SCD 拡張が、SCDESCDQ からキューに入れられます。LOCESCD マクロが失敗する場合に、高速機能モジュールからこの異常終了が発行されます。

分析: この異常終了は、高速機能および非高速機能モジュールによって発行されます。SCD アドレスが検査され、また、SCD 内の SCDESCDQ フィールドが検査される必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'ESCD'		高速機能 SCD 拡張 SCD

1023 • 1024

考えられる原因: 高速機能を備えた IMS システムのリンク内または生成内のエラー。FP=Y パラメーターが欠落しているかどうかを確認します。このパラメーターによって、IMS サブシステムの IMSFP をアクティブにします。

システムの処置: IMS はその領域を異常終了させます。

プログラマーの応答: おそらく、システム定義処理時にバインド・プログラム・エラーがあったか、あるいは SCD が、高速機能が誤ってインストールされていることを示しています。IMODULE LOAD の失敗は、おそらく使用可能ストレージが不十分なためです。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCNDAR0、DBFCDD0、DBFCDP0、DBFCDR0、DBFCHKP0、DBFCPID0、DBFCPRC0、DBFCSTS0、DBFCST00、DBFBAU0、DBFEACL0、DBFENIS0、DBFENOT0、DBFEPSB0、DBFERST0、DBFERS20、DBFATC0、DBFFORI0、DBFHIEL0、DBFQMI0、DBFHRTR0、DBFHTMG0、DBFICIR0、DBFICI10、DBFICLI0、DBFICL20、DBFICL40、DBFINI10、DBFINI20、DBFINI30、DBFINI40、DBFINTE0、DBFIRC10、DBFLHCK0、DBFLIRL0、DBFLRH00、DBFNALC0、DBFNCBS0、DBFNOTM0、DBFNOTX0、DBFNIRST0、DBFSBLK0、DBFTERM0、DBFTOFN0、DBFTOPU0、DBFTORS0、DBFXFP10、DFSMINI0、DFSPSTB0、DFSXNCL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1023

説明: 出口ルーチンが受け入れて EMHB バッファーに移した入力メッセージが、IMS システム定義の TERMINAL マクロで定義された最大長よりも大きいことが、高速機能メッセージ入力編集ルーチンで検出されました。

説明: モジュール DBFHIEL0 は、メッセージ長が EMHB の値より大きいメッセージ接頭語から EMHBMXLN を検出しました。EMHBMXLN は、TERMINAL マクロの FPBUF パラメーターで指定されたバッファ・サイズから作成されます。

入力メッセージの最初の 2 つの位置には、EMHBMXLN の値より大きい値を指定します。

- レジスター 4= EMHB のアドレス
- レジスター 5= 入力メッセージ・バッファのアドレス

考えられる原因: 以下の原因があります。

- TERMINAL マクロの FPBUF キーワードについてのバッファ・サイズ・パラメーターが、実行している端末に対して小さすぎる。
- 端末からの入力メッセージが長すぎる。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: ユーザー入力編集ルーチンを変更して、EMHBMXLN フィールドを入力メッセージ長と比較し、メッセージ長が EMHBMXLN フィールドより大きい場合は、戻りコード X'1C' を設定するようにします。その場合のメッセージを EMHB バッファに移動してはなりません。

問題判別: 4、10、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHIEL0

1024

説明: 高速機能アプリケーション・プログラムが、前の GU 呼び出しで QC 状況コードを受け取った後で、入出力 PCB に対して GU 呼び出しを発行しました。

分析: QC 状況コードの受信について、アプリケーション・プログラムを終了させる必要があります。プログラムを訂正し、再実行してください。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラー

システムの処置: IMS は、疑似異常終了を伴ってメッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムを異常終了させます。

プログラマーの応答: QC 状況コードが出されたら、入出力 PCB に対して別の GU 呼び出しを発行する代わりに、プログラム・コントローラーへ戻るようにします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHGU10、DFSECP10、DFSISI00

1025

説明: DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後、モジュール DBFIRC10 によって無効な戻りコードが検出されました。

分析: DBFHSYN0 の場合:

DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後、モジュール DBFHSYN0 が無効な戻りコードを検出しました。

これは、DBFHSYN0 によって発行される疑似異常終了です。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りでは、0、4、8、12、または 16 の戻りコードのみが有効です。1025 異常終了ルーチンは、共通ルーチンです。レジスター 8 は、次の表に示すような呼び出しルーチンを指示します。

キー	ラベル	説明
Reg5=RC Reg8=	エラーが検出された命令のアドレス	異常終了を呼び出すルーチンです。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りコードです。

DBFIRC10 の場合:

DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後で、プログラム DBFIRC10 が無効な戻りコードを検出しました。

高速機能呼び出しアナライザーからの戻りでは、0、4、8、12、または 16 の戻りコードのみが有効です。1025 異常終了ルーチンは、共通ルーチンです。レジスター 8 は、次の表に示すような呼び出しルーチンを指示します。

キー	ラベル	説明
Reg7=RC Reg8=	エラーが検出された命令のアドレス	異常終了を呼び出すルーチンです。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りコードです。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置: IMS、高速機能アプリケーション・プログラムを異常終了させます。

プログラマーの応答: 問題判別を続行します。

問題判別: 1、4、5、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFHSYN0、DBFIRC10

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1026

説明: IMS 高速機能モジュールが問題の状態を検出し、その状態を記述するために DBFDEBUG マクロを発行しました。

分析: 1026 は、さまざまなモジュールによって発行される標準異常終了です。

異常終了がハード異常終了の場合、DBFDEBUG 呼び出しが行われなため、DFS2712I メッセージは生成されません。異常終了時のレジスターは、すべてのハード異常終了の場合と同様に、RTM2WA にキャプチャーされます。

異常終了が DBFDEBUG マクロ内で見付かった場合は、モジュール名と異常終了の理由が DBFDEBUG マクロによって表示されます。

異常終了が DBFDEBUG マクロ内で見付かった場合、モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値コードについては、異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2712I を参照してください。以下は、メッセージ DFS2712I で表示される情報の例です。

```
DFS2712I  MODULE NAME:  DBFMDLT0
DFS2712I  DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT
DFS2712I  ABEND SUBCODE:  54
DFS2712I  R0-R3      00000006 00000054 0059B126 0061C85C
DFS2712I  R4-R7      0061C9C4 005DCBF4 00000000 00000000
DFS2712I  R8-R11     007FDC30 007AAD98 00927040 00973AC0
DFS2712I  R12-R15    005F6A50 009195E4 00000004 0061C8DC
```

IBM ソフトウェア・サポートにこの問題の追求を要請したい場合は、異常終了の時点までの DFS2712I メッセージ、ダンプ (ある場合)、最後の正常なイメージ・コピー、および最後の正常なイメージ・コピーからのすべてのログ・レコードを保存してください。

サブコードの要約:

2 桁の 16 進数サブコードの最初の桁は、検出されたエラーの一般タイプを表します。2 番目の桁は、さらに具体的なエラーのタイプを示します。モジュール内で同じサブコードの最初のオカレンスが X'0xx'、2 番目のオカレンスが X'1xx'、3 番目のオカレンスが X'2xx' などとなります。例えば、サブコード X'33' が必要な場合、最初の無効なサブコードは X'033'、2 番目は X'133'、3 番目は X'233' などになります。サブコードには次の意味があります。

サブコード (16 進数)

意味

- 1x インターフェース・エラー (無効なパラメーターが提供された)
- 10 ゼロの値が提供されたが、ゼロ以外の値が要求された
- 11 無効なタイプまたは機能コードが提供された
- 12 無効な長さまたはオフセットが提供された
- 13 呼び出し元によって規則が破られた (例えば、呼び出し元が、すでに保持しているラッチを取得しようとしている)
- 14 呼び出し元が無効なパラメーターを渡した
- 2x 制御ブロックの内容が無効
- 20 ゼロのポインターが検出されたが、ゼロ以外のポインターが必要
- 21 無効なポインター
- 22 制御ブロック・タイプが正しくない
- 23 未使用
- 24 チェーン上でアイテムが見つからない
- 25 無効なレベルが検出された
- 27 DBFSLGEO が無効な長さのデータ変更を戻した。
- 3x 予期しない戻りコード
- 30 ISWITCH からの戻りコード
- 31 GETMAIN からの戻りコード
- 32 IMSAUTH PGFIX からの戻りコード
- 33 一般的な戻りコード・エラー

- 34 予期しない状況コード
- 5x DEDB の内容が無効
- 50 無効なセグメント・コード 0
- 51 この CI に対してブロック・タイプが正しくない
- 52 セグメント・コードを分類できない
- 53 セグメント・コードが期待値と一致しない
- 54 チェーン上でセグメントが見つからない
- 55 CI 内容をスキャンできない (長さが正しくない)
- 56 無効な FSE
- 57 RBA が有効な範囲外である
- 58 独立オーバーフローには無効な制御 CI
- 59 無効なセグメント長
- 5A PROCOPT=GO の下で無効なセグメント・コードまたはポインター・エラーが検出された。 PROCOPT は GOx が戻されることを予期していたが、受け取ったのは別のものだった。
- 6x 無効な MSDB 内容
- 61 不良セグメントをデキューしようとした
- 62 不良セグメントをエンキューしようとした
- 7x HSSP 無効条件が検出された
- 70 要求された HSSP バッファの数が、取得された HSSP バッファの数よりも大きい
- 71 DL/I 呼び出しが無効な領域に対して行われた
- 72 DL/I 呼び出しが不正な UOW に対して行われた
- 80 DENDRDF と CI RDF が一致しない
- 81 DENDRRBA と DMHRSRBA が一致しない

以下のセクションでは、各モジュールについて次の情報が示されています。

- DFS2712I メッセージ・テキスト (1 つのモジュールが複数のメッセージを発行する場合があります。)
- サブコード
- 有益な診断情報が含まれたフィールド
- レジスターの内容

DBFARDC0、DBFCSTS0、DBFDT190、DBHCAS0、DBFSYN10、DBFSYN20、DBFMSRT0、DBFUHDSO、DBFVSOP0、DBFVXOIO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていないときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- 内容
- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス

10 EPST のアドレス

DBFCSTS0 の場合:

メッセージ・テキスト: *no text supplied*

キー	ラベル	説明
Subcode=X'9D'		DENDRRBA および DMHRSRBA 間の不一致。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
0	DENDRRBA 値
3	DMHR アドレス
15	サブコード

DBFATRM0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていないときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
0	ESCDSYNL フィールドの内容
1	サブコード
2	ESCD のアドレス
10	EPST のアドレス - EPSTR1SL は、 $\text{Reg10} + \text{X}'\text{B5}' = \text{X}'\text{80}'$ に設定されます

DBFBENQ0 の場合:

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO DEQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'61'		無効な MSDB レコードをデキューしようとした。

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO ENQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'62'		無効な MSDB レコードをエンキューしようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
1	サブコード
6	無効な 10 進数フィールドを持つセグメントの接頭部のアドレス
9	この呼び出しの MSNQLIST のアドレス

DBFBGET0 の場合:

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO ENQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'62'		無効な MSDB レコードをエンキューしようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	無効な 10 進数フィールドを持つセグメントの接頭部のアドレス
9	この呼び出しの MSNQLIST のアドレス

DBFCHKP0 の場合:

メッセージ・テキスト: DMAC CONTENTS ARE INVALID

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	CP841000	DMACRAID (DMAC+70) が正しくないか、DMACOUSZ (DMAC+78) が X'0078' に等しくないか、DMACHRAF (DMAC+7A) が X'0002' に等しくないか、DMACDMCB (DMAC+B8) が DMCB を指していないか、DMACDBNM (DMAC+4) のデータベース名が DMCBNAME (DMCB+8) に等しくありません。

レジスター

	内容
1	1026 異常終了サブコード
2	4084 ログ・レコードの DMAC のスロット
3	4084 ログ・レコードのアドレス
5	DMAC アドレス
9	DMCB アドレス
10	EPST 再始動アドレス
11	ESCD アドレス
12	CHKPDMCB サブルーチン・ベース
15	データベース内の地域番号

| **DBFDAC50** の場合:

| メッセージ・テキスト: BAD RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57'		セグメントの RBA を含むバッファーが見つかりません。
Reg7=望ましい開始 RBA		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター	内容
1	サブコード
2	DAC1 アドレス
3	DAC2 アドレス
8	DMCB アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		現行のセグメント・コードが、現行のバッファー位置にあるセグメント・コードと一致しません。
Reg6=現行バッファー位置のセグメント・コード		
Reg7=現行セグメント・コード		
Subcode=X'153'		現行のセグメント・コードが、SDBF 内のセグメント・コードと一致しません。
Reg4=SDBF アドレス		
Reg7=現行セグメント・コード		
Reg14=SDBF 内のセグメント・コード		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター	内容
1	サブコード
2	DAC1 アドレス
3	DAC2 アドレス
8	DMCB アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: UNABLE TO GET IOVF BUFFER

キー	ラベル	説明
Subcode=X'43'		IOVF バッファーを取得できません。この問題は、DEDB 変更ジョブの BUFNO 値を大きくすると、修正される場合があります。
Reg7=IOVF CI の開始 RBA		

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター	内容
1	サブコード
3	DBPCB アドレス
8	DMAC アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFDRSC0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター	内容
0	ESCDSYNL フィールドの内容
1	サブコード
2	ESCD のアドレス
10	EPST のアドレス

DBFMCCV9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11'		EPSTSWAR (Reg10 + X'320') の先頭文字は、空白 (X'40') か左括弧 (X'4D') でなければなりません。どちらも検出されませんでした。空白または左括弧が検出されないと、モジュールは、この位置に達することができません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

1026

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMCRP9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		親セグメント・コードが、親 MLTE から要求されたセグメント・コードと一致しません。DBFMCGO0 が呼び出され、戻りコード X'24' が発行されました。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') に、バッファのアドレスが入っています。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	親 MLTE のアドレス
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	バッファ内のセグメントへのオフセット
7	親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
8	親 MLTESGCD のアドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMCSS9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	DEBUG	取得したセグメントのセグメント・コードが、セグメント・タイプに定義されたコードと一致しません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
0	バッファ内のセグメントへのオフセット
1	サブコード
3	EPCB アドレス (EPCB + X'48' に DMAC アドレスが入る)
4	MLTE アドレス
5	ESCD アドレス
8	親 MLTESGCD のアドレス
9	DMHR アドレス (DMHR + X'10' はバッファ・アドレス)

DBFMCTL0 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGIC ERROR IN DBFMCTL0

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11'	LOGERROR	無効な関数型が検出されました。Get Next (GN) 関数 X'40' が要求されました。
Subcode=X'33'	LOGERROR	レジスター 1 の DBFMSSA9 から返された RCR0 値が、予期されており 0、4、8、または 12 ではありませんでした。
Subcode=X'53' Reg2=セグメントのアドレス、 DSEGCODE は先頭バイト Reg6= バッファ内 のセグメントへのオフセット Reg7=セグメントを収容して いるブロックの RBA Reg8=MLTESGCD (Reg4 + X'1E' により指示)	DEBUG	MLTESGCD が、レジスター 2 で指示された DSEGCODE に等しくありませんでした。DBFMPCGO0 が呼び出され、DBFMRCSS マクロから異常終了が発行されました。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMDLT0 の場合:

メッセージ・テキスト: DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'054'	Reg15=直前のセグメントの MLTE のアドレス	直前のセグメントが親で、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'154'		直前のセグメントが兄弟で、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'254'		直前のセグメントがルートで、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'354'		直前のセグメントがルートで、物理第 1 子 (PCF) がセグメントへのポインターと一致しません。
Subcode=X'454'		直前のセグメントが兄弟で、物理兄弟順方向 (PTF) がセグメントへのポインターと一致しません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

1026

- 0 ダンプされるデータの長さ (6 バイト)
- 1 サブコード
- 2 削除されるセグメントの MLTE のアドレス
- 3 EPCB アドレス
- 8 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMDPT9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20' Reg0=MLTENRBA、次のセグメントのアドレス	LOGERROR	MLTENRBA 内の順方向ポインタが 0 です。

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53' Reg8=MLTECLOC、親セグメントのアドレス Reg14=MLTEPARP (Reg4 + X'3C')、親セグメントの MLTE のアドレス	ABND1026	親セグメントの MLTE セグメント・コード (Reg14 + X'1E') が、レジスター 8 で指示されるセグメントのセグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- 内容
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMDRB0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		DSEGCODE (R7 + X'00') 内の値は、ルート・セグメントを示す X'01' でしたが、別の値が検出されました。
Subcode=X'54'		ルート・ポインタ (Reg7) が、チェーンの終わりを示す 0 になっていますが、チェーンが終わってはなりません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 2 MLTE アドレス
- 3 EPCB アドレス
- 5 DFSE アドレス
- 7 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 8 DMAC アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 15 DMCB アドレス

DBFMDSG9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	Reg5=セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト	レジスター 5 で指示されたセグメント・コードが、SDBSC (Reg4 + X'11') 内の SDBF セグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDTS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') に、バッファのアドレスが入っています。
Subcode=X'153'	Reg2=子 SDBF のアドレス、Reg6=セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト	レジスター 6 で指示されたセグメント・コードが、子 SDBF セグメント・コード (Reg2 + X'11') に等しくありません。マクロ DBFMRDDS から異常終了が発行されます。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- | | |
|----|-----------|
| | 内容 |
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | SDBF アドレス |
| 9 | DMHR アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

重要: MLTE は、DBFMDSG9 では使用できません。

DBFMFLG0、DBFSDEQ0、DBFSMP10 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていないときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFMFSE0 の場合:

メッセージ・テキスト: LENGTH PARM (R7) INVALID

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12' Reg2=MLTE アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg5=DFSE アドレス Reg7=下位 2 バイトに入っている長さ 要求	MFSEDLET	レジスター 0 の長さ (レジスター 7 で渡された長さに基づいて計算される) が、DMACBLKL の長さより大です。

メッセージ・テキスト: FSE CHAIN IS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12' Reg2=MLTE アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg5=DFSE アドレス Reg7=下位 2 バイトに入っている長さ要求 Subcode=X'112' Reg2=MLTE のアドレス Reg5=バッファの FSE のオフセット Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス Reg9=バッファのアドレス	FSEBAD	FSE の長さが、物理レコード長によって許可されている長さより大です。

メッセージ・テキスト: FREE IOVF CI HAS WRONG UOW#

キー	ラベル	説明
Subcode=X'41' Reg2=MLTE アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg5=DFSE アドレス Reg8=DMAC のアドレス Reg9= バッファ어의アドレス	MFSEDLT	解放された IOVF CI UOW が EPCBUOWO に等しくありません。不適切な IOVF CI ヘセグメントを挿入しないようにしてください。

メッセージ・テキスト: FREE DOVF CI HAS WRONG UOW#

キー	ラベル	説明
Subcode=X'42' Reg2=MLTE アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg5=DFSE アドレス Reg8=DMAC のアドレス Reg9= バッファ어의アドレス	MFSEDLT	解放された DOVF CI UOW が EPCBUOWO に等しくありません。不適切な DOVF CI ヘセグメントを挿入しないようにしてください。

メッセージ・テキスト: FSE CHAIN IS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56' Reg2=MLTE のアドレス Reg5=バッファ어의 FSE のオフセット Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEBAD	FSE へのオフセットが、物理レコード長によって許可されている長さより大です。
Subcode=X'156' Reg2=MLTE のアドレス Reg5= バッファ어의 FSE のアドレス Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEBAD	FSE 標識 (X'80') が、レコードの FSE チェーンにある次の FSE に設定されていません。
Subcode=X'256' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ어의 FSE のオフセット Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEERR	最初の FSE へのオフセットが、物理レコード長によって許可されている長さより大です。
Subcode=X'356' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ어의 FSE のオフセット Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEERR	最初の FSE へのオフセットが、物理レコード長によって許可されている長さより大です。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'456' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ内の FSE オフセット (エラーの FSE) Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEERR	FSE 標識 (X'80') が、バッファ内の FSE に設定されていません。
Subcode=X'556' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ内の FSE オフセット (現行の FSE) Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEERR	次の FSE へのオフセットが、現行の FSE の値より大きいです。チェーンは、エラーになります。
Subcode=X'656' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ内の FSE オフセット (エラーの FSE) Reg6=バッファ内の FSE アドレス (エラーの FSE) Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から)	FSEERR	FSE 標識 (X'80') が、FSE のチェーンにある直前の FSE に設定されていません。
Subcode=X'756' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から)	FSEERR	新規に割り振られた独立オーバーフロー CI のオフセット 8 に FSE がありません。
Subcode=X'856' Reg2= MFSEWORK (サブルーチンの保管域) のアドレス Reg7 モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から)	FSEERR	新規に割り振られた独立オーバーフロー CI のオフセット 8 に FSE がありません。
Subcode=X'956' Reg2=MLTE のアドレス Reg5=バッファ内の FSE のオフセット Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEBAD	解放されたスペースの先頭バイトが、すでにゼロになっています。
Subcode=X'A56' Reg2=MLTE のアドレス Reg5=バッファ内の FSE のオフセット Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のアドレス	FSEBAD	直前の FSE が、この呼び出しで解放されるスペースまで拡張されています。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 9 バッファ어의アドレス

メッセージ・テキスト: BAD RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57' Reg15= バッファ어内のレコードの開始 RBA		バッファ어内のレコードの開始 RBA が、解放されるスペースの RBA より大です。
Subcode=X'157' Reg15= バッファ어内のレコードの終了 RBA		バッファ어内のレコードの終了 RBA が、解放されるスペースの RBA 以下です。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 2 MLTE のアドレス
- 8 DMAC のアドレス
- 9 バッファ어・ヘッダ어의アドレス (DMHR)

メッセージ・テキスト: IOVF CONTROL FSAP WAS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58' Reg2=MFSEWORK アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg6=DFSE アドレス Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター) Reg15= ダンプするバイト数	CKFSAP	DBLKBTDW の検査で、スペースは使用可能ですがエラーが検出されました。DHMR アドレスは、レジスター 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。

メッセージ・テキスト: IOVF CONTROL WORD WAS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'158' Reg2=MFSEWORK アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg6=DFSE アドレス Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター) Reg15= ダンプするバイト数	CKFSPT	DBLKBTDW の検査で、スペースが使用不可です。DHMR アドレスがレジスター 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'258' Reg2=MFSEWORK アドレス Reg3=EPCB アドレス Reg6=DFSE アドレス Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター) Reg15= ダンプするバイト数	CKFSPT または UPCTLCI	DBLBKTDW の検査で、スペースは使用可能ですがエラーが検出されました。DHMR アドレスは、レジスタ 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- | | |
|----|---|
| 1 | サブコード |
| 7 | bit0=X'0' (削除) の場合、バイト 1 から 3 は、削除するバイト数です。bit0=X'1' (挿入) の場合、バイト 1 から 3 は UOW ID です。 |
| 8 | DMAC アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMGLA9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	DEBUG	PTRPMLTE (Reg2) がゼロ (Reg14) です。この値は無効です。
Subcode=X'120'	DEBUG	レジスター 7 (MLTECRBA - Reg4 + X'14') のポインターがゼロです。ゼロ・ポインターは無効です。
Subcode=X'53' Reg2= 親 MLTE のアドレス Reg6= バッファ内でのセグメントへのオフセット Reg7= 親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト	DEBUG	親セグメント (Reg7 で指示される) の DSEGCODE が、親 MLTESGCD (Reg2 + X'1E') と同じではありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUIP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。
Subcode=X'33'	LOGGERRO2	DBFMCCS9 から無効な戻りコードを受け取りました。0、4、8、および 12 は無効な戻りコードです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- | | |
|----|-----------|
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMGNR0 の場合:

メッセージ・テキスト: WRONG SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		DBFMFG00 からの戻りコードが 24 です。この戻りコードは、無効なセグメント・コードであることを示します。

レジスター

	内容
0	MLTE アドレス
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	DMCBARTD アドレス
5	DBLK アドレス
7	EPCBCRBA - 現行セグメントの RBA
8	X'01' A(DSEGCDRT)
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: DL/I CALL IS TO AN INVALID AREA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'71'		DL/I 呼び出しが、この EPCB に対して無効な領域に対する呼び出しです。
Subcode=X'171'		DL/I 呼び出しが、この EPCB に対して無効な領域に対する呼び出しです。

レジスター

	内容
1	サブコード
7	ESCD のアドレス
8	DMAC のアドレス

メッセージ・テキスト: SETR area table error

キー	ラベル	説明
Subcode=X'71'		DBFHSSR からの戻りコードがゼロでなく、レジスター 0 にある新規の DMAC アドレスがヌルです。これは、SETR 領域テーブルにエラーがあることを示しています。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB のアドレス
7	ESCD のアドレス
8	DMAC の直前のアドレス

DBFMGNX0 の場合:

メッセージ・テキスト: WRONG SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		MLTESGCD (Reg8 に保管され、Reg4 + X'1E' で検出される) が DSEGCODE (Reg7 で指示されるセグメントの先頭バイト) に等しくありません。マクロ DBFMRCCS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	バッファ内へのセグメントへのオフセット
7	セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
8	MLTESGCD
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMGPD0 の場合:

メッセージ・テキスト: SEGMENT CODE OF SDEP IS NOT X'02'

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		セグメント・コードが予期されるセグメント・コードと異なります。テスト対象のセグメントは、順次従属 (SDEP) ですが、セグメント・コードが X'02' ではありません。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
8	DMAC アドレス
9	セグメント・データのアドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMGPF0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'30'		ISWITCH 障害
Subcode=X'130'		ISWITCH 障害
Subcode=X'31'		IMODULE GETMAIN - CSA ストレージ不足が起きている可能性があります。
Subcode=X'32'		IMSAUTH ページ固定エラー - 実ストレージ不足が起きている可能性があります。

レジスター

	内容
1	サブコード
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス
15	戻りコード

DBFMGRF0 の場合:

メッセージ・テキスト: DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'150' Reg6= セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg7= 最後のセグメント・ポインター RBA Reg14= サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMCB アドレス	NEXTITEM	セグメントの先頭バイトである DSEGCODE (Reg2 + X'00') が X'00' です。
Subcode=X'152' Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト Reg7= 最後のセグメント・ポインター RBA Reg14= サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMCB アドレス	NEXTITEM	これはセグメントではありませんでした。スクラップとして処理するための検査で、レジスター 2 の長さがゼロでした。
Subcode=X'252' Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト Reg7= 最後のセグメント・ポインター RBA Reg14= サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMCB アドレス	NEXTITEM	これはセグメントではありませんでした。スクラップとして処理するための検査で、レジスター 2 の長さが、FSE の長さ DFSEPLEN (DFSE + X'02') より大でした。
Subcode=X'352' Reg6= セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg7= 最後のセグメント・ポインター RBA Reg14= サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMCB アドレス	NEXTITEM	DSEGCODE (DSEG + X'00') が、有効セグメント、スクラップ (X'7x')、および FSE (X'Fx') に関してテストされました。これらのうちどれも検出されなかったため、セグメント・コードは無効です。
Subcode=X'153' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト	RUNCHAIN	DSEGCODE (DSEG + X'00') は、 X'01' でなければなりません。
Subcode=X'253' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト	CHECKBLK	DSEGCODE (DSEG + X'00') は、 X'01' でなければなりません。別の値が検出されたため、DBFMFGO0 に分岐しました。レジスター 15 に入っている DBFMFGO0 からの戻りコードは、 X'24' です。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'155' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg6=検索対象の次のセグメントの RBA Reg7= バッファ内データを越えた先頭バイトの RBA	SCANAPB	検索対象の次のセグメントのアドレスであるレジスター 6 のアドレスが、EPCBRBA (EPCB + X'4C') からの最大有効ポインター・アドレスであるレジスター 7 のアドレスより大です。
Subcode=X'255' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg6=検索対象の次のセグメントの RBA Reg7= バッファ内データを越えた先頭バイトの RBA	SCANANY	検索対象の次のセグメントのアドレスであるレジスター 6 のアドレスが、EPCBRBA (EPCB + X'4C') からの最大有効ポインター・アドレスであるレジスター 7 のアドレスより大です。
Subcode=X'157' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス	GETBLOCK	セグメントの RBA が無効です。ブロック長によって分割されてアンカー・ポイント RBA となるレジスター 7 のアドレス (EPCBRBA (EPCB+X'4C') からの) が、DMACFROW (DMAC+X'84') より大きい値です。レジスター 7 は、データの RBA であり、DMACFROW は、再編成作業域の始まりを示します。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	MLTE アドレス
3	EPCB アドレス
8	DMAC アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMIRC9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		MLTECRBA (Reg4 + X'14' から読み込まれる Reg0) がゼロに等しくなっています。
Subcode=X'120'		MLTENRBA (Reg4 + X'04' から読み込まれる Reg8) がゼロに等しくなっています。
Subcode=X'53' Reg8=親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト Reg14= 親 MLTE のアドレス		親の MLTESEGC (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス

- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMIRT0 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		親セグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、レジスター 7 で指示される親セグメントのセグメント・コードに等しくありません。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。DBFMRDPS マクロから異常終了が発行されます。
Subcode=X'153'		DSEGCODE (Reg6 + X'00') が X'01' に等しくありません。これは、ルート・セグメントでなければなりません。
Subcode=X'253'		MLTESGCD (Reg4 + X'1E') が DSEGCODE (Reg6 + X'00') に等しくありません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- | | 内容 |
|----|----------------------------|
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 6 | セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト |
| 8 | DMAC アドレス |
| 9 | DMHR アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMLOP0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていないときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

1026

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFMOC10 の場合:

メッセージ・テキスト: DMACBLKL EXCEEDS MAXIMUM CI SIZE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'55'	MOCICBUF	DMACBLKL (DMAC+7C) が、最大 DEDB バッファ ー・サイズ ESCDBUFL (ESCD+10C) を超えていま す。

レジスター

内容

- 0 ESCDBUFL
- 1 1026 異常終了サブコード
- 2 DMAC アドレス
- 6 DMACBLKL からの不正なバッファ
ー・サイズ
- 11 ESCD アドレス

DBFMPE9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	ABND1026	親 MLTESGCD (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しくありません。DBFMRDPS マクロから異常終了が発行さ れます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') に、DMAC のアドレスが入っ ています。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファ ーのアドレスで す。

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'00'	LOGERROR	モジュールは、どんな状況下でも、この時点ではこのラベルに移動し ません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ
ー内のセグメントのオフセット
- 8 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト

- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 14 親 MLTE のアドレス

DBFMPIO9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		レジスター 2 で指示されたセグメント・コードが、MLTESGCD (Reg4 + X'1E') 内の MLTE セグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDCS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

- | | |
|----|----------------------------|
| | 内容 |
| 1 | サブコード |
| 2 | セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 6 | バッファ内のセグメントへのオフセット |
| 7 | バッファの RBA |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMPSG9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'25' Reg2= PSB プール (EPCB + X'10' から の) にある PCB のアドレス	ABND1026	DBPCBLEV (Reg2 + X'08') の値が 1 より大です。マクロ DBFMCLBS から異常終了が発行されます。
Subcode=X'53' Reg6= バッファ内のセグメントのオフ セット Reg8=親セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg14= 親 MLTE のアドレス	ABND1026	親 MLTE セグメント・コード (Reg14 + X'1E') が、 予期されている親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しく ありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発 行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッ ファの アドレスです。

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11' Reg6= MLTE + X'57' Offset 0=S, 1=W, 2=Z, 3=M で始まるコマンド・コードの テーブルへのオフセット	LOGERROR	無効なコマンド・コードが検出されました。レジスター 6 の値が 負であるか、または 3 より大きい値です。モジュールは、コマン ド・コード S、W、Z、または M のみを処理します。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

1026

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMPSI9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		親 MLTESEGC (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg7 + X'00') に等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	バッファ内のセグメントのオフセット
7	親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス
14	親 MLTE のアドレス

DBFMPUG0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20' Reg8=DMAC アドレス Reg9=0	DEBUG	直前の MLTE ポインターがゼロに等しくなっていますが、これは無効です。
Subcode=X'120' Reg8=DMAC アドレス Reg9=0	DEBUG	MLTEPARP (Reg4 + X'3C') のポインターがゼロですが、これは無効です。
Subcode=X'53' Reg6= バッファ内のセグメントへのオフセット Reg8=MLTESGCD	DEBUG	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、直前のセグメントの DSEGCODE に等しくありません。MLTECLOC (Reg2 + X'00') は、直前のセグメントのアドレスを指します。また、DSEGCODE は先頭バイトです。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'153' Reg6=バッファ内へのセグメントへの オフセット Reg7= セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg8=MLTESGCD	SDEBUG	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、直前のセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	直前の MLTE のアドレス
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMRCU0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、レジスター 2 で指示されたセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	バッファ内へのセグメントへのオフセット
8	MLTESGCD
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMRPX0 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、レジスター 2 で指示された現行セグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRDCS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター

内容

1	サブコード
2	セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
6	バッファ内でのセグメントのオフセット
7	バッファの RBA
8	DMAC アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMRQC0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'33' Reg8=DMAC アドレス	DODEBUG	戻りコード (DBFMGPD0 または DBFMCTL0 からの) が無効です。有効な戻りコードは 0、4、8、および 12 のみです。無効な戻りコードがレジスター 0 に入っています。
Subcode=X'53' Reg6= バッファ内でのセグメントへのオフセット Reg8=MLTESGCD	DEBUG	MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、現行セグメント DSEGCODE に等しくありません。MLTECLOC (Reg4 + X'00') は、現行セグメントを指します。先頭バイトは、DSEGCODE です。マクロ DBFMRCCS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指します。

レジスター

内容

0	パラメーター・リストのアドレス
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
5	ESCD アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
14	EPSTTRRG (EPST + X'3BC') - レジスター保管域を指示
15	ESCDMSG (ESCD + X'3E8')

DBFMSEG0 の場合:

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT LENGTH

キー	ラベル	説明
Subcode=X'59'		DEDB バッファからユーザー入出力域へセグメントを移動するルーチンが、有効範囲内でないセグメントを検出しました。

レジスター

内容

1	SDBF アドレス
---	-----------

- 2 サブコード
- 3 固定長セグメントの長さ
- 7 可変長セグメントの長さ
- 10 EPST アドレス

DBFMSFI9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'25'	LOGERROR	オペレーター・テーブル (Reg4 + X'2E' の) からのブランチ・テーブル項目 MLTELLIO に、有効なオペレーターが含まれていません。

レジスター

- 内容
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMSFO9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21'	DEBUG	SSPP ポインター (Reg14) がゼロではありません。このポイントに達するには、SSPP にゼロ・ポインターがなければなりません。SSPP の検査前にチェックされた PCF ポインターがゼロでした。
Subcode=X'53'	DEBUG	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'22') が、レジスター 7 で指示されたセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'28') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'14') は、バッファのアドレスです。
Subcode=X'153'	DEBUG	セグメントの MLTESGCD (Reg4 + X'22') が、レジスター 8 で指示されたセグメントの DSEGCODE に等しくありません。DMHRDMAC (Reg9 + X'28') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'14') は、バッファのアドレスです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- 内容
- 1 サブコード
- 2 直前の MLTE のアドレス
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス

11 ESCD アドレス

DBFMSSA9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'33'		レジスター 0 の DBFMCCS9 からの戻りコードが無効でした。有効な戻りコードは、0、4、8、および 12 です。
Subcode=X'133'		レジスター 0 の戻りコードが無効です。有効な戻りコードは 0、4、8、および 12 です。この戻りコードは、ラベル NOUSETOC で生成され、さまざまな呼び出しからの無効な戻りとして使用されます。
Subcode=X'53' Reg2=セグメントのアドレス、 DSEGCODE は先頭バイト Reg6= バッファ内内のセグメン トへのオフセット	DEBUG	MLTESGCD (Reg4 + X'1E') がレジスター 2 で指示されたセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBRMRCCS から異常終了が発行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- | | |
|----|-----------|
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMSSD9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'25'		MLTELLEV (Reg4 + X'54') は、最終レベルを示す X'80' ですが、ラベル PATHLOOP の終了時にレジスター 15 に入っている戻りコードがゼロではありません。この状態は、データがこのレベルで移動されたことを示します。

レジスター

内容

- | | |
|----|-----------|
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFMSSR9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		EPCBLCID (Reg3 + X'3A') の EPCBLHLD で保留ビットがオンになっており、MLTE ポインタ (Reg4) がゼロになっています。レジスター 4 は、EPCBLKFP (Reg3 + X'6C') からロードされ、直前の呼び出しによってセットアップされます。

レジスター

	内容
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	ゼロ
8	DMAC アドレス
9	DMHR アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス
14	ゼロ

DBFMUHE0 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED OFFSET OR LENGTH PASSED IN

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12'		処理のために DBFMUHE0 に渡された更新のオフセットまたは長さ (あるいはその両方) が許容値ではありません。更新のオフセットと長さの合計が CI サイズを超えているか、または渡された長さがゼロです。

レジスター

	内容
0	呼び出し元から渡された長さ
1	呼び出し元から渡されたオフセット
2	異常終了サブコード (X'12')
8	CI サイズ
9	呼び出し元からの DMHR アドレス。領域の DMAC アドレスは、DMHRDMAC フィールドに入っています。
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス

DBFMVSN9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		EPCBPRGP (Reg3 + X'60' からロードされる Reg0) には、ゼロが含まれており、親子関係のある MLTE へのポインタが含まれていません。

レジスター

	内容
0	EPCBPRGP (Reg3 + X'60')、親子関係のある MLTE へのポインタ
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス

1026

- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFPFDS0 の場合:

メッセージ・テキスト: ADSC TO BE UNCHAINED NOT FOUND

キー	ラベル	説明
Subcode=X'24'		チェーニングを解除すべき次の ADSC/IDSC を指すポインタがゼロです。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 4 ADSC のアドレス
- 6 直前の ADSC のアドレス
- 11 ESCD のアドレス

DBFPFPB0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてしました (ESCDSYNL)。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFPGAP0 の場合:

メッセージ・テキスト: DL/I CALL TO WRONG UOW

キー	ラベル	説明
Subcode=X'72'		呼び出し UOW が、領域のルート・アドレス可能部分の外部にあります。
Subcode=X'172'		HSSP の終了 RBA は、独立オーバーフローにあるか、またはそれを超えています。
Subcode=X'272'		HSSP の終了 RBA は、独立オーバーフローにあるか、またはそれを超えています。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 8 DMAC のアドレス
- 11 ESCD のアドレス

DBFSLG20 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

0	ESCDSYNL フィールドの内容
1	サブコード
2	ESCD のアドレス
10	EPST のアドレス

DBFSLOG0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

内容

0	ESCDSYNL フィールドの内容
1	サブコード
2	ESCD のアドレス
10	EPST のアドレス

DBFSYP20 の場合:

メッセージ・テキスト: ERROR IN DMACNXTS OR SEQ DEPENDENT RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57'		レジスター 2 の RBA が順次従属ポインターより小さく、DMAC サイクル・カウントが一致しません。

メッセージ・テキスト: ERROR IN SEQUENTIAL DEPENDENT INSERT RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'157'		CI (Reg6 + X'3E') 内の先頭バイトの RBA が、先頭順次従属 (Reg8 + X'B0') の RBA と同じです。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	このレコードの RBA を指示
3	このレコードのデータ長 (ハーフワード)
4	このレコードのオフセット (ハーフワード)
6	LSRT アドレス
8	DMAC アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス
14	直接従属域の最初のアドレス (順次従属域を過ぎた位置の最初のバイト)

DBFTOPU0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

	内容
0	ESCDSYNL フィールドの内容
1	サブコード
2	ESCD のアドレス
10	EPST のアドレス

DBFUHCF7 の場合:

メッセージ・テキスト: SPACE FOR FSE AVAILABLE IS NEGATIVE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	ABEND1026	算出された使用可能なスペースが負であるため、FSE または SCRAP を作成できません。

メッセージ・テキスト: END OF FSE IS NOT AT END OF VSAM CSI

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	FSEERROR	元の FSE 長とオフセットをその FSE に加えた長さが、DEDB CI 接尾部 (CI、VSAM RDF、および VSAM CIDE の RBA) を除外した VSAM CI の長さに等しくありません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- | | 内容 |
|---|-----------------------------|
| 1 | サブコード |
| 2 | セグメントの移動先となるバッファ内の FSE アドレス |
| 9 | UHSW アドレス |

DBFUHGS7 の場合:

メッセージ・テキスト: EXPECTED FREE CI NOT EMPTY

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58'	IOVFPROC	HSREORG 中にセグメントのコピーに使用するために、取得された IOVF CI は解放されている必要がありますが、IOVF CI が解放されていませんでした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター

- | | 内容 |
|---|-----------|
| 1 | サブコード |
| 2 | UHSW アドレス |
| 9 | DMAC アドレス |

DBFUMAF0 の場合:

メッセージ・テキスト: UTILITY BUFFER MISSING

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		DEDB と関連付けられていないバッファのバッファ・ヘッダーのチェーンを指す、レジスター 2 のポインターがゼロです。ユーティリティ用のバッファを見つけることができません。

レジスター

- | | 内容 |
|----|--------------------------|
| 1 | サブコード |
| 2 | 関連付けのないバッファ・ヘッダーを指すポインター |
| 3 | TPCB アドレス |
| 4 | IOAR アドレス |
| 6 | DMAC アドレス |
| 8 | UTHR アドレス |
| 9 | バッファ・アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |

DBFUMAI0 の場合:

メッセージ・テキスト: I/O BUFFER CHAIN CONTAINS A RING

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21' Reg0=X'00' Reg5= 以前の DMR 内のチェーン・ポインター		レジスター 0 にゼロが入っています。順方向バッファ・ポインターがレジスター 14 (UTHRNEXT: Reg14 + X'00') で 0 になってループが終了する前に、レジスター 0 がゼロに減少してはなりません。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていないときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

レジスター

内容

0	バッファ番号カウンター
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	IOAR アドレス
8	DMAC アドレス
10	EPST アドレス
11	ESCD アドレス
13	PSTSAV1 アドレス
14	UTHR アドレス

メッセージ・テキスト: WRONG RBA FROM UTILITY, R7

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57' Reg2 は検証テーブル (EPSTURVR: Reg10 + X'270') の先頭を指す Reg5 はバッファ・アンカー (EPSTURIO: Reg10 + X'284') を指す Reg7= ブロック番号 Reg9 バッファ・ヘッダーを指す		レジスター 7 のブロック番号が、順次部分を超えた最初のブロックのブロック番号である DMACFBAD (Reg8 + X'2C') より大か等しくなっています。

レジスター

内容

0	バッファ番号カウンター
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	IOAR アドレス

- 8 DMAC アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 13 PSTSAV1 アドレス
- 14 UTHR アドレス

DBFUMAN0 の場合:

メッセージ・テキスト: GETMAIN FAILURE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'31'		レジスター 2 に、GETMAIN 用の 16 進ストレージ・サイズが入っています。レジスター 15 に、GETMAIN マクロからの戻りコードが入っています。

レジスター

- | | 内容 |
|----|------------------|
| 1 | サブコード |
| 3 | TPCB アドレス |
| 4 | IOAR アドレス |
| 8 | DMAC アドレス |
| 8 | UTHR アドレス |
| 10 | EPST アドレス |
| 11 | ESCD アドレス |
| 13 | SAVEAREA アドレス |
| 15 | GETMAIN からの戻りコード |

DBFUMCB9 の場合:

メッセージ・テキスト: CALLER BUFFER COUNT IS INCORRECT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		モジュール (Reg15) によってカウントされたバッファ数が、UTDWBUN (Reg11 + X'A26') に入っている予想バッファ数に等しくありません。

レジスター

- | | 内容 |
|----|-----------|
| 1 | サブコード |
| 3 | EPCB アドレス |
| 4 | MLTE アドレス |
| 9 | DMAC アドレス |
| 10 | SDBF アドレス |
| 11 | UTDW アドレス |
| 14 | DMCB アドレス |
| 15 | Count |

DBFUMCF9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	ABND1026	スペース (Reg0) が負の数値です。これは、FSE の場合には無効です。

メッセージ・テキスト: FSE LENGTH INCORRECT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'156'	FSEERROR	レジスター 14 には、残りのスペースと FSE へのオフセットを加えて計算された長さが保持されています。この値は、UTDWDEN0 (Reg11 + X'8A8') での CI 終了オーバーヘッドについて事前に計算されたオフセットに等しくなるはずですが、この 2 つの値が等しくありません。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 3 CITB アドレス
- 4 バッファ・アドレス
- 9 DMAC アドレス
- 10 SDBF アドレス
- 11 UTDW アドレス

DBFUMCW9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		処理するバッファの数 (Reg0) が、指定したバッファの数 (Reg11 + X'A26' - UTDWBUFN) を超えました。

レジスター

内容

- 0 処理するバッファ数
- 1 サブコード
- 11 UTDW アドレス

DBFUMFR9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode=X'24'		入力バッファは、まだ解放されていません。ルートのみが残るため、レジスター 2 の索引は X'01' になるはずですが、別の値が検出されました。
Subcode=X'124'		出力バッファは、まだ解放されていません。ルートのみが残るため、レジスター 2 の索引は X'01' になるはずですが、別の値が検出されました。

レジスター

内容

- 1 サブコード
- 2 索引
- 3 EPCB アドレス

- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 UTDW アドレス

DBFUMGS9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO FREE SPACE IN NEWLY ACQUIRED IOVF CI

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58'	LOGERR1	フリー CI は空のはずですが、これは空ではありません。

レジスター

- 内容
- 1 サブコード
- 4 UTHR アドレス
- 8 DBLK アドレス
- 9 DMAC アドレス
- 10 SDBF アドレス
- 11 UTDW アドレス

DBFUMIM9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNASSIGNED MESSAGE ID ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		レジスター 2 の ID が、まだメッセージに割り当てられていませんでした。メッセージ ID は、問題分析に使用できるように、レジスター 1 からレジスター 2 に移動されました。

メッセージ・テキスト: NO BUFFER AVAILABLE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'114'		使用可能なバッファがありません。

メッセージ・テキスト: INVALID PCL POINTER

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21'		PCL ポインターが無効です。

メッセージ・テキスト: INVALID PCF POINTER

キー	ラベル	説明
Subcode=X'121'		PCF ポインターが無効です。

メッセージ・テキスト: SSPT UNUSED IN PARENT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'221'		SSPT は、親の中で使用されません。

1026

メッセージ・テキスト: GETMAIN FAILED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'31'		GETMAIN が失敗しました。

レジスター

	内容
1	サブコード
2	メッセージ ID
7	IOAR アドレス
9	DMAC アドレス
11	UTDW アドレス

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED STATUS CODE

キー	ラベル	説明
X'34'		DEDB ユーティリティーが、サービス要求 (読み取り要求など) から予期しない状況コードを受け取りました。

メッセージ・テキスト: UNMATCHED SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		再編成ユーティリティーが、期待値と一致しないセグメント・コードを検出しました。

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT LENGTH

キー	ラベル	説明
Subcode=X'59'		再編成ユーティリティーが、有効範囲内に入っていないセグメント長を検出しました。

DBFUMPIO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		UTDWFLG (Reg9 + X'118') に、順次従属がすでに処理されたことを示す X'10' が入っています。
Subcode=X'114'		DCBOFLGS (Reg10 + X'30') が、DCB が正常にオープンされたことを示す X'10' に設定されていません。レジスター 10 は、UTDWPDCB (Reg9 + X'124') からロードされます。無効な DCB アドレスまたはオープンされていない DCB が、この問題の原因となった可能性があります。

レジスター

	内容
1	サブコード
6	バッファー・アドレス
9	UTPA (呼び出し元によって設定されたユーティリティー作業域の部分) を指します。UTPA は、UTDW + X'8F0' で始まります。

10 DCB アドレス

DBFUMSC0 の場合:

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT CODE FOR SEQ DEPENDENT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	UMSCWORK	レジスタ 8 で指示されたデータが、セグメント・コード X'02' で始まっていません。

レジスタ

	内容
1	サブコード
7	先頭バッファの RBA を指す
8	バッファ内のセグメントの先頭を指す
9	最終データ・バイトのアドレス
10	IOAR アドレス
11	UTDW アドレス
14	UMSCWORK サブルーチンからのリターン・アドレス
15	DMAC アドレス

DBFUMTQ9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		レジスタ 0 中の処理されたバッファの数が、UTDWBUN (Reg11 + X'A26') のキューに入れられたバッファの数を超えました。これはループです。

レジスタ

	内容
0	処理されたバッファの数
1	サブコード
3	EPCB アドレス
4	MLTE アドレス
11	UTDW アドレス

DBFXCGL0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ESCDRLAT (Reg11 + X'310') は、ラッチが使用可能な場合はゼロです。リソース・ラッチは、すでに保持されています。この問題は、誰かがリソース・ラッチの解放に失敗したことが原因で発生する場合があります。

レジスタ

	内容
1	サブコード
4	エントリー・ポイント・アドレス
10	EPST アドレス

1027

- 11 ESCD アドレス
- 13 SAVEAREA アドレス
- 15 ESCDRLAT (Reg11 + X'310')

システムの処置: 高速機能従属領域は異常終了します。

問題判別: モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値サブコードについては、異常終了の前に発行される DFS2712I メッセージを参照してください。

ソース: IMS 異常終了

- モジュール: DBFARDC0、DBFATRM0、DBFBENQ0、DBFBGET0、DBFCHKP0、DBFCSTS0、DBFDAC50、DBFDRC0、DBFDT190、DBFHCAS0、DBFMBED0、DBFMCCV9、DBFMCSS9、DBFMCRP9、DBFMCTL0、DBFMDLT0、DBFMDPT9、DBFMDRB0、DBFMDSG9、DBFMFLG0、DBFMFSE0、DBFMGLA9、DBFMGNR0、DBFMGNX0、DBFMGPD0、DBFMGPF0、DBFMGRF0、DBFMIRC9、DBFMIRT0、DBFMLOP0、DBFMOCIO、DBFMPEP9、DBFMPIO9、DBFMPSG9、DBFMPSI9、DBFMPIUG0、DBFMRCU0、DBFMRPX0、DBFMRQC0、DBFMSEG0、DBFMSFI9、DBFMSFO9、DBFMSRT0、DBFMSSA9、DBFMSSD9、DBFMSSR9、DBFMUHE0、DBFMVSN9、DBFPFDS0、DBFPFPB0、DBFPGAB0、DBFPGAP0、DBFSDEQ0、DBFSLG20、DBFSLOG0、DBFSMP10、DBFSYN10、DBFSYN20、DBFSYP20、DBFTOPU0、DBFUHCF7、DBFUHDS0、DBFUHGS7、DBFUMAF0、DBFUMA10、DBFUMAN0、DBFUMCB9、DBFUMCF9、DBFUMCW9、DBFUMFR9、DBFUMGS9、DBFUMIM9、DBFUMPIO、DBFUMSC0、DBFUMTQ9、DBFVSOP0、DBFVXOI0、DBFXCGL0

関連情報:

 DFS2712I (メッセージおよびコード)

1027

説明: これは、内部 IMS エラーです。高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、エラーが発生しました。

分析:

DBFBENQ0、DBFCBHL0、DBFSLOG0 の場合:

高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、論理エラーが発生しました。レジスター 15 に、以下の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02'	EPSTQBLK	チェーン上のブロックが、デキュー要求の制御ワードと一致しません。
Reg15=X'03'		指定されたエンキューの前に、QBLOCK が EPST で見つかりませんでした。
Reg15=X'06'	MSNQRCW	負のカウント値を持つリソースの制御ワードを指します。
Reg15=X'05'		指定したエンキュー呼び出しが DBFBENQ0 によって発行され、DFSLRH00 からの戻りコードが X'04' でした。
Reg15=X'09'		指定したエンキュー呼び出しが DBFBENQ0 によって発行され、DFSLRH00 からの戻りコードが X'08' でした。
Reg15=X'0D'		DBFBENQ0 がデキュー呼び出しでエンキューを発行し、DFSLRH00 からの戻りコードが X'12' でした。この戻りコードは、無効な呼び出しであることを示します。

DBFSLOG0 の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン DFSLRH00 から受け入れ不能な戻りコードを受け取りました。エラー時のレジスター (R14-R12) は、PSTSAV15 + 'C' に保管されます。レジスター 15 に、ロック要求処理プログラムからの戻りコードが入ります。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーであるか、または ENQ/DEQ プールが満杯です。

DBFMGXC0 の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン DFSLRH00 から受け入れ不能な戻りコードを受け取りました。次の表に示すように、DBFMGXC0 の内部には異常終了ルーチンに分岐する 2 つのルーチンがあります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'		SDEP CI ロック要求の重複です。
Reg15=X'12'	ENQRTN	DFSFXC10 の呼び出し時のエラーです。
Reg15=X'04' または X'08'	ENQORTN	内部論理エラー。このコードは発生してはなりません。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

DBFPUXC0 の場合:

UOW 競合検出のときに、DBFPUXC0 が、UXRB DMAC チェーンで排他モードの UXRБ を検出しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'11'		UOW 競合検出のときに、UXRB DMAC チェーンで排他モードの UXRБ が検出されました。新規 UXRБ も排他モードになっています。PROCOPT H PCB を持つ領域にアクセスできる領域は 1 つだけであるため、この条件は発生してはなりません。
Reg15=X'12'		DBFPUXC0 が新規の UXRБ を UXRБ EPST チェーンにチェーニングしようとしたのですが、同一の領域の UXRБ および RBA が、すでにこのチェーンに存在していました。

DBFSYN20 の場合:

SYNC 中に、既知のロックが解放される前に COMMIT が有効であることを確認する検査が行われます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'14'		DBFSYN20 は、DFSLR によってロックを解放しますが、ロック・テーブルが使用不可またはアクセス不能になっています。異常終了 0127 の時点で、DL/I、DC、または高速機能入出力が処理されていた場合は、異常終了 0113 も発生する可能性があります。

DBFXPIX0、DBFSDEQ0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFSLG20 の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン (DFSLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了しているモジュールが DFSLRH00 からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。モジュールは、高速機能リソースをデキューしており、ゼロの戻りコードのみを検出しなければなりません。レジスター 15 に、無効な戻りコードが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー。IBM サポートに連絡してください。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。クリティカル・リソースを保持中にエラーが発生した場合、制御領域は異常終了 0113 で異常終了します。

1028

プログラマーの応答: コードおよびその意味については、652 ページの『分析』を参照してください。

問題判別: 4、8、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFBENQ0、DBFCBHL0、DBFSLOG0、DBFSLOG0、DBFMGX0、DBFPUXC0、DBFSYN20、DBFXPIX0、DBFSDEQ0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFSLG20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1028

説明: 高速再編成ユーティリティの実行中に、再編成中のエリアで重大エラーが検出されました。領域の再編成中に、モジュール DBFUHAC7 がセグメントの非昇順キーを検出し、Subcode= X'C' が発行されました。以下のサブコード *nm* に対応したダンプのタイトルを付けて、SDUMP が取られます。レジスター 3 に、症状ダンプ内の障害サブコードが入っています。また、ルーチン UHREDUMP への入り口にある保管域内のレジスター 11 に、ユーティリティ作業域のアドレスが入っています。

サブコード	モジュール	意味
X'A'	DBFUHAC7	RAP RBA がバッファーにない
X'B'	DBFUHRE0	RAP CI のタイプが無効である
X'C'	DBFUHAC7	キーが昇順でない
X'E'	DBFUHCS7	PCL ポインターが無効である
X'F'	DBFUHCS7	PCF ポインターが無効である
X'11'	DBFUHRD7	SSPT ポインターが無効である
X'12'	DBFUHAC7	セグメント・コードが SDBF と一致しない
X'13'	DBFUHAC7	セグメント長が限度を超えている

分析: 異常終了 1028 の異常終了時に、汎用レジスターに次の情報が入ります。

レジスター

内容

- 3 Subcode= X'0000000C'
- 4 ルート・セグメントの RBA
- 5 非昇順キーを備えたセグメントの RBA
- 7 非昇順キー値を備えたセグメントを含む入力バッファーのアドレス
- 8 再編成されている AREA 用の DMAC のアドレス
- 9 非昇順キー値を備えたセグメントを含んでいる CI の DMHR のアドレス
- 10 非昇順キー値を備えたセグメントの SDBT テーブルにある現行セグメント・タイプのアドレス
- 11 UHSW テーブルのアドレス

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFUHRE0

1029

説明: モジュール DBFXWU30 が、非活動化されていない従属領域を再活動化しようとした。

分析: これは、DBFXWU30 によって発行される標準異常終了です。このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置: 高速機能従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: /CHECKPOINT ABDUMP コマンドを入力して、制御領域のダンプを取得します。

問題判別: このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。制御領域および従属領域のダンプが必要です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFXWU30

1030

説明: モジュール DBFXTCU0 が、非活動化されていない従属領域を再活動化しようとした。

分析: これは、DBFXTCU0 によって発行される標準異常終了です。このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置: 高速機能従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: /CHECKPOINT ABDUMP コマンドを入力して、制御領域のダンプを取得します。

問題判別: このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。制御領域および従属領域のダンプが必要です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFXTCU0

1031

説明: IMS 高速機能モジュールが、IMSAUTH マクロによって開始されたページ固定またはページ解放モジュール DFSV4200 から、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。IMSAUTH SVC で問題が検出されました。レジスター 2 に、FIX または FREE が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH PGFIX/PGFREE 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析: これは、3 つのモジュールのいずれかによって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に、「FIX」または「FREE」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、REG 14 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'	DBDPFIX	ページ固定操作が失敗しました。
Reg2=CL4'FREE'	DBDPFREE	ページ解放操作が失敗しました。

上に示した説明および表は、DBFDBDP0 のみに適用されます。DBFERS20 については、R7=A(SCD) (レジスターは、固定/解放リストを指さない) です。FIX および FREE の両方の場合については、異常終了はラベル ERS2ABND から発行されます。DBFTOPU0 については、R1=A (ページ固定/解放リスト)、R9=A(SCD) です。FIX および FREE の両方の場合については、異常終了はラベル ABND1031 から発行されます。

1032

DBFERS21 については、レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 6 には SCD のアドレスが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBDP0、DBFERS20、DBFERS21、DBFTOPU0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1032

説明: 実アドレス・ロード (LRA) 命令を使用して、仮想アドレスを実アドレスに変換しようとしている MSDB チェックポイント/ダンプ・モジュール DBFDBDP0 が、ゼロ以外の条件コードを設定しました。

分析: これは、DBFDBDP0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

レジスター
内容

- X'01' CCW 領域アドレスを変換できませんでした。
- X'02' 出力域アドレスを変換できませんでした。
- X'03' 制御レコードの領域アドレスを変換できませんでした。
- X'04' IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'	DBDPWDTA	データ・セット域を高速機能チェックポイント・データ・セットにダンプしようとしているときに、変換障害が発生しました。
Reg15=X'01'	DBDPWCTL	制御レコードを高速機能チェックポイント・データ・セットにダンプしようとしているときに、変換障害が発生しました。
Reg15=X'02'	DBDPWDTA	入力データ・アドレスを変換できませんでした。
Reg15=X'03'	DBDPWCTL	制御レコードの領域アドレスを変換できませんでした。
Reg15=X'04'	DBDPWDTA	IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- ハードウェア・エラー
- 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBDP0

関連情報:

656 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

1033

説明: アプリケーション・プログラムが、従属領域の JCL パラメーターの NBA および OBA パラメーターで指定されたものより多くの高速機能データベース・バッファを要求しました。

分析: これは、DFSECP10、DFSECP20、DFSISI00 によって発行される標準異常終了です。高速処理データベース (DEDB) 呼び出しアナライザー DBFMCL00 または主記憶データベース (MSDB) 呼び出しアナライザー DBFBCL10 が、DBFIRC10 に戻りコード X'0C' を返しました。この戻りコードは、「使用可能なデータベース・バッファがない」というリソース不足条件を示します。この条件を検証するには、ラベル EPSTBMAX および EPSTBUSE にあるキーワードを比較します。EPSTBMAX=EPSTBUSE である場合、指定したバッファの番号はすでに使用されています。

DBFIRC10 が、疑似異常終了コードを設定します。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラーであるか、または、NBA か OBA のいずれか (またはその両方) のパラメーターに指定された値が小さすぎます。

システムの処置: IMS は、メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムを終了させます。

プログラマーの応答: NBA パラメーターまたは OBA パラメーター (あるいは両方) を増やしてから、メッセージ・ドリブン従属領域を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSECP10、DFSECP20、DFSISI00

1034

説明: 従属領域から制御領域への (または、制御領域から従属領域への) ISWITCH が失敗しました。

分析: **DBFATRM0** と **DBFIRC10** の場合:

従属領域が終了していたため、ISWITCH を実行できませんでした。

これは、DBFIRC10 および DBFATRM0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、ISWITCH が GIVEBACK ルーチンで発行される場合に発生します。このルーチンは、メッセージを BALG に返す際に、直列化するために CTRL に切り替えます。

DBFCSTS0、**DBFMER00**、**DBFMFLG0**、**DBFXVUN0** の場合:

CTL TCB への切り替えのための ISWITCH、または XFP TCB へ戻るための ISWITCH を実行できません。

異常終了 1034 は、ページ固定要求が発行される前に CTL TCB への ISWITCH が失敗した場合、またはページ固定要求が発行された後に XFP TCB へ戻る ISWITCH が失敗した場合に、DBFCSTS0、DBFMER00、DBFMFLG0、および DBFXVUN0 から発行される標準異常終了です。

DBFDT900 の場合:

モジュール DBFDT900 は、オンライン・リカバリー・サービス (ORS) の下にある高速機能データベース・トラッカー終了モジュールです。FP CTL TCB 下で実行される EDBT のページ解放を確実にするために、ISWITCH が発行されます。その後、ORS の RWM TCB へ戻るための ISWITCH が発行されます。

これは、DBFDT900 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'01'		FPE TCB への ISWITCH
Reg2=X'02'		RWM TCB (ORS) へ戻る ISWITCH
Reg14=BALR		

キー	ラベル	説明
Reg15=ISWITC 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMLCL0 の場合:

モジュール DBFMLCL0 は、高速機能 TCB の下の AREA または ADS を閉じる、高速機能論理 CLOSE 処理モジュールです。TCB 切り替えのクローズを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMLCL0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMLOP0 の場合:

モジュール DBFMLOP0 は、高速機能 TCB の下のエリアおよび ADS を開く、高速機能論理 OPEN 処理モジュールです。これは、従属領域の DL/I 呼び出しによって起動されます。TCB 切り替えを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMLOP0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMPOP0 の場合:

モジュール DBFMPOP0 は、高速機能 TCB の下の AREA または ADS を開く、高速機能物理 OPEN 処理モジュールです。TCB 切り替えのオープンを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMPOP0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMSP0 の場合:

モジュール DBFMSDP0 は、領域 SDEP バッファをセットアップする高速機能モジュールです。これは、DBFMSDP0 によって発行される標準異常終了です。モジュール DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) が、ゼロ以外の戻りコードを渡しました。

DBFPICS0 の場合:

モジュール DBFPICS0 は、高速機能 TCB 下のイメージ・コピー・データ・セットを開く、高速機能物理 HSSP イメージ・コピー・セットアップ・モジュールです。イメージ・コピー・データ・セットのオープンは、HSSP イメージ・コピーを指定した従属領域の DL/I 呼び出しによって起動されます。TCB 切り替えを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用され、レジスター 12 は基底レジスターとして使用されます。

これは、DBFPICS0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入りのプログラムの状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg14=BALR Reg15=04 (DBFPICS0 によって発行されます)		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFSGAB0 の場合:

モジュール DBFSGAB0 は、共用プールからバッファを取得する高速機能モジュールです。これは、DBFSGAB0 および DBFSGAB1 によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、FP TCB への ISWITCH が、モジュール DBFPVTS0 で拡張処理を直列化するために発行された後で、モジュール DBFSGAB0 または DBFSGAB1 で待機している場合に発生します。

また、共用 VSO バッファが消耗した場合、またはバッファ使用量 EPSTBUSE が EPSTNBNA と EPSTABA0 の合計より大きい場合も、共用 VSO バッファにリソース不足の状態が生じる可能性があります。X'0c' の戻りコードが、モジュール DBFSGAB0 によって発行されます。

システムの処置: タスクは異常終了します。

プログラマーの応答: このエラー状態は発生してはなりません。IBM サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFATRM0、DBFCSTS0、DBFDT900、DBFIRC10、DBFMER00、DBFMFLG0、DBFMLCL0、DBFMLOP0、DBFPICS0、DBFMPOP0、DBFMSDP0、DBFSGAB0、DBFXVUN0

1035

説明: 指定された DD 名がないか DEDB エリア名リスト (DBFAREA) を検索した結果、「NOT FOUND」(見つかりません) 状態になりました。

分析: これは、DBFMSRH0 によって発行される標準異常終了です。DBFAREA にある特定の DDNAME のバイナリー・サーチを実行するモジュール DBFMSRH0 が、DDNAME を見つけられませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg8=0		DDNAME 項目が領域名リストから見つかりませんでした。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置: タスクは異常終了します。

1036 • 1038

プログラマーの応答: このエラー状態は発生してはなりません。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMSRH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1036

説明: レジスター 8 に含まれているエラー・メッセージ番号が、異常終了中のモジュール DBFMER00 が使用するエラー・メッセージ・テーブルに含まれていません。

分析: これは、DBFMER00 によって発行される標準異常終了です。エラー・メッセージ・テーブルは、エラー・メッセージ番号とそれらの関連テキストが入っている内部テーブルです。このテーブルは、DBFMER00 に含まれており、DBFMER00 によって保守されています。

キー	ラベル	説明
Reg9=MSGTBL	アドレス	エラー・メッセージ・テーブルのアドレス。
Reg8=	エラー・メッセージ番号	欠落しているメッセージ番号。

考えられる原因: この異常終了は、システム・テスト・サイクルの実行中に、新規のメッセージが作成された場合にのみ発生します。

システムの処置: タスクは異常終了します。

プログラマーの応答: このエラー状態は発生してはならないので、このダンプを保管します。

問題判別: 1、2、3、4、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMER00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1038

説明: 緊急時再始動中に、VSAM GENCB マクロが実行され、VSAM からゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析: この異常終了は、VSAM GENCB マクロが失敗した場合に、DBFERST0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg2=VSAM 理由コード、 Reg15=VSAM からの戻りコード	ERSTDMHR	GENCB マクロの VSAM 戻りコードおよび理由コード。

考えられる原因: GENCB マクロのオペランドの指定に誤りがあります。

システムの処置: IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 に戻りコード、レジスター 2 に VSAM からの理由コードが入っています。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFERST0

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1039

説明: FP DEDB オンライン・ユーティリティーで異常終了オプションが選択されました。

分析: オプション ERRORACTION=ABEND は、FP DEDB オンライン・ユーティリティーがエラー・メッセージ付きで終了した場合に、診断情報を提供します。

システムの処置: 処理終了後、ユーティリティーはダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFUMRTO

1040

説明: DFSBCB マクロは、制御ブロックに関連した IMS 高速機能を取得することができませんでした。

システムの処置: SYNC POINT LOG 処理の場合、この疑似異常終了は PSTABTRM に保管され、エラー・メッセージ DFS3022W が発行されます。処理は続行されます。

それ以外の場合は、IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: エラー・メッセージおよびメモリー・ダンプの分析によって示される情報に従って、障害の原因を判別します。ストレージの不足によって異常終了が発生した場合は、共通サービス域 (CSA) のストレージ割り振りを増加し、IMS の緊急時再始動を行って処理を再開してください。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS3022W (メッセージおよびコード)

1041

説明: 高水準プログラミング・インターフェース HLPI で、プログラミング・エラーに起因する状態が検出されたか、または DL/I が、プログラミング・エラーを示す状況コードを HLPI に戻しました。

分析: 1041 は、DFSEIPB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了時に、レジスター 2 に制御ブロック DFSSDIB のアドレスが入ります。マクロ DFSHLPDS の DLZSDIB DSECT を参照してください。すべての領域が、この制御ブロックによってアドレス指定され、DFSHLPDS の DSECT によってそれぞれ記述されます。DFSEIPB0 は、レジスター 11 を基底レジスターとして使用します。DL/I 用の実呼び出しパラメーター・リストが異常終了時に完全ではなかった可能性があります。これは、制御ブロック DFSSDIB にあるラベル DIBPARM で検出されます。

考えられる原因:

レジスター

内容

DHTN 初期設定呼び出し (CICS 変換プログラムによって実行しなければならない) の発行の失敗、または DFSDIB 制御ブロックがオーバーレイされたことが原因と考えられます。

1042

その他のすべてのコード

アプリケーション・プログラムを訂正する必要があります。HLPI は、正常に完了した状況コードのみ、アプリケーション・プログラムに返すことを許可します。

システムの処置: IMS はダンプ付きで異常終了し、メッセージ DFS1041 が発行されます。

プログラマーの応答: 状況コードの説明については、「IMS V13 アプリケーション・プログラミング」を参照してください。アプリケーション・プログラムを訂正します。

問題判別: 4、11、19、およびマクロ DFSHLPDS のリストを入手します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSEIPB0

関連情報:

 DFS1041

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1042

説明: IMS またはアプリケーション・スレッドで、IMS 内部制御ブロック・エラーのために障害が発生しました。

あるいは、緊急時再始動で、バッファが複数回解放されている状態が検出されました。この状況により予測不能の結果が生じる可能性があるため、緊急時再始動は異常終了しました。

分析: レジスター 15 にある理由コードを確認してください。

理由コード

説明

R15=X'03'

DBFDBLS0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'04'

DBFDLSR0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'05'

DBFEHSH0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'06'

DBFERDB0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'07'

DBFEROC0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'08'

DBFERST0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'09'

DBFERS10 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'0A'

DBFERSY0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

DBFBPNI0、DBFBPNK0:

高速機能バッファの取得または解放を試行中にIMS またはアプリケーション・スレッドが IMS 内部制御ブロック・エラーを検出しました。プロセスは、このエラーからリカバリーできなかったため、終了する必要があります。

システムの処置: バッファの取得を試行しているプロセスは異常終了します。

プログラマーの応答: IMS を再始動または再起動 (recycle) してください。IMS の再始動または再起動 (recycle) 後にも問題が解決しない場合は、DBBF、BSIZ、および DBFX パラメーターを使用して前のバッファ・マネージャーにフォールバックしてください。

緊急時再始動中に異常終了が発生した場合は、緊急時再始動を再試行します。問題が解決しない場合は、IMS のデータ

ベース部分のコールド・スタートが必要です。IMS のデータベース部分のコールド・スタートでは、影響を受けた DEDB エリアのリカバリーが必要になる場合があります。

問題判別: メモリー・ダンプやログなどのサポート用資料を保存した状態で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFBPNI0、DBFDLS0、DBFDLSR0、DBFEHSH0、DBFERDB0、DBFEROC0、DBFERST0、DBFERS10、DBFERSY0

1043

説明: DFSDFxxx で FPBP64=Y を定義しましたが、FPBP64M を指定しませんでした。

分析: DBFFATC1 については、IMS 初期設定中に FPBP64=Y の指定が検出されました。このパラメーターにも、FPBP64M の指定が必要です。

システムの処置: IMS 初期設定は終了します。

プログラマーの応答: 1 MB から 2047 MB までの値を使用して FPBP64M を指定してください。その後、IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFFATC0

1044

説明: アプリケーション・プログラムが GUR DL/I 呼び出しを発行しましたが、IMS カタログが使用可能になっていません。

分析: IMS カタログが使用不可の場合、GUR 呼び出しはサポートされません。

IMS カタログはデフォルトで使用不可であるため、そのデフォルトが有効になっているか、CATALOG=N が明示的に指定されています。

システムの処置: IMS 領域は終了します。

プログラマーの応答: IMS カタログが使用可能でない理由を特定し、問題を訂正してください。問題を訂正したら、IMS を再始動します。

デフォルト値が有効になっている理由は、以下のいずれかと考えられます。

- 始動プロシージャ内で DFSDF=xxx パラメーターが指定されていない
- IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) がバッチ環境で使用されなかった
- DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <CATALOGxxxx> セクション・ヘッダーに誤った IMS ID が指定されている

CATALOG=N パラメーターが、DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクション内、または DFS3CDX0 出口ルーチン内で明示的に指定されている可能性があります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCPY00、DFSBINT0

1046

説明: IMS 高速機能 SDEP ユーティリティーが、発生してはならない状態を検出し、その状態を記述するために DBFDEBUG マクロを発行しました。メッセージ DFS2712I が、エラーを説明するテキストおよびサブコードと共に発行されます。JOBLOG に送られた診断情報には、DMAC、エラー内の CI バッファー、IOAR 制御ブロック、HWM RBA とそのタイム・スタンプ、開始位置の RBA、停止位置の RBA とそれらのオプション、作業バッファー・セット、および異常終了時のレジスターが含まれます。

1046

分析: これは、モジュール DBFUMDL0、DBFUMSC0、および DBFUMRT0 から発行される標準異常終了です。
異常終了 1046 が発行される前に、レジスター 14 に命令のアドレスが入ります。サブコードには、次の意味がありません。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'91'		タイム・スタンプの変換が正常に行われませんでした。
Subcode=X'92'		ストア・クロックへの変換が正常に行われませんでした。
Subcode=X'93'		ユーティリティ・アプリケーションが領域への接続に失敗しました。
Subcode=X'94'		無効な SDEP CI が見つかりました。
Subcode=X'95'		セグメント・コードが SDEP ではありません。
Subcode=X'96'		無効なユーティリティ名を指定しました。
Subcode=X'97'		無効な CI 接尾部が見つかりました。
Subcode=X'98'		SDEP セグメントのオフセットが CI サイズ外です。
Subcode=X'99'		不正な CC+RBA が見つかりました。
Subcode=X'9A'		すべての新規フォーマットが指定され、旧フォーマットを検索します。
Subcode=X'9B'		読み取られた最初の新規フォーマットが、最初のバッファ内にありません。
Subcode=X'9C'		不正な DMACXVAL が見つかりました。

システムの処置: 高速機能 SDEP ユーティリティは異常終了します。

問題判別: モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値サブコードについては、異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2712I を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFUMDL0、DBFUMDL0、DBFUMRT0

関連情報:

 DFS2712I

第 23 章 IMS 異常終了コード 1051 - 2000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

1051

説明: オンライン変更中に、高速機能 DEDB 変更の処理で予期しない状態が発生しました。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 4、36

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1060

説明: DFSCCTL データ・セットにエラーがあります。付随するエラー・メッセージ DFS0491A および DFS0492I にエラーが説明されています。

分析: DBFCPY00 の場合:

IMS が、従属領域でスケジュールされた PSB を持つ問題を検出し、DFS0501A、DFS0504A、または DFS0525A のいずれかメッセージを発行しました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: メッセージにある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCPY00、DFSSBI00

関連情報:

 DFS0491A

 DFS0492I

1061

説明: GETMAIN ルーチンが、HSSP 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。

分析: GETMAIN ルーチンが、sp231 ECSA のセグメント作業域 (EPSTSEG1 および EPSTSEG2) の取得に失敗しました。

GETMAIN を正常に完了するには、ECSA を解放する必要があります。その後で、異常終了したジョブを再実行することができます。DBCTL スレッドについては、メッセージ DFS0527A も発行されます。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: REGION パラメーターのサイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この異常終了が再発する場合、CSA 使用量が減るまで待ってから、ジョブを再実行します。

ソース: IMS 異常終了

1062 • 1063

モジュール: DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFCPY00

1062

説明: 高速順次処理 (HSSP) イメージ・コピーが失敗しました。

分析: この異常終了は、DFSECP10 によって発行されます。これは、次の 2 つの場所のいずれかに設定されます。

DBFPICS0

イメージ・コピーのセットアップが失敗しました。レジスター 2 に、DMAC のアドレスが入っています。この異常終了は、メッセージ DFS0531I か、メッセージ DFS0532I のいずれか (または両方) の後に続いて発行されます。

DBFSIC10

イメージ・コピー入出力が失敗しました。レジスター 2 に、DMAC のアドレスが入っています。レジスター 5 に、ESRB のアドレスが入っています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0531I または DFS0532I (あるいは両方) の情報に基づいて問題を訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFPICS0、DBFSIC10、DFSECP10

1063

説明: IMS FP バッファ・プールの管理中に、内部 IMS システム・エラーが発生しました。これらのバッファは、SVSO 専用バッファ、DBBF パラメーターおよび BSIZ パラメーターによって定義された共通バッファ、または FPBP64=Y パラメーターを指定して割り振られたバッファの、いずれかの可能性があります。エラーの原因は、分析セクションで説明します。

エリア専用バッファが NBA/OBA バッファ・チェーン上にあったか、または NBA/OBA バッファがエリア専用バッファ・チェーン上にありました。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。

分析: **DBFIBUF0** の場合:

データベース・バッファをページ固定しようとしているとき、またはページを解放しようとしているときに、使用可能キューで専用バッファが検出されました。IMS 制御領域は終了します。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFPFAB0 の場合:

通常の DB バッファが、専用バッファ解放ルーチンに返されました。IMS 制御領域は終了します。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFMDBQ0 の場合:

DBFMDBQ0 は、バッファ・ヘッダー (DMHR) および XCRB をそれぞれに対応するキューに入れようとしているときに、DMHR を指すダミー XCRB を検出しました。

DBFPGAB0 の場合:

メッセージ・テキスト: NOT ENOUGH PRIVATE BUFFERS OBTAINED

レジスター

内容

2 DMAC のアドレス

11 ESCD のアドレス

DBFSGAB0 の場合:

モジュール DBFSGAB0 の Csect DBFSGAB1 は、再始動用の共用プールからバッファを取得します。

1063 は、再始動によってバッファを取得できず、プールが拡張されていない場合に、DBFSGAB1 によって発行される標準異常終了です。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFBPNI0 の場合:

FP 64 ビット・バッファ・マネージャーによって管理されているバッファの要求中に、呼び出し元へ誤ったバッファが返されそうになりました。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFBPNK0 の場合:

FP 64 ビット・バッファ・マネージャーによって再利用可能なバッファを作成中に、返されるバッファが SVSO 専用バッファまたは 64 ビット・バッファ・マネージャーの一部として割り振られたバッファではありませんでした。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIBUF0、DBFPFAB0、DBFMDBQ0、DBFPGAB0、DBFSGAB0、DBFBPNI0、DBFBPNK0

1064

説明: HSSP は、エリアの処理を終了すると、すべての専用バッファが戻された後で、専用バッファ・プールを解放します。一部の専用バッファが戻されなかったため、HSSP が専用バッファ・プールを解放できませんでした。これは、IMS 内部システム・エラーです。レジスター 15 には、サブコードが入ります。

分析: レジスター 15 には、以下のいずれかのサブコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		HSSP 領域終了の際は、OTHTREADS がすべての領域専用バッファの書き込みを終了し、それらを専用バッファ・プールに戻すまで待つ必要があります。これらのバッファが返されなかったために、OTHTREADS が完了しませんでした。
Reg15=X'02'		専用バッファを備えたすべての DMAC は、ESCDDMPB チェーンに置かれます。この DMAC がチェーンに見つかりませんでした。
Reg15=X'03'		AWE 用ストレージを取得できません。

これは、IMS 内部システム・エラーです。IBM サポートに連絡して、特定の問題の判別の支援を受けます。

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、問題の判別の支援を受けます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFPFPB0

1065

説明: アプリケーションが、PROCOPT H および PROCOPT GO を指定して定義されている PCB を使用して、呼び出しを行いました。この処理オプションの組み合わせは無効です。

システムの処置: 従属領域は終了します。

1070 • 1143

プログラマーの応答: 処理オプションの無効な組み合わせを訂正するか、または他の PCB を使用します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFIRC10

処理オプションの無効な組み合わせを訂正するか、または呼び出して他の PCB を使用します。

1070

説明: IMS 制御領域のサブプール 231 にある専用バッファ・プールのストレージに対する IMODULE GETMAIN 要求、またはそのストレージのページ固定の要求が失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: CSA または ECSA ストレージ・サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

プログラマーの応答: z/OS システム・プログラマーに相談して、CSA または ECSA サイズを増やします。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFPVTS0

1143

説明: 進行中の HALDB オンライン変更操作により、セグメントのサイズが大きくなったことを IMS が検出しました。IMS は、より大規模な PSB 作業域を取得しようとしたのですが、取得できませんでした。原因として最も可能性が高いのは、PSB 作業域プールが小さすぎるか、IMS がより大規模な PSB 作業域に必要なストレージを取得できないかのどちらかです。ただし、この異常終了は、内部論理エラーの結果として発生する場合があります。IMS はこの異常終了についてエラー・メッセージを発行し、エラーに関する追加情報を提供します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、IMS はエラー・メッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了の原因に関する追加情報は、IMS が異常終了と共に発行したエラー・メッセージを検索してください。

エラー・メッセージでは問題が分からない場合、システム・ストレージの使用量が異常に高くないかどうかを確認してください。IMS または別の z/OS サブシステムで著しく高い作業負荷または問題がある場合には、システム・ストレージを一時的に使い尽くしている可能性があります。

使用可能なシステム・ストレージの量が問題ではない場合、PSB 作業域プールが、同時にスケジュールされている PSB 数に必要な PSB 作業域すべてを保持するために十分な大きさであるかどうかを確認します。HALDB 変更操作とオンライン変更の両方が完了して、新規のデータベース変更にアクセスできるようになったら、PSB 作業域プールのサイズを変更できます。この際、BUFPOOLS システム定義マクロ、あるいは DBC、DCC、または IMS 開始手順のいずれかで PSBW パラメーターを変更します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBLP0, DFS5DBB0

関連概念:

 PSB、PSBW、および DMB プールのチューニング (システム管理)

関連資料:

 IMS プロシージャのパラメーターの説明 (システム定義)

 BUFPOOLS マクロ (システム定義)

1352

説明: 正常に完了したコミットの直後に、DBT スレッドが DLI 呼び出しを発行しました。しかし、DLI 呼び出しの処理中に、SWITCH_CONTEXT サービス要求が失敗しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT5J 00001 G PLAPJK04(7) 000,1352 2014 +
/280 09:44:18 RTKN= ODBA00260000000200000001
```

システムの処置: DLI 呼び出しは処理されず、DBT スレッドは異常終了しました。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別: 1、3、5、33、36

モジュール: DBFIRC10、DFSCPY00

関連資料:

 IMS プロシーチャーのパラメーターの説明 (システム定義)

1500

説明: データベースのリカバリーが試みられました。タスク入出力テーブルとスケジューラー作業域との間に不整合がありました。割り振られた DD 名が、タスク入出力テーブル内で見つかりませんでした。

分析: これは、モジュール DFSMDA00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: IMS システム・エラー

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSMDA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1501

説明: サポートされない DASD 装置に対してデータベース・リカバリーが試みられました。

分析: これは、モジュール DFSMDA00 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: データベースを定義する JCL が正しいかどうか、および IMS でサポートしていない装置をサポートしようとして IMS をユーザー変更していないかどうかを確認します。

問題判別: 4、8、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSMDA00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

1780

説明: ラッチが要求されている間に、ラッチのためのアプリケーション呼び出しが待ち状態に入りました。ラッチの実行時に、ITASK はアプリケーションに通知し、ITASK が送信した通知コードとそのアプリケーションが予期している通知コードが一致していることを確認する検査が行われます。一致しないときには、予期しない結果によって異常終了が起こります。

システムの処置: 従属領域は終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 4、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 24 章 IMS 異常終了コード 2001 - 3000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

2277

説明: OLR のコミットまたはバックアウト中に、バッファ消去が呼び出されました。ただし、バッファ・キュー・エレメント (BQEL) によってアドレッシングされるバッファの所有権の取得中に、バッファ・ハンドラー DFSDVBH0 で障害が発生しました。DFSDVBH0 からのブロック探索が失敗し、その結果、ラベル VBHP3160 の後に DFSDVBH0 から標準異常終了が発行されました。標準異常終了の理由は、バッファに書き込むことができず、コミットまたはバックアウト中にこのバッファを指し示す BQEL を解放できないことです。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: DL/I トレース・エントリーまたは PSTRTCDE にある、ブロック探索からの戻りコードを調べてください。レジスター 2 (R2) は BQEL を指し示します。

ブロック探索戻りコードによって示された障害を訂正してください。

問題判別: 1、6、17a から 17e、11、および 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDVBH0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2476

説明: RECON データ・セットへの入出力が妨げられると、DBRC が異常終了します。この異常終了の場合は、CICS 緊急時再始動 (テークオーバー) を進めることができます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

ソース: IMS 異常終了

2478

説明: プログラム分離処理中に、待ち PST の最大数を超えました。リソースを待つ必要があり、また DFSFXC10 は WAIT 状況ではこれ以上のシステムを処理することができないため、アプリケーション・プログラムは異常終了します。

分析: これは、DFSFXC10 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、メッセージ処理プログラム (MPP) は自動的にスケジュール変更されます。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムがバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最新の同期点からスケジュールを変更する必要があります。

問題判別: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFXC10

2479

説明: バッファー・キュー・エレメント (BQEL) に使用可能な十分なストレージが、アプリケーション・プログラムにありません。

分析: これは、DFSDBH10 および DFSDVSM0 によって発行される疑似異常終了です。

アプリケーション・プログラムがバッチまたはバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最後に完了した同期点からスケジュールを変更する必要があります。メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。この問題がバッチで発生する場合、領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この問題が DB/DC 環境で繰り返し発生する場合は、IMS 制御領域にさらに大きい CSA サイズまたは領域サイズ (あるいは両方) を指定してから、IMS を再始動します。

考えられる原因: CSA サイズまたは領域サイズが小さすぎた可能性があります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了し、メッセージ処理プログラム (MPP) は自動的にスケジュール変更されます。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムがバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最新の同期点からスケジュールを変更する必要があります。

プログラマーの応答: この問題がバッチで発生する場合、領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この問題がオンライン環境で繰り返し発生する場合は、IMS 制御領域により大きな CSA サイズまたは領域サイズ (あるいは両方) を指定して、IMS を再始動します。

問題判別: 必要なアクションはありません。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDBH10、DFSDVSM0

2480

説明: IMS データベース・リカバリー管理 (DBRC) で内部エラーが検出されました。エラーの内容を示すエラー・コードを含んだメッセージ DSP0300I が発行されます。個別のエラー・コードの説明については、メッセージ DSP0300I を参照してください。

システムの処置: メッセージ DSP0300I は、IMS が異常終了したか (メッセージ・テキスト内に TERM)、続行するか (メッセージ・テキスト内に CONT) を示します。

プログラマーの応答: メッセージ DSP0300I のエラー・コードを調べて、可能であれば問題を訂正し、ジョブを再実行します。問題を訂正できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別: 2、3、4、8、35、および RECON データ・セットのリスト。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

DSP0300I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2481

説明: データベース・リカバリー管理 (DBRC) にアクセスするために必要なモジュールの探索に、BLDL マクロがエラーを検出しました。

分析: レジスター 15 に、BLDL マクロからの戻りコード、レジスター 3 に BLDL 理由コードが入っています。DBRC がインストールされている場合、探索エラーの原因を判別します。また、データベース・ログ情報またはユーティリティー情報がアクセス不能であったため、これらの情報を RECON データ・セットに入力しなければならない場合もあることに注意してください。

この異常終了を出すモジュール名を以下に示します。

ユーティリティ
 異常終了の発行元モジュール
 ログ・リカバリー
 DFSULGI0
DEDB ログ・データ・セットおよび検査
 DFGLOGC0
 変更累積
 DFSUCMN0
 オンライン・イメージ・コピー
 DFSUICP0

システムの処置: この異常終了の前に、メッセージ DFS2481I が出力されます。処理は異常終了します。

プログラマーの応答: レジスター 15 に、BLDL マクロからの戻りコード、レジスター 3 に BLDL 理由コードが入っています。データベース・リカバリー管理がインストールされている場合、探索エラーの原因を判別します。また、データベース・ログ情報またはユーティリティ情報がアクセス不能であったため、これらの情報を RECON データ・セットに入力しなければならない場合もあることに注意してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULGI0、DBFLOGC0、DFSUCMN0、DFSUICP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2482

説明: 前に呼び出された機能要求が進行中であるのに、IMSの機能を実行するために DBRC ルーター (DSPCRTR0) が呼び出されました。DBRC は、呼び出し元の一部でプログラミング・エラーを検出しました。DBRC は、複数の機能要求を並行して実行できません。

分析: DBRC に対する再帰呼び出しは使用できません。マルチタスクの実行中は、呼び出し元は、別の要求を開始する前に、DBRC サービスに対する要求を確実に完了する必要があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 診断情報をすべて保存し、IBM サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別: 2、3、4、8、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DSPCRTR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2483

説明: DBRC モジュールへの呼び出しを解決するため、DBRC ロダー (DSPLOADR) が呼び出されました。既知の DBRC ロード・モジュール内の存在しないエントリー・ポイントか、または、不明なロード・モジュール内のエントリー・ポイントが呼び出されました。DBRC ルーター・ストレージでの呼び出されるモジュールの索引が、未定義のモジュールを示しているため、モジュール呼び出しは無効です。

分析: DBRC には、現在ストレージに無い DBRC ロード・モジュール内のエントリー・ポイントへの呼び出しをインターセプトできるメカニズムが組み込まれています。DBRC では、呼び出しが完了する前に、必要なロード・モジュールを確実にロードすることができます。異常終了 2483 は、不明なエントリー・ポイントへの呼び出しが発生したことを示します。通常これは、システム修正変更プログラム (SMP) プロセスの結果として発生します。ユーザーは、

2484 • 2485

DBRC の「呼び出しインターセプト」メカニズムによる最新の変更で影響を受けたモジュールの再コンパイル、または適切なバインドに失敗しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 診断情報をすべて保存し、IBM サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別: 2、3、4、8、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DSPLOADR

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2484

説明: DFSBCB マクロを使用して、IMS 高速機能に関連する制御ブロックを取得できませんでした。レジスター 2 に、障害のあった制御ブロックの識別情報が入っています。

分析:

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、異常終了を発行するモジュールの基底レジスターです。

FUNC=GET が指定された DFSBCB マクロは、要求された制御ブロックを取得できなかったことを示す、ゼロ以外の戻りコードを発行します。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 2 には、取得できなかった制御ブロックを示す EBCDIC コードが入ります。

また、この異常終了は、FP 通知タスク・モジュール (DBFICLI0) から発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'AWE'		非同期作業エレメント (AWE) を取得できませんでした。
Reg2=C'ADSC'		エリア・データ・セット制御ブロック (ADSC) を取得できませんでした。
Reg2=C'FNCB'		FNCB を取得できません。
Reg2=C'FPCP'		FPCP を取得できません。
Reg2=C'FNCB'		FNCB を取得できません。
Reg2=C'L56X'		L56X ブロックを取得できません。
Reg2=C'STOR'		要求されたストレージを取得できませんでした。

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: より多くの CSA スペースを与えて、IMS を緊急時再始動して処理を再開します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFBNPI0、DBFBPNS0、DBFBPN10、DBFBPN50、DBFBPN70、DBFBN80、DBFDIDT0、DBFDT300、DBFICLI0、DBFMEQE0、DBFMFLG0、DBFMLBI0、DBFMLBR0、DBFMLOP0、DBFNRST0、DBFUMER0、DBFARD10、DBFARD30、DBFARD40、DBFCST00、DBFVXCS0、DBFVXCS0、DBFICL40

2485

説明: DBFLATCH マクロを使用した DMAC 排他的ラッチの保持が、ラッチがすでに存在しているために失敗しました。

分析: これは、高速機能強化 DBFLATCH マクロから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFLATCH 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB のレジスター 12 は、DBFLATCH マクロを発行するモジュールの基底レジスターです。

TYPE=GEXC を指定した DBFLATCH マクロを実行すると、DMACSLWC フィールドに、すでに保持されている DMAC 排他的ラッチが表示されます。DMAC 排他的ラッチは、一度に 1 つしか保持できません。

キー	ラベル	説明
	DMACSLWC	ビット 0 がオンの場合、DMAC 排他的ラッチが保持されます。

システムの処置: IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答: このエラー状態は発生してはならないので、メモリー・ダンプを保管しておいてください。

問題判別: 11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMLOP0、DBFMLCL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2486

説明: 内部のエリア停止または ADS 停止のための通知要求が、IMS または IRLM での重大エラーのために失敗し、IRLM から戻りコードを受け取りました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。問題を修正できない場合は、IBM に連絡して追加支援を受けてください。

問題判別: 1、3、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2488

説明: DEDB エリア・データ・セットの使用可能フラグをセット/リセットするために DBRC が呼び出されたときに、IMS または DBRC のいずれかで論理エラーが発生しました。

分析: これは、高速機能緊急時再始動モジュール DBFERST0、DBFEAIS0、または DBFE2CI0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFERST0 内の命令を指しています。

- 異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。
- レジスター 15 に、以下のコードおよびその意味が入っています。

コード (16 進数)

意味

- X'0C'** DBRC によって設定された戻りコードは、エリアが RECON データ・セットに登録されていないことを示しています。エリア・データ・セットの状況呼び出しは、エリアが DBRC に登録されている場合のみ発行されるので、内部エラーが発生しました。
- X'10'** DBRC によって設定された戻りコードは、エリア・データ・セットが RECON データ・セットに登録されていないことを示しています。エリア・データ・セットの状況呼び出しは、DBRC に登録されているエリア・データ・セットにのみ発行されるので、内部エラーが発生しました。
- X'2C'** DBRC によって設定された戻りコードが、エリア・データ・セット状況呼び出しの処理中に、内部 DBRC エラーが発生したことを示していました。詳しくは、この異常終了の前に DBRC によって発行されるメッセージを参照してください。

2489 • 2490

X'30' DBRC によって設定された戻りコードは、必要パラメーターが DBRC に渡されていないことを示しています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: DBRC に関連した問題を訂正してから、ジョブを再実行します。障害の原因を判別するには、DBRC 要求戻りコード情報にある戻りコードを参照してください。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFERST0、DBFEAIS0、DBFE2CI0

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2489

説明: DEDB エリアを停止するために高速機能共通サービス ITASK ルーチンに対して発行された非同期作業エレメント (AWE) エンキュー・コマンドが、内部エラーのために失敗しました。

分析: これは、高速機能強化 DEDB の 2 番目の CI 更新プロセッサ、または高速機能 XRF 領域クリーンアップ・モジュール (DBFEACL0) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFMOCIO 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。

この異常終了の前に、次の MTO メッセージが発行されます。

```
DFS3717I DEDB AREA CONTROL BLOCK NOTIFY
          FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbname
          AREA=areaname
```

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: エリアを停止する理由については、この異常終了の前に発行されたメッセージを参照してください。データベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を実行してエリアをリカバリーしてから、ジョブを再実行します。問題を判別することができない場合、「問題の判別」に進んで、障害の原因を判別します。

問題判別: 1、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFMOCIO、DBFEACL0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2490

説明: 基本プリミティブ環境で DBRC を実行中に内部 DBRC エラーが発生しました。レジスター 15 に、異常終了の理由を示すコードが入っています。

表 10. レジスター 15 のサブコードおよび説明

サブコード	説明
X'0010'	ストレージ割り振り中にエラーが発生しました。レジスター 14 に、BPEGETM からの戻りコードが入っています。
X'0020'	モジュールのプリロード中に、エラーが発生しました。

表 10. レジスター 15 のサブコードおよび説明 (続き)

サブコード	説明
X'0024'	BPELOAD の呼び出し中に、エラーが発生しました。
X'0110'	BPEPARSE 作業域を割り振ることができませんでした。
X'0120'	DSPBIxxx メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。
X'0130'	DBRC ランタイム・パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。
X'0134'	DSPBIxxx メンバーの構文解析中に、エラーが発生しました。
X'0140'	DSPBIxxx または DBRC EXEC のパラメーターの妥当性検査中に、エラーが発生しました。
X'0210'	RECON データ・セットの真のオープン中にエラーが発生しました。
X'0220'	IMS が使用している IMSplex 名が、DBRC が使用している名前と異なります。
X'0230'	IMS リソース・マネージャー・パラメーター・リスト・ブロック (IRMP) に DBRC 情報を保管中にエラーが発生しました。
X'0240'	システム管理機能 (SMF) の登録中にエラーが発生しました。
X'0250'	IMS システム目録ディレクトリー (SCD) が見つかりませんでした。
X'0260'	ジョブ名が DBRCNM パラメーターと一致しません。
X'0270'	DBRC 従属領域はすでに開始しています。
X'0280'	SVC INIT の障害。
X'0290'	クロスメモリー POST の障害。
X'0610'	グループ・サービス・ラッチの取得に失敗した。レジスター 14 に、BPELAGET からの戻りコードが入っています。
X'0620'	グループ・サービス・ラッチの解放に失敗した。レジスター 14 に、BPELAREL からの戻りコードが入っています。
X'0630'	グループ・サービスの AWE 取得エラー。レジスター 14 に、BPECBGET からの戻りコードが入っています。
X'0640'	グループ・サービスの AWE エンキュー・エラー。レジスター 14 に、BPEAWSRV からの戻りコードが入っています。
X'0650'	グループ・サービスの AWE 待機エラー。レジスター 14 に、BPEWAIT からの戻りコードが入っています。
X'0660'	グループ・サービスの IMSplex 照会に失敗した。
X'0670'	グループ・サービスがローカル静止のための GRP2 AWE のエンキューに失敗した。
X'0680'	DBRC にメッセージを受信する準備ができたことを示す、SCI への呼び出しによるグループ・サービス・エラー。
X'0690'	特定の DBRC またはすべての DBRC に対するメッセージのブロードキャストでのグループ・サービス・エラー。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DSP1125A、DSP1140A、または DSP2002E が発行された場合は、エラー・コードを調べて、可能であれば問題を訂正し、ジョブを再実行します。問題を訂正できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別: 2、3、4、8、35、および RECON データ・セットのリスト。必要な場合は、セキュリティー管理者に連絡して、示されている DBRC リソースに対する権限を取得します。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DSP1125A (メッセージおよびコード)

 DSP1140A (メッセージおよびコード)

 DSP2002E (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2496

説明: IMS または IRLM の重大エラーのため、DEDB エリア・ロックの内部要求が失敗しました。

分析: これは、DBFARD10、DBFARD20、DBFARD50、DBFCMOC2、および DBFEAIS0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害が発生しているモジュール内の異常終了 SVC の後にある命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。

DBFARD10、DBFARD20 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます。ロックは、障害が発生した IMS によって所有されています (保持ロック)。この不正な IRLM 戻りコードは、内部の ADS 停止コマンドであり、障害が発生したロック所有者以外の他の IMS 共用システムが存在しました。この場合は、レジスター 15 には PSTLRXRC と PSTLRXFB が含まれており、IRLM からの初期 RC X'14' ではなく IRLM 通知呼び出しを反映します。
- X'14' と LMREJECT を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。

DBFCMOC2 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます。ロックは、障害が発生した IMS によって所有されている (保持ロック) か、SDEP を含む領域に DMACF7F0 (強制的なクローズとオープン) が設定され、DBFARD50 は据え置きクローズではありません。
- X'14'、LMREJECT (保持ロック)、および DMACF7F0 (強制クローズとオープン) を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。

DBFEAIS0 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます (保持ロック) が、領域は共用されず DBFEAIS0 は XRF TKO ではありません。
- X'14' と LMREJECT を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。問題を訂正できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 1、3、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFARD10、DBFARD20、DBFARD50、DBFEAIS0、DBFCMOC2

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2610

説明: この異常終了は、初期設定でエラーが発生して SCP が待機するときに、IMS バッチ・ディスパッチャー (DFSKBDP0) によって発行されます。レジスター 15 に理由コードが入っています。

システムの処置: DFSKBDP0 はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: 問題を判別するには、レジスター 15 を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

2763

説明: IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) の実行中に、高速機能正常再始動プロセッサ (DBFNRST0) が、どのチェックポイントから MSDB を再始動するかを判別するために MSDB チェックポイント・データ・セットから制御レコードを読み取りましたが、選択されたチェックポイントが IMS ログに見つかりませんでした。

分析: この異常終了は、次のいずれかの条件で発行されます。

1. MSDBCP1 または MSDBCP2 の MSDB チェックポイントに、完全なものがまったくない。MSDB チェックポイント・データ・セットの制御レコードにある ID フィールドが、「MSDBCCHPT」に等しくありません。
2. MSDBCP1 および MSDBCP2 の MSDB チェックポイントが、両方とも X'4001' ログ・レコードのチェックポイントより前にある。
3. MSDBCP2 のチェックポイントは MSDBCP1 のチェックポイント以降にあるが、MSDBCP1 のチェックポイントが完全でないか、または X'4001' ログ・レコードのチェックポイントよりも前にある。
4. MSDB チェックポイント制御レコードが、チェックポイント・データ・セット内に見つからない。制御レコードに対する GET が原因で、EODAD ルーチンが DBFNRST0 に入り、異常終了 2763 が発行されます。これは、前の IMS コールド・スタートを MSDB を指定せずに実行したために起こった可能性があります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IMS コンソール・シートを調べて、以下を確認します。

1. MSDBCP1 および MSDBCP2 上の最新の 2 つの MSDB チェックポイントのうち、古い方のチェックポイント。
2. 上記に該当の MSDB チェックポイントと一致するか、またはそれより前のシステム・チェックポイント。

このシステム・チェックポイントを指定して再始動します。

問題判別: 35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFNRST0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2800

説明: IMS の初期設定で、グローバル・オンライン変更関連の初期設定中にエラーが発生しました。異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

分析: IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入りません。返される可能性のあるサブコードは、次のとおりです。

コード

説明

X'01'

OLCSTAT データ・セットの割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2848E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

2801

X'02'

OLCSTAT データ・セットのオープン、読み取り、書き込み、またはクローズが失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2843E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'03'

内部エラーのため、OLCSTAT データ・セット・アクセス要求が失敗しました。

X'07'

OLCSTAT データ・セットの内容が無効です。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2844E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'08'

リソース定義の不整合が検出された後、オペレーターはメッセージ DFS2845A に CANCEL を応答し、IMS 初期設定を取り消しました。

X'09'

IMS で定義された OLCSTAT データ・セット名は、IMSplex 内の他の IMS システムで定義された OLCSTAT データ・セット名と矛盾します。IMSplex 内のすべての IMS システムが、同じ OLCSTAT データ・セット名を定義する必要があります。

X'10'

グローバル・オンライン変更が進行中です。グローバル・オンライン変更の進行中に、IMS を初期設定することはできません。

システムの処置: IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。

プログラマーの応答: OLCSTAT データ・セット異常終了サブコード (0001、0002、および 0007) の場合は、OLCSTAT データ・セット・エラーを訂正してから IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0003 の場合は、IMS ダンプを保管してから、IBM サポートに連絡してください。異常終了サブコード 0009 の場合は、正しい OLCSTAT データ・セット名をこの IMS に定義してから、IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0010 の場合、グローバル・オンライン変更が進行中なので、OLCSTAT データ・セットはロックされています。INITIATE OLC PHASE (COMMIT) コマンドまたは TERMINATE OLC コマンドが正常に完了し、OLCSTAT データ・セットがアンロックされてから、IMS を再始動します。グローバル・オンライン変更中にすべての IMS システムが異常終了した場合は、INITIATE OLC コマンドまたは TERMINATE OLC コマンドを処理する IMS は存在しません。この場合は、OLCSTAT データ・セットをアンロックするためのアンロック機能を指定して、グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) を実行する必要があります。その後で IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0、DFSCSL40

関連情報:

 DFS2843E (メッセージおよびコード)

 DFS2844E (メッセージおよびコード)

 DFS2845A (メッセージおよびコード)

2801

説明: IMS の再始動で、グローバル・オンライン変更に関連したエラーが発生しました。異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

分析: IMS は、この異常終了コードで異常終了します。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。返される可能性のあるサブコードは、次のとおりです。

コード 意味

X'01' OLCSTAT データ・セットの割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2848E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

- X'02'** OLCSTAT データ・セットのオープン、読み取り、書き込み、またはクローズが失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2843E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。
- X'03'** 内部エラーのため、OLCSTAT データ・セット・アクセス要求が失敗しました。
- X'07'** OLCSTAT データ・セットの内容が無効です。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2844E に、障害関連情報が表示されます。
- X'10'** グローバル・オンライン変更が進行中です。グローバル・オンライン変更が開始されたのは、この IMS が初期設定されてからです。
- X'11'** 再始動の終了時に表示されるこの IMS の変更 ID は、OLCSTAT データ・セット内の変更 ID と同期していません。

テークオーバー中の XRF 代替、緊急時再始動を実行中の DBCTL ウォーム・スタンバイ、または高速データベース・リカバリーを実行中の FDR 領域などのトラッキング IMS の場合、この IMS は OLCSTAT データ・セットと同期していません。これは、X'70' ログ・レコードが最後のグローバル・オンライン変更によって正常にログに記録されていないためと考えられます。

再始動 IMS の場合、この IMS の初期化以降にグローバル・オンライン変更が発生した可能性があります。

- X'12'** IMS 再始動コマンドが、最後のグローバル・オンライン変更と矛盾しています。
- X'13'** グローバル・オンライン変更はサポートされていません。RSR トラッカーの場合、グローバル・オンライン変更はサポートされていません。

システムの処置: IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。

プログラマーの応答: OLCSTAT データ・セット異常終了サブコード (0001、0002、および 0007) の場合は、OLCSTAT データ・セット・エラーを訂正してから IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0003 の場合は、IMS ダンプを保管してから IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。異常終了サブコード 0010 の場合は、グローバル・オンライン変更が終了してから、IMS 初期設定を試行します。異常終了サブコード 0011 の場合は、IMS 初期設定を再試行します。XRF 代替システムのテークオーバーが異常終了した場合、または DBCTL のウォーム・スタンバイが異常終了した場合は、アクティブな IMS の緊急時再始動を実行してください。異常終了サブコード 0012 の場合は、IMS 初期設定を再試行し、最後のグローバル・オンライン変更と矛盾しない IMS 再始動コマンドを発行します。異常終了サブコード 0013 の場合は、DFSCGxxx OLC=LOCAL を定義して、IMS を再始動します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSOLCSO

関連情報:

 DFS2843E (メッセージおよびコード)

 DFS2844E (メッセージおよびコード)

 DFS2848E (メッセージおよびコード)

2990

説明: IMS セグメント編集/圧縮ルーチン DFSCMPX0 で、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、ユーザーの編集/圧縮ルーチンからエラーが検出されました。この編集/圧縮ルーチンは、圧縮または拡張サービスを試みているときにエラーを検出しました。

分析: PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 には、検出モジュールによって設定されたエラー理由コードが含まれます。このエラー理由コードは、障害が起きている位置のラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (高速機能の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 9 には、ルーチンの作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E701	D4D7E701	圧縮要求時に、可変長セグメントの入力長が 2 バイトより小です。セグメント・データを訂正します。

2991

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E702	D4D7E702	展開要求時に、圧縮されたセグメントの入力長が 2 バイトより小です。
Reg14=D4D7E703 Reg15=戻りコード	D4D7E703	展開要求時に、z/OS 拡張サービス (CSRCESRV) から、ゼロ以外の戻りコードが返されました。
Reg14=D4D7E704	D4D7E704	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターに INIT が指定されませんでした。
Reg14=D4D7E705 Reg6=機能 コード	D4D7E705	無効な機能コード。
Reg14=D4D7E706 Reg1=長さ + シーケンス・ フィールドの オフセット	D4D7E706	セグメント・シーケンス・フィールドが、完全なセグメント内にありません。
Reg14=D4D7E707	D4D7E707	入力の実長が負です。セグメント・データを訂正します。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: 編集/圧縮ルーチンが適切に作成され、リンクされているかどうかを確認します。

問題判別: 4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストとリンク・リスト

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSCMPX0

関連資料:

 z/OS: CSRCESRV の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

2991

説明: IMS セグメント編集/圧縮ルーチン DFSKMPX0 で、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、エラーが検出されました。ユーザーの編集/圧縮ルーチンが、圧縮または拡張サービスを試みているときにエラーを検出した可能性があります。

分析: PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 には、検出モジュールによって設定されたエラー理由コードが含まれます。このエラー理由コードは、障害が起きている位置のラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (高速機能の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 4 には、ルーチンの作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E701 Reg6= 機能コード	D4D7E701	無効な機能コード。
Reg14=D4D7E702 Reg1=長さ + シーケンス・ フィールドの オフセット	D4D7E702	セグメント・シーケンス・フィールドが、完全なセグメントを備えていません。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E703	D4D7E703	入力のがさが負です。セグメント・データを訂正してください。
Reg14=D4D7E704	D4D7E704	圧縮要求時に、可変長セグメントの入力長が 2 バイトより小です。セグメント・データを訂正します。
Reg14=D4D7E705	D4D7E705	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターで INIT が指定されませんでした。
Reg14=D4D7E706	D4D7E706	展開要求時に、入力セグメントにシーケンス・フィールドが含まれていましたが、このシーケンス・フィールドは SEGM ステートメントに定義されていません。
Reg14=D4D7E707	D4D7E707	展開要求時に、部分展開が行われました。
	D4D7E708	セグメントの拡張時に、拡張長が最大セグメント・サイズを超えます。このオカレンスは、DBD の不一致によって引き起こされる可能性があります。

システムの処置: アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答: 編集/圧縮ルーチンが適切に作成され、リンクされているかどうかを確認します。

問題判別: 4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストとリンク・リスト。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSKMPX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3000

説明: XRF 代替システムまたは高速データベース・リカバリー領域が適切なデータ・セット (ACBLIB、FMTLIB、MODBLKS) をセットアップしていたとき、またはオンライン変更レコードを処理していたときに、エラーが発生しました。エラーを示す DFS33xx または DFS34xx メッセージが、この異常終了とともに出力されます。

分析: この異常終了は、モジュール DFSICV90 から発行される標準異常終了です。

タイプ 4001 またはタイプ 70 のログ・レコードの処理中に、XRF 代替システムでエラーが発生しました。

下位レベルのモジュールからゼロ以外の戻りコードを渡されたため、DFSICV90 は異常終了を発行します。この戻りコードは、異常終了が出される前に、付属のメッセージを送信するために使用されます。IMS または z/OS コンソールでメッセージを受信する前に異常終了が発生する場合は、レジスター 7 を使用してメッセージ番号を見つけることができます。

異常終了時のレジスター 7 は、メッセージ AWE へのポインターです。AWE には、オフセット X'30' (つまり、DFS3488) から始まる読み取り可能な事前編集メッセージ・テキストか、またはオフセット X'2E' のキー付きメッセージ番号が入ったハーフワードが含まれています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: アクティブ・システム上で /CHECKPOINT コマンドを発行して、単純チェックポイントを取ります。DFS3804I メッセージから、最新の再始動チェックポイントのタイム・スタンプがオンライン変更後であることを確認してから、XRF 代替または FDBR 領域を再始動してください。あるいは、付随するメッセージに示された状態を訂正してください。

問題判別: 1、4、5、6

ソース: IMS 異常終了

3000

モジュール: DFSICV90

関連情報:

 [DFS3804I \(メッセージおよびコード\)](#)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 25 章 IMS 異常終了コード 3001 - 3100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3006

説明: アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーから、256 バイトより大きい長さのディレクトリー・ブロックが読み取られました。

分析: これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS1033I が出力されます。異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg7=	ディレクトリー・ブロックのアドレス	ディレクトリー・ブロックの最初の 2 バイトには、ブロックの長さが含まれます。これらの 2 バイトには、256 (X'0100') より大きい値が含まれません。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 は異常終了します。

プログラマーの応答: 読み込まれたブロックを探し出し、長さ値が 256 より大きい理由を判別します。

問題判別: 1、2、4、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTL40

関連情報:

 DFS1033I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3007

分析: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 プロセッサが、ホスト・システム STOW 機能から予期しない完了コードを受け取りました。

説明: これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴い、メッセージ DFS1012I、DFS1031I、または DFS1032I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。STOW マクロ命令からの戻りコードを判別するには、STOWCODE の内容を検査します。

ディレクトリー内の項目の追加、変更、置換、または削除によって、区分データ・セット・ディレクトリーを更新するために、STOW マクロ (SVC 21) が発行されました。STOW は、レジスター 15 で戻りコードを受け渡します。この戻りコードは、ラベル STOWCODE におけるハーフワード内の DFSUTL40 に保管されます。

コード
説明

X'00'
ディレクトリーの更新が正常に完了しました。

X'04'
重複ブロック - ディレクトリーには、すでに指定された名前が含まれています。

3007

X'08'

未定義の STOW 追加 - 指定された名前を検出できませんでした。

X'0C'

ディレクトリーにスペースが残っていませんでした。

X'10'

ディレクトリーを更新しようとしているときに永続入出力エラーが発生しました。

X'14'

指定された DCB が開かれていないか、または正しく開かれていません。

X'18'

STOW を指定した条件付き GETMAIN が失敗しました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル STOWABND を指しています。

この異常終了に伴うメッセージは、STOWCODE の戻りコードおよび実行される STOW のタイプによって判別されます。ディレクトリー項目が追加される場合 (タイプ A) および戻りコードが X'08'、X'14'、または X'18' である場合は、メッセージ DFS1012I が発行されます。ディレクトリー項目が置換される場合 (タイプ R)、および戻りコードが X'04'、X'08'、X'14'、または X'18' の場合は、メッセージ DFS1012I が発行されます。STOW 戻りコードが X'0C' である場合は、メッセージ DFS1031I が発行されます。戻りコードが X'10' の場合は、メッセージ DFS1032I が発行されます。

キー	ラベル	説明
STOWCODE=0	STOWIT1	タイプ A の STOW マクロが発行され、ゼロ以外の戻りコードを返しました。これはエラーであるため、異常終了が発行されます。
STOWCODE=X'04'	DUPBLOCK	タイプ A の STOW が失敗したため、タイプ R の STOW を発行するために、このルーチンへ分岐します。ゼロ以外の戻りコードがタイプ R の STOW から渡され、異常終了が発行されます。
STOWCODE=X'0C'	DIRERR	タイプ A またはタイプ R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1031I が発行され、異常終了します。
STOWCODE=X'10'	PERMIO	タイプ A またはタイプ R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1032I が発行され、異常終了します。
STOWCODE=X'08'、X'10'、X'14'、 または X'18'	STOWERR	タイプ A または R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1012I が発行され、異常終了します。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: フェーズ 2 の「UTPRINT」出力を調べて、障害を判別します。メッセージ DFS1030I、DFS1031I、DFS1032I、および DFS1012I も参照してください。MFS 形式ライブラリーの状況を判断してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、4、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTL40

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3008

説明: MFS サービス・ユーティリティーまたは MFS 言語ユーティリティー・プログラムのフェーズ 2 が、ホスト・システム機能の DEVTYPE または RDJFCB、あるいは OPEN マクロから予期しない戻りコードを受け取りました。

異常終了の時点のレジスター 7 に、障害の原因を示す機能コードが入っています。レジスター 14 に、予期しない戻りコードが検出された場所のアドレスが入っています。機能コードは、以下のとおりです。

コード (16 進数)

説明

04 次のいずれかのエラー条件が、FORMAT ステートメントで示されたデータ・セットに当てはまります。

- DD ステートメントがない。
- DD ステートメントで DUMMY を指定している。

08 これは、FORMAT、UTPRINT、または SEQBLKS の各 DD ステートメントで示された 1 つ以上のデータ・セットの初期オープンが失敗したことを示します。

0C これは、FORMAT DD ステートメントまたは SEQBLKS DD ステートメントで示された 1 つ以上のデータ・セットの 2 次オープンが失敗したことを示します。

10 これは、DEQBLKS DD ステートメントで示されたデータ・セットの最終オープンが失敗したことを示します。

14 これは、FORMAT DD ステートメントで要求されたデータ・セットの DEQ または ENQ が失敗したことを示します。

分析: これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル BADOPEN 内の命令を指しています。

ラベル CHKDISP1 で、DFSUTL40 は、「FORMAT」の DD 名を持つ DD ステートメントの妥当性検査を行うために、レジスターを DFSIDDP0 に分岐リンク (BALR) します。DFSIDDP0 は、エラーを検出した場合、レジスター 15 へ戻りコードを返します。レジスター 7 は、理由コードを示す値に設定されるので、ラベルの分離に使用できます。

DFSIDDP0 からのゼロ以外の戻りコードは次のとおりです。

コード

説明

X'04'

DD 名が見つかりません。(DEVTYPE)

X'08'

DEVTYPE パラメーター・エラー

X'10'

DD DUMMY が指定されました。

キー	ラベル	説明
Reg7=X'04' Reg14=BAL	CHKDISP	ルーチンは、「FORMAT」の DD 名を持つ DD ステートメントの妥当性検査を行います。これは、DFSIDDP0 にレジスターを分岐リンク (BALR) します。DFSIDDP0 は、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを渡します。これはエラーで、異常終了が発行されます。
Reg7=X'08' UTPRINT+DCBOFLGS ^= X'10'	NQDONE:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
FORMATIN+DCBPFLGS ^= X'10'	NQDONE:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
FORMATOU+DCBOFLGS ^= X'10'	NQDONE:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
SEQBLKS+DCBOFLGS ^= X'10'	NQDONE:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'0C' FORMATOU+DCBOFLGS ^= X'10' SEQBLKS+DCBOFLGS ^= X'10'	REOPEN	FORMATOU および SEQBLKS データ・セットは、FORMAT データ・セットを圧縮するために再オープンされるようになっています。OPEN が失敗した場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'10' SEQBLKS+DCBOFLGS ^= X'10'	EXIT	このルーチンは、終了ハウスキーピングを実行します。これは、サブプール 15 を解放するために FREEMAIN を発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに対して CLOSE が発行されます。その後、データ・セットを初期設定するために、出力に対して SEQBLKS データ・セットが再オープンされます。OPEN が失敗した場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'14'	NQFMTLIB RETURN	モジュール DFSMODE0 がターゲット・フォーマット・ライブラリー (ddname=FORMAT) へのエンキューに失敗しました。または、モジュール DFSMODE0 がターゲット・フォーマット・ライブラリー (ddname=FORMAT) のデキューに失敗しました。

プログラマーの応答: SYSUDUMP DD ステートメントで示されたデータ・セットおよびフェーズ 2 ステップの JCL を調べて、SYSTEM IECnnn OPEN ERROR MESSAGES を探します。

問題判別: 1、2、4、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTL40

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3009

説明: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 プロセッサが、SEQBLKS DD ステートメントで示されたデータ・セット内に、無効なレコードまたはレコードの組み合わせを見つけました。このデータ・セットは、フェーズ 1 プロセッサによって作成されます。

分析: これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。特定のラベル (異常終了が検出された 3 番目のインスタンスを除く) を分離するには、レジスター 14 BAL を使用することができます。異常終了への入り口のプログラム状況ワー

ド (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル NOTBLOCK を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL STOWBLEN= ブロック・サイズ VBSTYPE ^= X'01' REG= VBSCTL (VBSTYPE を含む)	ISRGETC2	モジュール制御テーブル (MCT) で、フォーマット・ブロックを SEQBLKS データ・セットから取得して、FORMAT ライブラリー内で置換するよう指示しています。SEQBLKS が読み取られたとき、フォーマット・ブロック・レコードが検出されず、内部論理エラーがあることを示しています。このルーチンには、SEQBLKS データ・セットのブロック・レコードを取得する GET ルーチンへの分岐リンクがあります。フェーズ 1 タイプ・レコードのバイトに、フォーマット制御機構ブロック・レコードの ID である戻りコード X'01' が含まれているかどうかを確認するために、比較が行われます。含まれていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg10= VBSCTL Reg14=BAL VBSTYPE ^= X'01'	ISRGETC3	モジュール制御テーブル (MCT) で、フォーマット・ブロックを SEQBLKS データ・セットから取得して、FORMAT ライブラリー内で置換するよう指示しています。SEQBLKS が読み取られたとき、フォーマット・ブロック・レコードが検出されず、内部論理エラーがあることを示しています。GET ルーチンには、SEQBLKS データ・セットからブロック・レコードを取得するための分岐リンクがあります。フェーズ 1 タイプ・レコードのバイトに、フォーマット制御機構ブロック・レコードの ID である X'01' が含まれていることを確認するために、比較が行われます。含まれていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg11=フェーズ間テーブル (PPT) PPTS1 ^= X'40'	ISRTEOF	フォーマット PDS ヘブロックを挿入しているときに EODAD が検出されました。検索が制御レコード用に使用されているかどうかを確認するために、テストが行われます。そうでない場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

オペレーターの応答: SEQBLKS DD ステートメントを磁気テープ装置に割り振って、ジョブを再実行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTL40

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3010

説明: ITB ツリーの構築中に、エラーが検出されました。障害は次のいずれかの可能性があります。

- 計算された作業用ストレージ所要量が不十分である。
- 入力ソースに無効な階層シーケンス・エラーがある。

分析: これは、ラベル CATSTROP におけるモジュール DFSUTL80 から発行される標準異常終了です。異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

3011

キー	ラベル	説明
Reg2= 階層スタック項目のサイズ Reg3= 階層スタックの終わり Reg4= 階層スタック Reg4>Reg3 における現在位置	CATSTROP	モジュールの階層内容の圧縮表記を作成するために、不足している作業用ストレージ要件が階層スタックについて計算されました。
Reg5=0 Reg6= 現行 ITB Reg8= 現行の階層レベル・インデックス	CATSTROP	入力ソースの無効な階層シーケンス・エラーです。現行の ITB モジュール項目 (レジスター 6) が処理されていたときに、親の ITB モジュール項目 (レジスター 5) が処理されませんでした。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTL80

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3011

説明: IMS.REFERAL ライブラリーにある MSG ITB の内容が、IMS.REFERAL ディレクトリー項目にある出力メッセージ指示と不整合です。

分析: これは、モジュール DFSUTLA0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4= 使用中のモジュール 制御テーブル項目 (MCTE) MCTETYPE=MCTETMSO MSGFLAG1=MSG1INP Reg5= 使用中の MSGITB Reg11= PPT テーブル PPTWCNAM=MSGITB 名 PPTMCT= 使用中のモジュール 制御テーブル (MCT)	HORRORS	REFERAL ディレクトリー項目から作成された MCTETYPE フィールドは、メッセージが入力用であることを示していますが、DFSUTLB0 によるメッセージ ITB の検査では、メッセージが出力用であることを示しています。

プログラマーの応答: 以下のステップを実行してください。

1. SCRATCH REFER=*msgname* 制御ステートメントを指定して、MFS ユーティリティを実行します。
2. MFS 言語ユーティリティを実行し、出力 MSG を再アセンブルします。これにより、出力 MSG ITB が IMS REFERRAL ライブラリーに入れられ、出力メッセージ指示がディレクトリー項目内で設定されます。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLA0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3012

説明: IMS REFERAL ライブラリーにある MSG ITB の内容が、IMS.REFERAL ディレクトリー項目にある入力メッセージ指示と不整合です。

分析: これは、モジュール DFSUTLB0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5= 使用中の MSGITB、 Reg11= PPT テーブル、 PPTWCNAM=MSGITB 名、 PPTMCT= 使用中のモジュール 制御テーブル (MCT)	HORRORS	REFERAL ディレクトリー項目から作成された MCTETYPE フィールドは、メッセージが入力用である ことを示していますが、DFSUTLB0 によるメッセージ ITB の検査では、メッセージが出力用であることを示 しています。
Reg4= 使用中のモジュール制御 テーブル (MCT)、 MCTETYPE=MCTETMSI、 MSGFLAG1 = MSG1INP		

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 以下のステップを実行してください。

1. SCRATCH REFER=*msgname* 制御ステートメントを指定して、MFS ユーティリティを実行します。
2. MFS 言語ユーティリティを実行し、入力 MSG を再アセンブルします。これにより、入力 MSG ITB が IMS REFERAL ライブラリーに入れられ、入力メッセージ指示がディレクトリー項目内で設定されます。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLB0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3013

説明: 出力メッセージ LPAGE ステートメントまたは入力メッセージ DPAGE ステートメントの処理中に、LPAGE、DPAGE、またはリテラル順序再配置作業スタックがオーバーフローしました。

分析: これは、モジュール DFSUTLC0 または DFSUT150 のいずれかから発行される標準異常終了です。

異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSUTLC0 の場合:

これは、DFSUTLC0 から出される可能性のある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル HORRORS 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、MOD 内の現行 MODGRP 項目を指し、レジスター 11 はフェーズ・ツー・フェーズ・テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
PPT1CURI=LPAGE スタック索引	CALLSEG	LPAGE スタック・インデックスは、レジスター 1 にロードされま す。これは、PPT1MAXI (スタック内の項目の数) と比較されます。現 行項目にスペースが残っていない場合は、異常終了が発行されます。
PPT1CURI>PPT1MAXI		

キー	ラベル	説明
Reg15=現行のリテラル・スタック索引 Reg15>PPT3MAXI	STACKLIT	LPAGE の現行のリテラル数は、レジスター 15 にロードされます。レジスター 15 は、PPT3MAXI (スタック内の LPAGE リテラル項目の数) と比較されます。LPAGE リテラル・スタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

DFSUT150 の場合:

これは、DFSUT150 によって発行できる標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、DIF 内の現行 DIFSECTN (DPAGE セクション) 項目を指し、レジスター 11 は、すべての項目を含む作業テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
PPT2CURI= 現行の DPAGE インデックス PPT2CURI>PPT2MAXI	CALLDFLD	現行の DPAGE インデックスがレジスター 1 にロードされました。これは、PPT2MAXI (スタック内の項目の数) と比較されます。DPAGE スタックの方が高い場合、異常終了が発行されます。
Reg15=現行のリテラル・スタック索引 Reg15>PPT4MAXI	STACKLIT	現行の DPAGE インデックスは、レジスター 15 にロードされます。レジスター 15 は、PPT4MAXI (スタック内のリテラル項目数) と比較されます。DPAGE リテラル・スタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLC0、DFSUT150

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3014

説明: MFS 言語ユーティリティ入力 SEG プロセッサ・ルーチン (DFSUTLD0) が、リテラル・カウント減少後のフィールドの数がゼロより小さいか、または構成中の MID にリテラル・プールの追加すると設計サイズ制限の 32,748 を超えてしまうことを認識しました。

分析: これは、モジュール DFSUTLD0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 12 には、CSECT DFSUTLD0 のエントリー・ポイント・アドレスが含まれます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND を指しています。レジスター 14 には、CSECT の始まりから、直前にエラーを検出した命令へのオフセットが含まれます。

フィールドの数およびリテラル・カウントは、それぞれ DFSUTLF0 および DFSUTLH0 によって作成されます。MID は、サブプール 20 で構成中です。

キー	ラベル	説明
Reg15= MIDSEG 項目内の リテラル順序の数 Reg4=MID 制御ブロック内の 現行 MIDSEG 項目 Reg2= 負の値	MFLDLITS	このルーチンは、MFLD MID リテラル順序プロセッサから戻ったときに、フィールドの数からリテラルを差し引いた数を計算します。MID ブロック項目内の現行セグメントがレジスター 4 および 15 にロードされ、リテラルが生成されたかどうかを確認するために検査されます。リテラルが生成された場合は、MIDSNF にあるフィールドの数が入ったレジスター 2 がロードされ、リテラルの数が減算されます。レジスター 2 に負の値が含まれている場合、異常終了が発行されます。
Reg4=MID 制御ブロックで次に 使用可能なストレージ	CHKSEG2	このルーチンは、ソースで指定した MID 制御ブロック内の SEG ステートメントごとに、SEG 項目を構成します。MID 制御ブロック内の現行のアドレスがレジスター 4 にロードされた後、レジスター 4 は、MIDSEG 項目のサイズ (X'0A') だけ増加します。新規アドレスが 32,748 を超えた場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、16、および 35。フィールドの数およびリテラル・カウントは、それぞれ DFSUTLFO および DFSUTLHO によって作成されます。MID は、サブプール 20 で構成中です。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3015

説明: 出力メッセージ MFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタックが最大サイズを超えました。

分析: これは、モジュール DFSUTLE0 または DFSUTLG0 から発行される標準異常終了です。異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSUTLE0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターは、問題分離に使用されます。レジスター 6 は、MOD 制御ブロック内の現行の MODFDE へのポインターです。異常終了は、ラベル LITERR におけるルーチンから出されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT3CURI= 現行の スタック索引 PPT3CURI>PPT3MAXI	SETEOP	レジスター 1 に現在のリテラル数がロードされました。これは、PPT3MAXI (リテラルの最大数) と比較されます。現在のリテラル数の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUTLG0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル LITERR 内の命令を指します。

3016 • 3017

キー	ラベル	説明
PPT3CURI= 現行スタック PPT3CURI>PPT3MAXI	SETLITS	レジスター 1 に現行のスタック・インデックスがロードされました。レジスター 1 は、スタック (PPT3MAXI) 内の項目の数と比較されます。現行のスタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLE0、DFSUTLG0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3016

説明: シンボル・テーブル (PPTSYM または PPTSYM1) をアルファベット順にソートしているとき、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因である可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSUTLT0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。エラーが検出され、異常終了がラベル ARECBREC におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg5=BREC ポインター Reg6=AREC ポインター Reg14=BAL	ARECBREC	このルーチンは、フィールド FLDEKEY をレジスター 6 およびレジスター 5 内の FLDE と比較します。これらが等しい場合、異常終了が発行された理由は等しいフィールドが発生してはならないからです。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: 障害が、MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更なしに発生しているかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3017

説明: シンボル・テーブル (PPTSYM または PPTSYM1) のバイナリー構造化ツリーの構築中に、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSUTLT0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了がラベル TREERROR におけるルーチンから発行さ

れます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg2=待機スタック項目のサイズ Reg3=待機スタック内の最後の項目のアドレス Reg4=待機スタック内の現行項目 Reg4>Reg3 Reg9=待機スタック(サブプール 15 内) のアドレス	SHFTPWR	現行スタック項目 (レジスター 4) のアドレスは 8 (レジスター 2) 増えます。レジスター 4 がレジスター 3 (スタック内の最後の項目のアドレス) より上位である場合、異常終了が発行されます。
Reg2=待機スタック項目のサイズ Reg3=待機スタック内の最後の項目のアドレス Reg4=待機スタック内の現行項目 Reg4>Reg3 Reg9=待機スタック(サブプール 15 内) のアドレス	STKNODE	現行スタック項目 (レジスター 4) のアドレスは 8 (レジスター 2) 増えます。レジスター 4 がレジスター 3 (スタック内の最後の項目のアドレス) より上位である場合、異常終了が発行されます。
Reg5=待機スタック内の「より小」項目の索引 Reg6=待機スタック内の「センター」項目の索引 Reg7=待機スタック内の「より大」項目の索引	HAVERT	このルーチンは、待機スタック内のバイナリー・ツリーのアドレス・リストを作成し、テーブル内の各項目に「より小」および「より大」ポインターを設定します。レジスター 6 が負である場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: MFS 言語ユーティリティの変更

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLT0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3018

説明: TABLE および IF ステートメントの処理中、またはリテラルの再割り振り中にエラーが検出されました。不適切なリテラル・オフセットが見つかりました。

分析: これは、モジュール DFSUT010、DFSUT020、DFSUT120、または DFSUT130 から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了を発行したモジュールを判別します。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 には、エラーが発生した時点で制御していた CSECT のエントリー・ポイント・アドレス (基底) が含まれています。

DFSUT010 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。

DIF DFLD FDE 項目内のテーブル名参照解決時にエラーが検出され、ラベル TABBRLOC におけるルーチンから異常終了が発行されます。または、ラベル IFBRLOC における IF シンボル・テーブル内の IF ラベル参照解決時にエラーが検出されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、これらのいずれかのラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。異常終了が発行された元のラベルを判別するのにこの PSW を使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg3= DIFDE 内の DIFFTBLO Reg0=DIF ブロックの先頭から、ブ ック内で次に使用可能なスペースま でのオフセット Reg11=PPT テーブ ル PPTBLOCK=DIF ブロックの先頭 のアドレス PPTAVAIL=ブロック内 で次に使用可能なスペースのアドレ ス Reg0≥PPTLDRSZ	TABBRLOC	レジスター 3 に、DIF ブロック内の再配置スロットがロード されています。その上で、DIF 内のテーブルへのオフセット がレジスター 0 で計算され、レジスター 3 が指すアドレス に保管されます。このオフセットはブロックの最大サイズと 比較されます。このオフセットが、DIF ブロックに割り振ら れた最大スペース以上である場合、異常終了が発行されま す。
Reg3= IFE 内の IFEFDE Reg0=IF シ ンボル・テーブルの先頭から、ブ ック内で次に使用可能なスペースま でのオフセット Reg11=PPT テーブ ル PPTBLOCK=IF シンボル・テーブ ルの先頭のアドレス PPTAVAIL=ブ ロック内で次に使用可能なスペース のアドレス Reg0≥PPTLDRSZ	IFBRLOC	レジスター 3 に、DIF ブロック内の IF ラベル参照を指す インターがロードされています。ブランチ・アドレスへのオ フセットがレジスター 0 で計算され、レジスター 3 が指す アドレスに保管されます。このオフセットは、DIF ブロック に割り振られている最大サイズと比較されます。このオフセ ットが DIF ブロックの範囲外である場合、異常終了が発行さ れます。

DFSUT020 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

DFLD リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検出されます。異常終了がラベル USER3018 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2= DOF ブロックの先頭から、 ブロック内のリテラル・ プールの起点までの オフセット Reg3=リテラル再割り振りの DOFFDE Reg11=PPT テーブル PPTBLOCK= DOF ブロック	RLOC1	DOF ブロックのブロック・ストレージ・アドレスをレジスター 2 から減算して、オフセット起点が得られます。レジスター 3 に は、DOF ブロック項目 (DOFFDE) が入っています。リテラル・オ フセット (DOFFLIT) が取得され、レジスター 1 にロードされま す。レジスター 2 はリテラル・オフセットに追加されます。リテ ラル・オフセットが負の値になる場合、異常終了が発行されます。
Reg2= DOFFDE Reg11=PPT テーブル DOFFLIT6>PPTWCOPN	BCTLOOP2	リテラル・オフセットが作成され、DOFFLIT に保管されました。 オフセットが DOF ブロック・サイズ (PPTWCOPN) より大きい 場合、異常終了が発行されます。
Reg0= DOF ブロックの先頭から、 ブロック内のリテラル・ プールの起点までの オフセット Reg2= DOFFDE	BCTLOOP2	DOFFDE のアドレスはレジスター 2 にあります。レジスター 1 に DOFFLIT (リテラル・プール内のリテラル・オフセット) がロ ードされます。ブロック・オフセット (レジスター 0) がそれに追 加されます。レジスター 1 が負の値になる場合、異常終了が発行 されます。

DFSUT120 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

DFLD リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検出されます。異常終了がラベル USER3018 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2= DOF ブロックの開始から、 ブロック内のリテラル・ プールの起点までの オフセット Reg3=リテラル再割り振りの ための DOF ブロック内の DOFFDE Reg11=PPT テーブル リテラル・ オフセット>PPTWCOPN	RLOC1	計算されたリテラル・オフセット (レジスター 1 内) は、DOF ブロック内の有効値について妥当性検査が行われます。リテラル・オフセットが負の値であるか、DOF ブロック限界 (PPTWCOPN) を超える場合、異常終了が発行されます。

DFSUT130 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

DPAGE リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検出されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3018 内の命令を指します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DIF ブロックの開始から、 ブロック内のリテラル・ プールの起点までの オフセット Reg3=DIF ブロック内の DIFSECTN 項目 Reg11=PPT テーブル PPTBLOCK= DIF ブロック起点 DIFSLIT>PPTWCOPN	RLOC1	レジスター 1 で計算されたリテラル・オフセットは、DIF ブロック内の有効値について妥当性検査が行われます。リテラル・オフセット (レジスター 1) が負の値であるか、DIF ブロック限界 (PPTWCOPN) を超える場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT0I0、DFSUT020、DFSUT120、DFSUT130

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3019

説明: DFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタックが、最大サイズの 32,748 バイトを超えました。

分析: これは、モジュール DFSUT050 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行さ

3020

れます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg11=PPT テーブル・アドレス PPT04STK=リテラル・スタック・アドレス PPT4CURI=現行索引番号 PPT4MAXI=この作業スタックに割り当てられた最大項目数 PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT	リテラル参照が DOFFDE で処理されるときに、このルーチンに入ります。ルーチンは、DOFFDE アドレスを作業スタックに保管しようとしています。作業スタック内の最大項目数を超えているかどうかを確認するために、比較が行われます。超えている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT050

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3020

説明: DFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタック (PPT04STK) が最大サイズを超えました。

分析: これは、各種モジュールから発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了が発行された元のモジュールを判別する必要があります。レジスター 11 は、ラベル PPTxxxx を含むフェーズ間テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

DFSUT090 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=PPTAVAIL Reg5=リテラル・スタック索引 Reg5>PPT5MAXI	ENDMOVE	レジスター 5 には、リテラル・スタック索引 (これまででこの DPAGE に必要だったリテラル数) が含まれます。スタック内の最大項目数 (DIV について) を超えているかどうかを確認するために、比較 (レジスター 5 と PPT5MAXI との) が行われます。超えている場合、異常終了が発行されます。
PPT4CURI>PPT4MAXI	BYORGSET	このコード・セクションは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT04STK に入れます。現行リテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が獲得されます。スタック内の最大項目数を超えているかどうかを確認するために、比較が行われます。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。
Reg3= 現行のリテラル・スタック項目数	ORGSET	現行のリテラル・スタック項目数が、許可された最大数を超えたので、異常終了が発行されます。

DFSUT160 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにスタック PPT04STK にリテラルを置きます。現行のリテラル・スタック索引が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT180 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT04STK に入れます。現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT190、DFSUT200、DFSUT300 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	OVERRUN4	このコード・セクションは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT4STK に入れます。現行リテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が獲得されます。スタック内の最大項目数 (PPT4MAXI) を超えているかどうかを確認するために、比較が行われます。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。

DFSUT260 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 または OVERRUN5 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、これらのラベルのどちらかにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT1 (OVERRUN4)	現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。
PPT5CURI > PPT5MAXI	SETCATR1 (OVERRUN5)	現行の DFLD 索引 (PPT5CURI) が取得され、PPT5MAXI と比較されて、スタック上でオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行の DFLD 索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT280 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT4STK に入れます。現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行のスタック索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT290 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	SETLIT1	現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT090、 DFSUT160、 DFSUT180、 DFSUT190、 DFSUT200、 DFSUT260、 DFSUT280、 DFSUT290、 DFSUT300

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3021

説明: 各 DPAGE には、作成する内部物理ページごとに少なくとも 1 つのリテラル・フィールド記述エレメント (FDE) がなければなりません。このスタック内に LLLLZZ リテラルがない場合、内部論理エラーが発生しています。

分析: これは、モジュール DFSUT090、すなわち 3270 プリンター出力 DFLD プロセッサから発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3021 内の命令を指します。レジスター 11 は PPT 作業テーブルを指します。この作業テーブルでは、PPT05STK に LLLLZZ 作業スタックのアドレスが入り、PPT5CURI に現行 DPAGE 作業スタックの索引が入ります。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg3= 現行 DPAGE 内の リテラル数。 Reg5=現行 DPAGE の リテラル・スタックの アドレス	SETME4	内部物理ページの明細を判別するために、現行 DPAGE 内の DFLD がブリスキャンされました。内部物理ページごとに、1 つの LLLLZZ リテラルが必要です。このルーチンは、LLLLZZ リテラル参照ごとに 1 つの作業スタックを取得します。必要なりテラル数 (レジスター 3) がゼロに相当します。これは誤りであり、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT090

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3022

説明: 処理中の FMT または MSG 記述子が大き過ぎます。その結果、SUBPOOL 20 内に作成中のオンライン・ブロックが、設計制限サイズの 32,748 バイトを超えました。

分析: これは、各種モジュールから発行される標準異常終了です。

この異常終了を発行するモジュール数が原因で、各モジュールの分析が行われませんでした。エラー状態の一般的な説明のみが提供されます。

異常終了が発行された元のモジュールを判別するには、異常終了 SVRB のレジスターを使用します。レジスター 12 には、これらのモジュールで使用される基底レジスターが入っています。

いかなる場合でも、ラベル SIZABEND における異常終了ルーチンから異常終了が発行されます。このラベルに対する複数の参照が生じる可能性があります。異常終了 (SVC 13) を発行したモジュールで、この状態がないかどうか検査する必要があります。レジスター 11 はフェーズ間テーブル (PPT) を指し、これにはすべての PPT ラベルが含まれません。

キー	ラベル	説明
PPTBLKEN<PPTAVAIL		このエラーを検出するルーチンは、ブロック・ストレージの最後のバイトのアドレスを、ブロック・ストレージ内で次に使用可能なバイトのアドレスと比較します。ブロック・ストレージの最後のバイトのアドレスの方が下位である場合、最大ブロック・サイズを超えたため、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答: この記述子は、現在の形式では処理できません。可能ならば、記述子を再定義するか、または記

3025

述子を複数の記述子として再構築してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、4、16

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTLA0、DFSUTLB0、DFSUTLC0、DFSUTLDO、DFSUTLE0、DFSUTLF0、DFSUTLH0、DFSUTLJ0、DFSUTLN0、DFSUTLT0、DFSUTOA0、DFSUTOI0、DFSUT020、DFSUT030、DFSUT040、DFSUT050、DFSUT060、DFSUT090、DFSUT120、DFSUT130、DFSUT140、DFSUT150、DFSUT160、DFSUT170、DFSUT180、DFSUT190、DFSUT260、DFSUT280、DFSUT290

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3025

説明: TABLE 記述のリテラル・スタック (PPT055STK) を処理中に、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因でこのエラーが発生した可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSUTOI0、すなわち TABLE および IF プロセッサから発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル OVERRUN5 内の命令を指します。

このモジュールは DIF ブロック構築ルーチンによって呼び出され、任意の DFLD で参照されるテーブルを処理し、テーブル情報をブロックに取り込みます。

キー	ラベル	説明
Reg4= DIF ブロック内の現行 DIFTBLE 項目 Reg11-PPT テーブル PPT5CURI のアドレス +1= 現行リテラル索引 PPT5MAXI=PPT05STK に 割り振られた最大項目数 PPT5CURI>PPT5MAXI Reg14=BAL DIFTOP2=リテラル・テーブルの 先頭からのリテラルのオフセット	PROCIFB3	このルーチンは DFSUTLU0 に分岐リンクして、テーブルにリテラルを入れます。戻ったときに、リテラル・プール内のリテラルのオフセットが作成されず。現行リテラル索引が獲得され、PPT5MAXI (リテラル・スタック内の項目数) と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: PPT055TK へのストレージの割り振り、または MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更における内部論理エラー。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUTOI0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3026

説明: DFLD テーブル名の TABLE シンボル・テーブルを処理中に、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSUT060 および DFSUT170 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了が発行された元のモジュールを判別します。

考えられる原因: 内部論理エラー。おそらく、最大参照の計算に誤りがありました。

DFSUT060 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERUNTB におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=TBLE TBL1CURI>TBL1MAXI Reg14=BAL	NOTDET	このルーチンは、テーブル名シンボル・テーブルの項目を見つけるために、DFSUTLX0 (エラーを検出する) に分岐リンクしました。レジスター 3 に、テーブル名シンボル・テーブル記述子 (TBLE) のアドレスが入っています。現行の参照索引番号が獲得され、最大参照索引と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT170 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERUNTB におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=TBLE TBL1CURI>TBL1MAXI Reg14=BAL	GETFLDE	このルーチンは、テーブル名シンボル・テーブル記述子 (TBLE) の項目を見つけるために、DFSUTLX0 (エラーを検出する) に分岐リンクしました。現行の参照索引番号が獲得され、最大参照索引と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されます。最大参照索引は、この DIV ステートメントで DFLD によってテーブル名が参照される回数に基づいて計算されます。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT060、DFSUT170

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3027

説明: TABLE 記述の IF シンボル・テーブルを処理中に、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因でこのエラーが発生した可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSUT010、すなわち TABLE および IF プロセッサから発行される標準異常終了です。

3030

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、ラベル OVERUNIF における SVRB を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5=アドレス IF シンボル・テーブル項目 IF1CURI-現行参照索引番号 IF1MAXI=dsect IFE によって記述されるアドレス IF ラベル・シンボル・テーブル項目 Reg14=BAL	CHKSERCH	このルーチンは、DFSUTLX0 (BAL を使用) から戻り、現行ラベル・シンボル・テーブル項目を獲得しました。現行索引 (IF1CURI) を取得し、それに 1 を加え、索引を IF1MAXI と比較して、最大参照索引を超えているかどうかを確認します。超えている場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: 作業スタックへのストレージの割り振り、または MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更における内部論理エラー。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、4、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUT010

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3030

説明: MFS 言語ユーティリティのフェーズ 1 プロセッサが、IMS.REFERRAL ライブラリー内で無効なメンバーを検出しました。これは、内部論理エラーで、ユーザー変更が原因の可能性があります。

分析: これは、モジュール DFSUPB70 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 3 に、障害が発生したメンバー名のアドレスが入り、レジスター 2 に、障害の原因を示す機能コードが入っています。機能コードは、以下のとおりです。

コード 意味

X'04' 最初のレコードが、ESD レコードではない。

X'08' ESD レコードにあるメンバー名が、ディレクトリーのメンバー名と一致しない。

X'0C' END レコードが見つからない。

X'10' ESD レコードにあるブロック・サイズが、ディレクトリーのブロック・サイズと一致しない。

X'14' 要求されたメンバー名が、ディレクトリー内に見つからない。

レジスター 2 の内容を使用して、エラーが検出された特定ラベルまで切り分けます。

異常終了がラベル MYABEND における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

IMS.REFERAL ライブラリー・メンバーのブロックがストレージ (サブプール 15) に読み取られます。BUFFADDR (レジスター 12 によってアドレス指定される) には、ブロックの先頭のアドレスが入っています。レジスター4=BLDL リストのアドレス。DSECT BLDLLIST は、このリストの記述に使用されます。レジスター 5=ブロック内の現行レコードのアドレス。DSECT CRDIMAGE は、ブロック内の各レコードの記述に使用されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'04' CRDTYPE = X'02C5E2C4'	STARTBLK	メンバーが REFERAL ライブラリーで見つかりました。REFERAL の最初のブロックが読み取られました。最初のレコードが ESD レコードであることを確認するために、比較が行われます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。
Reg2=X'08' CRDNAME = BLDLNAME	STARTBL1	このサブルーチンは、ESD レコード上のメンバー名が、BLDL リストで指定されるメンバー名と同じであることを確認します。同じでない場合、異常終了が生じます。
Reg2=X'0C' CRDTYPE =X'02C5D5C4'	ENDCARD	このサブルーチンは、これが END レコードであることを確認します。END レコードである場合、戻りパラメーターが設定され、ストレージが解放されます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。
Reg2=X'10' Reg6 =BLKSIZE	ENDCARD1	出力域が取得され、TXT レコードのデータがそこに移動されました。終了フラグが、レジスター 6 で指し示される出力域に移動されます。その後、ブロックの長さがレジスター 6 で作成されます。レジスター 6 は、ESD レコード上の BLKSIZE と比較されます。これらのブロック・サイズが一致しない場合、異常終了が発行されます。
Reg2=X'14' TBLESW =X'01' Reg15=X'04'	LOCATE NOTFOUND	REFERAL ライブラリーでメンバーを見つけるために、BLDL が発行されました。BLDL から戻った後、メンバーが見つからなかったことを示す X'04' がないかどうか、レジスター 15 がテストされます。レジスター 15=X'04' である場合、ルーチン LOCATE は NOTFOUND に分岐して、要求が TABLE-NAME に対するものであったかどうかを確認します。そうでなかったため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IMS.REFERAL ライブラリーまたは MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティは異常終了します。異常終了時のレジスター 3 に、障害が発生したメンバー名のアドレスが入り、レジスター 2 に、障害の原因を示す機能コードが入っています。

プログラマーの応答: 障害が、IMS REFERRAL ライブラリーまたは MFS 言語ユーティリティへの変更なしに発生しているかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPB70

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3040

説明: IMS 制御領域またはバッチ領域の初期設定が失敗しました。モジュールおよび関連する理由は以下のとおりです。

DFSRRRA30

システム・キュー・ヘッダー制御ブロックまたは外部サブシステム作業域を作成するための、サブプール 231 ストレージを獲得できません。

DFSRRRA70

バッチ領域用のシステム・キュー・ヘッダー制御ブロックを作成するための、サブプール 0 ストレージを獲得できません。

3041

DFSRRRA70

バッチ領域用の HLPI ブートストラップ・ルーチンをロードするための、サブプール 0 を獲得できません。

DFSRRRA80

バッチ領域用の HLPI ブートストラップ・ルーチンをロードするための、サブプール 0 を獲得できません。

分析: これは、DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA70 (バッチ領域)、または DFSRRRA80 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のレジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。これは、考えられる条件のどれがこの異常終了を起こしたかを示しています。レジスター 15 に、障害の原因を示している IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。

レジスター	ラベル	Module
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	RACTL4	DFSRRRA30
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	RADL13	DFSRRRA70
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	RADSVCI	DFSRRRA70
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	UTLHLP	DFSRRRA80

考えられる原因: GETMAIN 要求 (IMODULE を使用) が、要求されたサブプール (つまり、231 (CSA)) 内で使用可能なストレージ量を超えます。ジョブから使用可能な CSA のサイズを増やしてください。要求がサブプール 0 に対するものであった場合、JOB/実行ステートメント上の領域サイズを増やします。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了時のレジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。このレジスターは、考えられる条件のどれが異常終了を起こしたかを示しています。レジスター 15 に、IMODULE 障害の原因を示している IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードを参照してください。

問題判別: 23、35。CSA のダンプ

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRRA30、DFSRRRA70、DFSRRRA80

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3041

説明: 外部サブシステム接続パッケージ (ESAP) から、サポートされない戻りコードが戻されました。IMS と指定サブシステム間のサブシステム接続が終了します。

分析: これは、DFSESI00、DFSESI20、DFSESI30、DFSESI50、DFSESI60、DFSIESI0、および DFSXESI0 によって発行される標準異常終了です。

問題の種類を判別するための情報については、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I を参照してください。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

bytes 1-2 | bytes 3-4

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESF C マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチン (つまり、X'08') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。前述の、レジスター 15 の内容を参照してください。

ラベル ABEND - 外部サブシステムの出口ルーチンから、サポートされない戻りコードを受け取りました。

考えられる原因: 詳しくは、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I を参照してください。外部サブシステムの資料を調べて、レジスター 15 で示されたとおりに戻りコードの理由を判別してください。

システムの処置: IMS は、外部サブシステムを表す TCB を終了させます。IMS と指定されたサブシステムとの間のサブシステム接続は終了しますが、処理は続行されます。マスター端末オペレーターには、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I によって障害が通知されます。

オペレーターの応答: 外部サブシステム・リソースの訂正が必要であることを、システム・プログラマーに通知します。

システム・プログラマーの応答: 外部サブシステムの資料を参照して、サブシステム障害に関する情報を見つけます。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESI00、DFSESI20、DFSESI30、DFSESI50、DFSESI60、DFSIESI0、DFSXESI0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

 DFS3603I (メッセージおよびコード)

 DFS3606I (メッセージおよびコード)

 DFS3607I (メッセージおよびコード)

3042

説明: モジュール DFSESPR0 が、エラーを検出した後でこの異常終了を発行します。DFSESPR0 は、下位レベル・モジュールでエラーが検出された場合も、この異常終了を発行します。エラーを検出したモジュールが、DFSESPR0 で発行する異常終了コードを設定します。レジスター 14 および 15 を使用して、検出されるエラー条件をさらに分析します。

分析: レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

bytes 1-2 | bytes 3-4

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESF C マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチンまたは下位レベル・モジュールによって戻された 16 進戻りコードが入っています。

3043

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。

考えられる原因: 戻りコードの正確な理由については、外部サブシステムの資料を調べてください。

システムの処置: これらのモジュールが実行している従属領域の TCB は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答:

レジスター 15 のバイト 1 および 2 に、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS 戻りコードおよび機能コードの情報で IMS モジュールによって検出されるさまざまな条件を説明しているカテゴリを参照してください。レジスター 15 のバイト 3 および 4 には、外部サブシステム出口または下位レベル・モジュールによって戻された 16 進戻りコードが入っています。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESD70、DFSESPR0、DFSVES00

関連資料:

 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3043

説明: 外部サブシステムのマザー・タスク (TCB) のタスク終了出口ルーチン (ETXR) がスケジュールされ、無効なドーター・タスク (TCB) アドレスが渡されたときに、この異常終了が発行されます。

分析: これは、EXTR ルーチン、DFSIESIO によって発行される標準異常終了です。外部サブシステム・マザー・タスク (TCB-(ESSM)) は異常終了します。

レジスター 3 に、疑問のある TCB のアドレスが入っています。レジスター 9 には、外部サブシステム・エントリー・テーブル (ESET) 接頭部 (DSECT DFSESETP によってマップ) のアドレスが入り、これは、定義された外部サブシステム・エントリー (DSECT DFSGESE によってマップ) を指します。各エントリーには、それに関連した TCB のアドレスが入っています。レジスター 11 には、条件が検出される、ラベル ETXRFTCB における SCD のアドレスが入っています。

考えられる原因: おそらく、IMS 論理エラー。

システムの処置: 外部サブシステム・マザー・タスク (TCB-(ESSM)) は異常終了します。これはおそらく、IMS 論理エラーです。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知して、固有のリカバリー手順があればそれを訂正してもらいます。

プログラマーの応答: IMS /START SUBSYS コマンドを使用して、マザーおよびドーターの外部サブシステム・タスク (すなわち、サブシステム接続) を再始動します。

問題判別: 1、2、4、5、6、7、8

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIESIO

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3044

説明: 発生してはならない状態が、外部サブシステムとの通信中に検出されました。従属領域は異常終了するので、終了した領域でアプリケーション・プログラムの実行がスケジュールされる場合、従属領域を再始動する必要があります。

分析: これは、DFSESPR0、DFSFESP0、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

問題を記述するメッセージ DFS3624I を参照してください。レジスター 15 にはエラー・コードが入り、レジスター 14 にはエラー・アドレスが入っています。この問題を修正し、IMS /START コマンドを使用して、障害が起きた外部サブシステムを再始動してください。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

バイト 1 から 2	バイト 3 から 4
------------	------------

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報、または DFSESF0C マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチン (つまり、X'20') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。

考えられる原因: 戻りコードの正確な理由については、外部サブシステムの資料を調べてください。

システムの処置: この異常終了は、アプリケーション終了のクリーンアップ処理中に IMS によって認識され、処理されます。その結果、IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 関係のあるデータ域をログに記録する。
3. トランザクションが PSTOPPED 状態の場合、メッセージ DFS554A をマスター端末オペレーターに、DFS555I を入力端末に送信する。
4. 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録できるようにする。
5. 入力メッセージの後処理を判別するために、外部サブシステム ECHO 出口を呼び出す。外部サブシステムが ECHO 要求に応答しない場合、IMS は入力メッセージを保管し、トランザクションを PSTOP 状態にします。外部サブシステムが ECHO 要求に応答する場合、入力メッセージは、後で処理するために再キューイングされます。
6. アプリケーション終了中に、コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
7. メッセージ DFS3624I をマスター端末オペレーターに送信する。

オペレーターの応答: /DISPLAY コマンドを使用して、サブシステム接続の状況を調べます。接続が終了していることもあります。接続を開始または再始動することができます。

プログラマーの応答: マスター端末に送信されたメッセージ DFS3624I を参照してください。メッセージ DFS3624I には、問題および問題を検出したモジュールを識別する、機能コードおよび戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または外部サブシステム PROCLIB メンバー (SSM) で領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPR0、DFSFESP0、DFSTMS00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:



DFS3624I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3045

説明: この異常終了は、接続管理の完了必須フェーズのいずれかのときに、外部サブシステムの障害によって引き起こされる IMS 疑似異常終了です。次の外部サブシステム出口のいずれかによって、障害状態を示すゼロ以外の戻りコードが戻されました。

- 外部サブシステムでサインオンが失敗した。
- 外部サブシステムでスレッド作成が失敗した。
- 外部サブシステムで、打ち切りオプション付きのスレッド終了が失敗した。
- 外部サブシステムで打ち切り継続が失敗した。

分析: これは、DFSESPR0、DFSFP0、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、およびエラー状態を識別する戻りコード (RC) については、メッセージ DFS3624I を参照してください。問題を検出した IMS モジュール (機能コード値) を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。この情報には、モジュール機能 (すなわち、SIGNON および CREATE-THREAD) の要旨が含まれています。この戻りコードを使用して、外部サブシステムの資料で調べてデバッグ情報を探し、出口ルーチンで障害状態が検出された理由を判別することができます。

レジスター 15 = 機能コード (FC) および戻りコード (RC)。

考えられる原因: 考えられる原因については、外部サブシステムの資料を参照してください。

システムの処置: この異常終了は、アプリケーションのクリーンアップ処理中に IMS によって認識され、処理されません。IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録する。
3. 入力メッセージを破棄する。
4. トランザクションを停止する。
5. アプリケーション・プログラムによって処理されたデータベース変更をバックアウトする。
6. メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
7. メッセージ DFS554I をマスター端末に送信する。
8. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知する必要があります。

プログラマーの応答: マスター端末に送信されたメッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、およびエラー状態を識別する戻りコードが含まれています。この戻りコードを外部サブシステムの資料で調べてデバッグ情報を探し、出口で障害状態が検出された理由を判別することができます。

問題判別: 1、4、5、6、7、および 14

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPR0、DFSFP0、DFSTMS00

関連資料:



IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:



DFS3624I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3046

説明: この異常終了は、コミット処理中に IMS によって開始される IMS 疑似異常終了です。外部サブシステムのコミット継続出口またはコミット・オプション付きのスレッド終了から戻りコード X'04' が戻された場合、アプリケーション・プログラムを打ち切る必要があります。コミット交差レコードがログに書き込まれており、入力メッセージはアプリケーション・プログラムによって処理されます。ただし、外部サブシステムに接続されたアプリケーション・プログラムは、スレッドのリカバリーが未解決とマークされます。すなわち、残余リカバリー・エレメント (RRE) が、未確定解決処理 (通常の接続プロトコルの一部) または RRE を削除する IMS コマンド (/CHANGE SUBSYS) のいずれかによって解決されるまで、残ります。

システムの処置: IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 該当するデータ域をログに記録する。
3. メッセージ DFS554A をマスター端末オペレーターに送信する。
4. メッセージ DFS555A を入力端末に送信する。
5. アプリケーション・プログラムに関連する外部サブシステムが、該当する領域 (すなわち、制御領域または従属領域) から関係する情報をログに記録できるようにする。
6. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。このメッセージは、上記のどの処理で問題が発生したかを示しています。
7. トランザクションを停止する。

オペレーターの応答: メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題および問題を検出したモジュールを識別する、機能コードおよび戻りコードが含まれています。

プログラマーの応答: 外部サブシステム・コミット処理が失敗した理由を判別します。この処理には、外部サブシステムの資料を参照してください。ほとんどの必要情報はログに記録されるか、または診断メッセージを使用して外部化されているので、サブシステムの再始動 (/START SUBSYS xxxx) によって、デバッグ情報が破壊されることはありません。

問題判別: 4、5、6、および 7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPR0、DFSFESP0

関連情報:

 DFS3624I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3047

説明: この異常終了は、IMS PROCLIB のサブシステム定義で領域エラー・オプションとして異常終了が指定されたために発行されます。次のいずれかの状態が発生すると、アプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

- 外部サブシステム接続が、サブシステムに送られた最初の要求であったので、リソース制約のため接続を確立できない。
- 外部サブシステム接続パッケージ (ESAP) または外部サブシステムのいずれかで、外部サブシステムとの接続が失敗した。
- SSM= パラメーターによって指し示された PROCLIB メンバーの SSN フィールドに指定された外部サブシステム名に、無効なサブシステム名が含まれている。PROCLIB メンバーに REO オプション 'r' (戻りコードを送り返す) が含まれていても、従属領域は異常終了 3047 で終了し、入力メッセージは破棄されます。

SSM メンバーまたはリソース変換テーブル (RTT) について、指定された REO= オプションを検討してください。

RTT が使用されているときは、RTT に指定されたオプションが、SSM SSM メンバーの REO オプションをオーバ

ーライドします。詳しくは、DB2 for z/OS インストールおよびマイグレーション・ガイドを参照してください。
 REO=A が設定されていると、異常終了 3047 が発生する場合があります。

分析: 関係する 2 つのサブシステム (つまり、IMS またはその他のサブシステム) 間でリソース定義の競合が外部サブシステムで検出された場合、IMS が異常終了します。おそらく、外部サブシステムからはユーザー ID が不明であり、ユーザー ID が入力パラメーターの一部としてサインオン出口ルーチンに渡されます。

おそらく、問題は、CREATE-THREAD で渡されるアプリケーション・プログラム名または PSB 名が、外部サブシステム内で対応するリソース (例: 計画 ID) と一致しないことです。

そうでない場合、外部サブシステムはおそらく、内部リソースの競合を検出しました。それにより、該当するデバッグ情報が使用可能になります。

異常終了 3047 は、DFSESPRO によって発行される疑似異常終了です。レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

bytes 1-2 | bytes 3-4

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESF C マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチン (つまり、X'1C') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

PXPARMS 内のフィールド RCSSOB2 には、出口ルーチンに渡されるパラメーター (SSESPMA) のアドレスが入っている SSOB のアドレスが入っています。

ラベル PRABEND は異常終了を発行します。

考えられる原因: この問題はおそらく、PSB 名と同種のリソース・タイプが一致しないことです。外部サブシステム・リソースにアクセスする PSB 名が、外部サブシステムに対して適切に定義されていることを確認してください。メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題を検出したモジュールを識別する機能コード、および問題を識別する戻りコードが含まれています。外部サブシステムの資料を調べて、メッセージ DFS3624I で示されたとおりに戻りコードの理由を判別してください。

システムの処置: IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. トランザクションを停止する。
4. 入力メッセージを破棄する。
5. メッセージ DFS555I を IMS マスター端末オペレーターおよび入力端末に送信する。
6. 関係のあるデータ域をログに記録する。
7. 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方からエラー情報をログに記録できるようにする。
8. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。
9. SSM=*parameter* が指す PROCLIB メンバーで指定されたサブシステム名が、有効な Db2[®] for z/OS サブシステム名であることを確認する。必要な場合、名前を訂正します。

オペレーターの応答: 失敗したサブシステムを始動または再始動します。

メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題および問題を検出したモジュールを識別する、機能コードおよび戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または外部サブシステム PROCLIB メンバー (SSM) で領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPRO

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS3624I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3048

説明: この疑似異常終了は、一時的な障害または一時的リソース制約が発生したことを外部サブシステムが示したため発行されます。

分析: これは、DFSESPRO または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

この疑似異常終了により、入力メッセージをトランザクション中断キューに入れることができます。この異常終了を他の異常終了から認識することによって、同期点処理は入力データを廃棄するのではなく、将来の処理に使用できることを確実にします。 /DEQ SUSPEND コマンドを使用して、中断されたすべてのトランザクションを除去してください。メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、および問題の原因を識別する戻りコード (RC) が含まれています。

レジスター 4 には、SSOB のアドレスが入っています。これには、エラーを検出したモジュールからの機能コードと戻りコードが入っています。SSOB フィールド SSESFRC には、機能戻りコードが入っています。SSESMRC には疑似異常終了コードが入っています。

また、レジスター 15 には、機能コードと戻りコードもそれぞれ入っています。各コードの長さは 2 バイトです。

ラベル PRABEND は、この異常終了が発行される DFSESPRO 内のロケーションです。

考えられる原因: 外部サブシステム出口ルーチンはおそらく、該当するリソースが使用不可で、この情報を IMS から使用可能にすることを示す戻りコードを受け取りました。IMS は、戻りコードの理由が正当であり、この一時的な状態が終わることを前提とする必要があります。

システムの処置: IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. 現行入力メッセージを IMS 延期キューに入れる。障害がリカバリーされるか、またはマスター端末オペレーターが /DEQ SUSPEND コマンドを入力して延期キューを解放すると、この入力メッセージはもう一度解放されて、再処理されます。
4. メッセージ DFS3324I をマスター端末オペレーターに送信して、入力メッセージが延期キューに入れられていることを知らせる。
5. 診断メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信して、異常終了の原因の判別を支援する。
6. プログラム・コントローラー・タスク (TCB) が異常終了したことを示すメッセージ DFS554A を送信する。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知して、外部サブシステム・リソース割り振り問題を訂正してもらいます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード、および問題の原因を識別する戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または SSM パラメーターで示された外部サブシステム PROCLIB メンバーで領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPRO、DFSTMS00

関連情報:



3049

説明: IMS により次のいずれかの条件が検出されました。

- 外部サブシステム出口からの戻りのときに、無効な戻りコードが検出されました。戻りコードが、この出口に有効な許容範囲内でなかった (すなわち、X'20' より大きい) か、または範囲検査を超えなかったがこの出口ではサポートされていない戻りコードでした。レジスター 15 の戻りコードが出口の欠落を示している場合 (R15 = FF)、メッセージ DFS3608I も出力されます。メッセージ DFS3624I の RC = xx 値が、問題の戻りコードです。このメッセージはこの異常終了に伴って出力されます。レジスター 15 には、機能コード (FC - モジュール ID) および戻りコード (RC) も含まれます。
- 必要データ (すなわち、パラメーター・リスト、出口アドレス、または RRE) が妥当性検査をパスしなかったことが考えられます。これらの条件は、RC = フィールドの内容によって認識できます。

分析: 診断のために、この異常終了にはメッセージ DFS3624I が伴います。メッセージ内の RC = xx 値が、問題の戻りコードです。レジスター 15 には、機能コード (FC - モジュール ID) か戻りコード (RC) 値のいずれか、またはその両方も含まれます。

別の可能性として、必要データ (すなわち、パラメーター・リストと出口アドレス) が妥当性検査をパスしなかったことが考えられます。これらの条件は、RC = フィールドの内容によって認識できます。次のリストでは、フィールドごとの条件を示しています。

R15=FC

IMS は、必要な RRE なしでサブシステムに対する従属領域 SIGNON を試行しています。これは、通常、サブシステム IMS ESI TCB の異常終了後に発生します。

R15 = FF

必要な外部サブシステム出口ルーチンが外部サブシステム・パッケージで提供されなかったか、またはアドレスが誤って消去されました。

R15 = FE

DFSESGO マクロによって渡され、モジュール DFSESGLO に渡された機能コード。IMS システム・サービスは無効でした。DFSESGLO の呼び出し側に、おそらく機能を無効にする論理エラーがありました。

R15 = FD

パラメーター・リスト内のパラメーターの数を示す、DFSESGLO に渡されたパラメーター・リスト内のカウントが無効です。このシステム・サービスの呼び出し側に論理エラーがあり、パラメーター・カウントを無効にしています (すなわち、負の値にしています)。

システムの処置: IMS は以下の処置を取ります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理またはサブシステム SIGNON 処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. アプリケーションが同期点に達していなければ、障害時に処理中であった入力メッセージを、後で再処理できるように IMS 入力メッセージ・キューに戻す。この場合、アプリケーションは同期点後に処理を論理的に再開します。
4. メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
5. メッセージ DFS554A をマスター端末に送信する。
6. トランザクションを停止する。エラーがサブシステム SIGNON 処理中に検出された場合、トランザクションは停止されません。
7. 診断のために、メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。
8. R15 = FF (出口の欠落) の場合、メッセージ DFS3608I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してから、標準のリカバリー/再始動の処置を取る必要があります。

プログラマーの応答: 問題の原因を速やかに判別するには、まず、メッセージ DFS3624I を参照し、RC = xx 値を調

べます。FC = yy 値は、エラーを検出したモジュールの ID を示します。

RC = xx 値が Fx で始まっていない場合 (例えば、0C)、検出された問題はおそらく、この異常終了の説明の最初の部分に記載されているように、無効な戻りコードです。これは、外部サブシステム出口内での論理エラーの可能性を示しています。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。

RC = xx 値が Fx で始まっている場合 (例えば、FD)、以下にリストされた受け入れ可能な戻りコードのインストール処置をガイドとして使用します。

R15 = FF

SSM パラメーターによって、サブシステム・メンバー用に指定された外部サブシステム・モジュール・テーブル (ESMT) に、必要な出口が含まれていません。メッセージ DFS3608I により、欠落している出口 ID が示されます。出口が組み込まれていない場合、外部サブシステムの資料を調べて、その出口の組み込み方法を確認します。ただし、出口が定義されていた場合は、IMS の論理エラーによって、出口のアドレスがオーバーレイされたか、またはそのアドレスに一度も挿入されていません。追加の診断情報については、メッセージ DFS3608I を参照してください。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FE

これは、おそらく IMS 論理エラーが原因です。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FD

このシステム・サービスによって検出された無効なパラメーター・カウントは、おそらく、IMS 論理エラーが原因です。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FC

IMS は、必要な RRE なしでサブシステムに対する従属領域 SIGNON を試行しています。これは、通常、サブシステム IMS ESI TCB の異常終了後に発生します。

問題判別: 1、4、5、6

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRRA00、DFSFESP0、DFSESPRO、DFSTMS00

関連情報:

 DFS3624I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3050

説明: この異常終了は、IMS ディスパッチング・ブロックを初期設定するモジュールが、訂正不能なエラーを検出したときに発行されます。

分析: この異常終了は、すべての異常条件に対して発行されます。レジスター 15 には、DFSKDP00 と DFSKDS00 の両方のモジュールに対する以下の理由コードが入っています。

DFSKDP00 の場合:

コード 意味

- X'01' 要求されたディスパッチャー・タイプが無効でした。レジスター 2 には、無効なディスパッチャー・タイプが入っています。
- X'02' IDSPWRK セクション 1 の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には現行ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'03' IDSPWRK セクション 2 の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には現行ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'04' 従属領域が DYN 保管セットを要求しました。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。
- X'05' ディスパッチャー・タイプでは特殊な INIT が必要であり、ルーチンがモジュールに追加されませんでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

- X'06' 生成された最大ページの TCB エントリーを取得できません。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。
- X'07' TCB エントリーを取得できません。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っていません。DFSBCB GET が失敗し、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'08' RCF TCB 初期設定が失敗しました。ITRCFTCB テーブル内の終了 ECB に対する一致 TCB アドレスを見つけることができません。レジスター 5 には、検索の対象である TCB アドレスが入っています。
- X'09' 解放が要求されました。TCB は DYN SAP を使用しました。レジスター 2 には、無効なディスパッチャー・タイプが入っています。
- X'0A' IMS CTL TCB ディスパッチャーの動的 SAP 制御ブロックに関して、GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。
- X'0A' この理由コードはモジュール DFSKDP00 によって発行されます。動的 SAP 制御ブロックに対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 2 には、現行のディスパッチャー・タイプが入っていません。レジスター 3 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。
- X'0B' DPXB の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には、現行のディスパッチャー・タイプが入っていません。レジスター 3 に DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'10' 共通終了 ECB 制御ブロックに関して、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 に IMODULE 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDP00 内のアドレスが入っています。
- X'11' 共通終了 ITASK の保管域に関して、DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 3 に DFSBCB 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDP00 内のアドレスが入っています。
- X'12' 共通終了 ITASK に関して、ITASK CREATE (DFSCIR) が失敗しました。レジスター 3 に DFSCIR 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDP00 内のアドレスが入っています。

DFSKDS00 の場合:

コード 意味

- X'13' 動的 SAPS の初期セットを取得できません。BP1003。レジスター 3 には DFSKDP10 戻りコードが入っています。レジスター 8 には DISP WK 領域アドレスが入っています。
- X'13' DFSCIR マクロが、動的保管域接頭部 (SAP) ウェイクアップ ITASK に失敗しました。BP1003。レジスター 3 には DFSCIR 戻りコードが入っています。レジスター 8 には DISP WK 領域アドレスが入っています。
- X'16' 呼び出しディスパッチャーが DYN SAPS に対してセットアップされませんでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。
- X'17' 動的 SAP の要求数がゼロでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っていません。
- X'18' SAPS に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'19' 保管域に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'1A' SAP 作業域に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。
- X'1B' LATE (ラッチ) に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。説明については、DFSBCB 戻りコード情報を参照してください。

DFSKDS10:

R15 の高位ハーフワードには、失敗したサービスからの戻りコードが入ります。低位ハーフワードにはサブコードが入ります。

コード 意味

- X'01' 正しくない機能が指定されました。
- X'10' SAP の取得に失敗しました。
- X'11' 保管域の取得に失敗しました。

X'12' QMWA の取得に失敗しました。

X'13' 共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) の取得に失敗しました。

X'14' SVPL の取得に失敗しました - BN70022。

X'15' XMCI の取得に失敗しました。

システムの処置: 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答: IMS 緊急時再始動を実施します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了は、欠陥のある IMS コードにより引き起こされました。

異常終了時のレジスター 15 に入っているサブコードが、欠陥のタイプを示しています。

サブコード (16 進数)

意味

02,07,18

CSA 不足の可能性があります、ストレージのフラグメント化を解消するためにオペレーティング・システムの IPL が必要です。

03,19,1A

専用アドレス・スペースのストレージ不足の可能性があります、IMS ジョブの領域サイズを増やす必要があります。

X'01' KDS20 ECB の IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'01' KDS20 の DFSCIR に失敗しました。

この異常終了は、モジュール DFSKDP00 および DFSKDS00 によって発行されます。サブコードは IMS にとって内部的なものであり、モジュールのプロログに文書化されています。IMS ソフトウェア問題を訂正するための手順に従います。

問題判別: 1、4、5、12、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSKDP00、DFSKDS00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

 DFSBCB 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3051

説明: これは、IMS 疑似異常終了です。IMS は、外部サブシステムでの使用のためにこの異常終了を割り振りました。この異常終了は、外部サブシステム操作不能 (SNO) 出口から X'10' 戻りコードが戻されたときに発行されます。この戻りコードは、デバッグのために IMS 異常終了を必要としたとき、または外部サブシステムが操作可能でなく、しかも『領域エラー・オプション Q』が選択されていたときに、サブシステム出口によって戻されます。通常、これに伴い、追加のデバッグ情報を含む X'55' ログ・レコードが IMS ログに書き込まれます。

SSM メンバーまたはリソース変換テーブル (RTT) について、指定された REO= オプションを検討してください。RTT が使用されているときは、RTT に指定されたオプションが、SSM SSM メンバーの REO オプションをオーバーライドします。詳しくは、DB2 for z/OS インストールおよびマイグレーション・ガイドを参照してください。REO=Q が設定されていると、異常終了 3051 が発生する場合があります。

分析: これは、DFSESPR0 によって発行される疑似異常終了です。インストールの問題判別は、次のもので構成されます。

- 外部サブシステムの資料で、この異常終了を要求する理由が定義されています。この資料から問題の種類を判別して、訂正します。

3052

- /STA SUBSYS コマンドを使用して、外部サブシステム接続を開始します。

レジスター 2 は、環境コントローラーの作業域を指します。これは、DSECT DFSECP を使用して、作業域内のフィールド ECSAVE2 のオフセットを判別します。システム操作不能 (SNO) 出口ルーチンに渡されるパラメーター・リストの先頭が、この位置です。モジュール DFSESPR0 で定義される DSECT パラメーター・リストを使用して、リストを調べて正確さを確保します。3051 異常終了コードはフィールド PARMSRC にある必要があります。そこにある場合、SNO 出口ルーチンが問題判別のためにそこに置きました。

ラベル ESPX010 は異常終了をセットアップします。

システムの処置: IMS は以下の処理を実行します。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. 関係のあるデータ域をログに記録する。
3. トランザクションを PSTOP 状態にする。
4. DFS554A メッセージを MTO に、および DFS555I メッセージを入力端末に送信する。
5. 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録できるようにする。
6. 後で処理できるように、入力メッセージを再びキューイングする。IMS は、入力メッセージの後処理を判別するために外部サブシステム ECHO 出口を呼び出すことはありません。ただし、入力メッセージは、後で処理するために再キューイングされます。
7. アプリケーション終了処理中に、コミットされていないすべての変更をバックアウトする。

オペレーターの応答: 失敗したサブシステム接続を始動または再始動します。

プログラマーの応答: インストール・オプションには次のものがあります。

- 外部サブシステムの資料で、この異常終了を要求する理由が定義されています。この資料から問題の種類を判別して、訂正します。
- /START SUBSYS コマンドを使用して、外部サブシステム接続を始動します。

問題判別: 4、5、6、および 7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3052

説明: この IMS 異常終了は、必要な内部機能が正常に完了しなかった場合に発行されます。次のいずれかの問題が発生しました。

- アプリケーション同期点処理中に、無効な機能コードが外部サブシステムの同期点管理機能 (DFSFESP0) に渡されました。
- IMS 同期点管理機能 (DFSFXC30) によって、PST のフィールド PSTSYNFC に 1 バイトのコードが渡されました。

分析: これは、従属領域 SSOB 保管域に置かれているコード DFSFESP0 によって発行される疑似異常終了です。このコードが実行されるのは、上記条件の一方または両方が生じる場合のみです。通常、プログラム要求処理プログラム (DFSESPR0) が制御権を獲得し、アプリケーション要求を処理しますが、外部サブシステム・サポートが初期化されなかったため、プログラム要求処理プログラムがロードされませんでした。

考えられる原因: この異常終了が発生したという事実は、外部サブシステム要求を発行したアプリケーションの実行を禁止する (すなわち、/PSTOP tran) か、またはサブシステムを定義する IMS.PROCLIB メンバーの構築後に SSM パラメーターを挿入する正当な理由です。

DFSXLRM0 の場合:

この異常終了が発行されるのは、DFSXLRM0 の実行中に IMS サービスが失敗した場合です。失敗したサービスは、次のように、レジスター 15 に含まれているサブコードによって判別できます。

コード 意味

- X'04' DFSBCB get qsav が失敗しました。
- X'08' DFSCDSP が失敗しました。
- X'0C' IMODULE ロードが失敗した。
- X'10' DFSCWU が失敗しました。
- X'14' IPOST が失敗しました。
- X'18' IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- X'1C' DFSCIR が失敗しました。
- X'20' DFSBCB get 1sav が失敗しました。
- X'24' DFSTFRG0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。

これは、IMS サービスがゼロ以外のコードを戻すときに DFSXLRM0 によって発行されるユーザー異常終了です。サービスからの戻りコードは R8 に含まれ、次の順次命令のアドレスは R14 に含まれます。IMODULE および DFSBCB の戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。DFSCIR に関する戻りコードは、DFSCIR マクロに関するプロログから取得できます。

考えられる原因: 考えられる原因は、失敗したサービスおよび失敗の理由によって異なります。大部分の問題はストレージの不足に関連します。

システムの処置:

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録する。
3. 入力メッセージを破棄する。
4. トランザクションを停止する。
5. アプリケーション・プログラムによって処理されたデータベース変更をバックアウトする。
6. メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
7. メッセージ DFS554A をマスター端末に送信する。
8. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してから、定められたリカバリー/再始動処置を実施します。

プログラマーの応答: マスター端末に送信されるメッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、機能コード (FC) および戻りコード (RC) が含まれ、エラーを検出したモジュールおよびエラー状態 (戻りコード) を示します。戻りコードについては、IMS 戻りコードおよび機能コードの情報を参照してください。無効な機能コードは、論理エラーを示していることがあります。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFESP0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3053

説明: これは、外部サブシステムのサインオンまたはコミット準備出口が、戻りコード X'18' をレジスター 15 に戻した場合に発行される IMS 疑似異常終了です。これは、アプリケーション・プログラムに関連するリカバリー・トークン (NID) が、すでに外部サブシステム内に存在することを示しています。この状態が発生する可能性が最も高いの

3054

は、アクティブな外部サブシステム接続があるときに、IMS が異常終了後にコールド・スタートを繰り返した場合です。

分析: これは、DFSESPR0、DFSFP0、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

bytes 1-2 | bytes 3-4

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DSECT DFSESF0 を参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチン (つまり、X'18') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

上記の情報が提供されるのは、異常終了 3053 が繰り返し発生する問題になる場合です。IMS が頻繁にコールド・スタートされる場合、異常終了 3053 を予想します。

モジュール DFSESS00 (サインオン) で RCSOFA のラベルを付け、DFSESP10 (コミット・フェーズ 1) で RETURN のラベルを付けます。

考えられる原因: アクティブな外部サブシステム接続が存在中に、異常終了の後で IMS が繰り返しコールド・スタートされると、この状態が発生する可能性が最も高いです。外部サブシステムは、アプリケーション・プログラムに関連したリカバリー・トークン (NID) を保存しました。これは、その NID に対して未確定解決処理が完了しなかったためです。

システムの処置: IMS は以下の処置を取ります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. 障害時に処理中であった入力メッセージを、すぐにスケジュール変更および再処理できるように IMS 入力メッセージ・キューに戻す。スケジュール変更することにより、NID の元のアプリケーション・シーケンス番号 (OASN) 部分が増やされ、そのため固有の番号になります。
4. アプリケーションが BMP にスケジュールされていた場合、DFS555 メッセージを入力端末に送信する。

トランザクションまたはプログラムは PSTOPPED 状態にされません。

プログラマーの応答: 必要ありません。トランザクションは、インストール/オペレーターの介入なしに即時に再処理されます。ただし、外部サブシステム接続が確立されるたびに (すなわち、/START SUBSYS コマンドの後に) この異常終了が繰り返し発生する場合、外部サブシステムのアプリケーション・プログラムの資料を調べて、問題のリカバリー・トークンを手動で削除する手段をインストール・システムで決定する必要があります。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESPR0、DFSFP0、DFSTMS00

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

3054

説明: 3054 は、リソース (すなわち、ストレージ作業域) を解放中にエラーが検出された場合、DFSESI40 または DFSESP0 のいずれかによって発行される IMS 異常終了です。レジスター 15 に、IMODULE サービスによって戻された戻りコード、およびゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示す 16 進値が入っています (レジスター 15 の内容は下記を参照)。レジスター 14 に、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールのアドレスが入っています。

分析: 3054 は、制御領域で検出される標準異常終了、または従属領域で検出される疑似異常終了のどちらかの場合があります。この異常終了はモジュール DFSESI40 および DFSESP0 によって発行されます。

レジスター 15 に、IMODULE サービスによって戻された戻りコード、およびゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示す 16 進値が入っています (R15 の内容は下記を参照)。レジスター 14 には、モジュール内で失敗した正確な IMODULE DELETE 要求のアドレスが入っています。

レジスター 14 にあるアドレスを使用して、上記のどちらのモジュールが異常終了を発行したか、および IMODULE delete が失敗した理由を判別します。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

bytes 1-2 | bytes 3-4

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DSECT DFSESFC を参照してください。

バイト 3 および 4

IMODULE (DFSMODU0) によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

キーについては、上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。どちらの削除が失敗したかを判別するには、レジスター 14 にあるアドレスに進みます。

ラベル モジュール内

TEMPA00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPC00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPE00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPG00

DFSESI40 / DFSESPL0

ESIEX30

DFSESI40

ESIEX20

DFSESI40

FREETAB

DFSESPL0

システムの処置: IMS は、外部サブシステムを表す TCB を終了させ、それ自体 (IMS) と指定の外部サブシステムとの間の接続が確立されるのを妨げます。IMS 初期設定処理中に 3054 が発生した場合でも、他のすべての IMS タスク (TCB) は初期設定処理を継続することができます。/START SUBSYS コマンドの結果としてこの異常終了が発生した場合、外部サブシステム・タスクのみが異常終了し、他の IMS 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してから、定められたインストール・リカバリー/再始動処置を実施します。

プログラマーの応答: IMODULE DELETE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

レジスター 14 にあるアドレスを使用して、異常終了を発行したモジュールおよび IMODULE DELETE が失敗した理由を判別します。

IMS /START コマンドを使用して、失敗した外部サブシステムを再始動します。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSESI40、DFSESPL0

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3055

説明: 外部サブシステム (Db2 for z/OS) がフェーズ 1 コミット要求を完了することができず、通常のアプリケーション終了中に戻りコード 4 を戻しました。この異常終了は、通常のアプリケーション終了中のコミット要求、または終了しないコミット要求 (メッセージ単独読み取り要求など) の処理中に、フェーズ 1 コミット要求が戻りコード X'10'を戻した場合にも発生する可能性があります。

DB2 からのこれらの戻りコード (RC=X'04'、RC=X'10') は、DB2 モジュールがコミット要求に対して「NO」と表明したことを示します。

分析: これは、以下のような場合に各モジュールによって発行される疑似異常終了です。

DFSPCC20

フェーズ 1 コミット中に、アプリケーションの通常の終了で RC X'04' または RC X'10' を受け取った時。

DFSCP00

終了しないシナリオのフェーズ 1 コミット中に RC X'10' を受け取った時。

DFSTMS00

戻りコードは DB2 から DFSESP10 に戻され、DFSESP10 は DFSFESP0 に戻りコードを戻します。DFSFESP0 は疑似異常終了をセットアップします。

システムの処置: 従属領域は、異常終了 3055 で終了します。

プログラマーの応答: Db2 for z/OS がフェーズ 1 コミット要求を処理できない理由を示す異常終了またはメッセージ (あるいは両方) があるかどうか、Db2 for z/OS サブシステムを調べます。

ABEND 3055 の原因の 1 つとして、中断状態ユーザー ID が考えられます。この状態は、RACF またはその他のセキュリティ製品からのメッセージで示されます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFESP0、DFSTMS00

3056

説明: DB2 RRSAPF インターフェース・モジュール DFSD2AF0 が、レジスター 15 が示す機能で重大なエラーを検出しました。

分析: これは、モジュール DFSD2AF0 によって発行される疑似異常終了です。機能 00 の場合、メッセージ DFS3628I が異常終了とともに発行されます。機能 01 から 04 の場合、メッセージ DFS3629I が発行されます。レジスター 2 およびレジスター 3 には、失敗した Db2 for z/OS RRSAPF 機能の戻りコードおよび理由コードが入っています。

コード 意味

X'00' 初期設定

X'01' RRSAPF 識別

X'02' RRSAPF サインオン

X'03' RRSAPF スレッド作成

X'04' RRSAPF スレッド終了

システムの処置: 異常終了を発行した従属領域が終了します。

プログラマーの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

問題判別: 3, 4

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSD2AF0

関連情報:

 DFS3628I

 DFS3629I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3057

説明: アプリケーション・プログラムが外部サブシステムに接続しようとしたが、接続が確立されないときに、この異常終了が発生します。次のいずれかの条件が、異常終了の原因として考えられます。

- 制御領域で、外部サブシステムを IMS に定義するための SSM 実行パラメーターが指定されなかった。
- 従属領域の SSM 実行パラメーターに、外部サブシステム用の定義が含まれていなかった。
- バッチ・アプリケーション・プログラムが SQL 呼び出しを Db2 for z/OS 外部サブシステムに対して発行したが、IMS と Db2 for z/OS サブシステム間に接続が確立されていなかった。この場合、接続を確立するのは Db2 for z/OS の役割です。バッチ環境で IMS と Db2 for z/OS の間で接続を確立する方法については、Db2 for z/OS の資料を参照してください。

分析: これは、従属領域 SSOB 保管域に置かれているコード DFSLI000 によって発行される疑似異常終了です。このコードが実行されるのは、上記条件の一方または両方が生じる場合のみです。通常、プログラム要求処理プログラム (DFSESPR0) が制御権を獲得し、アプリケーション要求を処理します。しかし、この場合、外部サブシステム・サポートが初期化されなかったため、プログラム要求処理プログラムがロードされませんでした。

また、DDITV02 または SSM=member のどちらかを使用して、バッチ領域内のアプリケーション・プログラムが、DB2 を指定せずに SQL 呼び出しを行う場合も、この異常終了が生じます。

考えられる原因: この異常終了が発生したという事実により、外部サブシステム要求を発行したアプリケーションの実行が禁止されなければなりません (すなわち、/PSTOP transaction が発行されなければなりません)。別の方法として、サブシステムを定義する IMS.PROCLIB メンバーの構築後に適切な SSM パラメーターを挿入する必要があります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムが開始した外部サブシステム呼び出しは、外部サブシステムのプログラム要求処理プログラム (DFSESPR0) に送られます。外部サブシステムとの接続が確立されていないので、呼び出しを処理できませんでした。呼び出しは、アプリケーション・プログラムが終了できるように、インターセプトされました。IMS が次の処置を開始するかどうかは、アプリケーション・プログラムがオンライン環境またはバッチ環境のいずれかで実行されているかによります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. 障害時に処理中であった入力メッセージを、再処理のために IMS 入力メッセージ・キューに戻す。
4. メッセージ DFS555 を入力端末に送信する。
5. トランザクションは、スケジュール変更されないように、PSTOPPED 状態にされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 接続障害の理由を判別し、必要な訂正を行います。アプリケーション・プログラムがバッチ環境で実行されている場合、バッチ・アプリケーションを再実行します。アプリケーション・プログラムがオンライン環境で実行されている場合、従属領域アプリケーションを再始動します。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLI000

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

説明: 基本クラスター・ブロック (BCB) ストレージ・マネージャーが障害を検出しました。

モジュール DFSBCB00、DFSBCB30、および DFSBCB90 は、CBT プールと呼ばれる特定のストレージ・プール内でブロックに対する獲得または解放要求をサポートします。モジュール DFSBCB00 および DFSBCB90 は、獲得要求と解放要求のためのインターフェース・モジュールです。モジュール DFSBCB30 は、要求をサポートするサービスを提供します。モジュール DFSBCB60 は、これらのプールに対するオンライン・ストレージ圧縮機能を提供します。

CBT ストレージに対する要求では、マクロ DFSBCB を使用します。その結果、要求されるブロックの特性に応じて、DFSBCB00、DFSBCB80 (モジュール DFSBCB30 内)、または DFSBCB90 への呼び出しが生じます。また、マクロ DFSBCB は、特定のブロック・タイプに対するインライン拡張を使用して要求を処理することもできます。

CBT プールは、DFSCBT00 COPY で定義されます。SCD フィールド SCDCBTA は、DFSCBTS FUNC=DSECT によってマップされる制御ブロック・テーブル・ヘッダー (DFSCBTHD) を指します。ヘッダー内のフィールド CBTFE は、最初のストレージ・プール項目 (ロード・モジュール DFSCBT10) を指します。

所定のプールの場合、ストレージは IPAGE と呼ばれる単位で取得されます。各 IPAGE は接頭部 (DFSPPRE によってマップされる) から始まります。この接頭部には、次の IPAGE へのチェーン (PRENP) と IPAGE フリー・エレメント・キュー (PRENAB) が含まれています。複数の IPAGE にまたがってブロックがチェーンされることはありません。同じストレージ・プール内であっても、各 IPAGE の長さ (接頭部を含む PREIPL) が異なる場合があります。

ストレージ・プール項目 (DFSCBTS FUNC=DSECT によってマップされる) は、最も古い IPAGE (CBTEPA) と最新のもの (CBTCURR) を指します。IPAGE チェーンをたどるには、PRENP を使用して CBTEPA から始めます。各 IPAGE には、それに関連したストレージ・プールの 4 バイトの名前 (PRENAME) が含まれています。チェーンングのために使用されるブロック内のオフセットは、ストレージ・プール項目 (CBTCOFF) と IPAGE 接頭部 (PRECO) で検出されます。

ブロック獲得要求の処理の一環として追加 IPAGE ストレージが必要な場合、モジュール DFSBCB30 は、ジョブ・ステップ TCB の下で実行される CSS ITASK に作業エレメントをエンキューします。モジュール DFSCSS00 はこのキューを処理し、モジュール DFSSTM00 を開始して GETMAIN を発行します。

所定のストレージ・プールのブロックは、アドレス・タイプか、ブロック・オフセット・タイプ (CBTFLG1:CBTBOFF) のどちらかです。

前者の場合、IPAGE に使用可能なブロックは、ストレージ・アドレスを使用してフリー・キューからチェーンングされます。ブロック・オフセットを使用するブロックの場合、IPAGE フリー・キューには、(IPAGE の開始から) 最初の使用可能ブロックまでのオフセットが入っています。最初の使用可能ブロック内のチェーン・フィールドには、(IPAGE の開始から) 次に 使用可能なブロックまでのブロック・オフセットが入っています。ブロック・オフセットの上位 16 ビットは IPAGE ID であり、下位 16 ビットは IPAGE の先頭からのオフセットです。ブロック・オフセット・タイプのブロックを解放するには、呼び出し元はブロック・オフセット (つまり、実際のストレージ・アドレスではなく) を渡す必要があります。ブロック獲得機能は両方の値を戻します。

ブロックが割り振られると、Block Formatter ルーチンを使用してフォーマットできます。関連したルーチンの名前は、プール定義マクロで DFSCBT00 COPY で指定されます。

ブロックが割り振られると、IPAGE フリー・キューから除去されます。ストレージ・プール・オプション (CBTFLG1:CBTACTQ) に基づいて、これらの割り振られたブロックは、ストレージ・プール項目 (CBTALLOC) でアンカーされる ACTIVE QUEUE でスレッド化できます。ブロックは、IPAGE フリー・キューからチェーンオフされるのと同じ方法でこのキューでチェーンングされます。

後者の場合、キューのチェーンングがアクティブなブロック・オフセット・タイプのプールの場合、CBTALLOC には、キュー上の最初のブロックのブロック・オフセットが入っています。このブロックを含む IPAGE を見つけ、そのチェーン・フィールドにアクセスして、キュー上で次のエレメントのブロック・オフセットを取得することが必要です。

要求の処理中にストレージを割り振ることが必要な場合があります (つまり、呼び出し元が単一の保管域のみを提供したため、追加の保管域が必要)。ストレージ・マネージャーには、SCD (SCDCBQ) にアンカーされた、この目的のため

めのエレメントのキューがあります。モジュール DFSXCB00 は、初期化時に BXQE ストレージを取得しました。エレメントが使用不可である場合、ストレージ・マネージャーは BCPE エレメントを GETMAIN して、そのロジックに入って、取得する BXQE ストレージを増やします。次に、要求の完了に進みます。参照されるブロックは、DFSBCB FUNC=EQU を使用してマップされます。追加のストレージ要求に割り振る ECSA ストレージがもうない場合、異常終了 3058 が DFSBCB00 によって発行される場合があります。

パフォーマンス上の理由で、特定のブロックにストレージ・プール項目がありますが、関連したストレージは IPAGE フォーマットではありません。これらのブロックは、SCD でアンカーされるキュー上にあります。非同期作業エレメント (AWE) アンカーは SCDAWEQ であり、BXQE (ストレージ・マネージャー内部エレメント) アンカーは SCDBCQBQ であり、SRBC (データ共有 SRB) アンカーは SCDDSSRB です。このような各ブロックには接頭部 (DFSBCB FUNC=EQU によってマップされる) があります。この接頭部は、解放の検証とチェーニングにストレージ・マネージャーで使用されます。

モジュール DFSBCB60 は、CBT プールのオンライン・ストレージ圧縮機能です。モジュール DFSXBC60 は、BCB60 ITASK のタイマー・サービスを提供します。この ITASK が見つける IPAGE には、使用中のブロックがなく、そのストレージを解放します。IPAGE が固定されている場合、IMSAUTH は、ストレージを最初に固定解除するのに使用されます。

分析: これは、DFSBCB00、DFSBCB30、DFSBCB60、DFSXBC60、および DFSBCB90 によって発行される標準異常終了です。

DFSBCB00 と DFSBCB30 の場合:

レジスター

説明

レジスター 5

指定されたとおりに修飾情報が入っています

レジスター 6

異常終了サブコード

レジスター 7

解放エラーの場合、レジスター 7 には解放対象ブロックのブロック・アドレス/ブロック・オフセットが入っています

レジスター 9

DFSBCBTS FUNC=DSECT によってマップされるストレージ・プール項目のアドレス

レジスター 10

DFSDAWE TYPE=BCB) によってマップされる DFSBCB00 呼び出し元の AWE を指します。またはゼロは、非同期作業エレメント (AWE) が渡されなかったことを示します。

レジスター 11

SCD アドレス

レジスター 13

DFSBCB00 呼び出し元の保管域 (指定されている場合) を示します。元の呼び出し元 0、1、および 15 が使用された可能性があります。

DFSXBC60 の場合:

レジスター 6

異常終了サブコード:

キー	ラベル	説明
Reg6=X'01'	DFSBCB00 RBLK000	解放するアドレス・タイプ・ブロックが IPAGE で見つかりませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg6=X'02'	DFSBCB00 RBLK900	呼び出し元が、解放されるブロックのチェーンを渡しました。呼び出し元のカウン트가ゼロになる前に、チェーンが終了しました。レジスター 5 には残りのカウン트가あります。チェーン内の最初のブロックのアドレスは、AWBLKA (DFSDAWE) フィールドにあります。元のカウン트는 AWBCNT にあります。
Reg6=X'03'	DFSBCB00 RELBOFF	呼び出し元によって渡されるブロック・オフセットで指定された IPAGE ID を持つ IPAGE が存在しません。
Reg6=X'04'	DFSBCB00 FMT60	Block Formatter ルーチンが、レジスター 5 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg6=X'05'	DFSBCB30 RELBACTQ	呼び出し元はブロック・オフセット・タイプのブロックを解放しようとしています。ストレージ・プールに対してアクティブなキュー・チェーンが示され、渡されたブロック・オフセットはアクティブ・キュー上にありません。
Reg6=X'06'	DFSBCB30 RBACT300	呼び出し元はブロック・オフセット・タイプのブロックを解放しようとしています。ストレージ・プールに対してアクティブなキュー・チェーンが示されます。アクティブ・キュー・チェーンをたどって、呼び出し元が渡したブロック・オフセット (レジスター 7) を見つけているときに、IPAGE 上にないブロック・オフセットがレジスター 5 で見つかりました。これは、アクティブ・キュー・チェーンが破棄されていたことを示します。
Reg6=X'07'	DFSBCB30 RACT400	呼び出し元は、アドレス・タイプ・ブロックを解放しようとしています。アクティブなキュー・チェーンが示されます。解放するブロック (レジスター 7) が、アクティブ・キューで見つかりませんでした。
Reg6=X'08'	DFSBCB30 RACT705A	BLOCKS のチェーンが、アクティブ・キュー (アドレス・タイプ・ブロック) から除去される予定でした。最初のブロックが見つかりました (レジスター 7)。ユーザー指定のブロック数 (AWBCNT) に達しないうちに、アクティブ・キューが使い果たされました。残りの数はレジスター 5 にありました。
Reg6=X'09'	DFSBCB30 RACT210	アクティブ・キュー上でレジスター 7 内のブロックを見つけようとしていました。このストレージ・プールの IPAGE がありませんでした。
Reg6=X'0A'	DFSBCB30 REL20	呼び出し元は、ストレージ・プール項目ラッチを解放する準備ができ、追加のレジスター・スペースが必要です。使用可能な BXQE がありませんでした。BCBPE エlementのための IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 の上位 16 ビットには、IMODULE 戻りコードが入っています。下位 16 ビットには X'0C' が入っています。
	DFSBCB00 FMTIMERR	block format ルーチンを開始するには、追加ストレージが必要です。BCBPE エlementのための IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了コード X'0A' を参照してください。
Reg6=X'0B'	DFSBCB30 REL20	サブコード X'0A' の説明を参照してください。BCBPE が正常に取得されました。モジュール DFSSTM00 を使用してもっと多くの BXQE ストレージを取得するために、エントリー DFSBCB50 で DFSBCB30 に入りました。DFSSTM00 によって発行された BXQE の IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 の上位 16 ビットには、IMODULE 戻りコードが入っています。下位 16 ビットには X'1C' が入っています。

キー	ラベル	説明
	DFSBCB00 FMTBXERR	block format ルーチンを開始するには、追加ストレージが必要です。異常終了コード X'0B' を参照してください。
Reg6=X'0C'	DFSBCB60 FREE00	IPAGE を IMODULE DELETE しようとしてエラーが発生しました。レジスター 3 = IPAGE アドレスレジスター 5 = IMODULE に渡されたサブプールレジスター 15 = IMODULE 戻りコード IPAGE 接頭部 (DFSPPRE:PRECUB) には、関連したストレージ・プール (DFSCBTE) のアドレスが入っています。メッセージ DFS3623E が発行されます。
Reg6=X'0D'	DFSBCB60 QP40	IMSAUTH FUNC=PGFREE を使用してページの固定解除しようとしてエラーが発生しました。レジスター 15- IMSAUTH 戻りコード解放リストは、モジュール DFSBCB60 のラベル BCBFIX にあります。元のレジスター 6 はレジスター 2 に保管されました。各 IPAGE 接頭部 DFSPPRE では、PRECUB が関連したストレージ・プールのアドレスです。メッセージ DFS3625E が発行されます。
Reg6=X'0E'	DFSXBC60 INT05	ストレージ圧縮タイマー (DFSXBC60) が DFSBCB60 のアドレスを検出できませんでした。制御アドレス・スペースの場合、DFSBCB60 が XSTM0 によってロードされ、DL/I アドレス・スペースの場合、DFSXDL00 がロードされます。
Reg6=X'0F'	DFSBCB30 SWITCH	呼び出し元は仮想記憶間モードに入っています。ITASK ECB を見つけるために、呼び出し元の保管域チェーンがたどられました。ECB が見つかりませんでした。レジスター 13 は、呼び出し元の保管域チェーンのアドレスです。
Reg6=X'10'	DFSBCB30 GETECB0	呼び出し元は仮想記憶間モードに入っています。ITASK ECB を見つけるために、呼び出し元の保管域チェーンがたどられました。チェーンをたどった回数は BCB LPCNT 回 (DFSBCB FUNC=EQU) でしたが、チェーンは終了しませんでした。おそらく、保管域がそれ自体にチェーンされています。レジスター 13 は、呼び出し元の保管域チェーンのアドレスです。

サブコード 12 および 13 の場合、IMS は異常終了します。IPAGE 接頭部がオーバーレイされた可能性があります。

サブコード 1、2、3、5、7、8、および 9 の場合、DFSBCB00 の呼び出し元が無効な入力を渡した可能性があります。

サブコード 4 の場合、ストレージ・プールに関連した block formatter ルーチンを調べて、ゼロ以外の戻りコードを戻した理由を判別します。ブロック・フォーマッターの名前は、DFSCBT00 COPY のプール定義マクロで指定されず。

サブコード 6 は、内部 IMS 論理エラーが発生したことを示しています。

サブコード 10 の場合、IMODULE GETMAIN が 184 バイトに対して発行されました (サブプール 228 z/OS オンライン、その他は 251)。コード 11 の場合、IMODULE GETMAIN が 4096 バイトに対して発行されました (サブプール 231 z/OS オンライン、その他は 251)。

サブコード 14 または 16 は、内部 IMS 論理エラーを示します。

サブコード 15 の場合、仮想記憶間モードの DFSBCB 要求側はすべて、ITASKS でなければなりません。

12 と 13 以外のサブコードの場合、この異常終了が制御領域で発行されるかどうか、および異常終了を起こした TCB が再タスク生成可能かどうかに応じて、IMS が異常終了する可能性があります。

DFSBCB90 の場合:

DFSBCB90 によって管理されるブロックには、ブロックの直後に 8 バイトの接尾部があります。この接尾部は、解放呼び出しでの検証とオーバーレイ検出に使用されます。接尾部の先頭ワードには、解放されるブロックの文字ストリングとしてブロック・タイプ名が含まれています。2 番目のワードの先頭バイトには、ブロックが割り振り済み ('A') であるか、フリー ('F') であるか、または初期化済みであるが割り振られていない ('I') かを示す単一文字が入っています。ブロックの解放時にこの接尾部の検証が失敗すると、3058 異常終了が以下のいずれかのサブコードと一緒に発行されることがあります。

キー	説明
Reg15=X'01'	DFSBCB 解放呼び出しが行われましたが、解放されたブロックが妥当性検査に失敗しました。ブロック接尾部内のブロック・タイプが、解放で指定されたブロック・タイプと一致しませんでした。異常終了時に、レジスター 2 は解放されるブロックを指し、レジスター 14 はブロックの接尾部を指し、レジスター 9 は解放されるブロックのブロック・タイプの CBTE を指します。CBTE 内の最初の 4 バイトには、ブロック・タイプの名前が入っています。
Reg15=X'02'	DFSBCB 解放呼び出しが行われましたが、解放されるブロックが割り振られていませんでした。異常終了時に、レジスター 2 は解放されるブロックを指し、レジスター 14 はブロックの接尾部を指し、レジスター 9 は解放されるブロックのブロック・タイプの CBTE を指します。ブロック接尾部内のオフセット X'04' でのバイトは、ブロックが割り振り済みであることを示す 'A' でなければなりません。バイトが 'A' でない場合、この異常終了が発行されます。
Reg15=X'04'	取得されるブロックには block formatter ルーチンがありますが、このルーチンを検出できませんでした。
Reg15=X'0A'	ブロックに対して block formatter ルーチンを呼び出すために BXQE が必要でしたが、BXQE を取得できませんでした。BCBPE ブロックについて IMODULE GETSTOR が GET5000 で (DFSBCB30 で) 失敗しました。
Reg15=X'0B'	ブロックに対して block formatter ルーチンを呼び出すために BXQE が必要でしたが、BXQE を取得できませんでした。DFSBCB50 は新しい BXQE IPAGE を取得できませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了するかどうかは、この異常終了が制御領域で発行されるか、および異常終了を起こした TCB が再タスク生成可能かによります。

プログラマーの応答: IMS が終了した場合、適切な再始動手順を実施します。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSBCB00、DFSBCB30、DFSBCB60、DFSBCB90

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3059

説明: IPAGE ストレージを取得するために、モジュール DFSSTM00 が開始されました。汎用 IPAGE フォーマッター DFSSPF00 が、この処理の一部として呼び出されました。DFSSPF00 は、プール・ページ・フォーマッターが指定されている場合、それを呼び出します。DFSSPF00 への呼び出しから戻った後、DFSSTM00 は、IPAGE 上のブロック数 (DFSPPRE:PRENOB) が 0 であることを検出しました。詳しい説明と分析については、異常終了 3058 を参照してください。

分析: これは、DFSSTM00 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg3	DFSSTM00 NEWPG300	(DFSCBTS によってマップされる) ストレージ・プール項目のアドレス。
Reg5	DFSSTM00 NEWPG300	IPAGE のアドレス (DFSPPRE によってマップされる接頭部)。

この異常終了は、欠陥のある IMS コードにより引き起こされました。ストレージ・プール項目内の値に疑いがあります (一般に、CBTEBL- ブロック長および CBTBLKN - ブロック数はゼロであってはなりません)。ストレージ・プール・ページ・フォーマッターにも疑いがあります。プール・ページ・フォーマッターを検出するために、DFSCBT00 COPY にはプール定義が含まれ、このプールのページ・フォーマッター名 (PFN=) (ある場合) を示します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別するには、レジスターを参照してください。

問題判別: 4、5、6、7

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSSTM00

関連情報:

3058

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3062

説明: メモリー割り振り、ストレージの取得、またはモジュール・ロード中に、いくつかのモジュールの 1 つでエラーが発生しました。理由コードは、エラーのタイプをさらに特定し、切り分けます。

理由コード

- | | 説明 |
|-----|---|
| 4 | DFSSQLA のストレージを取得するための SQL10 への呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSSQL00 |
| 15 | ISQLA または DFSSOLA のストレージを取得するための呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSAERG0、DFSPDLI0

または
PNSQA (IMS ネイティブ SQL アンカー) が存在しません。
モジュール: DFSPDLI0 |
| 100 | パーサー作業域用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。
モジュール: DBFDT180 |
| 104 | パーサー作業スタック域、ツリー解析作業域、または sqlstr 用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSSQL10 |
| 116 | スタック・ブロック用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSSQL10 |
| 120 | ルーチン検出呼び出しが失敗しました。
モジュール: DFSSQL10 |
| 304 | DFSCAT00 に対する PCRE Locate が失敗しました。
モジュール: DFSDPSQL |
| 308 | Locate_PCARE が失敗しました。
モジュール: DFSSQL30 |

3090

システムの処置: IMS はダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

3090

説明: 高速機能データベース・トラッカーの初期設定中に論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

- 01** EDBT 用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE GETMAIN マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 02** RSR FP 関連モジュール DBFDTL をロードしようとしているときに、IMODULE LOAD マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 03** MVS SETLOCK 要求からエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 04** MVS 要求からエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 05** データ・スペースを作成しようとしているときに、DSPSERV マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 06** データ・スペースを作成しようとしているときに、ALESERV マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 07** データ・スペース管理モジュール DFSDSM0L をロードしようとしているときに、IMODULE LOAD マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 08** ESCD のアドレスを取得しているときに、エラーが発生しました。
- モジュール: DBFDT110
- 09** FP DB トラッカー用の ITASK (FPQS ITASK) を作成しようとしているときに、DFSCWU マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 0A** FP DB トラッカー用の ITASK (FPTI ITASK) を作成しようとしているときに、DFSCWU マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 0B** FP DB トラッカーの制御ブロック (IOTI) 用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 0C** FP DB トラッカー用の ITASK (IOTI ITASK) を作成しようとしているときに、DFSCWU マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

- モジュール: DBFDT110
- 0D** SRB (SRB-A) 用のストレージを獲得しようとしているときに、DFSBCB マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 0E** SRB (SRB-B) 用のストレージを獲得しようとしているときに、DFSBCB マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 0F** EMAC ハッシュ・テーブル用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 10** AWE 用のストレージを獲得しようとしているときに、DFSBCB マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 11** TUR ハッシュ・テーブル用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 12** OFR_TUR ハッシュ・テーブル用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 13** ITASK (LRQS ITASK) を作成しようとしているときに、DFSCWU マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT100
- 14** DB バッファ・ヘッダー用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT110
- 15** DB バッファ用のストレージを獲得しようとしているときに、IMODULE マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 16** DB バッファをページ固定しようとしているときに、IMSAUTH マクロからエラー戻りコードが戻されました。レジスター 15 からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
- モジュール: DBFDT150
- 24** 高速機能トラッカーが、JOB LIB および STEPLIB DD カードで指定されたライブラリーから DFSLRIQS をロードできません。これらのライブラリーを調べて、いずれかのライブラリーに DFSLRIQS が存在するかどうかを確認します。存在する場合、この問題を IBM に報告してください。存在しない場合、このモジュールが IMSの他のモジュールと一緒にインストールされなかった理由を判別します。インストールされていた場合、ライブラリーから除去された理由を判別します。

ソース: IMS 異常終了

3091

説明: ログ・ルーター TCB の下で高速機能データベース・トラッキングを実行中に、論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

コード

説明

- 01** FP データベース・トラッキング AWE キュー・サーバーによって、無効な要求コードが検出されました。

モジュール: DBFDT250

3093 • 3094

03 OFR の再始動中に、IMS 終了時に OFR 処理中だった AREA のための AREA 制御ブロックを見つけることができませんでした。

モジュール: DBFDT270

04 IMODULE GETSTOR からエラー戻りコードが戻され、CSA 内に AWE 用のストレージを取得できなかったことを示しています。IMODULE からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DBFDT250、DBFDT260

05 無効なタイプの FP データベース再実行レコードが、トラッキング再実行キュー処理中に検出されました。

モジュール: DBFDT250

システムの処置: IMS はダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM に連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

3093

説明: FP TCB の下で FP データベース・トラッキングを実行中に、論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

01 DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻され、AWE を作成できなかったことを示しています。DFSBCB からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DBFDT300

02 DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻され、DBRC 要求域を作成しようとしているときに AWE を作成できなかったことを示しています。DFSBCB からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。

モジュール: DBFDT300

03 FP データベース・トラッキング AWE キュー・サーバーによって、無効な要求コードが検出されました。

モジュール: DBFDT300

04 FP データベース・トラッキング AWE キュー・サーバーによって、無効なタイプの AWE が検出されました。AWE のストレージを解放できません。

モジュール: DBFDT300

05 DBRC ストリーム完了通知マクロによって、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。メッセージ DFS2966A を参照してください。

モジュール: DBFDT300

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM に連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS2966A (メッセージおよびコード)

3094

説明: 高速機能データベース・トラッキング中に論理エラーが検出されました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

- 01 FP データベース状況変更処理によって、無効な機能コードが検出されました。
モジュール: DBFDT180
- 02 DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻され、FP データベース状況変更処理が AWE を作成できなかったことを示しています。DFSBCB からの戻りコードは、レジスター 2 に保管されています。
モジュール: DBFDT180
- 03 DBRC 早期終了トラッキング・マクロによって、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。メッセージ DFS2969A を参照してください。
モジュール: DBFDT180

システムの処置: IMS はダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM に連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

3100

説明: 構文解析テーブルの構造内で内部エラーが検出されました。

分析: これは、MFS プリプロセッサ構文解析エラー分析ルーチン DFSUPAM0 によって発行される標準異常終了です。

各ソース・ステートメントは、プリプロセッサの個別のモジュールによって処理されます。各ステートメント・プロセッサには、ステートメントの構文を定義するテーブルが入っています。ステートメント・プロセッサは、モジュール DFSUPAM0 を呼び出して、ステートメント・プロセッサによって提供される構文テーブル (MFSGBL 内の PARSTABL を使用してアドレス指定される) を使用して、現行ステートメントで構文検査を実行します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル XFERBUMP 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、ステートメント・プリプロセッサ・モジュールによって渡される MFS プリプロセッサ・グローバル・ディクショナリー (MFSGBL) を指します。DFSUPAM0 を呼び出したステートメント・プリプロセッサ・モジュールは、異常終了 SVRB 内のレジスター 13 によって指し示される保管域セットからレジスター 14 を取得し、それを戻りアドレスとして使用することによって検出できます。レジスター 9 は、構文解析スタックの現行状態に関する構文解析スタック・エントリー (PSE) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C1C' Reg9 構文解析スタック・エントリー (PSE) Reg10 to the PARSTABL	XFERBUMP	構文解析テーブル全体でループする前に、現行項目と転送項目間の一致が検出されませんでした。これは、内部エラーを示します。レジスター 14 には、このテーブルを渡した呼び出し元の戻りアドレスが入っています。

考えられる原因: MFSGBL 領域の破棄。呼び出し側モジュールの構文解析テーブルが破棄されたか、構文解析スタック・エントリーが破棄されました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、12、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 26 章 IMS 異常終了コード 3101 - 3300

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3101

説明: ソース・ステートメントでエラー・リカバリーを提供しようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、MFS プリプロセッサ・構文解析エラー分析ルーチン DFSUPAM0 によって発行される標準異常終了です。

構文エラーが検出される場合、モジュール DFSUPAM0 はモジュール DFSUPBM0 を呼び出します。DFSUPBM0 は、有効なデフォルトを割り当てることによってエラーを訂正しようとしています。DFSUPBM0 がアルゴリズムのトラブルを検出する場合、エラー・リカバリー論理はエラーがあります。DFSUPAM0 に戻り、壊滅的なエラーを示します。

異常終了がラベル CATSTROP 内で発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のこのラベル内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルまで切り分けます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL to DFSUPBM0	LAB4	DFSUPBM0 からの戻りは、アルゴリズムのトラブルが検出されたことを示します。これはクリティカル・エラーです。
Reg14 ^=BAL to DFSUPBM0 Reg10+X'C0'^=X'0001'	PAMEND	構文解析操作が完了しました。構文解析スタック上には 1 つのエントリーしか存在してはなりません。ラベル PAMEND 内の比較が失敗し、CATSTROP に分岐しました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答: 問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正するかまたはオペランドを再配列してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3102

説明: IMS.REFERAL データ・セットに書き込む前に ITB を作成または書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、MFS プリプロセッサ Referral マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

中間テキスト・ブロック (ITB) のストレージを獲得するために、DFSUPAX0 が各種ステートメント・プリプロセッサによって呼び出されます。ITB ストレージは、テキスト・バッファと呼ばれる 4K ブロックで割り振られます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3102 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 には、LOCATE スペース要求のサイズが入っています。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指す保管域セットでレジスター 14 を使用することによって、呼び出し元の戻りア

3103

ドレスを検出できます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C1E' Reg3>X'0FF0'	NEEDSTG	スペース要求のサイズが、1 つのテキスト・ブロックのサイズを超えています。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールによって無効なパラメーターが渡されました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3103

説明: 現在処理中の文字を分類しようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、項目取得プロセッサ・モジュール DFSUPAD0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 14 BAL を使用すると、エラーが検出された場所を判別できます。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指します。

異常終了がラベル ABEND001 における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg11=MFSGBL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	CHECKVAL	このルーチンは、MFSGBL のエリア CARD から文字を取得します。項目が形成されるまで引き続き文字を取得します。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入り、この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するために調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	ALPHA	このルーチンは、英数字項目の文字を取得しました。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	NUMERIC	数値項目の文字が取得されます。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	AMERIC	この項目の文字が取得されます。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	QUOTE	引用 (リテラル) 項目の文字が取得されます。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15>X'1C' SOURCE= 現行ソース文字	QUOQUO	この項目の文字が取得されました。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- ソース・ステートメント内のエラー
- MFSGBL 内の VALUETBL に、ソース・レコード変換用に正しくない変換テーブルが入っています。ALPHA ステートメント・プロセッサ (DFSUPAN0) が VALUETBL に加えた変更が正しくなかった可能性があります。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答: 問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3104

説明: MFS プリプロセッサが区切り文字を処理していたときに、内部論理エラーが発生しました。スキャンされたばかりの項目を表す文字群に、ソース区切り文字を付加しようとしてしまいました。MFSGBL 内の ITEM エリアがオーバーフローしました。

分析: これは、項目取得プロセッサ・モジュール DFSUPAD0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了はラベル DELMOVER におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
SOURCE ^=C'.' Reg15=SDW SDWCURLT>SDWMAXLT	DELIMIT	項目リストが作成され、現行ソース文字の変換値に基づきます。現在の項目の長さが最大 (SDWMAXLT) を超えているため、現行項目の終わりに区切り文字を付加できません。String Descriptor Word (SDW) の現行の長さが最大長を超えています。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答: 障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAD0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3105

説明: 継続文字の検出後に、分岐ベクトル・テーブル内の内部論理エラーが検出されました。

分析: これは、モジュール DFSUPAE0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。GETCFUNC は、SYSIN からの入力文字の取得時に実行される現行機能を示す 1 バイト・セルです。1 つの状態が完了し、次の状態が実行される予定である場合に索引値として使用される値が GETCFUNC に割り当てられます。この異常終了は、GETCFUNC 索引値が許可された値より大きい場合に発行されます。

異常終了がラベル RTN8 における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg15=GETCFUNC Reg15>X'18'	MOVESOR	このルーチンは、MFSGBL の CARD エリアからソース文字を取得し、分岐して GETCFUNC によって定義される機能を実行します。GETCFUNC はレジスター 15 に書き込まれ、その後、索引値の範囲がこのリストには高すぎるかどうかを確認するために調べられます。高すぎる場合、ラベル RTN8 への分岐が取られ、異常終了 (SVC 13) を発行します。
Reg15=GETCFUNC Reg15>X'18' または Reg15=0	CHKPOS72	このルーチンは非空白文字がないかどうか列 72 で調べ、継続レコードを処理します。列 72 が空白である場合、継続レコードはありません。GETCFUNC (索引値) はレジスター 15 で設定され、索引値が高すぎるかどうかを確認するためにレジスター 15 が調べられます。索引値が 0 である場合も、異常終了が発行されます。
Reg15=GETCFUNC Reg15=0 または Reg15>X'18'	BLNK72	列 72 は空白であるので、このルーチンはステートメントの終わり項目を処理します。GETCFUNC (索引値) はレジスター 15 で設定され、索引値が高すぎるかどうかを確認するためにレジスター 15 が調べられます。高すぎる場合、異常終了が発行されます。索引値が 0 である場合も、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答: 問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAE0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3107

説明: ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みしようとしているときに、PUT 呼び出しで内部論理エラーが発生しました。最後に検出されたストレージ域は、PUT 呼び出しで提供されたのと同じ領域ではありません。

分析: これは、MFS プリプロセッサ REFERAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

各種ステートメント・プリプロセッサ・モジュールのいずれかから PUT 呼び出しが行われると、ITB がテキスト・バッファに移動します。ITB スペースに対する LOCATE 呼び出しは PUT 呼び出しに先行する必要があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3107 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 には、移動される ITB のサイズが入っています。レジスター 3 の値は、直前の LOCATE 呼び出しで要求されたスペースのサイズと比較されます。直前の LOCATE 呼び出しで要求されたサイズは、MFSGBL のラベル STGLOC に置かれます。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指すポインターです。レジスター 13 が指す保管域セットでレジスター 14 を使用することによって、呼び出し元の戻りアドレスを検出できます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C23' Reg3=ラベル STGLOC におけるアドレス	PUT	PUT 呼び出しは、最近検出された領域に対するものではありませんでした。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールによって無効なパラメーターが渡されたか、LOCATE および PUT の無効な呼び出しシーケンスが発行されました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3108

説明: ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みしようとしているときに、PUT 呼び出しで内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、MFS プリプロセッサ REFERAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

各種ステートメント・プリプロセッサ・モジュールのいずれかから PUT 呼び出しが行われると、ITB がテキスト・バッファに移動します。ITB スペースに対する LOCATE 呼び出しは PUT 呼び出しに先行する必要があるため、同じ量に対するものでなければなりません。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3108 内の命令を指します。PUT 領域の長さは、ラベル STGLOCS における MFSGBL に含まれています。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指すポインターであり、レジスター 5 には、要求された PUT 領域の長さが入り、レジスター 12 は基底レジスターです。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指す保管域セットで、レジスター 14 によって呼び出し元の戻りアドレスが指し示されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C24' Reg5>STGLOCS 内のサイズ	PUT	呼び出しのサイズが、LOCATE 呼び出しのサイズよりも大きくなっています。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールは、以前に LOCATE されたものよりも多い量に、PUT されるストレージ量を増やしたか、MFSGBL 領域が破棄されました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAX0

関連情報:

3109

説明: ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL に書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、MFS プリプロセッサ REFERRAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

特定の ITB をテキスト・ブロックで検索中に、その ITB 全体が 1 つのテキスト・ブロック内に置かれていなかったことが確認されました。これは、非論理的条件です。この条件が検出されるのは、ITB の PRINT が要求される場合です。ITB の印刷は、2 つのステートメントによって制御されます。すなわち、MFS ユーティリティー・プログラムに対する EXEC JCL ステートメントのパラメーター・フィールド内の PDIAG=DIAG、またはコンパイル・ステートメント PRINT=ON,GEN がコーディングされている場合です (これらのオペランドはデフォルトです)。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3109 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は、要求された ITB を指します。次のテキスト・ブロックを指すポインターであるレジスター 4 にはゼロが入ります。レジスター 4 を使用する DSECT BLK は、テキスト・ブロックのリンケージを記述します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C25'	NOTHERE	PRINT ITB 操作の処理中に、要求された ITB を見つけることができませんでした。
Reg4=ゼロ		

考えられる原因: MFSGBL が破棄されたか、テキスト・ブロックが破棄されました。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3110

説明: ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL に書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、Library Write Function モジュール、DFSUPB60 によって発行される標準異常終了です。

新しい中間テキスト・ブロック (ITB) が生成されると、モジュール DFSUPAX0 は DFSUPB60 を呼び出して、ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みます。DFSUPB60 妥当性検査は、ITB 内のフィールド ITBTYPE を調べて、その ITB が TABLE、FORMAT、または MESSAGE ステートメントのみによって作成されたことを確認します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3110 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 4 は、処理中の現行 ITB を指すポインターであり、レジスター 12 は基底レジスターです。有効な ITBTYPE は次のとおりです。

コード 意味

X'20' TABLE ITB

X'01' FORMAT ITB

X'11' MESSAGE ITB

キー	ラベル	説明
Reg2=BAL Reg4 to the ITB ITBTYPE=有効なタイプ	DFSUPB60	ITB は IMS.REFERAL への書き込みがスケジュールされていますが、妥当性検査操作で有効な ITB として識別できませんでした。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールは有効な ITB を渡しませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 1、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPB60

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3111

説明: MFS 言語ユーティリティー・プリプロセッサがソース・ステートメントを分析しようとしたが、プリプロセッサで内部論理エラーが発生しました。プロセッサは DEVITB (DEVOCGR4) 内の装置タイプを分析していました。装置コードが、有効な装置タイプと一致しませんでした。レジスター 6 に、異常終了を検出したステートメント・プロセッサを示す機能コードが入っています。レジスター 15 に、異常終了の原因となった無効な値が入っています。

分析: レジスター 6 には、異常終了を発行したモジュールを示す以下のいずれかのエラー・コードが含まれています。

コード 意味

X'04' DFSUPAZ0、DEV ステートメント・プロセッサ。

X'08' DFSUPA10、DPAGE ステートメント・プロセッサ。

X'0C' DFSUPA30、DFLD ステートメント・プロセッサ。

レジスター 15 には、DEVITB 内のフィールド DEVOCGR からの無効な装置コードが入っています。DFSUPA10 および DFSUPA30 の場合、レジスター 3 には、DEVITB を指すポインターが入っています。DFSUPAZ0 の場合、レジスター 2 には、DEVITB を指すポインターが入っています。

考えられる原因: DEVITB 内に誤った DEVITB アドレスまたオーバーレイされたデータが存在します。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAZ0、DFSUPA10、DFSUPA30

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3115

説明: MFS プリプロセッサ・ソース入力用のレコードのスタッキングまたはアンスタッキング中に、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSUPAF0、DFSUPBH0、DFSUPBJ0、または DFSUPBK0 から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) により、どのモジュールがエラーを検出し、異常終了を発行したかが判別されます。

DFSUPAF0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。レジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 11 は、スタック・ポインターと ID が入っている MFSGBL を指します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0 STACKID= アンスタックされたばかりのスタック STKIDQCB= スタック ID キュー制御ブロック	ENDSTACK	スタックの終わりに達し、UNSTACK が終了します。このルーチンは、UNSTACK されたばかりのスタック (QE およびブロック) を削除します。DFSUPBK0 (シンボル・テーブル検索ルーチン) は、STACKID エントリーがあるかどうかを確認するために BAL されます。STACKID エントリーがシンボル・テーブルで検出されなかったことを示すゼロ以外の戻りコードが、レジスター 15 で渡され、異常終了が発行されます。
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0 STACKID=その記録が追加されるスタックの ID	STACKCRD	MFSGBL の STACKID 内の ID に対応する記録が、スタックに追加されます。シンボル・テーブル内で STACKID エントリーを検索するために、DFSUPBK0 に対して BAL が行われます。レジスター 15 でゼロ以外の戻りコードが渡されます。スタッキングが進行中である場合は QE が存在しなければならぬため、異常終了が発行されます。

DFSUPBH0 と DFSUPBK0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL READSWS=X'10'	TMUNSTK2	このルーチンは、'STACK ON, ID' ステートメントを処理します。UNSTACK がアクティブです (READSWS=X'10')。これはエラーです。アンスタッキングが行われている間、'STACK ON, ID' ステートメントは存在してはならないからです。アンスタッキングは、メモリー内のスタックから次のソース・ステートメントを取得するプロセスです。このステートメントは、直前の STACK ON, ID ステートメントによってスタック上に置かれていました。異常終了が発行されるラベルは UABEND1 です。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0	DLETCARD	特定の ID に関連したストレージ・スタックからのレコードが削除されます。DFSUPBK0 (スタック ID エントリーの検索がシンボル・テーブルで行われた) から戻った後、レジスター 15 はゼロ以外であり、エントリーが検出されなかったことを示します。その後、異常終了がラベル UABENDD1 で発行されます。
Reg10=BAL Reg4=STKIDQE FIRSTBLK=0 Reg1=queue=0 内の最初のブロック	HAVEQE	このルーチンは、現行スタック上の最後のブロックを検出するためのものです。レジスター 4 は、QE へのアドレス指定を確立するようにセットアップされます。レジスター 1 には、ID の最初のブロック (FIRSTBLK) のアドレスがロードされます。レジスター 1 がテストされ、ゼロであることが検出されるので、異常終了がラベル UABENDD2 で発行されます。

DFSUPBJ0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL READSWS=X'10'	TMUNSTK1	このルーチンは、'UNSTACK ID, KEEP/DELETE' ステートメントを処理します。UNSTACK がアクティブです (READSWS=X'10')。ネストされた STACK および UNSTACK ステートメントは使用できません。したがって、UNSTACK ステートメントが進行中の間、スタック内で UNSTACK ステートメントを検出するのは、非論理的条件です。したがって、ラベル UABEND1 から異常終了が発行されます。
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0	DLETCARD	特定の ID に関連したメモリー内のスタックからのステートメントが削除されます。DFSUPBK0 (スタック ID エントリーの検索がシンボル・テーブルで行われた) から戻った後、レジスター 15 はゼロ以外であり、エントリーが検出されなかったことを示します。その後、異常終了がラベル UABENDD1 から発行されます。
Reg4=STKIDQE FIRSTBLK=0 Reg10=BAL	HAVEQE	このルーチンは、現行スタック上の最後のブロックを検出するためのものです。レジスター 4 は、キュー・エレメント (QE) へのアドレス指定を確立するようにセットアップされます。レジスター 1 には、ID の最初のブロック (FIRSTBLK) のアドレスがロードされます。レジスター 1 がテストされ、ゼロであることが検出されるので、異常終了がラベル UABENDD2 から発行されます。
Reg2=CARDSPER Reg2>1 Reg10=BAL	NOPREVBL	アンスタックされるソース・ステートメントを含むブロックはこれ以上存在しません。しかし、CARDSPER (削除対象として残っているステートメント/レコード) は >1 です。削除対象として残っているステートメント/レコードは、CARDSPER からレジスター 2 にロードされます。次に、実際にステートメント/レコードが残っているかどうかを確認するために、レジスター 2 が比較されます。残っている場合、異常終了がラベル UABENDD3 から発行されます。

3116

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAF0、DFSUPBH0、DFSUPBJ0、DFSUPBK0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3116

説明: MFS プリプロセッサで使用される汎用ソート・ルーチンで、内部論理エラーが発生しました。

分析: これは、モジュール DFSUPAZ0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 14 には、EXCHSORT または NOZESORT サブルーチンの呼び出し用の BAL 命令の直後に戻りアドレスが入っています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) も、エラーを検出したコードを指します。

サブルーチン EXCHSORT または NOZESORT の呼び出し元のレジスターは、ラベル TEMPSAVE で (レジスター 14 からレジスター 12 まで) 保管されます。これらのレジスター内で、レジスター 1 にはパラメーター・リスト・アドレスが入ります。パラメーター・リストのフォーマットは次のとおりです。

ハーフワード

ソートされるエントリー数

ハーフワード

各エントリーのサイズ

フルワード

最初のエントリーを指すポインター

キー	ラベル	説明
Reg9=エントリー数	EXCHSORT	ソートされるエントリー数は、パラメーター・リストから取得され、レジスター 9 にロードされます。エントリー数が 1 より大きいかどうかを確認するために、レジスター 9 が比較されます。大きくない場合、ソート用のエントリー数が無効なために異常終了が発行されます。
Reg5=最初のエントリー Reg8=0 Reg9=最後のエントリー	GOODNUM	ソートされるエントリー数が 1 より大きくなっています。レジスター 8 には、エントリーのサイズ (バイト数) がロードされ、ゼロより大きいかどうかを確認するためにテストされます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。
Reg9=エントリー数	NOZESORT	ソートされるエントリー数は、パラメーター・リストから取得され、レジスター 9 にロードされます。エントリー数が 1 より大きいかどうかを確認するために、レジスター 9 が比較されます。大きくない場合、ソート用のエントリー数が無効なために異常終了が発行されます。
Reg5=最初のエントリー Reg8=0 Reg9=最後のエントリー	GOODNUMZ	ソートされるエントリー数が 1 より大きくなっています。レジスター 8 には、エントリーのサイズ (バイト数) がロードされ、ゼロより大きいかどうかを確認するためにテストされます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置: MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別: 1、2、8、11、16、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUPAZ0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3120

説明: IMS 再始動中に、MSC 制御ブロックを復元するためにモジュール DFSCMR00 が必要であるが、このモジュールは使用不能です。

システムの処置: ABEND の前に、IMS DFS3120I メッセージが出力されます。

プログラマーの応答: DFSCMR00 が DFSRST00 ロード・モジュールにリンクされているかどうかを確認します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

 DFS3120I

3141

説明: 緊急時再始動中に、XRF 代替システムまたは高速データベース・リカバリー領域がログ・データ・セットを読み取っているときに、エラーが検出されました。

分析: SCDDKDCB には DCB のアドレスが入り、SCDRSTEB には、OSAM 読み取り操作に使用される PST のアドレスが入ります。この異常終了は、モジュール DFSRLP00 のラベル ABND3141 から発行されます。

考えられる原因: 考えられる原因は次のとおりです。

- 再始動データ・セット (RDS) で入出力エラーが発生した。
- この再始動では、拡張リカバリー機能 (XRF) 指定を変更できない。メッセージ DFS3851I を参照してください。
- もう一方のシステムがアクティブ・システムでない。メッセージ DFS3852I を参照してください。
- IMSID 名が、チェックポイント・リカバリー可能サービス・エレメント (RSE) 名と一致しない。メッセージ DFS3868I を参照してください。
- XRF 1 次システムとアクティブ・システムで、HSBID が等しくはならない。メッセージ DFS3894I を参照してください。
- データベース制御 (DBCTL) ログを使用して DB/DC システムを始動しようとしたか、または DB/DC ログを使用して DBCTL システムを始動しようとした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3141 が示されます。

オペレーターの応答: 再ロードの後、/ERE コマンドを使用して IMS を再始動します。入出力エラーが発生した場合、アーカイブ・ログからの再始動が必要です。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3265

説明: DFSFDLW0 は、OLDS 入力で最後のログ・ブロックに続くログ・ブロックを検出しようとしていますが、WADS が 1 つまたは複数の入出力エラーを検出していました。ログ・リカバリー・ユーティリティーがエラーを検出しました。

分析: これは、DFSULG20 によって発行される標準異常終了です。ログ・リカバリー・ユーティリティー、DFSULTR0、複合モジュール、および DFSULG10 が、CSECT への入力です。DUP または CLS モードが指定される場合、DFSULG10 はモジュール DFSULG20 にレジスターを分岐リンク (BALR) します。データの終わりが検出されるか、エラー数が指定のユーザー番号に達すると、DFSULG20 は DFSFDLW0 を呼び出して、WADS (エラーを含む) 内の後続のログ・ブロックを検索します。この異常終了が発行されると、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が DFSULG20 で発行元の命令を指します。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、DFSULG20 の基底レジスターです。レジスター 11 は最後に読み取られたログ・ブロックを指します。レジスター 8 は、WADS 処理サブルーチン (WADSPROC) を指します。レジスター 15 には、DFSFDLW0 によって発行される後続の異常終了コードが入っています。

以下のエラーのいずれかが、WADS 選択時に発行される可能性があります。

コード 意味

- X'01' OPEN 障害
- X'02' 装置タイプ・エラーまたは DEVTYP マクロ障害
- X'03' CLOSE 障害
- X'04' WADS 読み取りエラー
- X'05' WADS で検出されるファイルの終わり
- X'06' 使用可能な WADS なし
- X'07' TRKCALC マクロ障害

以下のエラーのいずれかが、ブロックの再作成時に発行される可能性があります。

コード 意味

- X'08' OPEN 障害
- X'09' 次のブロックが使用不可になりましたが、後続のブロックが使用可能です
- X'0A' X'FF' セグメント・カウントが検出されました
- X'0B' OLDS 接尾部におけるタイム・スタンプのシーケンス・エラー
- X'0C' 無効なブロック・サイズ (BDW)
- X'0D' 無効な RDW (レコード長が 5 未満、または長さが長すぎます)
- X'0E' X'FFNN' の RDW が検出されました
- X'0F' ログ・レコード・シーケンス内のエラー
- X'10' 読み取りエラー
- X'11' WADS で検出されるファイルの終わり
- X'12' 無効なセグメント・カウント
- X'13' 浮動セグメントが検出されました
- X'14' 論理エラー

以下のラベルは、モジュール DFSFDLW0 によって発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01' RLWABC=X'01' DCBOFLGS = X'10' PDCB - 1 次 WADS DCB	OPEN	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行します。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'01' を戻します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02' RLWABC=X'02' DAREA1,DAREA2 - 装置 タイプ保管域	LTA1240	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する DEVTYPE マクロを発行します。DEVTYPE マクロからゼロ以外のコードが戻されたときに、そのコードが以前に処理された WADS 装置タイプと同じではなかった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'02' を戻します。
DAREA1 - 装置タイプ保 管域	LTA1250	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する DEVTYPE マクロを発行します。DEVTYPE マクロから、レジスタ 15 内のゼロ以外のコードが戻された場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'02' を戻します。
Reg15=X'03' RLWABC=X'03' DCBOFLGS= X'10' PDCB - 1 次 WADS DCB	CLOSE	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する CLOSE (SVC 20) を発行します。CLOSE が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。CLOSE が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'03' を戻します。
Reg15=X'04' RLWABC=X'04' DECBA - DECBA アドレス	LTG210	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する BSAM READ を発行します。READ が正常に完了したかどうかを判別するために DECBA がテストされます。READ が失敗する場合 (二重 WADS モードの場合は 2 番目のエラー)、戻りコード 12 および理由コード X'04' を戻します。
Reg15=X'05' RLWABC=X'05' IOEI=X'40'	LTG20R	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する BSAM READ を発行します。データの終わり条件が検出された場合、戻りコード X'12' および理由コード X'05' を戻します。
Reg15=X'06' RLWABC=X'06' WADSAM - WADS 可用 性マトリックス保管域	LTA120E	最後の IMS 障害時の WADS が使用不可であった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'06' を戻します。
Reg15=X'07' RLWABC=X'07'	SEGMENTC	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する TRKCALC マクロを発行します。マクロがレジスタ 15 にゼロ以外の戻りコードを戻した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'07' を戻します。
Reg15=X'08' RLWABC=X'08' DCBOFLGS = X'10' PDCB - 1 次 WADS DCB	LTA2100	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に 1 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行します。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'08' を戻します。
SDCB - 2 次 WADS DCB	LTA2110	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に 2 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行します。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'08' を戻します。
Reg15=X'09' RLWABC=X'09' BLKTABA - ブロック・ テーブル・アドレス	LTA260E	DFSFDLW0 が、OLDS 内の最後のブロックに隣接する、WADS 内の OLDS ブロックを検出できないにもかかわらず、WADS 内で上位のシーケンス・ブロックを検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'09' を戻します。

キー	ラベル	説明
	LTA2640	DFSFDLW0 が、OLDS 内で最後のブロックに隣接する、WADS 内の OLDS ブロックを検出し、WADS 内の後続のブロックで不連続シーケンス・ブロックが検出された場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12'、理由コード X'09' を戻します。
Reg15=X'0A' RLWABC=X'0A' WADSBA - WADS バッ ファー・アドレス	LTA320R	DFSFDLW0 が WADS バッファー内でセグメント ID X'FF' を検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0A' を戻します。
Reg15=X'0B' RLWABC=X'0B' SEG TABA - セグメン ト・テーブル・アドレス	LTA330R	DFSFDLW0 が OLDS ブロックの完全なセグメント・セットを検出できなかったときに、そのブロックが WADS 内で最後のブロックではなかった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0B' を戻します。
	LTA3310	DFSFDLW0 がセグメント 0 を検出できなかったにもかかわらず、後続のセグメントを検出した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'0B' を戻します。
Reg15=X'0C' RLWABC=X'0C' RLWPBA - OLDS バッ ファー・アドレス	TRUNC INCOMSEG	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効な BDW を検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0C' を戻します。
Reg15=X'0D' RLWABC=X'0D' RLWPBA - OLDS バッ ファー・アドレス	LTA3410 LTA3540	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効な RDW を検出した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'0D' を戻します。
Reg15=X'0E' RLWABC=X'0E' RLWPBA - OLDS バッ ファー・アドレス	LTA350R	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロックの RDW で X'FFnn' を検出し、そのブロックが WADS 内の最後のブロックではなかった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0E' を戻します。
Reg15=X'0F' RLWABC=X'0F' RLWPBA - OLDS バッ ファー・アドレス	LTA3550	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効なログ・シーケンスを検出した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'0F' を戻します。
Reg15=X'10' RLWABC=X'10' DECBA - DECB アドレス	LTJ220 LTJ230	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に WADS DCB に対する BSAM READ を発行します。READ が正常に完了したかどうかを判別するために DECB がテストされます。READ が失敗した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'10' を戻します。
Reg15=X'11' RLWABC=X'11' DECBA - DECB アドレス	LTJ20R	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に WADS DCB に対する BSAM READ を発行します。データの終わり条件が検出された場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'11' を戻します。
Reg15=X'12' RLWABC=X'12' WADSBA - WADS バッ ファー・アドレス	LTN210R LTN320R	DFSFDLW0 が無効なセグメント ID (セグメント ID が、ブロックあたりのセグメント数 - 1 より大きい) を検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'12' を戻します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'13' RLWABC=X'13' WADSBA - WADS バッ ファー・アドレス	LTN230R LTN3320	DFSFDLW0 がトラックに不連続で書き込まれたセグメントを検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'13' を戻します。
Reg15=X'14' RLWABC=X'14' RLWPBSN - OLDS ブロ ック・シーケンス番号	READTG	DFSFDLW0 が入力パラメーターで無効なブロック・シーケンス番号を検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'14' を戻します。
EXITSAVE - REG 保管域 EXIT		DFSFDLW0 が内部論理エラーを検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'14' を戻します。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17g、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG20

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3271

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティが、OLDS を正しくクローズ (終了) できませんでした。入力 OLDS でファイルの終わりが検出されましたが、クローズ・ポイントがまだ検出されていませんでした。詳しくは、メッセージ DFS3271I の説明を参照してください。

分析: これは、DFSULG10 によって発行できる標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、DFSULG10 の基底レジスターです。

前の **OLDS** が指定されました

キー	ラベル	説明
Reg15=X'32'	EODADUMP	前の OLDS に書き込まれた最後のブロックを読み取ろうとしているときに、データの終わり条件が検出されました。前の OLDS に書き込まれた最後のブロック・シーケンス番号が、DBRC から取得され、フィールド POLDMBSN に保管されます。

次の **OLDS** が指定されました

キー	ラベル	説明
Reg11-最後の読み取り ブロックのアドレス	DUPE0350	DFSULG20 が入力 OLDS 内のログ・ブロックを読み取ったときに、DFSULG20 はデータの終わり条件を検出しましたが、クローズ・ポイントを検出しませんでした。クローズ・ポイントは、ブロック・シーケンス番号が次の OLDS 内の最初のブロック・シーケンス番号より 1 小さいログ・ブロックです。ラベル CBSEQ には、次の OLDS 内の最初のブロック・シーケンス番号が含まれます。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17g、35

3272 • 3274

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG10

関連情報:

 DFS3271I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3272

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティで内部処理エラーが発生しました。DFSULG30 は空の PSTTBL 項目を検出しました。この異常終了に伴って、メッセージ DFS3272E が出力されます。

分析: これは、DFSULG30 から発行される標準異常終了です。内部処理エラーのために発行されます。対応する PSTTBL 項目が空です。DFS3272E メッセージが発行され、ダンプ付きで異常終了が生じます。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(PSTTBL を指すポインター)	PSTPOINT	空の PSTTBL 項目が検出されました。
Reg6=A(PSTTBL)		
Reg4=PST#		

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡して、支援を要求してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSULG30

関連情報:

 DFS3272E

3274

説明: ログ保存ユーティリティまたはログ・リカバリー・ユーティリティが、DBRC 出口からエラー戻りコードを受け取りました。このエラーが発生したときに、メッセージ DFS3274I が発行され、障害のあった DBRC 出口のタイプおよび DBRC 戻りコードが示されます。呼び出された DBRC 出口のタイプは、次のいずれかの値で示されません。

ARCHIVE INIT
ARCHIVE COMPLETE
RECOVERY INIT
RECOVERY OPEN
RECOVERY EOVS
RECOVERY CLOSE

受け取った DBRC 戻りコードの説明は、DBRC 要求戻りコード情報を参照してください。

DBRC 出口によって、追加のエラー・メッセージが SYSPRINT に出力されることもあります。

分析: これは、ログ保存ユーティリティ DFSUARC0 またはログ・リカバリー・ユーティリティ DFSULG10 および DFSULG20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入りのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

この異常終了を発行する前に、両方のユーティリティがエラー・メッセージ DFS3274I を発行します。このメッセージは出口ルーチン名と戻りコードを示します。異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、発行されたモジュールの基底レジスターであり、レジスター 15 には DBRC からの戻りコードが入っています。

ARCHIVE INIT 出口ルーチン (入力は OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	DINI010 (DFSUARC0)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINI010 (DFSUARC0)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE INIT 出口ルーチン (入力はバッチ SLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	ILOPEN (DFSUARP0)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	ILOPEN (DFSUARP0)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE ARCOMPL 出口ルーチン

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	ARCP10 (DFSUARC0)	無効なボリューム停止時刻を指定しました。
Reg15=X'44'	ARCP10 (DFSUARC0)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	ARCP10 (DFSUARC0)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE EOJ 出口ルーチン

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	ENDJ10 (DFSUARC0)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	ENDJ10 (DFSUARC0)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

LOG RECOVERY INIT 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	DINI010 (DFSULG10)	DSPINIT マクロ障害または DSPRCLOS マクロ障害が発生しました。
Reg15=X'44'	DINI010 (DFSULG10)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINI010 (DFSULG10)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

LOG RECOVERY OPEN 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg4= A(DBRCRMI1) Reg15=X'04'	DPRI020 (DFSULG10)	1 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'04'	DSEC020 (DFSULG10)	2 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4= A(DBRCRMI1) Reg15=X'44'	DPRI020 (DFSULG10)	1 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'44'	DSEC020 (DFSULG10)	2 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'44'	OPOL020 (DFSULG10)	1 次出力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'44'	OPOL020 (DFSULG10)	2 次出力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMN1) Reg15=X'44'	NOLD030 (DFSULG10)	次の 1 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMN2) Reg15=X'44'	NOLD030 (DFSULG10)	次の 2 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'48'	DPRI020 (DFSULG10)	1 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'48'	DSEC020 (DFSULG10)	2 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'48'	OPOL020 (DFSULG10)	1 次出力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'48'	OPOL020 (DFSULG10)	2 次出力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMN1) Reg15=X'48'	NOLD030 (DFSULG10)	次の 1 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMN2) Reg15=X'48'	NOLD030 (DFSULG10)	次の 2 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。

LOG RECOVERY CLOSE 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg4= A(DBRCRMI1) Reg15=X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	1 次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	2 次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	1 次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15= X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	2 次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が 検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示 しています。
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15= X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	1 次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーター が指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15= X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	2 次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーター が指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15= X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	1 次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーター が指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15= X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	2 次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーター が指定されませんでした。

LOG RECOVERY EOJ 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg8=A(DBRC0300) Reg15= X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	通常の EOJ 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出さ れました。
Reg8=A(DBRC0400) Reg15= X'44'	EXIT (DFSULG10)	異常終了 EOJ 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出 されました。
Reg8=A(DBRC0300) Reg15= X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	通常の EOJ 出口ルーチンで必須パラメーターが指定さ れませんでした。
Reg8=A(DBRC0400) Reg15= X'48'	EXIT (DFSULG10)	異常終了 EOJ 出口ルーチンで必須パラメーターが指定 されませんでした。

入力 LOG は SLDS

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	DINI010 (DFSULG10)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINI010 (DFSULG10)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませ んでした。

システムの処置: ユーティリティは異常終了します。

問題判別: 1、2、3、8、11、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUARC0、DFSULG10、DFSULG20

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS3274I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3275

説明: IMS または DBRC のいずれかで論理エラーが発生しました。2 つの事例を除いて、いずれの場合も、メッセージ DFS030I が異常終了に伴って出力され、障害を説明する理由コードが含まれています。残りの 2 つの事例の場合、メッセージ DFS030I は発行されないが、レジスター 15 の下位 2 バイトには、文字フォーマットで理由コードが入っています。理由コードは以下のとおりです。

コード 意味

- X'03'** データベース許可処理中に DBRC から戻りコード 12 を受信しました。サブシステムが DBRC にサインオンしていなかったことを示す戻りコード X'0C' が、戻った時点で受信されました。サブシステムの初期設定または DBRC にエラーがない限り、この状態が生じるはずはありません。異常終了が発行された時点でメッセージ DFS030I も発行され、理由コード 3 が含まれています。(DBFDBAU0、DFSDBAU0)
- X'04'** データベース許可呼び出しが DBRC に対してなされました。エンコード状態の SHARELVL によって開始された正しいエリア・ロック・スコープが、DBRC および内部ロック・スコープ・テーブル (DBFDBAU0 にある) から戻されました。DBRC または DBFDBAU0 にエラーがない限り、この条件が生じるはずはありませんでした。(DBFDBAU0)
- X'05'** サインオフ呼び出しが DBRC に対してなされましたが、IMS が終了しようとしている最中でした。戻りコードで、サブシステム・エントリーが検出されなかったこと、内部エラーが無許可プロセス中に検出されたこと、サブシステム・エントリーは検出されたが、異常終了したこと、またはリカバリー処理が開始されていたことのいずれかが示されました。メッセージ DFS030I を参照してください。(DFSPCC0)
- X'0A'** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、処理中のデータベースが DBRC に未登録であることを示していました。データベースに対する許可が以前に DBRC から取得されていない限り、DBRC がオープン処理中に呼び出されることはないため、この状態が生じるはずはありません。無許可であることが原因ではありません。DBRC へのオープン呼び出しと DL/I オープン処理の両方が、データベースへのアクセスが許可された後でのみ発行されるからです。サブシステム・レコードが DBRC に存在しなかった場合、サブシステムが削除されるときに、SSID 情報が DBRC 内のデータベース・レコードから除去されたかどうかを確認してください。(DFSDDUI0、DBFMLOP0)
- X'0B'** データベース・オープン呼び出しの処理時に DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが DBRC に未登録であることを示していました。DBRC が DL/I オープン処理中に呼び出されるのは、サブシステムが以前に、DBRC に登録されている必要があった時点で、データベースに対する許可を取得していた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。(DFSDDUI0、DBFMLOP0)
- X'0C'** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。(DFSDDUI0、DBFMLOP0)
- X'0D'** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、内部 DBRC エラーが検出されたことを示す場合があります。ゼロの戻りコードは、RECON Initialization Time (RIT) がゼロであることを示す場合があります。(DBFMLOP0)
- X'0F'** HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、指定されたイメージ・コピー・レコードが検出されなかったことを示していました。HSSP イメージ・コピー開始呼び出しの結果、そのイメージ・コピー・レコードが作成されるため、エラーが生じました。(DBFPIC0)
- X'10'** HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、データベースまたはエリアが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。HSSP イメージ・コピーは登録されたデータベースまたはエリアに対してのみ処理できるので、内部エラーが発生しました。(DBFPIC0)

DFSDBDR0 から 3275 が発行される場合、IMS (DDIR) の DMB ディレクトリーと DBRC 間で矛盾があります。DBRC に対して許可されていない DB に対して UNAUTHL 呼び出しが行われました。これが生じる可能性があるのは、RECON の直前の更新で、引き続きアクティブであったサブシステムの ABNORMAL 終了を示していた場合です。システム処置は、サブシステムを終了させることです。

- X'11'** DEDB エリアの ADSC 制御ブロックが、DBRC によって戻される ADS リスト内に対応する項目を持っていません。

X'14' DBRC が、次のいずれかの状態について不整合を検出しました。

RECON 内: データベースまたはサブシステム・レコードのどちらかが、サブシステムがデータベースに対して許可されていないことを示しています。許可される場合は、データベースおよびサブシステム・レコードの両方が、この状態を示している必要があります。

RECON と IMS 間: IMS は、データベースが許可されていることを示していますが、RECON は、許可されていないことを示しています。IMS コマンド以外の外部コマンドが RECON を変更するために使用されると、この状態が発生することがあります。

X'20' HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、このイメージ・コピー処理については、HSSP イメージ・コピー終了呼び出しがすでに行われていたことを示していました。この戻りコードが受信されたときに、システムが現在、緊急時再始動中ではない場合、この異常終了が発行されます。(DBFPICT0)

X'30' HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したことを示していました。(DBFPICT0)

X'40' HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、無効なパラメーターが検出されたことを示していました。(DBFPICT0)

X'FF' 無効または予期しない戻りコードが、DBRC (DBFML0P0) から受信されました。

論理エラーは、DELETE.SUBSYS または CHANGE.SUBSYS コマンドの無効な使用によって引き起こされることがあります。これが発生した場合、レジスター 15 には、メッセージ DFS030I に関連する理由コードのいずれかが入ります。

分析: **DFSPCCC0** の場合:

DBRC 戻りコード > 4 に対するサインオフ。

キー	ラベル	説明
Reg15=3	AL340	データベース許可要求後、予期しない戻りコードが DBRC から受信されました。Reg9 には戻りコードが入っていました。詳しい説明については、DBRC 要求戻りコード情報で許可呼び出しの戻りコードに関するセクションを参照してください。Reg15=3 は、異常終了が DFSDBAU0 によって発行されたことを示します。
Reg15=6、7、8 または 9	UNAUERR	DBRC への UNAUTH 呼び出しで戻りコード 0 が戻された後、モジュール DFSDLOC0 によって異常終了が発行されました。レジスター 2 には PST アドレスが入り、レジスター 8 には、UNAUTH 要求が発行された DMB の DDIR アドレスがあります。
Reg15=A、B、C または D	VERABEND	DFSDDU10

DBFARD30、DBFARD40、DBFSTAP0、DBFHDEP0、DBFMLCL0 の場合:

DBRC が UNAUTH 要求に対してゼロ以外の戻りコードを戻す場合、DFS0019I および DSP0230I が書き込まれます。戻りコードが X'10' より大きい場合、異常終了 3275 が発行されます。詳しい説明については、DBRC 要求戻りコード情報で許可呼び出しの戻りコードに関するセクションを参照してください。

考えられる原因: IMS と DBRC 間の通信で故障が発生しました。RECON データ・セットで状況情報が失われた可能性があります。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答: これは、IMS 内部システム・エラーです。IBM サポートに連絡して、問題の判別の支援を受けます。

問題判別: 1、4、10、35

3276 • 3287

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFDBAU0、DFSDBAU0、DFSDBDR0、DFSDLOC0、DFSPCCC0、DFSDDUI0、DBFMLCL0、DBFMLOP0、DBFPICT0

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 DFS030I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3276

説明: 入出力処理を実行中に、未完了入出力カウント (DMACWTCT) が無効であることを高速機能が検出しました。未完了入出力カウントが、減らす前にすでにゼロまたは負の値です。

分析: これは、以下によって発行される標準異常終了です。

- DBFFORI0: 高速機能出力スレッド・ルーター
- DBFVXOW0: VSO XES 出力プロセッサ
- DBFXCNX0: XES コンプリート出口ルーチン
- DBFVXOE0: 共用 VSO 入出力エラー・ルーチン

プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。このエラーは、IMS 内部論理エラーを示します。

システムの処置: IMS は異常終了を発行し、ダンプを作成して、異常終了します。

オペレーターの応答: IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別: 1、2、3、4、6、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFFORI0、DBFVXOE0、DBFVXOW0、DBFXCNX0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3287

説明: アプリケーション・プログラムが参照するデータベースのいずれかがグローバル・コマンドによって停止されたか、または入出力エラーがあったために、アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しアナライザーによって終了させられました。

分析: IMS NOTIFY 出口ルーチンによって、PSTCSFLG バイトが 16 進値「D7」に設定されました。この値は、不良なデータベースまたは停止されたデータベースへのアクセス権を持つアプリケーション・プログラムを獲得するために設定されました。

考えられる原因: マスター端末オペレーターが共用データベースを停止するためにグローバル・コマンドを入力したか、またはデータベースに入出力エラーがありました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: マスター端末オペレーターまたはシステム・プログラマーに連絡してデータベースをリカバリーしてから、ジョブを再実行します。

問題判別: 1、4、11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLA00

756 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3289

説明: コマンド・ロック要求が失敗しました。データベース・バックアウト障害を他のサブシステムに通知する試みが行われました。バックアウト障害のあるデータベース名をリストするメッセージが、他のすべての共用サブシステムに送られます。このメッセージを送る前に、サブシステム間でコマンドを逐次化するために、コマンド・ロックが獲得されます。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: IRLM LOCK 要求および他の IRLM 共用サブシステム障害を調べます。IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードを参照して、障害の原因を判別してください。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3290

説明: 同期点処理時に、アプリケーション・プログラムが保持するすべてのロックを解放するために、ロック要求ハンドラーが呼び出されました。これらのロックを解放する要求が失敗しました。IRLM に対するアンロック要求が内部 IRLM 問題のために失敗したとき、または IRLM でストレージ不足状態が発生したときに、どのアプリケーションでもこの異常終了が発生することがあります。

分析: これは、DFSFXC50 から発行される標準異常終了です。IRLM パラメーターのアドレスは、PSTIRLMA 内にあります。レジスター 15 に UNLOCK 要求の戻りコード、レジスター 14 に理由コードが入ります。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: UNLOCK 要求の戻りコードによって判別された問題を修正します。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報を参照してください。

問題判別: 1、4、10、35

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFXC50

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3300

説明: IRLM に対するロック要求が内部 IRLM 問題のために失敗したとき、または IRLM でストレージ不足状態が発生したときに、どのアプリケーションでもこの異常終了が発生することがあります。バッチ・アプリケーション (DLI または DBB 領域タイプ) で IRLM が異常終了したときにも、この異常終了が発行されます。

IRLM は、次のいずれかの理由でロックを付与できませんでした。

1. IRLM が失敗したか、使用不可であった。

3300

- IRLM によるロック要求の完了を妨げるシステム・エラーが発生した。
- GETMAIN 要求での IRLM でストレージ不足状態が発生した。

分析: 3300 は、DFSLRH00、DBFLRH00、または DBFNOTM0 から発行される疑似異常終了です。正常に完了しなかったロック要求のロック・トレース項目には、IRLM から渡された戻りコードとフィードバック情報があります。

トレースでは、以下の戻りコードおよびフィードバック・コードが検出されることがあります。

LOCK 要求

次の表では、戻りコード X'08' に対する理由コードがリストされている。

理由コード	説明
X'80'	システム・エラー
X'01'	ストレージ不足

RC=20 は、IRLM が利用不可であったことを示しています。

考えられる原因: 戻りコードとフィードバックを調べて、原因を判別してください。ストレージ不足状態は、IRLM 領域サイズを超えたことを示していることがあります。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: IRLM が異常終了した場合、データベース・バックアウトを実行し、IRLM の再初期設定の後にジョブを再始動します。

この異常終了が IRLM 以外の異常終了によって引き起こされた場合は、IMS ロック・トレース・テーブルには、ロック要求に関する IRLM からの戻りコードおよび理由コードが入れられます。IRLM LOCK 要求情報を参照して、失敗の原因を判別してください。

問題判別: 1、17、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLRH00、DBFLRH00、DBFNOTM0

関連タスク:

 IRLM ロック要求

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 27 章 IMS 異常終了コード 3301 - 4100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3301

説明: アプリケーション・プログラムのために獲得されたロックの数が、インストールまたはアプリケーション・プログラマーによって指定された最大値を超えた場合、この疑似異常終了が発行されます。アプリケーション・プログラムがコミット前に累積できるロック最大数は、PSBGEN LOCKMAX= パラメーター、あるいは、DL/I バッチ、DBB バッチ、または従属領域の JCL の LOCKMAX= オーバーライド・パラメーターによって指定されます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは、ユーザー異常終了 3301 で異常終了します。

プログラマーの応答: PSBGEN LOCKMAX= 指定は、バッチ領域または従属領域の JCL で LOCKMAX= パラメーターを使用することによって、実行時にオーバーライドすることができます。オーバーライド・パラメーターの LOCKMAX=0 により、すべてのロック制限がオフにされます。PSBGEN およびオーバーライドの場合の LOCKMAX 値は 1000 単位です。LOCKMAX 値を 10 増やすたびに、アプリケーションはさらに 10,000 のロックを獲得できます。

各アプリケーション・プログラムは、獲得できるロック数の最大数について独自の制限を持つことができます。すなわち、各アプリケーションで個別に、ロックに使用される仮想記憶域リソースを特定量に制限することができます。

制限されない誤ったアプリケーション・プログラムがあると、ロック・ストレージがすべて消費され、同じロック・サービスを使用する他のアプリケーション・プログラムに対して著しい混乱を引き起こします。

ソース: IMS 異常終了

3302

説明: LOCK 要求処理プログラムが、IRLM から、または IRLM が使用されていない場合はプログラム分離 (PI) ロック・マネージャーから予期しない戻りコードを受け取りました。LOCK、UNLOCK、または NOTIFY 要求時に、無効な状態が IRLM によって検出されました。これは、IMS 内部エラーを示します。

分析: これは、DFSLRH00、DBFLRH00、および DBFNOTM0 から発行される疑似異常終了です。

DFSLRH00 のロック・トレース項目には、ロック・マネージャーからの戻りコードとフィードバック情報があります。ロック・トレースがオン (LOCK=ON) になっている場合は、DFSERA10 を使用して X'67FF' ログ・レコードを抽出する必要があります。これらのレコードから、PST + X'344' にある理由コードと PST + X'347' にある戻りコードを見つけます。

これらのコードのマッピングについては、DFSLR MACRO (DL/I LOCK REQUEST) を参照してください。

トレースでは、以下の戻りコードおよびフィードバック・コードが検出されることがあります。

LOCK 要求

RC=X'08'

コード 意味

X'40' LOCK 要求が MODE=COND を指定しました。要求は、要求された状態になるために待機する必要があります。

X'10' 互換性のないロックを待機しない無条件要求。

RC=X'0C'

コード 意味

3303

X'80' 指定された親トークンは、作業単位によって所有されていませんでした。

RC=X'10'

コード 意味

X'40' 無効なクラス

X'20' 無効な状態

X'10' 無効な親トークン

X'08' 無効なスコープ

X'04' 無効なトークン

X'02' 無効なリソース名の長さ

UNLOCK 要求

RC=X'0C'

コード 意味

X'40' ロックは作業単位によって保持されていません

X'20' 指定されたリソース名に対するロックは存在しません

X'08' ロックは指定された状態で保持されていません

X'04' ロックは指定されたクラスで保持されていません

RC=X'10'

コード 意味

X'40' 無効なクラス

X'20' 無効な状態

X'04' 無効なトークン

X'02' 無効なリソース名の長さ

考えられる原因: 内部論理エラーが発生しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、17、30、34

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLRH00、DBFLRH00、DBFNOTM0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3303

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

1. IRLM に対するロック要求が、障害のある IMS サブシステムの保持ロックとの競合のために失敗しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS3304I が出力されます。
2. IRLM は IRLM FAILED または COMM FAILED 状態に入るか、異常終了しました。
一部または全部のデータベースをバッチ・モードで許可または検証できない場合に、IRLM が失敗している可能性もあります。
3. IRLM が異常終了したときに、IMS システムがすべてのアプリケーションを終了させました。
4. アクセスも更新もできないデータベースまたは HALDB 区画をアプリケーションが使用しようとしてしました。さらに、アプリケーションでは U3303 異常終了ではなく、DB PCB 内のデータベース状況情報を受信する必要があったことを示す INIT STATUS GROUPA 呼び出しが発行されませんでした。この状態と共に、メッセージ DFS3303I が発行されます。

760 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

5. メッセージ DFS2524I に指定された制御インターバル (CI) に入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) が存在するため、「任意読み取り」要求がリジェクトされました。この状態の場合、異常終了 3303 とともに、メッセージ DFS2524I が発行されます。
6. 高速機能 IFP 領域内の アクティブ PSB によって参照される全機能データベースに対して、/START、/STOP、または /DBRECOVERY データベース・コマンドが発行されました。領域は異常終了したので、変更 (削除または追加) されたデータベースへのアクセス権でスケジュール変更します。
7. IMS に接続されていた DB2 サブシステムがシャットダウン中であり、DB2 リソースへのアクセス権を持つロード・バランシング・グループ制御ブロック (BALG) 内で IFP が待機中です。IMS はこの状態を、/DBR コマンドが発行された場合と同じ方法で処理します。
8. アプリケーションは、CCTL-IMS 接続に確立されたリカバリー可能未確定構造 (RIS) の一部であるデータへのアクセスを試みました。メッセージ DFS0693I により、PSB およびリカバリー・トークンが表示されます。
9. 以下の状況で、ROLS 呼び出しが発行されました。
 - データ使用不能状況コードのいずれかを受け取った DB PCB に対して
 - 呼び出しに入出力域もトークンもない入出力 PCB に対して
 - 不適切な入力データを受け取ったアプリケーション・プログラムによって
10. データ共用環境のカップリング・ファシリティーに対する「読み取りおよび登録」操作中に、カップリング・ファシリティーの接続障害または構造障害が発生しました。
11. 構造の再作成が行われたときに、データ共用 DL/I バッチ・ジョブが実行中でした。その後、バッチ・ジョブは終了します。
12. アプリケーションが特定のバージョンの全機能データベースまたは高機能データベースにアクセスしようとしたにもかかわらず、IMS システムが要求されたバージョンを取得できなかったか、データベースのバージョン管理が IMS システムで使用可能になっていなかったかのいずれかです。

分析: これは、IRLM 障害または使用不可能なデータのどちらかの問題です。IRLM、データベース、またはデータベースのデータ・ブロックが使用不可能な理由を判別してください。

原因として、次のものが考えられます。

- IRLM 障害
- データ共用パートナー IMS の障害
- 全機能データベースがオフラインである
- アプリケーションが、可用性状況コード (INIT STATUS GROUP A) を要求しなかった
- 未確定データ (CCTL または RRS 問題の結果として)

DBFSYN10 の場合:

高速機能リソースのコミット中に IRLM に障害が起きました。

考えられる原因: IRLM に障害が起きました。

DBFMBED0 の場合:

共用 VSO DEDB 域に対する読み取りが失敗しましたが、CI 内のデータは既に変更されており、この CI に対する EEQE が存在します。

考えられる原因: DEDB 域に対する読み取りエラーが発生しました。

DBFLRH00 の場合:

1. ロック要求中に DBCTL スレッドが終了しました。
2. 要求されているロックに、障害のあるサブシステムの保持ロックが存在します。
3. ロック要求がリジェクトされました。
4. ロックが戻りコード 20 でリジェクトされました。

このリストの 3 と 4 の障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードに関する情報内の LOCK 要求の説明を参照してください。障害 3 の場合、異常終了とともに DFS3304 メッセージが発行されます。

考えられる原因: 以下のいずれかの可能性があります。

- DBCTL が予期せず終了しました。
- 要求されているロックに保持ロックが存在します。
- IRLM がロック要求をリジェクトしました。
- IRLM が異常終了しました。

システムの処置:

アプリケーション・プログラムは異常終了します。処理中のメッセージは SUSPEND QUEUE に入れられますが、SERIAL=YES オプションが TRANSACT マクロで指定されていた場合、または RRS/MVS で保護会話に関係していた場合を除きます。SERIAL=YES の場合、メッセージはこのトランザクションで処理される次のメッセージとしてキューに書き戻され、トランザクションは停止されます。保護会話の場合、IMS は入力メッセージを破棄しますが、トランザクションを停止しません。

使用不可能なデータ条件 (DFS3303I が発行された) によって、異常終了が 10 回発生した場合、IMS は以下のいずれかのアクションを実行します。

- DB/DC 環境の場合、IMS は USTOPPED 条件でトランザクションを停止します。
- DBCTL 環境の場合、IMS は PSB を停止し、アプリケーション・プログラムのスケジューリングをこれ以上できないようにします。

重要: IFP 領域の場合、DB PCB に対する DL/I 呼び出しの前に、入出力 PCB への GU 呼び出しを発行する必要があります。入出力 PCB への GU 呼び出しの前に、DB PCB に対する DL/I 呼び出しが発行されると、IFP のスケジュール変更中に IFP 領域がループする可能性があります。アプリケーションは、データベースの状況を検査するか、INIT STATUS GROUPA 呼び出しを発行する必要があります。呼び出しから誤った状況コードを受け取った場合は、プログラムを終了する必要があります。アプリケーションは、状況コードを検査して終了しない場合、引き続き BALG からトランザクションを受け取ります。各トランザクションが後続のメッセージで U3303 疑似異常終了をトリガーし、その結果、IFP 領域に障害またはスケジュール変更ループが生じます。

オペレーターの応答: 以下のリストを使用して、異常終了の原因となった各条件に該当する処置を判別します。リストの番号は、「説明」セクションの番号と対応しています。

条件 処置

- 1 障害の起きたサブシステムでデータベース・バックアウトまたは緊急時再始動を実行してください。データベース・バックアウトまたは緊急時再始動を行うことにより、サスペンド・キューにあるトランザクションを解放するように、自動的にこの IMS に通知されます。異常終了 3303 の前に出力されるメッセージ DFS3304I により、障害のあった IMS が示されます。
- 2 IRLM の再始動と IRLM 間の通信の再確立のいずれか、または両方を行うことができます。データベースは /START コマンドを使用して再始動でき、中断状態のトランザクションは /DEQUEUE SUSPEND コマンドを使用して解放できます。また、BMP の再始動が必要になる場合もあります。

注: IRLM の場合、PSTCSHAB は IRLM の問題を示し、モジュール DFSSDLB0 または DBFNOTM0 で値をオンに設定され、フィールド PSTABTRM の値が設定されるモジュール DBFHGU10、DBFIRC10、DBFLMGR0、および DBFPCC30 で検出されます。

- 3 IRLM を再始動でき、MVS MODIFY コマンドを使用して IMS に対して RECONNECT を指定できます。データベースは、/START コマンドで再始動できます。また、BMP の再始動が必要になる場合もあります。
- 4 メッセージ DFS3303I を参照してデータベースが使用不可である理由を判別してください。DFS3303I の指示に従い、問題を修正してください。
- 5 代替システムで /UNLOCK コマンドを使用してデータベースをアンロックできます。このコマンドにより、EEQE がページされます。中断状態のトランザクションは、データ共用システムで /DEQUEUE SUSPEND コマンドを使用して解放できます。BMP の再始動が必要な場合もあります。

- 6 異常終了 3303 によってスケジュール変更が強制されて、全機能データベースの状況変更が検出できるようになります。
- 7 IFP 領域は、再始動されるまで外部サブシステムへアクセスできなくなりました。
- 8 /DISPLAY CCTL コマンドを発行して、未確定スレッドを見つけます。次に、/CHA CCTL コマンドを発行して、RIS を削除します。
- 9 アクションは不要です。
- 10 カップリング・ファシリティまたはキャッシュ構造で問題を修正してください。
- 11 カップリング・ファシリティまたはキャッシュ構造で問題を修正し、必要なバッチ・バックアウトを実行してください。
- 12 メッセージ DFS3303I は、バージョンが使用不可能である理由を示します。

プログラマーの応答: 以下のリストを使用して、異常終了の原因となった各条件に該当する処置を判別します。リストの番号は、「説明」セクションの番号と対応しています。

条件 処置

- 4 アプリケーションに INIT STATUS GROUPA 呼び出しを追加します。この呼び出しを追加することにより、DL/I 呼び出しは、U3303 ではなく状況コード BA を受け取ります。アプリケーションは、適切な処置を実行できます。INIT 呼び出しの説明については、「IMS V13 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください。INIT 呼び出しのフォーマットおよびパラメーターについては、「IMS V13 データベース管理」を参照してください。
- 9 ROLS の原因を判別し、必要ならば修正してください。
- 12 特定のバージョンの全機能データベースの特定のバージョンを取得する問題についても、INIT 呼び出しを発行して、異常終了 3303 の代わりに状況コードを受け取ることができます。

問題判別: 1、17

ソース: IMS 異常終了

モジュール:

DBFLRH00、DBFDBAC0、DBFHGU10、DBFIRC10、DBFLRH00、DBFMBED0、DBFSYN10、DFSDVSM0、DFSDBH20、DFSDBLM0、DFSDLA00、DFSLRH00、DFXES0

関連タスク:

 IRLM ロック要求

関連資料:

 INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

関連情報:

 DFS3303I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3304

説明: データベース読み取りエラーが発生し、しかもこの呼び出しでデータが変更されている場合、この異常終了が発行されます。これにより、潜在的なデータベース保全性の問題を防ぐことができます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答: マスター端末に表示されるメッセージ DFS2571I または DFS3712A に、読み取りエラーについての詳細が示されます。アプリケーションを再実行する前に、指定された DEDB エリアに対するデータベース・リカバリーの実行が必要になることもあります。

3305 • 3307

ソース: IMS 異常終了

3305

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- IRLM が、代替システムによってアクティブIMS システムがテークオーバーされたことを通知されてから、IMS 状況出口を駆動した。
 - IRLM が、IMS 状況出口を駆動して、代替 IMS システムがトラッキング・モード中またはテークオーバー処理中(ただし、テークオーバーの完了前)に IRLM が異常終了したことを IMS に通知した。
 - IRLM が、高速データベース・リカバリー領域で IMS 状況出口を駆動した。
 - IRLM がアクティブな IMS 上で IMS 状況出口を駆動して、IRLM が終了したことを IMS に通知した。
- IRLMFAIL=ABEND は、DFSFDRCxx PROCLIB メンバーでコーディングされました。

分析: 3305 は、DFSSTAX0 または DFSFDRC0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 以下の該当の処置を取って、XRF 機能を回復します。

- 最初の状態の場合、IMS 終了の後で、以前のアクティブ IMS システムを代替システムとして立ち上げます。
- 2 番目の状態の場合、IRLM を立ち上げてから、代替 IMS システムを再始動します。
- 3 番目の状態の場合、IRLM ロック構造への接続が再確立された後で、高速データベース・リカバリー領域を再始動します。
- 4 番目の状態の場合、IRLM を再始動してから、IMS を再始動します (該当する場合、FDBR リカバリーの完了後に)。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFDRC0、DFSHTRM0、DFSSTAX0

3306

説明: この異常終了は、非 APF 許可プログラムが PSW (プログラム状況ワード) 監視プログラム状態 (z/OS 保全性に違反する) を獲得するのを防ぐために発行されます。IRPM ポインターが無効です。キー 8 IRPM が、ペアのキー 7 IRPM を指していません。ペアのキー 7/キー 8 IRPM は、SVC 初期設定中に、互いを指し合うようにフォーマット設定されます。

IMS の PC 番号を使用しようとしたが、障害のあるプログラムがストレージ・オーバーレイを起こした場合、この異常終了が発生します。IRPM ブロック内の IRLM RLPL ストレージを指している PST の PSTIRLMA ポインターがオーバーレイされたか、またはキー 8 IRPM ストレージ自体がオーバーレイされました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: オーバーレイされた IRPM ブロックがあるかどうか、または IMS の PC 番号を使用することを許可されていないアプリケーションがあるかどうかを検査します。

問題判別: 1、4、6、13

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSLMGR0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3307

説明: カップリング・ファシリティの使用中に、ロック・テーブルで IRLM ストレージ不足状態が発生した場合、アプリケーションは異常終了して、この異常終了を発行します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。IMS 制御領域は、異常終了コード 0113 で終了する可能性があります。

764 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード

プログラマーの応答: カップリング・ファシリティのロック・テーブルのサイズを増やすことを検討します。

問題判別: 1、17、30、34

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

IMS 異常終了 0113

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3308

説明: システムは、次のいずれかの理由で終了しました。

- CSL 要求エラーが発生しました。
- オペレーターが DFS4454A メッセージに対して CANCEL で応答しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: CSL 要求エラーの結果として終了する場合、この異常終了の前にメッセージ DFS3308E が出されます。このメッセージを参照して、終了の理由を判別します。

オペレーターが DFS4454A メッセージに対して CANCEL と応答した結果終了する場合は、このメッセージを参照してこの終了の理由を判別してください。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS3308E (メッセージおよびコード)

 DFS4454A (メッセージおよびコード)

3310

説明: ロック要求が IRLM によってタイムアウトになりました。DFSVSMxx PROCLIB メンバーまたは DFSVSAMP DD のいずれかに LOCKTIME が指定されました。タイムアウトになるまでロックが続く秒数は、IMS 初期設定時に LOCKTIME で指定されます。コマンド MODIFY irlmproc,SET,TIMEOUT=nn を発行して、タイムアウト値を変更できます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (NDMX) を使用して、異常終了に関連した入力メッセージを IMS がどのように扱えばよいかを指示しない限り、メモリー・ダンプは作成されず、トランザクションおよびプログラムは停止されず、トランザクションの入力メッセージは常に廃棄されます。

プログラマーの応答: ロック要求がタイムアウトになった理由を調べます。RMF™ レコード 79.15 は、この要求が認可されないように妨害しているタスクを示します。Resource Measurement Facility™ (RMF) をオンラインで使用して、IRLM LONG LOCK 情報をフォーマットすることもできます。このパラメーターの設定方法については、IRLM ロック・タイムアウト機能の使用可能化 (システム定義)を参照してください。

メッセージ DFS2291I にもブロkkerとウェイターの情報が含まれていて、タイムアウトの原因を分析するのに役立ちます。

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS2291I (メッセージおよびコード)

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3312

説明: 内部システム・エラーについての DBRC 処理中にエラーが発生しました。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード 意味

- X'04' DBRC サインオンにゼロ以外の戻りコードがありました。
- X'08' DSPCRTR0 の BLDL が失敗しました。
- X'0C' DBRC 初期化に対する最初の呼び出し (INIT-0) に、ゼロ以外の戻りコードがありました。
- X'10' DBRC 初期化に対する 2 番目の呼び出し (INIT-1) に、ゼロ以外の戻りコードがありました。
- X'14' DBRC サインオフにゼロ以外の戻りコードがありました。

分析: これは、DFSUDMP0 によって発行される標準異常終了です。

コード 意味

- X'04' レジスター 3 に、サブシステム名のアドレスが入っています。レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。
- X'08' レジスター 5 に、BLDL 戻りコードが入っています。
- X'0C' レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。
- X'10' レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。
- X'14' レジスター 3 に、サブシステム名のアドレスが入っています。レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。

考えられる原因:

コード 意味

- X'04' 無効なサブシステム名指定。該当する DBRC 資料を参照してください。
- X'08' 必要なモジュールが正しいライブラリー内にはないか、JOB/STEPLIB DD ステートメントが正しいライブラリーを指定しません。
- X'0C' DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。
- X'10' DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。
- X'14' DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。

システムの処置: 処理は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードに基づいて適切な処置を取ってください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSUDMP0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3313

説明: IMS ユーティリティー・プログラムで、IBM サポート担当者による分析が必要な重大エラーが発生しました。戻りコードがレジスター 15 に入れられます。戻りコードには、以下の意味があります。

コード (16 進数)

意味

- 00 ログ・マージ・ユーティリティー (DFSMTMG0) で、デッドロック状態が発生した。
- 04 ログ・マージ・ユーティリティー (DFSMTMG0) が、1 つ以上の入力ファイルで EOF に到達するのに失敗した。

システムの処置: ジョブはダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答: SYSUDUMP DD ステートメントを指定して、ジョブを再実行します。すべての入力データ・

セットおよび出力データ・セットを保存します。 IBM サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

3314

説明: 処理中に、次の理由で、リカバリー不能エラーが DFSPCC40 によって検出されました。

- 変更されたデータ出口ルーチンまたは変更されたデータ・ロギングがデータベースに対して定義されていた。
- 変更されたデータ出口ルーチンが異常終了戻りコードを戻した。

z/OS メッセージの異常終了の理由コードおよびレジスター 15 の理由コードの意味は、次のとおりです。

第 1 バイト:

エラーを検出したモジュールを示します。

コード 意味

04 DFSPCC40

第 2 バイト:

エラーを検出したルーチンを示します。

コード 意味

00 セットアップ

04 CAPD チェーン・ループ

08 CAPD ルーチン

12 XPCB 制御ブロック作成

16 XSDB 制御ブロック作成

20 ユーザー出口の呼び出し

24 出口インターフェースの復元および出口ストレージのクリア

28 出口のロード

32 ストレージの獲得

36 ストレージの解放

40 出口の削除

44 メッセージ送信

第 3 バイト:

戻りコードが入ります。

コード 意味

04 セグメントに定義されたユーザー出口が見つからない。メッセージ CSVOO3I にロード・モジュール名が含まれています。

08 ストレージの取得または解放エラー

12 出口 LOAD エラー

16 出口 DELETE エラー

20 出口戻りコードが異常終了を要求

24 出口ルーチンからの無効な戻りコード。戻りコードが 20 以下であるか、または 4 の倍数でない。

第 4 バイト:

バイト 3 の戻りコードに基づいて、理由コードが入ります。

戻りコード

理由コード

04 00- 追加条件なし。

08 MVS GETMAIN または FREEMAIN により戻された戻りコードの下位バイト (MVS GETMAIN/FREEMAIN 戻りコードを参照)。

12 00- 追加条件なし。

16 戻された戻りコードは、モジュール要求 DELETE で z/OS により戻されたものです (MVS DELETE 戻りコードを参照)。

20 任意の値。値はユーザー出口で定義されます。

3315 • 3325

24 4 の倍数でないか、または 20 より大きい任意の値。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 戻りコード 4 (EXIT NOT FOUND) の場合、その出口ロード・モジュールが使用可能かどうかを確認します。戻りコード 20 または出口戻りコード 24 の場合、出口ルーチン・リストを参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSPCC40

3315

説明: ハードウェア・データ圧縮ディクショナリー・ユーティリティー (DFSZLDU0) は、ディクショナリーの作成または検証を試行中にエラーを検出しました。

分析: プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。レジスター 15 に理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=1		ディクショナリー初期設定モジュール内でストレージを取得できないか、そのモジュールで内部エラーが発生しました。
Reg15=2		プレディクショナリー・ビルダー・モジュールに無効なパラメーターが渡されました。
Reg15=3		ディクショナリー・ビルド・モジュールに無効なパラメーターが渡されました。
Reg15=4		ディクショナリー検証モジュールに無効なパラメーターが渡されたか、不良なディクショナリーが作成されました。
Reg15=5		DD 名 HDCIN、HDCDIT、HDCDCTL、HDCDOUT、または SYSPRINT に割り振られたデータ・セット上で、オープン・エラーまたはクローズ・エラーが検出されました。 「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。
Reg15=6		データ圧縮または展開時に統計/データ保全性モジュールで論理エラーが検出されました。

システムの処置: ジョブは異常終了します。

問題判別: 1, 3, 4, 5, 8, 11, 12, 15, 27

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZLDU0

関連資料:

☞ z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 (BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェース、および QSAM)

☞ z/OS: CLOSE - プログラムとデータの切断 (BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、QISAM、および QSAM)

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3325

説明: ハードウェア・データ圧縮出口ルーチンで、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、エラーが検出されました。

分析: プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。レジスター 14 に、エラーの理由コードが入っています。この理由コードは、障害が起きたロケーションにおけるラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (FP の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 9 には、ルーチン作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D3C4E701 Reg6=機能	D3C4E701	無効な機能コード。
Reg14=D3C4E702 Reg6=長さ + シーケンス・ フィールドの オフセット	D3C4E702	セグメントのシーケンス・フィールドが、完全にセグメント内にあるわけではありません。
Reg14=D3C4E703 Reg6=入力長さ	D3C4E703	入力の長さが負です。
Reg14=D3C4E704	D3C4E704	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターで INIT が指定されませんでした。
Reg14=D3C4E705	DEC4E705	DFSZLDX0 CSECT 内に辞書アドレスがありませんでした。圧縮/展開リンク・ステップを調べてください。
Reg14=D3C4E706 Reg2=辞書アドレス	D3C4E706	HDC ディクショナリーがページ境界にありません。圧縮/展開出口ルーチンは、そのリンケージ・ステップで 'page DFSZHDCD' を指定しませんでした。
Reg14=D3C4E707	D3C4E707	無効な圧縮/展開ルーチン。目印が DFSZHDCD ではありませんでした。圧縮/展開リンク・ステップを調べてください。
Reg14=D3C4E708 Reg3=CVT アドレス	D3C4E708	ハードウェア・データ圧縮サービスが使用不可です。
Reg14=D3C4E709 Reg15=GETMAIN からの戻りコード	D3C4E709	z/OS 圧縮シミュレーション・ルーチン作業域の GETMAIN が失敗しました (全機能データベース)。ストレージ・サイズを増やします。
Reg14=D3C4E70A Reg15=GETMAIN からの戻りコード	D3C4E70A	z/OS 圧縮シミュレーション・ルーチン作業域の GETMAIN が失敗しました (高速機能 DEDB 呼び出し)。ストレージ・サイズを増やします。
Reg14=D3C4E70B	D3C4E70B	圧縮要求時に、可変長セグメントの入力長が 2 バイトより小です。セグメント・データを訂正します。
Reg14=D3C4E70C	D3C4E70C	展開要求時に、圧縮されたセグメントの入力長が 2 バイトより小です。
Reg14=D3C4E70D	D3C4E70D	展開要求時に、ハードウェア命令で、第 1 オペランドの終わりに達したにもかかわらず、第 2 オペランドの終わりに達していなかったことが判明しました。
Reg14=D3C4E70E Reg15=展開シミュレーターからの戻り コード	D3C4E70E	展開要求時に、z/OS 展開シミュレーターによってゼロ以外の戻りコードが戻されました。
Reg14=D3C4E70F	D3C4E70F	データベース・クローズ時に、SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターで INIT が指定されませんでした。
Reg14=D3C4E711	D3C4E711	Function Recovery Routine (FRR) が、セグメントの圧縮または展開時にデータ例外割り込みをインターセプトしました。データベースまたはディクショナリーに対する最近の変更を調べて、例外の原因 (例えば、アンロード時に展開されなかったデータベースの圧縮や、別のデータベース用に作成されたディクショナリーの使用など) を判別します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: レジスター 14 に、エラーの理由コードが入っています。「IMS Hardware Data Compression Extended for z/OS, User's Guide」(SC27-1005) も参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSZLDX0

3368

説明: IMS の初期設定中、IMS が以下のいずれかのアクションを実行しようとしたときにエラーが発生しました。

- 自動インポートまたはエクスポート処理のためにストレージの取得を試みた
- リソース定義データ・セット (RDDS) または自動インポート処理用の IMSRSC リポジトリからリソース定義の読み取りを試みた

分析: 自動インポートまたはエクスポートを実行するのに有効なシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) が十分ない場合、モジュール DFSRDD10 は異常終了 3368 を発行します。

64 ビット・ストレージ・バッファを取得しようとしてエラーが発生した場合、自動インポート処理中に DFSIP000 によって異常終了 3368 が発行されます。DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーで IMPORTERR=ABORT を指定したときに、システム・リソース定義データ・セットにアクセスしようとしてエラーが発生した場合も、DFSIP000 は自動インポート処理中にこの異常終了を発行します。メッセージ DFS3368E または DFS3397E には、障害の原因を示す戻りコードが入っています。

IMSRSC リポジトリからのリソース定義の読み取り中にエラーが発生した場合、リポジトリからの AUTOIMPORT 時にモジュール DFSIP300 によって異常終了コード 3368 が発行されます。DFS4401E は、リソース定義の読み取り時に発生したエラーを識別します。

異常終了後、レジスター 15 には、異常終了の理由を示すサブコードが入っています。可能な値としては、次のものがあります。

R15 内の理由コード		
(16 進数)	説明	Module
04	RDDS からの AUTOIMPORT 時に入出力エラーが発生し、RDDSERR=ABORT が指定されました。	DFSIP000
08	AUTOIMPORT 時に 64 ビット・ストレージ・エラーが発生しました。	DFSIP000
0C	RDDS が定義されますが、2 つ未満が使用可能です。	DFSRDD10
10	入出力ブロック・ストレージ障害が発生しました。	DFSRDD10
14	この IMS によって 1 つ以上の RDDS が所有されていません。	DFSRDD10
20	IMSRSC リポジトリからの AUTOIMPORT 時にエラーが発生し、REPOERR=ABORT が指定されました。	DFSIP300

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: システム・リソース定義データ・セットの名前にメッセージ DFS3368E 内の情報を使用し、問題を識別して訂正します。訂正されたリソース定義データ・セットを使用して IMS をコールド・スタートしてください。

DFS4401E メッセージ内の情報を使用して、3368 RC=32 異常終了のエラーを識別してください。エラーを訂正してから、IMS をコールド・スタートします。

問題判別: 処理中のシステム・リソース定義データ・セットの名前を DFS3368E メッセージから判別します。

DFS3368E および DFS3397E メッセージを使用して、障害の原因を判別します。

DFS4401E メッセージ内の情報を使用して、異常終了の原因を識別してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIP000、DFSRDD10、DFSIP300

関連情報:

 DFS3368E (メッセージおよびコード)

 DFS3397E (メッセージおよびコード)

 DFS4401E (メッセージおよびコード)

3397

説明: 自動インポート処理中に、IMS はリソース定義または記述子定義でエラーを検出しました。IMPORTERR=ABORT が DFSDFxxx PROCLIB メンバーで指定されました。自動インポートによって処理されるシステム・リソース定義データ・セットの名前については、メッセージ DFS3395I を参照してください。メッセージ DFS3398E または DFS3423E もしくはその両方の 1 つ以上のコピーが、発生したエラーのタイプを示すために異常終了の前に発行されたはずです。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 付随する DFS3398E および DFS3423E メッセージを使用して問題を特定し、訂正してください。訂正された定義を使用して IMS をコールド・スタートしてください。

問題判別: 処理中のリソース定義データ・セットの名前を DFS3395I メッセージから判別します。エラーのある定義を判別するには、DFS3398E および DFS3423E メッセージを使用してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSRIMP0

関連情報:

 DFS3395I

 DFS3398E

 DFS3423E

3398

説明: この異常終了コードは、データベース制御 (DBCTL) スレッドの DFS554 メッセージにのみ表示されます。スレッドが積極的にスケジュールされたが、DBCTL とコーディネーター制御 (CCTL) サブシステムとの間のインターフェースが終了したため縮小されたことを意味します。

システムの処置: この異常終了からは特に処置を取りません。

プログラマーの応答: トランザクションは完了していません。すべての変更はバックアウトされました。DBCTL-CCTL 接続が再び確立されてから、トランザクションを再実行できます。

ソース: IMS 異常終了

3399

説明: DBRC が RSR 対象の共用可能 DEDB エリアまたは FF データベースを割り振るたびに、カウンター SDCRSR_CVCNT が 1 ずつ増えます。DBRC が RSR 対象の共用可能 DEDB エリアまたは FF データベースを割り振り解除するたびに、このカウンターが 1 ずつ減ります。

DBRC が RSR 対象の共用可能 DEDB を割り振り解除する前に SDCRSR_CVCNT カウンターがゼロである場合、IMS 制御領域がユーザー異常終了 3399 を戻します。カウントは、割り振り解除前に正でなければなりません。

DBRC が、最後に残った RSR 対象の共用可能 DEDB エリアまたは FF データベースを割り振り解除した後でのみ、カウントはゼロに到達できます。

分析: 異常終了時のレジスター 7 には、ゼロの SCDSR_CVCNT 値が入っています。このエラーは、IMS 内部論理エラーを示しています。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: この状態は発生してはならないので、IMS ダンプを保管してから、IBM サポートに連絡してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFLBEU0

3400

説明: この異常終了は、サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER によって発行されます。サンプル・アプリケーション・プログラムによって異常終了が要求されました。

理由として、次のものが考えられます。

- エラー状況コード (DFS3125A) の結果として、オペレーターが異常終了を要求した。
- エラー状況コードの結果として、アプリケーション・プログラムが異常終了を要求した。
- アプリケーション・プログラム実行中に、サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER の呼び出しが 20 回を超えた。

分析: このアプリケーション異常終了は、Primer Function サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER によって従属領域で発行されます。異常終了の時点における主なレジスターの使用については、以下で説明しています。

レジスター

使用法

- 7 DIB アドレス (CICS コマンド・レベル・プログラミングの場合)
- 8 DB-PCB アドレス。
- 9 入出力 PCB アドレス。
- 11 基底レジスター。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラム、アプリケーション・プログラムによる DFS0AER の呼び出し、および DFS0AER によって生成される状況コード・エラーのリストを調べます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFS0AER

関連情報:

 DFS3125A (メッセージおよびコード)

3411

説明: DD 名 MODSTAT のデータ・セットをオープンしようとしているときに、IMS でエラーが発生しました。DD 名 MODSTAT の DD ステートメントが存在しないか、またはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: DD 名 MODSTAT の DD ステートメントが存在しないか、またはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。この問題を解決するには、欠落している DD ステートメントを提供するか、または MODSTAT DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 欠落している DD ステートメントを提供するか、または MODSTAT DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから (あるいは両方を実行してから) IMS を実行します。

問題判別: 11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3412

説明: MODSTAT データ・セットを読み取ろうとしているときに、入出力エラーが検出されました。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、最後の正常なメッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再構成してから、IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再作成してから、IMS を実行します。

問題判別: 11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3413

説明: MODSTAT データ・セットに無効な DD 名が含まれています。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、最後の正常なメッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再構成してから、IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再作成してから、IMS を実行します。

問題判別: 11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3414

説明: IMS がストレージを割り振れませんでした。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。MODSTAT 作業域 (MSWA) に対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。この問題を解決するには、領域で使用可能なストレージ量を増やしてから、IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

3415 • 3419

システム・プログラマーの応答: 領域で使用可能なストレージの量を増やし、IMS を実行してください。

問題判別: 11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3415

説明: IMS が、メッセージ DFS3415X の DD 名で示されたデータ・セットに関連するデータ・セットに対して、ENQ を実行できませんでした。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、他のタスクがライブラリーを解放するまで待ってから、IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 他のタスクがライブラリーを解放するまで待ってから、IMS を実行します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

 DFS3415X

3416

説明: IMS は、メッセージ DFS3416X の DD 名ファイルで記述されているデータ・セットのジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) を検出できませんでした。参照される DD 名を持つ DD ステートメントが存在しないか、あるいはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。

分析: これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を解決するには、欠落している DD ステートメントを提供するか、または指定された DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから IMS を実行します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: MODBLKSA DD ステートメントまたは MODBLKSB DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成するか、欠落している DD ステートメントを提供してから (あるいはその両方を実行してから)、IMS を実行します。

問題判別: 11

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSIIOC0

関連情報:

 DFS3416X

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3419

説明: IMS が、DL/I 制御ブロック・モジュールをロードできませんでした。メッセージ DFS3419X はモジュールを識別します。

分析: これは、DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00、および DFSRTR00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: 制御領域に使用可能な十分なストレージがないか、アクティブな MODBLKSA または MODBLKSB データ・セットが APF に対して許可されていませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 領域で使用可能なストレージ量を増やしてから、IMS を実行します。アクティブ MODBLKSA(B) データ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFRRTO0、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRTR00

関連情報:

 DFS3419X

3420

説明: IMS が、存在しないトランザクションに関するメッセージを検出しました。トランザクション定義が、IMS システム・ログで示されているメッセージ・アクティビティーと一致しません。

分析: これは、DFSQRST0 によって発行される標準異常終了です。ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾しています。初期設定中に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、前の IMS 実行中にアクティブだった SMB ブロックと同じではありません。この状態が発生するのは、不適切な DD 名のアクティブ MODBLKS データ・セットを指定して MODSTAT データ・セットが再作成されたか、または IMS が非アクティブ中に MODBLKS データ・セットの内容が変更された場合です。最新の IMS 実行時に使用していた MODBLKS の同じコピーを使用して、DUMPQ を指定して取られた最新のチェックポイントから /ERE で IMS を再始動します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾しています。初期設定中に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、前の IMS 実行中に最後にアクティブだった SMB ブロックと同じではありません。この状態が発生するのは、不適切な DD 名のアクティブ MODBLKS データ・セットを指定して MODSTAT データ・セットが再作成されたか、または IMS が非アクティブ中に MODBLKS データ・セットの内容が変更された場合です。最新の IMS 実行時に使用していた MODBLKS の同じコピーを使用して、DUMPQ を指定して取られた最新のチェックポイントから /ERE で IMS を再始動します。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、8、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSQRST0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3421

説明: IMS が /MODIFY COMMIT コマンド処理中に両立しない制御ブロックを検出する場合、この異常終了を発行します。DFSSMB0x または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールは、DFSPDIRx または DFSDDIRx 制御ブロック・モジュールと両立しません。参照される PSB または宛先コードが存在しません。

IMS のコールド・スタート中にこの異常終了が生じる場合、PDIR が存在しないか、RCTE が存在しないかのいずれかのために PDIR または RCTE を検出できませんでした。

分析: これは、/MODIFY COMMIT 処理中に DBFCPRC0 または DFSCPSM0 によって発行される標準異常終了です。DFSSMB0x または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールは、DFSPDIRx または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールと不整合です。存在しない PSB または宛先コードが参照されます。

考えられる原因: IMS システム定義のステージ 1 ソース・ステートメントにエラーがないかどうか確認します。

IMS.MODBLKSA(B) (アクティブな MODBLKS データ・セット) に、適切な制御ブロック・モジュールのセット

3422

(DFSSMB0x、DFSPDIRx、DFSDDIRx または DFSRCTEx) が含まれているかどうかを確認します。ここで x は中核接尾部です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール DFSSMB0x、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DBFRCTEx が含まれていることを確認します。上記の確認で問題が指摘されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を求めてください。

DRD が使用可能であり、リソース定義がコールド・スタート時に IMS.MODBLKSx データ・セットからインポートされる場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール DFSSMB0x、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DBFRCTEx が含まれていることを確認します。コールド・スタート時にリソース定義がリソース定義データ・セット (RDDS) からインポートされる場合、正しい RDDS が使用されていること、および RDDS に完全なリソース定義のセットがあることを確認します。上記の確認で問題が指摘されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を求めてください。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、8、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFCPRC0、DFSCPSM0、DFSRT00、DBFRRT00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3422

説明: IMS がストレージを割り振ることができなかったか、/MODIFY 処理中に BLDL リストがメモリー内のブロックと一致しませんでした。

この異常終了は、MODIFY 処理中に DFSCPDM0 によって発行されることもあります。

分析: これは、PDIR、DDIR、SMB または RCTE 制御ブロックに対して IPAGE ストレージを取得できない場合に、DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00 および DFSRT00 によって発行される標準異常終了です。また、この異常終了は、リソース拡張ブロックを保持したり、ハッシュ・テーブルまたは英字チェーンにリソースを追加したりするのに十分なストレージを取得できない場合にも発行されます。

また、/MODIFY 処理中に BLDL リストがメモリー内のブロックと一致しない場合、異常終了 3422 は DFSCPDM0 および DFSCPPS0 によって発行されます。

考えられる原因: ストレージを増やし、IMS を実行するために IMS 制御領域に使用できる十分なストレージがありませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: サブプール 231 の場合、PARMLIB のメンバー IEASYSxx の CSA= パラメーターにさらに大きい値を指定することによって ECSA のサイズを増やして、IPL します。サブプール 0 の場合、IMS 制御領域始動プロシージャまたは JCL の REGION= パラメーターにさらに大きい値を指定することにより、e 専用ストレージのサイズを増やして、IMS を再始動します。

問題判別: 1、2、3、4、5、6、8、10

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFRRT00、DFSCPDM0、DFSCPPS0、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRT00

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3423

説明: この異常終了は、IMS コールド・スタートまたはコールド・リスタート時のリソース処理中にエラーが発生した結果生じます。

システムの処置: IMS はメッセージ DFS3423E を出してから、異常終了します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS3423E を参照して、異常終了の理由を判別します。

問題判別: 1、11

ソース: IMS 異常終了

関連情報:

 DFS3423E

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3430

説明: TMS プロシーチャーの処理時に、モジュール ELXKSTAR が APF 許可されていません。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、ELXKSTAR モジュールを許可してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKSTAR

3431

説明: モジュール ELXKALNK をロード中に、LOAD マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、戻りコードを分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKCDSP

3432

説明: STASK ECB の待機リストをスキャン中に、ディスパッチャーが S タスク用の ECB がないことを検出しました。これは、論理エラーです。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKCDSP

3433

説明: S タスクの作成中に、作成される S タスクの数が TMS サブシステムで許可された最大数より多いことを、ディスパッチャーが検出しました。これは、論理エラーです。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

3434 • 3440

モジュール: ELXKCDSF

3434

説明: TMS 初期設定処理中に、ELXKCINT が、現行の SCP(VS1) が TMS サブシステムによってサポートされていないことを検出しました。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKCINT

3435

説明: モジュールをロード中に、LOAD マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。レジスター 5 に、モジュール名のアドレスが入っています。レジスター 6 に、LOAD からの元の異常終了コードが入っています。レジスター 7 に、LOAD からの元の理由コードが入っています。

システムの処置: この異常終了でダンプが生成されます。TMS サブシステムは、処理を継続するか、または終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKCINT

3436

説明: コマンド入力バッファ (CIB) を処理中に、QEDIT マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。レジスター 6 に、異常終了が発生した場所を示す論理コードが入っています。レジスター 7 に、QEDIT からの元の戻りコードが入っています。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKCOSM

3439

説明: この異常終了は、オペレーターが ABDUMP コマンドを発行することによって発生しました。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXCABN0

3440

説明: 説明と処置は、次のように戻りコードに応じて異なります。

REASON CODE 1 (X'01')

STIMERM SET からの戻りコードが、論理エラーを示しています。戻りコードは、異常終了が発行される前に、レジスター 5 にコピーされました。この異常終了は、モジュール ELXKAPS1 によって発行されます。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 2 (X'02')

STIMERM CANCEL からの戻りコードが、論理エラーを示しています。戻りコードは、異常終了が発行される前に、レジスター 5 にコピーされました。この異常終了は、モジュール ELXKAPS1 によって発行されません。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 3 (X'03')

スケルトン・サブシステムが停止 (SVD1STOP 設定) の処理中に、ELXKAPS2 への呼び出しが行われました。APS サービスは利用不能のため、この呼び出しは無効です。この異常終了は、モジュール ELXKAPS2 によって発行されます。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 4 (X'04')

ELXKAPS2 への呼び出しで、無効なパラメーターがありました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 10 (X'0A')

FREEMAIN から ELXKAFRM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 11 (X'0B')

SETLOCK から ELXKAFRM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 12 (X'0C')

GETMAIN から ELXKAGTM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 13 (X'0D')

SETLOCK から ELXKAGTM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

REASON CODE 20 (X'14')

FREEMAIN から ELXKASSI にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 21 (X'15')

SETLOCK から ELXKASSI にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 22 (X'16')

サブシステムがすでに開始されていることが検出されました - ELXKASSI。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 23 (X'17')

SSI listen 通知モジュールをロード中に、ELXKASSI に対する LOAD 障害が発生しました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 24 (X'18')

SSI がすでに存在します - ELXKASSI または ELXKCDSP。

TMS インスタンス名が、既存のサブシステム SSI 名と一致します。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

プログラマーの応答: SSI は固有でなければなりません。次のいずれかを実行してください。

- SET コマンド・ステートメントで INSTANCE 名を変更します。
- IMS.PROCLIB のメンバー DFSPBxxx の IMSID パラメーターを変更するか、または、重複したサブシステム SSI 名を持つ IMS システムの IMS プロシージャー・ライブラリーにある IMSID パラメーターを変更します。
- SYS1.PARMLIB のメンバー IEFSSNxx の重複したサブシステム SSI 名を変更します。

REASON CODE 32 (X'20')

GETMAIN から ELXKABSK にゼロ以外の戻りコードが戻されました (ELXKABSK および ELXKABGS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 33 (X'21')

SETLOCK から ELXKABSK にゼロ以外の戻りコードが戻されました (ELXKABSK および ELXKABGS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 35 (X'23')

スタックを解放しようとして、ELXKABSK に無効な入力が入力されました (ELXKABFS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 44 (X'2C')

サブシステム・エントリー・テーブル記述子のサイズが小さ過ぎます (ELXKAXMI)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 45 (X'2D')

サブシステム・アドレス・スペースをスワップ不能にできませんでした (ELXKAXMI)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKAPS1、ELXKAPS2、ELXKAFFRM、ELXKAGTM、
ELXKASSI、ELXKCDSP、ELXKABSK、ELXKABGS、ELXKAXMI

3469

説明: プロログ処理中、スタック・ストレージを獲得しているときに、使用不能なストレージのためにスタック・マネージャーが異常終了しました。

システムの処置: TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

システム・プログラマーの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: ELXKALNK

3476

説明: 拡張端末オプション (ETO) 機能が実行パラメーター ETO=Y で要求されたとおりにインストールされていないかまたはライセンス交付を受けていないことが、制御領域初期設定で検出されました。エラーを示す DFS3676I メッセージが、この異常終了とともに出力されます。

分析: これは、モジュール DFSAINB0 によって発行される標準異常終了です。ETO 機能を使用する計画がない場合は、実行パラメーターを ETO=N に変更してください。ETO 機能を使用する計画がある場合は、必ず、ETO 機能がインストールされ、ライセンス交付を受けていることを確認してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 付随するメッセージに示された状態を訂正します。

問題判別: 1、4、5、6

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAINB0

関連情報:



DFS3676I

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3477

説明: 1 次マスター論理端末 (PMTO) がシステムに定義されていないことが、TM 初期設定で検出されました。IMS では、PMTO がシステム定義で正しく指定されている必要があります。エラーを示す DFS0507I メッセージが、この異常終了とともに出力されます。

分析: これは、DFSAINB0 によって発行される標準異常終了です。システム定義を確認して、PMTO が適切に指定されているようにしてください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 付随するメッセージに示された状態を訂正します。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSAINB0

関連情報:



DFS0507I

3498

説明: HALDB の DL/I 処理中に、予期しないユーザー環境エラーが検出されました。このエラーは、以下のイベントのいずれかを処理中に検出された可能性があります。

- HALDB 区画の選択
- 拡張ポインター・セットの検証
- 拡張ポインター・セットの訂正

分析: 以下のいずれかの機能に対して HALDB の DL/I 処理中に、予期しないユーザー環境エラーが検出されたときに、このエラーが発生しました。

- 区画の選択
- 拡張ポインター・セットの検証
- 拡張ポインター・セットの訂正

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'1C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。この保管域のオフセット X'1C' でエラー理由コードを検出できます。

考えられる理由コードは次のとおりです。

コード
説明

X'8001'

事前再編成ユーティリティーまたは DFSUPNT0 ユーティリティーが、ロードの前に実行されませんでした。

X'8010'

ターゲット区画が検出されませんでした。

X'8031'

オープン DMB 障害。

X'8051'

ユーザー区画の選択が失敗しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別: 1、3、6、8、17a から 17d、35、40

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSDLR00、DFSDDLE0、DFSDXMT0、DFSDLDC0

関連情報:

13 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

3499

説明: HALDB の DL/I 呼び出しの処理中に、次の 2 つのいずれかの状態が発生しました。

- 事前区画構造 INIT 呼び出し、または事前区画構造 REBUILD 呼び出しから異常終了の要求が発生した。
- 区画選択呼び出し (FIRST、NEXT、または TARGET 区画) で、区画選択出口からの異常終了要求が受け取られた。

両方の事例とも、異常終了は、区画選択出口からの戻りコード 8 または 12 の結果であると見なされます。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了を要求した区画選択出口を調べて、要求が出された理由を判別します。

- 事前区画構造呼び出しの理由が「初期設定」または「再作成」で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 の理由を判別します。事前区画構造呼び出しの理由が「終了」であった場合、出口からの戻りコードは無視されます。

- 区画選択呼び出しの理由が FIRST または TARGET で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 または 12 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 または 12 の理由を判別します。区画選択呼び出しの理由が NEXT で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 の理由を判別します。

呼び出し理由は、DFSPECA 制御ブロックの PECACT フィールドにあり、戻りコードは PECRC フィールドにあります。区画選択出口について詳しくは、「IMS V13 出口ルーチン」を参照してください。

ソース: IMS 異常終了

3610

説明: IMS バッチ・ディスパッチャーでエラーが発生しました。この異常終了は、バッチ IMS の場合のみです。

分析: これは、初期設定でエラーが発生して SCP が待機するときに、IMS バッチ・ディスパッチャー (DFSKBDP0) によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード 意味

- X'10' ディスパッチャー作業域に対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 には、要求された長さが入っています。レジスター 5 に IMODULE 戻りコードが入っています。
- X'11' ECB を待機として初期設定するための呼び出しが行われましたが、バッチ待ちリストが満杯です。レジスター 2 にリストのサイズが入っています。レジスター 8 は ECB を指します。
- X'12' ECB を待機として初期設定するための呼び出しが行われましたが、その ECB はすでに初期設定されていました。レジスター 3 に ECB アドレスが入っています。
- X'13' 初期設定中に TCB テーブル・エントリを取得できませんでした。レジスター 3 には、SCD からの TCB テーブル接頭部のアドレスが入っています。
- X'14' SCP WAIT ルーチンに対する呼び出しが行われましたが、ITASK はすでに SCP WAIT でした。レジスター 7 には、WAIT を試行する現行 ITASK の ECB アドレスが入っています。レジスター 6 には、呼び出し元の戻りアドレスが入っています。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSKBDP0

3500-3998

説明: お客様が使用するために予約済みです。

ソース: IMS 異常終了

3999

説明: 「発生してはならない (this should never occur)」としてコーディングされているコード・パスが取られました。

システムの処置: IMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DBFLBEU0、DBFCRAR0

4000-4093

説明: お客様が使用するために予約済みです。

ソース: IMS 異常終了

4095

4095

説明: このコードは、制御領域内の別の IMS TCB が異常終了したため、IMS TCB が異常終了中であることを示しています。最初の異常終了に、問題を説明する異常終了コードが含まれています。これらの状況では、4095 異常終了は正常です。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: SDUMP または SYSUDUMP データ・セットを入手します。

問題判別: ダンプ・データ・セットには元の問題に関する情報が含まれています。元の異常終了状態を使用して、問題分析を続ける必要があります。

メッセージ DFS629I (4095 以外の TCB 異常終了コードを示す) およびその他の関連エラー・メッセージが、問題判別に役立つことがあります。詳しくは、メッセージを参照してください。

ソース: IMS 異常終了

モジュール: DFSFCST0、DFSFMOD0

関連情報:

 DFS629I

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/privacy/details>）を参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS バージョン 13 ライブラリーのすべての資料、補足資料、資料コレクション、および IMS バージョン 13 ライブラリーで引用されているアクセシビリティ関連の資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V13 アプリケーション・プログラミング	APG	SA88-5465
IMS V13 アプリケーション・プログラミング API	APR	SA88-5463
IMS V13 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M	CR1	SA88-5466
IMS V13 コマンド 第 2 巻: IMS コマンド N-V	CR2	SA88-5467
IMS V13 コマンド第 3 巻: IMS コンポーネント および z/OS コマンド	CR3	SA88-5472
IMS V13 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SA88-5482
IMS V13 データベース管理	DAG	SA88-5485
IMS V13 データベース・ユーティリティー	DUR	SA88-5492
IMS Version 13 Diagnosis	DGR	GC19-3654
IMS V13 出口ルーチン	ERR	SA88-5494
IMS V13 インストール	INS	GA88-5697
IMS Version 13 Licensed Program Specifications	LPS	GC19-3663
IMS V13 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ	MC1	GC43-1535
IMS V13 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC43-1536
IMS V13 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC43-1537
IMS V13 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC43-1538
IMS V13 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SA88-7059
IMS V13 リリース計画	RPG	GA88-7071
IMS V13 システム管理	SAG	SA88-7072
IMS V13 システム定義	SDG	GA88-7073
IMS V13 システム・プログラミング API	SPR	SA88-7077
IMS V13 システム・ユーティリティー	SUR	SA88-7100

補足資料

表題	資料番号
Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers V13.0	GI10-8914
Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers V13.0 Database Value Unit Edition V13R1	GI10-8966
Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers V13.0 Transaction Manager Value Unit Edition V13R1	GI10-9001
IRLM メッセージおよびコード	GC19-2666

資料コレクション

表題	フォーマット	資料番号
IMS バージョン 13 製品キット	CD	SK5T-8864

IMS バージョン 13 ライブラリーで引用されているアクセシビリティ ー関連の資料

表題	資料番号
z/OS TSO/E 入門	SA88-8632
z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド	SA88-8638
z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻	SC88-8965



プログラム番号: 5635-A04
5655-DSM
5655-TM2

Printed in Japan

GC43-1537-03



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IMS バージョン 13

メッセージおよびコード 第 3 卷: IMS 異常終了コード

